TOHOKU UNIVERSITY ACCOUNTING SCHOOL SYLLABUS 2020

目次

講義科目群

会計領域

財務会計分野

財務会計 1 005
財務会計 2 021
財務会計 3 037
財務諸表分析 053
企業評価 069
簿記 1 085
簿記 2 097
簿記 3 117
公会計 1 131
公会計 2 147
IFRS 1 163
IFRS 2 179
財務会計の理論と実証 195
事例研究（IFRS） 211

管理会計分野

管理会計 1 213
管理会計 2 229
管理会計 3 245
原価計算 1 261
原価計算 2 277
原価計算 3 293
事例研究（管理会計） 303

監査分野

監査 1 305
監査 2 321
監査 3 337
監査実務1 353
監査実務2 371
事例研究（監査制度） 389
監査計画の編成法 1 391
監査計画の編成法 2 407
内部統制の実務 423

■経済と経営領域
■経済と経営分野
ミクロ経済学 439
経営管理 443
マーケティング 459
コーポレートファイナンス 1 461
グローバル経営 477
■ IT と統計領域
■ IT 分野
企業情報システム 479
情報システム設計 495
戦略情報システム導入 511
事例研究（情報システム設計） 527
■統計分野
統 計 学 1 531
計量経済分析 1 547
■法と倫理領域
■企業法分野
金 融 行 政 1 563
金 融 行 政 2 579
財務行政 595
企 業 法 1 611
企 業 法 2 627
法 人 税 法 1 643
法 人 税 法 2 659
消費税法 675
所得税法 691
企業開示制度と実務 703
事例研究（金融行政） 719
事例研究（企業法） 721
事例研究（法人税法） 725
■倫理分野
会計職業倫理 731
事例研究（会計職業倫理） 747

■リテラシー科目群

ビジネス・コミュニケーション１ 763
ビジネス・プレゼンテーション１ 725
ビジネス・コミュニケーション２ 795
ビジネス・プレゼンテーション２ 811
英文外書講読 b 827

■演習科目群

ワークショップ a 829
ワークショップ b 831
プロジェクト調査（財務諸表）a・b 833
プロジェクト調査（財務会計）a・b 835
プロジェクト研究（財務会計）a・b 837
プロジェクト調査（財務諸表分析）a・b 839
プロジェクト研究（財務諸表分析）a・b 841
プロジェクト調査（管理会計）a・b 843
プロジェクト研究（管理会計）a・b 845
プロジェクト調査（コストマネジメント）a・b 847
プロジェクト研究（コストマネジメント）a・b 849
プロジェクト調査（コーポレートファイナンス）a・b 851
プロジェクト研究（コーポレートファイナンス）a・b 853
プロジェクト調査（監査）a・b 855
プロジェクト調査（法人税法）a・b 857
プロジェクト研究（法人税法）a・b 859
プロジェクト調査（監査制度）a 861

■特別講義

Financial Reporting and Analysis 863

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

財務会計 1 ・吉永裕登／ Financial Accounting 1・Yuto Yoshinaga

講義の目的／ Course Objective

本講義の目的は，財務諸表作成の基礎概念を理解することです．

The purpose of this lecture is to understand the basic concepts of financial accounting.

講義の進め方

・配布する講義資料を用いて講義形式で進めます．
・講義の最初に，前回講義の内容を復習するために，4 問程度の正誤問題を行います．
・講義では，重要なポイントを抑えるために，確認問題を配布します．

予習・復習について

・予習復習の程度は受講生に任せますが，単位が欲しい方は最低限，理解度確認セッションの前には復習した方が良いと思います．
　＊特に，講義中に配布する確認問題は，きちんと解くようにしておいてください．
・授業で使用した開示資料（会計基準や概念フレームワークなど）は，講義資料の末尾に URL を貼っておきますので，特に会計士試験受験者は最低一読することを推奨します．

この講義を受講するために必要とする知識

基本的な部分から行う予定ですが，簿記検定や公認会計士試験の財務会計論の知識を持っておくと理解が深まると思います．

テキスト・参考文献

・一番のテキストは，会計基準，適用指針，実務上の取扱いなどの開示資料です．これらの資料の多くは ASBJ，公認会計士協会の Web サイト上で公開されています．講義資料末尾の参考文献リストに URL を貼っておきますので，適宜ダウンロードしてご確認ください．
　＊網羅的に会計基準などを見たい場合には，会計法規集を購入するのも一つの手です．
・授業では，講義内容に関連する簿記の仕訳に触れることがあります．下記の参考文献に挙げている 3 冊の「簿記の教科書」を参考にしていますので，必要に応じて購入してください．
・注：参考文献に挙げた，スタンダードテキスト財務会計論は毎年 4 月下旬頃に改訂されています．購入予定の方は，改訂後の購入をおすすめします．
・テキスト：概念フレームワーク，会計基準，適用指針，実務上の取扱い，論点の整理などの開示資料．
　＊ URL は適宜講義資料で伝えます．
・参考文献：佐藤信彦ほか『スタンダードテキスト財務会計論　基本論点編』中央経済社．
　佐藤信彦ほか『スタンダードテキスト財務会計論　I 応用論点編』中央経済社．
　中央経済社編『会計法規集』中央経済社．
　滝澤ななみ（監修）『簿記の教科書　日商 1 級商業簿記会計学　1 損益会計・資産会計編』TAC 出版．
　滝澤ななみ（監修）『簿記の教科書　日商 1 級商業簿記会計学　2 資産会計・負債会計・純資産会計編』TAC 出版．
　滝澤ななみ（監修）『簿記の教科書　日商 1 級商業簿記会計学　3 企業結合会計・連結会計ほか編』TAC 出版．
　桜井久勝『財務会計講義』中央経済社．

時間割

前期　月曜 2 限

科目ナンバー

EAC-ACC501

成績評価法

・理解度確認セッション 1（50%），理解度確認セッション 2（50%）で評価する．ただし，これらに加えて，5 ～ 10 点程度の加点要素をつける可能性があります．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満)
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

水曜日
14:40-16:10
・メールでアポイントをとると確実です．

連絡先

022-217-6284
y.yoshinaga@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・主に，公認会計士試験・財務会計論の理論分野を扱います．そのため，公認会計士コースの方を主な対象とします．
・講義前に資料を学内ウェブサイトにアップロードしますので，パソコンなどのデバイスを持ってくるか，印刷すると良いと思います．
・理解度確認セッションの答案はメールで返却する可能性があります．

第 1 回：オリエンテーション・財務会計の基礎概念／ Orientation, and Basic Concept of Financial Accounting

講義の内容

1. オリエンテーションとして，講義の概要や対象範囲，進め方，成績評価などについて説明します.
2. 財務会計の基礎概念について学びます.
   - 財務会計と財務会計の利害関係者
   - 財務会計の機能
   - 会計公準
   - 会計主体論
   - 利益概念

本講義の講義計画は以下の通りです.

第 1 回：オリエンテーション，財務会計の基礎概念／ Orientation, and Basic Concept of Financial Accounting
第 2 回：概念フレームワーク／ Conceptual Framework for Financial Reporting
第 3 回：企業会計制度と会計基準／ Financial Accounting System and Financial Accounting Standards
第 4 回：資産会計総論／ Assets
第 5 回：流動資産／ Current Assets
第 6 回：棚卸資産／ Inventories
第 7 回：理解度確認セッション 1 ／ Examination 1
第 8 回：理解度確認セッション 1 のフィードバック，有形固定資産／ Feedback of Examination 1 and Tangible Fixed Assets
第 9 回：無形固定資産と投資その他の資産，繰延資産／ Intangible Assets, Investments and Other Assets, and Deferred Assets
第 10 回：負債／ Liabilities
第 11 回：純資産／ Net Assets
第 12 回：収益と費用／ Revenue and Expenses
第 13 回：財務諸表／ Financial Statements
第 14 回：理解度確認セッション 2 ／ Examination 2
第 15 回：理解度確認セッション 2 のフィードバック／ Feedback of Examination 2

第 2 回：概念フレームワーク／ Conceptual Framework for Financial Reporting

講義の内容

概念フレームワークについて学びます.

- 概念フレームワークの公表の経緯と役割
- 財務報告の目的
  - ◇情報提供機能と利害調整機能
- 会計情報の質的特性
  - ◇意思決定有用性とこれを支える様々な質的特性
- 財務諸表の構成要素
  - ◇資産，負債，純資産，株主資本，包括利益，純利益，収益，費用
- 財務諸表における認識と測定

第 3 回：企業会計制度と会計基準／ Financial Accounting System and Financial Accounting Standards

講義の内容

企業会計制度と会計基準について学びます.

- ・会社法会計と金融商品取引法会計
  - ◇目的と求める開示書類の差異
- ・企業会計原則
  - ◇目的と実情，特徴
- ・企業会計原則　一般原則
- ・会計基準の国際的コンバージェンス
  - ◇日本における歴史的推移
    - ● IFRS 任意適用
    - ●修正国際基準

第 4 回：資産会計総論／ Assets

講義の内容

資産会計総論について学びます.

- ・概念フレームワークにおける資産の定義と認識
- ・資産の分類
  - ◇流動資産と固定資産（と繰延資産）
  - ◇貨幣性資産と費用生資産
  - ◇金融資産と事業資産
- ・資産の評価
  - ◇取得原価主義と時価主義
  - ◇費用配分の原則

第 5 回：流動資産／ Current Assets

講義の内容

流動資産について学びます.

- ・現金及び預金
  - ◇現預金の範囲
  - ◇日本企業の現金保有の傾向と動機
- ・金銭債権
  - ◇金銭債権の定義
  - ◇金銭債権の発生・消滅の認識と評価
- ・有価証券
  - ◇有価証券の発生・消滅の認識
  - ◇有価証券の分類と分類ごとの評価方法
  - ◇有価証券の保有区分の変更
- ・仮想通貨
  - ◇現行制度における実務上の取扱い

第 6 回：棚卸資産／ Inventories

講義の内容

棚卸資産について学びます.

- 棚卸資産の定義と分類
- 棚卸資産の取得原価
- 棚卸資産の数量把握方法
  - ◇継続記録法
  - ◇棚卸計算法
- 卸資産の払出単価の把握方法
  - ◇個別法
  - ◇先入先出法
  - ◇後入先出法（の廃止）
  - ◇最終仕入原価法
  - ◇移動平均法
  - ◇総平均法
  - ◇売価還元法
- 棚卸減耗損と商品評価損
- 低価法の原則化
- 棚卸資産の期末評価で用いられる時価

第 7 回：理解度確認セッション 1 ／ Examination 1

講義の内容

・理解度確認セッション 1 を実施します.
・第 6 回までの授業範囲をテストの範囲とします.
・学生証，筆記用具，飲み物，時計のみ持ち込み可とします.

第 8 回：理解度確認セッション 1 のフィードバック，有形固定資産／ Feedback of Examination 1 and Tangible Fixed Assets

講義の内容

1. 理解度確認セッション 1 のフィードバックを行います，
2. 固定資産の定義と分類，有形固定資産について学びます．
   - ・固定資産の定義と分類
     - ◇有形固定資産
     - ◇無形固定資産
     - ◇投資その他の資産
   - ・有形固定資産の取得原価
     - ◇購入の場合
     - ◇自家建設の場合
     - ◇現物出資の場合
     - ◇交換の場合
     - ◇贈与の場合
   - ・減価償却の意義と原因
   - ・減価償却の方法
   - ・個別償却と総合償却
   - ・減耗償却
   - ・取替法
   - ・圧縮記帳

第 9 回：無形固定資産と投資その他の資産，繰延資産／ Intangible Assets, Investments and Other Assets, and Deferred Assets

講義の内容

無形固定資産と投資その他の資産，繰延資産について学びます.

- 無形固定資産の定義と分類
- 無形固定資産の認識
- のれん
- 無形固定資産の取得原価と償却の要否
- 投資その他の資産
- 繰延資産総論
- 繰延資産各論
  - ◇株式交付費
  - ◇社債発行費等
  - ◇創立費
  - ◇開業費
  - ◇開発費

第 10 回：負債／ Liabilities

講義の内容

負債について学びます.

- 負債の意義と分類
  - ◇法的債務と会計的負債
  - ◇流動負債と固定負債
  - ◇偶発債務
  - ◇債務保証
- 引当金総論
  - ◇定義と種類，目的
- 引当金各論
- 負債比率と ROE
  - ◇日米欧の上場企業の ROE と負債比率
  - ◇日・米・欧における実質無借金企業の比率

第 11 回：純資産／ Net Assets

講義の内容

純資産について学びます.

- ・資本と純資産の意義と分類
- ・払込資本と留保利益
  - ◇資本取引・損益取引区分の原則
  - ◇資本金，資本剰余金，利益準備金，利益剰余金
- ・自己株式
  - ◇自己株式の処分
  - ◇自己株式の消却
  - ◇自己株式の無償取得
- ・純資産項目の表示
  - ◇連結・個別の貸借対照表での表示区分

第 12 回：収益と費用／ Revenue and Expenses

講義の内容

収益と費用について学びます.

・収益・費用総論
◇収益・費用の定義と分類
◇段階的損益計算
◇収益・費用の認識と測定
●現金主義
●発生主義
●実現主義
◇費用収益対応の原則
◇費用配分の原則
◇損益計算書の総額主義
・収益認識に関する会計基準
◇基本方針
◇基本原則と 5 つのステップ
◇廃止される会計処理

第 13 回：財務諸表／ Financial Statements

講義の内容

財務諸表について学びます.

・財務諸表の体系
　◇個別と連結，四半期と年次
　◇会社法会計と金商法会計での開示書類
　◇貸借対照表の作成方法
　　●棚卸法と誘導法
　◇損益計算書で報告すべき利益
　　●当期業績主義と包括主義
　◇株主資本変動計算書の範囲と表示方法
・財務諸表の過年度修正
　◇会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準

第 14 回：理解度確認セッション 2 ／ Examination 2

講義の内容

・理解度確認セッション 2 を実施します，
・第 8 回から第 13 回までの授業範囲をテストの範囲とします，
・学生証，筆記用具，飲み物，時計のみ持ち込み可とします，

第 15 回：理解度確認セッション 2 のフィードバック／ Feedback of Examination 2

講義の内容

・理解度確認セッション 2 のフィードバックを行います,

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

財務会計２・吉永裕登／ Financial Accounting 2・Yuto Yoshinaga

講義の目的／ Course Objective

本講義の目的は，財務会計の基礎概念を理解することです.

The purpose of this lecture is to understand the basic concepts of financial accounting

講義の進め方

・配布する講義資料を用いて講義形式で進めます.
・講義の最初に，前回講義の内容を復習するために，4 問程度の正誤問題を行います.
・講義では，重要なポイントを抑えるために，確認問題を配布します

予習・復習について

・予習復習の程度は受講生に任せますが，単位が欲しい方は最低限，理解度確認セッションの前には復習した方が良いと思います.
　＊特に，講義中に配布する確認問題は，きちんと解くようにしておいてください.
・授業で使用した開示資料（会計基準や概念フレームワークなど）は，講義資料の末尾に URL を貼っておきますので，特に会計士試験受験者は最低一読することを推奨します.

この講義を受講するために必要とする知識

基本的な部分から行う予定ですが，簿記検定や公認会計士試験の財務会計論の知識を持っておくと理解が深まると思います.

テキスト・参考文献

・一番のテキストは，会計基準，適用指針，実務上の取扱いなどの開示資料です．これらの資料の多くは ASBJ，公認会計士協会の Web サイト上で公開されています．講義資料末尾の参考文献リストに URL を貼っておきますので，適宜ダウンロードしてご確認ください.
　＊網羅的に会計基準などを見たい場合には，会計法規集を購入するのも一つの手です.
・授業では，講義内容に関連する簿記の仕訳に触れることがあります．下記の参考文献に挙げている 3 冊の「簿記の教科書」を参考にしていますので，必要に応じて購入してください.
・テキスト：概念フレームワーク，会計基準，適用指針，実務上の取扱い，論点の整理などの開示資料.
　＊ URL は適宜講義資料で伝えます.
・参考文献：佐藤信彦ほか『スタンダードテキスト財務会計論　基本論点編』中央経済社.
　佐藤信彦ほか『スタンダードテキスト財務会計論　Ⅰ応用論点編』中央経済社.
　中央経済社編『会計法規集』中央経済社.
　滝澤ななみ（監修）『簿記の教科書　日商 1 級商業簿記会計学　1 損益会計・資産会計編』TAC 出版.
　滝澤ななみ（監修）『簿記の教科書　日商 1 級商業簿記会計学　2 資産会計・負債会計・純資産会計編』TAC 出版.
　滝澤ななみ（監修）『簿記の教科書　日商 1 級商業簿記会計学　3 企業結合会計・連結会計編』TAC 出版.

時間割

後期　水曜 3 限

科目ナンバー

EAC-ACC502

成績評価法

・理解度確認セッション 1（50%），理解度確認セッション 2（50%）で評価する．ただし，これに加えて，5 ～ 10 点程度の加点要素をつける可能性があります.
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格).

オフィスアワー

水曜日
14:40-16:10
・メールでアポイントをとると確実です.

連絡先

022-217-6284
y.yoshinaga@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・主に，公認会計士試験・財務会計論の理論分野を扱います．そのため，公認会計士コースの方を主な対象とします.
・講義前に資料を ISTU にアップロードしますので，パソコンなどのデバイスを持ってくるか，印刷すると良いと思います.
・理解度確認セッションの答案はメールで返却する可能性があります.

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation, and Cash Flow

講義の内容

1. 講義の概要や対象範囲，進め方，成績評価などについて説明します.
2. キャッシュ・フローについて学びます.
   ・キャッシュ・フロー計算書の必要性
   ・キャッシュ・フロー計算書の定義と表示

本講義の講義計画は以下の通りです.

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation, and Cash Flow
第 2 回：リース／ Lease
第 3 回：金融商品／ Financial Instruments
第 4 回：デリバティブ／ Derivative
第 5 回：デリバティブ（ヘッジ会計）／ Derivative (Hedge Accounting)
第 6 回：ストック・オプション／ Stock Option
第 7 回：理解度確認セッション 1 ／ Examination 1
第 8 回：理解度確認セッション 1 のフィードバック，工事契約／
Feedback of Examination 1, Construction Contracts
第 9 回：研究開発費とソフトウェア／ R&D Expenses and Software
第 10 回：固定資産の減損／ Impairment of Fixed Assets
第 11 回：資産除去債務／ Asset Retirement Obligations
第 12 回：退職給付の基礎分野／ Retirement Allowance Reserves: Basic Level
第 13 回：退職給付の応用分野／ Retirement Allowance Reserves: Advanced Level
第 14 回：理解度確認セッション 2 ／ Examination 2
第 15 回：理解度確認セッションのフィードバック／ Feedback of Examination 2

第 2 回：リース／ Lease

講義の内容

リースについて学びます.

・リース取引の概要
　◇ファイナンス・リース
　◇オペレーティング・リース
　◇セール・アンド・リースバック
・リース取引の会計処理
　◇ファイナンス・リースの会計処理
　◇オペレーティング・リースの会計処理
　◇セール・アンド・リースバックの会計処理

第 3 回：金融商品／ Financial Instruments

講義の内容

金融商品について学びます.

・金融商品・総論（定義，発生・消滅の認識，測定，評価）
・ローン・パーティシペーション
・デット・アサンプション
・金融商品に関する追加論点
　◇金銭債権の評価
　◇有価証券の減損
　◇その他資本剰余金の処分による配当を受けた株主の会計処理

第 4 回：デリバティブ／ Derivative

講義の内容

デリバティブを説明します.

・デリバティブの概要
◇定義と目的
●投機目的とヘッジ目的
・様々なデリバティブ
◇先物・先渡取引
●先物取引・先渡取引の相違点
●差金決済の概要
●現物取引と先物取引の相違点
●先物・先渡取引の会計処理
◇オプション取引
●先物取引のデメリットとオプション取引の意義
●オプションの種類
○コールとプット
●オプション取引の損益図
●オプション取引の会計処理
◇金利スワップ取引
●金利スワップ取引の概要と会計処理

第 5 回：デリバティブ（ヘッジ会計）／ Derivative (Hedge Accounting)

講義の内容

デリバティブを用いたヘッジ会計について学びます.

- ヘッジ取引の概要
  - ◇キャッシュ・フローヘッジと公正価値ヘッジ
- ヘッジ会計の概要
  - ◇ヘッジ会計の定義
  - ◇通常のデリバティブ取引とヘッジ会計の相違点
  - ◇ヘッジ会計の必要性
  - ◇ヘッジ会計の要件と要件が課されている理由
- ヘッジ会計の方法と会計処理
  - ◇時価ヘッジ
  - ◇繰延ヘッジ
  - ◇金利スワップの特例措置
- ヘッジ会計の中止と終了

第 6 回：ストック・オプション／ Stock Option

講義の内容

ストック・オプションについて学びます.

・新株予約権とストック・オプションの定義
・ストック・オプション会計基準の重要用語
・ストック・オプション会計基準の範囲
・ストック・オプションの会計処理と論点
・ストック・オプションの評価額を見直す場合の会計処理
・ストック・オプションに関するその他の論点

第 7 回：理解度確認セッション 1 ／ Examination 1

講義の内容

・理解度確認セッション 1 を実施します.
・第 6 回までの授業範囲をテストの範囲とします.
・学生証，筆記用具，飲み物，時計のみ持ち込み可とします.

第 8 回：理解度確認セッション 1 のフィードバック／ Feedback of Examination 1, Construction Contracts

講義の内容

1. 理解度確認セッション 1 のフィードバックを行います.
2. 工事契約に関する会計について学びます.
   - ・工事契約の概要
     - ●一般的な商品販売との違い
     - ●工事契約に係る認識基準の概要と論点
   - ・工事進行基準と工事完成基準
   - ・認識基準の適用要件：成果の確実性
   - ・工事進行基準における見積りの変更
   - ・工事契約に関する諸論点

第 9 回：研究開発費とソフトウェア／ R&D Expenses and Software

講義の内容

研究開発費とソフトウェアについて学びます.

- 研究開発費の概要と会計処理
  - ◇研究開発費の定義
  - ◇日本基準と IFRS との差異と考え方
- ソフトウェアの概要と会計処理
  - ◇研究開発目的のソフトウェア
  - ◇自社利用目的のソフトウェア
  - ◇市場販売目的のソフトウェア
  - ◇受注製作のソフトウェア

第 10 回：固定資産の減損／ Impairment of Fixed Assets

講義の内容

固定資産の減損会計について学びます.

- 減損会計の基本
  - ◇減損の定義
  - ◇減損会計基準整備の背景
  - ◇減損処理の流れ
  - ◇減損処理の対象範囲
- 資産のグルーピング
- 減損の兆候の判定
- 減損損失の認識の判定
- 減損損失の測定
- 減損会計の論点

第 11 回：資産除去債務／ Asset Retirement Obligations

講義の内容

資産除去債務について学びます.

- 資産除去債務の概要
  - ◇有形固定資産の除去の定義と範囲
  - ◇資産除去債務の定義と範囲
  - ◇資産除去債務会計基準設立の経緯
- 資産除去債務の会計処理
  - ◇資産除去債務の計上時期
  - ◇資産除去債務の算定
  - ◇資産除去債務の見積りの変更
  - ◇資産除去債務の表示
- 資産除去債務の論点

第 12 回：退職給付の基礎分野／ Retirement Allowance Reserves: Basic Level

講義の内容

退職給付（数理計算上の差異，過去勤務費用がない場合）について学びます.

- 退職給付の概要
  - ◇一時金支給と年金支給
  - ◇退職給付の考え方
  - ◇退職給付の仕組み
  - ◇退職給付会計における個別と連結の差異
- 退職給付引当金の概要
  - ◇退職給付見込額の算定と各期に配分する基準
    - ●期間定額基準と給付算定式基準
  - ◇年金資産
- 退職給付費用の概要
  - ◇勤務費用
  - ◇利息費用
  - ◇期待運用収益
  - ◇退職給付費用の区分に関する論点

第 13 回：退職給付の応用分野／ Retirement Allowance Reserves: Advanced Level

講義の内容

退職給付（数理計算上の差異，過去勤務費用がある場合）について学びます.

- 数理計算上の差異と過去勤務費用
  - ◇遅延認識の方法と論拠
  - ◇遅延認識の開始時期
- 特殊な状況下での退職給付
  - ◇退職給付引当金が負の場合
  - ◇複数の退職給付制度を採用している場合
  - ◇確定拠出制度における会計処理
  - ◇従業員拠出のある企業年金制度の場合
- 個別財務諸表と連結財務諸表における退職給付会計の差異

第 14 回：理解度確認セッション 2 ／ Examination 2

講義の内容

・理解度確認セッション 2 を実施します.
・第 9 回から第 13 回までの授業範囲をテストの範囲とします.
・学生証，筆記用具，飲み物，時計のみ持ち込み可とします.

第 15 回：理解度確認セッション 2 ／ Feedback of Examination 2

講義の内容

・理解度確認セッション 2 のフィードバックを行います.

講義名・担当教員

財務会計３・尾関規正／ Financial Accounting 3・Norimasa Ozeki

講義の目的

本講義は，法人税等，企業結合と事業分離，外貨換算，連結財務諸表，四半期財務諸表に関する会計基準等の内容およびその背後の考え方を理解することを目的とします．

The purpose of this course is to learn accounting standards and ideas behind accounting standards setting. This course covers accounting standards (Japanese Generally Accepted Accounting Principle) for income taxes, business combination, business divestitures, translation of foreign currency transactions, consolidated financial statements and quarterly financial statements.

講義の進め方

・講義資料を配布して，講義形式で行います．また，講義で扱う範囲の対象に含まれる会計基準や適用指針などの規定を随時参照します．
・理解を促すために複数回の課題または確認テストを実施します．

予習・復習について

＜予習＞
・講義で扱う範囲のテキストの内容や会計基準または適用指針などの内容を一読し，要点を把握しましょう．
＜復習＞
・講義内容を踏まえて，再度テキストを通読すると共に，テキストなどの設例に取り組み，対象範囲の規定を参照することで理解を深めましょう．

この講義を受講するために必要とする知識

財務会計１および財務会計２の単位を既に修得しているか，または，修得しているのと同程度の知識があることを前提として講義を行います．また，当講義で取り扱う範囲の簿記の知識や経験があるとより理解が深まります．

テキスト・参考文献

・テキスト：佐藤信彦・河﨑照行・齋藤真哉・柴健次・高須教夫・松本敏史編著『スタンダードテキスト財務会計論 応用論点編［第 12 版］』中央経済社，2019 年．
・参考文献：桜井久勝『財務会計講義［第 21 版］』中央経済社，2020 年．
日本公認会計士協会・企業会計基準委員会（編）『会計監査六法［2020 年版］』日本公認会計士協会出版局，2020 年．

これらの文献は，2020 年 4 月時点の最新版ですが，それぞれ毎年 3 月から 5 月の間に版が更新されています．講義は最新版を使って行うものとします．また，「会計監査六法」は参考文献に位置づけますが，講義内で規定の参照などに活用します．特に公認会計士試験受験生には将来的にも有用な規定集ですので，慣れておくことをおすすめします．

時間割

前期　水曜 2 限

科目ナンバー

EAC-ACC601

成績評価法

・課題（20％），理解度確認セッション 1（40%）と理解度確認セッション 2（40%）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

水曜日
13:00-14:30

連絡先

nozeki@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

第 1 回の講義では，講義の概要，講義計画，講義の進め方，成績評価に関する説明を行います.

本講義は全 15 回で構成されており，講義計画は以下の通りです.

第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：法人税等（1）／ Income Taxes and Tax Effect Accounting (1)
第 3 回：法人税等（2）／ Income Taxes and Tax Effect Accounting (2)
第 4 回：企業結合（1）／ Business Combination (1)
第 5 回：企業結合（2）／ Business Combination (2)
第 6 回：事業分離／ Business Divestitures
第 7 回：外貨換算／ Translation of Foreign Currency Transactions
第 8 回：理解度確認セッション 1 ／ Examination 1
第 9 回：連結財務諸表（1）／ Consolidated Financial Statements (1)
第 10 回：連結財務諸表（2）／ Consolidated Financial Statements (2)
第 11 回：連結財務諸表（3）／ Consolidated Financial Statements (3)
第 12 回：連結財務諸表（4）／ Consolidated Financial Statements (4)
第 13 回：連結財務諸表（5）／ Consolidated Financial Statements (5)
第 14 回：四半期財務諸表／ Quarterly Financial Statements
第 15 回：理解度確認セッション２／ Examination 2

第 2 回：法人税等（1）／ Income Taxes and Tax Effect Accounting (1)

講義の内容

法人税等の会計処理，税効果会計の目的や会計処理について説明します．
法人税等の仕組みを理解するとともに，税効果会計における会計上と税務上の差異の認識（収益費用比較法と資産負債比較法）や税効果会計が対象とすべき差異の範囲（包括的配分と部分的配分）などについて議論します．

具体的な講義内容は以下の通りです．

1. 税金の意義と種類
2. 法人税等の会計処理
3. 税効果会計の基本的仕組みと日本基準
4. 一時差異等

＜宿題＞

講義資料およびテキストを復習し，テキスト設例などの課題に取り組んでください．

学ぶべき用語・ポイント

- 繰延法
- 資産負債法
- 期間差異
- 一時差異
- 永久差異
- 包括的配分
- 部分的配分

第 3 回：法人税等（2）／ Income Taxes and Tax Effect Accounting (2)

講義の内容

税効果会計の配分方法（繰延法と資産負債法）に基づく税効果額や適用税率を説明します．また，財務諸表上の表示方法や繰延税金資産の回収可能性についても議論します．

具体的な講義内容は以下の通りです．

1. 税効果額の計算
2. 勘定処理と財務諸表上の表示
3. 繰延税金資産の回収可能性と繰延税金負債の支払可能性

＜宿題＞

講義資料およびテキストを復習し，テキスト設例などの課題に取り組んでください．

学ぶべき用語・ポイント

- 現行税率
- 予測税率
- 欠損金の繰越控除
- 独立勘定
- 評価勘定
- 繰延税金資産の回収可能性

第 4 回：企業結合（1）／ Business Combination (1)

講義の内容

企業結合会計の目的と会計処理について説明します．合併の会計処理として，パーチェス法と持分プーリング法の考え方を理解すると共に，平成 20 年改正基準以降になぜパーチェス法一本化したのか，またそれまでの日本基準はなぜ持分プーリング法を維持していたのかを議論します．

具体的な講義内容は以下の通りです．

1. 企業結合会計の意義
2. パーチェス法の論点
3. 合併の会計処理
4. 企業結合時の資本項目

＜宿題＞

講義資料およびテキストを復習し，テキスト設例などの課題に取り組んでください．

学ぶべき用語・ポイント

- 取得と持分の結合
- パーチェス法
- 持分プーリング法
- のれん
- 負ののれん

第 5 回：企業結合（2）／ Business Combination (2)

講義の内容

学ぶべき用語・ポイント
- 共同支配企業
- 共通支配下の取引

企業結合に関する会計基準に含まれる共同支配企業の形成や共通支配下の取引等について説明します．これらの企業結合に該当する場合の会計処理を取り扱います．

具体的な講義内容は以下の通りです．

1. 共同支配企業の形成の判定
2. 共同支配企業の形成の会計処理
3. 共通支配下の取引
4. 非支配株主との取引
5. 開示方法

＜宿題＞

講義資料およびテキストを復習し，テキスト設例などの課題に取り組んでください．

第 6 回：事業分離／ Business Divestitures

講義の内容

事業分離の会計について，分離元企業の会計処理と結合当事企業の株主に係る会計処理について説明します．これらの会計処理は持分の継続・非継続の観点から整理されていることを確認し，そこで認識される移転損益や交換損益の性質について議論します．具体的な講義内容は以下の通りです．

1. 事業分離等の会計処理
2. 分離元企業の会計処理
3. 結合当事企業の株主に係る会計処理
4. 注記

＜宿題＞

講義資料およびテキストを復習し，テキスト設例などの課題に取り組んでください．

学ぶべき用語・ポイント

- 事業分離
- 分離元企業・分離先企業
- 結合当事企業

第 7 回：外貨換算／ Translation of Foreign Currency Transactions

講義の内容

外貨換算の会計の目的や会計処理について説明し，流動・非流動法，貨幣・非貨幣法，テンポラル法，決算日レート法などの換算方法の根底にある考え方を議論します．また，外貨建取引の換算における一取引基準と二取引基準の違いを解説します．

具体的な講義内容は以下の通りです．

1. 外貨換算の意義
2. 外貨換算会計の論点
3. 外貨建取引の換算
4. 外貨建資産・負債の換算

＜宿題＞

講義資料およびテキストを復習し，テキスト設例などの課題に取り組んでください．

学ぶべき用語・ポイント

- 流動・非流動法
- 貨幣・非貨幣法
- テンポラル法
- 決算日レート法
- 一取引基準
- 二取引基準
- 為替予約

第 8 回：理解度確認セッション 1 ／ Examination 1

講義の内容

第 1 回から第 7 回までの講義内容について，理解度確認セッション 1 を実施します．

第 9 回：連結財務諸表（1）／ Consolidated Financial Statements (1)

講義の内容

学ぶべき用語・ポイント
- 連結の一般原則
- 連結主体論
- 支配力基準
- 影響力基準

連結財務諸表を作成する意義と目的を整理した上で，連結財務諸表の作成手続きの概要を連結主体論と関連付けながら説明します．また，連結範囲について，子会社および関連会社の判定方法については重点的に解説し，支配力基準および影響力基準について学びます．

具体的な講義内容は以下の通りです．

1. 連結財務諸表の意義と目的
2. 連結財務諸表の基礎概念
   ①連結の範囲
   ②連結決算日
   ③親会社および子会社の会計方針

＜宿題＞

講義資料およびテキストを復習し，テキスト設例などの課題に取り組んでください．

第 10 回：連結財務諸表（2）／ Consolidated Financial Statements (2)

講義の内容

連結貸借対照表を作成するために必要な投資と資本の相殺消去の方法について説明します．時価により評価する子会社の資産および負債の範囲については，部分時価評価法と全面時価評価法があることや，これらの会計処理方法と連結主体論の関係を議論します．また，子会社の追加取得や一部売却についての会計処理を整理し，近年の基準改正に伴う会計処理の変化について解説します．

具体的な講義内容は以下の通りです．

1. 連結貸借対照表
2. 投資と資本の相殺消去
3. 段階取得
4. 子会社株式の追加取得及び一部売却
5. 非支配株主持分
6. 債権債務の相殺消去

＜宿題＞

講義資料およびテキストを復習し，テキスト設例などの課題に取り組んでください．

学ぶべき用語・ポイント

- 全面時価評価法
- 部分時価評価法
- 非支配株主持分
- のれん

第 11 回：連結財務諸表（3）／ Consolidated Financial Statements (3)

講義の内容

学ぶべき用語・ポイント
- 未実現利益
- ダウンストリーム
- アップストリーム

連結損益計算書を作成するために必要な内部取引高の相殺消去や未実現利益の消去等について説明します．未実現利益の消去については，ダウンストリームとアップストリームに分けて整理し，未実現利益の消去と連結主体論の関係について議論します．

具体的な講義内容は以下の通りです．

1. 連結損益・包括利益計算書
2. 内部取引高の相殺消去
3. 未実現利益の消去

＜宿題＞

講義資料およびテキストを復習し，テキスト設例などの課題に取り組んでください．

第 12 回：連結財務諸表（4）／ Consolidated Financial Statements (4)

講義の内容

持分法の会計処理について説明します．持分法の適用によって当期純利益や純資産に与える影響は連結子会社の場合と変わらない点などを議論します．また，連結貸借対照表や連結損益計算書以外の連結財務諸表の作成や開示について解説します．

具体的な講義内容は以下の通りです．

1. 持分法
2. 連結株主資本等変動計算書
3. 連結キャッシュ・フロー計算書
4. 関連当事者間取引の開示
5. セグメント情報の開示

＜宿題＞

講義資料およびテキストを復習し，テキスト設例などの課題に取り組んでください．

学ぶべき用語・ポイント

- 持分法
- 原則法と簡便法
- セグメント

第 13 回：連結財務諸表（5）／ Consolidated Financial Statements (5)

講義の内容

学ぶべき用語・ポイント

- 連結固有の税効果
- 在外子会社

連結財務諸表における税効果会計の目的および意義を説明します．連結財務諸表固有の一時差異等を整理し，なぜそれらが一時差異等に該当するのかを議論します．また，連結財務諸表における税効果会計に特有の考え方について解説します．その他に，在外子会社の財務諸表項目の換算について説明します．

具体的な講義内容は以下の通りです．

1. 連結財務諸表における税効果会計の意義
2. 連結財務諸表固有の税効果会計
3. 在外子会社の財務諸表項目の換算

＜宿題＞

講義資料およびテキストを復習し，テキスト設例などの課題に取り組んでください．

第 14 回：四半期財務諸表／ Quarterly Financial Statements

講義の内容

四半期財務諸表が導入される経緯，四半期財務諸表の作成範囲等を整理した上で，具体的な作成基準や表示方法について説明します.

具体的な講義内容は以下の通りです.

1. 四半期報告制度の導入
2. 四半期連結財務諸表の作成基準
3. 四半期連結財務諸表等の表示方法

＜宿題＞

講義資料およびテキストを復習し，テキスト設例などの課題に取り組んでください.

学ぶべき用語・ポイント

- 四半期財務諸表
- 予測主義
- 実績主義
- 四半期特有の会計処理

第 15 回：理解度確認セッション 2 ／ Examination 2

講義の内容

第 9 回から第 14 回までの講義内容について，理解度確認セッション 2 を実施します．

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

財務諸表分析・木村史彦／ Financial Statement Analysis・Fumihiko Kimura

講義の目的／ Course Objective

企業が公表する財務諸表に基づき当該企業の現状と課題を把握するための財務諸表分析について，基本的な比率分析の手法を中心に講義する．ここで検討する手法は，企業評価，倒産分析，証券投資分析，監査など幅広く適用可能なものである．

財務諸表分析は，会計専門職に最も期待される能力の一つであり，高い意欲をもって受講していただきたい．

I will lecture on the basic framework of financial statement analysis, focusing on the basic method of ratio analysis. The techniques that can be acquired from this lecture are widely applicable to corporate evaluation, bankruptcy analysis, securities investment analysis, and auditing. Financial statement analysis is one of the most promising skills of accounting professionals, so please take it with great motivation.

講義の進め方

・テキストおよびレクチャーノートをベースとして，各講義で概ね一つのテーマについて講義する．
・各セクションには練習問題を設けており，それを中心に復習する．
・練習問題の一部はショートレポートとして提出を求める．
・理解度確認セッションにおける筆答考査ならびにレポートを課す．

予習・復習について

＜予習＞
・講義までにレクチャーノートおよびテキストの指定された箇所を読み，疑問点を明らかにしておくこと．
＜復習＞
・各回の講義で課題を課す．講義で習得した財務諸表分析手法を用い，自主的に企業の分析に取り組むことを期待する．

この講義を受講するために必要とする知識

株式会社に関する基本的な会計処理について理解していること．

テキスト・参考文献

・テキスト：乙政正太『財務諸表分析［第 3 版］』同文館出版，2019 年．
・参考文献：シアラン・ウオルシュ著，梶川達也・梶川真味訳『マネジャーのための経営指標ハンドブック－財務諸表・ROE・キャッシュフローまで－』ピアソンエデュケーション，2001 年．
須田一幸・山本達司・乙政正太 編『会計操作―その実態と識別法，株価への影響』ダイヤモンド社，2007 年．

時間割

前期　月曜 6 限

科目ナンバー

EAC-ACC503

成績評価法

・レポート（20%）および理解度確認セッション（80%）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

水曜日 10:30-12:00
および講義終了後

連絡先

022-217-6282
fkimura@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・本講義では財務諸表分析についての基礎的な考え方と理論的背景を中心に議論します．
・学部上級レベルから大学院中級レベルまでの内容を取り扱います．

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

コースの目的，進め方，成績評価方法，学習方法に関するガイダンスを行う．第 2 回以降の講義の内容は，以下の通りである．

第 2 回：財務諸表分析と財務データの特性
第 3 回：財務諸表の構造
第 4 回：貸借対照表と損益計算書の基本分析
第 5 回：収益性 / 効率性分析（1）総資産利益率，売上高利益率，資産回転率
第 6 回：収益性 / 効率性分析（2）売上高利益率・資産回転率の詳細分析
第 7 回：安全性分析（1）短期安全性
第 8 回：安全性分析（2）長期安全性
第 9 回：ROE の分解とその理解
第 10 回：株式評価指標による企業価値評価
第 11 回：成長性分析・付加価値分析
第 12 回：キャッシュ・フロー分析
第 13 回：グループ経営の分析
第 14 回：利益マネジメントと財務諸表分析
第 15 回：理解度確認セッション

第 2 回：財務諸表分析と財務データの特性／ Characteristics of Financial Data

講義の内容

第 2 回から第 4 回までは財務諸表分析の前提となる財務データの特性について理解する．

第 2 回講義では，財務諸表分析の前提となる財務諸表の入手方法，財務データの特性について検討する．主な論点は下記の通りである．

1. 財務諸表分析の意義・方法・留意点と財務諸表の入手方法
2. どのような利用者がいかに財務諸表を活用するかについて
3. クロスセクション分析と時系列分析
4. 財務諸表分析に対する粉飾決算，利益操作の影響

＜予習＞

講義ノートの該当箇所に目を通し，不明な点を明らかにする．

＜復習＞

課題に取り組むこと

＜宿題＞

インターネットを通じた財務情報の収集についての課題を課す．

＜より進んだ学習＞

EDINET の問題点について検討すること．

学ぶべき用語・ポイント

- ステイクホルダー
- 情報の非対称性
- クロスセクション分析と時系列分析
- 決算短信
- EDGAR システム
- EDINET
- 自発的情報開示
- インベスター・リレーションズ

第 3 回：財務諸表の構造／ Structure of Financial Statements

講義の内容

財務諸表分析において必要となる，財務 3 表の構造について理解する．講義のポイントは下記の通りである．

1. 財務諸表分析で用いる連結貸借対照表，連結損益計算書および連結キャッシュ・フロー計算書の基本構造
2. 連結貸借対照表の構造―資産，負債，非支配株主持分，純資産（資本）
3. 連結損益計算書の構造―営業損益計算，経常損益計算および純損益計算
4. 連結キュッシュ・フロー計算書の構造 ―営業活動によるキャッシュ・フロー，投資活動によるキャッシュ・フロー，財務活動によるキャッシュ・フロー
5. 連結財務諸表の相互関係
6. 会社法の下での財務諸表の様式の変更

＜予習＞

講義ノートの該当箇所に目を通し，不明な点を明らかにする．

＜復習＞

課題に取り組むとともに，関連規制について確認すること．

＜宿題＞

レクチャーノートの練習問題に解答すること．

学ぶべき用語・ポイント

- 営業循環基準
- 一年基準
- 流動性配列法
- 発生主義
- ボトムライン
- 直接法と間接法
- 株主資本等変動計算書

第 4 回：貸借対照表と損益計算書の基本分析／ Basic analysis of balance sheet and income statement

講義の内容

貸借対照表と損益計算書に記載されている実数データを用いた財務諸表分析手法について検討する．講義のポイントは下記の通りである．

1. 実際に公表されている貸借対照表と損益計算書を用いながら，企業の全体像をどのように把握するか.
2. 百分率貸借対照表と百分率損益計算書
3. 垂直分析，水平分析，趨勢分析の方法
4. セグメント情報による財務諸表分析の方法
5. わが国における特別利益と特別損失の動向を観察することによって，いわゆる会計ビッグバンの影響を理解する.

＜予習＞

講義ノートの該当箇所に目を通し，不明な点を明らかにする.

＜復習＞

課題に取り組むとともに，自分の興味ある企業について，財務的な特徴を把握できるようにすること.

＜宿題＞

レクチャーノートの練習問題に解答すること.

学ぶべき用語・ポイント

- 垂直分析
- 水平分析
- 趨勢分析
- 前期比分析
- バランスシートのスリム化

第 5 回：収益性 / 効率性分析（1）総資産利益率，売上高利益率，資産回転率／ Profitability Analysis and Efficiency Analysis (1)

講義の内容

第 5 回講義から 5 回にわたり，デュポンモデルに基づく財務諸表分析の手法について検討する．第 5 回講義では，ROA（総資産利益率）の意義とその分解手法について検討する．主な論点は下記の通りである．

1. 投資利益率の概念
2. 総資産利益率（ROA）の意義
3. ROA が売上高利益率（ROS）と資産回転率に分解されること
4. ROA の分解による企業活動の分析

＜予習＞

講義ノートの該当箇所に目を通し，不明な点を明らかにする．

＜復習＞

課題に取り組むとともに，自分の興味ある企業について，業績指標を算定してみること．

＜宿題＞

レクチャーノートの練習問題に解答すること．

学ぶべき用語・ポイント

- ROA（総資産利益率）
- 事業利益
- 資産回転率
- ROS（売上高利益率）
- ROA の分解

第 6 回：収益性 / 効率性分析（2）売上高利益率・総資産回転率の詳細分析／ Profitability Analysis and Efficiency Analysis (2)

講義の内容

ROA の分解の 2 要素である売上高利益率と総資産回転率について，さらに詳細に分析する手法を理解する．主な論点は下記の通りである．

1. 資産回転率および回転日数の考え方
2. 総資産回転率の詳細な分析の下で算定される，棚卸資産回転率，売上債権回転率，固定資産回転率等の尺度
3. 売上高利益率の詳細な分析の下で算定される，売上高粗利益率，売上高営業利益率，売上高経常利益率等の尺度
4. 段階別損益計算の意義

＜予習＞

講義ノートの該当箇所に目を通し，不明な点を明らかにする．

＜復習＞

下記課題に取り組むとともに，自分の興味ある企業について，業績指標を算定してみること．

＜宿題＞

レクチャーノートの練習問題に解答すること．

学ぶべき用語・ポイント

- 総資産回転率
- 棚卸資産回転日数
- 売上債権回転日数
- 仕入債務回転日数
- 固定資産回転率
- 売上高粗利益率
- 売上高営業利益率
- 売上高経常利益率

第 7 回：安全性分析（1）短期安全性／ Safety Analysis (1)

講義の内容

財務諸表分析においては収益性に加えて安全性も視野に入れなければならない．この講義では，企業の短期的な安全性を測定する尺度について検討する．短期的な安全性の分析においては，貸借対照表をベースとした短期的な支払能力の分析と，主に営業に関する資金循環を測定することが有用である．主な論点は下記の通りである．

1. 短期的な支払能力の分析
2. 営業上の資金サイクルの分析
3. 業種ごとの支払能力ならびに資金サイクルの特徴

＜予習＞

講義ノートの該当箇所に目を通し，不明な点を明らかにする．

＜復習＞

下記課題に取り組むとともに，自分の興味ある企業について，安全性指標を算定する．

＜宿題＞

レクチャーノートの練習問題に解答すること．

学ぶべき用語・ポイント

- 流動比率
- 当座比率
- インタレスト・カバレッジ・レシオ
- 運転資本サイクル
- 売上債権回転率
- 仕入債務回転率
- 在庫回転率

第 8 回：安全性分析（2）長期安全性／ Safety Analysis (2)

講義の内容

中・長期的な企業の財務的安全性の分析においては，企業の財務体質を測定することが求められる．企業の財務体質は，資本構成と企業の投資に対する資金の手当ての観点から分析される．主な論点は下記の通りである．

1. 資本構成と財務的安全性の関係
2. 設備投資と資金調達の関係
3. 日本企業における資金調達の特徴

＜予習＞

講義ノートの該当箇所に目を通し，不明な点を明らかにする．

＜復習＞

下記課題に取り組むとともに，自分の興味ある企業について，安全性指標を算定する．

＜宿題＞

レクチャーノートの練習問題に解答すること．

学ぶべき用語・ポイント

- 自己資本比率
- 負債比率
- 固定比率
- 固定長期適合率
- 間接金融と直接金融

第 9 回：ROE の分解とその理解／ ROE and Its Decomposition

講義の内容

これまでの収益性・安全性についての議論は，財務諸表分析を実施する主体（目的）を特定化せずに汎用的に適用できるものである（したがって，企業内部での管理目的でも適用可能である）．これに対して第 9 回講義では，株主の観点に立った収益性指標として ROE（株主資本利益率）を取り上げ，さらに ROE を ROA と財務レバレッジに分解する分析について概説する．主な論点は下記の通りである．

1. ROE の意義
2. ROE が ROA と財務レバレッジに分解されることを理解すること
3. 株主にとっての収益性と安全性のトレードオフ
4. ROE を株主にとっての収益性指標とすることの限界

＜予習＞

講義ノートの該当箇所に目を通し，不明な点を明らかにする．

＜復習＞

下記課題に取り組むとともに，自分の興味ある企業について，ROE の分析を実施する．

＜宿題＞

レクチャーノートの練習問題に解答すること．

学ぶべき用語・ポイント

- ROE
- ROA
- 財務レバレッジ
- 株主資本コスト
- レバレッジ効果

第 10 回：株式評価指標による企業価値評価／ Equity valuation

講義の内容

株価と会計情報を結びつけた株式評価指標は，二つの異なる情報源からの情報を結びつけたものであり，きわめて有用な指標である．そこで第 10 回講義では，こうした株式評価指標の算定方法と解釈について検討する．主な論点は下記の通りである．

1. 株式評価指標による企業価値評価の手法
2. 株価と利益あるいは純資産の関係
3. 株式投資における株価関連指標の意義
4. 株価収益率（PER），株価純資産倍率（PBR）の解釈
5. ROE と株価収益率，株価純資産倍率の関係

＜予習＞

講義ノートの該当箇所に目を通し，不明な点を明らかにする．

＜復習＞

下記課題に取り組むとともに，自分の興味ある企業について，PER および PBR の分析を実施する．

＜宿題＞

レクチャーノートの練習問題に解答すること．

学ぶべき用語・ポイント

- 市場の効率性
- 株価収益率（PER）
- 株価純資産倍率（PBR）
- 株主資本利益率（ROE）
- 資本コスト

第 11 回：成長性分析・付加価値分析／ Growth Analysis・Value Added Analysis

講義の内容

企業の将来を予測するには，企業がどのように成長してきたかを把握する必要がある．この講義では過去のデータに基づいて業績の推移（過去の成長状況）を測定し，今後も順調に伸びていくかどうかを分析する方法を考察する．

さらに，経営資源である労働力や設備の投入に対してどれだけ価値が創出されたかを算定する付加価値分析についても考察する．主な論点は下記の通りである．

1. 前期比，趨勢比，年平均成長率の分析手法
2. 成長性を評価する際にしばしば用いられる項目として，売上高，総資産，株主資本，経常利益，当期純利益，研究開発費，従業員数があることを理解すること
3. ある企業の成長性の動きではなく，わが国の上場企業全体の傾向
4. 企業の成長に影響を及ぼす要因
5. 生産性と付加価値の概念
6. 労働分配率と企業の成長性

＜予習＞

講義ノートの該当箇所に目を通し，不明な点を明らかにする．

＜復習＞

下記課題に取り組むとともに，自分の興味ある企業について，成長性分析を実施すること．

＜宿題＞

レクチャーノートの練習問題に解答すること．

学ぶべき用語・ポイント

- 前期比と趨勢比
- 売上高成長率
- 平均回帰性
- ランダムウォーク
- 成長性と収益性のトレードオフ
- 生産性と付加価値
- 控除法と加算法
- 労働生産性
- 労働分配率

第 12 回：キャッシュ・フロー分析／ Cashflow Analysis

講義の内容

キャッシュ・フロー計算書は，貸借対照表・損益計算書と並ぶ第三の財務諸表と位置づけられている．第 12 回講義ではキャッシュ・フロー計算書の構造について簡単に説明し，さらに，キャッシュ・フロー・データを利用した比率分析を考察する．主な論点は下記の通りである．

1. キャッシュ・フロー計算書の構造
2. キャッシュ・フロー・データを利用した収益性分析，安全性分析，設備投資分析
3. キャッシュ・フロー経営の意義
4. フリー・キャッシュ・フローの役割

＜予習＞

講義ノートの該当箇所に目を通し，不明な点を明らかにする．

＜復習＞

下記課題に取り組むとともに，自分の興味ある企業について，キャッシュ・フロー分析を実施する．

＜宿題＞

レクチャーノートの練習問題に解答すること．

学ぶべき用語・ポイント

- 黒字倒産
- 営業活動によるキャッシュ・フロー
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
- 財務活動によるキャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー
- キャッシュ・フロー経営

第 13 回：グループ経営の分析／ Analysis of Business Group Management

講義の内容

日本の上場企業の多くは子会社や関係会社を有し企業グループを構成している．したがって，連結財務諸表は企業グループ全体の財務状態・業績を示すものである一方で，親会社のみの業績，グループ全体における親会社のウエイトを理解して，グループ経営がいかに行われているのかを検討することも重要となる．第 13 回講義ではこうしたグループ経営を分析する手法として，連単倍率とセグメント情報の分析について検討する．主な論点は下記の通りである．

1. 日本企業におけるグループ経営の意義
2. 連単倍率の算定方法と留意点
3. 連単倍率の適用と解釈
4. セグメント情報の分析

＜予習＞

講義ノートの該当箇所に目を通し，不明な点を明らかにする．

＜復習＞

下記課題に取り組むとともに，自分の興味ある企業について，連単倍率分析を実施すること．

＜宿題＞

レクチャーノートの練習問題に解答すること．

学ぶべき用語・ポイント

- グループ経営
- 連単倍率
- セグメント情報
- 連結財務諸表
- 個別財務諸表

第 14 回：利益マネジメントと財務諸表分析／ Earnings Management

講義の内容

会計利益の質の低下を招く要因の一つは，会計利益を算定する際に経営者の恣意性が入り込むことである．なぜ経営者は恣意的に会計利益を操作しようとするのか，このような経営者の恣意的な会計行動をどのようにして測定するかを検討する．主な論点は下記の通りである．

1. 会計利益には経営者の恣意性がどのように入り込むのか
2. 会計的裁量行動と実体的裁量行動
3. 利益マネジメントの戦略と動機
4. 利益マネジメントの測定（推定）方法

＜予習＞

講義ノートの該当箇所に目を通し，不明な点を明らかにする．

＜復習＞

下記課題に取り組むとともに，近年の粉飾決算問題について調査すること．

＜宿題＞

レクチャーノートの練習問題に解答すること．

学ぶべき用語・ポイント

- 経営自由の原則
- 継続性の原則
- 利益マネジメント
- 機会主義的行動
- ボーナス・プラン
- 総発生処理額
- 会計ベースの契約

第 15 回：理解度確認セッション

講義の内容

これまで学習してきた基礎的事項の理解を確認するために理解度確認セッションを実施する.

＜宿題＞

なし

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

企業評価・木村史彦／ Firm Valuation・Fumihiko Kimura

講義の目的／ Course Objective

本講義は，企業の特定の事業あるいは企業自体の価値を評価する枠組みを習得することを目的とする．上場企業において企業価値を高めることは至上命題であり，その前提として自社の企業価値を把握することが求められる．また，M&A の急速な増加によって，上場企業のみならず非上場企業でも企業価値を把握する必要が出てきている．講義では，様々な企業評価手法について理論的・実践的に解説する．さらに M&A，MBO 等に関わる事例を分析することで，企業評価に対する理解を深める．

The purpose of this course is to acquire a framework for evaluating the value of a specific business of a company or the firm itself. Increasing corporate value is a paramount task for listed companies, and as a prerequisite, it is necessary to understand their corporate value. Also, with the rapid increase of M&A, not only listed companies but also unlisted companies need to measure the firm value. In the lecture, I explain various company evaluation methods theoretically and practically. Furthermore, by analyzing cases related to M&A and MBO, the understanding of corporate evaluation is deepened.

講義の進め方

・各回の講義で概ね一つのテーマについて講義し，関連する練習問題に取り組む．
・講義ではテキストおよびテキストを補完するレクチャーノートを用いる．

予習・復習について

＜予習＞
・講義までにレクチャーノートおよびテキストの指定された箇所を読み，疑問点を明らかにしておくこと．
＜復習＞
・各回の講義で課題を課す．

この講義を受講するために必要とする知識

会計大学院の「財務諸表分析」を履修済みか，同等の知識を有することを前提とする．

テキスト・参考文献

・テキスト：鈴木一功『企業価値評価【入門編】』ダイヤモンド社，2018 年．
・参考文献：鈴木一功『企業価値評価【実践編】』ダイヤモンド社，2004 年．
伊藤邦雄『新・企業価値評価』日本経済新聞出版社，2014 年．
日本公認会計士協会 経営研究調査会研究報告第 32 号「企業価値評価ガイドライン」（日本公認会計士協会の WEB サイトより入手可能，2013 年版）
＊その他の参考書，参照すべき論文については，講義で紹介する．

時間割

後期　金曜 7 限

科目ナンバー

EAC-ACC602

成績評価法

・平常点（20%），レポート（30%）および理解度確認セッション（50%）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

水曜日 10:30-12:00
ならびに講義終了後．

連絡先

fkimura@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・企業価値評価は会計のみならずファイナンスの知識も求められる難しい分野ですが，会計専門職として必須の知識です．将来を見据えて履修して頂ければと思います．なお，財務諸表分析の基礎的な知識を前提としますので，未履修者は慎重にご検討下さい（担当者にご相談下さい）．

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

コースの目的および全体のフレームワーク，進め方，成績評価方法，学習方法に関するガイダンスを行う．第 2 回以降の講義は二つのパートで構成されており，各回の内容は，以下の通りである．

第 1 部　DCF 法を中心とした企業価値評価の具体的手続き

第 2 回：企業価値評価のフレームワーク
第 3 回：経営戦略分析
第 4 回：将来予測のための財務諸表分析 (1) 投下資本表への組み替え
第 5 回：将来予測のための財務諸表分析 (2) フリー・キャッシュ・フローの測定と現状分析
第 6 回：フリー・キャッシュ・フローの将来予測
第 7 回：資本コストとリスク評価
第 8 回：理論株価と実際株価の比較分析
第 9 回：その他の価値評価手法 (1) ― 残余利益法
第 10 回：その他の価値評価手法 (2) ― 類似企業比較法

第 2 部　企業価値評価の実際

第 11 回：企業価値を高める経営
第 12 回：裁判目的の企業価値評価
第 13 回：TOB における企業価値評価
第 14 回：MBO における企業価値評価

第 15 回：理解度確認セッション

第 2 回：企業価値評価のフレームワーク／ Framework for valuation

講義の内容

企業価値評価の全体像について講義する.

1. 企業価値を重視する経営がなぜ重要なのかについて検討する
2. 企業価値とは何かを理解する
3. 企業価値評価のための 3 要素（経済的価値，時間価値，資本コスト）を理解する

＜宿題＞

レクチャーノートの練習問題に解答すること．次回講義で報告を求める

学ぶべき用語・ポイント

- バリュエーション・デバイド
- M&A と企業価値
- キャッシュ・フロー
- 時間価値
- 資本コスト

第 3 回：経営戦略分析／ Strategy analysis

講義の内容

第 8 回講義まで，Discounted Cash Flow (DCF) 法による企業価値評価について検討する．

第 3 回講義では，企業価値評価の前提となる経営戦略分析の手法について概説する．経営戦略分析は企業価値評価の最初のプロセスであり，定性的な企業の経済的実態を明らかにすることを目的とする．企業価値評価においては，将来の企業の状態を予測することが求められるが，それに際して外部環境ならびに企業の現状を把握することは極めて重要である．

経営戦略分析は，産業分析（企業間競争，参入の脅威，代替製品の脅威，買い手・売り手の交渉力の分析）と競争戦略分析（コストリーダーシップ，差別化）の二つの分析が中心となる．講義ではそれぞれについて概説する．

学ぶべき用語・ポイント

- 産業分析
- 企業間競争
- 参入の脅威
- 代替製品の脅威
- 買い手の交渉力
- 売り手の交渉力
- コストリーダーシップ
- 差別化

＜宿題＞

レクチャーノートの練習問題に解答すること．次回講義で報告を求める．

第 4 回：将来予測のための財務諸表分析（1）投下資本表への組み替え／ Forecast (1) Invested Capital

講義の内容

貸借対照表は，会計的な観点から作成されており，例えば，流動資産（負債）・固定資産（負債）は，現金回収・支払についての観点から 1 年基準（および営業循環基準）にしたがって区分されているだけで，経営活動・資金調達活動との関わりによって区分されている訳ではない．そのため DCF 法のもとで企業価値を分析するためには，貸借対照表のデータを投下資本の調達と運用の観点から組み替え処理する必要がある．そこで本講義では，貸借対照表のデータから，企業価値評価において必要となる投下資本表の作成手法を概説する．

学ぶべき用語・ポイント

- 事業用投下資産
- 余剰現金と営業用現金
- 非事業用投下資産
- 資金調達方法

＜宿題＞

レクチャーノートの練習問題に解答すること．次回講義で報告を求める．

第 5 回：将来予測のための財務諸表分（2）フリー・キャッシュ・フローの測定と現状予測／Forecast (2) Free cash flow measurement and forecast

講義の内容

DCF 法では，フリー・キャッシュ・フローを割り引くことが必要であるが，その算定の基礎は，会計上の利益である．本講義では損益計算書のデータを組み替えて，株主と債権者に帰属する企業が生み出した付加価値（税引後営業利益：NOPAT）を計算する方法を検討する．NOPAT は企業の営業活動によってのみ計上された利益であり，さらに資本構成の影響ならびに負債の節税効果が除かれた数値である．次いで，NOPAT のデータを用いてフリー・キャッシュ・フローを算定する方法について理解する．

さらに，第 4 回および第 5 回で得られたデータを用いて，企業の現状を予測するための財務諸表分析の手法について講義する．

＜宿題＞

レクチャーノートの練習問題に解答すること．次回講義で報告を求める．

学ぶべき用語・ポイント

- NOPAT
- EBITA
- フリー・キャッシュ・フロー
- 実効税率
- 節税効果
- ROIC
- 投下資産回転率

第 6 回：フリー・キャッシュ・フローの将来予測／ Forecast (3) Free cash flow measurement and forecast

講義の内容

この講義では，将来予測の基本的なフレームワークについて検討する．

企業は基本的には永続することが前提とされており，DCF 法を用いる場合には，将来にわたる企業のフリー・キャッシュ・フローを予測することが必要となる．ここでは分析期間を業績予測期間（詳細に業績を予測する期間…3 ～ 10 年程度）とそれ以降の存続価値予測期間に分け，後者について単純な仮定を置くことで実際に数値を推定する手法について議論する．

将来予測においては，直接フリー・キャッシュ・フローを予測するのではなく，企業の投下資本，NOPAT を総合的に評価して予測する方がより妥当な予測が可能となる．

実際の予測プロセスでは，経営戦略分析をベースにして企業の売上高を予測し，それに依拠して財務数値を予測していく．この講義ではそうした手続きについて詳細に説明する．さらに，将来予測数値に対して財務分析を実施して，分析の妥当性を検証する．

＜宿題＞

レクチャーノートの練習問題に解答すること．次回講義で報告を求める．

学ぶべき用語・ポイント

- 将来予測
- 業績予測期間
- 存続価値予測期間
- バリュードライバー式
- フリー・キャッシュ・フロー成長モデル
- 売上高予測
- シナリオの策定
- 財務数値の関連性
- 予測損益計算書
- 予測貸借対照表

第 7 回：資本コストとリスク評価 ／ Capital cost and risk evaluation

講義の内容

企業価値評価モデルの分母として用いられる資本コストは，企業価値評価においてきわめて重要な要素である．資本コストの概念を理解するためには，資本市場ならびに企業の財務行動についての理解が求められる．この講義では，下記の論点を中心に資本コストの推定方法を検討していく．

1. リスクとリターンの概念
2. 資本コストの抽象的意義
3. 株主資本コストの推定方法
4. 他人資本（負債）コストの推定方法
5. 企業の資金調達についての戦略が資本コストに及ぼす影響

＜宿題＞

レクチャーノートの練習問題に解答すること．次回講義で報告を求める．

学ぶべき用語・ポイント

- リスクとリターン
- 資本コスト
- 株主資本コスト
- CAPM
- ベータ値
- 無リスク利子率
- 他人資本コスト
- 財務レバレッジの効果

第 8 回：理論株価と実際株価の比較分析／ Theoretical stock price

講義の内容

第3回から7回までの講義をふまえて, DCF法に基づく企業価値評価を実施する. そして, 将来予測，資本コスト等のパラメターを変えて推定された企業価値がいかに変化するのかについて検討する.

企業価値は，パラメターを操作することによっていかようにでも算定される「アート」のような側面もあるが，他方で，株価との比較，もしくはいくつかのシナリオのもとで算定された企業価値との比較は，分析者に多くの情報をもたらす．そこで，企業価値と市場価値の乖離をいかに理解したらよいのかについて検討する.

＜宿題＞

企業価値評価についてのショートレポートを課す.

学ぶべき用語・ポイント

- 事業価値と企業価値
- 感度分析
- 無形資産
- 完全市場，完備市場
- 透視仮説と誤導仮説
- 行動ファイナンス
- プロスペクト理論

第 9 回：その他の価値評価手法―残余利益モデル／ Residual income model

講義の内容

DCF 法以外の企業価値評価手法について検討する．企業価値評価の現場では，単一の手法で評価を実施するのではなく，複数の方法を組み合わせることが多い．DCF 法以外で広く用いられるインカムアプローチの企業価値評価手法として，残余利益モデルを取り上げ，その概要について講義する．

＜宿題＞

企業価値評価についてのショートレポートを課す．

学ぶべき用語・ポイント

- 残余利益モデル
- 残余利益
- 株主資本コスト
- 簿価
- クリーンサープラス関係
- 配当割引モデル

第 10 回：その他の価値評価手法 (2) ―類似企業比較法（マルチプル法）／ Multiple method

講義の内容

類似企業比較法は，マーケットアプローチと呼ばれる企業評価方法であり，自社の事業領域と近い上場企業（類似企業）を複数選定し，評価倍率を求めて事業価値を算出する手法である．

インカムアプローチと比べると比較的容易に実践可能な価値評価手法であることから，実務でも広く用いられている．この講義では，類似企業比較法の理論的背景にふれた上で，その適用方法について講義する．

＜宿題＞

企業価値評価についてのショートレポートを課す．

学ぶべき用語・ポイント

- 類似企業比較法
- PBR
- PER

第 11 回：企業価値を高める経営／ Improvement of firm value

講義の内容

第 11 回から第 14 回の講義までは，企業価値評価を用いた経営実践について検討する．

第 11 回講義では企業価値を高めるために，いかなる経営をすればよいのかについて検討する．企業価値は将来のキャッシュ・フローの現在価値として計算されるものであることから，数式上では，将来業績を高めるか，割引率である資本コストを引き下げることが改善につながる．そこで，企業は，こうした目的のためにいかなる行動をとれば良いのかについて検討する．

特に，ディスクロージャーが資本コストを低減する効果に注目し，関連する研究について検討する．

＜宿題＞

討論課題について，調査すること

学ぶべき用語・ポイント

- ディスクロージャー
- 資本コスト
- 環境情報
- IR
- 市場へのサプライズ

第 12 回：裁判目的の企業価値評価／ Firm valuation for trial

講義の内容

企業価値評価の実務での適用の一例として，日本公認会計士協会が経営研修調査会研究報告第 32 号として公表している「企業価値評価ガイドライン」の裁判目的の価値評価業務についてレビューしていく．裁判目的の企業価値評価には，「鑑定業務」と「算定業務・検討業務」があり，会計専門職は公正な立場あるいは一方の当事者の立場で評価を行うことが求められる．

また，この講義では，「カネボウ株式買取価格決定申立事件」など，実際の事件の判例を用いて，裁判目的の企業価値評価について理解していく．

＜宿題＞

討論課題について，調査すること

学ぶべき用語・ポイント

- 企業価値評価ガイドライン
- 鑑定業務
- 算定業務・検討業務
- コントロールプレミアム
- 「資産状態その他一切の事情」を考慮した価格
- 公正な価格

第 13 回：TOB における企業価値評価／ Firm valuation for TOB

講義の内容

TOB（takeover bid；株式公開買い付け）は，経営権の取得などを目的として株式等の買い取りを希望する者が，「買い付け期間・買い取り株数・価格」を公告して，不特定多数の株主から株式市場外で株式を買い集める制度である．この際の買い取り価格の設定において，企業価値評価は重要な役割を果たす．価格が低い場合には買い付け側が，高い場合には株主側が有利となるからである．第 13 回講義では，実際の TOB の事例においていかなる企業価値評価がなされたのかについて概観していく．

＜宿題＞

討論課題について，調査すること．

学ぶべき用語・ポイント

- TOB（株式公開買い付け）
- コントロールプレミアム
- 公正な価格
- 財務デューデリジェンス

第 14 回：MBO における企業価値評価／ Firm valuation for MBO

講義の内容

MBO（Management Buyout，経営陣買収，マネジメント・バイアウト）は，経営者が株主より自社の株式を譲り受け，あるいは会社の事業部門のトップが当該事業部門の事業譲渡を受けることであり，会社の非公開化や関係会社の独立において用いられる．TOB と類似している面もあるが，経営者（経営陣）が買収を行う点が異なり，TOB 以上に買い付け価格の算定のための企業価値評価が重要となり，その評価に問題がある場合には訴訟に至るケースもある．

第 14 回講義では，経済産業省の企業価値研究会「企業価値の向上及び公正な手続確保のための経営者による企業買収（ＭＢＯ）に関する報告書」をレビューし，さらに実際に MBO をめぐる企業価値評価が裁判の場で問題となった事例について考察する．

＜宿題＞

なし

学ぶべき用語・ポイント

- MBO (マネジメント・バイアウト)
- 投資組合
- バイアウトファンド
- コントロールプレミアム
- 公正な価格
- 財務デューデリジェンス

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

これまで学習してきた基礎的事項の理解を確認するために試験を実施する.

＜宿題＞

なし

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

簿記 1 ・成田由加里／ Bookkeeping 1・Yukari Narita

講義の目的／ Course Objective

企業の経済活動を表す財務諸表を作成するために基本となる簿記の考え方を学ぶ．本講義において対象とするのは個別財務諸表である．

中世イタリアに端を発するといわれている複式簿記はシンプルな仕組みながらも，現在も資本主義経済の基盤となっている．東インド会社の発展とともに期間損益計算が進展し，産業革命により減価償却計算が進展するなど，経済環境の変化に伴い，様々な簿記の手法が開発された．歴史の教科書で読んだワットの蒸気機関の発明が会計技術にも進展を及ぼしたとも見ることができる．その基本は，経済取引を認識・測定し借方・貸方の両サイドから記録するというシンプルな仕組みであるが，例えば売上であれば，資金の流れと在庫の流れをつなぎとめ，漏れなくダブりなく取引を正確かつ完全に記録し経営情報として役立つことで，簿記の技術は数百年にわたり発展を遂げてきた．さらに今日では，企業のリスク情報を会計数値の中に落とし込み，財務諸表利用者に貢献していることでその存在意義が認められているとも考えられる．

このような発展に見られるように今後も様々な新しい論点がでてくることは容易に想定される．経済環境に新たな変化が起こったとしても，販売，資金調達，投資等のビジネスプロセスを意識しつつ簿記の考え方の「幹」を太くすることにより，どのような場面でも柔軟に対応できる力が養われることを本講義の目的とする．

To learn the basics of bookkeeping to prepare financial statements that represent the economic activities of companies. The focus of the course is on individual financial statements.

Double-entry bookkeeping, which is said to originate in medieval Italy, is a simple method, but still the foundation of the capitalist economy. Various bookkeeping methods have been developed in line with changes in the economic environment. For example, the development of the East India Company triggered the progress of period profit and loss calculation, and Industrial Revolution lead to the progress of depreciation calculation. The invention of the steam engine of Watt can be seen as a cause of the progress in accounting methods. While the basic of bookkeeping is simple to measure economic transactions and record them from both sides of debit and credit, it has been developing over several hundred years by being accurate and complete and useful as management information. In addition, the importance of bookkeeping is recognized by the contribution to the financial statement users by revealing the risk information of the enterprise into the accounting figures.

It is easily assumed that various new issues will come out in the future as seen in such development. The goal of this course is to develop the ability to respond flexibly in any situation by fully understanding the "core" of the bookkeeping concept, while being aware of business processes such as sales, financing, and investment, even if a new change occurs in the economic environment.

講義の進め方

予習段階で理解度確認（小テスト）を行い，理解しにくい点等に重点的に取り組む．

予習・復習について

＜予習＞

・トピックに関連する会計基準，適用指針等をしっかりと読み込んでおくこと．

・トピックについて設例問題にあたっておくこと．

・当該トピックにおける疑問点を整理して授業に臨むこと．

・予習確認小テストを予定している．

＜復習＞

・理解度確認（小テスト）を予定している．

この講義を受講するために必要とする知識

日商簿記 2 級程度の知識を有することが望ましい．

テキスト・参考文献

必要に応じて講義で紹介する．

時間割

前期　水曜 6 限

科目ナンバー

EAC-ACC504

成績評価法

・理解度確認セッション（70％）・予習復習理解度確認小セッション（30％）で評価する．

・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

授業のある日
19:30-21:00

連絡先

授業時に示す．

その他（連絡事項）

・電卓持参のこと．

第 1 回：オリエンテーション・簿記勘定体系とビジネスプロセス Orientation / Bookkeeping Chart and Business Process

講義の内容

【講義の目的】

講義の概要，講義の進め方，成績評価，学習方法（予習・復習）などについてシラバスを用いて確認する．

【講義の概要】

1. スケジュール概要

第 1 回：オリエンテーション・簿記勘定体系とビジネスプロセス
第 2 ～ 3 回：【損益計算】一般商品販売・消費税
第 4 回：【損益計算】棚卸資産
第 5 ～ 7 回：【損益計算】特殊商品売買～委託販売・試用販売・その他
第 8 回：【損益計算】工事契約に関する会計処理（建設業会計）
第 9 ～ 10 回：【金融商品】現預金・金銭債権・貸倒引当金
第 11 回：【金融商品】有価証券
第 12 ～ 14 回：【固定資産】有形固定資産・資産除去債務
第 15 回：理解度確認セッション

2. 簿記勘定体系とビジネスプロセス

・ビジネスプロセスの理解
・ビジネスプロセスと財務諸表の関係
・ビジネスプロセスと簿記の接点Ⅰ～日々の取引データ仕訳：勘定体系図を理解する．
・ビジネスプロセスと簿記の接点Ⅱ～財務諸表作成：財務諸表の構造を理解する．

Q：財務諸表上で示される利益は残高試算表上ではどこに隠れているか？
Q：残高試算表から貸借対照表・損益計算書への変化と関連性を説明できるか？
Q：貸借対照表と損益計算書は有機的に結合しているといわれるが，その意味は？

＜宿題＞

提示した問題を解き，勘定連絡図に示す．第 2 回講義内で理解度確認小テストを行う．

学ぶべき用語・ポイント

・貸借対照表
・損益計算書
・株主資本等変動計算書
・キャッシュフロー計算書

第 2 〜 3 回：【損益計算】一般商品販売・消費税 [Profit and Loss Calculation] General product sales and consumption tax

講義の内容

【学習上の留意点】

収益認識に関する会計基準を踏まえて，「収益認識とは何ぞや？」を簿記的な視点から考えてみましょう．

原価率の計算など容易いと思いきや，条件が様々付加されてくると原価率の算定が学習上のハードルになってくる．このハードルを越えると，原価率の算定がパズルを解くような面白さに変容する．この面白さを体感し，利益算定の醍醐味を味わいましょう．

学ぶべき用語・ポイント

- 収益認識 5 つのステップ

【講義の概要】

1. 損益計算書の構成及び利益の種類を学ぶ.
2. ビジネスプロセスのうち販売プロセスに関する会計処理を学ぶ.
3. 損益計算の基本となるのは，適正な期間損益計算であり費用収益対応の原則に基づいて利益を算定する．そこで受講者に問いたい．なぜ期間損益計算が必要とされるのか？当たり前と認識しているのであればその理由を考えてみよう．
4. 会計を学ぶ際の必須アイテム「認識と測定」について確認する．「認識と測定」は会計用語である．
5. 収益認識基準を学ぶ.
6. 計算技術

・損益計算全般において，商品の流れと勘定の流れの理解が重要である．
・一般商品売買において，利益は売上マイナス売上原価で求められる．したがって売上と売上原価を適切に算定する力が求められる．
・売上原価の算定方法を理解する．当該算定方法については，数種類あるが，このうち三分法を中心に取り組む.
・ビジネス上実施される「返品・割戻」＋「割引」等控除項目の処理を理解する．ここで，「返品・割戻」と「割引」の会計処理が異なるが，これら会計処理の相違の理由を確認し，当該会計処理に関して，PREP 法で説明できるよう考えてみよう．
・原価率算定方法を理解する．控除項目がある場合の原価率算定方法を " かけたチーズの図 " で理解する．

7. 消費税を含む商品売買に関する処理を理解する.

・消費税の全体像を概観することを前提とし企業における消費税の会計処理を確認する．税込方式と税抜方式を理解し，会計上はどちらを選択すべきか PREP 法で説明してみよう．

＜参考資料（持参すること）＞

企業会計基準代 29 号「収益認識に関する会計基準」
税務大学校講本 消費税法 第 1 章 総説（国税庁 HP よりダウウンロード可）

＜理解度確認（小テスト）＞

・前回講義分
・予習範囲

第 4 回：【損益計算】棚卸資産 [Profit and Loss Calculation] Inventories

講義の内容

【講義の概要】

1. 売上原価を算定するうえで棚卸資産は重要なファクターである.
2. 棚卸資産は資産であるから，将来現金化され利益獲得に寄与するものでなければならない．利益獲得の瞬間，資産（借方）は費用（借方）に変化する.
   Q：棚卸資産に収益性の低下が認められれば，評価を測定し開示する．当該情報を開示する理由はどこにあるだろうか？
   Q：最終仕入原価法が会計上認められない理由はどこにあるのだろうか？適用するとどのような齟齬が生じるのであろうか？ PREP 法で整理してみよう.
3. 計算技術

・棚卸資産に限らず資産一般に，会計処理上 3 つの視点を持つと整理しやすい.

① 取得原価	② 費用化 （売上原価）
	③ 評価

①取得原価：（例）付随費用は取得原価に含まれるのだろうか？金額の測定は？
②費用化:（例）払出した商品の個数はわかるが，払出単価はどのように測定するのか？
③評価：（例）期末商品の評価は？実地棚卸で現物が足りなかった場合は？商品価格が急落してしまった場合は？

【学習上の留意点】

上記整理に基づき, 個別論点について確認する．当該章はボリュームが少なくないので, 学習の立ち位置を見失わないよう上記 3 つの視点について留意していきましょう.

・個別法・先入先出法・平均原価法・売価還元法について理解する.
・収益性の低下・簿価切り下げの単価について理解する.
  Q：グルーピングは是か非か？

＜参考資料（持参すること）＞

企業会計基準委員会　企業会計基準第 9 号「棚卸資産の評価に関する会計基準」

＜理解度確認（小テスト）＞

・前回講義分
・予習範囲

学ぶべき用語・ポイント

・個別法
・先入先出法
・平均原価法
・売価還元法
・棚卸減耗費
・商品評価損
・収益性の低下
・簿価切り下げの単価

第 5 ～ 7 回：【損益計算】特殊商品売買～委託販売・試用販売・その他 [Profit and Loss Calculation] Special Product Sales-Consignment Sales, Trial Sales, Others

講義の内容

【学習上の留意点】

特殊商品売買は簿記学習者が躓きやすいトピックである．なぜ躓くか？一見すると多様な取引と会計処理を眼前にして整理方法が見つからないまま，暗記することで解答を導きだそうとしているからではないだろうか？

ビジネスプロセス＝商品・資金の流れと勘定科目の整理の仕組みを理解すれば，暗記は不要である．しっかり取り組み力をつけ，易々とハードルを越えていきましょう．

【講義の概要】

1. “ 特殊 ” の理解こそ具体の会計処理理解の礎である．
   Q：特殊商品売買とは特殊商品の売買か？特殊な商品売買なのか？
   Q：何をもって特殊とするのか？特殊に対峙する一般との相違点は何か？
2. 委託販売・試用販売・その他特殊商品売買について，ビジネスプロセスを理解し商品・資金の流れと勘定科目の仕組みを理解する．
3. 委託販売・試用販売・その他特殊商品売買割賦販売の収益認識基準について理解する．
   Q：当該収益認識基準が容認される理由はなんだろうか？
   Q：販売基準とは？
   Q：受託者販売日基準とは？
   Q：仕切精算書到着日基準とは？
4. 収益認識基準が同じであれば，複数の計算方法によっても損益計算書上に示される利益は同じである．登山にたとえれば頂上はひとつであるがルートは複数あるようなものである．ルートの選択により頂上が異なる，利益が異なることはあってはならない．各種計算方法おける異同点は何か？当該異同点を明確に理解することにより，すなわち何を計算しているのか見失わないよう計算の立ち位置を明らかにすることができる．
5. 計算技術

・手許商品区分法
・対照勘定法
・その都度法
・期末一括法
・発送諸掛の処理
・販売諸掛の処理
・戻り商品の処理の理解
   Q：真の損失は？
・商品・資金の流れと勘定科目の仕組みの理解
・原価率の算定

＜理解度確認（小テスト）＞　・前回講義分　・予習範囲

第 8 回：【損益計算】工事契約に関する会計処理（建設業会計）[Profit and loss calculation]
Accounting for construction contracts (construction industry accounting)

講義の内容

【学習上の留意点】

建設業会計の計算はテキストを読めば難しいものではない. 計算過程で注目したいのは，第 7 回までに学んだ損益計算との異同点は何かということである．損益計算を貫くテキストの中に忽然と建設業の章が設けられており，商品売買とは異なるアプローチで利益計算がなされる．この面白さに気づきを得られることを期待したい．さらにアプローチは異なるものの収益費用対応原則が貫かれていること，リスク情報を提供することを確認していきましょう.

【講義の概要】

1.「収益認識に関する会計基準」の枠組における 請負工事収益の認識基準の根拠について学ぶ.

2. 請負工事収益のリスク情報について学ぶ.

3. 計算技術

・建設業会計で使用される勘定科目

・工事進行基準

Q：工事完成基準と工事進行基準との会計処理の結果，未成工事支出金に関する違いとは何か？

Q：工事進行基準の存在意義を PREP 法で考えよう.

・工事損失引当金

＜参考資料（予習し持参すること）＞

・企業会計基準委員会　企業会計基準第 29 号「収益認識に関する会計基準 」

Q：計算に影響を及ぼすキーワードは何か？

＜理解度確認（小テスト）＞

・前回講義分

・予習範囲

学ぶべき用語・ポイント

・完成工事高
・完成工事原価
・未成工事支出金
・完成工事未収入金
・工事未払金
・未成工事受入金

第 9 〜 10 回：【金融商品】現預金・金銭債権・貸倒引当金 [Financial products] Cash and deposits, monetary receivables, allowance for doubtful accounts

講義の内容

【学習上の留意点】

ビジネスプロセスの観点からは，金銭債権の回収などは販売プロセスの一環としてとらえることがでる．商品を販売して，現金を売るところまでが販売部の責任と考えれば，債権評価も販売プロセスであるが，会計上は金融商品会計基準において整理されていることから，貸借対照表を構成する金融商品として学ぶこととする．

【講義の概要】

1. 貸借対照表の構造を理解する．
2. 現金の範囲を理解する．
3. 銀行取引を理解し，銀行勘定調整表により貸借対照表に計上すべき預金残高を計算する．
   Q：3 種類の銀行勘定調整表のうち採用すべきはどのタイプか？その理由は？
4. 債権の評価について理解する．

・償却原価法
・一般債権
・貸倒懸念債権
・破産更生債権等

5. 貸倒引当金の会計処理について理解する．

・貸倒実績率法
・キャッシュ・フロー見積法
・財務内容評価法

6. 貸倒引当金に関する BS・PL 表示を理解する．

・BS：債権分類による貸倒引当金の流動・固定分類
・PL：債権分類（営業債権，他債権）による貸倒引当金繰入額の営業・営業外分類
   Q：上記 2 つの組み合わせは？

7. 保証債務について理解する．

・保証債務費用
・保証債務取崩益

8. 貨幣の現在割引価値の考え方を理解する．
9. 貨幣の時間価値を算定する．
   Q：貨幣が時間の経過とともに増えていく場合，金利計算は単利か複利か？
   Q:かつて 100 万円を預ければ 10 年で 200 万円になった時代があった. この場合の金利（複利）は何％？
   Q：割引計算を説明せよ．

＜参考資料（予習し持参すること）＞

企業会計基準委員会　企業会計基準第 10 号「金融商品に関する会計基準」本文及び結論の背景のうち本講義該当箇所

＜理解度確認（小テスト）＞

・前回講義分
・予習範囲

第 11 回：【金融商品】有価証券 [Financial products] Securities

講義の内容

【学習上の留意点】

4 つに分類された有価証券の各評価方法，評価差額の処理について暗記してはいけない．その処理には明確な意図があるからだ．このような処理を採用するに至った理由を理解することにより，有価証券会計処理においても理解の幹を太くしていこう．

当該理由が明らかになれば，外貨建有価証券の評価についても理解が進むはずである．なぜなら，外貨建部分の評価は有価証券の評価の一過程にすぎないからである．

有価証券に関する会計基準の存在意義はどこにあるのか？存在しなければ，誰が困るのか？簿記は，教科書に書かれていることが社会経済実務に直結する．もし自分が株主・投資家ならばどのような情報を欲するか？有価証券は，この視点を養うに最適なトピックである．

【講義の概要】

1. 有価証券の 4 つの分類を理解する．
・売買目的有価証券
・満期保有目的債券
・関係会社株式
・その他有価証券
2. 有価証券の取得と売却の処理を理解する．
3. 有価証券の期末評価について，評価方法・評価差額の処理とその理由について理解する．
Q：時価評価するか，原価評価するかの決め手（基準となるもの）は何か？
Q：満期保有債券の評価にあたり基準が考慮した点は何か？
Q：関係会社株式の評価にあたり基準が考慮した関係会社の特質とは何か？
Q：その他有価証券の評価にあたりその他有価証券評価差額金を BS に設け，評価損益に関しては原則 PL を通さないこととした理由は何か？

＜参考資料（予習し持参すること）＞

企業会計基準委員会　企業会計基準第 10 号「金融商品に関する会計基準」本文及び結論の背景のうち本講義該当箇所

＜理解度確認（小テスト）＞

・前回講義分
・予習範囲

学ぶべき用語・ポイント

・売買目的有価証券
・満期保有目的債券
・関係会社株式
・その他有価証券
・償却原価
・利息法
・全部純資産直入法
・部分純資産直入法
・その他有価証券評価差額金

第 12 ～ 14 回：【固定資産】有形固定資産・資産除去債務 [Fixed assets] Tangible fixed assets and asset retirement obligations

講義の内容

【学習上の留意点】

有形固定資産のテキスト目次を見るとその量に圧倒されて，学習する気も失せる，へこたれてしまうと思うかもしれない．そのような学習意欲滅失リスクを回避するため，有形固定資産の会計処理のフェーズを 4 つに切り分ける．マラソンに例えるなら，42.195㎞を約 10㎞ずつに切り分けてとにかく前進する．

処理方法に関して，暗記してはいけない．総合償却の第 1 ステップは，定額法だったかしら？定率法だったかしら？など暗記に頼ることなく，その理由をよく理解し計算にあたることを期待する．

【講義の概要】

「認識と測定」を念頭におきつつ 4 つのフェーズから会計処理を理解する．

◆取得　◆費用化　◆減少　◆資産性に関する評価

◆取得

・取得原価の構成：割戻し等，付随費用の処理

・取得原価の決定

1）一括購入

2）自家建設

Q：借入資本利子の取扱の理由と当該取扱を認めないことによる弊害は何か？

3）現物出資　4）有形固定資産との交換　5）有価証券との交換　6）贈与

・資本的支出と収益的支出

◆費用化

・減価償却の意味

・減価償却方法

1）定額法　2）定率法　3）生産高比例法　4）級数法

・総合償却

1）考え方

2）計算方法の概要

Q：個別償却と総合償却の関係は？

・耐用年数の変更

1）定額法　2）定率法

・減価償却方法の変更

◆減少

・期中売却　・除却

・買い換え：下取りに時価がある場合

・火災による消滅

・圧縮記帳と積立金方式

Q：会計上望ましい方法はどちらか？ PREP 法で説明せよ．

・資産除去債務

1）計算方法　2）時間価値

◆資産性に関する評価→減損会計で扱う．

＜参考資料（予習し持参すること）＞

企業会計基準委員会　企業会計基準第 18 号「資産除去債務に関する会計基準」

＜理解度確認（小テスト）＞

・前回講義分　・予習範囲

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

前回までの講義内容について理解度確認セッションを実施する.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

簿記２・成田由加里／ Bookkeeping 2・Yukari Narita

講義の目的／ Course Objective

企業の経済活動を表す財務諸表を作成するために基本となる簿記の考え方を学ぶ．本講義において対象とするのは個別財務諸表である．

中世イタリアに端を発するといわれている複式簿記はシンプルな仕組みながらも，現在も資本主義経済の基盤となっている．東インド会社の発展とともに期間損益計算が進展し，産業革命により減価償却計算が進展するなど，経済環境の変化に伴い，様々な簿記の手法が開発された．歴史の教科書で読んだワットの蒸気機関の発明が会計技術にも進展を及ぼしたとも見ることができる．その基本は，経済取引を認識・測定し借方・貸方の両サイドから記録するというシンプルな仕組みであるが，例えば売上であれば，資金の流れと在庫の流れをつなぎとめ，漏れなくダブりなく取引を正確かつ完全に記録し経営情報として役立つことで，数百年にわたり発展を遂げてきた．

このような発展に見られるように今後も様々な新しい論点がでてくることは容易に想定される．経済環境に新たな変化が起こったとしても，販売，資金調達，投資等のビジネスプロセスを意識しつつ簿記の考え方の「幹」を太くすることにより，どのような場面でも柔軟に対応できる力が養われることを本講義の目的とする．

To learn the basics of bookkeeping to prepare financial statements that represent the economic activities of companies. The focus of the course is on individual financial statements.

Double-entry bookkeeping, which is said to originate in medieval Italy, is a simple method, but still the foundation of the capitalist economy. Various bookkeeping methods have been developed in line with changes in the economic environment. For example, the development of the East India Company triggered the progress of period profit and loss calculation, and Industrial Revolution lead to the progress of depreciation calculation. The invention of the steam engine of Watt can be seen as a cause of the progress in accounting methods. While the basic of bookkeeping is simple to measure economic transactions and record them from both sides of debit and credit, it has been developing over several hundred years by being accurate and complete and useful as management information. In addition, the importance of bookkeeping is recognized by the contribution to the financial statement users by revealing the risk information of the enterprise into the accounting figures.

It is easily assumed that various new issues will come out in the future as seen in such development. The goal of this course is to develop the ability to respond flexibly in any situation by fully understanding the "core" of the bookkeeping concept, while being aware of business processes such as sales, financing, and investment, even if a new change occurs in the economic environment.

講義の進め方

予習段階で理解度確認（小テスト）を行い，理解しにくい点等に重点的に取り組む．

予習・復習について

＜予習＞

・トピックに関連する会計基準，適用指針等をしっかりと読み込んでおくこと．

・トピックについて設例問題にあたっておくこと．

・当該トピックにおける疑問点を整理して授業に臨むこと．

・予習確認小テストを予定している．

＜復習＞

・復習確認小テストを予定している．

この講義を受講するために必要とする知識

日商簿記２級程度の知識を有することが望ましい．

テキスト・参考文献

必要に応じて講義で紹介する．

時間割

後期　水曜６限

科目ナンバー

EAC-ACC505

成績評価法

・理解度確認セッション（70％）・予習復習理解度確認小セッション（30％）で評価する．

・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

講義のある日
19:30-21:00

連絡先

講義時に示す．

その他（連絡事項）

・電卓持参のこと．

第 1 回：オリエンテーション／簿記勘定体系とビジネスプロセス／研究開発費とソフトウエア
Orientation / Bookkeeping and business processes / R & D expenses and software

講義の内容

【講義の目的】

講義の概要，講義の進め方，成績評価，学習方法（予習・復習）などについてシラバスを用いて説明を行う．

【講義の概要】

1. スケジュール概要

第 1 回：オリエンテーション／企業活動と会計／研究開発費・ソフトウエア
第 2 〜 3 回：減損
第 4 回：リース
第 5 〜 6 回：引当金・退職給付引当金
第 7 〜 8 回：純資産
第 9 回：ストック・オプション
第 10 回：金融商品〜デリバティブ・ヘッジ
第 11 〜 12 回：外貨換算
第 13 〜 14 回：税効果会計
第 15 回：理解度確認セッション

2. 簿記勘定体系とビジネスプロセス

・ビジネスプロセスの理解
・ビジネスプロセスと財務諸表の関係
・ビジネスプロセスと簿記の接点Ⅰ〜日々の取引データ仕訳：勘定体系図を理解する．
・ビジネスプロセスと簿記の接点Ⅱ〜財務諸表作成：財務諸表の構造を理解する．
Q：財務諸表上で示される利益は残高試算表上ではどこに隠れているか

3. 研究開発費とソフトウエア

【学習上の留意点】

ICT 技術は企業にとってはなくてはならない存在であり，ICT を使う側，作る側と様々な場面で企業活動に影響を及ぼす．このような複雑な ICT 取引を適切に会計処理し財務諸表利用者に会計情報として開示するには，どのような方法があるだろうか？

かつてソフトウエアの会計基準が整備されていない時代には，税効果会計未導入を一因として，同じ会計ソフトの開発であっても，販間費処理，長期前払費用処理，無形固定資産処理など複数の会計処理をせざるを得ない状況にあった．その後，会計の視点からＩＣＴ取引はソフトウエアの基準により整理がなされた．これは，まさに新たな産業発展とともに会計が進展した好事例である．産業革命によって社会経済が大きく変化し（＊ 1），会計においても減価償却が生まれたことを思い出し，現在においてもダイナミックな時代にいる面白さに気づいていただければ幸いである．

学ぶべき用語・ポイント

・受注制作
・市場販売目的
・自社利用
・期末評価

第 1 回：オリエンテーション／簿記勘定体系とビジネスプロセス／研究開発費とソフトウエア
Orientation / Bookkeeping and business processes / R & D expenses and software

講義の内容

（＊ 1）Q：産業革命によって，ベートーベンが喜んだ理由は？

ヒント：二つの革命とピアノの発達～日鉄住金 SG ワイヤ株式会社 HP より
もともとピアノは貴族社会の中で発達してきた楽器でしたが，18 世紀後半になると，産業革命と進展ともにブルジョアと呼ばれるお金持ちの市民階級が出現し，貴族社会の象徴でもあったピアノを買い求めました．このためピアノの需要は急増し，工房規模の少量生産では間に合わなくなり，工場による生産へと規模が拡大しました．また一方，フランス革命に代表される貴族の衰退は，より多くの音楽家が職場を失い，大衆社会に活路を見いだすという変化をもたらしました．演奏様式も以前のサロンとはうってかわって大ホールに多くの聴衆者を集め，コンサート方式をとるようになりました．そのためピアノはさらに音量増大と音域の拡大が必要になり，産業革命以後大きく発展した工業技術を適用して，さまざまな改良が加えられました．現代ピアノの原型はほぼこの時期に完成しています．当時，出願された特許の中で最も出願数の多い分野はピアノであったと言われていますから，当時の花形産業だったのでしょう．

ヤマハ㈱ HP より

第 1 回：オリエンテーション／簿記勘定体系とビジネスプロセス／研究開発費とソフトウエア
Orientation / Bookkeeping and business processes / R & D expenses and software

講義の内容

1. 研究開発費・ソフトウエアの会計処理の特徴を理解する.
   Q：ソフトウエアの会計処理の分類の切り口は何か？
   ヒント：○○○の有無
   Q：減価償却の会計処理における有形固定資産との異同点は何か？
   Q：上記異同点の理由は？
2. 計算技術
3. 研究開発費の会計処理
4. ソフトウエアの会計上の分類～ PREP 法で整理してみよう.
   1）分類の切り口と内容
   2）分類する理由
   3）分類しなかった場合の弊害
5. 受注制作ソフトウエア
   Q：建設業と ICT 産業の類似点とは？
   ヒント：請負契約
6. 市場販売目的ソフトウエア
   1）切り口：取得・費用化・資産性評価
   2）有形固定資産との会計処理の違い
      ・内容
      ・理由
      ・　違いが無い場合の弊害
   3）見込販売数量等を変更した場合の処理～ PREP 法で整理してみよう.

第 2 〜 3 回：減損／ Impairment

講義の内容

【学習上の留意点】

減損を行うということは，企業にとっては一大事である．投資した資産がキャッシュを生まないということは，経営が失敗しているということであり，経営者の失敗を開示するものが減損情報である．投資判断上，株主等には重要な情報である一方，経営受託責任を負っている経営サイドには，非常に厳しい情報である．

この重みをしっかりと理解した上で減損会計に取り組むと，減損損失の配分方法の理解がより深まるものと期待される．事業部長の立場で考えてみよう．我が事業部で負担する減損損失の合理性はどこにあるか？と

減損に関し興味深い新聞記事を紹介する．

M&A 増加で膨らむ「のれん」〜日本経済新聞 2017 年 2 月 18 日掲載より抜粋

企業の財務諸表の正しさを点検する監査は投資家を保護し，市場経済が正しく機能するための重要なインフラだ．地味な業務だが，重要性を改めて指摘する声が世界的に高まっている．

特に焦点となっているのが「のれん」という無形固定資産の会計処理だ．のれんとは企業が買収先の純資産を上回る価格で M&A（合併・買収）を実行した際に生じる．買収事業の収益見通しが狂った場合，企業はのれんの価格を下げ，その分を減損損失として計上しなければならない．

最近の代表例はなんといっても債務超過に転落した東芝だが，のれんを減損する企業は他にも少なくない．楽天は 2016 年 12 月期に米動画配信関連事業などで，234 億円の同損失を計上．セブン＆アイ・ホールディングスは百貨店ののれん価値などを引き下げ，17 年 2 月期に減益となる．キリンホールディングスはブラジル子会社ののれんの減損などによって，15 年 12 月期に初の最終赤字に転落した．

00 年以降，日本企業が買い手となる M&A は，15 兆円を超える年が珍しくなくなった．グローバル化を一気に進めたり，強い事業をより強くしたりするための経営戦略として，すっかり定着した観がある．

金額の大きな M&A も増えたため，今では金融を含めた全上場企業ののれんが，年間の合計純利益額の 9 割にあたる 25 兆〜 30 兆円に達する．「ニッポン株式会社」は，のれんの減損次第では利益の多くが吹っ飛ぶ計算にもなる．東芝の苦境は他の日本企業にとって対岸の火事ではない．

今後はさらに企業が抱えるのれんに対して，厳しい目が向けられる可能性がある．

企業は将来得られる利益予想をもとに，のれんの価値を測る必要がある．そうした「減損テスト」が適正に実施されているかどうかを見るのは監査法人の役割だ．

・・・・

学ぶべき用語・ポイント

- 減損処理の基準
- 割引前将来キャッシュ・フロー〜測定の主観性の排除「減損の存在が相当程度に確実である」
- 回収可能価額
- 使用価値
- 正味売却価額
- 将来キャッシュ・フローの割引現在価値
- 減損損失の配分

第 2 〜 3 回：減損／ Impairment

講義の内容

【講義の概要】

1. 減損会計を理解する〜固定資産の減損に係る会計基準の確認
2. 計算技術

■図解
　各自予習として考えてみること．講義にて説明.

○基本的な考え方及び手続きを理解する.
　ステップ 1．認識　Q：割引前将来キャッシュ・フロー総額が基準となるのはなぜか？
　ステップ 2．測定
　　Q：使用価値は，割引後将来キャッシュ・フロー総額となるのはなぜか？
　　Q：減損損失配分の合理性は？
○のれんがある場合の処理〜「四　会計基準の要点と考え方」
○共用資産の帳簿価額を配分する場合の処理〜「四　会計基準の要点と考え方」
　・原則処理
　・例外処理

＜参考資料＞
　「固定資産の減損会計に係る会計基準」を予習し持参すること.

＜理解度確認（小テスト）＞
　・前回講義分
　・予習範囲

第 4 回：リース／ Lease

講義の内容

【学習上の留意点】

リースとレンタルは何が違うのだろうか？

リース取引といえば何を思い浮かべるだろうか？プリンター，パソコン，自動車・・ほかに思い浮かぶものは？・・震災復興で調達される建設重機，新店舗，農業生産法人向け農機具一式など産業を支えるものも該当する．さらに船舶，航空機など 100 億円以上の物件もその対象となる．会計処理を学習するにあたっては，どのような取引を念頭においてもよいのだが，航空機など大型投資物件を念頭に置いてみるとよりダイナミックに面白さを体感できるかもしれない．法的には賃貸のリースがなぜ会計上はファイナンス・リースと呼ばれるのか？会計処理上，金融取引と固定資産取引を融合させた処理の合理性はどこにあるのか？など大空を飛ぶ航空機に思いを馳せ大きな視点で考察してみましょう．会計の視座を深めるための良い教材である．

学ぶべき用語・ポイント

- 金融取引
- 割引現在価値
- 経済的耐用年数

会計が及ぼす航空機の安全について言及した興味深い記述があるので紹介する．

（公財）航空機国際共同開発促進基金【解説概要 27-5】

27-5 航空機リースの現状 2015 ～ LCC を育ててきた航空機リース～より抜粋

１．概要

大型の民間輸送機の航空機リースについて，概括的な理解を進めることを目的として航空機リースの現状をご紹介いたします．その中で，航空機リースが LCC（Low Cost Carrier：格安航空会社）の興隆にどのように役立ってきたのかご紹介するとともに，現状の課題についてもご説明します．

４．旅客機の価格とリースの規模

航空機分野ではリースを利用する顧客ニーズの本音は融資です．借り手としては，航空機を購入するための資金を貸してくれるところはないか，有利に借りることができないかと考えるものです．上述のとおり新しい航空機は最低でも 100 億円程度はする高額な買い物であるため，銀行融資を受けるのは容易ではありません．そういう背景の中で，航空機リースが活用されてきました．広い視野で見ると，世界的な航空ビジネスの発達の過程で，航空会社の大量な航空機調達を可能としたリースの役割は極めて大きいといえます．

９．LCC と航空機リース

LCC の経営の立ち上げの後，小規模な間は銀行融資が難しく，金利も高く，また航空機メーカーから直接購入しても値引きは期待できないことから，リースを選択します．リースが中小航空会社向けであるということは LCC ビジネスが世界的に普及する中で，業界参入のハードルを下げ，産業の拡大に大いに役立っているものと思われます．

１０．航空機リースの将来と安全課題

航空機リースが調達の場で受け入れられ，結果としてリース機が総機数の半数近くを占めるに至った大きな要因は，一つには金融機関と航空会社の間に匿名会社を置いて担保を金融機関が独占できる仕組みを作り，融資側のリスクを分散・軽減することにより融資のハードルを低くしたこと，もう一つが中小規模の調達を束ねることにより調達価格の低減を実現したことであろうと思われます．結果として，航空機リースは航空業界の参入増と育成に大きく貢献しました．

さて，日本では 2008 年に航空機リースはオペレーティング・リースに集約しましたが，これは結果として起こったことです．その原点は税の後送りを避けるために，ファイナンス・リースで行われていた貸し手側の減価償却を認めない制度変更を行ったことです．現実のビジネスの場では投資家の節税効果の温存が優先され，リースの仕組みのほうがオペレーティング・リー

第 4 回：リース／ Lease

講義の内容

スに変化しました.
この結果，航空業界では航空機を財産保全するための維持管理と航空安全を保つための整備のそれぞれの責任の所在が分離しました．二つの行為は実際には同じもので，片側は委託により処理する必要があります．航空機を所有しないものが大金をかけて航空機を整備するのか，航空安全意識が薄まり，いわゆる手抜きを生む，形式に走る怖さを残しているのではないかと危惧されます.
「角を矯めて牛を殺す」という諺がありますが，会計の完璧さが航空の安全を歪めないよう気遣うことは重要です．航空機リース事業は経済に影響を与えると同時に，大切な航空の安全にも影響を与えます．会計と安全を繋ぐことに唐突な感じを抱かれる方もおられるでしょうが，そういった観点からの両者のバランスが望まれるところです.

【講義の概要】

1. ファイナンス・リース取引を理解し当該取引の会計処理について理解する.
   ○ファイナンス・リース取引＝金融取引＋固定資産取引
   ＝（調達額＋返済＋利息）＋（取得原価＋減価償却）
   ○所有権移転と所有権移転外との会計処理の違い
   ○リース取引の分類
   ○リース取引の分類に伴う会計処理
2. 計算技術
3. ファイナンスリース取引の会計処理：所有権移転・所有権移転外
   Q：会計処理の違いを暗記してはいけない．両者の異同点の理解から会計処理は当然に導かれる.
   異動点から，導かれる会計処理とは？
   切り口 1）開始時「固定資産取引（＝取得原価の決定）」＋「金融取引（＝負債金額の決定）」
   切り口 2）「金融取引」：元本の返済と利息支払い：貨幣の時間価値
   切り口 3）「固定資産取引」：減価償却による費用化
   期末評価→減損会計

■図解

各自予習として考えてみること．講義にて説明.

4. セール・アンド・リースバック取引の会計処理
   Q：当該会計処理の合理性を PREP 法で説明しよう.
   1）定義
   2）会計処理
   3）当該会計処理を行う理由
   4）行なわなかった場合の弊害

＜参考資料＞
「リース取引に係る会計基準」を事前に読んでおくこと.
＜理解度確認（小テスト）＞
・前回講義分
・予習範囲

第 5 〜 6 回：引当金・退職給付引当金／ Provisions and Provision for retirement benefits

講義の内容

【学習上の留意点】

退職給付会計により開示されるデータは，財務諸表に重要な影響を与える．退職給付債務（PBO）がすでに提供された労働の対価と考えられ，長期的要素を有し，計算上は見積もり要素が内包され，金額も少なくない場合が多い．例えば，M&A 責任者の立場から考えてみよう．買収する企業の退職給付債務は適正か？未積立退職給付債務，未認識数理計算上の差異など積立不足の状況は？など心配で仕方がないといった場面を容易に想像できる．買収してから，見えなかった債務が噴き出してきたということがあってはならないからである．

退職給付会計の使命は，適切な情報を開示することによって果たされそこに存在意義がある．この観点から，開示すべき情報は，BS，PL の財務諸表本体のみならず注記というカタチでも示される．したがって，簿記の計算技術においても退職給付引当金，退職給付費用の他の情報も適切に計算され，さらに企業継続のもと単年度の会計年度のみならず次年度も継続して適正な会計処理がなされることが求められる．注記も含めた財務諸表の継続開示の視点から退職給付の情報を会計情報に落とし込む基本的手法を獲得していきましょう．

年金に関わる基本知識を紹介する．退職給付会計が対象とする確定給付企業年金を内包する年金全体の概要を理解していただきたい．

学ぶべき用語・ポイント

- 賞与引当金
- 退職給付引当金
- 退職一時金
- 退職年金
- 退職給付債務
- 年金資産
- 退職給付費用
- 勤務費用
- 利息費用
- 期待運用収益
- 過去勤務債務
- 数理計算上の差異

「確定拠出年金（401k）」とはどんな制度？〜りそな銀行 HP より

日本の年金制度をまずは理解しましょう

最初に，日本の年金制度は一体どうなっているのかという話から始めましょう．日本の年金制度は，3 つの年金から構成されているため，「三階建て」と呼ばれています．

まず，一階部分として，20 歳以上の全国民が加入する国民年金があります．これは，加入期間の長さによってもらえる金額が決まる仕組みです．2016 年度の場合，1 カ月あたりの老齢基礎年金受給額は 65,008 円（67 歳以下の新規裁定者の場合），国民年金保険料は 16,260 円となっています．

次に，二階部分として民間のサラリーマン・公務員等が加入する厚生年金保険，自営業者・フリーランスが加入する国民年金基金があります．厚生年金保険は強制加入のため，選択の自由はありません．なお，公務員等は従来共済年金に加入していましたが，2015 年に厚生年金保険に一元化されました．一方，国民年金基金は任意加入です．加入すると追加の掛金の負担が生じますが，将来受け取れる年金額は増加するというメリットがあります．

最後に，三階部分として，従業員を対象として企業が独自に運営する確定給付企業年金があります．企業によっては，高額の年金が受け取れる場合もあるのが現状です．また，公務員は年金払い退職給付が受けられる仕組みになっています．

これらの年金制度に加え，個人として積み立てを行う確定拠出年金が登場しました．

確定給付年金と確定拠出年金の違いとは？

年金を理解するには，確定給付企業年金と確定拠出年金の違いを押さえるのが必要不可欠です．両者の違いについて，わかりやすく説明しましょう．

第 5 〜 6 回：引当金・退職給付引当金／ Provisions and Provision for retirement benefits

講義の内容

確定給付企業年金：企業などが支払った掛金を運営母体（生命保険会社・信託銀行等）が運用します．掛金払込・受給の状況，運営母体の運用成果に左右される部分はありますが，将来受け取れる年金の額がある程度約束されているのが大きな特徴です．保険会社が提供する個人年金保険や学資保険をイメージすると，わかりやすいでしょう．従来，年金といえばこちらの確定給付企業年金を指していました．

確定拠出年金:企業や加入者が毎月一定額の掛金を拠出して,自分で運用します．イメージとしては，支払われた掛金が自分の口座に積み立てられ，運用して得られた給付金が将来的には自分に戻ってくると考えるといいでしょう．そのため，運用の結果次第で将来受け取れる年金の額は違ってきます．

確定拠出年金で将来もらえる給付とは？

確定拠出年金に加入すると，将来的にどのような給付金が受け取れるのでしょうか？次の 3 種類の給付金があるので，覚えておきましょう．

老齢給付金：原則として 60 歳から（※），年金または一時金として支給される．
障害給付金：高度障害時に，年金または一時金として支給される．
死亡一時金：死亡時に一時金として支給される．

※ 60 歳時点で確定拠出年金制度への通算加入期間が 10 年に満たない場合，受給開始年齢が段階的に引き上げられ，遅くとも 65 歳までに支給が開始される．なお，ここでの加入期間とは，企業型確定拠出年金および個人型確定拠出年金における加入者期間と運用指図者期間を合算したものとする．

また，掛金の通算拠出期間が 1 カ月以上 3 年以下や少額の場合で，転職などの理由により確定拠出年金制度に加入できなかった場合,脱退一時金を受け取れる可能性があります．

【講義の概要】

1. 引当金について理解する．
   Q：基本中の基本である引当金の要件は？
   Q：未払賞与と賞与引当金の違いは？
2. 退職給付会計（個別）について理解する．
   ○基本：企業会計原則に基づく考え方の理解
   Q：退職給付はその発生した期間に費用として認識することとなる．理由は？
   ヒント：「退職給付に関する会計基準」基本的考え方　53
   ○特有の事象の考え方
   Q：賞与引当金と退職給付引当金の異同点は？
   Q : 退職給 付に係る会計処理に特有の事象（2 つ）についての考え方とは？
   ヒント：「退職給付に関する会計基準」基本的考え方　54
   ○過去勤務債務・数理計算上の差異の処理について理解する．
   Q：上記差異を遅延認識する理由は？

第 5 〜 6 回：引当金・退職給付引当金 Provisions and Provision for retirement benefits

講義の内容

3. 計算技術

①基本：企業会計原則
＋
② 特有の事象 （1）年金資産〜控除
（2）数理計算上の差異等〜遅延認識

○計算のフェーズには①，②－（1），②－（2）の 3 種類があることを理解し計算する．
○退職給付債務の算定方法を理解する．
Q：割引計算を入れた場合と入れない場合の金額の差異は？
Q：年金現価係数とは？
○退職給付引当金の増減要因を理解する．
○計算マトリックス上の数字が，FS 上でどのように開示となるか理解する．

＜参考資料＞
企業会計基準第 26 号「退職給付に関する会計基準企業会計基準委員会
予習し持参すること

＜理解度確認（小テスト）＞
・前回講義分
・予習範囲

第 7 〜 8 回：純資産／ Net assets

講義の内容

【学習上の留意点】

自身が親兄弟知人友人から出資金を集めて，ベンチャー企業を立ち上げたと想定しよう．その場合，出資者の視点は純資産が増えたかどうかではないだろうか．自分の出資した金額が世の中を廻って増えて帰ってくることを望んでいるからである．この点から経営者は出資者に，なぜ出資した金額が増えたのかを PL を使って説明し，BS から求められる配当原資のもと配当を実施する．いわゆる企業経営の入口と出口が純資産を構成するのであり，入口と出口は決して混同されてはならないのである．

そこで思い出してほしい．企業会計原則である．

> 一般原則三，資本利益区別の原則
> 資本取引と損益取引とを明瞭に区別し，特に資本剰余金と利益剰余金とを混同してはならない．

純資産に関する取引は，自己株式，ストック・オプションで付与される新株予約権，企業結合など複雑多岐にわたるようになり，純資産の変動を開示する上で株主資本等変動計算書による整理が必要とされるに至った．取引同様会計処理においても様々な論点が問われるが，その考え方の根本となるのが，資本利益区別の原則である．

これを念頭に置くことによって純資産の取引が色分けされて見えてくることとなり，考え方の基盤が堅固に構築されることが期待される．決して少なくない学習ボリュームであり，会社法の理解も必要とされるが，企業経営自体のダイナミズムを味わうという点では面白い学習領域である．是非，この面白さを体感してほしい．

【講義の概要】

1. 純資産の部の表示を確認する．
2. 株主資本等変動計算書を理解する
   Q：株主資本等変動計算書と BS・PL の違いは？
3. 株主資本の変動を理解する．
   Q：会社法の規定が経営者に求めるものは？
   Q：配当可能利益算定方法の合理性はどこにあるか？
4. 自己株式を理解する．
   Q：かつて自己株式は有価証券として資産計上されていたが，現行では純資産のマイナス計上される．その根拠は？
   ヒント：「自己株式及び準備金の額の減少等に関する会計基準」結論の背景〜自己株式の会計処理及び表示・自己株式の取得及び保有
   Q：自己株式処分差損益の考え方は？
   ヒント：「自己株式及び準備金の額の減少等に関する会計基準」結論の背景〜自己株式の会計処理及び表示・自己株式の処分
5. 新株予約権を理解する．
   Q：新株予約権付社債とは？

学ぶべき用語・ポイント

- 純資産の部の表示
- 株主資本
- 欠損填補
- 自己株式
- 自己株式処分差損・差益
- 新株予約権
- 新株予約権付社債
- 株主資本等変動計算書

第 7 〜 8 回：純資産／ Net assets

講義の内容

6. 計算技術

○新株発行，欠損填補等会計処理を理解する．

○自己株式の取得，処分，消却時の会計処理を理解する．

○新株予約権の会計処理を理解する．

・発行時

・権利行使時

・権利行使期限到来時

○新株予約権付社債の会計処理を理解する．

＜参考資料＞

企業会計基準第 1 号「自己株式及び準備金の額の減少等に関する会計基準」企業会計基準委員会

結論の背景も含め予習し持参すること．

＜理解度確認（小テスト）＞

・前回講義分

・予習範囲

第 9 回：ストック・オプション／ Stock option

講義の内容

【学習上の留意点】

ストック・オプションの計算自体は，複雑ではない．権利付与時，権利確定時，権利行使時，権利失効時に分けて整理できる．権利確定時までに積み上げられる新株予約権を算定し，これを適切に費用配分し，権利行使時に資本金等に変化し，権利失効時に新株予約権の残額を損益に振り替える．

このストック・オプションの会計処理を学ぶカテゴリーとしては純資産・新株予約権で整理されている一方，ストック・オプションは報酬もしくは労働の対価であると考えれるため，適正な期間損益計算のための人件費の論点と整理することができる．複数年度にわたり発生する株式報酬費用をいかに適切に配分するかという点に計算の醍醐味が見て取れる．P（評価単価）× Q（個数）を N（対象期間・月数）に振り分ける際に，P,Q,N の変化を処理するための基本的な考え方を学ぶ．

計算過程においては，見込みの変更と条件の変更を混同してはならない．見込みの変更と条件の変更の考え方の切り口を明確に分けて考えることが大切である．

【講義の概要】

1. ストック・オプションについて理解する．
2.「ストック・オプション等に関する会計基準」の結論の背景を確認し，基本的な考え方を理解する．
3. 計算技術

○Ｐ×Ｑをどのように費用配分していくか．

- 権利付与時
- 権利確定時
- 権利行使時
- 失効時

○条件変更

- Ｐを変更するとき
- Ｑを変更するとき
- N を変更するとき

Q：計算の 2 階建てとは？

＜参考資料＞

企業会計基準第 8 号「ストック・オプション等に関する会計基準 」企業会計基準委員会
予習し持参すること

＜理解度確認（小テスト）＞

- 前回講義分
- 予習範囲

学ぶべき用語・ポイント

- 新株予約権
- 株式報酬費用

第 10 ～ 11 回：金融商品～デリバティブ・ヘッジ／Financial Instruments-Derivative Hedging

講義の内容

【学習上の留意点】

デリバティブ，ヘッジ，オプション，ワラント，スワップ，TIBOR 等の横文字に惑わされてはいけない. 逆に横文字を並べることで理解したつもりになってもいけない. デリバティブ取引は主に先物取引，オプション取引，スワップ取引に分類される．これらの取引が，経営上必要とされる背景，また機関投資家のみならず一般事業会社においてもヘッジ取引が行われている理由を理解した上で，会計としてはこれらの取引をいかに表現するかが問われている．

特に一般事業会社においては，時価評価するデリバティブを基礎にヘッジ会計が果たす有用な役割があるからこそ，ヘッジ会計という手法に存在意義が認められる．ヘッジ対象の損益とヘッジ手段たるデリバティブの損益をつないでいるのがヘッジ会計であり，ヘッジ会計により適正な期間損益計算が可能たらしめられているのである．

自身が CFO であると想定してみよう．デリバティブを使って金融資産に関する損失リスク回避を行ったにもかかわらず，その成果が財務諸表に表れていないとするなら，どう思うか？損失の責任問題ともなりかねない現実がある．繰延ヘッジの手法をとることにより企業の合理的なリスクヘッジ行動を財務諸表に表現することが可能となる．

この基礎概念を理解すれば，デリバティブ・ヘッジ取引の見方が明確になり，細かな論点があるとしても適切に整理できるだろう．基礎を学び整理の引き出しを増やしていきましょう．

デリバティブについて紹介する．この他東証アローズの見学ツアーなど学習の過程で一度は訪れてみるとより一層理解が深まり面白さが増すであろう．

北浜博士のデリバティブ教室～日本取引所グループ HP より

◆デリバティブの起源

まずは，デリバティブの起源を見てみましょう．

◆デリバティブのはじまりは古代ギリシャ時代から？

古代ギリシャの哲学者ターレスは天文学から「来年のオリーブは豊作だ」と予想し，前もってオリーブの絞り機を借りる権利を買っておきました．翌年のオリーブはターレスの思惑どおり大豊作になりました．絞り機を貸してほしい人が殺到し，使用料は上昇，ターレスはオリーブの絞り機を高く貸し，利益を得ました．

これらのオリーブを巡る権利の売買が，現代のオプション取引の仕組みと同様であることから，オプション取引の起源をギリシャ時代に遡ることができると言われています．

学ぶべき用語・ポイント

- ヘッジ対象
- ヘッジ手段
- 繰延ヘッジ
- 表示

第 10 ～ 11 回：金融商品～デリバティブ・ヘッジ／Financial Instruments-Derivative Hedging

講義の内容

◆先物取引所発祥の地は " 大阪 "

江戸時代，年貢は主に米で納められていました．このため，各地の大名たちは大阪に米を廻送して藩財政の資金とする一方，米商人たちは各藩の蔵屋敷から年貢米を買い付けていました．

この買い付ける米の値段は，その年の気象条件などで大きく変動することがあり，彼らは収穫時期の値上がりや値下がりを見越して，収穫前のうちから買付けや売付けをしていました．これらの売買が，日本における「先物取引」のはじまりと言われています．

また，当時は米が経済の中心であったことから，江戸幕府も米の取引価格に関心を持ち，一時は米の売買に対する様々な規制も行いましたが，最終的に幕府は，需給調整機能が働く市場をつくることで米価の安定を目指しました．

1730（享保 15）年 8 月 13 日には，当時の江戸町奉行・大岡越前守（忠相）による審査を踏まえ，8 代将軍・徳川吉宗により「堂島米会所（どうじまこめかいしょ）」が公認されました．

堂島米会所は，" 世界最初に組織化されたデリバティブ取引所 " と社会的に認知されています．

堂島米市場跡記念碑

堂島米会所（大阪府立中之島図書館）

第 10 ～ 11 回：金融商品～デリバティブ・ヘッジ／ Financial Instruments-Derivative Hedging

講義の内容

◆デリバティブの対象が通貨や株式などの金融商品に拡がる

1970 年代初頭に国際通貨が変動相場制へ移行して以降、為替や金利に対する変動リスクは極めて大きなものとなっていきました。また、株式市場においても、その規模が拡大するとともに、投資家や証券会社の間では株価の変動に伴うリスクを回避（ヘッジ）したいというニーズが高まりはじめました。なかでも機関投資家は、大規模かつ積極的な株式投資を行うようになり、資産運用競争に打ち勝つためにも、適切なリスク管理をすることが最も重要な課題となってきました。

そこで、もともとはリスクヘッジと投資の両面から農産物を対象として利用されていたデリバティブ取引が、通貨や株式などの金融商品に拡がっていきました。

【講義の概要】

1. デリバティブについて理解する.
   Q：一般事業会社における金融資産に関するリスク回避行動をあげよ.
   Q：デリバティブはなぜ時価評価なのか？
   Q: 有価証券報告書の注記で求められる記載内容を確認する.
2. ヘッジについて理解する.
   Q：一般事業会社における金融資産に関するリスク回避行動をあげよ.
   Q：ヘッジ会計処理をする場合としない場合，期間損益への影響を説明せよ.
3. 計算技術
   ○ デリバティブに関する会計処理を理解する.
      ・先物取引
      ・オプション取引
      ・スワップ取引～特例処理
4. ヘッジ会計の会計処理を理解する.
   Q: ヘッジ対象とは？ヘッジ手段とは？
      ・繰延ヘッジ
      ・時価ヘッジ

＜参考資料＞

・企業会計基準第 10 号「金融商品に関する会計基準 」企業会計基準委員会
・有価証券報告書のデリバティブに関する注記
予習し持参すること

＜理解度確認（小テスト）＞

・前回講義分
・予習範囲

第 12 回：外貨換算／ Foreign currency conversion

講義の内容

【学習上の留意点】

外貨建債権債務，有価証券の期末換算に関する会計処理を暗記してはいけない．なぜなら会計基準は，一般に公正妥当と認められるものであり，皆が納得する合理性を有しているからであり，その合理性を理解することこそ，外貨換算理解の神髄とも言える．逆に言えば，その視座をもてば，外貨換算は至ってアタリマエに整理されることになる．では，その視座とは何か？予習の過程でよく考えてみてほしい．これにピンとくれば，一見無味乾燥な外貨換算方法を整理したマトリックスが，生き生きと躍動感に満ちた表に見えてくるだろう．合理性の海に浸り潤いを感じることができるのではないだろうか？

為替予約レートは，問題を解く上では所与とされるが，その算定過程にも触れてみたい．なぜなら，算定過程を学ぶことにより為替レートの原理の理解に繋がるからである．金融機関のグローバルな金融取引を楽しんでみよう．

学ぶべき用語・ポイント

- 為替差損益
- 発生時レート（HR）
- 決算時レート（CR）
- 平均レート（AR）
- 振当処理
- 予約レート（FR）

【講義の概要】

1. 外貨建取引について理解する．
   Q：外国為替の “ 為替 ” の意味は？
   Q：外国為替市場はどこにあるか？
   Q：シンガポールは香港より相当西に位置するが，香港と時差はない．シンガポールの国を挙げての外国為替戦略である．その意図は？
2. 外貨建取引の換算について理解する．
   Q：前払金と買掛金との期末換算の違いの根本は？
   Q：貨幣項目は CR，非貨幣項目は HR. そのこころは？
   Q：外貨建有価証券の期末換算の根本ルールは？
3. 為替予約の仕組みを理解する．
   Q：為替予約レートを算出するには？
4. 計算技術
   ○ AR,CR,HR
   ○外貨建取引の換算
   ○外貨建金銭債権債務の換算について理解する．
   ○外貨建有価証券の換算
      ・Key Word「有価証券の評価の過程」
5. 為替予約について理解する．
   ○振当処理
   ○資金取引の為替予約の会計処理を理解する．
   ○非資金取引の為替予約の会計処理を理解する．

＜参考資料＞

「金融商品会計基準」を事前に読んでおくこと．

・「外貨建取引等会計処理基準」

・企業会計基準第 10 号「金融商品に関する会計基準 」企業会計基準委員会

該当部分に関し予習し持参すること

＜理解度確認（小テスト）＞

・前回講義分

・予習範囲

第 13 〜 14 回：税効果会計／ Tax effect accounting

講義の内容

【学習上の留意点】

税効果会計の仕訳をきる．果たして自分は何をしているのだろうか？

一言でいえば，適正な期間損益計算のための税金費用の期間配分を行っている．税金費用の発生と納税のタイミングがズレるため，当該ズレを補正する技術が税効果会計と言える．自身がきった仕訳の意味と財務諸表に対する影響を理解していただきたい．「繰延税金資産の回収可能性」は監査上も重要なトピックであり，繰越欠損金の取り扱いなど財務諸表に及ぼす影響は少なくない．

実効税率は，問題を解く場面では所与とされるが，その算定過程を理解することは税効果会計の理解上必須であり，当然に法人税，地方税の課税構造の理解が求められる．学習においては，まず法人税，地方税，特に事業税の課税特質を確認するところから入り，将来減産一時差異等個別の論点を学ぶ．その際，制度が繰延法ではなく，資産負債法を採用した意図はどこにあるのか？両者の違いはどこに発現するか？に関し計算を確認しながら考えていただきたい．

税効果会計による会計情報は，有価証券報告書において BS，PL のみならず注記としても開示される．学習者には注記まで網羅した力をつけることが期待されているのである．

学ぶべき用語・ポイント

- 税金の期間配分
- 資産負債法
- 一時差異
- 繰越欠損金
- 繰延税金資産・繰延税金負債の認識と測定
- 法人税等調整額
- 財務諸表における相殺表示

【講義の概要】

1. 会計と税法の概念の相違を理解する．

会計上の利益＝収益―費用 ↓ 申告調整 ↓ 課税所得　＝益金―損金

○法人税申告書を見てみよう．

2. 法人税，地方税，特に事業税の課税特質を確認する．
3. 繰越欠損金の制度を理解する．
4. 個別財務諸表における税効果会計について理解する．

Q：制度が繰延法ではなく，資産負債法を採用した意図はどこにあるのか？

Q：両者の違いはどこに発現するか？

Q：法人税申告書別表 4 と別表 5 と税効果会計の関連とは？

5. 計算技術

○資産負債法による計算方法の理解

Q：税率変更を計算上どのように取り込むことが合理的か？

○繰越欠損金の取り扱いとタックス・プランニングの関係を理解する．

○税効果会計の表示．

＜参考資料＞

・「税効果会計に係る会計基準」

・企業会計基準適用指針第 26 号「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」企業会計基準委員会

・企業会計基準適用指針第 27 号「税効果会計に適用する税率に関する適用指針」企業会計基準委員会

予習し持参すること

理解度確認（小テスト）

・前回講義分

・予習範囲

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

理解度確認セッションを実施する.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

簿記３・成田由加里／ Bookkeeping 3・Yukari Narita

講義の目的／ Course Objective

企業の経済活動を表す財務諸表を作成するために基本となる簿記の考え方を学ぶ．本講義において対象とするのは主に連結財務諸表である．

中世イタリアに端を発するといわれている複式簿記はシンプルな仕組みながらも，現在も資本主義経済の基盤となっている．東インド会社の発展とともに期間損益計算が進展し，産業革命により減価償却計算が進展するなど，経済環境の変化に伴い，様々な簿記の手法が開発された．歴史の教科書で読んだワットの蒸気機関の発明が会計技術にも進展を及ぼしたとも見ることができる．その基本は，経済取引を認識・測定し借方・貸方の両サイドから記録するというシンプルな仕組みであるが，例えば売上であれば，資金の流れと在庫の流れをつなぎとめ，漏れなくダブりなく取引を正確かつ完全に記録し経営情報として役立つことで，数百年にわたり発展を遂げてきた．

このような発展に見られるように今後も様々な新しい論点がでてくることは容易に想定される．経済環境に新たな変化が起こったとしても，販売，資金調達，投資等のビジネスプロセスを意識しつつ簿記の考え方の「幹」を太くすることにより，どのような場面でも柔軟に対応できる力が養われることを本講義の目的とする．

To learn the basics of bookkeeping to prepare financial statements that represent the economic activities of companies. The focus of the course is on consolidated financial statements.

Double-entry bookkeeping, which is said to originate in medieval Italy, is a simple method, but still the foundation of the capitalist economy. Various bookkeeping methods have been developed in line with changes in the economic environment. For example, the development of the East India Company triggered the progress of period profit and loss calculation, and Industrial Revolution lead to the progress of depreciation calculation. The invention of the steam engine of Watt can be seen as a cause of the progress in accounting methods. While the basic of bookkeeping is simple to measure economic transactions and record them from both sides of debit and credit, it has been developing over several hundred years by being accurate and complete and useful as management information. In addition, the importance of bookkeeping is recognized by the contribution to the financial statement users by revealing the risk information of the enterprise into the accounting figures.

It is easily assumed that various new issues will come out in the future as seen in such development. The goal of this course is to develop the ability to respond flexibly in any situation by fully understanding the "core" of the bookkeeping concept, while being aware of business processes such as sales, financing, and investment, even if a new change occurs in the economic environment.

講義の進め方

予習段階で理解度確認（小テスト）を行い，理解しにくい点等に重点的に取り組む．

予習・復習について

＜予習＞

・トピックに関連する会計基準，適用指針等をしっかりと読み込んでおくこと．
・トピックについて設例問題にあたっておくこと．
・当該トピックにおける疑問点を整理して授業に臨むこと．
・予習理解度確認小テストを予定している．

＜復習＞

・復習理解度確認小テストを予定している．

この講義を受講するために必要とする知識

本講義で取り扱うトピックを除く範囲で日商簿記 1 級程度の知識を有することが望ましい．

テキスト・参考文献

必要に応じて講義で紹介する．

時間割

前期　火曜 6 限

科目ナンバー

EAC-ACC603

成績評価法

・理解度確認セッション（70％）・予習復習理解度確認小セッション（30％）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

講義のある日
19:30-21:00

連絡先

講義時に示す．

その他（連絡事項）

・電卓持参のこと．

第 1 回：オリエンテーション／企業活動と会計／連結会計の基本的考え方～概略・財務諸表／

Orientation / Corporate Activities and Accounting / Basic Approach to Consolidated Accounting-Overview and Financial Statements

講義の内容

1. 講義の目的：

・講義の概要，講義の進め方，成績評価，学習方法（予習・復習）などについてシラバスを用いて確認する．

2. 講義の概要

第 1 回：オリエンテーション／企業活動と会計／連結会計の基本的考え方～概略・財務諸表

第 2 ～ 3 回：連結～企業グループ間の資本取引に関する会計処理と財務諸表・基礎

第 4 回：連結～企業グループ間の資本取引に関する会計処理と財務諸表・追加取得等

第 5 ～ 6 回：連結～企業グループ間の販売等取引に関する会計処理・税効果会計

第 7 回：連結～持分法

第 8 回：連結～包括利益／退職給付会計

第 9 ～ 10 回：キャッシュ・フロー計算書／連結キャッシュ・フロー計算書／在外支店と在外子会社の換算

第 11 ～ 12 回：企業結合と事業分離～総論・取得

第 13 ～ 14 回：企業結合と事業分離～共同支配・共通支配下・分離元企業

第 15 回：理解度確認セッション

【学習上の留意点】

個別財務諸表は, 例えて言うなら積み木タワーゲームのようであり, 前期に積まれたデータに，当会計期間の取引を会計情報に変換したものを積み上げていく作業であり，その結果として BS，PL 等の財務諸表が作成されることになる．

連結財務諸表は，たとえて言うならオセロゲームのようであり，すでにおかれた白のコインの列に, 連結修正仕訳という黒のコインを置くことにより, パタパタとコインがッひっくり返され，支払利息を修正すれば，その影響は PL の当期純利益を変え，連結株主資本等変動計算書の利益剰余金の増減と残高を変え，BS の利益剰余金残高を変え財務諸表が作成されることなる．

期間損益計算の観点からは，個別財務諸表は，時間の経過の中で，取引のうち当該期間に認識されるものを測定し仕訳を当該期間にプロットするのに対し，連結財務諸表は前期連結財務諸表に仕訳を積み上げるのではなく，企業グループの当期の個別財務諸表の合計からスタートしすでに計上されている取引が当期のグループ全体の期間に該当しないものは修正によって計上されるべき金額に改められていく．このように作成過程において前期連結財務諸表から登記の連結 FS が分断されているので，当期において期首残高を修正する開始仕訳が必要となるのである．

開始仕訳がなぜ存在するのか？を考え，個別財務諸表と連結財務諸表の成形過程の違いをよく理解してほしい．そうすれば，連結仕訳はできるがそれが最終的に BS の利益剰余金にどのような影響を及ぼすのかよくわからない，たとえて言うなら黒のコインをおいたもののどのように白が黒に変化し全体が変わるのかわからないといった木を見て森を見ずの学習に陥るリスクを回避し，学習の森で迷子になることも避けられるでしょう．
この森の中で迷子にならない力こそ連結会計の基礎力であり，これを揺るがないものにしていきましょう．

第 1 回：オリエンテーション／企業活動と会計／連結会計の基本的考え方〜概略・財務諸表／

Orientation / Corporate Activities and Accounting / Basic Approach to Consolidated Accounting-Overview and Financial Statements

講義の内容

1. 企業活動と会計〜ビジネスプロセスを個別財務諸表に表す

○ビジネスプロセスの理解

○ビジネスプロセスと財務諸表の関係

○ビジネスプロセスと簿記の接点Ⅰ〜日々の取引データ仕訳：勘定体系図を理解する.

○ビジネスプロセスと簿記の接点Ⅱ〜財務諸表作成：財務諸表の構造を理解する.

Q：財務諸表上で示される利益は残高試算表上ではどこに隠れているか

2. 連結会計の基本的考え方〜概略・財務諸表

連結財務諸表に関する会計基準
目 的
1. 本会計基準は，連結財務諸表に関する会計処理及び開示を定めることを目的とする. 連結財務諸表は，支配従属関係にある 2 つ以上の企業からなる集団（企業集団）を単一の組織体とみなして, 親会社が当該企業集団の財政状態, 経営成績及びキャッシュ・フローの状況を総合的に報告するために作成するものである.

○連結の方法

Q：上記目的を「親会社」が達成するために親会社と持ち株比率 80％の子会社からなる企業集団の連結財務諸表を作成する場合，皆さんならどのような作成方法を採用するか？

1）全部連結？

2）比例連結？

Q：親会社説が発現しているのはどこか？

図
各自予習として考えてみること．講義にて説明.

3. 計算技術

○連結財務諸表作成手続きのスタートは何か〜個別財務諸表との差異

○連結財務諸表の様式・構造について理解する.

- 連結貸借対照表
- 連結損益計算書
- 連結株主資本等変動計算書
- 連結キャッシュ・フロー計算書

＜参考資料＞

企業会計基準第 22 号「連結財務諸表に関する会計基準」企業会計基準委員会

予習し持参すること

第 2 ～ 3 回：連結～企業グループ間の資本取引に関する会計処理と財務諸表・基礎／

Accounting and financial statements / Basis for capital transactions between consolidated and corporate groups

講義の内容

【学習上の留意点】

資本連結は，連結会計の醍醐味であるといってよい．複雑な部分もあるが，複雑だからそその一つ一つを紐解き，紐解いた部分が計算過程に発現する考え方を学ぶことは面白い．例えば，開始仕訳の利益剰余金の期首部分の修正については貸借差額で出せば答えは出るが，そこで思考を止めてしまえば，舞浜駅まで行ってディズニーランドに入らず駅前のショップで買い物をして帰るようなもので，本来の面白さに出会えることはない．計算過程から仕訳の意味を思考し連結会計に関する基礎的な考え方を堅固にすることにより，仕訳とともに連結会計の全体がよく見えるようになるであろう．既に学生の皆さんは，連結会計ランドの切符を手にしている．入口のゲートを通るか否かは皆さん次第なのである．

個々の連結修正仕訳を考えるときに常に念頭においていただきたいのが，連結情報のあるべき姿である．

これは「連結財務諸表は，支配従属関係にある 2 つ以上の企業からなる集団（企業集団）を単一の組織体とみなして，親会社が当該企業集団の財政状態，経営成績及びキャッシュ・フローの状況を総合的に報告するために作成するものである」以上当然に求められるものであることを忘れてはならない．

1. 資本連結の基本を理解する．
   Q：あるべき連結上の金額は何か？
2. 子会社の資産・負債の時価評価の処理を理解する．
   Q：子会社の資産・負債を時価評価する理由は何か？
3. 投資消去差額の処理について理解する．
   Q：投資消去差額の資産計上の合理性をどこに認めるか？
4. 部分所有子会社（子会社の帳簿価額と時価が等しい場合）の資本連結について理解する．
   Q：部分所有子会社を連結する場合，所有する部分のみ連結する方法をどのように考えるか？
5. 部分所有子会社（子会社の帳簿価額と時価とに差異が生じる場合）の資本連結について理解する．
   Q：差額に関し，認識と測定及び全部連結・比例連結の観点から会計処理方法の違いを説明せよ．
6. 子会社時価評価における税効果会計を理解する．
7. 株式取得日以後における処理について理解する．
   ○開始仕訳
   ○純利益の振替
   ○剰余金の配当
   Q：開始仕訳の存在意義を説明せよ．開始仕訳がない場合の不都合を説明せよ．
   Q：各連結修正仕訳の財務諸表に及ぼす影響を示せ．
   Q：財務諸表の関連性と数字の流れが理解できているか？
   Q：精算表を作成し説明できるか？
   Q：エクセルで展開するのであれば，どこにどんな関数を入れるか？

第 2 〜 3 回：連結〜企業グループ間の資本取引に関する会計処理と財務諸表・基礎／

Accounting and financial statements / Basis for capital transactions between consolidated and corporate groups

講義の内容

8. 連結利益剰余金を理解する.

Q：連結利益剰余金の増減要因と金額を示せ.

Q：連結利益剰余金の増減の結果あるべき残高金額を示せ.

図 各自予習として考えてみること．講義にて説明.

9. 子会社時価評価及び子会社時価評価における税効果会計を理解する.

10. 計算技術

○投資と資本の相殺消去

○のれん

○のれんの償却

○純利益の振替

○剰余金の配当

＜参考資料＞

企業会計基準第 22 号「連結財務諸表に関する会計基準」企業会計基準委員会

予習し持参すること

＜理解度確認（小テスト）＞

・前回講義分

・予習範囲

第 4 回：連結～企業グループ間の資本取引に関する会計処理と財務諸表・追加取得等／ Accounting and financial statements and additional acquisition of capital transactions between consolidated and corporate groups

講義の内容

【学習上の留意点】

段階取得と追加取得の取引自体の違いは何か？その違いから導かれる会計処理は何か？子会社株式の売却という取引は，個別財務諸表と連結財務諸表では認識が異なるのか？ etc.

上記を考えるにあたってそのよりどころとなる考え方は何だろうか？～連結情報のあるべき姿である．既に前回までに体得していることでしょう．財務諸表の個別合算数値と連結情報のあるべき姿に乖離があるとき，当該乖離を埋めていくものが連結修正仕訳に他ならないのであるから，常に目指すものは連結情報のあるべき姿である．

1. 子会社株式の追加，売却処理の基本的考え方について理解する．
   Q：企業集団の視点から，子会社株式の追加・売却はどのように認識できるか？
2. 子会社株式の追加処理について理解する．
3. 子会社株式の売却処理について理解する．
   Q：連結上の子会社売却簿価とは？
   Q：売却に伴うのれんの考え方は？
4. 子会社の増資に関する連結修正について理解する．
5. 計算技術
   ○持分比率が変わらない場合の連結修正消去仕訳
   ○持分比率が増加する場合の連結修正消去仕訳
   ○持分比率が減少する場合の連結修正消去仕訳

＜参考資料＞

企業会計基準第 22 号「連結財務諸表に関する会計基準」企業会計基準委員会
予習し持参すること

＜理解度確認（小テスト）＞

・前回講義分
・予習範囲

第 5 〜 6 回：連結〜企業グループ間の販売等取引に関する会計処理・税効果会計／ Accounting and tax effect accounting for sales and other transactions between consolidated and corporate groups

講義の内容

【学習上の留意点】

販売取引等に関する会計処理はわかりやすいが，これらについても当然に連結情報のあるべき姿が求められ，各連結修正仕訳の連結財務諸表への影響は理解されなくてはならない．ここでのメインは未実現利益の会計処理である．その認識と測定について考え，連結情報のあるべき期間損益計算に修正する．期間損益計算上ズレている利益剰余金を計上すべき期間に計上されるように直す手続きである．未実現利益の仕訳についても資本連結同様，その意義について思考していきましょう．連結財務諸表への影響を理解することは連結財務諸表を俯瞰してみる力を養うことになるでしょう．

1.「個別合算で計上されている内部取引を，連結ベースで適正に表示するためにはどうすべきか＝各場面の内部取引がなかったことにするためにはどのような処理が必要か」の考え方を学習する．
2. 連結会社間取引の処理を理解する．
3. 連結会社間債権債務の処理を理解する．
4. 連結修正仕訳に伴う税効果会計を理解する．
5. 未実現利益の消去を理解する．
   Q：期間損益のズレを直すとは？
6. 非支配株主へ按分する場合の処理について理解する．
   ○ダウンストリーム
   ○アップストリーム
7. 計算技術
   ○各修正仕訳の連結財務諸表への影響を理解する．

＜参考資料＞
企業会計基準第 22 号「連結財務諸表に関する会計基準」企業会計基準委員会
予習し持参すること

＜理解度確認（小テスト）＞
・前回講義分
・予習範囲

学ぶべき用語・ポイント

・ダウンストリーム
・アップストリーム
・未実現利益

第 7 回：連結～持分法／ Consolidation-equity method

講義の内容

【学習上の留意点】

連結で親会社持分の利益剰余金のあるべき増減，残高を理解していれば，持分法も考え方は同じではないかということが容易に理解できるでしょう．連結と持分法の目的は同じであるがそのアプローチが異なることがわかるでしょう．登山に例えるなら，目指す頂上は同じでも登山道はそれぞれ異なるということになる．連結と持分法は表裏一体なのである．表から見ても裏から見ても同じなのだということを体感してみましょう．

1. 持分法の考え方について理解する．
   Q: 持分法適用会社の投資結果をどう見るか？
   Q：持分法適用会社売却簿価算定の考え方は？
2. 持分法の会計処理について理解する．
   Q：一行連結とは？
3. 持分法の未実現利益の処理について理解する．
4. 計算技術

＜参考資料＞

企業会計基準第 22 号「連結財務諸表に関する会計基準」企業会計基準委員会
予習し持参すること

＜理解度確認（小テスト）＞

・前回講義分
・予習範囲

学ぶべき用語・ポイント

・持分法による投資損益

第 8 回：連結～包括利益／退職給付会計／ Consolidated-Comprehensive Income / Retirement Benefit Accounting

講義の内容

【学習上の留意点】

包括利益と退縮給付会計は個別財務諸表と考え方が異なるところである．その違いについて理解していきましょう．

1. 包括利益について理解する．
   Q：包括利益とは？
   Q：財務諸表の構成は？
2. 連結上の退職給付会計について理解する．
3. 計算技術

＜参考資料＞

企業会計基準第 22 号「連結財務諸表に関する会計基準」企業会計基準委員会

予習し持参すること

第 9 〜 10 回：キャッシュ・フロー計算書／連結キャッシュ・フロー計算書／在外支店と在外子会社の換算／ Cash Flow Statement / Consolidated Cash Flow Statement / Conversion of Overseas Branches and Overseas Subsidiaries

講義の内容

【学習上の留意点】

キャッシュ・フロー計算書は，キャッシュの増減を示すものであり，損益計算書より一般的にはわかりやすい．企業会計においては，間接法が一般的であり，まずは間接法によるキャッシュ・フロー計算書の理解が求められる．

間接法で処理することにより学習者にとっては一見複雑なものとなるが，本来キャッシュの流れを説明するキャッシュ・フロー計算書であるので難しく考えないでほしい．間接法を学習すると損益計算の進化に逆行するようであり，歴史をさかのぼる面白さがある．例えば，減価償却費は支出はないけれど費用として認識するというもので産業革命を経て会計上で生まれた技術あるが，これをキャッシュ・フロー計算書では，白紙に戻す処理をする．当該白紙に戻す処理がそもそも必要となるのはキャッシュ・フロー計算書のスタートが適正な期間損益計算による税引前当期純利益であることを念頭に会計処理すると，パズルを解くような面白さに出会えるでしょう．

簿記の技術としては，BS，PL データをキャッシュ・フロー計算書に組み替える方法に他ならない．該当データがすべて正確に組み替えられているかどうかを確認する術を獲得するためにキャッシュ・フロー計算書のデータが漏れなく・ダブりなく整理される方法について，ワークを通じて確認していくことといたしましょう．

1. キャッシュ・フロー計算書の目的，構造について理解する．
2. キャッシュ・フローの区分及びその理由
   ○営業活動 CF
   ○投資活動 CF
   ○財務活動 CF
3. 連結キャッシュ・フロー計算書の様式〜連結特有の表示
4. 連結キャッシュ・フロー計算書の作成方法について理解する．
5. 在外子会社の換算について理解する．
   Q：在外支店と在外子会社の換算に関する異同点は？
6. 計算技術

＜参考資料＞

企業会計基準第 22 号「連結財務諸表に関する会計基準」企業会計基準委員会
予習し持参すること

＜理解度確認（小テスト）＞

・前回講義分
・予習範囲

第 11 ～ 12 回：企業結合と事業分離～～総論・取得／ Business Combination and Business Separation-General and Acquisition

講義の内容

【学習上の留意点】

企業結合で思い浮かぶのは合併，株式交換などではないだろうか？これらの会計処理を学ぶとき，そのカテゴリーは法的な基準により示されることがある．会計上ではどうであろうか？合併や株式交換等の取引を経済的実態の観点から分類整理したものが会計基準に他ならない．その視点で「企業結合に関する会計基準」を読み込んでよう．

株式交換，株式移転等区別が難しいかもしれないが，皆さんがダイナミックに M&A により事業を拡大したい経営者でなら，また株主なら，関係者ならどうするかを考えてみてほしい．単なる数字の処理ではなく，数字の意味するところが腑に落ちることでしょう．会計処理の面白さと取引のダイナミックさを楽しんでいきましょう．

学ぶべき用語・ポイント

- 取得
- 共同支配企業の形成
- 共通支配下の取引
- 時価評価
- のれん
- 合併
- 株式交換
- 株式移転

1. 企業結合と事業分離の経済的実態の基づく分類について理解する．
   Q：共同支配と共通支配下の違いは？各々について事例をあげよ．
2. パーチェス法の考え方を理解する．
   ○取得原価の算定
   ○取得原価の配分
   ○のれん
3. 計算技術
4. 合併の会計処理を理解する．
   ○新株発行の場合
   ○新株発行と自己株式を併用する場合
5. 会社分割の会計処理を理解する．
6. 株式交換・株式移転の会計処理を理解する．

＜参考資料＞

- 企業会計基準第 21 号「企業結合に関する会計基準」企業会計基準委員会
- 企業会計基準適用指針第 10 号「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針 」企業会計基準委員会

予習し持参すること

＜理解度確認（小テスト）＞

- 前回講義分
- 予習範囲

第 13 ～ 14 回：企業結合と事業分離～共同支配・共通支配下・分離元企業／ Business Combination and Business Separation-Joint Control, Common Control, and Separation Source Company

講義の内容

【学習上の留意点】

企業結合において同じ取引でも経済実態を異なるものとして会計処理をする場合がある．その基準は支配が継続しているかどうかである．これは重要な視点である．この視点を念頭におきながら会計基準に当たってほしい．一見複雑で無味乾燥に見えるものが，芯が通った考え方，合理性にあふれた会計処理としてとらえることができるでしょう．

1. 共同支配企業の形成の場合の会計処理を理解する．
   ○個別上の会計処理取得原価
   ○連結上の会計処理
2. 共通支配下の取引等の会計処理を理解する．
   ○親会社が子会社を吸収合併する場合
3. 分離元企業の会計処理について理解する．
   ○投資が継続するとみなされる場合
   ○投資が清算されたとみなされる場合
4. 計算技術

＜参考資料＞

・企業会計基準第 21 号「企業結合に関する会計基準」企業会計基準委員会
・企業会計基準適用指針第 10 号「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針 」企業会計基準委員会

予習し持参すること

＜理解度確認（小テスト）＞

・前回講義分
・予習範囲

学ぶべき用語・ポイント

・移転損益

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

前回までの講義内容について理解度確認セッションを実施する.

講義の内容

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

公会計 1 ・加藤暢一／ Public Accounting 1・Nobukazu　Katou

講義の目的／ Course Objective

日本における国，地方自治体など公会計，独立行政法人，公益法人など各種の非利法人会計，行政マネジメント，公監査の現状と課題を確実に理解する．

そして，職業専門家になってから，他の専門家に対して大きく差別化ができ，公会計，公監査，行政コンサルティングで活躍できることを目指す．

We study the Japanese public accounting, public management, public audit of the government and local government, some nonprofit organizations. We differentiate ourselves in the professional, and we will be excellent public accountant, public auditor ,public consultant.

講義の進め方

・講義では，できる限り分かりやすく解説をするとともに，重要テーマに関して双方向でも講義を進めていき，より深く，確実に理解できるようにする．
・中間レポートを作成していただき解説と，期末に理解度確認セッションと，総合解説を行う．

予習・復習について

予習をできるだけ行うことが望ましい．

この講義を受講するために必要とする知識

会計の基本知識があることが望ましい．

テキスト・参考文献

・テキスト：なし
　　講義は，レジュメ等にもとづき行う．
・参考文献：必要に応じて講義の中で本，資料を紹介する．

時間割

後期　木曜 4 限

科目ナンバー

EAC-ACC604

成績評価法

・講義への出席と中間のレポート作成（50％），理解度確認セッション（50％）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

木曜日
13:00-14:00

連絡先

初回講義時に連絡する．

その他（連絡事項）

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

日本における人口減少等多くの課題，国，地方公共団体や独立行政法人，国立大学法人，公益法人，NPO 法人，第 3 セクター，社会福祉法人，医療法人など非営利法人における公会計，行政マネジメント，公監査の現状と課題について概要を解説する．

講義の進め方，成績評価，学習方法について説明する．

第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：国，地方公共団体の組織，運営，予算，決算制度
第 3 回：一般会計，特別会計における新地方公会計の導入
第 4 回：一般会計，特別会計における新地方公会計の活用，行政マネジメント
第 5 回：地方公営企業（水道，下水道，交通，病院など）の経営と会計
第 6 回：地方 3 公社，一部事務組合，広域連合の経営と会計
第 7 回：第 3 セクター，指定管理者の経営と会計
第 8 回：独立行政法人，国立大学法人の経営と会計
第 9 回：公益法人，ＮＰＯ法人の経営と会計
第 10 回：社会福祉法人，医療法人の経営と会計
第 11 回：中間におけるレポートの提出，解説
第 12 回：地方公共団体の内部統制
第 13 回：地方公共団体の監査
第 14 回：地方公共団体の監査・事例（監査委員監査，包括外部監査等）
第 15 回：期末における理解度確認セッション

学ぶべき用語・ポイント

- 人口減少社会
- 予算・決算制度
- 新地方公会計
- 行政マネジメント
- 公監査

第 2 回：国，地方公共団体の組織，運営，予算，決算制度／ The organization, management,Budget, settlement of the government and the local government

講義の内容

地方公共団体は予算にもとづき，事業をおこない，歳入・歳出を把握する．

決算では，4 月 5 月の出納整理期間をおき，現金主義，単式簿記で歳入歳出決算書を作成し，監査委員監査，議会の審議，外部公表を行う．

学ぶべき用語・ポイント

- 単年度予算
- 予算編成
- 決算制度
- 出納整理期間
- 歳入歳出決算書
- 監査委員監査

第 3 回：一般会計，特別会計における新地方公会計の導入／ The new accounting in the general account and special account

講義の内容

現在，急速に人口減少，少子高齢化が進んでおり，財政が厳しくなる中で，ますます福祉サービスが必要になるとともに，いっせいに公共施設，インフラの老朽化が進んでいる．財源が厳しくなる中で，新しい政策，計画，予算編成をダイナミックに行い持続可能な社会にしなければならない．

このため，新地方公会計が必要になり，すべての自治体に統一的な基準による財務書類４表の作成が要請される．

学ぶべき用語・ポイント

- 総務省方式
- 東京都方式
- 総務省統一的な基準
- 財務書類４表
- セグメント別データ

第 4 回：一般会計，特別会計における新地方公会計の活用，行政マネジメント／ The utilization of new public accounting , public management in the general account and special account

講義の内容

現在，急速に人口減少，少子高齢化，公共施設，インフラの老朽化が進んでいる．

財源が厳しくなる中で，新しい計画，合意形成，行政マネジメントをダイナミックに行い持続可能な社会にしていなければならない．

課題解決のために，行政をどうマネジメントし，新地方公会計による財務書類をどう活用するのかを考える．

学ぶべき用語・ポイント

- 行政マネジメント
- 行政評価
- 予算編成
- 公共施設の維持更新
- 議会の審議
- 住民への説明

第 5 回：地方公営企業（水道，下水道，交通，病院など）／ The accounting of local public enterprise (water ,sewerage ,transportation , hospital)

講義の内容

現在，急速に人口減少，少子高齢化が進んでおり，水道，下水道，交通，病院等のインフラや公共施設がいっせいに老朽化と医療・福祉ネットワーク化が課題になっている．

ますます財政が厳しくなる中，水道，下水道，病院，交通等のマネジメントと公会計の改革が必要であり，その現状と課題を考える．

学ぶべき用語・ポイント

- 独立採算
- 公共性
- 料金計算
- 一般会計から繰入
- 公営企業会計の適用拡大

第 6 回：地方 3 公社，一部事務組合，広域連合／The accounting of local 3 public corporation , partial-affairs-association ,regional union

講義の内容

地方 3 公社（土地開発公社，住宅供給公社，道路公社）は，インフラ整備と住宅事情を改良するため設立された．また，一部事務組合，広域連合は，各自治体だけでは，厳しい財政のなかで自治体どうしが協力しなければならず，拡大しつつあるが，各々の経営と会計にかんする現状と課題を学ぶ.

学ぶべき用語・ポイント

- 地方 3 公社
- 土地開発公社
- 住宅供給公社
- 道路公社
- 一部事務組合
- 広域連合

第 7 回：第 三 セ ク タ ー，指 定 管 理 者 ／ The accounting of third sector , designated administrator

講義の内容

第三セクターは，民間の活力を利用して行政サービスをより効果的，効率的に行うため全国で数多く設立されたが，多くの 3 セクが赤字や債務超過で苦しんでいる.

指定管理者の制度は，スタジアムや図書館等の運営を民間にも効率的に運営させるために導入された.

3 セクや指定管理者の経営と会計にかんする現状と課題を学ぶ.

学ぶべき用語・ポイント

- 民間の活力
- 第三セクター
- 第三セクター等の抜本的改革
- 経営健全化
- 指定管理者制度
- 事業評価

第 8 回：独立行政法人，国立大学法人／ The accounting of independent administrative agency , national university corporation

講義の内容

イギリスのエージェンシー制度を参考にして，かつての特殊法人，国立研究所，国立大学等が，独立行政法人や国立大学法人として設立された.

これらの運営（中期目標計画，運営，業績評価）と特有の会計基準などについて，現状と課題を学ぶ.

学ぶべき用語・ポイント

- 独立行政法人通則法
- 中期目標
- 中期目標計画
- 評価委員会
- 損益ニュートラル
- 損益外処理
- 引当外処理
- 運営費交付金の収益化
- 固定資産の財源別処理等

第 9 回：公益法人，ＮＰＯ法人／ The accounting of public service corporation , nonprofit organization

講義の内容

財団法人，社団法人は，公益法人改革にもとづき公益法人化されたものと一般法人化されたものとがある.

また，NPO 法人は，民間ボランティアが活発になっており，より組織的に行うため数多く設立された.

これらの経営と会計について，現状と課題を学ぶ.

学ぶべき用語・ポイント

- 公益法人への移行認定
- 一般法人への移行認可
- 公益目的事業
- 収支相償
- 公益目的支出計画
- 公益法人会計基準
- 20 年基準
- NPO 法人会計基準

第 10 回：社会福祉法人，医療法人／ The accounting of social welfare corporation , medical corporation

講義の内容

社会福祉法人や医療法人は，とくに，高齢者福祉や高齢者医療等のニーズが増大している中で，ガバナンスをして経営，会計の適正化が必要になった.

新しく公認会計士の監査制度が導入され期待されているが，それらの経営，会計の現状と課題を学ぶ.

学ぶべき用語・ポイント

- 社会福祉法人会計基準
- 医療法人会計基準
- 社会医療法人
- 医療・介護のネットワーク化
- 地域医療連携推進法人
- 地域包括ケアシステム

第 11 回：中間レポート／ The interim report

講義の内容

ここまでの講義にもとづき，重要テーマについて，中間レポートを作成・提出していただき，解説を行う．

第 12 回：地方公共団体の内部統制／ The internal control of local government

講義の内容

地方公共団体における内部統制が平成令和 2 年に導入予定であり，その準備が進んでいる．

金商法や会社法の内部統制と比較し，地方公共団体の内部統制とはどのような仕組みなのか，現状と課題を検討する．

学ぶべき用語・ポイント

- 地方公共団体のガバナンス
- 内部統制に関する方針
- 内部統制ガイドライン
- 内部統制評価報告書
- 内部統制の審査

第 13 回：地方公共団体の監査／ The audit of local government

講義の内容

国，地方公共団体，非営利法人の監査には，会計検査院検査，監査委員監査，外部監査（包括外部監査，個別外部監査），監事監査がある．

各々の監査の対象（業務監査，会計監査），監査手法，監査基準などの現状と課題を学ぶ．

学ぶべき用語・ポイント

- 監査委員監査
- 監事監査
- 包括外部監査等
- 監査基準の設定
- 財務監査
- ３Ｅ監査

第 14 回：地方公共団体の監査・事例（監査委員監査，包括外部監査等）／ The audit of local government , by the lecture and case study discussion

講義の内容

監査委員監査と包括外部監査等は，テーマが幅広く監査の内容もいろいろである．

監査委員監査と包括外部監査等の実例に基づき，テーマ選定，監査の手法，監査の結論について，現状と課題を学ぶ．

学ぶべき用語・ポイント

- 監査委員監査
- 包括外部監査
- 監査基準の設定
- 財務監査
- ３Ｅ監査
- 特定のテーマ選定
- 高齢者福祉
- 公立病院
- 公共施設の維持更新
- 住民監査請求監査
- 政務活動費

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

1 回から 14 回にわたる講義に基づき，理解度確認セッションを行い，公会計，行政マネジメント，公監査に関する総合的な解説を行う．

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

公会計 2・加藤暢一／ Public Accounting 2・Nobukazu Katou

講義の目的／ Course Objective

日本における国，地方自治体など公会計，独立行政法人，学校法人，社会福祉法人，医療法人など各種の非利法人会計，行政マネジメント，公監査の現状と課題を確実に理解する．

また，具体例や事例にもとづきディスカッションを行い，より深く具体的なイメージをもって確実に理解を深めていく．

そして，職業専門家になってから，他の専門家に対して大きく差別化ができ，公会計，公監査，行政コンサルティングで活躍できることを目指す．

We study the Public accounting, public management, public audit of the government and local government, some nonprofit organizations (including school) in Japan.

We can understand more deeply and concretely by the case study discussion. We differentiate ourselves in the professional, and we will be excellent public accountant, public auditor, public consultant.

講義の進め方

講義では，できる限り分かりやすく解説をするとともに，重要テーマに関して具体例や事例のディスカッション等をおこなうことで，より具体的なイメージをもって，より深く確実に理解できるようにする．

中間レポートを作成していただき解説と，期末レポートを作成していただき，総合解説を行う．

予習・復習について

予習をできるだけ行うことが望ましい．

この講義を受講するために必要とする知識

会計の基本知識があることが望ましい．

テキスト・参考文献

・テキスト：なし

講義は，レジュメ等にもとづき行う．

・参考文献：必要に応じて講義の中で本，資料を紹介する．

時間割

前期　木曜 4 限

科目ナンバー

EAC-ACC605

成績評価法

・講義の出席とディスカッション（50％），中間と期末のレポート作成（50％）で評価する．

・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

木曜日
13:00-14:00

連絡先

初回講義時に連絡する．

その他（連絡事項）

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

日本における人口減少など多くの課題，国，地方公共団体や独立行政法人，国立大学法人，学校法人，社会福祉法人，医療法人など非営利法人における公会計，行政マネジメント，公監査の現状と課題について概要を解説する．

講義の進め方，成績評価，学習方法について全体を説明する．

第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：国，地方公共団体の組織，予算，決算，事例等
第 3 回：一般会計等における新地方公会計の導入，事例等
第 4 回：新地方公会計の活用と行政マネジメント，行政評価の事例等
第 5 回：新地方公会計の活用と行政マネジメント，公共施設の維持更新事例等
第 6 回：地方公営企業の経営と会計，事例等
第 7 回：社会福祉法人，医療法人の経営と会計，事例等
第 8 回：中間におけるレポートの提出と解説
第 9 回：学校法人の経営と会計，事例等
第 10 回：独立行政法人，国立大学法人の運営と会計，事例等
第 11 回：地方公共団体の内部統制，事例等
第 12 回：地方公共団体の監査，事例等
第 13 回：地方公共団体の監査委員監査・事例
第 14 回：地方公共団体の外部監査・事例（包括外部監査，個別外部監査）
第 15 回：期末におけるレポートの提出，総合的な解説

学ぶべき用語・ポイント

- 人口減少社会
- 予算・決算制度
- 新地方公会計
- 行政マネジメント
- 内部統制
- 公監査

第 2 回：国，地方公共団体の組織，予算，決算，事例等／ The organization, management ,Budget, settlement of the government and the local government , by the lecture and case study discussion

講義の内容

地方公共団体は予算にもとづき，事業をおこない，歳入・歳出を把握する．

決算では，4 月 5 月の出納整理期間をおき，現金主義，単式簿記で歳入歳出決算書を作成し，監査委員監査，議会の審議，外部公表を行う．

イギリス，ニュージーランド等の海外事情の紹介．

これらに関する説明と具体例，事例によるディスカッションを行う．

学ぶべき用語・ポイント

- 単年度予算
- 予算編成
- 決算制度
- 出納整理期間
- 歳入歳出決算書
- 監査委員監査

第 3 回：一般会計等における新地方公会計の導入，事例等／ The new accounting in the general account and special account , by the lecture and case study discussion

講義の内容

現在，急速に人口減少，少子高齢化が進んでおり，財政が厳しくなる中で，ますます福祉サービスが必要になるとともに，いっせいに公共施設，インフラの老朽化が進んでいる．財源が厳しくなる中で，新しい政策，計画，予算編成をダイナミックに行い持続可能な社会にしなければならない．

このため，新地方公会計が必要になり，すべての自治体に統一的な基準による財務書類４表の作成が要請される．

これらに関する説明と具体例，事例によるディスカッションを行う．

学ぶべき用語・ポイント

- 総務省方式
- 東京都方式
- 総務省統一的な基準
- 財務書類４表
- セグメント別データ

第 4 回：新地方公会計の活用，行政マネジメント，行政評価の事例等／ The utilization of new public accounting , public management ,public evaluation ,by the lecture and case study discussion

講義の内容

現在，急速に人口減少，少子高齢化，公共施設，インフラの老朽化が進んでいる．

財源が厳しくなる中で，新しい計画，合意形成，行政マネジメントをダイナミックに行い持続可能な社会にしていなければならない．

とくに行政評価を行い，新地方公会計による個別の会計データを活用する．

これらに関する説明と具体例，事例によるディスカッションを行う．

学ぶべき用語・ポイント

- 行政マネジメント
- 行政評価
- 課別・事業別行政評価シート
- 費用対効果
- 予算編成

第 5 回：新地方公会計の活用，行政マネジメント，公共施設の維持更新の事例等／ The utilization of new public accounting , public management ,public asset management , by the lecture and case study discussion

講義の内容

現在，急速に人口減少，少子高齢化，公共施設，インフラの老朽化が進んでいる．

財政が厳しくなる中で，新しい計画，合意形成，行政マネジメントをダイナミックに行い持続可能な社会にしていなければならない．

とくに公共施設の維持更新を計画的に行い，新地方公会計による個別の会計データを活用する．

これらに関する説明と具体例，事例によるディスカッションを行う．

学ぶべき用語・ポイント

- 公共施設の維持更新
- 総合管理計画
- 長期のコスト推計
- 個別計画
- 統廃合
- 多機能化

第 6 回：地方公営企業（水道，下水道，交通，病院など）の経営と会計，事例等／ The accounting of local public enterprise (water ,sewerage, transportation , hospital) , by the lecture and case study discussion

講義の内容

現在，急速に人口減少，少子高齢化が進んでおり，水道，下水道，交通，病院等のインフラ等の老朽化，医療・福祉ネットワーク化，財政状態の改善が課題になっている．

ますます財政が厳しくなる中，水道，下水道，病院，交通等のマネジメントと公会計の改革が必要であり，その現状と課題を考える．

これらに関する説明と具体例，事例によるディスカッションを行う．

学ぶべき用語・ポイント

- 独立採算
- 公共性
- 料金計算
- 一般会計から繰入
- 公営企業会計の適用拡大

第 7 回：社会福祉法人，医療法人の経営と会計，事例等／The accounting of social welfare corporation , medical corporation, , by the lecture and case study discussion

講義の内容

社会福祉法人や医療法人は，とくに，高齢者福祉や高齢者医療等のニーズが増大している中で，ガバナンスをして経営，会計の適正化が必要になった．

新しく公認会計士の監査制度が導入され透明性，ガバナンス向上が期待されている．

これらの経営と会計にかんする説明と具体例，事例によるディスカッションを行う．

学ぶべき用語・ポイント

- 社会福祉法人会計基準
- 医療法人会計基準
- 社会医療法人
- 医療・介護のネットワーク化
- 地域医療連携推進法人
- 地域包括ケアシステム

第 8 回：中間レポート／ The interim report

講義の内容

ここまでの講義にもとづき，重要テーマについて，中間レポートを作成・提出していただき，その解説を行う．

第 9 回：学校法人の経営と会計，事例等／ The accounting of School, by the lecture and case study discussion

講義の内容

学校法人は，第 2 次大戦後に多様な価値観と人材育成をおこなうために創設された．

学校法人会計は，より分かりやすくし，経営に生かすため会計基準の改正がおこなわれた．

また，現在少子化の影響から定員割れ等苦しい経営をしている学校が増えている．

これらの経営と会計にかんする説明と具体例，事例によるディスカッションを行う．

学ぶべき用語・ポイント

- 私立学校法
- 私立学校振興助成法
- 私学助成
- 基本金
- 資金収支
- 事業活動収支

第 10 回：独立行政法人，国立大学法人の運営と会計，事例等／ The accounting of independent administrative agency , national university corporation, by the lecture and case study discussion

講義の内容

イギリスのエージェンシー制度を参考にして，かつての特殊法人，国立研究所，国立大学等が，独立行政法人や国立大学法人として設立された.

これらの運営（中期目標計画，運営，業績評価）と特有の会計基準などについて，現状と課題を学ぶ.

これらの運営と会計に関する説明と具体例，事例によるディスカッションを行う.

学ぶべき用語・ポイント

- 独立行政法人通則法
- 中期目標
- 中期目標計画
- 評価委員会
- 損益ニュートラル
- 損益外処理
- 引当外処理
- 運営費交付金の収益化
- 固定資産の財源別処理等

第 11 回：地方公共団体の内部統制，事例等／ The internal control of local government, by the lecture and case study discussion

講義の内容

地方公共団体における内部統制が令和 2 年に導入予定であり，その準備が進んでいる．金商法や会社法の内部統制と比較し，地方公共団体の内部統制とはどのような仕組みなのか，現状と課題を検討する．

これらに関する説明と具体例，先進事例によるディスカッションを行う．

学ぶべき用語・ポイント

- 地方公共団体のガバナンス
- 内部統制に関する方針
- 内部統制ガイドライン
- 内部続制評価報告書
- 内部統制の審査

第 12 回：地方公共団体の監査，事例等／ The audit of local government, by the lecture and case study discussion

講義の内容

国，地方公共団体，非営利法人の監査には，会計検査院検査，監査委員監査，外部監査（包括外部監査，個別外部監査），監事監査がある．

監査手法，監査の種類，監査基準，海外事情もふくめ，現状と課題を学ぶ．

これらに関する説明と具体例，事例によるディスカッションを行う．

学ぶべき用語・ポイント

- 監査委員監査
- 監事監査
- 包括外部監査
- 監査基準の設定
- 財務監査
- ３Ｅ監査
- 特定のテーマ選定
- 住民監査請求監査
- 政務活動費

第 13 回：地方公共団体の監査委員監査・事例／The audit committee audit of local government, by the lecture and case study discussion

講義の内容

自治体内部における監査委員の監査には，定期監査と行政監査があり，財務監査と３Ｅ監査（経済性，効率性，有効性）として行われる．

監査対象は，一般会計，地方公営企業，財政援助団体の事業すべてであるが，住民の指摘により住民監査請求監査などもおこなわれる．

これらに関する説明と具体例，事例によるディスカッションを行う．

学ぶべき用語・ポイント

- 監査委員
- 監査事務局
- 定期監査
- 財務監査
- 行政監査
- ３Ｅ監査
- 住民監査請求監査
- 政務活動費

第 14 回：地方公共団体の外部監査・事例（包括外部監査，個別外部監査）／ The external audit of local government , by the lecture and case study discussion

講義の内容

包括外部監査等は，テーマによって監査の内容はいろいろである．

包括外部監査と個別外部監査に基づき，テーマ選定，監査の手法，監査の結論について，現状と課題を学ぶ．

これらに関する説明と具体例，事例によるディスカッションを行う．

学ぶべき用語・ポイント

- 包括外部監査
- 包括外部監査人
- 補助者
- 特定のテーマ選定
- 財務監査
- ３Ｅ監査
- 高齢者福祉
- 公立病院
- 公共施設の維持更新
- 個別外部監査
- 政務活動費

第 15 回：期末レポート／ The final report

講義の内容

1 回から 14 回にわたる講義に基づき，公会計，行政マネジメント，公監査に関する期末レポートを作成・提出していただき，総合的な解説を行う．

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

IFRS 1・樋口尚文／ International Financial Reporting Standards 1・Naofumi Higuchi

講義の目的／ Course Objective

IFRS の基礎を学習する．IFRS の基本的な事項を冒頭で学習するとともに，財務諸表作成のための基本的な基準を一通り学習し，実務家に必要な知識を習得し考え方を理解することを目標とする．

Learn the basics of IFRS. It is planned that students learn the basic matters of IFRS at the beginning. Then, students study the basic accounting standards so that they learn and understand the knowledge necessary for practitioners.

講義の進め方

・講義の目的を達成するため適宜，補助資料を配布する．
・理解度確認セッションを実施する．

予習・復習について

＜予習＞
・時間の余裕があればテキストの該当箇所を読んでおくこと．
＜復習＞
・参考文献や講義を基に基準書原文（英語）を読んでみること．図書室に置いてある基準書原文（英語）の結論の根拠を読んでみること．

この講義を受講するために必要とする知識

・企業会計に関する基礎的知識を有していることが必要である．ただし，IFRS である必要はなく，会計学の基本的な科目を履修していることが望ましい．
・基準書原文は英語のため，頑張って英文を読む意欲も必要と考えられる．

テキスト・参考文献

・参考文献等：主として以下の基準等を使用する．

IFRS の各基準書，IFRS 財団
http://www.ifrs.org/
登録すると無料で基準書を入手できる．
（ウェブサイト⇒ IFRS ⇒ standards and interpretations）
IASB（国際会計基準審議会）公表の中小企業向け IFRS（IFRS for SMEs）
橋本尚・山田善隆『IFRS 会計学基本テキスト［第 6 版］』中央経済社，2017 年．
西川郁生『会計基準の考え方　学生と語る 23 日』税務経理協会，2018 年．
必要に応じて講義の中で紹介する．

時間割

後期　土曜 5 限

科目ナンバー

EAC-ACC606

成績評価法

・理解度確認セッションで評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

講義終了後（土曜午後）

連絡先

naofumi.higuchi.b4@tohoku.ac.jp
・連絡方法：電子メール及び講義中に伝達する．

その他（連絡事項）

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

講義の概要，講義の進め方，成績評価，学習方法などについて説明を行う．

講義の概要：
・IFRS とはどのようなものか
・IFRS 財団と IASB とは
・金融庁企業会計審議会の報告書等について
・参考文献等の紹介
・他

第 2 回：財務報告の利用者／ Users of financial statements

講義の内容

財務報告の利用者の企業価値評価の概要について基礎的な事項を理解し，IFRS 財務諸表の使われ方についても，概要を理解する．

1. 財務報告の目的
2. 財務報告の利用者
3. 企業価値評価の初歩的な理解
4. その他

＜予習・復習＞

概念フレームワークの概要を確認し理解する．

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・基準書

- 一般財務報告の目的と主たる利用者
- 企業価値評価
- キャッシュ・フロー

第 3 回：ASBJ の討議資料「財務会計の概念フレームワーク」／ The discussion paper “Conceptual Framework for Financial Accounting” issued by the ASBJ

講義の内容

ASBJ の討議資料を学習し，IASB の概念フレームワークとの違いを理解する．

1. ASBJ の討議資料
2. 利益の考え方（純利益と包括利益の論文の学習）

＜予習・復習＞

予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は基準等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す．

第 4 回：IASB の概念フレームワーク（2018 年公表）／“Conceptual Framework for Financial Reporting” issued by the IASB in 2018

講義の内容

IASB の概念フレームワークの概要を理解する.

1. 構成
2. 目的と質的特性
3. 資産・負債・収益・費用・資本の定義の提案
4. 認識と認識の中止・測定
5. 純利益とその他の包括利益
6. 他

＜予習・復習＞

復習は，基準等の該当部分を確認し理解する.

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す.

学ぶべき用語・基準書

- 2018 年版フレームワーク
- 財務報告の質的特性（関連性と忠実な表現
- 財務諸表の構成要素の定義
- 資産・負債・資本・収益・費用の認識及び測定
- 財務諸表の表示・開示
- 開示イニシアチブ

第 5 回：財務諸表の表示（1）／ Presentation of financial statements (1)

講義の内容

IAS1 号　財務諸表の表示を学習する.

1. IAS1 号の目的
2. 定義
3. 基準
4. 開示

＜予習・復習＞

復習は，基準等の該当部分を確認し理解する.

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す.

学ぶべき用語・基準書

・IAS1 号

第 6 回:財務諸表の表示 (2), IAS7 号, IFRS8 号, IAS34 号／ Presentation of financial statements (2), IAS7, IFRS8, IAS34

講義の内容

IAS7 号キャッシュ・フロー計算書，IFRS8 号事業セグメント，IAS34 号期中財務報告を学習する.

1. 目的
2. 定義
3. 基準
4. 開示

＜予習・復習＞
復習は，基準等の該当部分を確認し理解する.

＜参考文献＞
必要な文献は講義で示す.

学ぶべき用語・基準書

- IAS7 号
- IFRS8 号
- IAS34 号

第 7 回：IAS8 号，IAS10 号，IFRS5 号／ IAS8, IAS10, IFRS5

講義の内容

IAS8 号会計方針，会計上の見積りの変更及び誤謬，IAS10 号後発事象，IFRS5 号売却目的で保有する非流動資産及び非継続事業について学習する．

1. 目的
2. 定義
3. 基準
4. 開示

＜予習・復習＞

復習は，基準等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・基準書

- IAS8 号
- IAS10 号
- IFRS5 号

第 8 回：中間理解度確認セッション／ Interim examination

講義の内容

これまで学習してきた前半部分の理解を確認するため，筆頭考査を実施する．範囲は適宜指定する．

第 9 回：IAS2 号，IAS23 号，IAS16 号／ IFRS2, IAS23, IAS16

講義の内容

IAS2 号棚卸資産，IAS23 号借入コスト，IAS16 号有形固定資産について学習する．

1. 目的
2. 定義
3. 基準
4. 開示

＜予習・復習＞

復習は，基準等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・基準書

- IAS2 号
- IAS23 号
- IAS16 号

第 10 回：IAS36 号，IAS38 号／ IAS36, IAS38

講義の内容

IAS36 号無形資産及び IAS38 号資産の減損について学習する．

1. 目的
2. 定義
3. 基準
4. 開示

企業結合の会計基準（IFRS3 号）との関連性にも触れる．

＜予習・復習＞
復習は，基準等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞
必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・基準書

・IAS36 号
・IAS38 号

第 11 回：IAS16 号／ IFRS16

講義の内容

IFRS16 号リースについて学習する．

1. 目的
2. 定義
3. 基準
4. 開示
5. IFRS16 号

現行のリース会計基準である IAS17 号は日本基準とほぼ同じ内容といえるが，2016 年に公表された IFRS16 号は相当内容が変更されているため，IFRS16 号を中心に説明する．

＜予習・復習＞

復習は，基準等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・基準書

・IFRS16 号

第 12 回：IIFRS15 号／ IFRS15

講義の内容

IFRS15 号顧客との契約から生じる収益について学習する．

1. 目的
2. 定義
3. 基準
4. 開示

我が国の会計実務との違いも学習する．具体的には ASBJ の収益認識に関する基準を参照することがある．

＜予習・復習＞
復習は，基準等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞
必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・基準書

・IFRS15 号

第 13 回：IAS19 号／ IAS19

講義の内容

IAS19 号従業員給付について学習する.

1. 目的
2. 定義
3. 基準
4. 開示

ASBJ の公表した我が国の会計基準とも対比しながら学習する.

＜予習・復習＞
復習は，基準等の該当部分を確認し理解する.

＜参考文献＞
必要な文献は講義で示す.

学ぶべき用語・基準書

・IAS19 号

第 14 回：IAS37 号及びその他／ IAS37 and others

講義の内容

IAS37 号引当金，偶発負債及び偶発資産及びその他の基準について学習する．

1. 目的
2. 定義
3. 基準
4. 開示

＜予習・復習＞

復習は，基準等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・基準書

- IAS37 号
- その他

第 15 回：理解度確認セッション／ /Examination

講義の内容

これまで学習してきた事項の理解を確認するため，筆頭考査を実施する．範囲は適宜指定する．

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

IFRS ２・樋口尚文／ International Financial Reporting Standards 2・Naofumi Higuchi

講義の目的／ Course Objective

金融商品，連結財務諸表などの企業グループの会計基準及び企業結合を中心に IFRS を学習する．「IFRS １」で学んだ項目以外の重要な会計基準を一通り学習し，実務家に必要な知識を習得し考え方を理解することを目標とする．

Learn IFRS standards mainly covering financial instruments, group accounting standards, such as consolidated financial statements and business combinations. The goal of this course is to study all the significant accounting standards other than those learned in "IFRS 1", and understand the knowledge necessary for practitioners.

講義の進め方

・講義の目的を達成するため適宜，補助資料を配布する．
・1 回目の講義で IFRS ２に関連する共通テーマを設定し，受講者から調査結果を発表してもらう．
・理解度確認セッションを実施する．

予習・復習について

＜予習＞
・時間に余裕があればテキストの該当箇所を読んでおくこと．
＜復習＞
・テキストや講義を基に基準書原文を読んでみること．図書室における基準書原文の結論の根拠を読んでみること．

この講義を受講するために必要とする知識

・2 年次の受講が望ましい．
・以下のいずれかがあることが極力望ましい．
　○「IFRS １」を履修済であること．
　○ 簿記または財務会計の講義（両方とも特に金融商品及び企業グループの会計並びに企業結合の箇所）を履修済みであること．
　○ 我が国の会計基準について一通りの基礎的な知識があること．
　○ 公認会計士試験の勉強をしているか，既に短答式試験に合格していること．
　○ IFRS の基準書等を英文で読むことに抵抗がないこと（講義は日本語であるが，配布資料の多くは英文を含む）．
・発表・議論・英文に抵抗がないこと．必ず 1 回は発表を行います．なお，2019 年度は 1 人につき 3 回ほど発表してもらった．

テキスト・参考文献

・参考文献等：主として以下の基準・文献等を使用・紹介する．

IFRS の各基準書　IFRS 財団
http://www.ifrs.org/
登録すると無料で基準書を入手できる．
（ウェブサイト⇒ IFRS ⇒ standards and interpretations）
橋本尚・山田善隆『IFRS 会計学基本テキスト［第 6 版］』中央経済社，2018 年.
西川郁生『会計基準の考え方　学生と語る 23 日』税務経理協会，2018 年.
その他必要に応じて講義の中で紹介する．

時間割

前期　隔週土曜 1/2 限

科目ナンバー

EAC-ACC607

成績評価法

・理解度確認セッション（50%），課題提出及び授業中の発言などの平常点（50％）で評価する．
・授業の出席が評価の前提である．
・AA(90 点以上), A(80 点以上 90 点未満), B(70 点以上 80 点未満), C(60 点以上 70 点未満), D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

講義終了後

連絡先

naofumi.higuchi.b4@tohoku.ac.jp
・連絡方法：電子メール及び講義中に伝達する．

その他（連絡事項）

・1 回目の講義には必ず出席してください．やむを得ず 2 回目や 3 回目から出席する場合は，必ず 1 回目の講義開始前までに講師まで電子メールで連絡すること．連絡がない場合は，受講をお断りする場合がある．

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

講義の目的：講義の概要，講義の進め方，成績評価，学習方法などについて説明を行う．

講義の概要：

・IFRS ２の学習の範囲
・金融商品
・公正価値測定
・連結・企業結合等
・最近の基準開発動向
・発表テーマの選定と割当て
・他

第 2 回：金融商品（1）／ Financial instruments (1)

講義の内容

金融商品会計のうち分類と測定に関する基準について理解する.

1. IFR9 号の認識及び測定
2. 日本の金融商品会計基準
3. 1・2 の考察
4. その他

＜予習・復習＞

認識と測定に関する概要を理解する.

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す.

この講義で学ぶ基準書

- IFRS9 号
- 金融商品会計基準

第 3 回：金融商品（2）／ Financial Instruments (2)

講義の内容

金融商品会計のうち認識の中止に関する基準について理解する.

1. IFRS9 号の認識の中止
2. 日本の金融商品会計基準
3. 1・2・3 の考察
4. その他

この講義で学ぶ基準書

- IFRS9 号
- 金融商品会計基準

第 4 回：金融商品（3）／ Financial Instruments (3)

講義の内容

金融商品会計のうち減損及びヘッジ会計を学習し理解する.

1. IFRS9 号減損及びヘッジ会計
2. 日本の金融商品会計基準
3. 1・2 の考察

＜予習・復習＞

復習は，基準等の該当部分を確認し理解する.

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す.

この講義で学ぶ基準書

- IFRS9 号
- 金融商品会計基準

第 5 回：金融商品（4）／ Financial Instruments (4)

講義の内容

金融商品の表示および開示を学習する.

1. IAS32 号（表示：特に負債と資本の区分，金融資産と金融負債の相殺）
2. IFRS7 号（開示）

＜予習・復習＞

復習は，基準等の該当部分を確認し理解する.

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す.

この講義で学ぶ基準書

- IAS32 号
- IFRS7 号

第 6 回：IFRS13 号／ IFRS13

講義の内容

IFRS13 号公正価値測定を学習する.
特に市場相場のない金融商品・非金融商品の評価技法の概要を理解する.

＜予習・復習＞
復習は，基準等の該当部分を確認し理解する.

＜参考文献＞
必要な文献は講義で示す.

この講義で学ぶ基準書

- IFRS13 号
- IASB 公表の教育文書

第 7 回：IFRS10 号，IAS27 号／ IFRS10, IAS27

講義の内容

IFRS10 号連結財務諸表，IAS27 号個別財務諸表を学習する．

1. 目的
2. 定義
3. 基準
4. 開示

＜予習・復習＞

復習は，基準等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す．

この講義で学ぶ基準書

- IFRS10 号
- IAS27 号

第 8 回：IAS28 号，IFRS11 号／ IAS28, IFRS11

講義の内容

IAS28 号関連会社に対する投資，IFRS11 号共同支配の取決めについて学習する．

1. 目的
2. 定義
3. 基準
4. 開示

＜予習・復習＞
復習は，基準等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞
必要な文献は講義で示す．

この講義で学ぶ基準書

- IAS28 号
- IFRS11 号

第 9 回：IFRS12 号，IAS24 号・・・企業集団の開示／ IFRS12, IAS24・・・Disclosures of group

講義の内容

IFRS12 号他の企業への関与の開示，IAS24 号関連当事者の開示について学習する．

1. 目的
2. 定義
3. 基準
4. 開示

＜予習・復習＞

復習は，基準等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す．

この講義で学ぶ基準書

- IFRS12 号
- IAS24 号

第 10 回：IFRS3 号（1）／ IFRS3 (1)

講義の内容

IFRS3 号企業結合についての基準の基本構造を学習する.

1. 目的
2. 定義
3. 基準
4. 開示

＜予習・復習＞
復習は，基準等の該当部分を確認し理解する.

＜参考文献＞
必要な文献は講義で示す.

この講義で学ぶ基準書

・IFRS3 号

第 11 回：IFRS3 号（2）／ IFRS(2)

講義の内容

IFRS3 号企業結合について，基準設定の背景，我が国基準との対比について学習する．

この講義で学ぶ基準書

・IFRS3 号

＜予習・復習＞

復習は，基準等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す．

第 12 回：報告とディスカッションその（1）／ Report and discussion (1)

講義の内容

報告とディスカッションを実施する.

第 13 回：報告とディスカッションその（2）／ Report and discussion (2)

講義の内容

報告とディスカッションを実施する.

第 14 回：報告とディスカッションその（3）／ Report and discussion (3)

講義の内容

報告とディスカッションを実施する.

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

・理解度確認セッションを実施する.
・範囲は適宜指示する.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

財務会計の理論と実証・尾関規正／ Financial Accounting Theory and Analysis・Norimasa Ozeki

講義の目的／ Course Objective

本講義の目的は，財務会計が果たす役割を理論と実証の両面から考察することです．財務会計をよりよく理解するためには，会計規則の知識だけに留まらず，財務会計が関係者の意思決定にどのように使われ，また，どのようにして経済的な影響を及ぼしているのかという点を考えることが有用です．このような問いに対し，財務会計領域では実証研究と呼ばれる研究が活発に行われています．実証研究では，上場企業の財務諸表や株価などの観察できるデータを使って，企業を取り巻く経営者や投資家の意思決定の仕組みを実証的に分析します．本講義では，これまでの財務会計の実証研究の中でも，その後の多くの研究に影響した初期の研究を振り返ると共に，その後の進展につながるトピックスを幅広く取り扱います．それぞれの研究を通じて，理論的な背景から導かれる問題意識や仮説を理解し，実証結果が持つ意味や将来に向けた課題を議論します．

The purpose of this course is to examine theoretically and empirically the role of financial accounting. In order to better understand financial accounting, we should understand not only accounting rules, but also how financial accounting is used in decision-making by stakeholders and managers and has economic consequences. For these research questions, empirical research has been actively conducted in academic field of financial accounting. Empirical research analyze the decision-making mechanisms of managers and investors based on observable data such as financial statements and stock prices of listed companies.

In this course, we will review earlier studies that have influenced many of the later studies in empirical research on financial accounting, and will also cover various topics following them. This course offers, through each study, to understand the research questions and hypotheses developed from the theoretical background and to argue the implications of the empirical results and future issues.

講義の進め方

担当教員が各回の講義で取り扱う論文を事前に指定し，各回の講義では受講者が指定された論文に基づいて分担して報告を行います．講義は受講者による報告をベースに進めますが，担当教員が報告の前後や報告中に補足的に説明を加えることがあります．なお，受講者数に応じて講義の進め方を変更する場合があります．

予習・復習について

各回の報告を担当する受講者は，指定された論文について報告を行うための準備をする必要があります．また，毎回の論文について一定の様式を埋める形で内容を要約・整理したレポートを毎回の講義で提出することを受講者の全員に対して求めます．

この講義を受講するために必要とする知識

個々の会計規則に関する詳細な説明は行いませんので，財務会計に関する基本的な知識を既に修得していることが望ましいです．また，経済学やファイナンスの知識があれば，より深い理解につながります．指定する論文は全て英語文献ですので，英語の読解能力が必要です．

テキスト・参考文献

・テキスト：特に使用しません．初回講義で各回の講義で扱う論文の一覧を配布します．各回のページに示した論文を取り扱う予定ですが必要に応じて変更する場合があります．

・参考文献：Scott, W. R., and Patricia C O'Brien, *Financial Accounting Theory 8th edition*, Prentice Hall.（太田康広・椎葉淳・西谷順平訳（2009）『財務会計の理論と実証』中央経済社．※原著第 4 版の邦訳）, 2019 年.

Watts, Ross L, and Jerold L Zimmerman, *Positive Accounting Theory*, Prentice Hall, 1986 年（須田一幸訳『実証理論としての会計学』白桃書房，1991 年）.

伊藤邦雄・桜井久勝編著『会計情報の有用性（体系現代会計学第 3 巻）』中央経済社，2014 年.

大日方隆『アドバンスト財務会計［第 2 版］』中央経済社，2013 年.

桜井久勝『会計利益情報の有用性』千倉書房，1991 年.

桜井久勝編著『企業価値評価の実証分析』中央経済社.

首藤昭信『日本企業の利益調整 理論と実証』中央経済社，2010 年.

須田一幸『財務会計の機能 理論と実証』白桃書房，2000 年.

須田一幸・山本達司・乙政正太（2007）『会計操作 その実態と識別方, 株価への影響』ダイヤモンド社, 2007 年.

田村威文・中条祐介・浅野信博『会計学の手法 実証・分析・実験によるアプロー チ』中央経済社，2015 年.

徳賀芳弘・大日方隆編著『財務会計研究の回顧と展望』中央経済社，2013 年.

時間割

後期　水曜 7 限

科目ナンバー

EAC-ACC609

成績評価法

・各回のレポートおよび報告による平常点（70%），期末レポート（30%）で評価する．

・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

水曜日
18:00-19:30

連絡先

nozeki@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

本講義は全 15 回で構成され，講義計画は以下の通りです.
その他，講義の進め方や成績評価に関するオリエンテーションを行います.
なお，各回で取り扱う論文は受講者と相談して変更する場合があります.

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation
第 2 回：資本市場研究の概観とイベント・スタディ／ Overview of Capital market research; Event study
第 3 回：利益と株価の関連／ Association study between earnings and stock price
第 4 回：利益反応係数／ Earning response coefficients
第 5 回：企業価値評価／ Valuation
第 6 回：資本コストの推定／ Implied cost of capital
第 7 回：契約・エージェンシー理論に基づく研究の概観と利益マネジメント／ Overview of Contracting and Agency Theory research; Earnings management
第 8 回：利益マネジメントの動機／ Incentives for earnings management
第 9 回：利益ベンチマークの達成／ Meeting or beating earnings expectations
第 10 回：経営者予想利益／ Management earnings forecasts
第 11 回：会計発生高アノマリー／ Accruals Anomaly
第 12 回：保守主義／ Conservatism
第 13 回：不正会計／ Fraud
第 14 回：不正会計とコーポレート・ガバナンス／ Fraud and corporate governance
第 15 回：近年の研究トピックス／ Recent research topics

＜宿題＞
（全員）次回講義で扱う論文を読み, その内容や疑問点等を要約したレポートを作成します.
（報告予定者）担当範囲について，報告の準備を行います.

第 2 回：資本市場研究の概観とイベント・スタディ／ Overview of Capital market research; Event study

講義の内容

財務会計の実証研究領域における，資本市場研究について概観します.

財務会計の実証研究の先駆けとなったイベント・スタディに関する初期の研究を通じて，その含意や課題を議論します.

Beaver, W. H., The Information Content of Annual Earnings Announcements. *Journal of Accounting Research*, 6(Supplement), 67–92, 1968 年 .

＜宿題＞

（全員）次回講義で扱う論文を読み, その内容や疑問点等を要約したレポートを作成します.

（報告予定者）担当範囲について，報告の準備を行います.

学ぶべき用語・ポイント

- 財務会計の機能
- 実証研究
- 意思決定有用性
- 資本市場研究
- 市場の効率性
- イベント・スタディ

第 3 回：利益と株価の関連／ Association study between earnings and stock price

講義の内容

財務会計の実証研究の先駆けとなった利益と株価の関連性に関する初期の研究を通じて，その含意や課題を議論します.

Ball, R., and Brown, P., An Empirical Evaluation of Accounting Income Numbers. *Journal of Accounting Research*, 6(2), 159–178, 1968 年 .

＜宿題＞

（全員）次回講義で扱う論文を読み, その内容や疑問点等を要約したレポートを作成します.

（報告予定者）担当範囲について，報告の準備を行います.

学ぶべき用語・ポイント

- 期待外利益
- 期待外リターン

第 4 回：利益反応係数／ Earning response coefficients

講義の内容

利益反応係数に関する以下の論文を通じて，その含意や課題を議論します.

Keung, E., Lin, Z. X., and Shih, M., Does the stock market see a zero or small positive earnings surprise as a red flag? *Journal of Accounting Research*, 48(1), 105–135, 2010 年 .

＜宿題＞

（全員）次回講義で扱う論文を読み, その内容や疑問点等を要約したレポートを作成します.

（報告予定者）担当範囲について，報告の準備を行います.

学ぶべき用語・ポイント

・利益反応係数

第 5 回：企業価値評価／ Valuation

講義の内容

企業価値評価に関する以下の論文を通じて，その含意や課題を議論します.

Frankel, R., and Lee, C. M. C., Accounting valuation, market expectation, and cross-sectional stock returns. *Journal of Accounting and Economics*, 25(3), 283–319, 1998 年 .

学ぶべき用語・ポイント

- 企業価値評価
- クリーン・サープラス
- 残余利益モデル
- アナリスト予想利益

＜宿題＞

（全員）次回講義で扱う論文を読み, その内容や疑問点等を要約したレポートを作成します.

（報告予定者）担当範囲について，報告の準備を行います.

第 6 回：資本コストの推定／ Implied cost of capital

講義の内容

資本コストの推定に関する以下の論文を通じて，その含意や課題について議論します.

Gode, D., and Mohanram, P., Inferring the cost of capital using the Ohlson-Juettner model. *JReview of Accounting Studies*, 8(4), 399–431, 2003 年 .

＜宿題＞

（全員）次回講義で扱う論文を読み, その内容や疑問点等を要約したレポートを作成します.

（報告予定者）担当範囲について，報告の準備を行います.

学ぶべき用語・ポイント

- CAPM
- 資本コスト
- インプライド資本コスト
- 異常利益成長モデル

第 7 回：契約理論・エージェンシー理論に基づく研究の概観と利益マネジメント／Overview of Contracting and Agency Theory research; Earnings management

講義の内容

財務会計の実証研究領域における，契約・エージェンシー理論をベースとした研究について概観します.

利益マネジメントに関する初期の論文を通じて，その含意や課題について議論します.

Healy, P. M., The effect of bonus schemes on accounting decisions. *Journal of Accounting and Economics*, 7(1–3), 85–107, 1985 年 .

＜宿題＞

（全員）次回講義で扱う論文を読み, その内容や疑問点等を要約したレポートを作成します.

（報告予定者）担当範囲について，報告の準備を行います.

学ぶべき用語・ポイント

- 契約理論
- エージェンシー理論
- 経営者行動
- 利益マネジメント
- 債務契約
- 経営者報酬
- 規制回避

第 8 回：利益マネジメントの動機／ Incentives for earnings management

講義の内容

利益マネジメントを行う動機や目的に関する以下の論文を通じて，その含意や課題について議論します.

Burgstahler, D., and Dichev, I.. Earnings Management to Avoid Earnings Decreases and Losses. *Journal of Accounting and Economics*, 24(1), 99–126, 1997 年 .

＜宿題＞

（全員）次回講義で扱う論文を読み, その内容や疑問点等を要約したレポートを作成します.

（報告予定者）担当範囲について，報告の準備を行います.

学ぶべき用語・ポイント

・損失回避
・減益回避

第 9 回：利益ベンチマークの達成／ Meeting or beating earnings expectations

講義の内容

利益ベンチマークの達成に関する以下の論文を通じて，その含意や課題について議論します.

Kasznik, R., and McNichols, M. F., Does Meeting Earnings Expectations Matter? Evidence from Analyst Forecast Revisions and Share Prices. *Journal of Accounting Research*, 40(3), 727–759, 2002 年 .

＜宿題＞

（全員）次回講義で扱う論文を読み, その内容や疑問点等を要約したレポートを作成します.

（報告予定者）担当範囲について，報告の準備を行います

学ぶべき用語・ポイント

- 業績予想
- アナリスト予想利益

第 10 回：経営者予想利益／ Management earnings forecasts

講義の内容

日本の制度的な特徴である経営者予想利益の開示を扱った以下の論文を通じて，その含意や課題について議論します.

Kato, K., Skinner, D. J., and Kunimura, M., Management forecasts in Japan: An empirical study of forecasts that are effectively mandated. *The Accounting Review*, 84(5), 1575–1606, 2009 年.

＜宿題＞

（全員）次回講義で扱う論文を読み, その内容や疑問点等を要約したレポートを作成します.

（報告予定者）担当範囲について，報告の準備を行います.

学ぶべき用語・ポイント

- 経営者予想利益
- 業績予想の信頼性

第 11 回：会計発生高アノマリー／ Accruals Anomaly

講義の内容

会計発生高アノマリーに関する以下の論文を通じて, その含意や課題について議論します.

Xie, H., The mispricing of abnormal accruals. *The Accounting Review*, 76(3), 357–373, 2001 年.

＜宿題＞

（全員）次回講義で扱う論文を読み, その内容や疑問点等を要約したレポートを作成します.

（報告予定者）担当範囲について, 報告の準備を行います.

学ぶべき用語・ポイント

- アノマリー
- 会計発生高
- 異常会計発生高
- 投資家のミスプライシング

第 12 回：保守主義／ Conservatism

講義の内容

保守主義に関する以下の論文を通じて，その含意や課題について議論します.

Basu, S., The conservatism principle and the asymmetric timeliness of earnings. *Journal of Accounting and Economics*, 24(1), 3–37, 1997 年 .

＜宿題＞

（全員）次回講義で扱う論文を読み, その内容や疑問点等を要約したレポートを作成します.

（報告予定者）担当範囲について，報告の準備を行います.

学ぶべき用語・ポイント

・保守主義

第 13 回：不正会計／ Fraud

講義の内容

不正会計に関する以下の論文を通じて，その含意や課題について議論します.

Dechow, P. M., Sloan, R. G., and Sweeny, A. P., Causes and consequences of earnings manipulations: an analysis of firm subject enforcement action by the SEC. *Contemporary Accounting Research*, 13(1), 1–32, 1996 年.

＜宿題＞

（全員）次回講義で扱う論文を読み, その内容や疑問点等を要約したレポートを作成します.

（報告予定者）担当範囲について，報告の準備を行います.

学ぶべき用語・ポイント

- 不正会計
- AAER
- 不正会計の原因（動機・機会）
- 不正会計による経済的帰結

第 14 回：不正会計とコーポレート・ガバナンス／ Fraud and corporate governance

講義の内容

不正会計とコーポレート・ガバナンスに関する以下の論文を通じて，その含意や課題について議論します.

Farber, D. B., Restoring trust after fraud: Does corporate governance matter? *The Accounting Review*, 80(2), 539–561, 2005 年.

＜宿題＞

（全員）次回講義で扱う論文を読み, その内容や疑問点等を要約したレポートを作成します.

（報告予定者）担当範囲について，報告の準備を行います.

学ぶべき用語・ポイント

- 不正会計
- コーポレート・ガバナンス
- 財務報告の信頼性

第 15 回：近年の研究トピックス／ Recent research topics

講義の内容

各受講者の関心に基づいて，財務会計の実証研究領域における近年の研究を取り上げ，近年の研究動向をフォローすると共にその含意と将来に向けた課題について議論します．

＜宿題＞

（全員）各自が関心を持つトピックスに基づいて，近年公刊された論文を一つ選択し，報告する準備を行います．なお, 最終回の報告はそのまま期末レポートとしてまとめます．

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

事例研究（IFRS）・樋口尚文／

Case Study (International Financial Reporting Standards)・Naofumi Higuchi

講義の目的／ Course Objective

IASB（国際会計基準審議会）や米国 FASB（財務会計審議会）等における会計基準のコンバージェンスのトピックスに加え，IFRS を適用している企業の事例や我が国における検討課題等について前半（1 回目～ 5 回目）で一通り講義する．

また，会計基準に限らない，国際的な会計･監査のトピックについて 6 回目で講義する．

後半（7 回目以降）は，ディスカッションや受講者による発表により，IFRS についての会計政策や個々の基準の設定理解を深め，将来財務諸表作成者・監査人・利用者等の実務家になった場合でも，対応できるような考えを身に付けることを目標にする（テーマは受講者との間で協議して決めるが，昨年は，外国企業の米国での資金調達における会計基準の論点，ESMA による執行決定などを取り上げた．ただし，これらのテーマにこだわらない）．

The topics of convergence about the accounting standards issued by both the IASB (International Accounting Standards Board) and the US FASB (Financial Accounting Standards Board) will be discussed in the first half of the course, including case studies of companies applying IFRS and practical issues in Japan.

In addition to the accounting standards, topics of international accounting and auditing will be discussed.

In the latter half of the course (from the 7th session), it is planned that students discuss and prepare presentations. It would enhance an in-depth understanding of accounting policies and individual standards of IFRS so that students could respond to the practical issues when they become practitioners as preparers, auditors and users of financial statements in the future. (Theme will be determined in consultation with the participants. In the last year, the discussion covered, accounting standards issues by foreign private issuers in the U.S. and enforcement decisions by ESMA, etc., but not limited to these topics).

講義の進め方

教員による講義（前半）と，受講生（グループ）によるプレゼンテーションとそれに対する受講生や教員によるコメントとを組み合わせて講義（後半）を進める他，レポートを課す場合がある．

予習・復習について

講義後の復習は必要になる．また，プレゼンテーションを行う者は割り当てられた検討内容を報告するため，事前準備が必要となる．おおよそ発表時間よりも相当多くの時間を費やすことが想定される．

この講義を受講するために必要とする知識

・どちらかというと 2 年次の受講が望ましい．
・要件として以下のいずれかがあることが極力望ましい．
　○「IFRS 1」及び「IFRS 2」を履修済もしくは同時に受講すること．
　○ 簿記または財務会計の講義を履修済み　　であること．
　○ 我が国の会計基準について一通りの基礎的な知識があること．
　○ 公認会計士試験の勉強をしているか，既に短答式試験に合格していること．
・IFRS の基準書等を英文で読むことに抵抗がないこと（講義や会話の言語は日本語であるが，配布資料の多くは英文を含む）．
・発表・議論に抵抗がないこと．

テキスト・参考文献

講義で紹介する．

時間割

後期　土曜 4 限

科目ナンバー

EAC-ACC610

成績評価法

・平常点（講義への出席，プレゼンテーション，コメント，講義中提示する課題等）で評価する．理解度確認セッションは行わない．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

講義終了後（土曜午後）

連絡先

naofumi.higuchi.b4@tohoku.ac.jp
・連絡方法：電子メール及び講義中に伝達する．

その他（連絡事項）

・1 回目の講義には必ず出席してください．やむを得ず 2 回目から出席する場合は，必ず 1 回目の講義前までに講師まで電子メールで連絡すること．連絡がない場合は，受講をお断りする場合がある．
・発表の準備が不十分な場合，単位付与ができないので，講義期間の途中で登録の取り下げを勧告することがある．特に大学院修了単位に本講義を組み込む予定の方は，このことについて事前に承知していただきたい．

講義の予定／ Course plan

第 1 回：オリエンテーション / First session: Orientation

講義の内容，進め方，成績評価の方法について説明する．

講義の概要：

第 2 回～第 15 回 / From second to 15th session

具体的な講義の進め方や講義の内容は, 履修する受講生の人数や要望によって臨機応変に対応するが, 現時点では以下のような進め方を考えている．

・我が国の会計基準コンバージェンスの背景，我が国への IFRS 導入の議論，諸外国の状況.
・何らかのトピックを設定して，関連する IFRS，米国会計基準及び日本基準について，受講者からの報告と報告資料に基づいて討議を行う．
・必ず講義受講者全体の前での発表が必要になる．

The specific procedure and nature of the course would be flexibly determined to respond to the number of students and requests by students. At present, the following method is considered.

・The background of Japanese accounting standards convergence, discussions on the introduction of IFRS in Japan, and situations in other countries.
・Set up and discuss topics relevant to IFRS, US GAAP and Japanese GAAP based on reports from participants and reported materials.
・It is necessary to prepare presentations in front of all the participants.

＜宿題：Homework ＞

講義の終盤（冬休み）に宿題（レポート）を課す場合がある．

Homework (report) may be necessary at the later part of the course (during the winter break).

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

管理会計 1 ・青木雅明／ Management Accounting 1・Masaaki Aoki

講義の目的／ Course Objective

・管理会計の基礎を身につける.
・会計情報（非財務情報も含む）が企業における意思決定や業績評価においてどのように利用されるかを具体的に理解する.
・会計数値の意味を理解する.

The purposes of this lecture are:

・To learn the basic knowledge of management accounting,
・To understand the role of non-financial information in decision making and performance evaluation, and
・To understand what accounting information means.

講義の進め方

・原則として，1 回の講義で 1 章を学習するというペースで講義を進めていく.
・この講義では管理会計の基礎を学ぶので，今後管理会計を学んでいく上で必要となるトピックについては十分に時間をかけて説明を行う.
・原則として，講義毎に宿題を課す．また，必要に応じて小テストも行う.
・理解度確認セッション 1 と理解度確認セッション 2 を行う.

予習・復習について

＜予習＞
・講義はテキストを読んでいることを前提として行うので，テキストを事前に読んでくること.
・欄外にある「学ぶべき用語・ポイント」に書かれている用語の意味を調べること.
＜復習＞
・テキスト章末にある “PROBLEM FOR SELF-STUDY” を自分で解くこと.
・宿題を解き，「学ぶべき用語・ポイント」に示されている用語の意味を確認すること.
・宿題以外の問題についても自主的に学習することを期待する.
・宿題は自分で考えること．宿題の解答が類似している場合，類似している答案を全て 0 点とする.

この講義を受講するために必要とする知識

会計や原価計算に関する基礎的知識を有していること．たとえば，学部で会計学関連の科目や原価計算・管理会計の科目を履修していることが望ましい．工業簿記 2 級程度の知識があれば十分.

テキスト・参考文献

・Horngren, C. T., S. M. Datar, and M. Rajan, *Cost Accounting: A Managerial Emphasis* (16th ed.), Prentice-Hall, 2017.
・青木雅明『管理会計』同文館，2005 年.
・上埜進・青木雅明編著『管理会計演習－理論と計算－』税務経理協会，2011 年.
・小沢浩『詳解　コストマネジメント』同文館，2011 年 .
・参考資料・参考文献は必要に応じて講義の中で紹介する.

時間割

後期　火曜 2 限

科目ナンバー

EAC-ACC506

成績評価法

・宿題（60%），理解度確認セッション 1（20%），理解度確認セッション 2（20%）で評価する.
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

月曜日
10:00-12:00

連絡先

022-217-6279
maoki@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・英文のテキストを利用するが，英語自体の解説は行わない.
・「管理会計 1 ・ 2」でテキスト全てを説明する．このため，次セメスターに開講される「管理会計 2」を続けて受講するのが望ましい.
・予習・復習を必ず行うこと.
・講義に関する連絡は全てメールで行う.
・講義資料等はすべてホームページに掲示する.

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

講義の目的：

講義の概要，講義の進め方，成績評価，学習方法（予習・復習）などについてシラバスを用いて説明を行う．

講義の概要：

以下の内容を学習する．それぞれについて簡単に説明する．

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation
第 2 回：組織における会計人の役割（第 1 章）／
The Manager and Management Accounting
第 3 回：管理会計で用いる基礎的用語と原価計算の目的（第 2 章）／
An Introduction to Cost Terms and Purposes
第 4 回：CVP 分析（第 3 章）／ CVP Analysis (Chapter 3)
第 5 回：個別原価計算（第 4 章）／ Job Costing (Chapter 4)
第 6 回：Activity-Based Costing（第 5 章）／ Activity-Based Costing (Chapter 5)
第 7 回：理解度確認セッション 1 ／ Quiz 01
第 8 回：総合予算と責任会計（第 6 章）／ Master Budget and Responsibility Accounting
第 9 回：変動予算，直接費差異，マネジメント・コントロール（第 7 章）／
Flexible Budgets, Direct-Cost Variances, and Management Control
第 10 回：変動予算，間接費差異，マネジメント・コントロール（第 8 章）／
Flexible Budgets, Overhead Cost Variances, and Management Control
第 11 回：予算の総括／ Summary of Master Budgets
第 12 回：在庫評価とキャパシティ分析（第 9 章）／
Inventory Costing and Capacity Analysis
第 13 回：原価態様（第 10 章）／ Determining How Costs Behave
第 14 回：意思決定と関連情報（第 11 章）／ Decision Making and Relevant Information
第 15 回：理解度確認セッション 2 ／ Quiz 02

参考：テキストを利用した学習法（予習・復習）

- 欄外にある「学ぶべき用語・ポイント」に書かれている用語は，テキスト巻末にある Glossary で調べること．
- テキスト章末にある “Decision Points” を読み，ここで示されている質問に答えられるかどうかを確認すること．もし，答えられない場合には，テキストをもう一度読み返すこと．
- テキスト章末にある “Assignment Material” を各自解き，解答を作成すること．この問題に答えられない場合，テキストの内容を理解していないと考えられるので，テキストをもう一度読み返すこと．

学ぶべき用語・ポイント

次回からの講義では，予習としてこの欄に書いてある用語の意味を調べてくること．

第 2 回：組織における会計人の役割／ The Manager and Management Accounting

講義の内容

1. 管理会計と財務会計の違いを理解すること.
2. 管理会計担当者が戦略的な意思決定にどのような影響を与えているか理解すること.
3. 価値連鎖（Value Chain）に含まれるビジネスの機能を理解すること．そして，顧客が企業に対して何を期待しているか理解すること.
4. 5 段階からなる意思決定プロセスを理解し，管理会計においてどのような役割を果たしているのかを理解すること.
5. 管理会計担当者が，管理者を支援していく際に従うべき 3 つのガイドラインを理解すること.
6. 管理会計をどのようにして組織構造に適合させていくかを理解すること.
7. 会計専門家としての倫理が管理会計担当者にとってどのような意味を持つのか理解すること.

＜復習＞

・Problem for Self-Study を解くこと.
・欄外「学ぶべき用語・ポイント」にある用語の意味を調べ理解すること.
・Decision Points を読み，学習目的を理解すること.

＜宿題＞

・講義の時に指示する.

＜より進んだ学習＞

・Exhibit 1-7“Standard of Ethical Conduct for Management Accountants” を読み，管理会計担当者に求められている倫理観を理解すること.
・Exhibit 1-8“Resolution of Conflict” を読み，倫理上の問題が生じた場合について，その対処方法を理解すること.

学ぶべき用語・ポイント

・budget（予算）
・control（コントロール，統制）
・controller
・cost accounting
・cost-benefit approach
・cost management
・customer service
・distribution
・financial accounting
・line management
・management accounting
・marketing
・planning
・research and development
・scorekeeping
・staff management
・strategic cost management
・strategy
・supply chain
・value chain

第 3 回：管理会計で用いる基礎的用語と原価計算の目的／
An Introduction to Cost Terms and Purposes

講義の内容

1. 原価対象（cost object）を具体的に説明できるようになること.
2. 直接費と間接費の違いを理解すること.
3. 変動費と固定費の違いを理解し，説明できるようになること.
4. 単位原価を解釈する際に注意すべき点を理解すること.
5. 棚卸原価と期間費用の違いを理解すること.
6. 目的の違いによって製品原価が異なる方法で計算される理由を理解すること.
7. 原価計算と管理会計のフレームワークの違いを理解すること.

＜復習＞

・Problem for Self-Study を解くこと.
・欄外「学ぶべき用語・ポイント」にある用語の意味を調べ理解すること.
・Decision Points を読み，学習目的を理解すること.

＜宿題＞

・講義の時に指示する.

＜より進んだ学習＞

・2-1 から 2-15 の解答を英語で書いてみること.

学ぶべき用語・ポイント

- actual cost（実際原価）
- average cost（平均原価）
- budgeted cost（予算原価）
- conversion cost（加工費）
- cost accumulation
- cost allocation
- cost assignment
- cost driver
- cost object
- cost of goods manufactured
- cost tracing
- direct costs of a cost object
- direct manufacturing labor costs
- direct material costs
- factory overhead costs
- finished goods inventory
- fixed costs
- indirect manufacturing costs
- inventoriable costs
- manufacturing overhead costs
- operating income
- overtime premium
- period costs
- prime costs
- product cost
- relevant range
- revenues
- unit cost
- variable cost
- work in progress

第 4 回：CVP 分析／ CVP Analysis (Chapter 3)

講義の内容

1. CVP 分析の特徴を理解すること.
2. 損益分岐点や目標利益を達成するために必要なアウトプット水準を計算できるようになること.
3. 所得税が CVP 分析にどのように影響を与えるか理解すること.
4. 意思決定を行う際，管理者が CVP 分析をどのように利用するのか理解すること.
5. 不確実性を扱う際，感度分析がどのように利用されるのかを理解すること.
6. 変動費と固定費の計画を立てる場合，CVP 分析をどのように利用するかを理解すること.
7. 多品種製品を生産している企業にどのように CVP 分析を適用するかを理解すること.

＜復習＞

・Problem for Self-Study を解くこと.
・欄外「学ぶべき用語・ポイント」にある用語の意味を調べ理解すること.
・Decision Points を読み，学習目的を理解すること.

＜宿題＞

・講義の時に指示する.

＜より進んだ学習＞

・テキスト章末にある “Appendix: Decision Models and Uncertainty” を読み，CVP モデルに不確実性を導入した場合について理解すること.

学ぶべき用語・ポイント

- breakeven point（損益分岐点）
- choice criterion（選択規準）
- contribution income statement
- contribution margin
- contribution margin ratio
- degree of operating leverage
- expected money value
- gross margin percentage
- margin of safety
- net income
- operating leverage
- PV graph
- revenue driver
- sales mix
- sensitivity analysis
- uncertainty

第 5 回：個別原価計算／ Job Costing (Chapter 4)

講義の内容

1. 原価計算システムを building-block の概念で表現する方法を理解すること.
2. 個別原価計算と総合原価計算の違いを理解すること.
3. 個別原価計算を評価し，実行するためのアプローチを理解すること.
4. 正常原価計算を行う 7 段階の手続きを理解すること.
5. 実際原価計算と正常原価計算の違いを理解すること.
6. 個別原価計算システムにおけるコストの流れを理解すること.
7. 期末において過少配賦と配賦超過を調整する方法を理解すること.
8. 正常原価計算の変化形を理解すること.

＜復習＞

・Problem for Self-Study を解くこと.
・欄外「学ぶべき用語・ポイント」にある用語の意味を調べ理解すること.
・Decision Points を読み，学習目的を理解すること.

＜宿題＞

・講義の時に指示する.

＜より進んだ学習＞

・講義では記帳に関する説明は行わないので，各自，学習すること（この章で説明されている記帳手続を理解するためには，日商簿記検定 2 級工業簿記の知識があれば十分である）.

学ぶべき用語・ポイント

・actual costing（実際原価計算）
・actual indirect-cost rate
・budgeted indirect-cost rate
・cost-allocation base
・cost-application base
・cost pool
・job
・job-costing system
・manufacturing overhead allocated
・manufacturing overhead applied
・normal costing
・overallocated indirect costs
・process-costing system
・proration
・source document
・underallocated indirect costs

第 6 回：Activity-Based Costing ／ Activity-Based Costing (Chapter 5)

講義の内容

1. 単一の配賦率を用いた場合，製品やサービスのコストが過大に計算されたり，過小に計算される理由を理解すること.
2. 原価計算システムを洗練していくための 3 つのガイドラインを理解すること.
3. 単純な原価計算システム（伝統的な原価計算システム）と ABC の違いを理解すること.
4. ABC における 4 つの原価階層を理解すること.
5. ABC を用いて製品やサービスの原価を計算する方法を理解すること.
6. ABC のシステムを実行する際のコスト・ベネフィットを理解すること.
7. ABM において ABC の情報がどのように用いられるかを理解すること.
8. ABC による原価計算システムと部門別原価計算の違いを理解すること.

＜復習＞

・Problem for Self-Study を解くこと.
・欄外「学ぶべき用語・ポイント」にある用語の意味を調べ理解すること.
・Decision Points を読み，学習目的を理解すること.

＜宿題＞

・講義の時に指示する.

＜より進んだ学習＞

・“Concept in Action: Successfully Championing ABC” を読み，ABC を適切に導入するためには何が必要か考えよ
・“Concept in Action: Time-Driven Activity-Based Costing at Charles Scwab” を読み，Time-Driven Activity-Based Costing とはどのようなものか，大まかに理解すること.

＜参考文献（Time-Driven Activity-Based Costing に関するもの）＞

・Kaplan, R. S. and S. R. Anderson, “The Innovation of Time-Driven Activity-Based Costing,” *Cost Management*, March-April 2007, pp.5-15.
・Kaplan, R. S. and S. R. Anderson, *Time-Driven Activity-Based Costing* (Boston, MA:Harvard Business Press, 2007).

学ぶべき用語・ポイント

・activity
・activity-based management
・batch-level costs
・cost hierarchy
・facility-sustaining costs
・output unit-level costs
・product overcosting
・product-sustaining costs
・product undercosting
・refined costing system
・service-sustaining costs

第 7 回：理解度確認セッション 1 ／ Quiz 01

講義の内容

1. テキストの第 2 章から第 5 章で学習した内容について理解度確認セッション 1 を行う.
2. 公認会計士短答式試験レベルの問題を出題する.
3. テキスト・ノート等の持ち込みは一切認めない.
4. 電卓を忘れないこと.
5. 解答と解説は HP に掲示するので，間違った問題を必ず復習すること.

第 8 回：総合予算と責任会計／ Master Budget and Responsibility Accounting

講義の内容

1. 総合予算を理解し，その利点を説明できるようになること.
2. 予算の利点を理解すること.
3. 業務予算の編成手続を理解すること.
4. 感度分析を行う際に用いられる，パソコンベースの財務計画モデルを理解すること.
5. 責任センターと責任会計を理解すること.
6. 予算編成における人間的な側面を認識すること.
7. 多国籍企業における予算編成上の問題を理解すること.

＜復習＞

・Problem for Self-Study を解くこと.
・欄外「学ぶべき用語・ポイント」にある用語の意味を調べ理解すること.
・Decision Points を読み，学習目的を理解すること.

＜宿題＞

・講義の時に指示する.

＜より進んだ学習＞

・“Appendix: The Cash Budget” を読み，現金予算の役割を理解すること.

学ぶべき用語・ポイント

- activity-based budgeting（ABB）
- budgetary slack
- cash budget
- continuous budget
- controllability
- controllable cost
- cost center
- financial budget
- investment center
- kaizen budgeting
- master budget
- operating budget
- pro forma statement
- profit center
- responsibility accounting
- revenue center
- rolling budget

第 9 回：変動予算，直接費差異，マネジメント・コントロール／
Flexible Budgets, Direct-Cost Variances, and Management Control

講義の内容

1. 固定予算と変動予算の違いを理解すること.
2. 変動予算の概念を検討し，どのように策定するのかを学ぶこと.
3. 変動予算差異と売上高差異の計算を理解すること.
4. 標準原価が差異分析において利用される理由を理解すること.
5. 直接費について，価格差異と能率差異の計算方法を理解すること.
6. 管理者が差異をどのように利用するか理解すること.
7. ベンチマーキングについて理解し，コスト・マネジメントにおける役割を説明できるようになること.

＜復習＞
・Problem for Self-Study を解くこと.
・欄外「学ぶべき用語・ポイント」にある用語の意味を調べ理解すること.
・Decision Points を読み，学習目的を理解すること.

＜宿題＞
・講義の時に指示する.

＜より進んだ学習＞
・“Concepts in Action” を読み，差異分析が原価削減にどのように利用されたかを理解すること.

学ぶべき用語・ポイント

- benchmarking
- budgeted performance
- effectiveness
- efficiency
- efficiency variance
- favorable variance
- flexible budget
- flexible-budget variance
- input-price variance
- management by exception
- price variance
- rate variance
- sales-volume variance
- selling-price variance
- standard cost
- standard input
- standard price
- static budget
- static-budget variance
- unfavorable variance
- usage variance

第 10 回：変動予算，間接費差異，マネジメント・コントロール／ Flexible Budgets, Overhead Cost Variances, and Management Control

講義の内容

1. 変動間接費と固定間接費を計画する際の類似点と相違点を理解すること.
2. 予算変動間接費率と固定製造間接費率について理解すること.
3. 変動間接費予算差異，変動間接費能率差異，変動間接費消費差異を理解し，計算できるようになること.
4. 固定間接費予算差異，固定間接費消費差異，固定間接費操業度差異を理解し，計算できるようになること.
5. 予算期間内における実際間接費額と間接費配賦額との関係を 4 つの差異に分けて分析するアプローチを理解すること.
6. 販売数量差異と操業度差異の関係を理解すること.
7. ABC における間接費差異の計算を理解すること.
8. 非製造業における間接費分析がどのように利用されているのか理解すること.

＜復習＞

・Problem for Self-Study を解くこと.
・欄外「学ぶべき用語・ポイント」にある用語の意味を調べ理解すること.
・Decision Points を読み，学習目的を理解すること.

＜宿題＞

・講義の時に指示する.

＜より進んだ学習＞

・“Concepts in Action: Variance Analysis and Standard Costing Help Sandoz Manage Its Overhead Costs” を読み，標準原価が間接費管理においてどのように利用されているかを理解すること.
・間接費配賦差異に関する記帳の説明は行わないので，各自学習すること.

学ぶべき用語・ポイント

- denominator level
- denominator-level variance
- fixed overhead flexible-budget variance
- fixed overhead spending variance
- production-denominator level
- production-volume variance
- standard costing
- total-overhead variance
- variable overhead efficiency variance
- variable overhead flexible-budget variance
- variable overhead spending variance

第 11 回：予算に関する総括／ Summary of Master Budgets

講義の内容

1. Chapter6・7・8 で学んだ予算について，全体の総括を行う．
2. 時間に余裕があれば，現金予算（Cash Budget）について補足説明を行う．

＜復習＞

・Chapter 6 の Appendix を読み，その内容を理解すること．
・6-29 Cash flow analysis, sensitivity analysis を解くこと．

＜宿題＞

・講義の時に指示する．

＜より進んだ学習＞

・6-38 Cash Budgeting を解くこと．

第 12 回：在庫評価とキャパシティ分析／ Inventory Costing and Capacity Analysis

講義の内容

1. 直接原価計算と全部原価計算の違いを理解すること.
2. 全部原価計算・直接原価計算を用いた場合，それぞれについて，利益がどのように計算されるのか理解し，それぞれの原価計算システムにより計算される利益に違いが生じる理由を理解すること.
3. 全部原価計算が，管理者に対し在庫のための生産を行うという望ましくない動機を与える理由を理解すること.
4. スループット・コスティング，直接原価計算，全部原価計算の違いを理解すること.
5. 全部原価計算で利用される様々なキャパシティ（生産能力）の概念を理解すること.
6. 予算固定間接費率を計算するためのキャパシティ水準を選ぶ際，何が重要な要因となるかを理解すること.
7. キャパシティの計画やコントロールを行う際重要な役割を果たす様々な問題を理解すること.

学ぶべき用語・ポイント

- absorption costing
- direct costing
- downward demand spiral
- master-budget capacity utilization
- normal capacity utilization
- practical capacity
- super-variable costing
- theoretical capacity
- throughput costing
- variable costing

＜復習＞

- Problem for Self-Study を解くこと.
- 欄外「学ぶべき用語・ポイント」にある用語の意味を調べ理解すること.
- Decision Points を読み，学習目的を理解すること.

＜宿題＞

- 講義の時に指示する.

＜より進んだ学習＞

- “Concepts in Action: Yield Improvements and the Production-Volume Variance at Analog Devices” を読んで，Analog Devices 社が成功した理由を考えよ.

第 13 回：原価態様／ Determining How Costs Behave

講義の内容

1. 線形費用関数を理解し，その典型的な 3 つのタイプを説明できるようになること.
2. 費用関数を推定する際に因果関係の重要性を理解すること.
3. 費用関数を推定するための様々な方法を理解すること.
4. 数量的分析を用いて費用関数を推定するための 6 段階の手続を説明できるようになること.
5. コスト・ドライバーを評価し，選択する際に用いられる 3 つの規準を理解すること.
6. 非線形関数を説明できるようになること．特に，習熟曲線について理解すること.
7. 費用関数を推定する際に生ずるデータに関する問題点を理解すること.

＜復習＞

・Problem for Self-Study を解くこと.
・欄外「学ぶべき用語・ポイント」にある用語の意味を調べ理解すること.
・Decision Points を読み，学習目的を理解すること.

＜宿題＞

・講義の時に指示する.

＜より進んだ学習＞

・Appendix: Regression Analysis を読んで，回帰分析の計算方法を理解すること.
・多変量回帰分析を利用する際に生じうる多重共線性がどのようなものか理解すること.
・回帰分析については，エクセルの関数や分析ツールを用いて行えるので，その方法をマスターすること（時間に余裕があれば講義でも説明する）.

学ぶべき用語・ポイント

- account analysis method（勘定科目精査法）
- coefficient of determination（決定係数）
- conference method（推定法）
- cost estimation
- cost function
- cost prediction
- cumulative average-time learning model
- dependent variable
- experience curve
- high-low method
- incremental unit-time learning model
- independent variable
- industrial engineering method
- learning curve
- linear cost function
- mixed cost
- multicollinearity
- multiple regression
- nonlinear cost function
- residual term
- semivariable cost
- simple regression
- specification analysis
- standard error of the estimated coefficient
- step cost function
- work-measurement method

第 14 回：意思決定と関連情報／ Decision Making and Relevant Information

講義の内容

1. 5 段階からなる意思決定プロセスを理解すること.
2. 意思決定が行われる状況において関連する情報と関連しない情報を区別できるようになること.
3. 機会原価の概念を理解し，これが意思決定で利用される理由を理解すること.
4. キャパシティに制約が存在する場合，どの製品を生産すべきかを決めるプロセスを理解すること.
5. 顧客やセグメントを追加したり，取り除く場合，管理者が考慮すべき要因は何かを理解すること.
6. 設備の取替を決める場合，設備の帳簿価額は関連原価ではない理由を理解すること.
7. 管理者が用いる意思決定モデルと管理者を評価するために用いる業績評価モデルの間にどのようなコンフリクトがあるか説明できるようになること.

＜復習＞

・Problem for Self-Study を解くこと.
・欄外「学ぶべき用語・ポイント」にある用語の意味を調べ理解すること.
・Decision Points を読み，学習目的を理解すること.

＜宿題＞

・講義の時に指示する.

＜より進んだ学習＞

・“Appendix: Linear Programming” を読み，簡単な線形計画問題を解けるようになること.
・線形計画問題は，エクセルのソルバーで解くことができるので，各自試みること.

学ぶべき用語・ポイント

・book value（帳簿価額）
・business function costs
・constraint
・decision model
・differential cost
・differential revenue
・full costs of the product
・incremental cost
・incremental revenue
・insourcing
・linear programming
・make-or-buy decisions
・objective function
・outsourcing
・product-mix decisions
・qualitative factors
・quantitative factors
・relevant revenues
・sunk costs

第 15 回：理解度確認セッション 2 ／ Quiz 02

講義の内容

1. テキストの第 6 章から第 12 章で学習した内容について理解度確認セッション 2 を行う.
2. 公認会計士短答式試験レベルの問題を出題する．一部, 論文式レベルの問題も出題する.
3. テキスト・ノート等の持ち込みは一切認めない.
4. 電卓を忘れないこと.
5. 解答と解説は HP に掲示するので，間違った問題を必ず復習すること.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

管理会計２・松田康弘／ Management Accounting 2・Yasuhiro Matsuda

講義の目的／ Course Objective

管理会計の基礎的な考え方と計算方法を身につけること．その際，非財務情報も含む会計情報が企業における意思決定や業績評価においてどのように利用されるのかを具体的に理解すること．

This course provides fundamental perspectives and techniques in management accounting. Students will learn how we should refer accounting information, whether they are financial or nonfinancial, for the purpose of decision making and performance measurement.

講義の進め方

・原則として，１回の講義で教科書の 1 章分を終えるペースで講義を進めていく．
・理解度確認セッション 1 と理解度確認セッション 2 を行う．
・理解度確認セッション 1 と理解度確認セッション 2 の出題範囲として，教科書の章末問題を指定する．その中からいくつかを宿題として指定する．

予習・復習について

＜予習＞
・講義はテキストの内容に沿って行うので，事前にテキストの内容を把握しておくこと．
・講義スライドを事前にウェブ上で配布するので，予習を行っておくこと．ウェブサイトの URL は初回講義時等にアナウンス・配布する．
・教科書本文中の重要語句の意味を事前に調べておくこと．
＜復習＞
・宿題を解き，テキスト中の重要語句の意味を確認すること．
・教科書の章末問題は様々な考え方を必要とするものを含む．考察を試みられたい．
・宿題については，講義の中で指定する．

この講義を受講するために必要とする知識

会計や原価計算に関する基礎的な知識を持っていること．たとえば，学部で会計学関連の科目や原価計算・管理会計の科目を履修していることが望ましい．また，後期に開講されている管理会計 1 を受講済みであることが望ましい．

テキスト・参考文献

・テキスト：Datar S.M., and M. Rajan, *Horngren's Cost Accounting: A Managerial Emphasis 16th ed.*, Prentice-Hall, 2017.
・参考文献 : 講義の中で適宜紹介するが，glossary として以下のものを挙げておく．
  ・Weil R.L. and M.W. Maher, *Handbook of Cost Management 2nd ed.,* John Weily and Sons, Inc., 2005.

時間割

前期　金曜 4 限

科目ナンバー

EAC-ACC507

成績評価法

・宿題（20%），理解度確認セッション（80%）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

水曜日
14:40-16:10

連絡先

022-217-6280
ymazda@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・英文のテキストを利用するが，英語自体の解説は行わない．

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

講義の概要，講義の進め方，成績評価方法，学習方法などについて説明を行う．

以下の内容を 15 回をかけて学習することを説明する．
第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：価格決定
第 3 回：戦略，戦略的収益性分析
第 4 回：費用配賦，顧客収益性分析，販売量差異の分析
第 5 回：補助部門費，共通費，収益の配賦
第 6 回：連産品と副産物
第 7 回：総合原価計算，仕損，補修，作業屑
第 8 回：理解度確認セッション 1
第 9 回：バランスト・スコアカード
第 10 回：品質原価，時間管理，制約の理論
第 11 回：在庫管理，ジャスト・イン・タイム，バックフラッシュ・コスティング
第 12 回：資本予算とコスト分析
第 13 回：マネジメント・コントロール，振替価格
第 14 回：業績評価と報酬
第 15 回：理解度確認セッション 2

第 2 回：価格決定／ Pricing Decision

講義の内容

1. 価格決定：短期的視点と長期的視点
2. 原価企画
3. 価値工学
4. 製品ライフサイクル

＜宿題＞

章末の問題から教員が指定する問題を解いてくること.

第 3 回：戦略的収益性分析／ Strategic Profitability Analysis

講義の内容

1. 戦略とは何か？
2. 戦略の実行とバランスト・スコアカード
3. 戦略と実行の成功の評価
4. 営業利益の戦略的分析
5. キャパシティの管理

＜宿題＞

章末の問題から教員が指定する問題を解いてくること.

第 4 回：費用配賦，顧客収益性分析，販売量差異の分析／ Cost Allocation, Customer Profitability Analysis, and Sales Variance Analysis

講義の内容

1. 費用配賦の目的
2. 費用配賦意思決定の基準
3. 費用配賦と原価計算システム
4. 顧客収益と顧客コスト
5. 顧客収益性分析
6. 販売量差異
7. セールスミックスと販売量差異
8. 市場占有率差異と市場規模差異

＜宿題＞

章末の問題から教員が指定する問題を解いてくること.

第 5 回：補助部門費と共通費の配賦／ Allocation of Support Department Costs and Common Costs

講義の内容

1. 補助部門費の営業部門への配賦
2. 複数の補助部門の費用配賦
3. 共通費の配賦
4. 費用配賦と契約
5. 収益の配賦とバンドル製品
6. 収益配賦の方法

＜宿題＞

章末の問題から教員が指定する問題を解いてくること.

第 6 回：連産品と副産物／ Joint Products and Byproducts

講義の内容

1. 連結原価の基礎
2. 連結原価の配賦方法
3. 意思決定における連結原価
4. 副産物の会計処理

＜宿題＞

章末の問題から教員が指定する問題を解いてくること.

第 7 回：総合原価計算，仕損，補修，作業屑／ Process Costing, Spoilage, Rework, and Scrap

講義の内容

1. 総合原価計算の全体像
2. 平均法と先入先出法
3. 総合原価計算における標準原価計算
4. 総合原価計算における工程別原価計算
5. 仕損，補修，作業屑とは何か
6. 正常仕損と異常仕損の会計処理
7. 総合原価計算における仕損の処理
8. 個別原価計算における仕損・補修の処理
9. 作業屑の処理

＜宿題＞

章末の問題から教員が指定する問題を解いてくること.

第 8 回：理解度確認セッション 1 ／ Examination 1

講義の内容

・講義で扱った内容について，理解度確認セッション 1 を行う．
・出題範囲は，講義で扱った内容と宿題に出した範囲である．詳細については講義時にアナウンスする．

第 9 回：バランスト・スコアカード／ Balanced Scorecards

講義の内容

1. 戦略とバランスト・スコアカード
2. 意思決定とバランスト・スコアカード
3. 現業の管理とバランスト・スコアカード
4. マネジメント・コントロールとバランスト・スコアカード

＜宿題＞

章末の問題から教員が指定する問題を解いてくること.

第 10 回：品質原価，時間管理，制約の理論／ Cost of Quality, Time Drivers, and Theory of Constraint

講義の内容

1. 4 種類の品質原価
2. 顧客満足に関する非財務的品質尺度の例
3. 品質問題を識別するための 3 つの方法
4. 品質改善の関連原価
5. 品質に関する財務的尺度と非財務的尺度
6. 顧客応答時間，遅延の発生とそのコスト
7. 制約の理論における 3 つの尺度
8. ボトルネックの管理

＜宿題＞

章末の問題から教員が指定する問題を解いてくること.

第 11 回：在庫管理，ジャスト・イン・タイム／ Inventory Management

講義の内容

1. 売上原価に関連する 5 種類の原価
2. 経済的発注量モデル
3. サプライチェーン・マネジメントの在庫管理への適用
4. MRP とジャスト・イン・タイムの相違
5. ジャスト・イン・タイム生産システムの特徴
6. ジャスト・イン・タイムと仕入れ

＜宿題＞

章末の問題から教員が指定する問題を解いてくること.

第 12 回：資本予算／ Capital Budgeting

講義の内容

1. 資本予算編成における複数年の視点
2. プロジェクトの資本予算編成の 6 段階
3. 正味現在価値法と内部利益率法
4. 回収期間法
5. 会計的利益率法
6. 投資案評価の指標と業績評価指標の間のコンフリクト
7. 関連キャッシュフロー

＜宿題＞

章末の問題から教員が指定する問題を解いてくること.

第 13 回：マネジメント・コントロール，振替価格／ Management Control and Transfer Pricing

講義の内容

1. マネジメント・コントロール・システムと 3 つの特質
2. 分権化の利点と不利点
3. 移転価格を評価するための 4 つの基準
4. 移転価格の計算方法
5. 市価基準価格
6. 原価基準価格
7. 未利用の生産能力がある場合
8. 国際移転価格と業績評価

＜宿題＞

章末の問題から教員が指定する問題を解いてくること.

第 14 回：業績評価と報酬／ Performance Measurement and Compensation

講義の内容

1. BSC のための財務的・非財務的尺度の選択
2. 会計による業績尺度の設計
3. デュポン・メソッドによる投資利益率の分析
4. 残余利益法とその利点
5. 経済的付加価値
6. その他の論点

＜宿題＞

章末の問題から教員が指定する問題を解いてくること.

第 15 回：理解度確認セッション 2 ／ Examination 2

講義の内容

・講義で扱った内容について理解度確認セッション 2 を行う．
・出題範囲は，第 9 回以降の講義で扱った内容と宿題に出した範囲である．詳細については講義時にアナウンスする．

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

管理会計３・青木雅明／ Management Accounting 3・Masaaki Aoki

講義の目的／ Course Objective

管理会計１・２で学んだ知識を基礎として，管理会計領域のよりアドバンストなトピックを学習していく.特に,比較的新しく提案された概念･技法に焦点を当てて学習していく.
The purpose of this lecture is to study the advanced topics in management accounting based on the knowledge learned in Management Accounting 1 and 2. In particular, we focus on the concepts and tools proposed recently.

講義の進め方

・本文は事前に読んでくること.
・章末の Questions を解答することにより，各章の内容・ポイントを理解する.
・章末の Exercises と Problems を解くことにより，応用力を身につける.
・章末の Cases を解くことにより，理論が実務でどのように活用されていくかを理解する.

予習・復習について

＜予習＞
・本文を読んでくること．質問がない限り，特に本文について解説はしない.
・報告者は，事前に資料を準備すること.
＜復習＞
・章末の Problems と Cases を解く．問題は講義で指示する.
・報告者は，問題の解答を準備すること.

この講義を受講するために必要とする知識

管理会計１・２をすでに履修していることが望ましい.

テキスト・参考文献

・Horngren, C. T., S. M. Datar, and M. Rajan, *Cost Accounting: A Managerial Emphasis* (16th ed.), Prentice-Hall, 2017.
・Atkinson, A.A., R.S. Kaplan, E.M.Matsumura, and S.M.Young, *Management Accounting* (6th ed.), Prentice-Hall, 2012.
・青木雅明『管理会計』同文館，2005 年.
・上埜進・青木雅明編著『管理会計演習－理論と計算－』税務経理協会，2011 年.
・小沢浩『詳解　コストマネジメント』同文館，2011 年 .
・参考資料・参考文献は必要に応じて講義の中で紹介する.

時間割

後期　月曜 7 限

科目ナンバー

EAC-ACC611

成績評価法

・講義への貢献（50%），レポート（50%）で評価する.
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

月曜日
10:00-12:00

連絡先

022-217-6279
maoki@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・英文のテキストを利用するが，英語自体の解説は行わない.
・予習復習を必ず行うこと.
・講義に関する連絡は全てメールで行う .
・講義資料等はすべてホームページに掲示する .

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

講義の目的：

講義の概要，講義の進め方，成績評価，学習方法（予習・復習）などについてシラバスを用いて説明を行う.

講義の概要

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation
第 2 回：Chapter 1 How Management Accounting Information Supports Decision Making（1）
第 3 回：Chapter 1 How Management Accounting Information Supports Decision Making（2）
第 4 回：Chapter 2 The Balanced Scorecard and Strategy Map（1）
第 5 回：Chapter 2 The Balanced Scorecard and Strategy Map（2）
第 6 回：Chapter 2 The Balanced Scorecard and Strategy Map（3）
第 7 回：Measuring and Managing Process Performance（1）
第 8 回：Measuring and Managing Process Performance（2）
第 9 回：Measuring and Managing Process Performance（3）
第 10 回：Measuring and Managing Life-Cycle Costs（1）
第 11 回：Measuring and Managing Life-Cycle Costs（2）
第 12 回：Measuring and Managing Life-Cycle Costs（3）
第 13 回：Behavioral and Organizational Issues in Management Accounting and Control Systems（1）
第 14 回：Behavioral and Organizational Issues in Management Accounting and Control Systems（2）
第 15 回：Behavioral and Organizational Issues in Management Accounting and Control Systems（3）

＜宿題＞
・Chapter 1 の章末にある Questions をすべて解答すること.

＜より進んだ学習＞
・今回は特になし

第 2 回：Chapter 1 How Management Accounting Information Supports Decision Making（1）

講義の内容

＜講義の内容・目的＞：章末にある Questions を解くことにより，以下の学習目的を達成する．

1. 財務会計と管理会計の違いを理解する
2. 管理会計で行われている実務は，どのような発展を経てきたのか，理解する．
3. 管理会計情報が戦略的意思決定と業務的意思決定においてどのように利用されるかを理解する．
4. PDCA（Plan-Do-Check-Act）サイクルを理解し，それぞれのステップが管理会計情報とどのように関わっているのかを理解する．
5. 組織に新しい測定システムや管理システムを導入する際，その構成員はどのような反応をするか理解すること．

＜宿題＞

・章末の Problems と Cases を解答すること．
・問題は講義の中で割り当てる．

＜復習＞

・章末の Exercise を解答すること．

＜より進んだ学習＞

・章の初めにある ”Research in Motion” を読み，なぜこの事例が説明されているか考えてみること．

学ぶべき用語・ポイント

・financial accounting
・nonfinacial information
・strategy
・management accounting
・plan-do-check-act cycle

第 3 回：Chapter 1 How Management Accounting Information Supports Decision Making（2）

講義の内容

＜講義の内容・目的＞：以下の問題を解き，解説する．

・1-14 Differences between financial and managerial accounting

・1-16 Role of financial information for continuous improvement

・1-17 Difference information needs

＜宿題＞

・Chapter 2 の章末にある Questions をすべて解答すること．

＜復習＞

・1-18 Information for employee empowerment

＜より進んだ学習＞

・1-20 Comprehensive performance measurement in public and nonprofit organizations を考えてみる．

第 4 回：Chapter 2 The Balanced Scorecard and Strategy Map（1）

講義の内容

＜講義の内容・目的＞：章末にある Questions を解くことにより，以下の学習目的を達成する．

1. 企業の戦略を評価・管理するために財務的な尺度と非財務的な尺度が必要とされる理由を理解する．
2. 財務の視点・顧客の視点・内部プロセスの視点・学習と成長の視点に関係する企業戦略について，BSC（Balanced Scorecard）がその因果関係についての仮定を，どのように表現しているか理解する．
3. 明確な戦略が企業にとって必要な理由を理解する．
4. 戦略を財務の視点・顧客の視点・内部プロセスの視点・学習と成長の視点の目的へ返還する際，戦略マップがどのような役割を果たすか理解する．
5. 企業の BSC と戦略マップの 4 つの視点における戦略上の目的について，その尺度をいかに設定すべきか理解する．
6. BSC のフレームワークを NPO 組織へと拡張する．
7. 企業が BSC を実施する際に生ずる問題を認識し，その解決法についても理解する．

＜宿題＞

・章末の Exercise と Problems を解答すること．
・問題は講義の中で割り当てる．

＜復習＞

・「学ぶべき用語」の意味を確認すること．

＜より進んだ学習＞

・章の初めにある ”Pioneer Petroleum” を読み，なぜこの事例が説明されているか考えてみること．

学ぶべき用語・ポイント

・Balanced Scorecard（BSC）
・customer management processes
・customer perspective
・financial perspective
・innovation processes
・learning and growth perspective
・measures
・objectives
・operations management processes
・process perspective
・regulatory and social processes
・strategy
・strategy map
・targets
・value proposition

第 5 回：Chapter 2 The Balanced Scorecard and Strategy Map（2）

講義の内容

＜講義の内容・目的＞：以下の Exercises と Problems を解き，解説する．

・2-30 Balanced Scorecard measures, low-total-cost value proposition

・2-33 Balanced Scorecard objectives, cause-and-effect linkage for different value propositions

・2-37 Balanced Scorecard and key performance indicators

・2-41 Designing a Balanced Scorecard, new strategies, customer measures

・2-47 Pitfalls in Balanced Scorecard implementation

＜宿題＞

・章末の Cases を解答すること．

・問題は講義の中で割り当てる．

＜復習＞

・講義で解説しなかった Exercises と Problems を解くこと．

＜より進んだ学習＞

・本文中の ”In Practice” を読み，本章で学んだ事柄との関連を考えてみること．

第 6 回：Chapter 2 The Balanced Scorecard and Strategy Map（3）

講義の内容

＜講義の内容・目的＞：以下の Cases を解き，解説する

・2-48 Compensation tied to Balanced Scorecard, degree of difficulty of target achievement

・2-53 Designing a Balanced Scorecard for a pharmaceutical company

＜宿題＞

・Chapter 3 の章末にある Questions をすべて解答すること.

＜復習＞

・講義で解説しなかった Cases についても考えてみること.

＜より進んだ学習＞

・インターネットで企業の使命（mission），ビジョン（vision），戦略（strategy）を調べてみること.

第 7 回：Measuring and Managing Process Performance（1）

講義の内容

＜講義の内容・目的＞：章末にある Questions を解くことにより，以下の学習目的を達成する．

1. Theory of constraints（制約理論）を説明できるようになること．
2. 様々なタイプの設備のレイアウトを比較できるようになること．
3. Lean manufacturing について説明できるようになること．
4. 品質原価の概念を理解すること．
5. Just in time 生産システムの価値を説明できるようになること．
6. Kaizen Costing を説明できるようになること．
7. 様々なベンチマーキングの方法について考えること．
8. 在庫の減少，生産サイクル時間の減少，出来高の改善，やり直しや仕損率の減少による原価節約額を計算できるようになること．

＜宿題＞

・章末の Exercise と Problems を解答すること．
・問題は講義の中で割り当てる．

＜復習＞

・「学ぶべき用語」の意味を確認すること．

＜より進んだ学習＞

・章の初めにある ”Nolan Jndustries” を読み，なぜこの事例が説明されているか考えてみること．

学ぶべき用語・ポイント

- appraisal costs
- benchmarking
- benchmarking (pereformance) gap
- certified supplier
- cooperative benchmarking
- cost of nonconformance (CONC) to quality standards
- cost-of-quality (COQ) report
- cycle time
- database benchmarking
- external failure costs
- group benchmarking
- group technology
- indirect/third-party benchmarking
- internal failure costs
- investments

第 8 回：Measuring and Managing Process Performance（2）

講義の内容

＜講義の内容・目的＞：以下の Exercises と Problems を解き，解説する.

・7-33 Relevant cost and revenues: changes in facility layout

・7-36 Quality improvement programs and cost savings

・7-37 Group technology and processing cycle efficiency

・7-41 Preparing a cost-of-quality report

・7-51 Kaizen costing versus standard costing

＜宿題＞

・章末の Cases を解答すること.

・問題は講義の中で割り当てる.

＜復習＞

・講義で解説しなかった Exercises と Problems を解くこと.

＜より進んだ学習＞

・本文中の ”In Practice” を読み，本章で学んだ事柄との関連を考えてみること.

学ぶべき用語・ポイント

・just-in-time (JIT) manufacturing
・kaizen costing
・lean manufacturing
・operating costs
・prevention costs
・process layout
・processing cycle efficiency (PCE)
・processing time
・product layout
・quality costs
・theory of constraints (TOC)
・throughput contribution
・unilateral (convert) benchmarking

第 9 回：Measuring and Managing Process Performance（3）

講義の内容

＜講義の内容・目的＞：以下の Problems と Cases を解き，解説する．

・7-54 Facilities layout, value-added activities

・7-57 Relevant costs, qualitative factors, cost-of-quality framework, environmental issues

・Cost savings: replacement decision

＜宿題＞

・Chapter 7 の章末にある Questions をすべて解答すること．

＜復習＞

・講義で解説しなかった Cases についても考えてみること．

＜より進んだ学習＞

・本文中の ”In Practice” を読み，本章で学んだ事柄との関連を考えてみること．

第 10 回：Measuring and Managing Life-Cycle Costs（1）

講義の内容

＜講義の内容・目的＞：章末にある Questions を解くことにより，以下の学習目的を達成する．

1. 製品原価を管理するために用いられる total life-cycle costing approach を理解すること．
2. 原価企画を説明できるようになること．
3. 目標原価を計算できようになること．
4. 新製品開発プロジェクトにはどの程度時間をかけるべきかを計算できるようになること．
5. 製品開発プロセス関係する非財務尺度にはどのようなものがあるか理解すること．
6. 環境コストの問題について理解すること．

＜宿題＞

・章末の Exercise と Problems を解答すること．
・問題は講義の中で割り当てる．

＜復習＞

・「学ぶべき用語」の意味を確認すること．

＜より進んだ学習＞

・章の初めにある ”Chemco International” を読み，なぜこの事例が説明されているか考えてみること．

学ぶべき用語・ポイント

- breakeven time (BET)
- cross-functional product terms
- environmental costing
- manufacturing stage
- nonfinancial measures of innovation
- postsale service and disposal stage
- quality function deployment (QFD) matrix

第 11 回：Measuring and Managing Life-Cycle Costs（2）

講義の内容

＜講義の内容・目的＞：以下の Exercises と Problems を解き，解説する．

・8-32 Breakeven time for new product development
・8-35 Target costing calculation
・8-36 Total-life-cycle costing
・8-41 Traditional cost reduction versus target costing

＜宿題＞

・章末の Cases を解答すること．
・問題は講義の中で割り当てる．

＜復習＞

・講義で解説しなかった Exercises と Problems を解くこと．

＜より進んだ学習＞

・本文中の ”In Practice” を読み，本章で学んだ事柄との関連を考えてみること．

学ぶべき用語・ポイント

・remediation
・research, development, and engineering (RD&E) stage
・supply chain management
・target cost
・target costing
・total-life-cycle costing (TLCC)
・value engineering process
・value index

第 12 回：Measuring and Managing Life-Cycle Costs（3）

講義の内容

＜講義の内容・目的＞：以下の Problems と Cases を解き，解説する．

・8-45 Environmental costs, activity-based costing

・8-47 Target costing

＜宿題＞

・Chapter 8 の章末にある Questions をすべて解答すること．

＜復習＞

・講義で解説しなかった Cases についても考えてみること．

＜より進んだ学習＞

・原価計算のテキストで，部門別原価計算を復習すること．

第 13 回：Behavioral and Organizational Issues in Management Accounting and Control Systems（1）

講義の内容

＜講義の内容・目的＞：章末にある Questions を解くことにより，以下の学習目的を達成する．

1. コントロールの意味を理解する．
2. うまく設計されている管理会計システムとコントロール・システムの特徴を明らかにする．
3. 管理会計システムとコントロール・システムを設計する際に考慮すべき行動的な要因について議論できるようになる．
4. モチベーションに関する人的資源管理モデルを説明できるようになる．
5. 意思決定に倫理的なコントロールのフレームワークを適用できるようになる．
6. タスク・コントロールと結果のコントロールの方法を理解すること．
7. 従業員を企業全体の目標へと導くために BSC がどのように利用されるのかを理解する
8. コントロール・システムにおける動機づけや機能的でない行動について議論できるようになる．
9. 管理会計システムとコントロール･システムの設計を行う際，employee empowerment（権限委譲）の重要性を理解する．
10. 予算策定時に生じる行動的な問題を認識する．
11. 報酬システムと業績の関係を理解する

＜宿題＞

・章末の Exercise と Problems を解答すること．
・問題は講義の中で割り当てる．

＜復習＞

・「学ぶべき用語」の意味を確認すること．

＜より進んだ学習＞

・章の初めにある ”Advenced Cellular International” を読み，なぜこの事例が説明されているか考えてみること．

学ぶべき用語・ポイント

- authoritative budgeting
- cash bonus
- consulative budgeting
- data falsification
- diagnostic control systems
- dysfunctional behavior
- earnings management
- employee self-control
- ethical control system
- extrinsic rewards
- gain sharing
- gaming the performance indicator
- goal congruence
- human relations movement
- human resources model of motivation (HRMM)
- improshare
- incentive compensation

第 14 回：Behavioral and Organizational Issues in Management Accounting and Control Systems（2）

講義の内容

＜講義の内容・目的＞：以下の Exercises と Problems を解き，解説する

・9-79 Budgeting: motivational issues
・9-80 Budget slack
・9-83 Designing a compensation plan
・9-85 Profit-sharing plan at Hoechst Celanese
・9-87 Gain sharing

＜宿題＞

・章末の Cases を解答すること.
・問題は講義の中で割り当てる.

＜復習＞

・講義で解説しなかった Exercises と Problems を解くこと.

＜より進んだ学習＞

・本文中の ”In Practice” を読み，本章で学んだ事柄との関連を考えてみること.

学ぶべき用語・ポイント

・interactive control systems
・intrinsic rewards
・management accounting and control system (MACS)
・monitoring
・motivation
・participative budgeting
・pay-for-performance systems
・preventive control
・profit sharing
・results control
・Rucker plan
・Scanlon plan
・scientific management school
・smoothing
・stock option
・task control

第 15 回：Behavioral and Organizational Issues in Management Accounting and Control Systems（3）

講義の内容

＜講義の内容・目的＞：以下の Problems と Cases を解き，解説する.

・9-88 Scanlon plan

・9-91 Evaluating a compensation plan

・9-98 Multiple performance measures to evaluate and reward performance; subjective evaluation

＜宿題＞

・特になし

＜復習＞

・講義で解説しなかった Cases についても考えてみること.

＜より進んだ学習＞

・Agency model について調べてみること.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

原価計算 1 ・西村一幸／ Cost Accounting 1・Kazuyuki Nishimura

講義の目的／ Course Objective

工業簿記及び原価計算の基礎を身につけること . ある処理方法のデメリットを補うために別の処理方法が考案されてきたケースが多いので，単に各処理方法を理解するのではなく，進化した過程をも理解していく .

The purpose of this lecture is to acquire the basics of industrial bookkeeping and cost accounting. In many cases, different processing methods have been devised to make up for the disadvantages of a certain processing method, so we aim to understand not only each processing method but also the evolved process.

講義の進め方

・1 回目の講義で講義の概要，進め方，成績評価，学習方法などについて説明を行う .
・13 回の講義で第 10 章までの解説を行う .
・小テストは 2 回行う予定である .（小テストは 14 回目及び 15 回目ではなく 13 回目までに行う場合がある .）
・原則として，講義毎に宿題を課す . また，随時小テスト及び出欠確認を行う .（2 回目以降履修登録期間中に出欠確認を行う場合があるので , 履修登録期間中に欠席しないこと .）

予習・復習について

＜予習＞
・余力があれば，次回講義分について予習することが望ましい .
＜復習＞
・毎回宿題を課しているので，事例について今回以前の分までを反復継続的に復習し，いつ小テストがあっても大丈夫なようにしておく必要がある . 宿題以外の問題についても自主的に学習することを期待する .

この講義を受講するために必要とする知識

商業簿記の基本的知識を有していることが望ましい .

テキスト・参考文献

・テキスト：オリジナルテキスト『原価計算 1 』
・参考文献：必要に応じて講義の中で紹介する .

時間割

前期　土曜 3 限

科目ナンバー

EAC-ACC508

成績評価法

・宿題（30％），小テスト及び出席状況（55％），授業に対する姿勢（15％）で評価する .
・ AA(90 点 以 上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

土曜日
12:00-13:00

連絡先

メールアドレス等は講義で連絡する .

その他（連絡事項）

・原価計算 2 を履修すること .
・途中で履修を放棄する学生は，最初から履修登録しないこと .
・講義が土曜日であるため , 就職活動等で欠席が多いことが予想される場合は , 履修登録しないこと .

第 1 回：オリエンテーション・商業簿記の復習／
Orientation・Review of commercial bookkeeping

講義の内容

1. 講義の概要，講義の進め方，成績評価，学習方法についての説明を行う .
2. 商業簿記の流れを復習する .

第 1 回：オリエンテーション・商業簿記の復習
第 2 回：工業簿記・原価計算の基礎
第 3 回：費目別計算Ⅰ（材料費計算）
第 4 回：費目別計算Ⅱ（労務費計算）
第 5 回：費目別計算Ⅲ（経費計算），製造間接費
第 6 回：製造間接費
第 7 回：部門別計算
第 8 回：部門別計算
第 9 回：個別原価計算
第 10 回：単純総合原価計算
第 11 回：総合原価計算における仕損費・減損
第 12 回：総合原価計算における仕損費・減損，工程別総合原価計算
第 13 回：工程別総合原価計算
第 14 回：小テスト
第 15 回：小テスト

・商業簿記の流れ
簿記の基本的な流れ
仕訳と取引要素
仕訳帳及び総勘定元帳
合計残高試算表
精算表
貸借対照表，損益計算書

第 2 回：工業簿記・原価計算の基礎／ Basic of industrial bookkeeping and cost accounting

講義の内容

1. 工業簿記と原価計算の係わりを理解する .
2. 原価計算の意義・目的と原価計算制度について理解する .
   - 「原価計算基準」より，原価計算の意義を理解する .
   - 原価計算は，利用の仕方により財務諸表作成目的，製品価格決定目的，原価管理目的，利益管理目的，経営意思決定目的があることを理解する .
   - 原価計算制度の意義を理解し，原価計算の目的に対応して制度としての原価計算と広義の原価計算があることを理解する .
   - 制度としての原価計算制度は，消費量をどうするかにより実際原価計算制度と標準原価計算制度に大別されることを理解する .
3. 原価の意義，概念，分類について理解する .
   - 「原価計算基準」より，原価の 4 つの本質は，経済価値の消費，経営が作り出す財貨に転嫁される価値，経営目的に関連したもの，正常的であることを理解する .
   - 非原価項目の内容を理解する .
   - 本質・目的の違いから，製品原価と期間原価，実際原価と標準原価，全部原価と部分原価といった対照的な原価の概念が考えられることを理解する .
   - 製造原価は，観点の違いにより，形態別分類，製品との関連における分類，機能別分類，原価の管理可能性に基づく分類，操業度との関連における分類に分けられることを理解する .
   - 販売費及び一般管理費の分類の仕方を理解する .
4. 原価計算の大まかな流れを理解する .
   - 原価の費目別計算，部門別計算，製品別計算といった 3 段階の大まかな流れについて理解する .
   - 生産形態の違いにより，個別原価計算と総合原価計算があることを理解する .

＜宿題＞

事例　1

学ぶべき用語・ポイント

製造活動，原価計算，財務諸表作成目的，製品価格決定目的，原価管理目的，原価管理，利益管理目的，予算，経営意思決定目的，基本計画，制度としての原価計算，実際原価計算制度，標準原価計算制度，特殊原価調査，原価，非原価項目，製品原価，製造原価，期間原価，販売費，一般管理費，実際原価，実際消費量，予定価格，標準原価，能率の尺度としての標準，現実的標準原価，正常原価，正常な能率，予定原価，理想標準原価，全部原価，部分原価，直接原価，形態別分類，材料費，労務費，経費，製品との関連における分類，製造直接費，製造間接費，機能別分類，原価の管理可能性に基づく分類，管理可能費，管理不能費，操業度との関連における分類，固定費，変動費，準変動費，準固定費，原価計算期間，価値移転的原価計算，原価の費目別計算，原価の部門別計算，原価の製品別計算，個別原価計算，総合原価計算，単純総合原価計算，組別総合原価計算，等級別総合原価計算

第 3 回：費目別計算 I （材料費計算）／ Item cost accounting I （Material cost）

講義の内容

1. 材料と材料費の違いについて理解する .
   - 材料は，物品でありいわゆる材料より範囲が広いことを理解する .
   - 材料は消費によって材料費となることを理解する .
   - 材料費の内容を，製品との関連における分類により理解する .
2. 材料の購入原価について理解する .
   - 材料副費の内容，材料副費のうちどこまで購入原価に含めるのかについて理解する .
   - 材料副費の予定配賦のメリットについて理解する .
   - 材料副費差異の処理について理解する .
3. 材料消費量の計算方法について理解する .
   - 出入記録を行うものと行わないものがあることを理解する .
   - 継続記録法と棚卸計算法の違い，併用によるメリットについて理解する .
4. 材料消費価格の計算方法について理解する .
   - 先入先出法，移動平均法，総平均法，後入先出法，個別法について理解する .
   - 後入先出法については，計算スパンにより継続的後入先出法と期間的後入先出法があることを理解する .
   - 実際消費価格のデメリットと予定消費価格のメリットについて理解する .
   - 材料消費価格差異の処理について理解する .
5. 棚卸減耗費について理解する .
   - 棚卸減耗費の内容，処理について理解する .

＜宿題＞

事例　2 〜 6

学ぶべき用語・ポイント

- 材料
- 材料費
- 直接材料費
- 間接材料費
- 購入代価
- 材料副費
- 外部材料副費
- 内部材料副費
- 材料副費差異
- 継続記録法
- 棚卸計算法
- 実地棚卸
- 実際消費価格
- 先入先出法
- 移動平均法
- 総平均法
- 後入先出法
- 継続的後入先出法
- 期間的後入先出法
- 個別法
- 予定消費価格
- 材料消費価格差異
- 棚卸減耗費

第 4 回：費目別計算 II （労務費計算）／ Item cost accounting II （Labor cost）

講義の内容

1. 労務費の分類について理解する .
   ・労務費は，いわゆる人件費より範囲が狭いことを理解する .
   ・労務費を，製品との関連における分類により理解する .
2. 賃金の支払額と要支払額について理解する .
   ・支給対象期間と支払日にズレが生じる理由を理解する .
   ・支給額から暦日基準による労務費の消費額への調整過程を理解する .
   ・いわゆる天引きについて理解する .
   ・就業時間の内容を理解する .
   ・総労働時間に含まれないものがあることを理解する .
3. 労務費の計算について理解する .
   ・作業時間又は作業量の測定を行うものと行わないものがあることを理解する .
4. 消費賃率の計算方法について理解する .
   ・消費賃率が個人別でない理由を理解する .
   ・実際消費賃率のデメリット，予定消費賃率のメリットを理解する .
   ・賃率差異の処理を理解する .
5. 定時間外作業手当の計算について理解する .
   ・残業手当を予定消費賃率に含めている場合と含めていない場合があることを理解し，それぞれの処理を理解する .

＜宿題＞
事例　7 〜 10

学ぶべき用語・ポイント

・賃金
・労務費
・直接労務費
・間接労務費
・フリンジ・ベネフィット
・支給対象期間
・支払賃金
・諸手当
・給与支給総額
・就業時間
・直接作業時間
・間接作業時間
・手待時間
・段取時間
・加工時間
・前月未払額
・当月未払額
・実際消費賃率
・予定消費賃率
・賃率差異

第 5 回：費目別計算 III（経費計算），製造間接費／
Item cost accounting III（Expenses）Manufacturing overhead

講義の内容

【経費計算】

1. 経費の分類について理解する .
   ・経費を，製品との関連における分類により理解する.
   ・間接経費は，支払経費，月割経費，測定経費，発生経費に大別されることを理解し，それぞれの内容を理解する.
   ・複合費の意義・有用性を理解する.
2. 外注加工賃の処理について理解する .
   ・在庫管理責任により，外注の仕方に有償支給と無償支給があることを理解し，それぞれの処理を理解する .

【製造間接費】

1. 製造間接費の集計について理解する .
   ・製造間接費の実際発生額の内容を理解する .
2. 製造間接費の配賦方法について理解する .
   ・製造間接費の性質上，配賦が必要なことを理解する .
   ・配賦基準の種類が多岐に及ぶ理由を理解する .
   ・実際配賦のデメリット，予定配賦のメリットを理解する .
3. 基準操業度と操業水準の種類について理解する .
   ・基準操業度の概念を理解する .
   ・操業水準と生産量の関係を理解する .
   ・生産能力と販売能力から操業度には，理論的生産能力，実際的生産能力，正常操業度，予定操業度があることを理解する .

＜宿題＞

事例　11 〜 14

学ぶべき用語・ポイント

- 直接経費
- 間接経費
- 支払経費
- 月割経費
- 測定経費
- 発生経費
- 複合費
- 外注加工費
- 無償支給
- 有償支給
- 交付材料差益
- 直課
- 配賦
- 実際配賦
- 予定配賦（正常配賦）
- 配賦基準
- 価値的基準
- 物量基準
- 素価基準
- 予定配賦率
- 基準操業度
- 操業水準
- 正常生産量
- 理論的生産能力（最大操業度）
- 実際的生産能力（実現可能操業度）
- 平均操業度（正常操業度）
- 期待実際操業度（予定操業度）

第 6 回：製造間接費／ Manufacturing overhead

講義の内容

1. 製造間接費予算額の計算について理解する .
   ・「原価計算基準」より製造間接費予算作成の手順を理解する .
   ・操業水準と予算許容額の関係から固定予算と変動予算があることを理解する .
   ・変動予算は，予算許容額の設定方針により公式法変動予算と実査法変動予算があることを理解する .
2. 製造間接費の予定配賦について理解する .
   ・固定予算，変動予算それぞれにおける予定配賦の仕方について理解する .
3. 製造間接費差異の分析について理解する .
   ・固定費から生じる操業度差異と変動費から生じる予算差異があることを理解する .
   ・固定予算のデメリット，変動予算のメリットを理解する .
4. 通年ベースの製造間接費差異の処理について理解する .
   ・月次の差異の処理と年度末の差異の処理の違い，その理由を理解する .
   ・基準操業度の設定水準との関係から年度末の操業度差異をどのように処理するか理解する .

＜宿題＞
事例　15 〜 17

学ぶべき用語・ポイント

・固定予算
・変動予算
・予算許容額
・変動費率
・固定費率
・公式法変動予算
・実査法変動予算
・製造間接費差異
・予算差異
・操業度差異
・補充率法
・繰延法

第 7 回：部門別計算／ Departmental cost accounting

講義の内容

1. 原価部門の意義・設定について理解する .
   ・原価部門の意義・必要性を理解し，部門は計算組織上のものであることを理解する .
   ・製造間接費を細かく見ていくものであることを理解する .
   ・製造部門と補助部門の関係及びそれぞれの内容を理解する .
2. 部門別計算の流れについて理解する .
   ・製造間接費予算の集計過程，製造間接費実際発生額の集計過程を理解する .
3. 部門個別費と部門共通費について理解する .
   ・原価の発生の仕方により部門個別費，部門共通費があり，部門共通費はその性質上，配賦が必要であることを理解する .
   ・部門固有費を理解する .
   ・一般費の意味を理解する .
4. 補助部門費の製造部門への配賦基準について理解する .
   ・固定費，変動費について同一の配賦基準によるかどうかで単一基準配賦法，複数基準配賦法があることを理解する .
   ・配賦率については，実際配賦と予定配賦があるため，3 パターンの組み合わせがあることを理解し，それぞれのメリット・デメリットを理解する .

＜宿題＞
事例　18 〜 19

学ぶべき用語・ポイント

・原価部門
・製造部門
・副経営
・補助部門
・補助経営部門
・工場管理部門
・部門個別費
・部門共通費
・部門固有費
・部門費集計表
・一般費
・単一基準配賦法
・複数基準配賦法
・実際配賦法
・予定配賦法
・補助部門費差異

第 8 回：部門別計算／ Departmental cost accounting

講義の内容

1. 補助部門費の製造部門への配賦方法について理解する .
   ・補助部門間の用役消費の考慮度合いにより，直接配賦法，相互配賦法，階梯式配賦法があることを理解する .
   ・相互配賦法は，配賦の精度の差により簡便法としての相互配賦法，連続配賦法，連立方程式法があることを理解する .
   ・階梯式配賦法では，用役提供規模が重要であることを理解する .
2. 製造部門費の製品への予定配賦について理解する .
   ・製造間接費の予定配賦との類似点を理解する .
3. 製造部門費配賦差異の分析について理解する .
   ・製造部門費配賦差異の処理を理解する .

＜宿題＞

事例　20 〜 25

学ぶべき用語・ポイント

- 直接配賦法
- 相互配賦法
- 簡便法としての相互配賦法
- 連続配賦法
- 連立方程式法
- 階梯式配賦法
- 製造部門費配賦差異
- 予算差異
- 操業度差異

第９回：個別原価計算／ Job order costing

講義の内容

1. 製品別計算について理解する．
   ・製造直接費，製造間接費と製品単位との係りを理解する．
2. 仕掛品勘定と製品勘定について理解する．
   ・仕掛品勘定の内容，製品勘定の内容，仕掛品勘定と製品勘定の係りについて理解する．
3. 個別原価計算の流れについて理解する．
   ・個別原価計算が適用される条件を理解する．
   ・指示生産量の完成度合いと仕掛品勘定の関係，特定製造指図書番号と直間分類の関係を理解する．
   ・完成と完成引渡し済の違いを理解する．
4. 仕損費の計算・処理について理解する．
   ・仕損品原価，仕損品評価額，仕損費の関係を理解する．
   ・補修と代品製作の違いを理解する．
   ・代品製作には，一部仕損と全部仕損があることを理解する．
   ・仕損費を製造部門費予算に織り込んだ場合と織り込まない場合があることを理解する．
   ・それぞれの処理を理解する．
5. 作業屑の処理について理解する．
   ・作業屑の処分方法は，自家消費と外部売却があることを理解する．
   ・作業屑の発生状況により控除先が異なるため，複数の処理方法があることを理解する．

＜宿題＞
事例　26 〜 29

学ぶべき用語・ポイント

・仕掛品
・仕掛品勘定
・製品
・製品勘定
・単純個別原価計算
・部門別個別原価計算
・特定製造指図書
・補修指図書
・代品製作
・仕損品原価
・仕損品
・仕損費
・全部仕損
・一部仕損
・自家消費
・外部売却
・作業屑

第 10 回：単純総合原価計算／ Single process costing

講義の内容

1. 単純総合原価計算の流れについて理解する .
   ・単純総合原価計算が適用される条件を理解する .
   ・個別原価計算と総合原価計算の違いを理解する .
   ・単純総合原価計算の原価集計方法について理解する .
2. 加工進捗度について理解する .
   ・予定原価に対してどの程度投入したのかが加工進捗度であることを理解する .
3. 月末仕掛品原価の計算方法について理解する .
   ・月末仕掛品原価の評価の重要性を理解する .
   ・先入先出法，平均法，後入先出法について理解する .
   ・先入先出法には，完成品原価の内訳を区分するかどうかにより純粋先入先出法と修正先入先出法があることを理解する .

＜宿題＞

事例　30 ～ 34

学ぶべき用語・ポイント

・市場見込生産
・受注生産
・直接材料費
・加工費
・加工進捗度
・完成品換算量
・当月完成品原価
・月末仕掛品原価
・純粋先入先出法
・修正先入先出法
・平均法
・後入先出法

第 11 回：総合原価計算における仕損費・減損／
Spoilage expenses Shrinkage loss in process cost system

講義の内容

1. 仕損費・減損について理解する .
   ・仕損品原価，仕損品評価額，仕損費の関係をもう一度理解する .
2. 仕損費・減損の負担について理解する .
   ・加工進捗度との兼ね合いで正常な仕損費・減損をどこに負担させたら良いのか理解する .
3. 正常仕損費・減損の処理方法について理解する .
   ・異常な仕損費・減損は，原価性がないことを理解する .
   ・正常仕損費・減損の処理については，いったん正常仕損費・減損を分離計算してから良品に追加負担させる非度外視法と，分離計算せず自動的に良品に負担させる度外視法があることを理解する .

＜宿題＞
事例　35 〜 40

学ぶべき用語・ポイント

・仕損品
・仕損品原価
・仕損品評価額
・仕損費
・減損
・良品
・異常仕損費・減損
・度外視法
・非度外視法

第 12 回：総合原価計算における仕損費・減損，工程別総合原価計算／
Spoilage expenses Shrinkage loss in process cost system・Sequential cost system

講義の内容

【総合原価計算における仕損費・減損】

1. 正常仕損費と異常仕損費が混在する場合の処理について理解する .
   ・加工進捗度との兼ね合いで，正常仕損費を異常仕損費にも負担させる場合があることを理解する .

【工程別総合原価計算】

1. 工程別総合原価計算の意義について理解する .
   ・工程の必要性を理解する .
   ・工程と部門の類似点を理解する .
   ・工程別総合原価計算が適用される条件を理解する .
   ・どの原価要素を工程別に集計するのかにより，全部原価要素工程別総合原価計算と加工費工程別総合原価計算があることを理解する .
2. 累加法による工程別総合原価計算について理解する .
   ・各工程の原価についてどのように考えるのかにより，累加法と非累加法があることを理解する .
   ・累加法では，前工程費が直接材料費と同じ扱いになることを理解する .

＜宿題＞

事例　41 〜 43

学ぶべき用語・ポイント

・工程
・全部原価要素工程別総合原価計算
・加工費工程別総合原価計算
・累加法
・非累加法
・前工程費
・半製品

第 13 回：工程別総合原価計算／ Sequential cost system

講義の内容

1. 材料の追加投入について理解する .
   ・材料の投入のパターンとして，始点投入の他，終点投入や平均投入があることを理解する .
2. 非累加法による工程別総合原価計算について理解する .
   ・非累加法は，工程別の原価責任に重点を置いていることを理解する .
   ・非累加法の計算方法には，累加法と計算結果が一致する方法と全工程を一つの工程とみなして計算する方法があることを理解する .
3. 加工費工程別総合原価計算について理解する .
   ・加工費工程別総合原価計算が適用される条件を理解する .

＜宿題＞

事例　44 〜 47

学ぶべき用語・ポイント

・始点投入
・終点投入
・平均投入
・工程費
・累加法と計算結果が一致する方法
・全工程を一つの工程とみなして計算する方法

第 14 ～ 15 回：小テスト／ Mini test

講義の内容

・小テストを実施する.
　出題範囲は，小テスト実施日の 2 週前までに学習した内容とする.

＜宿題＞
　なし

講義の内容

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

原価計算２・西村一幸／ Cost Accounting 2・Kazuyuki Nishimura

講義の目的／ Course Objective

工業簿記及び原価計算の基礎を身につけること . ある処理方法のデメリットを補うために別の処理方法が考案されてきたケースが多いので，単に各処理方法を理解するのではなく，進化した過程をも理解していく .

The purpose of this lecture is to acquire the basics of industrial bookkeeping and cost accounting. In many cases, different processing methods have been devised to make up for the disadvantages of a certain processing method, so we aim to understand not only each processing method but also the evolved process.

講義の進め方

・13 回でテキスト「原価計算 1」第 11 章～第 13 章，「原価計算 2」全部の解説を行う .
・小テストは 2 回行う予定である .（小テストは 14 回目及び 15 回目ではなく 13 回目までに行う場合がある .）
・原則として，講義毎に宿題を課す . また，随時小テスト及び出欠確認を行う .（2 回目以降履修登録期間中に出欠確認を行う場合があるので，履修登録期間中に欠席しないこと .）

予習・復習について

＜予習＞
・ 余力があれば，次回講義分について予習することが望ましい .
＜復習＞
・ 毎回宿題を課しているので，事例について今回以前の分までを反復継続的に復習し，いつ小テストがあっても大丈夫なようにしておく必要がある . 宿題以外の問題についても自主的に学習することを期待する .

この講義を受講するために必要とする知識

・原価計算 1 を履修していること .
・商業簿記の基本的知識を有していることが望ましい .

テキスト・参考文献

・テキスト：オリジナルテキスト『原価計算 1』，『原価計算 2』
・参考文献：必要に応じて講義の中で紹介する .

時間割

後期　土曜 3 限

科目ナンバー

EAC-ACC509

成績評価法

・宿題（30％），小テスト及び出席状況（55％），授業に対する態度（15％）で評価する .
・AA(90 点 以 上),
A(80 点 以 上 90 点 未 満),
B(70 点 以 上 80 点 未 満),
C(60 点 以 上 70 点 未 満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

土曜日
12:00-13:00

連絡先

メールアドレス等は講義で連絡する .

その他（連絡事項）

・途中で履修を放棄する学生は，最初から履修登録しないこと .
・講義が土曜日であるため，就職活動等で欠席が多いことが予想される場合は，履修登録しないこと .

第 1 回：組別総合原価計算，等級別総合原価計算／
Class cost system・Group cost system

講義の内容

【組別総合原価計算】

1. 組別総合原価計算の流れについて理解する .
   ・組別総合原価計算が適用される条件を理解する .
   ・組間接費は製造間接費と同様に配賦が必要であることを理解する .
   ・加工費は，予定配賦が適していることを理解する .
   ・加工費配賦差異の処理について理解する .
2. 工程別組別総合原価計算の流れについて理解する .
   ・工程別組別総合原価計算は，原価を組別に分けた後，工程別に計算することを理解する .

【等級別総合原価計算】

1. 等級別総合原価計算の流れについて理解する .
   ・等級別総合原価計算が適用される条件を理解する .
   ・等価係数の意義を理解し，積数との違いを理解する .
   ・同種製品の違いが，製品の性質なのか標準消費量なのかにより等価係数の測定基準が異なることを理解する .
2. 等級別総合原価計算の計算方法について理解する .
   ・同種製品の違いが 2 つあることに対応して，当月製造費用を等級別に分ける方法と完成品原価を等級別に分ける方法があることを理解する .
   ・完成品原価を等級別に分ける方法には，完成品原価を一括して求める方法と完成品原価を内容別（月初分の完成品なのか当月投入分の完成品なのか）に求める方法があることを理解する .

＜宿題＞

事例　48 〜 50

学ぶべき用語・ポイント

- 組
- 組直接費
- 組間接費
- 工程別組別総合原価計算
- 加工費配賦差異
- 予算差異
- 操業度差異
- 等級品
- 等価比率
- 等価係数
- 品質基準
- 消費量基準
- 単純総合原価計算に近い方法
- 完成品原価を一括して求める方法
- 完成品原価を内容別に求める方法
- 組別総合原価計算に近い方法

第 2 回：連産品・副産物，標準原価計算 I （基本編）／
C0-product・By-product・Standard cost system I （basic）

講義の内容

【連産品・副産物】

1. 連産品について理解する .
   ・等級品と連産品の異同について理解する .
2. 連産品の計算方法について理解する .
   ・等級品との違いにより，連産品の原価の負担は専ら原価回収の観点から行うことを理解する .
   ・連結原価の按分基準には，市場価格を加味しない生産量基準と加味する正常市価基準があることを理解する .
   ・生産量基準及び正常市価基準が適用される条件を理解する .
3. 副産物について理解する .
   ・連産品と副産物の異同について理解する .
4. 副産物の評価について理解する .
   ・副産物の評価と個別原価計算の作業屑の評価の類似点を理解する .
5. 副産物の計算方法について理解する .
   ・副産物評価額は，連結原価から優先的に控除される理由を理解する .

【標準原価計算 I （基本編)】

1. 標準原価計算制度の意義・流れについて理解する .
   ・原価管理について理解する .
   ・実際原価計算制度のデメリットについて理解する .
   ・標準原価計算制度の意義について理解する .
   ・標準原価計算の流れについて理解する .
2. 原価要素標準の設定について理解する .
   ・標準消費量について理解する .
   ・正常仕損費・減損がある場合の，標準原価カードには，正常仕損費・減損を区分表示する方法と各原価要素に含める方法があることを理解する .
3. 標準原価の計算について理解する .
   ・月初仕掛品原価，当月完成品原価，月末仕掛品原価は標準原価で記載されることを理解する .
   ・仕損品評価額は仕掛品勘定から資産勘定に振替えることを理解する .
   ・異常仕損費は非原価項目として仕掛品勘定から営業外費用に振替えることを理解する .

＜宿題＞

事例　51 ～ 54

学ぶべき用語・ポイント

・連産品
・負担能力主義（価値回収的原価計算）
・連結原価
・生産量基準
・正常市価基準
・副産物
・自家消費
・外部売却
・標準原価計算制度
・標準原価
・標準消費量
・標準原価カード

第 3 回：標準原価計算 I （基本編）／ Standard cost system I （basic）

講義の内容

1. 原価差異について理解する .
   - 原価差異は，当月製造費用について発生することを理解する .
   - 各原価要素で標準消費量が算定されるので，実際原価計算制度で発生する原価差異の他に消費量面での差異が加わることを理解する .
   - 各原価要素で発生する原価差異について理解する .
   - 能率差異及び操業度差異は，考え方の違いにより変動費と固定費の能率差異を分ける方法，変動費と固定費の能率差異を分けない方法，能率差異は変動費だけとする方法があることを理解する .
2. 原価差異の処理について理解する .
   - 年度末の原価差異の処理について原価標準の設定が適当だった場合と不適当だった場合では異なることを理解する .
3. 仕掛品勘定の記帳方法について理解する .
   - 当月製造費用の記帳方法について，どこまで標準によるかによりパーシャル・プラン，修正パーシャル・プラン，シングル・プランがあることを理解する .
   - それぞれのデメリット，メリットを理解する .
   - 修正パーシャル・プランでは，製造間接費を実際発生額で仕掛品に振替えなければならない理由を理解する .

＜宿題＞

事例　55

学ぶべき用語・ポイント

- 価格差異
- 数量差異
- 賃率差異
- 作業時間差異
- 予算差異
- 能率差異
- 操業度差異
- 変動費能率差異
- 固定費能率差異
- パーシャル・プラン
- 修正パーシャル・プラン
- シングル・プラン

第 4 回：標準原価計算 II（応用編）／ Standard cost system II （application）

講義の内容

1. 材料の追加投入について理解する .
   ・工程別総合原価計算と同じように，標準原価計算でも追加材料の問題があることを理解する .
2. 材料受入価格差異について理解する .
   ・購買管理の意義を理解する .
   ・シングル・プランと材料受入価格差異の関係を理解する .
   ・材料受入価格差異の処理について理解する .
   ・「原価計算基準」でいう，当期の材料払出高と期末有高の内容を理解する .
3. 原料歩留差異，原料配合差異について理解する .
   ・原料の標準配合割合について理解する .
   ・投入材料が複数ある場合，材料数量差異は，原料別に原料歩留差異と原料配合差異に細分されることを理解する .
   ・原料歩留差異，原料配合差異の意味を理解する .
4. 検査点が終点でない場合の処理について理解する .
   ・検査点が終点であれば，仕損は終点で発見されるので，仕損費は月末仕掛品及び当月完成品が負担するが，検査点が終点でない場合には，加工進捗度との兼ね合いで仕損費を負担させることを理解する .
5. 標準の改訂について理解する .
   ・標準は恒久的なのものではなく，実態に応じて随時改訂することを理解する .
   ・改定の仕方には，旧標準適用分と新標準適用分を分けて処理する方法，新標準による原価低減額を標準改訂差異として処理する方法，期末在庫について新標準に修正し，差額を標準原価改訂引当金で処理する方法があることを理解する .

＜宿題＞

事例　56 ～ 59

学ぶべき用語・ポイント

・材料受入価格差異
・標準配合割合
・原料歩留差異
・原料配合差異

第 5 回：原価・営業量・利益関係の分析／ Cost-volume-profit analysis

講義の内容

1. 短期利益計画について理解する .
   - 長期経営計画，大綱的利益計画，予算編成の関係を理解する .
   - 短期利益計画は，大綱的利益計画と予算編成であることを理解する .
2. 原価・営業量・利益の関係について理解する .
   - 経営判断する上で，将来予想に必要な情報は何であるかを理解する .
   - 総原価の発生が売上に連動するかどうかが重要であることを理解する .
   - 総原価は，売上と連動する変動費と連動しない固定費に区分されることを理解する .
   - 各製品レベルで回収すべき変動費と会社全体として回収すべき固定費の違いを理解する .
   - 貢献利益の意味を理解する .
3. 損益分岐分析 ･CVP 分析について理解する .
   - 短期利益計画と損益分岐分析 ･CVP 分析の関係を理解する .
   - 損益分岐点の意味を理解する .
   - 損益分岐図表を理解する .
   - 損益分岐点売上高，損益分岐点比率，安全余裕率，売上高営業利益率，経営レバレッジ係数，税引後の総資本経常利益率といった指標が持つ意味を理解する .

＜宿題＞

事例　60

学ぶべき用語・ポイント

- 長期経営計画
- 大綱的利益計画
- 予算編成
- 短期利益計画
- 変動費
- 固定費
- 貢献利益
- Cost，Volume，Profit
- 損益分岐点
- 損益分岐点売上高
- 貢献利益率
- 売上高線
- 総原価線
- 損益分岐図表
- 損益分岐点比率
- 安全余裕率
- 売上高営業利益率
- 経営レバレッジ係数
- 総資本経常利益率

第 6 回：原価・営業量・利益関係の分析／ Cost-volume-profit analysis

講義の内容

1. セールス・ミックスについて理解する .
   ・複数の製品を扱う場合の CVP 分析について理解する .
   ・セールス・ミックスの意味を理解する .
   ・セールス・ミックスが一定とは，販売量の割合が一定の場合と売上高の割合が一定の場合があることを理解する .
   ・セールス・ミックスが一定でない場合は，貢献利益を最大にするように行動することを理解する .
   ・制約条件がある場合に，どの製品の生産を優先すべきかについて理解する .
   ・リニア・プログラミングについて理解する .
2. 全部原価計算制度における損益分岐分析について理解する .
   ・制度上の全部原価計算の損益計算書と損益分岐分析の損益計算書の違いを理解する .
   ・全部原価計算の損益計算書上での損益分岐点について理解する .
3. 原価予測の方法について理解する .
   ・原価を固変分解する方法には，過去の実績データに基づく予測法と IE 法のような技術的な予測法があることを理解する .
   ・過去の実績データに基づく方法には，費目別精査法，高低点法，スキャッター・チャート法，最小自乗法があることを理解する .
   ・高低点法，スキャッター・チャート法，最小自乗法は，精度の差であり考え方は同じであることを理解する .

＜宿題＞
事例　61 〜 63

学ぶべき用語・ポイント

・セールス・ミックス
・制約条件
・最適セールス・ミックス
・リニア・プログラミング
・目的関数
・非負条件
・IE 法
・費目別精査法
・高低点法
・スキャッター・チャート法
・回帰分析法（最小自乗法）

第 7 回：直接原価計算／ Variable costing

講義の内容

1. 直接原価計算の意義について理解する .
   - 全部原価計算と直接原価計算の違いである固定製造原価の取扱いについて理解する .
   - 損益分岐分析・CVP 分析と直接原価計算の関係を理解する .
   - 直接原価計算の損益計算書を理解する .
   - 固定費調整について理解する .
2. 実際直接総合原価計算と実際全部総合原価計算について理解する .
   - 実際全部総合原価計算と実際直接総合原価計算の損益計算書を理解する .
3. 実際直接総合原価計算における固定費調整について理解する .
   - 実際直接総合原価計算の営業利益から始まって，期末棚卸資産に含まれる固定整合原価を加算し，期首棚卸資産に含まれる固定製造原価を減算し，実際全部総合原価計算の営業利益につなげることによって，利益管理を目的とする直接原価計算が制度上の原価計算に修正されることを理解する .
   - 固定費調整の方法には，転がし計算法と一括調整法があることを理解する .
4. 実際直接総合原価計算における予算実績差異分析について理解する .
   - 利益管理目的のため，予算と実績を比較分析し，次期以降の短期利益計画策定に役立てていくことを理解する .
   - 差異分析は，営業利益について行うが，具体的には営業利益を構成する売上高，変動売上原価，変動販売費，固定費に細分して分析することを理解する .
   - 売上高差異は，売上価格差異と売上数量差異に分析することを理解する .
   - 売上数量差異は，想定された市場占拠率，実際の市場占拠率，実際の市場規模の関係から市場占拠率差異と市場総需要量差異に細分されることを理解する .
   - 変動売上原価差異及び変動販売費差異は，変動売上原価予算差異及び変動販売費予算差異と変動売上原価数量差異及び変動販売費数量差異に分析されることを理解する .
   - 販売製品が複数の場合，さらにセールス・ミックスの問題も追加されることを理解する . 売上数量差異は，各製品毎にセールス・ミックス差異，市場占有率差異，市場総需要量差異に細分されることを理解する .
   - 経営資本営業利益率は，売上高を媒介として，売上高営業利益率と経営資本回転率に分けられることを理解する .
   - 経営資本営業利益率は，予算と実績の比較により，売上高営業利益率差異と経営資本回転率差異に分析されることを理解する .

＜宿題＞

事例　64 〜 65

学ぶべき用語・ポイント

- 全部原価計算
- 直接原価計算
- 固定費調整
- 実際全部総合原価計算
- 実際直接総合原価計算
- 変動製造マージン
- 転がし計算法
- 一括調整法
- 売上高差異
- 売上価格差異
- 売上数量差異
- 市場占拠率差異
- 市場総需要量差異
- 変動売上原価差異
- 変動売上原価予算差異
- 変動売上原価数量差異
- 変動販売費差異
- 変動販売費予算差異
- 変動販売費数量差異
- 固定費差異
- セールス・ミックス差異
- 市場占有率差異
- 経営資本営業利益率
- 売上高営業利益率
- 経営資本回転率
- 売上高営業利益率差異
- 経営資本回転率差異

第 8 回：直接原価計算／ Variable costing

講義の内容

1. 直接標準総合原価計算と全部標準総合原価計算について理解する .
   - 制度上の全部標準総合原価計算と直接標準総合原価計算の違いを理解する .
   - 利益管理目的の実際直接総合原価計算に原価管理目的の標準を加味したものが，直接標準総合原価計算であることを理解する .
   - 全部標準総合原価計算の損益計算書と直接標準総合原価計算の損益計算書を理解する .
   - 標準貢献利益を算定し，標準変動費差異を加減して実際貢献利益を算定するのは，原価管理用であることを理解する .
   - 直接標準総合原価計算における固定費調整を理解する .
2. 直接標準総合原価計算における予算実績差異分析について理解する .
   - 直接標準総合原価計算は，利益管理の他に原価管理も目的としているため，予算と実績の比較においては貢献利益差異が重要であることを理解する .
   - したがって，貢献利益差異と固定費差異に分析することを理解する .
   - 貢献利益差異は，具体的には販売価格差異，販売量差異，変動費差異に細分されることを理解する .
   - 販売量差異は，展開すると売上における数量差異と変動費における数量差異の合計であることを理解する .

＜宿題＞

事例　66 ～ 67

学ぶべき用語・ポイント

- 全部標準総合原価計算
- 直接標準総合原価計算
- 標準変動製造マージン
- 標準貢献利益
- 実際貢献利益
- 固定費調整
- 貢献利益差異
- 販売価格差異
- 販売量差異
- 変動費差異
- 固定費差異
- 売上品構成差異
- 販売数量差異

第 9 回：直接原価計算，製造原価報告書／ Variable costing・Cost report

講義の内容

【直接原価計算】

1. 価格決定について理解する .
   - 全部総合原価計算における目標マークアップ率の算定と直接総合原価計算における目標マークアップ率の算定では，固定製造原価分だけ乖離することを理解する .
   - 全部総合原価計算による価格設定のメリット，デメリット，直接総合原価計算による価格設定のメリット，デメリットを理解する .

【製造原価報告書】

1. 製造原価報告書について理解する .
   - 製造原価報告書と仕掛品勘定の関係について理解する .
   - 製造原価報告書の表示形式には，原価要素別に表示するものと直間分類により表示するものとがあることを理解する .
   - 製造間接費を予定配賦する場合，仕掛品勘定へは予定配賦額が記載されるが，製造原価報告書ではいったん実際発生額で表示することから，製造原価報告書で製造間接費差異を加減し予定配賦額に修正する必要があることを理解する .

＜宿題＞

事例　68

学ぶべき用語・ポイント

- 目標マークアップ率
- 原価要素に分類した製造原価報告書
- 製造直接費・製造間接費に分類した製造原価報告書

第 10 回：損益計算書／ Profit and loss statement

講義の内容

1. 損益計算書について理解する.
   ・損益計算書と製品勘定の関係を理解する.
   ・製造原価報告書と損益計算書の関係を理解する.
   ・損益計算書の形式について理解する.
   ・原価差異のうち売上原価に賦課するものについて，損益計算書での表示を理解する.

＜宿題＞
事例　69 ～ 70

学ぶべき用語・ポイント
・損益計算書
・売上総利益
・営業利益

第 11 回：本社工場会計，営業費計算／ Head office and factory accounts
Selling, general and administrative expenses

講義の内容

【本社工場会計】

1. 本社工場会計について理解する .
   - 工場会計の意義を理解する .
   - 工場会計の範囲を理解する .
   - 本社工場間取引について理解する .
   - 工場の業績測定のため，工場から本社へ製品を出荷した場合に，内部利益を加算する場合があることを理解する .
   - 工場内での振替取引について理解する .

【営業費計算】

1. 営業費の分類について理解する .
   - 形態別分類と機能別分類について理解する .
   - 営業費は，機能別分類によって販売費と一般管理費に分類されることを理解する .
   - 販売費はさらに注文獲得費，注文履行費，販売管理費に分けられることを理解する .
   - 一般管理費はさらにサービス費，組織管理費，研究開発費等に分けられることを理解する .
2. 販売費の管理方法について理解する .
   - 営業費の管理の中心は販売費である理由を理解する .
   - 販売費の管理方法には，売上と連動するかどうかにより予算管理が適しているものや，発生パターンが決まっていることから原価管理が適しているものがあることを理解する .
3. 販売費の分析について理解する .

＜宿題＞

事例　71

学ぶべき用語・ポイント

- 工場会計
- 本社工場間取引
- 工場勘定
- 本社勘定
- 内部利益
- 内部売上
- 内部売上原価
- 販売費
- 一般管理費
- 注文獲得費
- 注文履行費
- 販売管理費
- サービス費
- 組織管理費
- 研究開発費

第 12 回：事業部の業績評価／ Performance measurement

講義の内容

1. 事業部制組織について理解する.
   ・市場のニーズに機動的に対処できるよう大幅な権限委譲が行われたのが事業部制組織であることを理解する.
2. 事業部損益計算書について理解する．.
   ・事業部損益計算書の様式を理解し，事業部長及び事業部の業績評価を明確にするよう工夫されていることを理解する.
3. 事業部長の業績評価について理解する.
   ・事業部長の業績評価は，事業部長の権限で管理可能な費用について行われることを理解する.
   ・事業部長が管理可能な費用の範囲を理解する.
   ・事業部長の評価指標には，管理可能営業利益，管理可能投下資本利益率，税引前管理可能残余利益があることを理解し，投下資本の有効利用の関係からそれぞれのメリット・デメリットを理解する.
4. 事業部の業績評価について理解する.
   ・事業部の業績評価は，事業部へ配分された費用についても対象になることを理解する.
   ・事業部の業績評価には，税引後事業部利益，事業部総投下資本利益率，税引後純残余利益があることを理解し，事業部長の業績評価同様，投下資本の有効利用の関係からそれぞれのメリット・デメリットを理解する.

＜宿題＞
事例　72

学ぶべき用語・ポイント

- 職能別部門
- 事業別部門
- 事業部制組織
- 権限委譲
- 事業部損益計算書
- 管理可能事業部固定費
- 管理可能営業利益
- 管理不能事業部固定費
- 事業部利益
- 共通固定費負担額
- 法人税等配分額
- 税引後事業部純利益
- 管理可能営業利益
- 管理可能投下資本利益率
- 事業部総投資額
- 管理可能投資額
- 管理不能投資額
- 税引前管理可能残余利益
- 資本コスト率
- 資本コスト
- 税引後事業部利益
- 事業部総投下資本利益率
- 税引後純残余利益

第 13 回：事業部の業績評価／ Performance measurement

講義の内容

1. 内部振替価格について理解する.
   - 大幅な権限委譲の結果，セクショナリズムに陥らないよう，内部振替価格は事業部長の意思決定が全社の利益増加につながるように設定する必要があることを理解する.
   - また，内部振替価格は全社利益を各事業部の利益に配分する基準となるので，各事業部が適正に業績評価される水準に設定する必要があることを理解する.
   - 内部振替価格の決定方法には，市価基準，全部原価基準，全部原価加算基準，差額原価基準，差額原価加算基準，二重価格基準があることを理解する.
2. アメーバ経営について理解する.
   - 日本における分権管理の代表例であるアメーバ経営について，意義，目的と効果，組織細分化の条件を理解し，業績評価指標である時間当たり採算制度，時間当たり採算の向上策を検討し，最後にアメーバ経営の課題について考える.

＜宿題＞

事例　73

学ぶべき用語・ポイント

- 内部振替価格
- 市価基準
- 原価基準
- 全部原価基準
- 全部原価加算基準
- 差額原価基準
- 差額原価加算基準
- 二重価格基準
- アメーバ経営
- 時間当たり採算

第 14 〜 15 回：小テスト／ Mini test

講義の内容

・小テストを実施する.
　出題範囲は，小テスト実施日の 2 週前までに学習した内容とする.

＜宿題＞
　なし

講義の内容

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

原価計算３・西村一幸／ Cost Accounting 3・Kazuyuki Nishimura

講義の目的／ Course Objective

原価計算 1，2 及び 3 の第 8 回までで学習した基礎知識を元にして，さらに多面的な観点からの練習問題を解くことにより，これまで学習してきた内容の総合的な理解を深めていく．

The purpose of this lecture is to deepen the comprehensive understanding of the contents of the lectures on Cost accounting 1 and 2.

講義の進め方

・1 回目から 8 回目まででテキスト全部の解説を行う．
・9 回目から 15 回目までは既に学習した基礎知識を元に多面的な問題を解いていく．
・1 回目から 8 回目までは原則として，講義毎に宿題を課す．
・9 回目から 15 回目までは毎回小テストを行う．

予習・復習について

＜予習＞
・第 8 回まで余力があれば，次回講義分について予習することが望ましい．
＜復習＞
・第 8 回まで毎回宿題を課しているので，事例について今回以前の分までを反復継続的に復習し，いつ小テストがあっても大丈夫なようにしておく必要がある．

この講義を受講するために必要とする知識

・原価計算 1 及び 2 を履修していること．
・商業簿記の基本的知識を有していることが望ましい．

テキスト・参考文献

・テキスト：オリジナルテキスト『原価計算 3』
・参考文献：必要に応じて講義の中で紹介する．

時間割

前期　土曜 4 限

科目ナンバー

EAC-ACC612

成績評価法

・宿題（30%），小テスト（70%）で評価する．
・AA(90 点 以 上),
A(80 点 以 上 90 点 未 満),
B(70 点 以 上 80 点 未 満),
C(60 点 以 上 70 点 未 満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

土曜日
12:00-13:00

連絡先

メールアドレス等は講義で連絡する．

その他（連絡事項）

・途中で履修を放棄する学生は，最初から履修登録しないこと．
・講義が土曜日であるため，就職活動等で欠席が多いことが予想される場合は，履修登録しないこと．
・電卓は利き手でない方の手を用い，ブラインドタッチができるレベルであることが望ましい．

第 1 回：差額原価収益分析／ Differential cost and revenue analysis

講義の内容

1. 経営意思決定について理解する.
   ・経営意思決定のプロセスについて理解する.
   ・経営意思決定には，内容の違い及びスパンの違いにより，戦術的意思決定（業務的意思決定）と戦略的意思決定（構造的意思決定）があることを理解する.
2. 特殊原価調査について理解する.
   ・特殊原価調査の目的について理解する.
   ・経営意思決定に役立つ予測情報には，関連原価，差額原価，機会原価，無関連原価，埋没原価があることを理解する.
3. 差額原価収益分析について理解する.
   ・差額原価収益分析は，差額利益の最大化を目的としていることを理解する.
4. 新規注文を引受けるかどうかの意思決定について理解する.
   ・生産能力に余剰がある場合とない場合では意思決定の仕方が異なることを理解する.
   ・新規注文引き受けの条件について理解する.
5. 部品を自製するか購入するかの意思決定について理解する.
   ・部品を自製するための条件を理解する.
6. 追加加工を行うかどうかの意思決定について理解する.
   ・追加加工を行う条件を理解する.
7. 経済的発注量について理解する.
   ・在庫管理について、在庫管理費は保管費と発注費であることを理解する.
   ・保管費の内容及び保管費と 1 回当たりの発注量の関係を理解する.
   ・発注費の内容及び発注費と 1 回当たりの発注量の関係を理解する.
   ・在庫管理費を最小にする 1 回当たりの発注量は、保管費＝発注費であることを理解する.

＜宿題＞

事例　74 ～ 78

学ぶべき用語・ポイント

・代替案
・経営意思決定
・戦術的意思決定（業務的意思決定）
・戦略的意思決定（構造的意思決定）
・特殊原価調査
・関連原価
・差額原価
・機会原価
・無関連原価
・埋没原価
・差額原価収益分析
・保管費
・発注費
・在庫管理費
・経済的発注量

第 2 回：設備投資の経済性計算／ Capital expenditure decision

講義の内容

1. 設備投資の経済性計算の特徴について理解する.
   ・設備投資の経済性計算の大きな特徴は，スパンが長期であるため時間価値を考慮し，効果の測定はキャッシュ・フローであることを理解する.
2. 現在価値について理解する.
   ・現在価値の意味について理解する.
   ・現価係数及び年金現価係数の関係について理解する.
3. 資本コストについて理解する.
   ・資本コストの意義について理解する.
   ・資本コストは税引後の概念である理由を理解する.
   ・資本コスト率の役割について理解する.
4. キャッシュ・フローと損益計算書の関係について理解する.
   ・キャッシュ・フローと損益計算書の異同について理解する.
5. 運転資本について理解する.
   ・運転資本の内容及びキャッシュ・フロー上の効果について理解する.

＜宿題＞
なし

学ぶべき用語・ポイント

・時間価値
・キャッシュ・フロー
・現価係数
・年金現価係数
・資本コスト
・加重平均資本コスト率
・運転資金
・運転資本

第 3 回：設備投資の経済性計算／ Capital expenditure decision

講義の内容

1. 設備投資案の評価方法について理解する.
   - 設備投資案の評価方法は，時間価値を考慮する方法と時間価値より財務安全性を重視した単純回収期間法に大別されることを理解する.
   - 時間価値を考慮する方法には，正味現在価値法，収益性指数法，内部利益率法があることを理解する.
2. 設備投資の損益分岐点の生産販売量について理解する.
   - 設備投資の損益分岐点は，設備投資額を回収する点であることを理解する.
3. 取替投資の意思決定について理解する.
   - 新規設備に取り替える条件について理解する.

＜宿題＞

事例　79 ～ 82

学ぶべき用語・ポイント

- 正味現在価値
- 正味現在価値法
- 収益指数法
- 内部利益率
- 内部利益率法
- 単純回収期間法
- 投下資本利益率（投資利益率）

第 4 回：設備投資の経済性計算，戦略の策定と遂行のための原価計算／Capital expenditure decision・Real option・Life cycle costing

講義の内容

【設備投資の経済性計算】

1. リースか購入かの意思決定について理解する．
   ・リース案の採用条件について理解する．
2. 耐用年数が異なる新規設備の比較について理解する．
   ・代替案で耐用年数が異なる場合の計算期間は，耐用年数の最小公倍数であることを理解する．
3. リアル・オプションについて理解する．
   ・従来の設備投資の経済性計算の限界，リアル・オプションの意義，主な種類，二項モデルによる簡単な計算を理解する．

【戦略の策定と遂行のための原価計算】

1. ライフサイクル・コスティングについて理解する．
   ・製品のライフサイクルについて理解する．
   ・製品のライフサイクルの各段階で発生する費用は，生産コストと使用コストに大別されることを理解する．
   ・生産コストは，研究・開発コストと生産・構築コストに細分されることを理解する．
   ・使用コストは，運用・支援コストと退役・廃棄コストに細分されることを理解する．

＜宿題＞

事例　83 〜 84

学ぶべき用語・ポイント

・リアル・オプション
・延期オプション
・段階オプション
・オペレーティングオプション
・撤退オプション
・柔軟性オプション
・成長オプション
・二項モデル
・リスクフリーレート
・リスク中立確率
・生産コスト
・研究・開発コスト
・生産・構築コスト
・使用コスト
・運用・支援コスト
・退役・廃棄コスト

第 5 回：戦略の策定と遂行のための原価計算／
Simple cost accounting Target costing Activity-based costing

講義の内容

1. 品質原価計算について理解する.
   ・品質原価計算の意義・目的について理解する.
   ・品質原価は，自主的に発生する自発的原価と意図せずして発生する非自発的原価があることを理解する.
   ・自発的原価は，予防原価と評価原価に細分されることを理解する.
   ・非自発的原価は，内部失敗原価と外部失敗原価に細分されることを理解する.
   ・自発的原価と非自発的原価の関係について理解する.
   ・品質原価を最小にしていくためのプロセスについて理解する.
2. 原価企画について理解する.
   ・原価管理方法の変化について理解する.
   ・原価企画の意義について理解する.
   ・原価企画のプロセスについて理解する.
3. 活動基準原価計算について理解する.
   ・活動基準原価計算の意義・目的について理解する.
   ・資源ドライバーとコストドライバーの関係を理解する.
   ・原価管理への活用，予算管理への活用について，ABM 及び ABB を理解する.

＜宿題＞
事例　88 ～ 90

学ぶべき用語・ポイント

・品質原価
・自発的原価（品質適合コスト）
・非自発的原価（品質不適合コスト）
・予防原価
・評価原価
・内部失敗原価
・外部失敗原価
・原価企画
・成行原価
・許容原価
・コスト・テーブル
・VE 法
・活動基準原価計算（ABC）
・活動
・コスト・プール
・経済的資源
・資源ドライバー
・コスト・ドライバー
・活動基準原価管理（ABM）
・活動基準予算（ABB）

第 6 回：戦略の策定と遂行のための原価計算，月次予算編成／ Balanced scorecard・Monthly budgeting

講義の内容

【戦略の策定と遂行のための原価計算】

1. バランスト・スコアカードについて理解する．
   - バランスト・スコアカードの意義について理解する．
   - バランスト・スコアカードの設定・実行プロセスについて理解する．
   - 財務の視点，顧客の視点，業務プロセスの視点，学習と成長の視点について，それぞれの内容，留意点，それぞれの関係について理解する．
   - 財務と非財務のバランス，時間のバランス，要因と結果のバランス，内部と外部のバランス，利害関係者間のバランスについて理解する．
   - バランスト・スコアカードの効果について理解する．

【月次予算編成】

1. 月次予算編成について理解する．
   - 月次予算編成のプロセスについて理解する．

＜宿題＞

事例　91

学ぶべき用語・ポイント

- 財務の視点
- 顧客の視点
- 業務プロセスの視点
- 学習と成長の視点
- 財務と非財務のバランス
- 時間のバランス
- 要因と結果のバランス
- 内部と外部のバランス
- 利害関係者間のバランス
- 戦略マップ宿題
- 月次予算編成
- 予定損益計算書
- 予定貸借対照表

第 7 回 : 企業価値の評価／ Corporate valuation

講義の内容

【企業価値の評価】

1. 企業価値の評価について理解する.

・企業価値が注目されてきた背景について理解する.
・企業価値の評価方法について理解する.
・DCF 法の評価手順について理解する.
・株主価値について理解する.
・企業価値を高める施策について理解する.

＜宿題＞

事例　92

学ぶべき用語・ポイント

・企業価値
・コーポレートファイナンス
・間接金融
・直接金融
・コストアプローチ
・マーケットアプローチ
・インカムアプローチ
・DCF 法
・FCF
・NOPAT
・運転資本
・WACC
・継続価値
・事業価値
・株主価値
・有利子負債価値

第 8 回 : マテリアルフローコスト会計，スループット会計／
Material flow cost accounting・Throughput accounting

講義の内容

【マテリアルフローコスト会計】
1. マテリアルフローコスト会計について意義及び目的を理解する.
【スループット会計】
1. スループット会計について意義，営業利益，営業利益を増大させる施策について理解する.
2. サプライ・チェーン管理会計について意義を理解する.

＜宿題＞
なし

学ぶべき用語・ポイント

- 環境会計
- 正の製品
- 負の製品
- マテリアルコスト
- システムコスト
- スループット
- 在庫
- 業務費用
- サプライ・チェーン
- 全体最適化

第 9 回から第 15 回 : 演習問題／ Exercise

講義の内容

1. 原価計算 1，2 及び 3 の第 8 回までで学習した基礎知識を元にして，さらに多面的な観点からの練習問題を解くことにより，これまで学習してきた内容の総合的な理解を深めていく．
2. 9 回から 15 回までの主な内容は次のとおりであるが，順番どおりには行わないので注意が必要である．
   - 原価の諸概念，非原価項目，製造原価要素の分類基準
   - 費目別計算における原価要素の分類
   - 材料副費の処理
   - 労務費の予定配賦（原価差異の分析）
   - 製造間接費の予定配賦（原価差異の分析）
   - 部門別個別原価計算，仕損費の処理
   - 補助部門費の予定配賦
   - 製造部門費差異の分析
   - 単純総合原価計算，工程別総合原価計算（正常仕損，異常仕損）
   - 等級別総合原価計算
   - 連産品，副産物の処理
   - 標準工程別総合原価計算（累加法）
   - 標準原価計算における材料費，労務費の原価差異分析（価格差異，歩留差異，減損差異，副産物差異，配合差異，賃率差異，不良品差異，能率差異）
   - パーシャル・プラン，修正パーシャル・プラン，シングル・プランによる記帳
   - 材料受入価格差異の処理，原価差異の追加配賦
   - CVP 分析，損益分岐点，安全余裕率
   - 固定費調整，直接原価計算による残余利益
   - 直接標準原価計算における予算実績差異分析
   - 販売費及び一般管理費の要素の分類基準，販売費及び一般管理費の計算，技術研究費
   - 事業部制，内部振替価格
   - 差額原価収益分析
   - 設備投資の経済性計算
   - 従来の配賦と ABC による配賦の違い
   - 月次資金計画
   - 企業価値の評価　等
3. その他　電卓を持参すること．

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

事例研究（管理会計）・松田康弘／ Case Study (Management Accounting)・Yasuhiro Matsuda

講義の目的／ Course Objective

この講義では管理会計に関する実際の事例を調査・研究する．特に，戦略的な側面と現代的な経営環境に着目して，事例を追った詳細な分析を行う．

In this course, we investigate competitive environments of certain product markets and analyze the reaction to firm(s) operating in the markets form the perspective of management accounting. We focus especially on strategic aspects of modern management accounting practices and conduct detailed analyses on managerial behaviors of such firms and competitive environments through actual data.

講義の進め方

・講義の前半：管理会計に関するトピックを取り上げ，テキストや参考文献に沿って各トピックに関する基礎的な知識を学習する．
・講義の後半：実際の事例について受講者にレポートしてもらい，その事例について議論する．事例はできるだけ新しいものを選んでいきたい．
・理解の確認と議論への参加意識の喚起のため，レポート課題の提出を何度か求める予定である．

予習・復習について

＜予習＞
・講義で扱う事例は事前に告知され，資料が配布される．事前に内容を把握しておくこと．
・事例を扱う際，内容は一般的なものと事例のみに関係するものの両方を含む．双方について熟慮されたい．
＜復習＞
・授業で使う事例は，様々な視点から考察を試みる価値のある，内容の豊かなものを選んでいる．レポート課題として提出を要求することが多いが，復習を試みられたい．

この講義を受講するために必要とする知識

管理会計の基本的な知識を持っていることが望ましい．また，海外の文献，雑誌等を読む場合があるため，英語を読みこなす能力が必要とされる．

テキスト・参考文献

・使用する文献や資料は講義の中で随時指示するが，以下のものを参考文献として挙げておく．

Datar S.M., and M. Rajan, *Horngren's Cost Accounting: A Managerial Emphasis 17th ed.*, Prentice-Hall, 2017.

Weil R.L. and M.W. Maher, *Handbook of Cost Management 2nd ed.,* John Weily and Sons, Inc., 2005.

上總康行『管理会計論［第 2 版］』新世社，2017 年.

時間割

後期　木曜 7 限

科目ナンバー

EAC-ACC613

成績評価法

・最終課題（20％），平常点（80％）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

水曜日
14:40-16:10

連絡先

022-217-6280
ymazda@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・特になし．

講義の予定／ Class Plan

講義の予定／ Class Plan
第 1 回：オリエンテーション／ Orientation
第 2 回：戦略的管理会計の基礎 1 ／ Foundation of strategic management accounting 1
第 3 回：戦略的管理会計の基礎 2 ／ Foundation of strategic management accounting 2
第 4 回：競争環境と管理会計／ Competitive environment analysis and management accounting
第 5 回：ビジネスモデルと管理会計 1 ／ Business models and management accounting 1
第 6 回：ビジネスモデルと管理会計 2 ／ Business models and management accounting 2
第 7 回：管理会計実務の調査・分析 1 ／ Investigation and analysis of management accounting practice 1
第 8 回：管理会計実務の調査・分析 2 ／ Investigation and analysis of management accounting practice 2
第 9 回：管理会計実務の調査・分析 3 ／ Investigation and analysis of management accounting practice 3
第 10 回：管理会計実務の調査・分析 4 ／ Investigation and analysis of management accounting practice 4
第 11 回：管理会計実務の調査・分析 5 ／ Investigation and analysis of management accounting practice 5
第 12 回：管理会計実務の調査・分析 6 ／ Investigation and analysis of management accounting practice 6
第 13 回：管理会計実務の調査・分析 7 ／ Investigation and analysis of management accounting practice 7
第 14 回：管理会計実務の調査・分析 8 ／ Investigation and analysis of management accounting practice 8
第 15 回：管理会計実務の調査・分析 9 ／ Investigation and analysis of management accounting practice 9

ビジネスモデルと管理会計に関する事例としては，例えば加熱式タバコ市場とフィリップモリス社や JT 社の振る舞いを調査・分析する．また，様々な競争環境に対して管理会計の役割を検討するため，アパレル業界におけるしまむらの近年の店舗展開や，我が国の航空業界における，スカイマーク社等の LCC の戦略，価格設定，コスト管理手法を調査・分析する．その他の調査対象企業は講義の中で適宜選択する．

We first investigate the product market of heated tobacco and its competitors, e.g., Philip Morris Japan Limited or JAPAN TOBACCO INC., for the purpose of studying the relationship between business models and management accounting. Focusing on the strategic roles of management accounting against a variety of competitive environments, we investigate the cost saving behaviors of SHIMAMURA Co., Ltd. and the business strategy, pricing strategy, and cost management practices performed by so-called Low-Cost Carriers such as Skymark Airlines Inc. or Peach Aviation Limited. We will have several more management accounting practices to investigate, pursuing modern management accounting solutions to challenges facing firms in product markets.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

監査 1 ・亀岡恵理子／ Auditing 1・Eriko Kameoka

時間割

前期　月曜 4 限

講義の目的／ Course Objective

本講義では，最も基本的な監査の概念および理論，制度を中心に説明する．本講義を通じて，学生は，(1) 企業社会における多層的なモニタリングの仕組み，(2) 監査の歴史的側面，(3) 関連する法律および規則，(4) 監査の重要概念，および (5) GAAS に反映されている現代の監査アプローチを理解することができる．講義内容は，基本的には公認会計士および監査法人が実施する外部監査に焦点をあてるが，内部監査人による内部監査と監査役による監査役監査の概要も講義内容としてカバーする．

The course provides fundamental knowledge on auditing. Through the course, students will understand: (1) the multidimensional monitoring system in business society, (2) the historical aspects in auditing, (3) the applicable laws and rules, (4) the key concepts of auditing, and (5) the contemporary auditing approach reflecting in GAAS. The focus is basically on external audits conducted by CPAs and audit firms, but the course also covers internal audits conducted by internal auditors and Audit & Supervisory Board Members (Kansayaku).

科目ナンバー

EAC-ACC510

成績評価法

・理解度確認セッション（60%），課題（40%）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

講義の進め方

板書またはパワーポイントによって講義する．受講生の理解を促すため，講義内で課題を課したり，発言を求めたりすることがある．

オフィスアワー

月曜日
16:20-17:50

予習・復習について

＜予習＞
・指定するテキストの該当箇所に目を通しておくこと．
＜復習＞
・テキストを再度，丁寧に読むこと．講義資料およびノートを見直すこと．

連絡先

ekameoka@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

この講義を受講するために必要とする知識

特に必要としない．

テキスト・参考文献

・テキスト：鳥羽至英・永見尊・福川裕徳・秋月信二『財務諸表監査』国元書房，2015 年．
・参考文献：・日本公認会計士協会『監査実務指針集』（最新版）．
企業会計審議会および品質管理基準委員会が定める各種基準を参照できればよい．
・その他，講義のなかで必要に応じて紹介します．

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

第 1 回では，講義の進め方や成績評価に関するオリエンテーションを行います．全 15 回の講義計画は以下のとおりである．

第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：誤謬と不正
第 3 回：内部統制とコーポレートガバナンス
第 4 回：監査制度（会社法監査）
第 5 回：監査制度（金融商品取引法監査）
第 6 回：監査プロフェッションと規制
第 7 回：監査基準の形成と意義
第 8 回：監査人の独立性
第 9 回：監査人の注意の標準
第 10 回：監査プロセス
第 11 回：監査認識―アサーションとその構造―
第 12 回：監査認識―監査証拠と監査技術―
第 13 回：監査リスク・アプローチ
第 14 回：監査結果の伝達
第 15 回：理解度確認セッション

＜宿題＞

・講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること．
・次回の講義に向けて，講義中に指定するテキストの該当箇所に目を通しておくこと．

第 2 回：誤謬，不正，違法行為／ Errors, fraud, and illegal acts

講義の内容

誤謬と不正，違法行為について学びます（テキスト第 5 章）.

- 誤謬概念
- 不正概念
- 違法行為
- 不正の態様
- 不正のトライアングル

＜宿題＞

- 講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
- 次回の講義に向けて，講義中に指定するテキストの該当箇所に目を通しておくこと.

第 3 回：内部統制とコーポレートガバナンス／ Internal control and corporate governance

講義の内容

内部統制とコーポレートガバナンスについて学びます（テキスト第 20 章, 第 21 章［一部］）.

- 内部統制概念
- COSO フレームワーク
- 内部監査
- 内部統制の意義と限界
- コーポレートガバナンス

＜宿題＞

- 講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
- 次回の講義に向けて，講義中に指定するテキストの該当箇所に目を通しておくこと.

第 4 回：監査制度（会社法監査）／ Audits under the Companies Act

講義の内容

監査を必要とする社会的関係と監査制度(会社法監査)について学びます(テキスト第 3 章, 第 21 章［一部］).

・アカウンタビリティ
・委託受託関係
・市場取引関係
・情報の非対称性と潜在的利害対立
・監査役監査
・会計監査人監査

＜宿題＞

・講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
・次回の講義に向けて，講義中に指定するテキストの該当箇所に目を通しておくこと.

第 5 回：監査制度（金融商品取引法監査）／ Audits under the Financial Instruments and Exchange Act

講義の内容

監査制度（金融商品取引法監査）について学びます（テキスト第 6 章）.

- 企業不祥事とその後の法制度改革
- 金融商品取引法
- 企業内容開示制度
- 開示書類と監査
- 保証水準

＜宿題＞

- 講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
- 次回の講義に向けて，講義中に指定するテキストの該当箇所に目を通しておくこと.

第 6 回：監査プロフェッションと規制／ The auditing profession and regulation

講義の内容

監査プロフェッションと規制について学びます（テキスト第 4 章）.

・監査プロフェッション・プロセス
・公認会計士法
・日本公認会計士協会
・金融庁

＜宿題＞

・講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
・次回の講義に向けて，講義中に指定するテキストの該当箇所に目を通しておくこと.

第 7 回：監査基準の形成と意義／ Generally accepted auditing standards (GAAS)

講義の内容

監査規範，監査基準の形成と意義について学びます（テキスト第 7 章）.

- 一般に認められた監査基準（Generally Accepted Auditing Standards: GAAS）
- 監査基準の形成
- 監査基準の基本的性格
- 「一般に公正妥当と認められる監査の基準」の体系
- 監査基準の規範性

＜宿題＞

- 講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
- 次回の講義に向けて，講義中に指定するテキストの該当箇所に目を通しておくこと.

第 8 回：監査人の独立性／ Auditor independence

講義の内容

監査人の独立性について学びます（テキスト第 8 章）.

- 精神的独立性
- 外観的独立性
- 外観的独立性に対する規制
- 監査報酬

＜宿題＞

- 講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
- 次回の講義に向けて，講義中に指定するテキストの該当箇所に目を通しておくこと.

第 9 回：監査人の注意の標準／ Due professional care

講義の内容

監査人の注意の標準について学びます（テキスト第 9 章）.

・職業的専門家としての正当な注意の標準
・職業的懐疑心
・監査における不正リスク対応基準

＜宿題＞

・講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
・次回の講義に向けて，講義中に指定するテキストの該当箇所に目を通しておくこと.

第 10 回：監査プロセス／ Audit process

講義の内容

監査プロセスについて学びます（テキスト第 11 章）.

- 監査契約プロセス
- 監査認識プロセス
- 監査報告プロセス

＜宿題＞

- 講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
- 次回の講義に向けて，講義中に指定するテキストの該当箇所に目を通しておくこと.

第 11 回：監査認識―アサーションとその構造―／ Assertion-oriented audit cognition

講義の内容

監査認識―アサーションとその構造―について学びます（テキスト第 2 章，第 12 章，第 19 章）.

・監査の主題
・言明の監査と非言明の監査
・アサーション（明示的・黙示的）
・アサーションの階層的構造
・立証方法への影響

＜宿題＞

・講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
・次回の講義に向けて，講義中に指定するテキストの該当箇所に目を通しておくこと.

第 12 回：監査認識―監査証拠と監査技術―／ Audit evidence and audit techniques

講義の内容

監査認識―監査証拠と監査技術―について学びます（テキスト第 13 章）.

- 監査証拠
- 証拠収集の目的
- 証拠の種類（文書的証拠，物理的証拠，口頭的証拠）
- 監査技術
- アサーションと証拠（正の証拠と負の証拠）
- 実証と反証

＜宿題＞

- 講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
- 次回の講義に向けて，講義中に指定するテキストの該当箇所に目を通しておくこと.

第 13 回：監査リスク・アプローチ／ Audit risk approach

講義の内容

監査リスク・アプローチについて学びます（テキスト第 14 章，第 15 章）.

- 監査の有効性と効率性
- 試査
- 重要な虚偽表示リスク
- 監査リスク・アプローチ
- 固有リスク，統制リスク，発見リスク
- 合理的な基礎

＜宿題＞

- 講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
- 次回の講義に向けて，講義中に指定するテキストの該当箇所に目を通しておくこと.

第 14 回：監査結果の伝達／ Communication of audit results

講義の内容

監査結果の伝達について学びます（別途，指示します）.

・監査報告書の構造と監査メッセージ
・監査意見の類型と意見不表明
・監査報告書と利害関係者

＜宿題＞

・講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

第 1 回から第 14 回までの講義内容について，理解度確認セッションを実施します.

＜宿題＞

解答できなかった問題等について復習すること.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

監査２・亀岡恵理子／ Auditing 2・Eriko Kameoka

講義の目的／ Course Objective

本講義では，受講生が監査の基本的知識を有していることを前提に，公認会計士・監査法人が遂行する財務諸表監査に特化して講義を行います．国際監査・保証基準審議会（IAASB）が 2014 年に公表した監査品質フレームワークにならって，本講義ではブラックボックス化しているとされる監査実務を 5 つの要素（インプット，プロセス，アウトプット，利害関係者間の相互作用，および背景的要因）にわけたうえ，各要素に関連づけて監査トピックを学びます．講義では，日本公認会計士協会が公表する監査基準委員会報告書，事例，監査研究を通じて，財務諸表監査について理解を深めます．

The course focuses on financial statement audits conducted by CPAs and audit firms. Students are expected to possess fundamental knowledge on auditing. Following the IAASB (2014)'s framework for audit quality, the course divides black box of auditing practice into five elements: inputs, process, outputs, interactions, and contextual factors and relates specific topics to each element. The course covers the standards (Auditing Standards Board Report issued by JICPA), case materials, and some audit research findings, which will be useful for our understanding of financial statement audits.

講義の進め方

板書またはパワーポイントによって講義する．受講生の理解を促すため，講義内で課題を課したり，発言を求めたりすることがある．

予習・復習について

＜予習＞

・指定する監査基準委員会報告書に目を通しておくこと．

＜復習＞

・紹介した文献，講義資料およびノートを見直すこと．

この講義を受講するために必要とする知識

特に必要としない．

テキスト・参考文献

・テキスト：特に指定しない．

・参考文献：・日本公認会計士協会 .「監査基準委員会報告書」.

・その他，講義のなかで必要に応じて紹介します．

時間割

後期　月曜 4 限

科目ナンバー

EAC-ACC511

成績評価法

・理解度確認セッション（60%），課題（40%）で評価する．

・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

月曜日
16:20-17:50

連絡先

ekameoka@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

第 1 回では，講義の進め方や成績評価に関するオリエンテーションを行います．全 15 回の講義計画は以下のとおりです.

第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：監査の失敗と期待ギャップ問題
第 3 回：監査品質フレームワーク
第 4 回：インプット（1）
第 5 回：インプット（2）
第 6 回：プロセス（1）
第 7 回：プロセス（2）
第 8 回：プロセス（3）
第 9 回：プロセス（4）
第 10 回：プロセス（5）
第 11 回：アウトプット（1）
第 12 回：アウトプット（2）
第 13 回：監査の利害関係者間の主な相互作用
第 14 回：背景的要因
第 15 回：理解度確認セッション

＜宿題＞

・講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
・次回の講義に向けて, 指定の監査基準委員会報告書の該当箇所に目を通しておくこと.

第 2 回：監査の失敗と期待ギャップ問題／ Audit failure and expectation gap

講義の内容

監査の失敗と期待ギャップ問題について学びます.

- 監査の失敗
- 監査人の責任
- 免責基準としての監査基準
- 適正表示
- 期待ギャップ問題

＜宿題＞

- 講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
- 次回の講義に向けて, 指定の監査基準委員会報告書の該当箇所に目を通しておくこと.

第 3 回：監査品質フレームワーク／ IAASB (2014)’s framework for audit quality

講義の内容

財務諸表監査の質（監査品質）について学びます.

- 監査品質概念
- 財務諸表監査を取り巻く利害関係者
- 監査品質フレームワーク
- 監査品質の可視化

＜宿題＞

- 講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
- 次回の講義に向けて, 指定の監査基準委員会報告書の該当箇所に目を通しておくこと.

第 4 回：インプット（1）／ Inputs (1)

講義の内容

インプット（1）について学びます.

・公認会計士
・監査法人
・日本公認会計士協会
・金融庁
・監査プロフェッション

＜宿題＞

・講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
・次回の講義に向けて, 指定の監査基準委員会報告書の該当箇所に目を通しておくこと.

第 5 回：インプット（2）／ Inputs (2)

講義の内容

インプット（2）について学びます.

・職業倫理
・独立性
・バイアス

＜宿題＞

・講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
・次回の講義に向けて, 指定の監査基準委員会報告書の該当箇所に目を通しておくこと.

第 6 回：インプット（3）／ Inputs (3)

講義の内容

インプット（3）について学びます.

・職業的専門家としての能力
・業種専門性
・職業的懐疑心

＜宿題＞

・講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
・次回の講義に向けて，指定の監査基準委員会報告書の該当箇所に目を通しておくこと.

第 7 回：プロセス（1）／ Process (1)

講義の内容

プロセス（1）について学びます.

・監査プロセス
・リスク評価
・監査計画
・監査サンプリング

＜宿題＞

・講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
・次回の講義に向けて，指定の監査基準委員会報告書の該当箇所に目を通しておくこと.

第 8 回：プロセス（2）／ Process (2)

講義の内容

プロセス（2）について学びます.

・企業及び企業環境の理解
・重要な虚偽表示リスクの識別と評価
・監査の計画及び実施における重要性

＜宿題＞

・講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
・次回の講義に向けて，指定の監査基準委員会報告書の該当箇所に目を通しておくこと.

第 9 回：プロセス（3）／ Process (3)

講義の内容

プロセス（3）について学びます.

・監査証拠
・監査手続
・監査技術

＜宿題＞

・講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
・次回の講義に向けて, 指定の監査基準委員会報告書の該当箇所に目を通しておくこと.

第 10 回：プロセス（4）／ Process (4)

講義の内容

プロセス（4）について学びます.

・会計上の見積りの監査
・継続企業の前提

＜宿題＞

・講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
・次回の講義に向けて, 指定の監査基準委員会報告書の該当箇所に目を通しておくこと.

第 11 回：アウトプット（1）／ Outputs (1)

講義の内容

アウトプット（1）について学びます.

- 監査報告
- 監査意見の類型
- 標準監査報告書

＜宿題＞

- 講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
- 次回の講義に向けて，指定の監査基準委員会報告書の該当箇所に目を通しておくこと.

第 12 回：アウトプット（2）／ Outputs (2)

講義の内容

アウトプット（2）について学びます.

・監査報告書の長文化

・監査上の主要な検討事項（Key Audit maters: KAM）

＜宿題＞

・講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.

・次回の講義に向けて，指定の監査基準委員会報告書の該当箇所に目を通しておくこと.

第 13 回：監査の利害関係者間の主な相互作用／ Interactions

講義の内容

監査の利害関係者間の主な相互作用について学びます.

・経営者とのディスカッション
・監査役等とのコミュニケーション

＜宿題＞

・講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.
・次回の講義に向けて, 指定の監査基準委員会報告書の該当箇所に目を通しておくこと.

第 14 回：背景的要因／ Contextual factors

講義の内容

背景的要因について学びます.

・監査チーム
・内部監査人の作業の利用
・専門家の業務の利用

＜宿題＞

・講義内容に関する○×問題を 1 題，解説付で作成すること.

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

第 1 回から第 14 回までの講義内容について，理解度確認セッションを実施します.

＜宿題＞

・解答できなかった問題等について復習すること.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

監査３・榊正壽／ Auditing 3・Masatoshi Sakaki

時間割

前期　木曜５限

講義の目的／ Course Objective

財務諸表監査論は「総論」と「手続論（実施・報告論）」の２つに分けることができる．この講義では，主として「総論」に関する実務的な論点について扱うこととし，各テーマについて論点整理とディスカッションを行う．

「総論」では主に，①基本的な概念を理解すること，②制度の趣旨を理解すること，③制度の詳細を把握すること，の３点が必要となる．本講義では，受講者の自習を通じた検討事項の発表及びグループディスカッションを通じて①および②を効果的に達成することを目的とする．

The audit of financial statements can be divided into two categories: “General remarks” and “Procedure methodology” (Audit Procedure Methodology / Reporting). In this lecture, I will mainly deal with practical issues related to the general “General remarks” , and will organize and discuss issues on each theme.

“General remarks”mainly require three points: (1) understanding the basic concept, (2) understanding the purpose of the system, and (3) understanding the details of the system. The purpose of this lecture is to effectively achieve (1) and (2) through the presentation of items to be considered through self-learning and group discussion.

科目ナンバー

EAC-ACC614

成績評価法

・グループディスカッションへの貢献，発表内容（60%），理解度確認セッション（40%）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

木曜日
16:20-17:50

連絡先

第１回講義においてお知らせします．

講義の進め方

・取り扱う各テーマに関して，論点整理をするための講義の回と，その内容を各自で検討・討議するためのディスカッションの回で構成される．
・毎回の講義前に，各回のテーマに関して教科書の指定箇所および配布資料を熟読すること（グループディスカッションはこの予習を前提として実施する）．
・最終回に理解度確認セッションを実施する．80 分程度で，論述式とする．

その他（連絡事項）

・「講義の目的」にも記載したように，本講義では財務諸表監査論のうち主として「総論」に関する実務的な論点を取り扱い，「手続論（実施・報告論）」は「監査実務１」で取り扱います．どちらも単独で履修可能ですが，学習効果の観点からは，「監査３」と「監査実務１」両方の履修を推奨します．

予習・復習について

＜予習＞

・論点整理とディスカッションのために相応の事前準備が必要となるため，予習の時間を十分に確保すること．

＜復習＞

・グループディスカッションを通じて理解が深まった部分を教科書や参考書を通じて再確認するとともに，理解が足りなかったと感じた部分について各自で学習すること．

この講義を受講するために必要とする知識

・財務諸表監査論のうち「総論」の基本的な論点について，習得済みであることが望ましい．
・財務諸表監査論を学んだことがない場合には，次ページで挙げる「入門書」のうち１冊を事前に読んでおくこと．

講義の内容

テキスト・参考文献：

1. 日本公認会計士協会『監査実務指針集［三訂版］』日本公認会計士協会，2016 年（法規集）.
2. 中央経済社『監査法規集［第 4 版］』中央経済社，2015 年（法規集）.
3. 鳥羽至英他『財務諸表監査』国元書房，2015 年（教科書）.
4. 盛田良久他『スタンダードテキスト監査論［第 4 版］』中央経済社，2016 年（教科書）.
5. 鳥羽至英『財務諸表監査 理論と制度 基礎編・発展編』国元書房，2009 年（参考書）.
6. 山浦久司『会計監査論［第 5 版］』中央経済社，2009 年（参考書）.
7. 伊豫田隆俊他『ベーシック監査論［七訂版］』同文館出版，2015 年（参考書）.
8. 石田三郎他『監査論の基礎［第 3 版］』東京経済情報出版，2012 年（参考書）.
9. 八田進二他『監査論を学ぶ［新訂版］』同文舘出版，2006 年（参考書）.
10. 長吉眞一『監査基準論［第 3 版］』中央経済社，2014 年（参考書）.
11. 千代田邦夫『現代会計監査論［全面改訂版］』税務経理協会，2009 年（参考書）.
12. 山浦久司『監査論テキスト［第 6 版］』中央経済社，2015 年（入門書）.
13. 長吉眞一他『監査論入門［第 3 版］』中央経済社，2016 年（入門書）.
14. 盛田良久他『新版 まなびの入門監査論［第 2 版］』中央経済社，2012 年（入門書）.
15. 蟹江章他『監査論を学ぶ［第 2 版］』税務経理協会，2017 年（入門書）.
16. 千代田邦夫『アメリカ監査論』中央経済社，1998 年（参考書）.
17. 千代田邦夫，鳥羽至英（編）『会計監査と企業統治（体系現代会計学）』中央経済社，2011 年（参考書）.
18. 内藤文雄他『国際監査基準の完全解説』中央経済社，2010 年（参考書）.
19. 八田進二・町田祥弘『逐条解説で読み解く 監査基準のポイント』同文館，2013 年（対談）.
20. 八田進二・高田敏文『逐条解説 新監査基準を学ぶ』同文館，2003 年（対談）.
21. Alvin A. Arens, Randal J. Elder, Mark S. Beasley, *Auditing and Assurance Services- An Integrated Approach, 16th ed.*, Prentice Hall, 2016,（参考書）.
22. William F. Messier, Steven m. Glover, Douglas F. Prawitt, *Auditing and Assurance Services- A Systematic Approach, 10th ed.*, McGraw-Hill/Irwin, 2016（参考書）.
23. O. Ray, Whittington, Kurt Pany, *Principles of Auditing & Other Assurance Services – International Edition, 21st ed.*, McGraw-Hill, 2018（参考書）.

・1 または 2 の監査に関する法規集は各自入手し，予習・復習で使用すること.
・3 および 4 を本講義の教科書とする.
・12 〜 15 は学部の学生向けの入門書である.
・5 〜 11，16 〜 23 は参考書扱いとする.
・その他，テーマに関連する参考文献は講義の中で適宜紹介する.

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

講義の進め方，成績評価，学習方法などについて説明する．

第 1 回：オリエンテーション
第 2 〜 3 回：監査の意義，歴史，目的
第 4 回：ディスカッション 1　監査の枠組みと「期待ギャップ」
第 5 〜 6 回：監査基準，監査主体
第 7 回：ディスカッション 2　独立性と職業的懐疑心
第 8 回：不正・誤謬
第 9 回：ディスカッション 3　監査人と不正への対応
第 10 回：法定監査（金融商品取引法・会社法）
第 11 回：継続企業の前提
第 12 回：ディスカッション 4　継続企業の前提
第 13 回：会計プロフェッションと自己規制
第 14 回：ディスカッション 5　会計プロフェッションと自己規制
第 15 回：理解度確認セッション

第 2 〜 3 回：監査の意義，歴史，目的／ Audit Significance, History, Purpose

講義の内容

＜講義の目的＞

監査のフレームワークのうち，基礎的な論点を整理する．

＜講義の内容＞

・財務諸表監査の歴史について，英国及び米国における財務諸表監査の歴史を概観し，その目的や手法がどのように変遷してきているかを理解する．日本における財務諸表監査の歴史は戦後から始まったが，現在の監査制度に至るまでの変遷を概観する．
・広い意味での「監査」の意義について，米国会計学会の基礎的監査概念（ASOBAC）を参考にして考える．それをもとにして「財務諸表監査」の意義を考察し，さらに，監査を含むより広義の概念である「保証業務」の概要を理解する．
・財務諸表監査において最も重要な原則である「二重責任の原則」を考察する．
・財務諸表監査における監査「意見」の意義を，合理的な保証の概念と財務諸表監査の限界との関連から理解する．

＜実務指針等＞

・監基報 200「財務諸表監査における総括的な目的」第 3 項〜第 11 項，A1 〜 A12
・企業会計審議会（2004）『財務情報等に係る保証業務の概念的枠組みに関する意見書』

学ぶべき用語・ポイント

・監査の意義，保証業務の概念
・監査が必要とされる条件
・財務諸表監査の歴史と目的の変遷
・二重責任の原則
・合理的保証
・財務諸表監査における限界

第 4 回：ディスカッション 1　監査の枠組みと「期待ギャップ」／ Discussion 1: Audit framework and "Expectation gap

講義の内容

ディスカッション・ポイント

- 社会やマーケットが期待する監査人の役割と，監査に対するニーズの変化
- 監査人が引き受けている役割と，期待ギャップへの対応
- 監査上の主要な事項 (Key Audit Matters : KAM) 報告制度導入の要否

第 5 〜 6 回：監査基準，監査主体／ Audit standard, Auditor

講義の内容

＜講義の目的＞

監査の基準論及び監査主体に関する論点を整理する．

＜講義の内容＞

・監査基準は国ごとに制定されており，日本でもそれは例外ではない．そこで，日本における現状の監査基準の体系とその設定プロセスを理解することが重要である．制定主体たる企業会計審議会および日本公認会計士協会によって「監査基準」がどのように制定され，体系化されているのかを理解する．

・一般に認められた会計原則（GAAP）の形成を概観する．GAAP は，財務諸表監査において監査人が参照すべき「確立された規準」であり，重要な概念である．

・監査人には会計プロフェッションとしての専門的能力と実務経験が求められている（一般基準 1）．それらが必要とされる理由を監査が必要とされる条件から考察するとともに，これらを確保するために現行の制度でどのような仕組みが用意されているかについて把握する．

・監査人は，常に公正不偏の態度を保持し独立の利害を損なう利害や独立の立場に疑いを招く外観を有してはならない（一般基準 2）．独立性が必要とされる理由を監査が必要とされる条件から考察し，財務諸表監査にとって最も重要な概念であることを理解する．また，独立性の概念を構成する 2 つの要素である精神的独立性と外観的独立性についてその内容を具体的に把握する．

・監査人は，職業的専門家としての正当な注意を払い，懐疑心を保持して監査を行うことが求められている（一般基準 3）．正当な注意の概念の意義およびそれが精神的独立性の概念とともに財務諸表監査における基盤を成していることを理解する．さらに，歴史的には比較的新しい概念である職業的懐疑心について，それが監査基準上で制定されることになった経緯を学び，その概念を理解する．

＜実務指針等＞

・監基報 200「財務諸表監査における総括的な目的」第 13 項〜第 15 項, 第 17 項〜第 23 項, A13 〜 A26，A52 〜 A74

・監基報（序）「監査基準委員会報告書の体系及び用語」の体系を説明した前半部分

学ぶべき用語・ポイント

・マッケソン・ロビンス事件
・監査基準論争
・正規の財務諸表監査
・レジェンド問題
・専門的能力，実務経験
・公正不偏の態度，精神的独立性，外観的独立性
・正当な注意，職業的懐疑心，守秘義務

第 7 回：ディスカッション 2　独立性と職業的懐疑心／ Discussion 2: Independence and professional skepticism

講義の内容

ディスカッション・ポイント

- 監査責任者の定期的交代（ローテーション）と独立性との関係
- 外観的独立性と監査人の報酬，非監査証明業務について
- 職業的専門家としての正当な注意と職業的懐疑心について

第 8 回：不正・誤謬，違法行為／ Fraud, Errors and Illegal Acts

講義の内容

＜講義の目的＞

監査のフレームワークの中で重要な論点である「不正・誤謬」について学ぶ.

＜講義の内容＞

・不正は，不正を実行する「動機・プレッシャー」,「機会」および不正行為に対する「姿勢・正当化」を伴って生じると言われている．それぞれについて，その内容を具体例とともに理解する.

・財務諸表監査における不正に対する監査人の責任は，不正の発見を監査の目的とするかどうかに関係するが，この点は歴史的に大きく変遷してきているところである．米国における経緯を学ぶことにより，現代の監査基準における取り扱いを深く理解する.

・不正リスク対応基準および関連する実務指針に従って，不正リスクに対する財務諸表監査上の手続を把握する．不正リスク要因を評価し，とくに収益認識に関する不正リスクおよび経営者による内部統制の無効化リスクに対していかに対応するかが重要な論点となる.

・不正リスク対応基準における「兆候」,「示唆」,「疑義」といった概念と，それぞれについて監査人として求められる対応を正しく把握する.

・財務諸表監査における違法行為の取扱いを理解する.

＜実務指針等＞

・監基報 240「財務諸表監査における不正」

学ぶべき用語・ポイント

・不正リスク要因
・動機・プレッシャー，機会，姿勢・正当化
・収益認識に関する不正リスク
・経営者による内部統制の無効化
・兆候，示唆，疑義

第 9 回：ディスカッション 3　監査人と不正への対応／ Discussion 3: Recognize Fraud for Auditor

講義の内容

ディスカッション・ポイント

- 財務諸表の重要な虚偽表示と，監査人が発見すべき不正
- 経営者不正への対応
- 不正リスク対応基準の有効性

第 10 回：法定監査（金融商品取引法・会社法）／ Statutory audit (Financial Instruments and Exchange Act / Companies Act)

講義の内容

＜講義の目的＞

日本における法定監査についての論点を整理する．金融商品取引法に基づく財務諸表監査及び内部統制報告書監査と，会社法監査についての主要な論点を検討する．

＜講義の内容＞

・金融商品取引法が成立した背景とその目的を学び，財務諸表監査制度を含む企業内容開示（ディスクロージャー）制度がその目的を達成するうえで果たしている役割を理解する．
・企業内容開示制度の各論では，その意義，発行市場における規制内容，流通市場における規制内容を正しく理解する．財務諸表監査との関連では，とくに，会社に義務付けられている提出書類の種類や要件を正確に理解することが重要である．
・日本の内部統制報告書・監査制度の一般的な特徴を理解したうえで，経営者による評価と報告書作成の具体的なプロセスと，監査人による監査手続実施および監査報告書作成上の留意点を把握する．
・商法・会社法を概観するとともに，会社法監査が導入された趣旨，会社法監査の目的，適用対象について学習する．
・株式会社の種類とその機関設計を概観し，会社が選択しうるガバナンスの形態を把握する．そこから，監査役会，監査委員会，監査等委員会といった監査役等の類型を理解する．

＜実務指針等＞

・監査・保証実務委員会報告第 82 号「財務報告に係る内部統制の監査に関する実務上の取扱い」
・内部統制報告制度に関する Q&A（金融庁）
・内部統制報告制度に関する事例集（金融庁）
・監基報 260「監査役等とのコミュニケーション」
・監基報 265「内部統制の不備に関するコミュニケーション」

学ぶべき用語・ポイント

・金融市場，証券市場，発行市場，流通市場
・企業内容等の適切な開示，EDINET
・有価証券届出書，有価証券報告書，内部統制報告書，四半期報告書，確認書，臨時報告書，訂正報告書
・ダイレクト・レポーティング，インダイレクト・レポーティング
・全社的な内部統制
・内部統制の不備
・ガバナンス
・指名委員会等設置会社，監査等委員会設置会社
・受託責任

第 11 回：継続企業の前提／ Going Concern

講義の内容

＜講義の目的＞

監査のフレームワークの中で重要な論点である「継続企業の前提（ゴーイング・コンサーン）」について学ぶ.

＜講義の内容＞

- 継続企業の前提に関する意義を理解し，監査人と経営者のそれぞれの役割について検討する．継続企業の前提に関する検討はあくまでも通常の財務諸表監査の枠組みの中で行われることから，二重責任の原則はここでも成立することに留意する.
- 継続企業の前提に関する経営者の責任を理解し，継続企業の前提に関して財務諸表にどのような注記がなされるか，また有価証券報告書にどのような記載がなされるかを把握する.
- 監査人としてどのように対応するかを学ぶ．その際には，監査計画の策定上の留意事項，監査人が継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象または状況を識別した場合の検討事項，監査人が経営者の評価が適切でないと判断した場合の検討事項，監査報告書の記載事項について把握することが重要である.

＜実務指針等＞

- 監基報 570「継続企業」
- 監査・保証実務委員会報告第 74 号「継続企業の前提に関する開示について」

学ぶべき用語・ポイント

- 継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象または状況
- 経営者による評価と対応策
- 継続企業の前提に関する注記
- 継続企業の前提に関する監査報告書の類型，追記情報

第 12 回：ディスカッション 4　継続企業の前提／ Discussion 4: Going Concern

講義の内容

ディスカッション・ポイント

- 継続企業の前提に関する経営者の責任と監査人の対応
- 継続企業の前提に関する監査意見
- 企業リスク評価主義の是非

第 13 回：会計プロフェッションと自己規制／ Accounting profession and self-regulation

講義の内容

＜講義の目的＞
監査主体論の各論である「会計プロフェッションとその職業倫理」「監査の品質管理と監査調書」，さらに監査主体を直接に律する法律である「公認会計士法」に関する論点を整理する．

＜講義の内容＞
・日本における会計プロフェッションの自己規制の仕組みを学習する．日本公認会計士協会による「公認会計士協会会則」およびその子規定が相当する．会則とその重要な子規定である「倫理規則」等について，その概要を把握する．
・高い品質の監査業務を実施することは監査人または監査事務所にとって最も重要な課題であり，会計プロフェッションの存在意義に関わる問題である．したがってそれを達成するための品質管理の仕組みは強制されなくとも自ら構築し運用しなければならない．各監査事務所は自ら品質管理に関する内部規程を設けるとともに，日本公認会計士協会は品質管理レビューにより自主的に品質を確保する仕組みを構築している．一方で，制度上は，一定の品質を確保する必要性から，品質管理基準や CPAAOB によるモニタリングというかたちで規制されるようになっている．
・公認会計士法に関する歴史的な経緯を学ぶとともに，平成 15 年の公認会計士法改正に大きな影響を与えた米国の企業改革法を概観する．そのうえで，平成 15 年と平成 19 年に改正された公認会計士法の主要な改正点について学習する．

＜実務指針等＞
・公認会計士協会会則，倫理規則
・監基報 200「財務諸表監査における総括的な目的」第 13 項，A13 ～ A16
・品基報 1 号「監査事務所における品質管理」
・監基報 220「監査業務における品質管理」
・（参考）法規委員会研究報告第 8 号「有限責任監査法人制度に関する Q & A」

学ぶべき用語・ポイント

・プロフェッション
・会計プロフェッション
・概念的枠組みアプローチ
・阻害要因
・セーフガード
・品質管理システム
・品質管理に関する風土
・審査
・前任監査人，後任監査人
・品質管理レビュー
・CPAAOB（公認会計士・監査審査会）
・経験豊富な監査人
・監査ファイル
・PCAOB
・有限責任監査法人制度

第 14 回：ディスカッション 5　会計プロフェッションと自己規制／　Discussion 5: Accounting profession and self-regulation

講義の内容

ディスカッション・ポイント

- 会計プロフェッションの社会的な役割と使命
- 品質管理の重要性と自己規制システムのあり方
- 日本の監査制度と行政との関係

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

理解度確認セッションを実施する.

講義の内容

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

監査実務 1 （旧科目名：国際監査）・榊正壽／ Audit Practice 1・Masatoshi Sakaki

時間割

後期　金曜 5 限

科目ナンバー

EAC-ACC615

講義の目的／ Course Objective

財務諸表監査論は「総論」と「手続論（実施・報告論）」の 2 つに分けることができる．この講義では，主として国際監査基準をベースとした監査基準委員会報告書（監基報）に基づく「手続論」を学習する．

「手続論」では主に，①基本的な概念を理解すること，②手続の趣旨を理解すること，③手続の詳細を把握すること，の 3 点が必要となる．本講義では，講義スライドの説明を通じてこれらを効果的に達成することを目的とする．なお，③については講義ですべてを解説することはできないので，各自，自習すること．

The audit of financial statements can be divided into two categories: “General remarks” and “Procedure methodology” (Audit Procedure Methodology / Reporting). In this lecture, I will mainly deal with practical issues related to the general “Procedure methodology”, and will organize and discuss issues on each theme.

In this lecture, you will learn "Procedure methodology" based on the report of the Auditing Standards Committee, which is based on the International Auditing Standards.

“Procedure methodology” mainly requires three points: (1) understanding the basic concept, (2) understanding the purpose of the procedure, and (3) understanding the details of the procedure. The purpose of this lecture is to achieve these effectively through the explanation of lecture slides. Since (3) cannot be fully explained in a lecture, you must learn by yourself.

成績評価法

・出席と授業へのフィードバック（60%），理解度確認セッション（40％）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

木曜日
15:00-16:00

連絡先

第 1 回講義においてお知らせします．

その他（連絡事項）

・「講義の目的」にも記載したように，本講義では財務諸表監査論のうち，主として国際監査基準をベースとした監査基準委員会報告書（監基報）に基づく「手続論」を取り扱い，「総論」に関する実務的な論点は「監査 3」で取り扱います．どちらも単独で履修可能ですが，学習効果の観点からは，「監査実務 1」と「監査 3」の両方の履修を推奨します．

講義の進め方

・毎回，テーマごとに講義形式で進めていく．
・最終回に理解度確認セッションを実施する．80 分程度で，論述式とする．

予習・復習について

＜予習＞
・講義前に，スライド等の配布資料に目を通しておくこと．
＜復習＞
・各回で具体的に指定している監査基準や監基報のほか，次ページに掲げる参考文献から講義のテーマに沿った内容を合わせて読むこと．

この講義を受講するために必要とする知識

財務諸表監査論のうち「総論」の基本事項を習得済みであることが望ましい．財務諸表監査論を学んだことがない場合には，次ページで挙げる「入門書」のうち 1 冊を事前に読んでおくこと．

テキスト・参考文献

1. 日本公認会計士協会『監査実務指針集［三訂版］』日本公認会計士協会，2016 年（法規集）.
2. 中央経済社『監査法規集［第 4 版］』中央経済社，2015 年（法規集）.
3. 鳥羽至英他『財務諸表監査』国元書房，2015 年（参考書）.
4. 盛田良久他『スタンダードテキスト監査論［第 4 版］』中央経済社，2016 年（参考書）.
5. 鳥羽至英『財務諸表監査 理論と制度 基礎編・発展編』国元書房，2009 年（参考書）.
6. 山浦久司『会計監査論［第 5 版］』中央経済社，2009 年（参考書）.
7. 伊豫田隆俊他『ベーシック監査論［七訂版］』同文館出版，2015 年（参考書）.
8. 石田三郎他『監査論の基礎［第 3 版］』東京経済情報出版，2012 年（参考書）.
9. 八田進二他『監査論を学ぶ［新訂版］』同文舘出版，2006 年（参考書）.
10. 長吉眞一『監査基準論［第 3 版］』中央経済社，2014 年（参考書）.
11. 千代田邦夫『現代会計監査論［全面改訂版］』税務経理協会，2009 年（参考書）.
12. 山浦久司『監査論テキスト［第 6 版］』中央経済社，2015 年（入門書）.
13. 長吉眞一他『監査論入門［第 3 版］』中央経済社，2016 年（入門書）.
14. 盛田良久他『新版 まなびの入門監査論［第 2 版］』中央経済社，2012 年（入門書）.
15. 蟹江章他『監査論を学ぶ［第 2 版］』税務経理協会，2017 年（入門書）.
16. 千代田邦夫『アメリカ監査論』中央経済社，1998 年（参考書）.
17. 千代田邦夫，鳥羽至英（編）『会計監査と企業統治（体系現代会計学）』中央経済社，2011 年（参考書）.
18. 内藤文雄他『国際監査基準の完全解説』中央経済社，2010 年（参考書）.
19. 八田進二・町田祥弘『逐条解説で読み解く 監査基準のポイント』同文館，2013 年（対談）.
20. 八田進二・高田敏文『逐条解説 新監査基準を学ぶ』同文館，2003 年（対談）.
21. Alvin A. Arens, Randal J. Elder, Mark S. Beasley, *Auditing and Assurance Services- An Integrated Approach, 16th ed.*, Prentice Hall, 2016,（参考書）.
22. William F. Messier, Steven m. Glover, Douglas F. Prawitt, *Auditing and Assurance Services- A Systematic Approach, 10th ed.*, McGraw-Hill/Irwin, 2016（参考書）.
23. O. Ray, Whittington, Kurt Pany, *Principles of Auditing & Other Assurance Services – International Edition, 21st ed.*, McGraw-Hill/Irwin, 2018（参考書）.

・1 または 2 の監査に関する法規集は各自入手し，予習・復習で使用すること.
・12 ～ 15 は学部の学生向けの入門書である.
・3 ～ 11，16 ～ 23 は参考書扱いとする.
・その他，テーマに関連する参考文献は講義の中で適宜紹介する.

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

講義の進め方，成績評価，学習方法などについて説明する．

第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：監査プロセス，アサーション，監査要点
第 3 回：監査リスク・アプローチ，重要性
第 4 回：監査証拠，監査技術
第 5 回：監査計画，分析的手続
第 6 回：リスク評価手続（1）
第 7 回：リスク評価手続（2）
第 8 回：リスク対応手続
第 9 回：試査
第 10 回：会計上の見積りの監査
第 11 回：他者の作業の利用
第 12 回：全般的な手続
第 13 回：監査報告
第 14 回：追記情報，特別目的
第 15 回：理解度確認セッション

第 2 回：監査プロセス，アサーション，監査要点／ Audit process, assertions

講義の内容

＜講義の目的＞

第 2 回から第 4 回にかけて，手続論における基本的な概念を学ぶ.

＜講義の内容＞

手続論における 2 つの理論的な柱のうちの一つ，アサーション指向（assertion oriented）について学ぶ.

- 適正表示の構造について学習する．財務諸表監査の最終目標は財務諸表の適正表示に関する意見表明であるが，この立証方法として，財務諸表の構成要素の適正性を個別に立証し，これを積み上げて統合することによって財務諸表全体の適正性を立証するという構造が採られている.
- 経営者の主張（アサーション）とは何か，どのような種類があるか学習する.
- 監査要点とは何か，どのようなものが監査要点として具体的に設定されるかを理解し，また経営者の主張との関連性について学習する.
- 経営者の主張と財務諸表監査，監査要点との関係について学習する.
- 監査意見形成のプロセスについて学習する.
- 監査プロセスの全体像について学習する.

＜実務指針等＞

- 監基報 315「企業及び企業環境の理解を通じた重要な虚偽表示リスクの識別と評価」の A106 ～ A108

学ぶべき用語・ポイント

- 経営者の主張（アサーション）
- 監査要点
- 実在性
- 網羅性
- 権利と義務の帰属
- 評価の妥当性
- 期間配分の適切性
- 表示の妥当性

第 3 回：監査リスク・アプローチ，重要性／ Audit Risk Approach, Materiality

講義の内容

手続論におけるもう一つの重要な柱である「監査リスク・アプローチ」（audit risk approach）の概念と，監査上の重要性の概念について学ぶ.

・会計上の重要性と監査上の重要性について学習する.
・重要性を適用するステップについて具体例を通して学習する.
・監査リスクの概念と保証水準との関係について理解する.
・監査リスクモデルの考え方を学習する.
・監査リスクの構成要素について学習する.
・重要な虚偽表示リスクの内容と対応手続について学習する.
・監査リスクの構成要素とリスク評価手続・リスク対応手続の相関関係について学習する.
・重要性の基準値と監査リスクの関係について学習する.

＜実務指針等＞
・監基報 200「財務諸表監査における総括的な目的」の 5 項，16 項，A31 ～ A51
・監基報 320「監査の計画及び実施における重要性」

学ぶべき用語・ポイント
・全体レベルの重要性基準値
・手続実施上の重要性基準値
・監査リスク
・重要な虚偽表示リスク（固有リスク，統制リスク）
・発見リスク

第 4 回：監査証拠，監査技術／ Audit Evidence, Audit techniques

講義の内容

・監査証拠の意義を理解する．
・監査証拠の代表的な分類について学習する．
・十分かつ適切な証拠の意義について学習する．
・十分かつ適切な証拠の要件について学習する．
・監査証拠と監査要点との関係について学習する．
・監査証拠の入手のための監査技術（監査手続）について学習する．
・合理的な証拠の概念について理解する．
・意見表明の基礎の概念について理解する．

＜実務指針等＞
・監基報 200「財務諸表監査における総括的な目的」の 5 項，16 項，A27 ～ A30
・監基報 500「監査証拠」（第 9 項および A52 ～ A56 を除く．この部分は第 9 回で取り扱う．）
・監基報 501「特定項目の監査証拠」の第 3 項～第 7 項，A1 ～ A16
・監基報 505「確認」

学ぶべき用語・ポイント

・監査証拠
・十分性
・適切性
・適合性
・証明力（信頼性）
・実査
・立会
・確認，積極的確認，消極的確認
・質問
・視察
・閲覧
・突合
・勘定分析
・通査
・調整
・再実施

第 5 回：監査計画，分析的手続／ Planning of Audit of Financial Statements, Analytical Procedures

講義の内容

＜講義の目的＞

第 5 回から第 11 回にかけて, 手続論のうち実施論（認識論とも呼ばれる.）について学ぶ.

＜講義の内容＞

・監査契約に係る予備的活動について学習する．ここでは，監査契約を受任・更新する際に考慮すべき事項，前任監査人との引継の際に考慮すべき事項を学習する.
・監査計画の意義・必要性・効果について学習する.
・監査計画に影響する要因について学習する.
・監査の基本的な方針について，その目的と内容，策定する際の考慮事項について学習する.
・詳細な監査計画について，その目的と内容について学習する.
・初年度監査における追加的検討事項について学習する.
・分析的手続の意義と前提について学習する.
・分析的手続の適用段階と各段階における目的について学習する.

＜実務指針等＞

・監基報 900「監査人の交代」
・監基報 300「監査計画」
・監基報 505「分析的手続」

学ぶべき用語・ポイント

・監査計画
・監査の基本的な方針
・詳細な監査計画
・初年度監査
・分析的手続
・分析的実証手続

第 6 回：リスク評価手続（1）／ Risk assessment (1)

講義の内容

第 6 回から第 7 回にかけて，リスク評価手続について学ぶ.

・リスク評価手続における具体的な手続について学習する.
・監査チーム内での討議の必要性について学習する.
・企業及び企業環境の理解とはどのような観点から行われるかを学習する.
・内部統制に対する監査人の取組み方を理解する．ここでは，監査に関連する内部統制の意味，内部統制の整備状況の評価の手続について学習する.
・IT を利用した内部統制の特徴及びその利点とリスクについて学習する.
・内部統制の限界について学習する.

＜実務指針等＞

・監基報 315「企業及び企業環境の理解を通じた重要な虚偽表示リスクの識別と評価」

学ぶべき用語・ポイント

・監査チーム内の討議
・企業目的，戦略
・事業上のリスク（ビジネス・リスク）
・ウォークスルー
・内部統制の限界

第 7 回：リスク評価手続（2）／ Risk assessment (2)

講義の内容

第 6 回に続き，リスク評価手続について学ぶ.

・内部統制の目的とその構成要素について学習する.
・重要な虚偽リスクの評価について学習する．財務諸表全体としての重要な虚偽表示リスクの評価と財務諸表項目ごとの重要な虚偽表示リスクの評価が行われる. ここで,「アサーション」と「監査リスク・アプローチ」が結びつくことになる.
・特別な検討を要するリスクとは何か，どのようにこれに対応するかについて学習する.
・実証手続のみでは，十分かつ適切な監査証拠を入手できないリスクについて学習する.
・リスク評価の修正が必要とされる状況について学習する.

＜実務指針等＞

・財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の「Ⅰ．内部統制の基本的枠組み」
・監基報 315「企業及び企業環境の理解を通じた重要な虚偽表示リスクの識別と評価」

学ぶべき用語・ポイント

・内部統制の目的
　業務の有効性および効率性
　財務報告の信頼性
　法令遵守
　資産の保全
・内部統制の構成要素
　統制環境
　リスクの評価と対応
　統制活動
　情報と伝達
　モニタリング
　IT への対応
・内部統制とアサーションの関係
・特別な検討を必要とするリスク

第 8 回：リスク対応手続／ The Auditor's responses to assessed risks

講義の内容

・評価したリスクに対応する監査手続として，財務諸表全体としての重要な虚偽表示リスクに対応する全般的な対応，アサーションレベルの重要な虚偽表示リスクに対応するリスク対応手続の概念について学習する．
・全般的な対応としてはどのようなものがあるか，また内部統制における統制環境との関連性について学習する．
・リスク対応手続について，監査アプローチの選択，監査手続の種類，実施時期，範囲を検討する際の考慮事項等について学習する．期末日前を基準日として行う場合や期末日以降に行う場合を検討する．
・運用評価手続の意義，また，どのような場合にどのような目的で実施されるについて学習する．
・運用評価手続の種類とその実施方法について学習する．
・運用評価手続を実施する期間に関して考慮すべき事項について学習する．ここでは，期中で内部統制の有効性を確かめた場合や内部統制が変更された場合を検討する．
・実証手続の類型とその意義について学習する．
・実証手続を実施する時期に関して考慮すべき事項について学習する．ここでは，期末日前を基準日として行う場合の手続について検討する．
・特別な検討を必要とするリスクに関する運用テスト，実証手続について学習する．

＜実務指針等＞
・監基報 330「評価したリスクに対応する監査人の手続」

学ぶべき用語・ポイント

・統制環境
・監査アプローチ
・二重目的テスト
・残余期間
・運用評価手続のインターバル
・分析的実証手続
・詳細テスト

第 9 回：試査／ Audit Sampling

講義の内容

十分かつ適切な監査証拠の入手方法には，項目の抽出を伴う方法（精査と試査）と，伴わない方法（質問，分析的手続など）がある．ここでは，前者について取り扱う．

・項目の抽出を伴う方法，すなわち，精査および試査の意義について学習する．
・現代の監査において原則として試査が採用される根拠について学習する．
・試査は，サンプリングによる試査と特定項目抽出による試査に分類されるが，それぞれがどのような特徴を持つか学習する．また，特定項目抽出による試査が適合する場合について学習する．
・サンプリングの実施手順について学習する．
・内部統制の運用テスト，実証手続におけるサンプリング，特にサンプル数に影響を与える要因について学習する．
・統計的サンプリングの適用例を学習する．

＜実務指針等＞
・監基報 500「監査証拠」の第 9 項，A52 ～ A56
・監基報 530「監査サンプリング」

学ぶべき用語・ポイント

・母集団
・階層化
・サンプリング単位
・統計的サンプリング
・非統計的サンプリング
・属性サンプリング
・変数サンプリング
・無作為抽出法
・系統的抽出法
・金額単位抽出法（MUS）
・サンプリングリスク
・ノンサンプリングリスク
・特定項目抽出リスク
・予想逸脱率
・予想虚偽表示額
・許容逸脱率
・許容虚偽表示額
・推定逸脱率
・推定虚偽表示額
・例外的事象

第 10 回：会計上の見積りの監査／ Auditing Accounting Estimates

講義の内容

・会計上の見積りの監査に関するこれまでの監査実務を概観する.
・財務諸表監査において問題となる会計上の見積もりの例を学習する.
・見積りの不確実性の概念を学習する.
・会計上の見積りに関するリスク評価手続を学習する.
・監査人が設定した見積りの許容範囲と経営者の見積額の関係について学習する.
・会計上の見積りにより特別な検討を必要とするリスクが生じている場合の対応について学習する.

＜実務指針等＞
・監基報 540「会計上の見積りの監査」

学ぶべき用語・ポイント

・見積りの不確実性
・見積りの許容範囲
・経営者の偏向

第 11 回：他者の作業の利用／ Using the Work of an Auditor's Expert

講義の内容

・監査基準における他者の作業の利用（他の監査人等の利用）の取り扱いについて学習する．
・グループ監査の意義および留意事項について学習する．
・専門家の業務の利用について学習する．専門家の業務を利用する例にはどのようなものがあるかを理解する．
・専門家としての能力を検討する際に考慮すべき事項について学習する．
・専門家の業務の結果が監査証拠として十分かつ適切であるか否かを，専門家が採用した方法，仮定等の理解に基づいてどのように行なうかを学習する．
・内部監査の意義及び活動内容について学習する．
・内部監査を利用する場合の監査手続について学習する．
・委託業務に係る内部統制の評価について学習する．

＜実務指針等＞
・監基報 600「グループ監査」
・監基報 620「専門家の業務の利用」
・監基報 610「内部監査の利用」
・監基報 402「業務を委託している企業の監査上の考慮事項」

学ぶべき用語・ポイント

・グループ
・グループ監査責任者
・グループ監査チーム
・構成単位
・構成単位の監査人
・グループ経営者
・構成単位の経営者
・グループ財務諸表
・グループ全体統制
・直接補助
・内部監査人
・委託会社
・委託会社監査人
・受託会社
・受託会社監査人

第 12 回：全般的な手続き／ General Procedures

講義の内容

監査人は，監査意見を形成するに当って，十分かつ適切な監査証拠を入手し，合理的な基礎を獲得したかどうかを総括的に吟味する．監査報告書の提出前に全般的な手続として監査人が実施すべき以下の事項について学習する．

・財務諸表の表示の検討
・偶発事象の検討
・後発事象の検討
・経営者確認書の入手
・分析的手続の実施
・継続企業の前提の評価
・虚偽表示の評価
・審査

＜実務指針等＞

・監基報 560「後発事象」
・監査・保証実務委員会報告第 76 号「後発事象に関する監査上の取扱い」
・監基報 580「経営者確認書」
・監基報 450「監査の過程で識別した虚偽表示の評価」
・品基報 1 号「監査事務所における品質管理」および監基報 220「監査業務における品質管理」の審査に関する部分

学ぶべき用語・ポイント

・偶発損失
・修正後発事象
・開示後発事象
・事後判明事実
・最終段階における分析的手続

第 13 回：監査報告／ Audit Report

講義の内容

第 13 回から第 14 回にかけて，手続論のうち報告論について学ぶ.

・監査意見の意義について学習する.
・金融商品取引法監査における監査報告書の種類について学習する.
・監査報告書の構成，すなわち監査の対象，実施した監査の概要，財務諸表に対する意見ごとに記載される内容を学習する.
・除外事項が付される場合を類型化し，除外事項を監査報告書に記載することの意味を学習する.
・意見不表明の場合の監査報告書の特徴について学習する.
・四半期レビュー報告について学習する.
・内部統制監査報告書について学習する.

＜実務指針等＞
・監基報 700「財務諸表に対する意見の形成と監査報告」
・監基報 705「独立監査人の監査報告書における除外事項付意見」
・監査・保証実務委員会実務指針第 85 号「監査報告書の文例」

学ぶべき用語・ポイント

・標準監査報告書
・実質的判断
・除外事項
・限定付適正意見
・不適正意見
・意見不表明
・重要性
・広範性
・上場廃止要件

第 14 回：追記情報，特別目的／ Emphasis of Matter Paragraphs, Special Purpose

講義の内容

・監査報告書において記載される追記情報の意義について学習する．
・追記情報の種類と内容について学習する．
　○継続企業の前提に関わる重要な疑義
　○正当な理由による会計方針の変更
　○重要な偶発事象
　○重要な後発事象
　○財務諸表の表示とその他の記載内容の重要な相違
・比較財務情報の監査について学習する．
・平成 26 年の改訂によって導入された「特別目的の財務諸表等に対する監査」について学習する．当該改訂は「監査」の 3 方向への拡張であることをまず理解したうえで，それぞれの拡張の意味と留意点を把握する．

＜実務指針等＞
・監基報 706「独立監査人の監査報告書における強調事項区分とその他の事項区分」
・監基報 710「過年度の比較情報－対応数値と比較財務諸表」
・監基報 720「監査した財務諸表が含まれる開示書類におけるその他の記載内容に関連する監査人の責任」
・監基報 800「特別目的の財務報告の枠組みに準拠して作成された財務諸表に対する監査」
・監基報 805「個別の財務表又は財務諸表項目等に対する監査」
・監査基準委員会研究報告第 3 号「監査基準委員会報告書 800 及び 805 に係る Q&A」（平成 26 年 4 月 4 日）

学ぶべき用語・ポイント

・追記情報
・強調事項
・その他の事項
・正当な理由
・その他の記載内容
・重要な相違
・比較情報
・対応数値方式
・比較財務諸表方式
・適正性，追加開示，離脱，一歩離れて行う評価
・準拠性
・一般目的
・特別目的

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

理解度確認セッションを行う.

講義の内容

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

監査実務２（旧科目名：IT 監査）・榊正壽／ Audit Practice 2・Masatoshi Sakaki

講義の目的／ Course Objective

現代の企業活動において IT（情報技術）の利用は一般的となっている．このような環境における監査人の業務も必然的に IT に密接に関連することになり，現在では，財務諸表監査の対象が IT 化されているケース，もしくは，財務諸表監査で利用する情報（データ）が電子化されているケースがほとんどである．

本講義では，以下の 3 点について実践的な理解を深めることを目的とする．

1. 財務諸表監査における，監査人による IT の評価　－　IT 化された監査対象（業務プロセス，内部統制，監査証拠など）を監査上どのように評価するか

・監基報 315 と監基報 330 における IT に関連する記載内容および IT 委員会実務指針第 6 号「IT を利用した情報システムに関する重要な虚偽表示リスクの識別と評価及び評価したリスクに対応する監査人の手続について」（IT6 号）の内容を具体的に理解する．

・電子媒体による監査証拠（電子的監査証拠）について，監基報 500 や JICPA の研究報告の内容を理解する．

2. 財務諸表監査における，監査人による IT の利用　－　電子化された情報をいかに効果的・効率的に利用して監査を実施するか

・IT6 号に基づいて，CAAT（Computer Assisted Audit Techniques - コンピュータ利用監査技法）と呼ばれる IT を用いた監査手続の実施方法を理解する．CAAT はデータに対して直接的に監査手続を適用することが可能になることから，効率的な活用により監査コストの低減につながる．また，経営者による内部統制の無効化に対しても効果的な対応が可能となることから，不正リスク対応の観点からもその重要性が増してきているところである．

3. 会計・監査環境を取り巻く IT の最新動向

・EDINET，XBRL，監査事務所の情報セキュリティ，監査用ツール，将来の監査の動向など

なお，企業の情報システム自体を監査対象としたいわゆるシステム監査を「IT 監査」と呼ぶこともあるが，本講義では直接の対象としない．

In this course, students will understand (1) Evaluation of IT performed by auditors in financial statement audit, (2) Auditor's use of IT in financial statement audits, and (3) The latest IT trends surrounding the accounting and audit environment.

講義の進め方

1.「IT の評価」について，それに関連する IT の基礎知識を含めて講義形式で説明したのち，ケーススタディを実施する．

2.「IT の利用」について，CAAT の概要およびケーススタディで必要となるサンプリングの知識について，それに関連する IT の基礎知識を含めて講義形式で説明したのち，PC を利用したケーススタディを実施する．

3. については，動画などによる補助教材を使用しながら講義形式で進める．

全体としては，日本公認会計士協会から公表されている，IT 委員会研究報告第 27 号「監査人のための IT 教育カリキュラム（最終改正 平成 25 年 5 月 14 日）」の枠組みを参考にして講義を進める．

IT の基礎知識に関しては，上記の研究報告でも推奨されている「IT パスポート試験（レベル 1）シラバス」（独立行政法人情報処理推進機構）の内容を参考にする．

予習・復習について

＜予習＞

・講義前に，スライド等の配布資料に目を通しておくこと．

＜復習＞

・各回で具体的に指定している監査基準や監基報のほか，次ページに掲げる参考文献から講義のテーマに沿った内容を合わせて読むこと．

この講義を受講するために必要とする知識

・監査論に関する基礎的な知識

・英語の基礎的な読解能力（ケーススタディなど一部の講義において英語の資料を使用することを予定しているため．）

時間割

後期　金曜 3 限

科目ナンバー

EAC-ACC619

成績評価法

・出席と討論への参加・貢献（60％），課題提出（20％），理解度確認セッション（20％）で評価する．

・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

金曜日
11:00-12:00

連絡先

第 1 回講義においてお知らせします．

その他（連絡事項）

・後半の PC 演習では会計大学院棟 1F のコンピュータ実習室を使用します．当室の PC の台数の関係で，本講義の受講者の数を制限することがありますのでご了承ください．

テキスト・参考文献

1. 日本公認会計士協会『監査実務指針集［三訂版］』日本公認会計士協会, 2016 年（法規集）.
2. 中央経済社『監査法規集［第 4 版］』中央経済社，2015 年（法規集）.
3. 栢木 厚『イメージ & クレバー方式でよくわかる 栢木先生の IT パスポート教室 平成 31/01 年度 』技術評論社，2018 年（参考書）.
4. 村井直志『Excel による不正発見法　CAAT で粉飾・横領はこう見抜く』中央経済社，2015 年（参考書）.
5. あずさ監査法人『図解 CAAT 実践入門』中央経済社，2015 年（参考書）.
6. 中村哲也『108 の事例で学ぶ CAAT 基礎講座』中央経済社，2014 年（参考書）.
7. Alvin A. Arens, Randal J. Elder, Mark S. Beasley, *Auditing and Assurance Services*, Prentice Hall, 2016（参考書）.
8. William F. Messier, Steven m. Glover, Douglas F. Prawitt, *Auditing & Assurance Services: A Systematic Approach*, McGraw-Hill/Irwin, 2016（参考書）.

1 または 2 の監査に関する法規集は各自入手し，予習・復習で使用すること.

3『栢木先生の IT パスポート教室』を参考書とする．本書は「IT パスポート試験」対策の書籍ではあるが，IT に関する基礎知識が図表を用いて分かりやすく記載されている．IT の基礎的な知識に自信がない受講生は購入しておくこと．講義で IT に関する専門用語を使用する際にこの書籍の該当箇所を紹介する.

4 〜 7 は CAAT に関する書籍である．参考書扱いとする.

7 と 8 は米国の大学等で多く使用されている監査論の教科書である．参考書扱いとする.

その他，監査実務指針集に収録されていない実務指針や研究報告などについては，講義で随時指定する.

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

講義の内容の概括的な説明を行う.

第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：監査人と IT
第 3 回：IT を利用した内部統制の経営者による構築
第 4 回：IT を利用した内部統制の監査人による評価
第 5 回：電子媒体による監査証拠の評価
第 6 回：ケーススタディ 1
第 7 回：ケーススタディ 2
第 8 回：CAAT の概念と方法，サンプリング基礎知識
第 9 回：CAAT 演習（基礎 1）
第 10 回：CAAT 演習（基礎 2）
第 11 回：CAAT 演習（応用 1）
第 12 回：CAAT 演習（応用 2）
第 13 回：EDINET，XBRL，セキュリティ
第 14 回：未来の監査
第 15 回：理解度確認セッション

配布資料：

- 日本公認会計士協会 IT 委員会研究報告第 27 号「監査人のための IT 教育カリキュラム（最終改正 平成 25 年 5 月 14 日）」
- 独立行政法人情報処理推進機構「IT パスポート試験（レベル 1）シラバス」（最終改正 平成 30 年 8 月 6 日）

参考資料：

- International Education Practice Statement (IEPS) 2 “Information Technology for professional accountants”

第 2 回：監査人と IT ／ IT for auditors

講義の内容

IT 監査の内容を説明するに当たり，監査人にとっての IT との関わり全般について説明する．まず，企業および監査人による IT の利用に関するこれまでの経緯並びに現状について概説する．

企業の会計情報システムの構築において IT は不可欠なものとなっている．それに対応して，財務諸表監査では，IT によって自動化された業務プロセスや内部統制を評価することが求められるようになっている．

また，監査対象である会計情報も紙媒体から電子媒体に変化しており，このような電子媒体による会計情報について効率的に監査を実施する観点から，CAAT と呼ばれる手法が利用されている．

さらに最近では，監査業務のプロセス自体も IT 化されている．監査調書を作成・保存するためのツールや，報酬見積，進捗管理，時間実績管理といった，監査業務を事務的に補助するためのツールが監査事務所内で利用されている．

こうした状況をふまえ，会計専門職として IT について理解することが必須であることを理解する．

学ぶべき用語・ポイント

- エクイティ・ファンディング社事件
- 内部統制の評価手続，実証手続
- 業務プロセス，財務報告プロセス
- ＣＡＡＴ（Ｃｏｍｐｕｔｅｒ Assisted Audit Techniques - コンピュータ利用監査技法）
- 表計算ソフトウェア，データベースソフトウェア
- データ形式（CSV，テキストなど）

第 3 回：IT を利用した内部統制の経営者による構築／ Designed by management of internal control using IT

講義の内容

第 3 回から第 7 回までは，「財務諸表監査における監査人による IT の評価」について取り上げる．

監査人は，財務諸表監査の過程で IT を評価するにあたり，企業が IT をどのように利用しようとしているのかを理解する必要がある．第 3 回では，IT に関する企業の戦略や IT を利用した管理手法にどのようなものがあるか，また，それらはどのような理論のもとに成り立っているのかについて学ぶ．

そのうえで，企業が情報システムを構築する際に具体的に考慮している事項を探り，監査人が内部統制を理解する際にどのような点に留意すべきかを理解する．

学ぶべき用語・ポイント

- IT 戦略，IT マネジメント，IT ガバナンス
- アプリケーション・システム
- 業務処理システム，パッケージソフト
- IT の統制目標

第 4 回：IT を利用した内部統制の監査人による評価／ Auditor's assessment of internal control using IT

講義の内容

監査人による IT の評価は，企業の内部統制を理解する際に当該内部統制の構築に利用されている IT をいかに評価するか，という観点と，監査証拠が電子媒体による場合にその証明力をいかに評価するか，という観点に分けて考えることができる．

第 4 回では，そのうちの前者について検討する．具体的には，監基報 315 および 330，IT 委員会実務指針第 6 号とその関連研究報告，および，内部統制の評価・監査基準においてどのように取り扱われているかについて検討する．

配布資料：

- IT 委員会研究報告第 42 号『IT 委員会実務指針第 6 号「IT を利用した情報システムに関する重要な虚偽表示リスクの識別と評価及び評価したリスクに対応する監査人の手続について」に関する Q&A』（平成 24 年 6 月 5 日）
- IT 委員会研究報告第 46 号「重要な虚偽表示リスクと全般統制の評価」（平成 26 年 9 月 30 日）
- IT 委員会研究報告第 47 号「業務処理統制に関する評価手続」（平成 28 年 3 月 1 日）

学ぶべき用語・ポイント

- IT 環境
- IT 全般統制，IT 業務処理統制
- IT 基盤

第 5 回：電子媒体による監査証拠の評価／ Assessment of electronic audit evidence

講義の内容

第 5 回では，第 4 回の論点を引き続き検討したのち，監査人による IT の評価のもう一つの観点である，監査証拠が電子媒体による場合にその証明力をいかに評価するか，という点について検討する．ここでは，監基報 500 における論点を具体例とともに取り上げる．

配布資料：

・IT 委員会研究報告第 43 号「電子的監査証拠～入手・利用・保存等に係る現状の留意点と展望～」（平成 25 年 7 月 30 日）
・IT 委員会研究報告第 50 号「スキャナ保存制度への対応と監査上の留意点」（平成 28 年 12 月 26 日）

学ぶべき用語・ポイント

・監査証拠の証明力
・電子媒体による監査証拠と紙面による監査証拠の相違点

第 6 回：ケーススタディ 1 ／ Case study 1

講義の内容

第 6 回および第 7 回では，第 4 回と第 5 回の内容と関連する実務的なケースを用いて，受講者によるグループディスカッションとプレゼンテーションを実施する．

第 7 回：ケーススタディ 2 ／ Case study 2

講義の内容

前回に引き続き，ケーススタディを実施する．

第 8 回：CAAT の概念と方法，サンプリング基礎知識／ CAAT concept and method, basic knowledge of sampling

講義の内容

第 8 回から第 12 回では，「財務諸表監査における監査人による IT の利用」について取り上げる．

第 8 回では，IT6 号および関連研究報告に基づいて CAAT の概念とその具体的な方法を理解し，近年では不正リスク対応の手法として重要視されていることについても，監基報 240 を参照しながら理解する．また，PC 実習で必要となるサンプリングの基礎知識を確認する．

配布資料：

・IT 委員会研究報告第 40 号「IT に対応した監査手続事例～事例で学ぶよくわかる IT に対応した監査～」（平成 23 年 10 月 11 日）

学ぶべき用語・ポイント

・仕訳テスト
・精査，試査
・監査サンプリングによる試査，特定項目抽出による試査
・予想逸脱率，予想虚偽表示額，許容逸脱率，許容虚偽表示額，推定逸脱率，推定虚偽表示額

第 9 回：CAAT 演習（基礎 1）／ CAAT Exercise (Basic 1)

講義の内容

第 9 回から第 12 回にかけて，現在の監査において不可欠である CAAT について，専用教材を用いて実習（基礎および応用）を行う．実習は，会計大学院棟 1 F のコンピュータ実習室の PC を用いて行う．

まず CAAT 演習で利用する専用教材について，全般的な説明を行う．

・前提情報
・データ構造
・データ分析方法等

第 10 回：CAAT 演習（基礎 2）／ CAAT Exercise (Basic 2)

講義の内容

前回に引き続き，CAAT 演習で利用する専用教材について，全般的な説明を行う．

第 11 回：CAAT 演習（応用 1）／ CAAT Exercise (Practical 1)

講義の内容

第 9 回と第 10 回では, CAAT 演習で利用する専用教材の概要と操作手法について学んだ. 第 11 回と第 12 回では, これを受けてグループワークを含む CAAT の応用的な演習を行う.

第 12 回：CAAT 演習（応用 2）／ CAAT Exercise (Practical 2)

講義の内容

前回に引き続き，グループワークを含む CAAT の応用的な演習を行う．

第 13 回：EDINET，XBRL，セキュリティ／ EDINET, XBRL, Computer security

講義の内容

会計・監査環境を取り巻く IT の最新動向について扱う.

配布資料：

・IT 委員会研究報告第 44 号「新 EDINET の概要と XBRL データに関する監査人の留意事項」（平成 26 年 4 月 15 日）
・IT 委員会実務指針第 4 号「公認会計士業務における情報セキュリティの指針」（最終改正 平成 24 年 8 月 30 日）

参考資料：

・IT 委員会研究報告第 41 号「XBRL データに対する合意された手続」（平成 23 年 12 月 5 日）
・IT 委員会研究報告第 34 号「IT 委員会実務指針第 4 号「公認会計士業務における情報セキュリティの指針」Q&A」（最終改正 平成 24 年 8 月 30 日）

第 14 回：未来の監査／ Audit of Future

講義の内容

会計・監査環境を取り巻く IT の最新動向について扱う.

配布資料：

・IT 委員会研究報告第 38 号「電子的媒体又は経路による確認に関する監査上の留意点」（平成 22 年 5 月 18 日）

・IT 委員会研究報告第 48 号「IT を利用した監査の展望～未来の監査へのアプローチ～」（平成 28 年 3 月 28 日）

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

理解度確認セッションを実施する.

講義の内容

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

事例研究（監査制度）・榊正壽・Case Study (Auditing System)・Masatoshi Sakaki

講義の目的／ Course Objective

企業不正の事例を検討し，その後に実際に採られた対応策を概観することにより，財務諸表監査と社会のかかわりについて理解する．また，実務的な観点から，類似した内容の不正に直面した際に監査人としていかに対応すべきかについて検討する．

Understand the implications of financial statement auditing and society by reviewing cases of corporate fraud and then reviewing the actual measures taken. In addition, from a practical point of view, we will consider how we should respond as auditors when facing similar fraud.

講義の進め方

本講義では，企業不正の要因や手法についての一般論を概観した後，監査上の問題，とくに監査の失敗に関する個別の事例について原因分析を行い，法令や監査基準等の改定に与えた影響を検討する．また，実際の不正事例に対してどのような監査手続や監査技術が有効なのか，監査人としてあるべき姿勢はどのようなものなのかについて，実務的な観点から検討する．個別事例としては，主としてわが国のものを利用するが，米国等の著名な事例も適宜，取り入れる．

まず，企業不正の要因や手法についての一般論を講義形式により説明する（第 1 回～第 3 回）．第 4 回目以降は，個別事例について，ゼミ形式で講義参加者の担当割を決め，概要，問題点等を記載したプレゼン資料を作成し，発表していただく．発表に基づいて講義参加者全員で討論を行い，背景や原因，問題点，監査人としての対応等について検討する．

小テストや理解度確認セッションは実施しない．

予習・復習について

個別の不正事例について事前に資料を配布する．

この講義を受講するために必要とする知識

財務会計および監査論に関する基礎的な知識

テキスト・参考文献

・テキストは指定しない．参考文献は必要に応じて紹介する．

・参考書

経営研究調査会研究報告第 40 号「上場会社の不正調査に関する公表事例の分析」日本公認会計士協会，2010 年.

吉見宏『企業不正と監査』税務経理協会，1999 年.

吉見宏『ケースブック監査論［第 5 版］』新世社，2014 年.

井端和男『最近の粉飾［第 7 版］』税務経理協会，2016 年.

井端和男『最新 粉飾発見法』税務経理協会，2012 年.

浜田康『会計不正―会社の「常識」監査人の「論理」』日経ビジネス文庫，2012 年.

清野憲一『実践　財務捜査』立花書房，2016 年.

Joseph T. Wells『企業不正対策ハンドブック［第 2 版］』第一法規，2009 年.

鯖田豊則『事件に学ぶ監査の役割・ルール』同友館，2013 年.

齋藤 憲『企業不祥事事典―ケーススタディ 150』日外選書，2009 年.

樋口 晴彦『なぜ，企業は不祥事を繰り返すのか－有名事件 13 の原因メカニズムに迫る』日刊工業新聞社，2015 年.

KPMG FAS フォレンジック部門『企業不正の調査実務』中央経済社，2012 年.

山口利昭『法の世界からみた「会計監査」』同文館出版，2013 年.

村井直志『会計ドレッシング』東洋経済新報社，2011 年.

高橋篤史『粉飾の論理』東洋経済新報社，2006 年.

時間割

前期　金曜 3 限

科目ナンバー

EAC-ACC620

成績評価法

・出席と討論への参加（70％），担当箇所の発表（30％）で評価する．

・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

金曜日
13:00-14:30

連絡先

第 1 回講義においてお知らせします．

その他（連絡事項）

・特になし．

講義の予定／ Class Plan

講義予定：

（第 4 回以降は，過年度に取り上げた個別事例を記載しています．今回の講義参加者の選択により変更となる可能性があります．）

第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：総論：不正と誤謬，粉飾の類型（1）
第 3 回：総論：不正と誤謬，粉飾の類型（2）
第 4 回：循環取引－メルシャン社の事例
第 5 回：IT 業種における循環取引－ IXI 社の事例
第 6 回：関係会社株式の評価－三洋電機社の事例
第 7 回：歴史的な粉飾－山陽特殊製鋼社の事例
第 8 回：監査人に対する訴訟－日本コッパース社の事例
第 9 回：内部統制監査制度導入の発端－大和銀行の事例
第 10 回：経営者による内部統制の無効化－大王製紙社の事例
第 11 回：飛ばしによる含み損の簿外債務化－山一證券社の事例
第 12 回：経営者による内部統制の無効化－オリンパス社の事例
第 13 回：会計基準の適用時期－日本長期信用銀行の事例
第 14 回：米国における内部統制監査制度導入の発端－エンロン社の事例
第 15 回：1930 年代の米国における粉飾－マッケソン・ロビンス社の事例

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

監査計画の編成法 1 ・小粥純子／ Audit Planning 1・Junko Kogayu

時間割
後期　火曜 6 限

科目ナンバー
EAC-ACC616

講義の目的／ Course Objective

監査手続として企業のリスクを評価し識別するということは具体的にどのようなことなのかについての基本的な枠組みを，監査基準委員会報告 315「企業及び企業環境の理解を通じた重要な虚偽表示リスクの識別と評価」（監基報 315）を中心に講義する．監基報 315 は，内部統制を含む，企業及び企業環境の理解を通じて，財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し評価することに関する実務上の指針を提供するものである．

この講義で実践する手法は，監査のみならず，企業評価に幅広く適用可能なものである．企業のリスク評価は，会計専門職に最も期待される能力の一つであり，高い意欲をもって受講していただきたい．

I will lecture on the basic framework of how assessing and identifying a corporate 's risks as an audit procedure is exactly what it is, focusing on the ISA315 Identifying and Assessing the Risks of Material Misstatement through Understanding the Entity and Its Environment. ISA315 deals with the auditor's responsibility to identify and assess the risks of material misstatement in the financial statements, through understanding the entity and its environment, including the entity's internal control.

The techniques that can be acquired from this lecture are widely applicable to corporate evaluation, bankruptcy analysis, securities investment analysis. Identifying the risks is one of the most promising skills of accounting professionals, so please take it with great motivation.

成績評価法
・事例研究，リスク評価コンテスト発表，小テスト（70%），理解度確認セッション（30%）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー
講義終了後

連絡先
junko.kogayu.a5@tohoku.ac.jp
（講義日のみアクセス予定）

その他（連絡事項）
・講義の中で随時説明する．

講義の進め方

・公認会計士協会の委員会報告書をテーマごとに講義した後，ケース・スタディなどを用いて基準が意味することを理解する．
・各自が自分の担当する企業を決めて，有価証券報告書等を使いリスク評価手続を実施する事例研究を行う．事例研究の結果をグループごとに発表する「リスク評価コンテスト」を実施する．
・小テスト，理解度確認セッションを実施する．

予習・復習について

＜予習＞
・講義で参照する基準等について熟読する．
＜復習＞
・ケーススタディ，事例研究で実施した内容について，監査基準委員会報告書等の該当部分を確認し理解を深める．

この講義を受講するために必要とする知識

・監査論の科目を履修していることが望ましい．
・財務諸表監査における内部統制の評価については，「内部統制の実務」で取り扱うため，当講義と併せて履修することを推奨する．

テキスト・参考文献

必要に応じて講義の中で紹介する．

第 1 回：事業上のリスクと監査リスク概念／ Auditor's business risks

講義の内容

・どのような事業上のリスクがあり，それがどのように監査上のリスク概念と関係するかについて理解する.
・事例研究では，各自が自分の担当する企業の有価証券報告書等を使って，当該企業が「事業等のリスク」に記載している内容を業種別に比較し，理解する.

＜この講義で参照する基準等＞
・監査基準委員会報告書 200「財務諸表監査における総括的な目的」
・監査基準委員会報告書 315「企業及び企業環境の理解を通じた重要な虚偽表示リスクの識別と評価」

1. 事業上のリスク
2. アサーション
3. 監査リスク
4. 重要な虚偽表示リスク
5. 特別な検討を必要とするリスク
6. リスク評価手続とリスク対応手続
7. 財務諸表全体レベルの重要な虚偽表示リスクとアサーションレベルでの重要な虚偽表示リスク
8. 重要な虚偽表示リスクの構成要素としての固有リスクと統制リスク
9. 発見リスク

＜参考文献＞
必要な文献は講義で示す.

学ぶべき用語・ポイント

・事業上のリスク
・アサーション
・監査リスク
・重要な虚偽表示リスク
・固有リスク
・統制リスク
・発見リスク
・リスク評価手続
・リスク対応手続
・内部統制
・運用評価手続
・特別な検討を必要とするリスク

第 2 回：企業と企業環境の理解／ Understanding the entity and its environment

講義の内容

・監査手続として企業と企業環境を理解するということは具体的にどのようなことかについて，理解する．
・事例研究では，各自が自分の担当する企業の有価証券報告書の他，コーポレート・ガバナンスに関する報告書，アニュアル・レポートあるいは統合報告書等を使って，当該企業の属する産業，規制等の外部要因，事業活動，戦略，業績目標（KPI）等を理解し，それらを実践するガバナンスがどのように構築されているのかを理解する．

＜この講義で参照する基準等＞
・監査基準委員会報告書 315「企業及び企業環境の理解を通じた重要な虚偽表示リスクの識別と評価」

1. 目的
2. リスク評価手続及び企業と企業環境についての情報源
　（1）リスク評価手続
　（2）監査チーム内の討議
3. 企業と企業環境の理解
　（1）産業，規制等の外部要因
　（2）企業の事業活動等
　（3）企業目的及び戦略並びにそれらに関連する事業上のリスク
　（4）企業の業績の測定と検討

＜予習・復習＞
　予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケーススタディ及び事例研究で実施した内容について，監査基準委員会報告書等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞
　必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・ポイント

・リスク評価手続
・質問
・分析的手続
・観察
・閲覧
・過年度の監査
・監査チーム内の討議
・専門家（の参加）
・企業と企業環境
・外部要因
・企業の事業活動
・関連当事者
・一般に公正妥当と認められる企業会計の基準
・企業の業績測定

第 3 回：監査上の重要性，計画段階の分析的手続／
Materiality in planning an audit and analytical procedures

講義の内容

1. 監査上の重要性

重要な勘定等の選定について学習する．重要な勘定等は量的（金額）に重要なものと，質的に重要なものとがあるが，重要な勘定等の決定のためには，重要性の基準値を決定する必要がある．重要性の基準値の決定に際しては，監査基準委員会報告書 320「監査の計画及び実施における重要性」を理解していることが必要である．

2. 分析的手続

・監査基準委員会報告書 315「企業及び企業環境の理解を通じた重要な虚偽表示リスクの識別と評価」における計画段階の分析的手続を理解する．
・ケース・スタディでは分析データから何を読み取るべきかについて理解する．
・事例研究では，各自が自分の担当する企業の有価証券報告書等を使って，計画段階の分析的手続を実施する．

＜予習・復習＞

予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケーススタディ及び事例研究で実施した内容について，監査基準委員会報告書等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・ポイント

・重要性の基準値
・財務データ
・財務データ以外のデータ
・推定値

第 4 回：会計上の見積りの監査／ Auditing accounting estimates

講義の内容

・各種引当金の計上の可否，繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを要する勘定科目等の監査について，監査基準委員会報告書 540「会計上の見積りの監査」にしたがって理解する．
・事例研究では，各自が自分の担当する企業の有価証券報告書等を使って，当該企業が計上している各種引当金の理解，繰延税金資産の回収可能性等（収益力等に基づく企業分類）を検討する．

学ぶべき用語・ポイント

・仮定の適切性
・会計上の見積り
・経営計画との整合性
・独自の会計上の見積り
・経営者確認書

＜講義の概要＞

1. 会計上の見積りの意義
2. 会社による会計上の見積り
3. 監査リスク
4. 十分かつ適切な監査証拠の入手
5. 会計上の見積りの必要性
6. 会計上の見積りの合理性を確かめるための監査手続
7. 会計上の見積りの全体的な評価
8. 経営者確認書の入手

＜予習・復習＞

予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケーススタディ及び事例研究で実施した内容について，監査基準委員会報告書等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す．

第 5 回：重要な虚偽表示リスクの評価／
Assessing risks of material misstatement of the financial statements

講義の内容

・重要な虚偽表示リスク，特別な検討を必要とするリスクの識別がどのような過程で行われるのかを理解する．
・事例研究では，第 1 回から 4 回までのリスク評価手続の実施に基づき，グループで重要な虚偽表示リスクの識別について討議する．

＜この講義で参照する基準等＞
・監査基準委員会報告書 315「企業及び企業環境の理解を通じた重要な虚偽表示リスクの識別と評価」

＜予習・復習＞
予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケーススタディ及び事例研究で実施した内容について，監査基準委員会報告書等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞
必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・ポイント

・重要な虚偽表示リスク
・特別な検討を必要とするリスク

第 6 回：小テスト／ Quiz and discussion

講義の内容

前回までの講義で学習した内容について小テストを実施し，理解度を確認する．

第 7 回：不正のリスク（1）／ Fraud in an audit of financial statements（1）

講義の内容

・監査基準委員会報告書 240「財務諸表監査における不正」を理解する.
・不正リスク要因（動機・プレッシャー，機会，姿勢・正当化）について，ケース・スタディにより理解する.
・事例研究では，前回までのリスク評価手続の結果から不正リスク要因についてグループで討議する.

＜講義の概要＞
1. 不正の定義及び特徴
2. 経営者等の責任
3. 不正に関する監査の固有の限界
4. 監査人の責任
5. 職業的懐疑心
6. 監査チーム内での討議
7. リスク評価手続

＜予習・復習＞
予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケーススタディ及び事例研究で実施した内容について，監査基準委員会報告書等の該当部分を確認し理解する.

＜参考文献＞
必要な文献は講義で示す.

学ぶべき用語・ポイント

・経営者不正
・従業員不正
・動機・機会・正当化
・ガバナンス
・誠実性と倫理的な行動
・気風
・財務報告プロセス
・職業的懐疑心

第 8 回：不正のリスク（2）／ Fraud in an audit of financial statements（2）

講義の内容

金融庁・企業会計審議会監査部会の「監査における不正リスク対応基準及び監査基準の改訂」について理解する.

＜講義の概要＞
1. 不正による重要な虚偽の表示を示唆する状況
2. 不正による重要な虚偽の表示の疑義と監査手続
3. 入手した監査証拠の十分性及び適切性
4. 矛盾した監査証拠があった場合等の監査手続の実施
5. 不正による重要な虚偽の表示の疑義があると判断した場合の審査
6. 監査役等との連携

＜予習・復習＞
予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケーススタディ及び事例研究で実施した内容について，監査基準委員会報告書等の該当部分を確認し理解する.

＜参考文献＞
必要な文献は講義で示す.

学ぶべき用語・ポイント

- 不正による重要な虚偽の表示を示唆する状況
- 不正による重要な虚偽の表示の疑義
- 監査証拠の十分性及び適切性
- 監査役等との連携

第 9 回：関連当事者の監査／ Related parties

講義の内容

・監査基準委員会報告書第 550「関連当事者」について理解する.
・各自が自分の担当する企業の有価証券報告書における関連当事者の取引の開示内容と非財務情報（関係会社，重要な契約等，株主の状況，役員の状況等）を検討し，関連当事者の網羅性，開示の妥当性をグループで討議する.

＜講義の概要＞
1. 関連当事者の監査の目的
2. 経営者及び監査人の責任
3. 関連当事者の存在
4. 関連当事者との取引
5. 識別された関連当事者との取引の検討
6. 経営者確認書
7. 監査の結論及び報告

＜予習・復習＞
　予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケーススタディ及び事例研究で実施した内容について，監査基準委員会報告書等の該当部分を確認し理解する.

＜参考文献＞
　必要な文献は講義で示す.

学ぶべき用語・ポイント
・関連当事者
・親会社
・子会社
・関係会社
・関連会社
・その他の関係会社
・主要株主
・近親者

第 10 回：小テスト／ Quiz and discussion

講義の内容

前回までの講義で理解した内容について小テストを実施する.

第 11 回：評価したリスクに対応する監査人の手続／
The auditor's responses to assessed risks

講義の内容

・財務諸表全体レベルの重要な虚偽表示リスクに対して，全般的な対応を理解する．
・アサーションレベルの重要な虚偽表示リスクに応じた監査手続について理解する．

＜この講義で参照する基準等＞
・監査基準委員会報告書 330「評価したリスクに対応する監査人の手続」

＜予習・復習＞
　予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケーススタディ及び事例研究で実施した内容について，監査基準委員会報告書等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞
　必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・ポイント

・全般的な対応
・監査アプローチ
・リスク対応手続の種類
・監査手続の実施の時期
・監査手続の範囲
・運用評価手続
・プロセス
・内部統制のデザイン
・サンプリング
・監査手続の実施の時期
・残余期間
・分析的実証手続
・推定値
・詳細テスト
・監査証拠の十分性及び適切性
・決算プロセス

第 12 回：リスク評価コンテスト（1）／ Group presentation and discussion（1）

講義の内容

各自が自分の担当する企業の有価証券報告書等を使って実施した事例研究について，グループごとに発表する．企業及び企業環境の理解度，リスクの感度，プレゼンテーション力について審査する．

＜事例研究の発表のポイント＞
1. 事業上のリスクと勘定等の特性より識別される固有リスクの識別
2. 企業及び企業環境の理解
3. 分析的手続
4. 不正のリスク要因の検討

第 13 回：リスク評価コンテスト（2）／ Group presentation and discussion（2）

講義の内容

各自が自分の担当する企業の有価証券報告書等を使って実施した事例研究について，グループごとに発表する．企業及び企業環境の理解度，リスクの感度，プレゼンテーション力について審査する．

＜事例研究の発表のポイント＞

1. 事業上のリスクと勘定等の特性より識別される固有リスクの識別
2. 企業及び企業環境の理解
3. 分析的手続
4. 不正のリスク要因の検討

第 14 回：監査計画の編成法・まとめ／ Planning an audit of financial statements

講義の内容

前回までに理解したリスク評価手続にもとづき，監査計画の作成について総括する．

＜この講義で参照する基準等＞
・監査基準委員会報告書 300「監査計画」

1. 監査チームの主要メンバーの参画
2. 監査契約に係る予備的な活動
3. 計画活動
4. 監査調書
5. 初年度監査における追加的な考慮事項

＜予習・復習＞
予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケーススタディ及び事例研究で実施した内容について，監査基準委員会報告書等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞
必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・ポイント

- 監査計画
- 監査リスク
- 監査の基本的な方針
- 詳細な監査計画
- 指示，監督，監査調書の査閲等
- 文書化

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

理解度確認セッションを実施する.

講義名・担当教員

監査計画の編成法２・小粥純子／ Audit Planning 2・Junko Kogayu

講義の目的／ Course Objective

リスク評価手続により識別したリスクにして，どのようなリスク対応手続を設計すべきかについての基本的な枠組みを，監査基準委員会報告 330「評価したリスクに対応する監査人の手続」（監基報 330）を中心に講義する．監基報 330 は監基報 315「企業及び企業環境の理解を通じた重要な虚偽表示リスクの識別と評価」に従い識別し評価した重要な虚偽表示リスクに対応した，監査人の運用評価手続と実証手続の立案及び実施に関する実務上の指針を提供するものである．

I will lecture on the basic framework of what kind of procedures should be designed to the risks identified , focusing on the ISA 330 The Auditor's Responses to Assessed Risks.

ISA330 deals with the auditor's responsibility to design and implement responses (tests of controls , substantive procedures) to the risks of material misstatement identified and assessed by the auditor in accordance with ISA 315 Identifying and Assessing the Risks of Material Misstatement through Understanding the Entity and Its Environment in an audit of financial statements.

講義の進め方

・監査基準委員会報告書をテーマごとに講義した後，ケース・スタディ及び事例研究を行う．
・小テスト，理解度確認セッションを実施する．

予習・復習について

＜予習＞
・講義で参照する基準等について熟読する．
＜復習＞
・ケーススタディ及び事例研究で実施した内容について，監査基準委員会報告書等の該当部分を確認し理解を深める．

この講義を受講するために必要とする知識

監査論の科目を履修していることが望ましい．

テキスト・参考文献

必要に応じて講義の中で紹介する．

時間割

前期　火曜 6 限

科目ナンバー

EAC-ACC617

成績評価法

・事例研究，小テスト（70％），理解度確認セッション（30％）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

講義終了後

連絡先

junko.kogayu.a5@tohoku.ac.jp
（講義日のみアクセス予定）

その他（連絡事項）

・講義の中で随時説明する．

第 1 回：評価したリスクに対応する監査人の手続／
The auditor's responses to assessed risks

講義の内容

・財務諸表全体レベルの重要な虚偽表示のリスクに対して，全般的な対応を理解する．
・アサーションレベルの重要な虚偽表示のリスクに応じた監査手続について理解する．

＜この講義で参照する基準等＞
　監査基準委員会報告書第 330「評価したリスクに対応する監査人の手続」

＜予習・復習＞
　予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケーススタディで実施した内容について，監査基準委員会報告書等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞
　必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・ポイント

・全般的な対応
・監査アプローチ
・リスク対応手続の種類
・監査手続の実施の時期
・監査手続の範囲
・運用評価手続
・プロセス
・内部統制のデザイン
・監査手続の実施の時期
・残余期間
・サンプルテスト
・分析的実証手続
・推定値
・詳細テスト
・監査証拠の十分性及び適切性
・決算プロセス

第 2 回：監査証拠／ Audit evidence

講義の内容

・監査基準委員会報告書 500「監査証拠」及び監査基準委員会報告書 501「特定項目の監査証拠」を理解する.
・ケース・スタディ「売上の架空計上のリスクに対する手続の設計」により，どのように十分かつ適切な監査証拠を入手するかを理解する.
・特定項目（棚卸資産, 訴訟事件等, セグメント情報）に対する監査証拠について理解する.

＜講義の概要＞

1. 監査証拠
   （1）十分かつ適切な監査証拠
   （2）監査証拠として利用する情報
   （3）監査手続の対象項目の抽出
   （4）監査証拠における矛盾又は証明力に関する疑義
2. 特定項目の監査証拠
   （1）棚卸資産
   （2）訴訟事件等（経営者確認書）
   （3）セグメント情報

＜予習・復習＞

予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケーススタディで実施した内容について，監査基準委員会報告書等の該当部分を確認し理解する.

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す.

学ぶべき用語・ポイント

・十分性
・適切性
・監査証拠の証明力
・アサーション
・精査
・特定項目抽出の試査
・監査サンプリング
・観察
・質問
・確認
・再計算
・再実施
・分析的手続

第 3 回：分析的手続／ Substantive analytical procedures

講義の内容

・監査基準委員会報告書 520「分析的手続」を理解する．
・ケース・スタディ「売上の架空計上のリスクに対する手続の設計」により，実証手続としての分析的手続について理解する．

＜講義の概要＞

1. 分析的実証手続
2. 全般的な結論を形成するための分析的手続
3. 分析的手続の結果の調査

＜予習・復習＞

予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケーススタディで実施した内容について，監査基準委員会報告書等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・ポイント

・アサーションに対する適切性
・目的適合性
・利用可能な情報の情報源
・比較可能性
・データ入手の容易性
・データの信頼性
・推定値の精度

第 4 回：第 1 回小テスト／ Quiz and discussion

講義の内容

前回までの講義で理解した内容について，論述式の小テストを実施する．

第 5 回：確認／ External Confirmations

講義の内容

・監査基準委員会報告書 505「確認」を理解する．
・ケース・スタディ「売掛金の確認手続」により，入手した証拠をどのように評価するのかを理解する．

＜講義の概要＞

1. 確認手続
2. 確認依頼の送付に対する経営者の不同意
3. 確認手続の結果
   （1）確認依頼への回答の信頼性
   （2）未回答
   （3）十分かつ適切な監査証拠を入手するために積極的確認に対する回答が必要である場合
   （4）確認差異
4. 消極的確認
5. 入手した証拠の評価

＜予習・復習＞

予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケーススタディで実施した内容について，監査基準委員会報告書等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・ポイント

・確認
・アサーション
・積極的確認
・消極的確認
・代替手続
・確認差異

第 6 回：試査／ Audit Sampling

講義の内容

・監査基準委員会報告書 530「監査サンプリング」を理解する．
・ケース・スタディ「売掛金の確認手続」により，監査サンプリングのテスト対象項目の抽出，結果をどのように評価するのかを理解する．

＜講義の概要＞

1. 監査サンプリングの立案，サンプル数及びテスト対象項目の抽出
2. 監査手続の実施
3. 内部統制の逸脱と虚偽表示の内容と原因
4. 虚偽表示額の推定
5. 監査サンプリングの結果の評価

＜予習・復習＞

予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケーススタディで実施した内容について，監査基準委員会報告書等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・ポイント

・精査
・試査
・母集団
・階層化
・監査サンプリング
・特定項目抽出
・サンプリング単位
・ノンサンプリングリスク
・許容虚偽表示額

第 7 回：第 2 回小テスト／ Quiz and discussion

講義の内容

前回までの講義で理解した内容について，論述式の小テストを実施する．

第 8 回：後発事象／ Subsequent Events

講義の内容

・監査基準委員会報告書第 560「後発事象」及び監査・保証実務委員会報告第 76 号「後発事象に関する監査上の取扱い」を理解する.
・東日本大震災時の事例をもとに，後発事象の監査上の取扱いを理解する.

学ぶべき用語・ポイント
・後発事象
・財務諸表の承認日
・財務諸表の発行日
・修正後発事象
・開示後発事象

＜講義の概要＞

1. 期末日の翌日から監査報告書日までの間に発生した事象
   ・経営者確認書
2. 監査報告書日の翌日から財務諸表の発行日までの間に監査人が知るところとなった事実
   （1）経営者の監査人に対する責任
   （2）二重日付
   （3）監査報告書への依拠を防ぐための監査人の措置
3. 財務諸表が発行された後に監査人が知るところとなった事実

＜予習・復習＞

予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケーススタディで実施した内容について，監査基準委員会報告書等の該当部分を確認し理解する.

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す.

第 9 回：比較情報 - 対応数値と比較財務諸表／ Comparative Information- Corresponding Figures and Comparative Financial Statements

講義の内容

・監査基準委員会報告書 710「過年度の比較情報―対応数値と比較財務諸表」及び監査委員会報告第 78 号「正当な理由による会計方針の変更」を理解する.
・ケース・スタディにより会計方針の変更の正当な理由の判断について理解する.

＜講義の概要＞

1. 会計方針の変更と正当な理由の判断
2. 会計方針の変更が行われた場合の過年度の財務諸表の取り扱いと比較情報の考え方

＜予習・復習＞

予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケーススタディで実施した内容について，監査基準委員会報告書等の該当部分を確認し理解する.

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す.

学ぶべき用語・ポイント

・正当な理由
・比較情報
・遡及適用
・遡及修正
・対応数値
・比較財務諸表

第 10 回：専門家の業務の利用／ Using the work of an auditor's expert

講義の内容

・監査基準委員会報告書 620「専門家の業務の利用」を理解する.
・事例研究により，専門家の業務の利用が必要な局面と適切性に係る評価について理解する.

＜講義の概要＞

1. 500「監査証拠」
   （1）経営者の利用する専門家の適性，能力及び客観性
   （2）経営者の利用する専門家の業務の理解
   （3）監査証拠としての適切性と関連するアサーション
2. 620「監査人の利用する専門家」
   （1）監査人の利用する専門家の必要性の判断
   （2）監査手続の種類，時期及び範囲
   （3）監査人の利用する専門家の適性，能力及び客観性
   （4）監査人の利用する専門家の専門分野の理解
   （5）監査人の利用する専門家との合意
   （6）監査人の利用する専門家の業務の適切性に係る評価
   （7）監査報告書における専門家の業務の利用に関する記載

＜予習・復習＞

予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケーススタディで実施した内容について，監査基準委員会報告書等の該当部分を確認し理解する.

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す.

学ぶべき用語・ポイント

・監査人の利用する専門家
・経営者の利用する専門家
・専門知識

第 11 回：虚偽表示の評価，経営者確認書・監査役等とのコミュニケーション／ Evaluation of misstatements , Written representations, Communications with those charged with governance

講義の内容

・監査基準委員会報告書 450「監査の過程で識別した虚偽表示の評価」，監査基準委員会報告書 580「経営者確認書」, 監査基準委員会報告書 260「監査役等とのコミュニケーション」を理解する．
・事例研究により，監査役等と連携について理解する．

＜講義の概要＞

1. 虚偽表示の評価
   （1）監査の進捗に伴い識別した虚偽表示の検討
   （2）虚偽表示に関するコミュニケーション及び修正
   （3）未修正の虚偽表示が及ぼす影響の評価
2. 経営者による確認書
   （1）経営者確認書の意義，入手の目的と留意事項
   （2）確認事項の例
   （3）経営者が確認することを拒否した場合の取扱い
3. 監査役等とのコミュニケーション
   （1）コーポレート・ガバナンスと監査
   （2）監査役等のモニタリングの機能と監査人の監査
   （3）監査役等とのコミュニケーションの目的
   （4）コミュニケーションの範囲と内容，時期と方法

＜予習・復習＞

予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケーススタディ及び事例研究で実施した内容について，監査基準委員会報告書等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・ポイント

・経営者確認書
・財務諸表の作成責任
・未訂正の財務諸表の虚偽の表示
・内部統制を構築・維持する責任
・重要な偶発事象，後発事象等

第 12 回：継続企業の前提／ Going concern

講義の内容

・監査基準委員会報告書 570「継続企業」を理解する.
・事例研究により，重要な不確実性が認められる場合について理解する.

＜講義の概要＞

1. リスク評価手続とこれに関連する活動
2. 経営者の評価の検討
3. 経営者の評価を超えた期間
4. 事象又は状況を識別した場合の追加的な監査手続
5. 監査の結論及び報告
6. 重要な不確実性が認められる場合
7. 継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切でない場合
8. 経営者が評価を実施しない又は評価期間を延長しない場合
9. 監査役等とのコミュニケーション
10. 財務諸表の確定の著しい遅延

＜予習・復習＞

予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケーススタディで実施した内容について，監査基準委員会報告書等の該当部分を確認し理解する.

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す.

学ぶべき用語・ポイント

・継続企業の前提
・不確実性
・経営者の評価

第 13 回：グループ監査／ Audits of group financial Statement

講義の内容

・監査基準委員会報告書 600「グループ監査」を理解する．
・海外子会社の事例研究により，グループ監査のあり方について理解する．

＜講義の概要＞

1. グループ監査の目的
2. グループ全体，構成単位及びこれらの環境の理解
3. 重要性
4. 評価したリスクへの対応
5. 連結プロセス
6. 構成単位の監査人とのコミュニケーション
7. 入手した監査証拠の十分性及び適切性の評価
8. グループ経営者及び監査役会等とのコミュニケーション

＜予習・復習＞

予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケーススタディ及び事例研究で実施した内容について，監査基準委員会報告書等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・ポイント

・グループ監査チーム
・構成単位
・構成単位の監査人

第 14 回：監査調書，監査報告／Audit documentation，Forming an opinion and reporting on financial statements

講義の内容

・監査基準委員会報告書 230「監査調書」，監査基準委員会報告書 700「財務諸表に対する意見の形成と監査報告」, 705「独立監査人の監査報告書における除外事項付意見」, 706「独立監査人の監査報告書における強調事項区分とその他の事項区分」を理解する．
・監査報告書における監査上の主要な検討事項（Key Audit Mattter (KAM)）について，海外事例等を用いて理解する．

学ぶべき用語・ポイント

・監査調書
・査閲
・項目の特性
・監査ファイル
・経験豊富な監査人

＜講義の概要＞

1. 監査調書
   （1）監査調書の意義
   （2）監査調書の作成目的
   （3）定義
   （4）監査調書の特質
   （5）監査調書の様式，内容及び範囲
   （6）監査ファイルの最終的な整理
   （7）例外的な状況における監査報告書日後の監査調書の変更
2. 監査報告
   （1）限定意見，否定的意見，意見不表明
   （2）監査範囲の制約

＜予習・復習＞

予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケーススタディ及び事例研究で実施した内容について，監査基準委員会報告書等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す．

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

論述式の理解度確認セッションを実施する.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

内部統制の実務・小粥純子／ Internal Control Practice・Junko Kogayu

時間割
後期　火曜 7 限

科目ナンバー
EAC-ACC618

講義の目的／ Course Objective

企業の内部統制の評価は具体的にはどのように行われるのかについての基本的な枠組みを，金融庁企業会計審議会の財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに同実施基準を中心に講義する．同基準の枠組みは，経営者による財務報告に係る内部統制の評価及び報告の基準と監査人による財務報告に係る内部統制の監査の基準の前提となる内部統制の概念的な枠組みを示すものである．

この講義で実践する手法は，企業評価に幅広く適用可能なものである．企業の内部統制の理解は，会計専門職に最も期待される能力の一つであり，高い意欲をもって受講していただきたい．

I will lecture on the basic framework of how assessing and reporting a corporate 's internal control , focusing on the Standards for Management Assessment and Audit concerning Internal Control Over Financial Reporting. This framework provides the conceptual framework for internal control that underlies the standards used by management to assess and report on internal control over financial reporting and the standards used by external auditors to audit internal control over financial reporting.

The techniques that can be acquired from this lecture are widely applicable to corporate evaluation. Understanding the internal control over financial reporting is one of the most promising skills of accounting professionals, so please take it with great motivation.

講義の進め方

・「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準及び実施基準」をテーマごとに講義した後，ケース・スタディにより基準の意味するところを理解する．
・各自が自分の担当する企業を決めて，有価証券報告書，コーポレート・ガバナンス報告書等を使い，企業の事業上のリスクの評価，全社的な内部統制の理解，内部統制の評価範囲に関する事例研究を行う．事例研究の結果をグループごとに発表する「リスク評価コンテスト」を実施する．
・小テスト，理解度確認セッションを実施する．

予習・復習について

＜予習＞
・講義で参照する基準等について熟読する．
＜復習＞
・ケース・スタディ及び事例研究で実施した内容について，基準等の該当部分を確認し理解する．

この講義を受講するために必要とする知識

・企業のリスク評価の観点から，監査計画の編成法 1 を併せて履修することを推奨する．

テキスト・参考文献

・テキスト：主として以下の基準等を使用する．
　・財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準及び実施基準
　・監査・保証実務委員会報告第 82 号「財務報告に係る内部統制の監査に関する実務上の取扱い」
・参考文献等：必要に応じて講義の中で紹介する．

成績評価法
・事例研究，リスク評価コンテスト発表，小テスト（70%），理解度確認セッション（30%）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー
講義終了後

連絡先
junko.kogayu.a5@tohoku.ac.jp
（講義日のみアクセス予定）

その他（連絡事項）
講義の中で随時説明する．

第 1 回：内部統制報告制度の概要／ Assessment and report on internal control over financial reporting

講義の内容

・内部統制報告書制度の導入の経緯，日本の法令要求事項，内部統制基準等の概要を理解する．
・コーポレート・ガバナンスコードについて理解する．
・ケース・スタディとして身近な例を取り上げ，内部統制を理解する．

＜予習・復習＞
講義内容に関係する法令等を確認し理解する．

＜参考文献＞
必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・ポイント

・内部統制
・事業報告
・リスク情報
・ガバナンス情報
・コーポレート・ガバナンス
・内部統制報告書
・金融庁確認書
・取引所宣誓
・取引所確認書

第 2 回：内部統制の基本的枠組み（統制環境）／ Basic framework of internal control- Control Environment

講義の内容

・内部統制の基本的枠組みの「統制環境」を理解する．
・ケース・スタディにより，下記の統制環境の 7 つの要素を理解する．
　① 誠実性及び倫理観
　② 経営者の意向及び姿勢
　③ 経営方針及び経営戦略
　④ 取締役会及び監査役又は監査委員会の有する機能
　⑤ 組織構造及び慣行
　⑥ 権限及び職責
　⑦ 人的資源に対する方針と管理
・事例研究では各自が自分の担当する企業を決めて，有価証券報告書，コーポレート・ガバナンス報告書等を使い，当該企業の統制環境について理解する．

＜予習・復習＞
　予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケース・スタディ及び事例研究で実施した内容について，基準等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞
　必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・ポイント

・財務報告の信頼性
・事業活動に関わる法令等の遵守
・資産の保全
・統制環境
・リスクの評価と対応
・統制活動
・情報と伝達
・監視活動
・IT（情報技術）の利用

第 3 回：内部統制の基本的枠組み（リスクの評価と対応，統制活動，情報と伝達，監視活動）／ Basic framework of internal control（Risk Assessment and Response，Control Activities，Information and Communication，Monitoring)

講義の内容

・内部統制の基本的要素のうち，リスクの評価と対応，統制活動，情報と伝達，監視活動を理解する．
・事例研究では各自が自分の担当する企業について，企業環境の理解，事業上のリスクの評価を行い，「リスクの評価と対応」について理解する．

＜予習・復習＞

予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケース・スタディ及び事例研究で実施した内容について，基準等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・ポイント

・統制環境
・リスクの評価と対応
・統制活動
・情報と伝達
・監視活動

第 4 回：財務報告に係る内部統制の評価 - 評価範囲の決定プロセス／ Assessment on Internal Control Over Financial Reporting – Determination of the Scope of Assessment

講義の内容

・財務報告に係る内部統制の評価とその範囲，評価範囲の決定方法，内部統制の評価方法について理解する．
・ケース・スタディにより，評価範囲の決定プロセスを理解する．

＜予習・復習＞
　予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケース・スタディ及び事例研究で実施した内容について，基準等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞
　必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・ポイント

・内部統制の有効性
・内部統制評価範囲
・重要な拠点
・業務プロセス

第 5 回：業務処理統制の評価／ Assessment of Process-Level Controls

講義の内容

・業務処理統制について理解する.
・ケース・スタディにより，統制活動とはどういうものかについて理解する.

＜予習・復習＞
　予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケース・スタディ及び事例研究で実施した内容について，基準等の該当部分を確認し理解する.

＜参考文献＞
　必要な文献は講義で示す.

学ぶべき用語・ポイント

・業務処理統制
・リスクを低減する統制
・実在性
・網羅性
・評価の妥当性
・期間配分の適切性
・表示の妥当性

第 6 回：小テスト／ Quiz and discussion

講義の内容

前回までの講義内容について小テストを実施する.

第 7 回：IT（情報技術）への対応／ Response to IT

講義の内容

・基本的要素である「IT への対応」，IT 全般統制，IT 業務処理統制について理解する．
・ケース・スタディにより，会社の中での具体的な IT 業務処理統制を理解する．

＜予習・復習＞
　予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケース・スタディ及び事例研究で実施した内容について，基準等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞
　必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・ポイント

・IT 全般統制
・IT 業務処理統制

第 8 回：全社的内部統制の有効性及び業務プロセスの有効性の評価 ／ Judgment of the Effectiveness of Company-Level Controls and Process-Level Controls

講義の内容

・全社的内部統制の有効性の評価，業務プロセスの有効性の評価について理解する．
・ケース・スタディにより，業務プロセスに不備がある場合の影響について理解する．

＜予習・復習＞
　予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケース・スタディ及び事例研究で実施した内容について，基準等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞
　必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・ポイント

・業務プロセス
・リスクを低減する統制
・実在性
・網羅性
・評価の妥当性
・期間配分の適切性
・表示の妥当性
・統制上の要点

第 9 回：内部統制監査／ Audit on Internal Control Over Financial Reporting

講義の内容

・監査計画の策定，全社的な内部統制の評価について理解する．
・ケース・スタディにより，経営者の内部統制評価範囲の妥当性をどのように判断するのかについて理解する．

＜予習・復習＞

予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケース・スタディ及び事例研究で実施した内容について，基準等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・ポイント

・内部統制の有効性
・内部統制評価範囲

第 10 回：内部統制監査／ Performance of the Internal Control Audit

講義の内容

・内部統制の有効性の評価，内部統制の開示すべき重要な不備，評価範囲の制約，評価手続の記録及び保存，財務報告に係る内部統制の報告について理解する．
・ケース・スタディにより，開示すべき重要な不備が実際にどのようなものかについて理解する．

＜予習・復習＞

予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケース・スタディ及び事例研究で実施した内容について，基準等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・ポイント

・内部統制の有効性
・内部統制の開示すべき重要な不備の是正
・財務報告に係る内部統制の報告
・無限定適正意見
・限定付適正意見
・不適正意見
・監査範囲に関する限定付適正意見
・意見不表明
・追記情報

第 11 回：小テスト／ Quiz and discussion

講義の内容

前回までの講義内容について小テストを実施する.

第 12 回：事例研究（1）／ Group presentation and discussion（1）

講義の内容

各自が自分の担当する企業の有価証券報告書等を使って実施した事例研究について，グループごとに発表する．企業及び企業環境の理解度，リスクの感度，プレゼンテーション力について審査する．

＜事例研究の発表のポイント＞

1.「事業上のリスクと固有リスクの識別」
2.「全社的内部統制の評価（統制環境・リスクの評価と対応）」
3.「評価範囲の選定」

＜予習・復習＞

予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケース・スタディ及び事例研究で実施した内容について，基準等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す．

第 13 回：事例研究（2）／ Group presentation and discussion（2）

講義の内容

各自が自分の担当する企業の有価証券報告書等を使って実施した事例研究について，グループごとに発表する．企業及び企業環境の理解度，リスクの感度，プレゼンテーション力について審査する．

＜事例研究の発表のポイント＞

1.「事業上のリスクと固有リスクの識別」
2.「全社的内部統制の評価（統制環境・リスクの評価と対応）」
3.「評価範囲の選定」

＜予習・復習＞

予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケース・スタディ及び事例研究で実施した内容について，基準等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す．

第 14 回：内部統制監査と財務諸表監査／ Integration of internal control audit with audit of financial statements

講義の内容

財務報告に係る内部統制の監査そして財務諸表監査との関係について理解する．

1. 財務諸表監査の監査人による内部統制監査の目的
2. 内部統制監査と財務諸表監査の関係
3. 内部統制監査の実施
4. 監査人の報告

＜予習・復習＞

予習は講義で参照する基準等について熟読する．復習は，ケース・スタディ及び事例研究で実施した内容について，基準等の該当部分を確認し理解する．

＜参考文献＞

必要な文献は講義で示す．

学ぶべき用語・ポイント

- 監査計画
- 評価範囲の妥当性
- 全般的な内部統制の評価
- 業務プロセスに係る内部統制の評価
- 内部統制の開示すべき重要な不備等の報告と是正
- 監査証拠
- 不正等
- 監査役等との関係
- 他の監査人の利用
- 内部監査人との連携
- 無限定適正意見
- 限定付適正意見
- 不適正意見
- 監査範囲に関する限定付適正意見
- 意見不表明
- 追記情報

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

理解度確認セッションを実施する.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

ミクロ経済学・佐藤寿博／ Micro Economics・Toshihiro Sato

時間割
前期　木曜 3 限

科目ナンバー
EAC-ECO501

講義の目的／ Course Objective

個々の消費者や生産者の行動を基礎とする「ミクロ経済学」について，その理論と応用を学ぶことを通して，現実の経済で起きているさまざまな経済事象を論理的に考え，理解できる力を身につけることを目的とします．

内容的としては，ミクロ経済学の後半，応用部分ともいえる市場の分析以降を中心に講義します．基礎部分とも言える前半の「消費の理論」や「生産の理論」については，必要に応じて適宜，補足的な説明にとどめることとします．

具体的には，以下の内容について学ぶことが目的です．

1）消費・生産・市場理論の簡単な紹介

2）不完全競争の理論あれこれ

3）「市場の失敗」に見る現実の経済諸問題

4）ゲーム理論，行動経済学など，最新の経済学の動向

The purpose of this course is to learn about the microeconomics, its basic theory and some of its applications. The latter part of ordinal textbooks on microeconomics is the major concern of this course, where many economic problems in reality are discussed from the theoretical point of view. The techniques in the former part of textbooks on microeconomics will be lectured if necessary.

What follows are examples of the subjects we will study:

1) Consumption, Production and Markets

2) Imperfect Competition

3) Market Failure and Economic Problems in reality

4) Game Theory, Behavior Economics and some New Topics

講義の進め方

・授業はミクロ経済学の標準的テキストで取り上げられている内容を中心に進めます．ただし，テキストをそのまま説明するのではなく，個々のテーマの理解を深めるよう適宜アレンジし，またテキストの行間を埋めるような補足説明を行います．

・授業での説明は，主にパワーポイントを使って説明する予定です．また，随時，演習問題（授業内・外）に取り組むことで，理解を深めてもらいたいと考えています．

・授業の理解を深めるため，ERE（経済学検定試験）レベルの問題や様々な試験に登場する問題を随時，出題します．実際に解いてみることで，理解が進むだけでなく，自信に繋がると思います．

予習・復習について

＜予習＞

・次回のテーマを予告しますので，テキスト・参考文献をあらかじめ読んでいることを前提に講義します．授業内での質問も受け付けますので，予習段階での疑問点などを明確にし，問題意識を持って講義にのぞんでください．

＜復習＞

・配付資料をもとに，ノートを作ってみることを薦めます．なお，授業内で紹介した演習問題に加え，復習用の演習問題も適宜，出題します．

この講義を受講するために必要とする知識

望ましい水準としては，入門レベルの経済学に関する基礎知識をもっていること，あるいは授業と並行して学ぶ意欲を持っていること．

テキスト・参考文献

テキスト：授業は主に以下の書籍に沿って，進めることにします．なお，授業に進行に必要な資料は配布します．

多和田眞『コアテキスト ミクロ経済学』新世社，2005 年.

参考文献：神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社，2014 年.

林 貴志『ミクロ経済学［増補版］』ミネルヴァ書房，2013 年.

武隈慎一『ミクロ経済学［増補版］』新世社，1999 年.

奥野正寛『ミクロ経済学』東京大学出版会，2008 年.

成績評価法

・授業内理解度（30%），理解度確認セッション（70%）の結果で評価する．

・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

・なお，理解度確認セッションは，主として選択式問題，穴埋め問題を主な内容とします．ERE をはじめとする各種試験のイメージで取り組んでみてください．

オフィスアワー

講義の前（お昼の時間帯），あるいは終了後に質問などを受け付けます．

連絡先

連絡先・連絡方法は，講義開始時に提示します．

その他（連絡事項）

講義の予定／ Class Plan

第 1 回：イントロダクション／ Introduction

・講義で必要とする基礎的知識について，学びます．

あわせて，履修者の学習経験を確認するため，簡単な練習問題をともに考えてみることとします．

第 2 回：市場と均衡（静学的性質）／ Market end Equilibrium (comparative statics)

・完全競争状態下の市場均衡とは何か，「神の見えざる手」の現代的意味を理解すること，また市場均衡は資源配分の視点からどのような評価を与えられるのか，その意味を探ります．

（学ぶべき用語・ポイント：市場均衡，神の見えざる手，効率的配分，厚生経済学の基本定理）

第 3 回：市場と均衡（動学的性質）／ Market end Equilibrium (dynamics)

・市場均衡について，調整過程とその安定性など，動学的性質について学びます．

＜宿題＞簡単な均衡の安定性を確認するための問題を出題します．

（学ぶべき用語･ポイント：Walras の調整過程，Marshall の調整過程，蜘蛛の巣定理，均衡の安定･不安定）

第 4 回：完全競争と不完全競争／ Perfect and Imperfect Competition

・現実の経済の姿として，不完全競争市場について学びます．とくに不完全競争市場全体に共通する基本的性質や完全競争市場との違いを明らかにします．

なお，この授業で紹介する不完全競争の内容は，通常のテキストの説明と大きく異なりますので，履修生の積極的な参加を期待します．

（学ぶべき用語・ポイント：完全競争，不完全競争，価格支配力，寡占）

第 5 回：独占の理論 ／ Theory of Monopoly

・不完全競争との代表ともいえる独占について，その基礎理論を学びます．

＜宿題＞独占均衡を求める簡単な例題を提出します．

（学ぶべき用語･ポイント：売り手独占 monopoly，買い手独占 monopsony，独占均衡，独占価格，社会的余剰）

第 6 回：複占の理論／ Theory of Duopoly

・価格支配力をもつ 2 企業が展開する競争の状況を紹介します．とくに完全競争，独占それぞれとの違いに留意しながら，競争とは何か，独占力とはなにかについて，学んでいきます．

なお，簡単ながら，「共有地の悲劇」，「資源の呪い」といった概念についても紹介します．

＜宿題＞複占についての簡単な問題を提出します．

（学ぶべき用語･ポイント：Cournot 型複占，Bertran 競争，複占均衡，共有地の悲劇，資源の呪い）

第 7 回：独占的競争の理論／ Theory of Monopositic Competition

・不完全競争の中にあってもっとも競争が激しい独占的競争について，その均衡や最適企業数について，学びます．この理論は，ミクロ経済学の理論的体系のなかで唯一，企業数が変化する長期を対象とした理論となっています．

＜宿題＞ 独占的競争を求める，簡単な例題を出題します．

（学ぶべき用語・ポイント：独占的競争，最適企業数，超過利潤）

講義の予定

第 8 回：費用逓減産業と公共政策　／ decreasing cost industry and public policy

・規模が大きくなるにつれ，平均費用が逓減していく技術をもつ産業では，ときに国家が中心となって当該産業を維持・推進します．その理由はなにか，またそのような産業を民営化するうえで必要な前提は何か，具体例を踏まえつつ，考えます．

（学ぶべきポイント：費用逓減，規模の経済，平均費用，固定費用，サッチャーイズム）

第 9 回：経済的外部効果 ／ Economic Externalities

・外部経済・外部不経済の存在がもたらす社会的損失の理解とその解決策について学びます．この理論は公害などの問題を考える上で，基礎となる考え方であるとともに，グリーン税制や COx の排出権取引などといった，現実に適用されている政策の基礎理論でもあります．

＜宿題＞外部経済・賦形剤が存在する場合の私的均衡，社会的均衡を比較する，簡単な計算問題を提出します．

（学ぶべき用語・ポイント：外部経済・外部不経済，社会的余剰，ピグー税税制，グリーン税制，コースの定理，京都議定書，排出権取引）

第 10 回：公共財の理論　／ Theory of Public Goods

・放送などの公共財の基本的性質とその供給量・費用負担のあり方を学びます．

＜宿題＞公共財経済の均衡を求める簡単な問題を出題します

（学ぶべき用語・ポイント：純粋公共財，非競合性，非排除可能性，サミュエルソン条件）

第 11 回：不確実性と経済学／ Uncertainty and Economics

・不確実性の存在を陽表的に考慮するとき，人間行動はどう説明され，また経済的帰結はどう変化するか．この問題への考え方は比較的最近に登場したものであり，かついまも変化しつつある領域です．そうした不確実性について基本的枠組みを紹介するとともに，不確実性についての考え方が経済学に登場して以来，いかに変化してきたか，最近の行動経済学の理論までを念頭に，紹介します．

＜宿題＞期待効用について，練習問題を出題します．

（学ぶべき用語・ポイント：不確実異性，期待効用，von Neumann and Morgenstern の公理，Allais のパラドックス，実験経済学，行動経済学）

第 12 回：不確実性下の最適化行動／ Uncertainty and Optimization Problem

・不確実に対応する人間行動について，その分析方法を学びます．とくに危険の存在が人間行動にどう影響するかや，また危険の存在を前提とした保険の意味・意義について考えてみます．

＜宿題＞不確実性下の最適化問題について，簡単な事例を出題します．

（学ぶべき用語・ポイント：危険回避者，危険愛好家，リスクプレミアム，保険の理論）

第 13 回：不完全情報の経済学／ Economics of Imperfect Information

・経済活動の当事者間で所有する情報に差がある，そのような不完全情報といわれる状況がどのような問題をもたらし，またその問題にどう対処すべきかを考えます．具体的には中古車市場を例とする逆選択の問題と，その解決策としてのシグナリングの問題を取り上げます．他にも，モラルハザードの問題についても考えていきます．

＜宿題＞不完全情報について，簡単な計算問題を出題します．

（学ぶべき用語・ポイント：レモンの問題，逆選択，グラシャムの法則，モラルハザード，シグナリング，自己選択）

講義の予定／ Class Plan

第 14 回：社会的選択の理論／ Social Choice Theory

・社会を構成する個々人の意思を社会全体としてどうまとめ，社会的意思決定をおこなうのか，この社会的選択の問題について理論的に学びます．具体的には，投票のパラドックス他，社会的意思決定がいかに難しいかを体験的に学んでもらい，そのまとめとして Arrow の不可能性定理を紹介します．

＜宿題＞投票のパラドックスについての例題を出題します

（学ぶべき用語・ポイント）投票のパラドックス，公理アプローチ，Arrow の不可能性定理

第 15 回：まとめ／ Summary

・理解度確認セッションとして，学習内容全体を確認するための試験を行います．その過程で，自分の理解度を再確認し，また理解不足の点があれば，学習内容について再確認をしてもらいます．

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

経営管理・村山貴俊／ Business Management・Takatoshi Murayama

講義の目的／ Course Objective

本講義では，営利企業の個別職能の管理および全社管理について学ぶ．職能別管理として，生産管理，人事管理，イノベーション管理を解説する．全社管理として，経営戦略と経営組織を解説する．

各回の講義では，各テーマに関連する新・旧の理論や学説の解説に加え，それら理論や学説に関連する企業の事例も取り上げることで，経営実践に対する経営学理論の有用性を示すこととする．

The purpose of this lecture is to study the functional management and general management of profit corporations. The production management, the human resource management and the innovation management are explained as the functional management. The strategic management and the organizational management are explained as the general management.

Each lecture not only introduces old and new management theories, but also deals with the case studies. To do so, this lecture intends to reveal the practical effectiveness of those management theories.

講義の進め方

1. 1 ～ 14 回の各テーマに沿って関連文献の読解と内容の解説を進める．教員の解説を踏まえ，受講生は，レポートないしはワークシートを作成する．
2. 各テーマの終了時に，実力確認のための小テストを実施する．15 回には理解度確認セッションを実施する．

予習・復習について

＜予習＞

・1 ～ 14 回については，指定された文献や資料を予め読解してくること．15 回については，理解度確認セッションのために 1 ～ 14 回の内容を整理してくること．

＜復習＞

・ 1 ～ 14 回については，講義内容に関するコメントシートの作成ならびに問題への解答を課す．15 回については，14 回までの講義の中で特に理解が浅い部分を明らかにした上で，講義資料や参考文献などを用いてその部分を自主的に学び直すこと．

この講義を受講するために必要とする知識

経営学の理論や企業経営の事例に関心がある学生の履修が望ましい．

テキスト・参考文献

各回の講義で使用する文献や資料については，各回の講義内容の中で具体的に示されているので，それらを参照されたい．

時間割

後期　水曜 2 限

科目ナンバー

EAC-MAN501

成績評価法

・レポート，コメントシートおよび小テスト（70%），理解度確認セッションでのテスト（20%）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

毎回の講義修了後 30 分程度をオフィスアワーとし，教室や教員控室などで質問を受け付ける．

連絡先

東北学院大学経営学部
・村山貴俊研究室
（022-721-3201．留守番電話はありません．）

その他（連絡事項）

講義の中で討議を行う際には，意見を積極的に述べるようにして欲しい．

第 1 回：生産管理論について学ぶ（1）／ Production Management（1）

講義の内容

講義の運営方法や評価方法を解説した後，生産管理の基礎としてテーラーの科学的管理法を解説する．

【前半】講義の運営・評価方法ならびに参考書・資料に関する説明
1. 講義の運営・評価方法の解説.
2. 本講義で用いる参考書や資料および使用方法の解説.

【後半】生産管理について学ぶ（1）
テーラーの科学的管理法を原典に基づき正しく理解する.
1. 科学的管理法が目指したものは何か.
2. 科学的管理法以前の賃金管理と科学的管理法の違い.
3. 時間研究と課業設定の具体的内容.
4. テイラーの科学的管理法に対する反応

＜宿題＞
本講義に参加する目的や狙いを事前に考えてくること.

＜参考文献＞
テイラー，F.W.『科学的管理法』産能大学出版，1969 年.

学ぶべき用語

- 科学的管理法
- 時間研究
- 課業設定

第 2 回：生産管理について学ぶ（2）／ Production Management（2）

講義の内容

生産管理の展開として，フォードの生産管理の思想と方式を解説する．

1. ヘンリー・フォードの経営思想
2. 移動式組立方式について
3. 移動式組立方式の導入の経緯と効果

＜宿題＞

第 1 回で配布した講義資料を事前に読解してくること．

＜参考文献＞

フォード，H.『藁のハンドル』中公文庫，2002 年.
和田一夫『ものづくりの寓話 フォードからトヨタへ』名古屋大学出版，2009 年.

学ぶべき用語

- 移動式組立方式
- 大衆への奉仕
- 利益結果論

第 3 回：生産管理について学ぶ（3）／ Production Management（3）

講義の内容

生産管理の展開として，トヨタの生産管理の思想と方式を解説する．また中京圏や広島の部品メーカーの事例を基に，現代の厳しいコスト競争を生き残るための VA/VE や生産技術革新などの取組について具体的に解説する．

学ぶべき用語

・トヨタ生産システム
・VE/VA

【前半】トヨタ生産システムについて
1. でかんしょ生産から平準化生産（号口管理）へ
2. JIT とカンバン方式
3. 改善活動，自働化，省人化

【後半】生産管理の近時動向
1. VA ／ VE によるコストの造り込み
2. 中部圏・中小自動車部品メーカーの VA ／ VE の事例
3. ものづくり生産革新
4. 広島地区のサプライヤーの事例

＜宿題＞
第 2 回で配布した講義資料を事前に読解してくること．小テストに向けた復習．

＜参考文献＞
大野耐一『トヨタ生産方式　脱規模の経営をめざして』ダイヤモンド社 , 1978 年.
藤本隆宏『生産マネジメントⅠ・Ⅱ』日本経済新聞社，2001 年.

第 4 回：人事管理について学ぶ（1）／ Human Resource Management（1）

講義の内容

人事管理の基礎として，ホーソン実験の内容と意義を解説する

1. ホーソン実験の当初の狙い
2. 照明実験と実験目的の変容
3. リレー組立・雲母剥ぎ作業と人間的状況

＜宿題＞

第 3 回で配布した講義資料を事前に読解してくること.

＜参考文献＞

メーヨー，E.『産業文明における人間問題　ホーソン実験とその展開』日本能率協会，1967 年.

レスリスバーガー，F.J.『経営と勤労意欲』ダイヤモンド社，1954 年.

大橋昭一・竹林浩志『ホーソン実験の研究　人間尊重的経営の源流を探る』同文館出版，2008 年.

学ぶべき用語

・ホーソン実験

第 5 回：人事管理について学ぶ（2）／ Human Resource Management（2）

講義の内容

ホーソン実験の展開ならびにその後の評価について解説する．

1. 面接活動の方法と知見
2. バンク巻き線作業とインフォーマル集団の解明
3. ホーソン実験へのその後の評価

＜宿題＞

第 4 回で配布した講義資料を事前に読解してくること．コメントシートの作成など．

＜参考文献＞

メーヨー，E.『産業文明における人間問題　ホーソン実験とその展開』日本能率協会，1967 年.

レスリスバーガー，F.J.『経営と勤労意欲』ダイヤモンド社，1954 年.

大橋昭一・竹林浩志『ホーソン実験の研究　人間尊重的経営の源流を探る』同文館出版，2008 年.

学ぶべき用語

- 面接活動
- インフォーマル集団

第 6 回：人事管理について学ぶ（3）／ Human Resource Management（3）

講義の内容

ハーシー＝ブランチャード，ハーズバーグなどの諸説に基づき，動機づけ理論を解説する．

1. ハーシー＝ブランチャードの動機づけ理論
2. ハーズバーグの衛生・動機づけ理論
3. ピグマリオン効果と人材育成への活用
4. シグニチャー・エクスペリンスについて

＜宿題＞

第 5 回で配布した講義資料を事前に読解してくること．

＜参考文献＞

ハーシー，P ＝ブランチャード，K.H.『入門から応用へ　行動科学の展開』生産性出版，1978 年.

ハーズバーグ , F.『仕事と人間性　動機づけ－衛生理論の新展開』東洋経済 , 1968 年.

DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部『新版　動機づける力　モチベーション理論と実践』ダイヤモンド社 , 2009 年.

.

学ぶべき用語

- 動機づけ理論
- 衛生・動機づけ理論

第 7 回：人事管理について学ぶ（4）／ Human Resource Management（4）

講義の内容

人を率いるリーダーシップの多様性について解説する.

1. 状況的リーダーシップとは
2. ビジョナリーリーダーシップとは
3. サーバントリーダーシップとは

＜宿題＞

第 6 回で配布した講義資料を事前に読解してくること．小テストに向けた復習.

＜参考文献＞

ハーシー , P ＝ブランチャード , K.H.『入門から応用へ　行動科学の展開』生産性出版 , 1978 年.
グリーンリーフ , R.K.『サーバントリーダーシップ』英治出版 , 2008 年.
ベニス , W. ＝ナナス , B.『本物のリーダーとは何か』海と月社 , 2011 年.
コリンズ , J.C. ＝ポラス , J.I.『ビジョナリーカンパニー 時代を超える生存の原則』日経 BP 出版センター , 1995 年.

学ぶべき用語

- 多様なリーダーシップ

第 8 回：経営組織について学ぶ（1）／ Organizational Management（1）

講義の内容

組織の基本形態について解説する.

1. ライン組織
2. 職能別職長制組織
3. ライン＆スタッフ組織
4. 機能別組織
5. 事業部制組織
6. マトリクス組織

＜宿題＞

第 7 回で配布した講義資料を事前に読解してくること.

＜参考文献＞

沼上幹『組織デザイン』日経文庫.

学ぶべき用語

- 組織の基本形態

第 9 回：経営組織について学ぶ（2）／ Organizational Management（2）

講義の内容

バーナードの組織の成立要素と存続要件について解説する．リッツカールトンホテルの事例を取り上げ，同社の効果的な組織運営を解説する．

1. バーナードの組織論について
2. リッツカールトンの組織マネジメントの事例

＜宿題＞

第 8 回で配布した講義資料を事前に読解してくること．

＜参考文献＞

バーナード ,C.I.『新訳 管理者の役割』ダイヤモンド社 , 1968 年.

マーチ , G. ＝サイモン , H.A.『オーガニゼーションズ 現代組織論の原典［第 2 版］』ダイヤモンド社 , 2014 年.

学ぶべき用語

- 組織の成立要素と存続要件

第 10 回：経営組織について学ぶ（3）／ Organizational Management（3）

講義の内容

コッターの組織変革の手順に基づき，環境変化に適応するための組織変革の必要性とその方法について解説する.

1. コッターの組織変革の手順について
2. 抵抗への対応
3. 権力と影響力

＜宿題＞

第 9 回で配布した講義資料を事前に読解してくること.

＜参考文献＞

コッター , J.P.『組織革新の理論』白桃書房 , 1987 年.
コッター , J.P.『人と組織を動かす　リーダーシップ論』ダイヤモンド社 , 2012 年.

学ぶべき用語

- 組織変革の手順

第 11 回：経営戦略について学ぶ（1）／ Strategic Management（1）

講義の内容

アンゾフを中心とする戦略の計画学派について解説する.

1. 戦略の 5 つの P
2. アンゾフによる戦略経営生成過程の解説
3. アンゾフの戦略経営論について

＜宿題＞

第 10 回で配布した講義資料を事前に読解してくること.

＜参考文献＞

ミンツバーグ , H.『戦略サファリ』東洋経済新報社 , 2013 年.
アンゾフ , I.H『最新・戦略経営』産能大学出版部 , 1990 年.
アンゾフ , I.H.『戦略経営論（新訳）』中央経済社 , 2007 年.

学ぶべき用語

- 戦略マップ

第 12 回：経営戦略について学ぶ（2）／ Strategic Management（2）

講義の内容

計画学派による事業戦略と多角化戦略分析

1. 事業戦略分析
2. 多角化戦略分析

＜宿題＞

第 11 回で配布した講義資料を事前に読解してくること.

＜参考文献＞

アンゾフ , I.H『最新・戦略経営』産能大学出版部 , 1990 年.
アンゾフ , I.H.『戦略経営論（新訳）』中央経済社 , 2007 年.

学ぶべき用語

- 事業戦略
- 多角化戦略

第 13 回：経営戦略について学ぶ（3）／ Strategic Management（3）

講義の内容

近時の経営戦略論の動向の 1 つとして，資源基盤アプローチおよびダイナミック・ケイパビリティについて解説する．

1. バーニーの VRIO アプローチとは
2. ティースのダイナミック・ケイパビリティとは

＜宿題＞

第 12 回で配布した講義資料を事前に読解してくること．コメントシートの作成など．

＜参考文献＞

バーニー , J.B.『企業戦略論 競争優位の構築と持続』ダイヤモンド社 , 2003 年.
ティース , D.J.『ダイナミック・ケイパビリティ戦略　イノベーションを創発し，成長を加速させる力』ダイヤモンド社，2013 年.

学ぶべき用語

- VRIO
- ダイナミック・ケイパビリティ

第 14 回：イノベーションマネジメントについて学ぶ／ Innovation Management

講義の内容

イノベーション研究に関する近時動向を解説する.

1. コビンダラジャン＝トリンブルのリバース・イノベーション
2. チェスブロウのオープン・イノベーション

＜宿題＞

第 13 回で配布した講義資料を事前に読解してくること.

＜参考文献＞

コビンダラジャン , V. ＝トリンブル , C.『リバース・イノベーション　新興国の名もない企業が世界市場を支配するとき』ダイヤモンド社 , 2012 年.

チェスブロウ , H.（編）『オープン・イノベーション　組織を越えたネットワークが成長を加速する』英治出版 , 2008 年.

学ぶべき用語

- リバース・イノベーション
- オープン・イノベーション

第 15 回：理解度確認セッション／ Final Examination

講義の内容

理解度確認セッションを実施する.

1. 理解度確認セッションを実施し，1 〜 14 回の講義への理解度を確認する.
2. 理解度確認セッション終了後に各設問の模範解答を示し，講義内容への更なる理解を促す.

＜宿題＞

・1 〜 14 回の講義資料や参考文献の内容を整理し，実力確認テストへの準備を行うこと.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

マーケティング・和田正春／ Marketing・Masaharu Wada

講義の目的／ Course Objective

企業経営の分析を進める上で必要となる．経営者が有する市場志向型の考え方を理解することと，実際に行われているマーケティング活動についての知識を身につけることを目指す．企業や NPO などの経営，その特に市場的側面からの理解を深め，職業会計人・スペシャリストとしての専門性をいっそう拡大することを目指し，幅広い視野を身につけていくことを重視する．

Purpose of lecture: This lecture aims to acquire the basic knowledge of contemporary marketing and the managerial perspective of market oriented; it contributes to expand the expertise as accountant and accounting specialist and widen the managerial sight.

講義の進め方

各回ごとに課題を出すので，それについて考え，まとめてくること．それについて各自が意見を言い，検討する．受講者の関心，テーマに応じて，内容は個別に調整していく．課題は次の講義で検討するので，その検討した結果を再度まとめて提出すること．

予習・復習について

＜予習＞

・日頃の新聞記事などを参考に，気になった事例などについて考えてきてもらいたい．それを持ち寄って講義時の議論に活用していく．

＜復習＞

・講義で取り上げたケースを参考に，当該ケースないしはそれ以外のケースを探し，自ら検討を加えてほしい．

この講義を受講するために必要とする知識

特になし．関心を持ってくれていればそれで十分．

テキスト・参考文献

決まったテキストは用意しない．参考図書などは適宜紹介する．

時間割

前期隔週　水曜 3/4 限

科目ナンバー

EAC-MAN502

成績評価法

・講義時の討議の内容（30％），講義内で作成してもらう課題（30％），課題の達成度（40％）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格).

オフィスアワー

非常勤講師なので設定しないが，講義の前後，ならびに連絡を頂ければ調整する．

連絡先

wada@mail.tohoku-gakuin.ac.jp
受講している講義名を明示して問い合わせしてください．

その他（連絡事項）

・気になる点がありましたら，上記メールでお問い合わせください．

講義の予定／ Class Plan

講義は主として次の 7 つのテーマを取り上げていく．

1. マーケティングの理念，歴史，基本的な考え方についての説明（The concept of Marketing）

今日のビジネスにおけるマーケティングの役割の役割や抱えている課題について検討する．組織の中で，マーケティングが果たす役割について理解する．

2. 商品・サービスについての考え方についての説明（What are the products and services?）

今日求められる「価値」をどの様に生み出していくかについて，ビジネスが取り組んでいる課題を取り上げていく．物財，サービス財といった区分ではなく，顧客に求められるものをトータルに実現していくという発想を理解していく．

3.「良さ」を生み出す仕組みについて（How to realize the competitive values through marketing system）

複雑な価値を安定的, 確実に提供するために構築されているシステムについて理解する. 今日のマーケティングはこのシステムの優劣による競争が中心であり，その構築や維持について理解していくことが，マーケティング全体の理解を進める上でも重要になる．一般には流通，情報ネットワークなどがテーマとなるが，それを包括する考え方を理解していく．

4.「良さ」を実現したり，伝えたりするための取組について（How to inform the values to customers and society）

マーケティング・コミュニケーションについて検討する．今日では消費者間の口コミに代表されるように，コミュニケーションは多様化し，コントロールが難しくなっている．そうした中で，重視されるコミュニケーションのあり方について理解していく．

5. マーケティングのシステム発想について（The importance of system perspective of marketing）

マーケティングは組織と市場（顧客と関連企業など）を総合的に統括するシステム管理技術と捉えられる．全体のつながりを理解し，それを効果的に管理していくことについて検討する．

6. IT など新たな可能性とマーケティングの変化（The change of marketing through ICT）

IT 化が開くマーケティングの可能性と，それにより生まれる問題について検討する．定常化するマーケティング・リサーチの現状と，社会的対応の難しさについて特に取り上げていく．

7. 経営戦略的視点から見た企業の取り組み（Case study of marketing）

実際の企業事例からマーケティング課題を取り上げながら，その判断の背景にある考え方を理解していく．

それぞれについて，基本となる理論などを講義した上で，実例を交えて検討していく．それぞれのテーマについて 2 回ずつを充て，1 回目を講義，2 回目を課題の検討という形で進める．1 回目終了時に課題を出し，それを踏まえて 2 回目の講義に進むという形式を取る．

15 回目は全体を通じてのまとめとする．

受講者の関心に合わせて検討する内容は変更することがある．

講義の概要：

今日のビジネスや経営者の考えを理解することを第一の目的とし，それに必要なマーケティングの考え方の枠組みを紹介し，実例を自ら分析できる力を養っていく．少人数の講義であるので，受講者との相互作用を重視していく．なるべく多様なテーマ，業種について取り上げていきたいと考えている．会計科目ではないので，広くビジネスセンスを磨くことに重点を置きたい．

＜宿題＞

予習復習の欄に同じ

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

コーポレートファイナンス 1 ・嘉本慎介／ Cororate Finance 1 ・Shinsuke Kamoto

講義の目的／ Course Objective

本講義では，投資プロジェクトの価値評価，投資の意思決定，資本構成と配当政策について，コーポ―レートファイナンスの基本的な考え方を解説する．

In this course, the instructor explains basic ideas of corporate finance on valuations of investment projects, investment decision rules, capital structure, and payout policy.

講義の進め方

指定したテキストの内容について，スライドを使用して講義する．

予習・復習について

＜予習＞

・テキストを読んで内容を把握すること．

＜復習＞

・テキストの章末問題に取り組むこと．

この講義を受講するために必要とする知識

経済学や金融に関する基礎知識を有していると望ましい．

テキスト・参考文献

・テキスト：バーク・ディマーゾ『コーポレートファイナンス（入門編）［第 2 版］』ピアソン桐原，2011 年．

バーク・ディマーゾ『コーポレートファイナンス（応用編）［第 2 版］』ピアソン桐原，2013 年．

時間割

後期　月曜 6 限

科目ナンバー

EAC-MAN503

成績評価法

・理解度確認セッション（80%）および宿題（20%）で評価する．

・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

未定

連絡先

第 1 回講義においてお知らせします．

その他（連絡事項）

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

本講義の概要，進め方，成績評価等について説明する．第 2 回目以降の講義計画は以下を予定している．

第 2 回：お金の時間価値
第 3 回：キャッシュフロー流列の現在価値
第 4 回：投資の意思決定法
第 5 回：債券評価
第 6 回：金利の期間構造
第 7 回：株式評価
第 8 回：ポートフォリオ理論
第 9 回：資本資産評価モデル
第 10 回：資本コストの推定
第 11 回：市場の効率性
第 12 回：資本構成（1）モジリアニ・ミラーの命題
第 13 回：資本構成（2）負債と税
第 14 回：ペイアウト政策
第 15 回：理解度確認セッション

＜宿題＞
必要に応じて講義の時に指示する．

第 2 回：お金の時間価値／ The Time Value of Money

講義の内容

異なる時点で発生するキャッシュフローの価値を評価する方法，将来価値と現在価値の概念，複利の効果について説明する．

＜予習＞

テキストの第 3 章の 3.1，3.2，第 4 章の 4.1，4.2，第 5 章 5.1 を読むこと．

＜復習＞

テキストの章末問題に取り組むこと．

＜宿題＞

必要に応じて講義の時に指示する．

学ぶべき用語

- キャッシュフロー
- 利子率
- 将来価値
- 現在価値
- 複利

第 3 回：キャッシュフロー流列の現在価値／ Present Value of a Cash Flow Stream

講義の内容

異なる時点で発生するキャッシュフロー流列の現在価値の評価，NPV 法による投資の意思決定ルール，永久債と年金の現在価値について説明する．

＜予習＞

テキストの第 3 章の 3.3，第 4 章の 4.3，4.4，4.5 を読む．

＜復習＞

テキストの章末問題に取り組むこと．

＜宿題＞

必要に応じて講義の時に指示する．

学ぶべき用語

- NPV（正味現在価値）
- 割引率
- 永久債
- 年金
- 資本コスト

第 4 回：投資の意思決定法／ Investment Decision Rules

講義の内容

NPV 法，内部収益率法，回収期間法，収益性指数法などの異なる投資の意思決定ルールの特徴や問題点を説明する．

＜予習＞

テキストの第 6 章を読むこと．

＜復習＞

テキストの章末問題に取り組むこと．

＜宿題＞

必要に応じて講義の時に指示する．

学ぶべき用語

- NPV 法
- 内部収益率
- 回収期間法
- 収益性指数法
- 相互排他的投資

第 5 回：債券評価／ Valuing Bonds

講義の内容

債券の内容，債券価格と最終利回りの関係，スポット金利について説明する．

＜予習＞

テキストの第 8 章を読む．

＜復習＞

テキストの章末問題に取り組むこと．

＜宿題＞

必要に応じて講義の時に指示する．

学ぶべき用語

- クーポン債（利付債）
- ゼロクーポン債（割引債）
- 最終利回り
- イールドカーブ
- 裁定取引

第 6 回：金利の期間構造／ The Term Structure of Interest Rates

講義の内容

フォワードレートと金利の期間構造に関する仮説について説明する.

＜予習＞

テキストの第 5 章の 5.3 と第 8 章を読むこと.

＜復習＞

テキストの章末問題に取り組むこと.

＜宿題＞

必要に応じて講義の時に指示する..

学ぶべき用語

- フォワードレート
- 金利の期間構造
- 期待仮説
- 流動性選好仮説

第 7 回：株式評価／ Valuing Stocks

講義の内容

配当割引モデル，総還元モデル，割引フリーキャッシュフロー評価モデル，類似企業評価法について説明する．

＜予習＞

テキストの第 5 章の 5.5 と第 9 章の 9.1~9.4 を読むこと．

＜復習＞

テキストの章末問題に取り組むこと．

＜宿題＞

必要に応じて講義の時に指示する．

学ぶべき用語

- 配当利回り
- キャピタルゲイン
- 株式資本コスト
- 加重平均資本コスト
- 自社株買い

第 8 回：ポートフォリオ選択／ Portfolio Choice

講義の内容

ポートフォリオの期待収益率とリスクの計算, ポートフォリオのリスク分散化, 最適ポートフォリオの選択について説明する.

＜予習＞

テキストの第 10 章と第 11 章を読むこと.

＜復習＞

テキストの章末問題に取り組むこと.

＜宿題＞

必要に応じて講義の時に指示する.

学ぶべき用語

- 期待収益率
- 標準偏差
- リスク分散化
- システマティック・リスク
- 効率的フロンティア
- シャープ比

第 9 回：資本資産評価モデル／ The Capital Asset Pricing Model

講義の内容

資本資産評価モデルにおいて, 証券の期待収益率がどのように決定されるかを説明する.

＜予習＞

テキストの第 10 章と第 11 章を読むこと.

＜復習＞

テキストの章末問題に取り組むこと.

＜宿題＞

必要に応じて講義の時に指示する.

学ぶべき用語

- 資本資産評価モデル（CAPM）
- 市場ポートフォリオ
- 資本市場線
- 証券市場線
- ベータ値

第 10 回：資本コストの推定／ Estimating the Cost of Capital

講義の内容

資本資産評価モデルを応用して，投資プロジェクトの正味現在価値を算出する際に必要となる資本コストを推定する方法について説明する．

＜予習＞

テキストの第 5 章の 5.5 と第 12 章を読むこと．

＜復習＞

テキストの章末問題に取り組むこと．

＜宿題＞

必要に応じて講義の時に指示する．

学ぶべき用語

- 株式の資本コスト
- 負債の資本コスト
- プロジェクトの資本コスト
- 加重平均資本コスト（WACC）
- 市場リスクプレミアム

第 11 回：市場の効率性／ Market Efficiency

講義の内容

効率的市場仮説と企業財務の意思決定に効率的市場がもつ意味について説明する.

＜予習＞

テキストの第 9 章の 9.5 を読むこと.

＜復習＞

テキストの章末問題に取り組むこと.

＜宿題＞

必要に応じて講義の時に指示する.

学ぶべき用語

- 効率的市場仮説
- ウィークフオーム
- セミストロングフォーム
- ストロングフォーム

第 12 回：資本構成（1）モジリアニ・ミラーの命題／ Capital Structure (1) Modigliani and Miller Proposition

講義の内容

完全市場における企業の資本構成と企業価値の関係について説明する.

＜予習＞
テキストの第 14 章を読むこと.

＜復習＞
テキストの章末問題に取り組むこと.

＜宿題＞
必要に応じて講義の時に指示する.

学ぶべき用語

- モジリアニ・ミラーの命題 I
- モジリアニ・ミラーの命題 II
- 一物一価の法則
- 負債のある自己資本
- レバレッジ

第 13 回：資本構成（2）負債と税／ Capital Structure (2) Debt and Taxes

講義の内容

負債の支払利息の税控除が企業の資本構成と企業価値の関係に及ぼす影響について説明する.

＜予習＞

テキストの第 15 章を読むこと.

＜復習＞

テキストの章末問題に取り組むこと.

＜宿題＞

必要に応じて講義の時に指示する.

学ぶべき用語

- 節税効果

第 14 回：ペイアウト政策／ Payout Policy

講義の内容

完全市場におけるペイアウト政策と企業価値の関係について説明する.

＜予習＞

テキストの第 17 章の 17.1~17.4 を読むこと.

＜復習＞

テキストの章末問題に取り組むこと.

＜宿題＞

必要に応じて講義の時に指示する.

学ぶべき用語

- 配当
- 自社株買い
- 配当無関連命題
- 配当取り
- 顧客効果

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

これまでの講義の内容への理解を確認するために理解度確認セッションを実施する.

＜宿題＞

なし

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

グローバル経営・榊正壽／ Global Management・Masatoshi Sakaki

時間割

連続講義
（9 月 10 日～ 9 月 11 日，
9 月 23 日～ 9 月 25 日）

科目ナンバー

EAC-MAN602

講義の目的／ Course Objective

グローバルな企業の実態を把握することがメインテーマです．具体的には日本に拠点を有する外資系企業が活動する環境（マーケット）を理解し，どのようにビジネスを行っているかを一緒に考えます．また，様々な経営事例に触れるために外資系企業の経営に関わるゲストスピーカーによる講義も予定しています．

The main theme is to understand the status of global companies. Specifically, we will understand the environment (market) in which foreign-affiliated companies based in Japan are active and consider how we are doing business together. In addition, a lecture by a guest speaker related to the management of a foreign-affiliated company is also planned to touch on various management cases.

成績評価法

・理解度確認セッション（50%），レポート（25%），講義への参加度（25%）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格).

オフィスアワー

講義終了後

連絡先

第 1 回講義においてお知らせします．

その他（連絡事項）

講義の進め方

外資系企業の経営に関わる企業人が経営の実務的な仕組について説明します．それぞれの講義の後にそのテーマに関する discussion を英語・日本語で行います．

予習・復習について

ゲストスピーカーが経営に関与する外資系企業ははそれぞれ Website を公開しておりますので，各自事前にそれを見て各社のビジネス領域に関する基礎知識をもって頂きたいです．

また，サービスのマーケティングに関する内容も講義でカバーしますので，この分野に関する雑誌の記事や書籍を見て頂くと参考になると思います．

この講義を受講するために必要とする知識

特になし．

テキスト・参考文献

当日に配布（事前にお配りできる物は提供します）．

講義の予定／ Class Plan

第 1 回　オリエンテーション／ Orientation

　講義の概要と，グローバルな企業経営の概要について説明いたします.

第 2 回以降の講義内容については，第 1 回講義にて説明いたします.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

企業情報システム・酒井　健／ Enterprise Information System・Ken Sakai

講義の目的／ Course Objective

この講義の主たる目的は，企業経営の観点から情報経済の特徴を掴むとともに，情報経済における企業戦略（および組織設計）に関する基礎理論を学ぶことにある．また補完的に，それらの理論的視点から関連する事例を観察し，理論と現実の関係性に関して理解を深めていく．さらに，予定通り進めば，AI，IOT の進化・普及が企業経営および労働環境に与える影響に関しても検討する．

The main aim of this course is to understand the characteristics of the information economy from the viewpoint of business management and to learn the basic theory of corporate strategy (and organization design) in the information economy. Besides, the students in this course will observe the related business cases from these theoretical viewpoints and thus consider the relationship between theory and reality. Also, if it will go on as scheduled, the students will deepen their understanding of how the evolution and diffusion of AI and IOT will affect the business management and working environment.

講義の進め方

課題図書の指定範囲の精読と予習ノートの作成が講義参加の条件．教員が一方的に説明することはせず，参加者全員で議論をしながらテキストの理解を深める．

予習・復習について

＜予習＞

・毎回の指定範囲の精読と予習ノート作成を必須とする．予習ノートの作成方法は別途指示するが，分量は A4 で 1 枚程度を予定．

＜復習＞

・毎回の授業冒頭に口頭で前回内容の確認を行うため準備をしておく必要がある．また講義全体の復習として，最終回に振り返りシートの記入とそれに基づく討議を行う．

この講義を受講するために必要とする知識

特になし．

テキスト・参考文献

・教科書①カール・シャピロ＆ハル・ヴァリアン［大野一訳］『情報経済の鉄則：ネットワーク型経済を生き抜くための戦略ガイド』日経 BP クラシックス，2018 年．

・教科書②リチャード・サスカインド＆ダニエル・サスカインド著［小林啓倫訳］『プロフェッショナルの未来：AI，IoT 時代に専門家が生き残る方法』朝日新聞出版，2017 年．

・その他の参考文献・資料は，講義中に適宜紹介する．

・本授業に参加する学生は，教科書①については早めに購入する必要がある．教科書②についてはスケジュールの変更があり得るため，購入時期等について講義中に教員から別途指示する．

時間割

後期　月曜 2 限

科目ナンバー

EAC-ECM501

成績評価法

・筆答形式の理解度確認セッションは実施しない．各回の予習ノートと，最終回の振り返りシートが課題レポートに代わるものになる（最終回の振り返りシートの記入に際しては資料を閲覧してよい）．.

・予習ノート（60%），講義への貢献度（35％），最終回に記入する振り返りシート（5%）の比率で評価する．

・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

水曜日
13:30-14:30

連絡先

ken.sakai.e6@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・特になし．

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

・本講義初回は講義概要をはじめ，本シラバスに記載した内容を説明する．
・本講義で使用する教科書，資料の概要および入手方法を説明する．
・次回以降の講義で取り上げるトピックス（情報経済, 情報のプライシング, 情報財のバージョン化，知的財産権の管理，ロックイン，ネットワークとポジティブフィードバック，協力と互換性，標準化戦争，情報政策，情報経済におけるビジネスモデルの実例，情報化社会と専門職の働き方等）の概要について説明する．

＜使用資料＞
教科書①第 1 章

第 2 回：情報のプライシング／ Pricing information

講義の内容

教科書①第 2 章の内容確認と討論（情報財のコスト構造・市場構造，情報のコモディティ化，差別化とコストリーダーシップ，先発優位，商品 / 価格パーソナライズ，グループ別戦略，ネットワーク効果，ロックイン等）.

＜使用資料＞
　教科書①第 2 章

＜宿題＞
　指定範囲の予習ノート作成

第 3 回：情報財のバージョン化／ Versioning information

講義の内容

教科書①第 3 章の内容確認と討論（ディレイの意義，ユーザーインタフェース，価格・品質調整，プロモーション価格等）.

＜使用資料＞
　教科書①第 3 章

＜宿題＞
　指定範囲の予習ノート作成

第 4 回：知財管理／ Rights management

講義の内容

教科書①第 4 章の内容確認と討論（無償提供，補完財，取引コスト等）.

＜使用資料＞
　教科書①第 4 章

＜宿題＞
　指定範囲の予習ノート作成

第 5 回：ロックインの理解／ Recognizing lock-in

講義の内容

教科書①第 5 章の内容確認と討論（ロックイン，スイッチングコスト等）.

＜使用資料＞
　教科書①第 5 章

＜宿題＞
　指定範囲の予習ノート作成

第 6 回：ロックインの管理／ Managing lock-in

講義の内容

教科書①第 6 章の内容確認と討論（買い手のロックイン戦略・売り手のロックイン戦略等）.

＜使用資料＞
　教科書①第 6 章

＜宿題＞
　指定範囲の予習ノート作成

第 7 回：ネットワーク＆ポジティブフィードバック／ Networks and positive feedback

講義の内容

教科書①第 7 章の内容確認と討論（ポジティブフィードバック，供給・需要サイドの規模の経済，ネットワーク外部性，集団のスイッチングコスト等）.

＜使用資料＞
　教科書①第 7 章

＜宿題＞
　指定範囲の予習ノート作成

第 8 回：協力と互換性／ Cooperation and compatibility

講義の内容

教科書①第 8 章の内容確認と討論（公的標準化戦略，アライアンス，オープン化戦略等）.

＜使用資料＞
　教科書①第 8 章

＜宿題＞
　指定範囲の予習ノート作成

第 9 回：標準化戦争／ Waging a standards war

講義の内容

教科書①第 9 章の内容確認と討論（標準化戦争でキーとなる資産，標準化戦争の基本戦術等）.

＜使用資料＞
　教科書①第 9 章

＜宿題＞
　指定範囲の予習ノート作成

第 10 回：情報政策／ Information policy

講義の内容

教科書①第 10 章の内容確認と討論（価格差別, 競争政策等）, および教科書①全体のまとめ.

＜使用資料＞
　教科書①第 10 章.

＜宿題＞
　指定範囲の予習ノート作成

第 11 回：情報化社会におけるビジネスモデル／ Business models in the information society

講義の内容

情報化時代のビジネスモデルの実例に関する資料を確認する．その後に，それまでに学んだ理論的視点と実例がどのように結び付くのかについて議論を行う．

＜使用資料＞
　資料「アマゾン」「Airbnb」（事例は予定．資料は教員が用意する）

＜宿題＞
　なし

第 12 回：AI と IoT の影響 I ／ The effects of the progress of AI and IoT I

講義の内容

教科書②に基づき，AI と IoT が企業経営と労働環境に与える影響について検討する予定.

＜使用資料＞
　教科書②第 5 章

＜宿題＞
　教科書②第 5 章の予習ノート作成.

第 13 回：AI と IoT の影響 II ／ The effects of the progress of AI and IoT II

講義の内容

引き続き，教科書②に基づき，AI と IoT が企業経営と労働環境に与える影響について検討する予定.

＜使用資料＞
　教科書②第 6 章

＜宿題＞
　教科書②第 6 章の予習ノート作成.

第 14 回：AI と IoT の影響 III ／ The effects of the progress of AI and IoT III

講義の内容

引き続き，教科書②に基づき，AI と IoT が企業経営と労働環境に与える影響について検討する予定.

＜使用資料＞
　教科書②第 7 章

＜宿題＞
　教科書②第 7 章＆結論の予習ノート作成.

第 15 回：まとめと振り返り／ Summary and reflection

講義の内容

講義全体の振り返りを行う．最初に学生が講義全体の「振り返りシート」を記入し，その後にその内容について発表と討論を行う．この「振り返りシート」記入に際しては，それまでに作成した予習ノートや教科書を閲覧してよい．

＜使用資料＞

「振り返りシート」（教員がフォーマットを作成して配布する）

＜宿題＞

これまで各自が作成した予習ノート等に基づき，講義内容をレビューしておくこと．

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

情報システム設計・樋地正浩／ Information System Design・Masahiro Hiji

講義の目的／ Course Objective

組織活動に関わるさまざまな情報は，情報システムで管理，処理され，組織活動の中で利用されており，組織活動を支える上で不可欠な存在になっている．本講義では，最初に情報技術の基本的用語や概念と情報システム産業の特徴を学び，組織活動の中で重要な位置を占める情報システムを学習するために必要な基礎能力を身につける．そして組織活動と情報システムの関係や情報システムを構築する意義を理解する．ついで，情報システムを構築するための全体的な工程の流れと各工程の中で用いられる手法，各工程で作成される設計書や仕様書といった文書の必要性と記述されるべき内容を学習する．これにより，組織が構築，利用している情報システムの妥当性を評価する能力を習得する．

Information systems are indispensable for supporting organizational activities because information related to organizational activities is managed and processed on information systtems. The lecture will lecture on the basic knowledge of information technology, the relationship between organizainal activities and information systems, overall process flow for developing an information system, the documents to be created in each process and the contents of these documents, and project management. In addition, the lecture will explain the characteristics of the information industory. By this lectuire, students are expected to acquire the basic skills to understand information systems and the ability to evaluate the validity of information system developed in the organization.

講義の進め方

以下の情報システムの基本的な用語や概念，構築過程，関連知識を講義する．

- 講義の理解に必要な IT の用語と概念，情報システムとは何か，情報システム産業の特徴といった基礎知識
- 情報システムの構築にかかわる契約とプロジェクト管理手法
- 組織活動において情報システムを構築する意義と投資対効果による構築の是非の判断方法
- 情報システムの基本的な構築過程（システム化計画，要件定義，方式設計，詳細設計，プログラミング，テスト，運用と保守）にしたがい，各工程の作業内容，そこで用いられている手法，作成される文書の種類とその文書の必要性

予習・復習について

- 講義の最後に次回の学習内容を述べるので，それに従い講義資料を事前に熟読し，その中で不明点があればその不明点を明確にしておくこと．
- 講義の中で簡単な問題，課題を示すので，復習の中でそれらの問題，課題の回答を各自考えること．
- 情報システムに関する知識が少ない受講生は，講義内容をもう一度，自分なりに説明してみることで理解を深めること．

この講義を受講するために必要とする知識

特にない．ただし，講義の中で適宜質問をするので，積極的な参加意識を持つこと．

テキスト・参考文献

講義資料は配布する．講義資料以外の参考文献は以下の通り．それ以外の参考文献は必要に応じて講義の中で紹介する．

- 独立行政法人 情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター『経営者が参画する要求品質の確保［第 2 版］』オーム社，2006 年 5 月，ISBN4-274-50076-4
- 細川義洋『なぜ，システム開発は必ずモメるのか？ 49 のトラブルから学ぶプロジェクト管理術』日本実業出版社，ISBN-13: 978-4534051158
- 松島桂樹『IT 投資マネジメントの発展―IT 投資効果の最大化を目指して』白桃書房，ISBN13:978-4561244677

時間割

後期　火曜 3 限

科目ナンバー

EAC-ECM502

成績評価法

- 理解度確認セッション 1（50%），理解度確認セッション 2（50%）で評価する．
- AA(90 点 以 上), A(80 点以上 90 点未満), B(70 点以上 80 点未満), C(60 点以上 70 点未満), D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

火曜日
14:40-16:10

連絡先

hiji@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

- 講義，オフィスアワー以外の時間で生じた疑問や質問は電子メールで随時，受け付ける．
- 一方的な講義に終始するのではなく，講義の中で簡単な演習も行うため，積極的な参加意識をもって受講することが望ましい．

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

講義の目的：

講義の全体概要と情報システム設計を学ぶ必要性，情報システムを構築していく全体の流れを理解する．

学習の対象である情報システムとは何か，情報システムや情報システム構築の特徴は何か，を理解する．

講義の概要：

まず，情報システムの基本的概念と情報システムの持つ特徴を講義し，これからの講義の対象に対する理解を深める．次に，情報システム設計を学ぶ必要性と意義について説明する．そして，組織において情報システムを構築する過程はどのようになっているか，という情報システム構築の基本的な設計の流れを概説する．これらを通して，情報システムを構築する妥当性を評価する能力と，経営分析や監査の中で情報システムにどのようにかかわり，利用していくべきかを考えることができる能力を身に付けていく重要性を理解する．これらの設計工程の概要は，以後の講義を理解する基礎となる事項である．最後に，講義の進め方，成績評価について説明する．

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

学ぶべき用語・ポイント

- 情報システム
- 情報システム構築過程
- 無形物
- 取引形態

第 2 回：情報技術の基礎 -I-- ／ Foundation of Information Technology -I-

講義の内容

講義の目的：

講義を進めていく上で必要な以下の情報技術に関連した用語や概念を学習する．これにより，本講義だけでなく，書籍や資料を読解する中で出てくる情報技術に関連した用語や概念を理解した上でこれらの書籍や資料を正確に理解できる能力を身につける．

講義の概要：

講義を理解する上で必要となる以下の情報技術の概念，用語を講義する．情報技術は，技術進歩が早く，さまざまな概念や用語があり整然とした理解が難しいが，それらを整理して二回にわけて解説する．

1. 情報技術を理解する上で必要な基礎知識として，データ，情報，知識，という最も基本的な概念を解説する．
2. 情報システム設計を学ぶうえで必要な情報システム，ソフトウェア，ハードウェア，ネットワーク，ファイルとデータベース，セキュリティといった情報技術の基本概念を説明し，その意味を正しく理解する．
3. 情報システムの中核であるソフトウェアには，基本ソフトウェア，応用ソフトウェア，ミドルウェアといったさまざまな種類があること，これらのソフトウェアがどのような処理を行い，具体的にどのようなソフトウェアが該当するのかを解説する．さらに，ライセンス形態はプロプライエタリソフトウェアとオープンソースソフトウェアの二種類があることを説明する．
4. ソフトウェアとプログラム言語，プログラム，コンパイラ，インタプリタの関係を説明する．
5. 永続的にデータを管理するために用いられるファイルとデータベースの特徴について講義する．データベースは，データを構造化して管理することにより，複数の情報システムの間のデータの共有と検索や更新の効率化をはかったものであり，現在の情報システムのデータを管理する上で不可欠であることを説明する．
6. ハードウェアは，パーソナルコンピュータ（PC）だけでなくサーバコンピュータやシンクライアントがあり，それ以外にストレージが含まれることを講義する．

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

学ぶべき用語・ポイント

- データ
- 情報
- ソフトウェア
- ハードウェア
- ネットワーク
- データベース
- RDBMS

第 3 回：情報技術の基礎 -II- ／ Foundation of Information Technology -II-

講義の内容

講義の目的：

講義を進めていく上で必要な以下の情報技術に関連した用語や概念を学習する．これにより，本講義だけでなく，書籍や資料を読解する中で出てくる情報技術に関連した用語や概念を理解した上でこれらの書籍や資料を正確に理解できる能力を身につける．

講義の概要：

講義を理解する上で必要となる情報技術の概念，用語を講義する．情報技術は，技術進歩が早く，さまざまな概念や用語があり整然とした理解が難しいが，それらを整理して二回にわけて解説する．

1. オンライン処理やバッチ処理，トランザクション処理といった情報システムにおけるデータの処理形態とその特徴を説明する．
2. ネットワークと LAN（Local Area Network），WAN（Wide Area Network），インターネットの関係を解説する．
3. ネットワークには，有線ネットワークと無線ネットワークがあること，ネットワークを理解する上で重要な通信プロトコルや帯域というネットワークの基本的概念を説明する．さらに，通信プロトコルは，機能別の階層にすることで，各層の機能を変更しても他の層には影響を与えない利点があることを説明する．
4. 情報セキュリティは，情報システムを脅威から守る仕組みであり，安全安心な情報システムの利用とデータの正当性の確保に不可欠であることを講義する．
5. 情報セキュリティの三要素である機密性，完全性，可用性とその実現手段である認証，アクセス制御，暗号化の内容と特徴を説明する．
6. 情報システムの構成形態には，スタンドアロン，集中処理，クライアント－サーバ，Web アプリケーション，があることを知り，それぞれがどのような特徴を持つかを説明する．さらに，最近では，ホスティングやハウジング，クラウド・コンピューティングといった新しい構成形態が出現してきていることとその特徴や利点を説明する．

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

学ぶべき用語・ポイント

- ネットワーク
- 帯域
- 通信プロトコル
- 情報セキュリティ
- 情報システム形態
- クライアントサーバ
- クラウド

第 4 回：情報産業とその特徴／ Information Industry and its Characteristic

講義の内容

講義の目的：

多種多様な企業からなる情報システム産業の特徴を知る．これにより，情報システムの構築プロセスだけでなく，情報システム産業の構造が情報システムの構築にどのような影響を与えているかの認識を深め，情報システムを深く理解できる基礎力を身につける．

講義の概要：

講義を理解する上で必要となる情報技術の概念，用語に加え，情報システム産業自身の特徴を講義する．

1. 情報システムの構築には，情報システムの構築を行う組織の利用者や情報システム部門と情報システムの構築を請け負う情報システム開発企業のシステムエンジニアやプログラマだけではなく，コンサルタントやプロジェクト管理者，さらには情報システムの構築を行う組織の経営者や導入責任者まで多種多様な人々がかかわることを説明する．
2. 情報システムの投資傾向の現状を解説し，現実の情報システムを取り巻く環境への理解を深める．
3. 情報システム産業の売上高や規模，従業員数，事業所数，顧客の動向について解説し，情報システム産業への理解を深める．
4. 情報システム産業の現状と特徴を解説する．情報システム産業は，ハードウェアやネットワーク，パッケージソフトウェアを提供する企業やソフトウェア開発を受託する企業，これらを顧客の要求にあわせて統合する企業から構成されていること，ソフトウェア開発では階層構造が存在することを学ぶ．
5. 情報システム会社の専門家としての責務が重視されるようになってきている現状を知る．
6. 情報システム会社の事業の特徴を事業構造や費用構造の側面から解説する．特に，情報システムの構築を受託する企業とパッケージソフトウェアの開発・販売をする企業の収益構造の特徴の違いを説明する．

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

学ぶべき用語・ポイント

- 情報システム産業の産業構造
- 事業構造
- 費用構造

第 5 回：企業活動と情報システム／ Business Activity and Information system

講義の内容

講義の目的：

情報システム構築の変遷を通して，情報システムを構築する目的がデータ処理の効率化から競争優位，企業間の連携，企業と顧客の間の関係強化に拡大していることを学ぶ．その背景には，技術の進歩だけではなく，社会環境の変化が関係していることを知り，情報システムを構築する意義を説明できる能力を身につける．

講義の概要：

1. 企業における情報システムの変遷を通して，情報システムを構築する目的，情報システムの位置付け，期待する効果，がどのように変化してきたのか，現在の情報システムには何が求められてきているのか，を解説する．
2. 情報システムは，データ処理から経営情報管理，オフィスの効率化，戦略情報システム，ERP（Enterprise Resource Planning），SCM（Supply Chain Management）と変化してきていることを解説する．さらに，それぞれの情報システムが導入された背景や目的，そこで用いられている情報技術の特徴，具体的な情報システムの例を説明する．
3. 情報システムの導入では，それに伴い業務の流れを見直す BPR（Business Process Reengineering）が重要であることを説明する．
4. 最近では，データを戦略的に活用するための CRM（Customer Relationship Management）や BI（Business Intelligence），情報共有やコミュニケーションのための電子メールや SNS（Social Network Service），ブログといった新しい情報システムが構築，利用されてきていることを解説する．
5. 情報システムの意義は，業務の自動化・効率化，業務プロセスの標準化など，さまざまであるが，いずれも組織目標を達成するための手段であることを説明する．

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

学ぶべき用語・ポイント

- データ処理
- 経営情報システム
- EUC
- 戦略的情報システム
- ERP
- BPR
- SCM

第 6 回：情報システムの導入形態と開発プロセス／ Development Process of Information System

講義の内容

講義の目的：

情報システムは，自組織に情報システムを導入することが一般的であるが，それ以外に業務そのものを外部に委託するアウトソーシングやシェアードサービスがあることを知る．さらに，情報システム導入時にソフトウェアの開発をともなう際のソフトウェア開発プロセスには，さまざまな開発プロセスがある．それらの開発プロセスの種類とその利点，欠点を知る．それを通して，情報システムの導入が適切に行われていたかを判断できる能力を身につける．

講義の概要：

本講義では，情報システムの導入手法について，下記の内容を解説する．実際の情報システムの導入では，期間や費用などを考慮し，情報システムの導入が進められることを学ぶ．

1. 情報システムを導入するためには，ハードウェア，ネットワーク，ソフトウェアの構成を決める必要がある．その中でソフトウェアの構成の決め方は，いくつかの観点から分類できることを説明する．具体的には，導入方法による分類，開発の進め方による分類，である．
2. 導入方法は，情報システムを個別開発するか，パッケージソフトウェアを購入してくるか，パッケージソフトウェアの購入と個別開発（カスタマイズ）を組み合わせるか，に分類できることを説明し，それぞれの概要，利点と欠点，それを採用した時の注意点について解説する．
3. 開発の進め方による分類は，情報システムの開発をいくつかの工程に分け，各工程をどのように進めていくかという観点による分類であり，ウォーターフォールモデル，並行開発モデル，スパイラルモデル等があることを解説し，それぞれの開発モデルの概要，利点と欠点，利用上の留意点を解説する．
4. 開発を進める方法として，プロトタイピング手法があることを説明し，その概要，利点と欠点を解説する．
5. 情報システムを導入するのではなく，自組織の業務（情報システムを含む）の一部，もしくは全部を外部に委託するアウトソーシングやシェアードサービスの特徴とその留意点を説明する．

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

学ぶべき用語・ポイント

- パッケージソフトウェア
- 個別開発
- アドオンとカスタマイズ
- プロトタイピング
- アウトソーシング
- シェアードサービス

第 7 回：情報システム構築の契約／ Contract related to Information System Development

講義の内容

講義の目的：

情報システムの開発で発生する外部企業とのさまざまな契約の形態と契約の流れを学習し，契約の流れや契約書の内容から問題点を発見する能力を身につける．

講義の概要：

情報システムの構築は，自社だけでなく，システム開発先の企業やコンサルティング会社等，外部の企業と一緒に進められることが一般的である．そのため，そこではさまざまな契約が交わされる．これらの契約について以下の内容を解説する．

1. 情報システムの開発に関わる企業間の取引の一般的な流れとその中で取り交わされる契約書，文書にはどのようなものがあるかを説明し，正しい取引の流れを判断できる能力を身に付ける．
2. 情報システムの開発における契約の種類には，請負，委任，派遣があることを説明し，それぞれの契約の概要を説明する．さらに，システム開発の工程ごとに適した契約形態があることを説明する．これらを通して，情報システムの開発の進め方や外部に委託する作業に応じて適切な契約が行われているかを確認できる能力を身に付ける．
3. 契約が必要となる代表的な状況の設問を通して，それぞれの契約文書においてどのような交渉が行われているか，交渉において何に留意しなければならないか，を説明し，契約文書の内容が適切であるかを判断できる能力を身につける．
4. 情報システム開発の中で作成される設計書や仕様書，プログラムは著作物であり，著作権により保護されることを解説する．
5. 情報システム開発の契約では，特に，機密保持，産業財産権，著作権，瑕疵担保責任，に関する項目が重要であることを解説する．
6. 情報システムの開発において紛争を事前に回避する方法や万が一紛争が生じた場合の解決方法の概要について説明する．
7. 情報システムにおいてもリース契約が行なわれることを知り，そのときの留意点を解説する．

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

学ぶべき用語・ポイント

- 請負契約
- 委任契約
- 派遣契約
- 瑕疵担保責任
- 知的財産権

第 8 回：理解度確認セッション 1 ／ Examination 1

講義の内容

講義の目的：.

前回まで学習してきた内容をどの程度理解し，身に付けているかを確認し，学習の達成度を把握する.

講義の概要：

- 理解度確認セッションの方法：時間 90 分で，論述形式の筆答理解度確認セッションを課す.
- 評価の方法：50 点満点で採点する.

第 9 回：プロジェクト管理／ Project Management

講義の内容

学ぶべき用語・ポイント

- プロジェクト管理
- リスク管理

講義の目的：

情報システムの構築はユーザ企業のプロジェクトとして進められ，そのプロジェクトの中にシステム開発企業が参加して進められる．そのため，情報システムの構築を円滑に進めるためには，プロジェクト管理が重要性になること，プロジェクトに潜むリスクを管理することが重要性になることを理解する．そして，情報システム構築プロジェクトが適切に行われ，構築が進められたかを確認できる能力を身につける．

講義の概要：

情報システムの構築はユーザ企業のプロジェクトとして進められ，そのプロジェクトの中にシステム開発企業が参加して進められる．このようなプロジェクトを管理する方法について概説する．次にプロジェクトとして進められる情報システムの開発には，さまざまなリスクが含まれており，情報システムの開発を計画通り進めていくためのリスク管理について概説する．

1. 情報システム構築における不確定要因とその影響の講義を通してこれらの不確定要因の中で情報システムの構築を成功させるためにプロジェクト管理が必要になることを学ぶ.
2. 情報システム構築を成功させるため，情報システム構築プロジェクトにおいては，納期，費用，品質のそれぞれを管理していることを知る.
3. プロジェクト管理では，情報の共有，品質の保証，作業の記録・可視化，各工程の入力と出力の明確化のためにさまざまな書類が作成される．それらの書類は，プロジェクトの運営・管理を円滑に行うために必要な管理用書類と情報システム構築の各工程で作成され，ある工程の成果が記載され，次工程の入力になる開発用文書に分類できることを学ぶ.
4. プロジェクト管理で作成，利用させる管理用書類にはどのような書類があり，それらの書類がどのように利用されるかを講義する.
5. リスク管理は，望まない結果を事前に発見し，制御し，それにより望むべき結果を得ることであることを説明する．そして，リスク管理は，リスクの特定，リスクの分析，リスクの優先付け，リスクの解決，リスクの監視，の各作業を定期的に行っていくプロセスであることを説明する.

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する.

第 10 回：情報化計画と投資対効果／ Planning and Return On Investment for Informatization

講義の内容

講義の目的：

情報システムは，経営的な観点から自社の情報化を進めていく際の基本的な方向付けをする「情報化戦略の立案」とそれを受けて具体的な情報システム化を実施する際の方針やスケジュールを作成する「情報化計画」を経てどのような情報システムを構築するかが決まることを学習する．さらに情報システム構築における投資対効果の求め方とそれに基づく情報システム構築の優先順位の決め方を学び，構築された情報システムの妥当性を判断できる能力を身につける．

講義の概要：

理解度確認セッション 1 の試験内容について解答をもとに補足説明をする．次いで，経営戦略や事業モデルの策定を踏まえて，経営的な観点から自社の情報化を進めていく際の基本的な方向付けをする「情報化戦略の立案」とそれを受けて具体的な情報システム化を実施する際の方針やスケジュールを作成する「情報化計画」について，以下の内容を解説する．

1. 情報化戦略では，急速に発展する情報技術の発展方向を的確に把握し，経営的な観点から自社の情報化を進めていく際の基本的な方向付けを行う工程であることを解説する．
2. 情報化計画は，ハードウェアやネットワークを効率的に整備し，情報システムの標準化を推進することで情報システム構築における全体最適を実現するために重要であることを解説する．その中では，情報システムの構築時期，構築費用，成果目標（効果）を設定し，既存の情報システムとの関係の整理が必要になることを説明する．
3. 情報化戦略や情報化計画の現状を説明し，現在どのような方向に進んでいるかを講義する．
4. 情報システムの構築の可否や優先順位を決定するために費用対効果の試算が不可欠であることを説明する．そして，費用対効果の一般的な評価方法，費用の見積り，効果の種類について講義する．さらに，情報化投資の投資対効果を求めることは，一般に極めて難しいが，その原因がどこにあるのかを解説する．

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

学ぶべき用語・ポイント

- 情報化戦略
- 情報化計画
- 全体最適
- 費用対効果

第 11 回：要件定義と設計・開発 -I- ／ Requirement Definition, Design and Programming -I-

講義の内容

学ぶべき用語・ポイント

- 要件定義
- 方式設計
- 提案書（RFP）

講義の目的：

組織の要望や現状の問題から解決すべき課題を明確にし，情報システムに要求する事項を明確にする要件定義で行う作業内容とその結果作成される要件定義書を用いて情報システムの構築の委託先が決定されることを学習する．そして，情報システムの構築を受託した企業が，要件定義書に記載された要求事項を実現する方法を設計する方式設計で行う作業内容を学習する．この要件定義と方式設計の作業内容を理解し，情報システムの構築が適切に進められたことを判断できる能力を身に付ける．

講義の概要：

情報システム構築の最初の段階である要件定義と方式設計について以下の内容を講義する．

1. 要件定義は，情報システムを利用する組織が組織の要望や現状の問題から解決するべき課題を明らかにし，それを解決するために情報システムに要求する事項を整理する工程であり，その結果を要件定義書として作成することを説明する．
2. 要件定義書は，現在の業務の問題点とその解決策，達成すべき目標，解決策の中で情報システムに要求するべきこと，情報システムが利用される状況が記載されることを解説する．さらに，設置要件や体制，稼働時期，開発時の情報セキュリティ，必要なマニュアルなどが付帯事項として示されることを説明する．
3. 要件定義書を開示し，受注を目指す企業から提出された提案書を評価して情報システム構築の委託先が決定されることを解説する．
4. 方式設計では，要件定義書の要求事項を実現するために，ハードウェアやネットワークの機器と構成，ソフトウェアの構成とソフトウェアで実現する機能，想定される性能や信頼性，情報セキュリティのレベル，開発スケジュールや費用，開発時や運用時の体制といった事項を設計することを講義する．
5. ソフトウェアで実現する機能を設計する際には，発注側と共同で要求を分析し，あいまいさを排除し，必要な機能や業務手順を整理することでソフトウェアに要求する範囲を明確化し，文書化することが必要になることを解説する．

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

第 12 回：要件定義と設計・開発 -II- ／ Requirement Definition, Design and Programming -II-

講義の内容

講義の目的：

情報システム構築の中でソフトウェアの設計・開発がどのように行われるのかを理解する．そして，要件定義から設計，開発までの全工程の作業内容とそこで作成される文書の記載内容を理解し，情報システムの構築が適切に進められたことを判断できる能力を身に付ける．

講義の概要：

・ソフトウェアの方式設計について以下の内容を学習する．

1. ソフトウェアに要求される範囲を実現するためのソフトウェア全体の実現方式を決め，それを実現するためのパッケージソフトウェアの選定や開発する機能を明らかにする工程であることを解説する．
2. 要求事項がうまく整理できない時の対応策としては，プロトタイピングが有効であることを説明し，さらにプロトタイピングを利用する際の留意点を解説する．
3. データ設計は，データベース管理システムにどのようにデータを格納するかを決める工程であることを解説する．

・詳細設計工程について以下の内容を学習する．

1. 詳細設計は，方式設計で決めた各機能をソフトウェアとして実現するためにどのような処理単位（処理モジュール）にするかを決める工程であることを説明する．
2. 詳細設計書を作成する上では，必要な内容だけを仕様書に記述する例が増えてきている背景を理解し，プログラム中に記述されたコメントから詳細設計書の一部が自動生成される利点を学ぶ．

・プログラミング工程について以下の内容を学習する．

1. プログラミング工程はデータの処理方法をプログラム言語を用いて作成する工程であり，そこではさまざまな開発支援ツールが利用されていることを説明する．
2. 開発支援ツールの利用により，プログラム作成時間や不良の修正時間の短縮が進められていることを説明する．

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

学ぶべき用語・ポイント

・方式設計
・プロトタイピング
・詳細設計
・プログラミング
・開発支援ツール

第 13 回：テスト工程／ Test Process

講義の内容

講義の目的：

情報システム構築の最後になるテスト工程では何を行うか，どのように品質を見極めるかを学習し，テストの重要性を認識する．それを通して情報システムの品質確認が適切に行われていたかを判断できる能力を身につける．

講義の概要：

情報システム構築の最後になるテスト工程について以下の内容を学習する．

1. ソフトウェアを対象にしたテストと文書を対象にしたレビューにより品質が確認されることを説明する．
2. テスト工程には，処理モジュール単位ごとの検査を実施する「単体テスト」，単体テストにより単独の動作が確認された処理モジュール同士を組み合わせた時の動作を確認する「組合せテスト」，システムを実際に利用する時と同じような条件で全体の機能を確認する「システムテスト」があることを説明する．
3. テスト項目は，設計書に基づいて事前に作成することを解説する．具体的には，単体テストの項目は詳細設計書に基づいて作成，検証し，組合せテストの項目はソフトウェアの方式設計書に基づいて作成，検証し，システムテストの項目は方式設計書に基づいて作成，検証することを説明する．さらに，システムテストは正常に動作するかを確認することに加え，システムに要求された性能を確認する実行性能テスト，システムの限界を確認する負荷テスト，システムが長時間の動作に耐えられるかどうかを確認するロードテストがあることを解説する．
4. テストの実施中に発生した不良は必ず不良票を書いてまとめることを解説し，不良票に記入すべき内容は何かを説明する．
5. 不良の分析を通して作成したプログラムや情報システムの品質をどのように測定し，判断するのかを解説する．
6. 発注側は，納品された情報システムに問題がないことを確認する受入テストにより納品された情報システムの品質を確認し，問題がなければ検収が完了することを解説する．

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

学ぶべき用語・ポイント

- 単体テスト
- 組合せテスト
- システムテスト
- 受入テスト
- レビュー
- テスト項目
- 品質分析

第 14 回：運用と保守／ Operation and Maintenance

講義の内容

講義の目的：

運用や保守はどのような作業を行うことかを学習し，その重要性を理解する．特に情報システムの構築は，情報システムが完成して終わるのではなく，その後の運用・保守までが含まれることを学び，構築した情報システムの利用状況を調査できる能力を身につける．

講義の概要：

構築した情報システムを日々安心して利用していく上で必要な運用と保守について以下の内容を講義し，情報システムを構築し，利用するためには，データの準備，運用，保守が必要であることを理解する．さらに，情報システムの構築費用には，データを準備する費用も含まれること，運用と保守の費用は継続的に必要であることを認識する．

1. 情報システムを利用するためには，既存の情報システムからデータを移行したり，新たな情報システムで利用するデータを整備したりする作業が必要であることを説明する．
2. 運用設計では，常に安定して情報システムを利用し続けるための情報システムの維持方法として，情報システムの対象外の事象への対応方法，運用基準，運用ルールの明確化，情報システムの監視方法，障害発生時の対処方法，データのバックアップのやり方やバックアップしたデータの管理方法，を決める必要があることを説明し，それぞれの業務で何を行う必要があるのかを解説する．
3. 保守には，ソフトウェアやハードウェア，ネットワークに不良があった場合の修正，確認方法を定める「修正保守」，自社で不良は発生していないが，他で発生した不良が修正されたソフトウェアの更新方法を決める「適応保守」があることを解説する．
4. 保守作業で用いられる保守手順や障害対応手順が決められている．これらの手順は，どのような内容であるかを解説する．

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

学ぶべき用語・ポイント

- データ準備
- 運用設計
- 修正保守
- 適応保守
- データバックアップ

第 15 回：理解度確認セッション 2 ／ Examination 2

講義の内容

講義の目的：

本講義全体を通して学習してきた内容をどの程度理解し，身に付けているかを確認し，学習の達成度を把握する．特に講義の後半で学習した内容をどの程度理解しているかを確認する．

講義の概要：

- 理解度確認セッションの方法：時間 90 分で，論述形式の筆答理解度確認セッションを課す．
- 評価の方法：50 点満点で採点する．

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

戦略情報システム導入・樋地正浩／ Introduce Strategic Information System・Masahiro Hiji

講義の目的／ Course Objective

情報通信技術は，次から次へと新しい技術やサービスが生まれ，社会に影響を与えている．特に，所有から利用へという大きな流れの中で情報システムもクラウド・コンピューティングという所有から利用への流れが大きくなってきている. このクラウド･コンピューティングの概要と特徴を利用者と開発者の両方の視点から学び，将来，クラウド・コンピューティングが利用される社会においても適切な情報システムの評価が行える素地を醸成する．さらに，最近は，クラウド・ソーシングやクラウド・ファンディング，FinTech，といった情報通信技術を活かした社会に影響を与えるサービスや IoT（Internet of Things）やビッグデータ，オープンデータといったデータが持つ価値を高める考え方やそれらのデータから価値を生み出す人工知能技術が登場していることを学び，新しい技術やデータの持つ価値が社会にどのような影響を与えるのかを正しく判断できる下地を作る．

Information technology, where new technologies and services are created one after another, has a great impact on society. The lecture will lecture an overview, features, benefits and problems of cutting-edge information technology. The lecture focuses cloud computing, FinTech, crowd funding, croud soursing, Internet of Things, artificial intelligence, and bigdata/open data. Students will understand the essence of these technologies and have the ability to make the right decisions about how new technologies will impact society.

講義の進め方

先端的な情報システムの導入に関係する以下の内容について講義する．

- 最新の情報システム利用形態であるクラウド・コンピューティングの概要と特徴，課題，情報システムに与える影響
- クラウド・ソーシングやクラウド・ファンディング，FinTech という最新の情報通信技術が切り開いた新しいサービスの概要と特徴，課題
- IoT，ビッグデータ，オープンデータの概要とそれが社会に与える影響
- 人工知能の概要と人工知能とデータの関係，人工知能により実現される新しい応用
- 人工知能や情報通信技術が社会に与える変革

さらに，上記に関連する問題を提示し，講義内容の理解を深める．受講者は提示した問題について調査，検討を行ない，それを発表する．教員は発表内容から講義内容の理解度をはかり，理解不足の点を補足する．

予習・復習について

- 講義の最後に次回の学習内容を述べるので，それに従い講義資料を事前に熟読し，その中で不明点があればその不明点を明確にしておくこと．
- 講義の中で簡単な問題，課題を示すので，復習の中でそれらの問題，課題の回答を各自考えること．

この講義を受講するために必要とする知識

授業科目「情報システム設計」もしくは「事例研究（情報システム設計）」のどちらかを履修済か，同等の知識を持っていること．

テキスト・参考文献

講義で使用する資料は講義の最初に配布する．

- 参考文献： 大木真吾『あの夏，サバ缶はなぜ売れたのか ?』日経 BP，
  ISBN-13:978-4-8222-7792-5
  鈴木良介『データ活用仮説量産 フレームワーク DIVA』日経 BP 社，
  ISBN-13:978-4822279394
- それ以外の参考文献は必要に応じて講義の中で紹介する．

時間割

後期　火曜 5 限

科目ナンバー

EAC-ECM602

成績評価法

- 理解度確認セッションは実施しない．提示した課題について調査・検討した発表内容（80%），及び議論への参加度（20%）で評価する．
- AA(90 点以上)，
  A(80 点以上 90 点未満)，
  B(70 点以上 80 点未満)，
  C(60 点以上 70 点未満)，
  D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

火曜日
14:40-16:10

連絡先

hiji@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

- 講義，オフィスアワー以外の時間で生じた疑問や質問は電子メールで随時，受け付ける．

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

講義の目的：

講義の全体概要と進め方を理解する．今後の情報システムの主流になるクラウド・コンピューティングと最近注目を集めている IoT（Internet of Things）やビッグデータ，オープンデータ，Financial Technology（FinTech），人工知能という最先端の情報通信技術の間の関係性，情報通信技術と社会や産業との間の関係性を把握し，本講義科目の全体像を理解する．

講義の概要：

講義の全体概要について説明する．特に，講義で取り上げる最新技術（クラウド・コンピューティング, クラウド･ファンディング, クラウド･ソーシング, IoT, ビッグデータ, オープンデータ，FinTech，人工知能）の間の関係と）と講義の中で習得してほしい能力について概説する．そして，これらの情報通信技術は，多数の利用者や参加者が自由に情報を流したり情報を得たりすることができるコンピュータやネットワークの中に広がる仮想的な空間であるサイバー空間の中に現実の社会を対応付ける技術であることを解説する．さらに，技術と社会の関わり方の全体像を理解できる素地を作るため，IoT をエネルギーや生活インフラの管理に用いることで，生活の質の向上や都市の運用及びサービスの効率向上をはかることができる都市の在り方であるスマートシティを例にとり，これら情報通信技術がどのように利用されていくかを講義する．

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

学ぶべき用語・ポイント

- 情報通信技術
- スマートシティ
- サイバー空間

第 2 回：クラウド・コンピューティング -I-- ／ Cloud computing -I-

講義の内容

講義の目的：

情報システムの構築は，これまで自社ですべての情報資源（ハードウェアやネットワーク，ソフトウェア）を所有し，利用することが一般的であった．しかし，近年では，“ 必要な時に必要な情報資源を必要なだけ利用する ” という非所有形態（クラウド・コンピューティング）が増えてきている．このクラウド・コンピューティングの利用形態の特徴，利点と欠点（懸念される点），このような利用形態を利用する際の注意点といった最先端の情報システム導入方法を学ぶ．これをとおして，クラウド・コンピューティングの利点を理解し，これまでの情報システムとの違いをふまえて情報システム構築の適切さを判断できる素地を身につける．

講義の概要：

最新の情報技術である “ クラウド・コンピューティング ” について，その概念や特徴，利点や懸念される点を理解するための以下の内容について講義する．

1. 情報クラウド・コンピューティングの概念とそれが登場した背景
2. クラウド・コンピューティングの種類と特徴
3. クラウド・コンピューティングの利点と利用例

これらの解説をとおし，クラウド・コンピューティングの概念と登場背景，利点を理解し，これまでの情報システムとの違いを説明できる力を習得する．最新技術の評価では技術の内容の評価だけでなく，それを採用した時のコスト構造，運用，データの管理責任，などの非技術的要因まで評価が必要であることを説明する．

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

学ぶべき用語・ポイント

- 非所有形態
- クラウド・コンピューティング
- 共有
- 運用費用
- サービスレベル

第 3 回：クラウド・コンピューティング -II- ／ Cloud computing -II-

講義の内容

講義の目的：

クラウド･コンピューティングは，自社ですべての情報資源（ハードウェアやネットワーク，ソフトウェア）を所有し，利用することと異なり，クラウド事業者が所有する情報資源を利用する形になる．そのため，データの安全性や移行性といった情報システムの運用や保守が大きく異なってくる．それにより，利用に際して注意するべき点が大きく変化する．ここでは，クラウド・コンピューティングの利用における懸念事項を理解し，クラウド・コンピューティングの利用の可否判断が適切であるかどうかを判断できる能力を習得する．最後は，クラウド事業者のコスト構造や事業モデル，情報システム産業に与える影響を理解し，クラウド・コンピューティングの利用の可否判断が適切であるかどうかを判断できる能力を深める．

講義の概要：

前回に引き続き，最新の情報技術である “ クラウド・コンピューティング ” について，その利用における懸念事項やリスクを以下の側面から講義する．

1. データの安全性や安心性，移行性
2. サービスの可用性，移行性，継続性
3. クラウド・コンピューティングと内部統制
4. クラウド・コンピューティングのリスクとその対応

これらの解説をとおし，クラウド・コンピューティングの利点だけでなく，その利用における懸念事項やリスクを把握し，これまでの情報システムとの違いを説明できる力を習得する．さらに，クラウド・コンピューティングの利点，懸念事項やリスクに加え，情報システム産業に与えるインパクトの大きさを理解し，これまでの情報システム産業と異なることをふまえてクラウド・コンピューティングの利用の可否判断の適切性を判断できる能力を身につける．

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

学ぶべき用語・ポイント

- クラウド・コンピューティング
- データ安全性
- データ安心性
- データ移行性
- サービス可用性
- サービス継続性
- リスク
- 内部統制

第4回：クラウド・コンピューティングの課題／Problems of cloud computing

講義の内容

講義の目的：

クラウド・コンピューティングは，“必要な時に必要な情報資源を必要なだけ利用する”という非所有形態であり，さまざまなクラウド事業者がサービスを提供している．その中で実際に発生したデータの消失やデータの流出，盗難の障害例を元にクラウド・コンピューティングにおいてデータを預けるリスクについて議論する．それを通して，クラウド・コンピューティングの利用の可否判断が適切であるかどうかを判断できる能力を深める．さらに，クラウド事業者にデータを預ける際の留意点を考察できる能力を身につける．

講義の概要：

最新の情報技術である“クラウド・コンピューティング”を提供しているクラウド事業者で実際に発生したデータ消失とデータ流出の障害について，以下の内容を講義する．

1. データ消失とデータ流出の障害内容とその発生原因
2. 障害の発生により顧客が被った被害の内容と保障の状況
3. クラウド・コンピューティングを利用する際の契約約款の重要性
4. 障害発生後に対策された防止策
5. データを預けることに内在するリスクの内容
6. 従来の情報システムとクラウド・コンピューティングのデータ管理の違い
7. クラウド・コンピューティングの国内外の状況

これらの解説をとおし，クラウド・コンピューティングで現実化した懸念事項やリスクを理解し，これまでの情報システムと異なる特徴を持つことを踏まえてクラウド・コンピューティングの利用の可否判断の適切性を判断できる能力を身につける．

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

学ぶべき用語・ポイント

- クラウド・コンピューティング
- 情報セキュリティ
- データの完全性
- データの機密性

第 5 回：クラウド・ファンディングとクラウド・ソーシング／ Crowd funding and crowd sourcing

講義の内容

講義の目的：

インターネットは，情報システムの構築だけではなく，組織と個人の関わり合い方にも影響を及ぼし始めてきている．すなわち，情報通信技術にとどまらず，それが社会に与える影響まで理解する必要性が増している．ここでは，クラウド・ファンディングとクラウド・ソーシングというインターネットの普及がもたらした新しい個人と社会の関わり合い方について概要と特徴，懸念事項について学ぶ．それにより，これらの新しい考え方を正しく理解し，その利用について適切な可否判断が行える能力とそれを自分自身の中で活かすことのできる素地を身につける．

学ぶべき用語・ポイント

- クラウド・ファンディング
- クラウド・ソーシング
- 社会
- 個人
- インターネット
- 新ビジネス

講義の概要：

インターネットの普及がもたらしたクラウド・ファンディングとクラウド・ソーシングという新しい個人と社会の関わり合い方について，以下の側面から講義する．

1. 資金を必要とする人が，資金調達手段として，（インターネットを使い），不特定多数の人から資金や財源を調達するプロセスであるクラウド・ファンディングの概要と特徴
2. クラウド・ファンディングの利用例とそれが内在する課題
3. クラウド・ファンディングが社会に与える影響
4. 問題解決手段として不特定多数の人から公募により，問題解決に必要な労力（参加者），資金，サービス，アイディア，コンテンツ，経験，知識を取得するプロセスであるクラウド・ソーシングの概要と特徴
5. クラウド・ソーシングの利用例とそれが内在する課題
6. クラウド・ソーシングが社会に与える影響

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

第 6 回：FinTech とは何か／ FinTech

講義の内容

講義の目的：

最近注目を集めている FinTech や暗号通貨への理解を深め，これまで情報システムの大きな顧客（投資元）であった金融業界にどのような影響を与えつつあるのかを学び，情報通信技術が金融業界に与える影響の大きさを理解する．この影響に対応する一つの方法として，金融業界においてもオープン化の流れが加速していることを知り，金融のオープン化がもたらす新しいサービスの登場について知識を深める．さらに金融業界の持つ金融仲介，信用創造，決済の各機能を根本から変革する力を秘めており，その結果，社会生活全体に大きな影響を与えることを学び，将来，そのような社会が到来した時に対処できる素養を身に付ける．

講義の概要：

FinTech の概要とそれが金融業界，社会全体に与える影響を理解するため，以下の内容を講義する．

1. 電子通貨や暗号通貨という情報通信技術によりもたらされた新しい貨幣がどのようなものであるかを説明する．
2. 暗号通貨の一つであるビットコインの仕組み，ビットコインを支えるブロックチェーンの概要，それらを含めた FinTech の概要について講義する．
3. FinTech や電子通貨，暗号通貨，ブロックチェーンが金融業界に与える影響を学び，金融のどのような機能がどのように変化していくのかを説明する．ブロックチェーンについては，金融業界に限らず，大量のデータを管理する必要があるさまざまな業務の中で利用が可能であることを解説し，暗号通貨とブロックチェーンの正しい関係を理解する．
4. FinTech に代表される情報通信技術により大きな影響を受ける金融業界がどのような対応により事業を継続し，成長することを考えているのか，その対応の一つであるオープンバンク化とは何かについて概説する．
5. FinTech やオープンバンク化により，特定のサービスに特化した新しい企業が登場してきていることを講義する．

＜宿題＞

配布した課題について，設問に対する調査・検討結果を資料としてまとめる．

学ぶべき用語・ポイント

- FinTech
- 電子通貨
- 暗号通貨
- ブロックチェーン
- オープンバンク化

第 7 回：クラウド・コンピューティングの戦略的利用／ Discussion on the strategic use of cloud computing

講義の内容

講義の目的：

ここまで学んできたクラウド・コンピューティング，クラウド・ソーシング，クラウド・ファンディング，FinTech の知識を実際の利用事例に適用できる能力を身につける．特に，クラウド・コンピューティングを利用したときの業務に与える影響と懸念事項について考察し，クラウド・コンピューティングの利用の可否の判断と懸念事項がある場合の解決策を考えることができる力を習得する．それにより，単なる知識だけでなく，その知識を使いこなす能力を習得する．さらに，収集したデータの活用方法を拡大する方法について検討し，それを通してデータが持つ価値を認識すると同時にそれを情報システムとして実現することにより，データの持つ価値を具現化する能力を身につける．

講義の概要：

事例で与えられた検討事例にたいし，以下の点から検討を行い，発表する．発表した内容をふまえ，理解度を確認するとともに不足している点や他の観点を補足し，クラウド・コンピューティングに対する理解を深める．

1. クラウド・コンピューティングを採用した場合，導入事例ではどのような情報システムが構築されるかを説明する．
2. クラウド・コンピューティングは，導入事例の企業にとって具体的にどのような利点があるのかを説明する．特に従来の情報システム構築に対する利点を検討し，議論する．
3. クラウド・コンピューティングの利用を決定した場合，導入事例の企業の業務にどのような影響があるかを利点と懸念事項のそれぞれの観点から検討し，議論する．
4. クラウド・コンピューティングの利用における懸念事項をどのように解決すればよいかを検討し，議論する．
5. 組織が収集したデータをどのように活用すればそのデータの持つ価値を拡大することができるかを検討し，議論する．さらに検討したデータの活用方法を実現する際には，データを提供してくれた人たちの利益を考える必要があることとその利益の提供方法について議論する．

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

学ぶべき用語・ポイント

- クラウド・コンピューティング
- 負荷変動
- 投資適正化
- データ価値
- オープンバンク化

第 8 回：IoT（Internet of Things）とは何か／ IoT (Internet of Things)

講義の内容

講義の目的：

最近注目を集めている IoT への理解を深め，“ もの ” がネットワークにつながる価値に対する認識を新たにする．最初に，IoT とは何か，なぜ注目を集めているのか，“ もの ” がネットワークにつながることによりどのような新たな価値を持つのかをその理由とともに学び，“ もの ” がつながることが価値を持つ理由を理解する．さらに，IoT のいくつかの応用例から IoT が企業や社会に与える影響の大きさを知る．また，IoT の実現においては，何に費用がかかるのかを学ぶ．最後に IoT が内包する課題を学ぶ．これにより，現在注目をあび，さまざまな企業が取り組み始めている IoT の評価が行える能力を身につける．

講義の概要：

IoT の概要と社会に与える影響について，以下の内容を講義する．

1. IoT とは何か，なぜ IoT が注目されるのかを概説する．
2. “ もの ” がネットワークを通してつながることが持つ新しい価値とその価値を持つ理由を解説する．
3. IoT の例として農業，電力，自動車，服薬を取り上げ，具体的に IoT がどのように実現されているのか，どのような価値を持つのか，その価値をどのようにして引き出しているのか，を学ぶ．
4. IoT の実現に必要な費用について説明する．
5. IoT とビッグデータの関わりについて講義し，ビッグデータが注目を浴びてきている理由の一端は IoT にあることを学び，その関連を理解する．

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

学ぶべき用語・ポイント

- IoT
- もの
- ネットワーク
- ビッグデータ
- 法制度

第 9 回：ビッグデータとは何か／ Big data

講義の内容

講義の目的：

最近注目を集めているビッグデータへの理解を深め，データが持つ価値に対する認識を新たにする．最初に，ビッグデータとは何か，データの量や種類が大幅に増加した場合にどのような新たな価値を持つのかをその理由とともに学び，データが価値を持つ理由を理解する．次にデータが価値を持ついくつかの例からデータの持つ価値が企業活動に与える影響の大きさを知る．最後にデータが持つ価値を増やすための取り組みとデータを扱ううえで懸念されている課題を学ぶ．これにより，これまで意識されることがなかったデータが持つ価値に検討の目を向け，評価に向けた取り組みが行える能力を身につける．

講義の概要：

ビッグデータの概要とそれが持つ価値を理解するために必要な以下の内容を講義する．

1. ビックデータとは何か，従来のデータと何が異なるのか，なぜビックデータが注目されるのかを概説する．
2. データの量や種類が大幅に増加した場合に持つ新しい価値とその価値を持つ理由を解説する．
3. データが価値を持つ例として自動車運行実績情報マップと POS データ解析を取り上げ，具体的にどのような価値を持つのか，どのようにして価値を引き出しているのか，を学ぶ．
4. ビッグデータがなぜ実現できるようになったのかを説明する．
5. データの価値の増大を目指した最新の取り組みと今後データの分析によりどのような価値の創出が期待できるのかについて学ぶ．

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

学ぶべき用語・ポイント

- ビッグデータ
- データ解析
- 個人情報
- プライバシ情報
- パーソナルデータ
- 匿名化

第 10 回：オープンデータとは何か／ Opendata

講義の内容

講義の目的：

最近注目を集めているオープンデータへの理解を深め，データが持つ価値に対する認識を新たにする．そのために，オープンデータとは何か，ビッグデータと何が異なるのか，なぜデータのオープン化が重要なのかを学び，データが価値を持つ背景の理解の幅を広げる．データの公開においては，法制度が重要であり，オープンデータの普及を進めるための権利保護制度の一つにクリエイティブコモンズという新しい考え方があることを学ぶ．また，省庁や自治体のオープンデータの取り組みの例からどのようなデータがオープン化により価値を持つのかとオープン化の課題を学ぶ．これにより，データのオープン化が与える影響を判断できる力を身につける．

講義の概要：

オープンデータの概要と利用方法を中心に以下の内容を講義する．

1. オープンデータとは何か，ビッグデータと何が異なるのか，データをオープン化するということはどのようなことなのか，データをオープン化する意義は何か，を概説する．
2. データをオープン化する上で必要な権利制度としてこれまでの著作権やパブリックドメインと異なる新しいライセンス形式であるクリエイティブコモンズの概要を講義する．
3. データのオープン化を推進する省庁や自治体の取り組みを説明する．
4. データをオープン化する際には，使いやすく加工しやすい形式での公開や簡単にデータにアクセスできることが不可欠であることを説明する．
5. データをオープン化する際にどのような課題があるのかを講義する．
6. オープンデータを活用した最新の事例を取り上げ，データのオープン化が進むとデータに持つ価値が増大することを知り，ビッグデータとオープンデータの関係を正しく理解する．

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

学ぶべき用語・ポイント

- オープンデータ
- オープン化
- クリエイティブコモンズ
- 公共政策

第 11 回：パーソナル情報と技術・制度／ Technologies and systems related to personal information

講義の内容

講義の目的：

ビックデータやオープンデータといったデータの価値を増大化する流れは，新しい価値や事業を生み出している．その一方，収集されるデータに含まれるパーソナル情報を通して，各個人のプライバシが侵害される危険性が増していくという負の側面もある．そのため，パーソナル情報を取り扱う上では，保護と利活用のバランスをとることが不可欠である．そこで，パーソナル情報を安全に管理，利用するための代表的な技術である暗号化や匿名化の概要とその利点や課題，パーソナル情報に関係する法制度の変遷と見直しの方向性について学び，プライバシ保護に代表される社会的要請を踏まえたデータの利活用や価値判断を行える力を身につける．また，制度設計における持続性の重要性を知り，持続性のある制度であるかどうかを検討できる能力を習得する．

講義の概要：

データの利用に関して注意するべき点について，以下の内容を講義する．

1. 個人情報，プライバシ情報，パーソナル情報とは何か，それぞれはどのような関係にあるか，これらの情報を利活用する際に何が問題になるか，パーソナル情報が侵害されたときにどのような不利益が生じるか，について講義する．
2. パーソナル情報の保護と利活用のバランスをとるために，技術や法制度がどのような役割を果たすのかを概説する．
3. パーソナル情報を保護する代表的な技術である暗号化や秘匿計算，匿名化の概要と特徴について説明する．
4. パーソナル情報を取り巻く法制度の変遷とそれぞれの法制度の概要，法制度に則った仕組み作りとその阻害要因について講義する．
5. 現在進められている法制度の見直しの背景と方向性について，概説する．
6. パーソナル情報や個人情報が漏えいした場合，組織にどのような影響があるのかについて講義する．

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

学ぶべき用語・ポイント

- 個人情報
- プライバシ情報
- パーソナル情報
- 法制度
- 暗号化
- 匿名化
- 秘匿計算

第 12 回：データ社会と情報流通／ Data driven society and data exchange

講義の内容

講義の目的：

ビッグデータ・オープンデータ・IoT の普及に伴い，収集されるデータを積極的に活用する社会が進展しつつある．このような社会では，データを積極的に活用するために，これまでにない新しい流通形態やそれに関わる産業や業務が生まれてきている．同時に，それを社会の中で支えるための制度も登場してきている．このようなデータを活用し，新たなサービスや産業を生み出しつつある社会の変革の流れを学び，将来，この新しい産業形態がどのように成長・衰退していくかを考えることができる素養を習得する．

講義の概要：

データの持つ価値を社会全体で享受するために不可欠な情報流通について，以下の内容を講義する．

1. 収集されるデータを積極的に活用する社会の中でこれまでの情報システムがどのように変化していくのかを講義する．
2. データが価値を持ち，それが流通する際に関わる人々や組織の関係とその関係の中で生じる課題は何かについて学ぶ．
3. データが利用価値を持つことで生まれてくる新しい情報流通の姿とそれを実現する情報流通プラットフォームの概要，情報流通プラットフォームを前提にした際の各組織の情報システムの関係を講義する．
4. 情報流通プラットフォームを実現するうえでは技術だけではなく制度面の仕組みが必要であることを解説する．
5. 情報流通プラットフォーム上でデータや情報を流通させる際の課題や懸念事項は何かを講義する．
6. 情報流通プラットフォームの課題や懸念事項を解決するための取り組みについて紹介し，それらにより課題や懸念事項が解消されるかどうかについて議論する．

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

学ぶべき用語・ポイント

- 情報流通
- 個人データ管理
- データの適正利用
- 紛争解決
- 裁判外紛争解決（ADR）

第 13 回：人工知能とは何か -I- ／ Artificial intelligence technologies -I-

講義の内容

講義の目的：

ビッグデータ・オープンデータ・IoT の普及に伴い収集された大量のデータを解析し，新しい知識や知見を見つけ出すことで有用なサービスを生み出す社会が実現されつつある．この新しい知識や知見を見つけ出す技術が人工知能技術であり，人工知能技術の戦略的活用が今後の企業や社会に大きな影響を与える．この人工知能技術の概要と特徴について学び，人工知能技術が進歩・普及することにより，どのような影響が生じるのかを考えることができる能力を身に付ける．人工知能技術は栄枯盛衰を繰り返してきた技術であり，現在注目されている理由と衰退してきた理由を正しく理解し，ブームに踊らされることなく正しい利用と影響の把握ができる素養を習得する．

講義の概要：

人工知能技術の概要とその社会的影響を理解するため，以下の内容を講義する．

1. 現在，注目を集めている人工知能とはどのような技術であるか，何を実店するための技術であるのか，人間の持つ知的能力と比較してどのような点に特徴があるのか，その技術水準はどの程度か，について講義する．
2. 人工知能技術は，1960 年代，1980 年代，現在と停滞期と発展期を繰り返している背景を理解し，人工知能技術が有効な分野や利用するために不可欠な条件を理解する．
3. 人工知能技術の代表的な手法である機械学習，決定木学習，マイニング，ニューラルネットワーク，遺伝的アルゴリズム，遺伝的プログラム，サポートベクタマシンについて，それぞれがどのような技術であり，どのような特徴を持つのか，を解説する．さらに，各技術が持つ長所と短所について説明し，それぞれの技術をどのような問題を解決する際に利用すると良いのかを学ぶ．
4. 人工知能技術の中で実用的の高いエキスパートシステム，ファジー推論，事例ベース推論，画像認識，音声認識について，それぞれがどのような技術であり，どのような特徴を持つのか，を解説する．さらに，どのような分野で利用されているのかを学習し，人工知能技術がすでにさまざま場所で利用されていることを学ぶ．

＜宿題＞

講義内容に関する設問を講義の中で提示する．

学ぶべき用語・ポイント

- 人工知能
- 学習
- 問題解決
- 意思決定
- 理解
- 認識

第 14 回：人工知能とは何か -II- ／ Artificial intelligence technologies -II-

講義の内容

講義の目的：

現在，人工知能技術が再注目され，さまざまな応用が試みられている．人工知能技術が再注目されている背景と理由を学び，人工知能技術を使いこなすうえでは何が必要になるかを考えることができる基礎的な能力を習得する．次に，人工知能が再注目されることになった最新の人工知能技術である深層学習について学び，その技術の特徴を理解する．深層学習の応用分野の理解を深め，深層学習が得意な応用分野と不得意な分野があることを知る．さらに，深層学習を含めた最新の人工知能技術の応用例と応用時の課題，将来起こり得る課題について学習し，人工知能技術を使うことができる基礎力を習得する．

講義の概要：

最新の人工知能技術である深層学習の概要とさまざまな応用例，現在の課題，将来引き起こされる問題を理解するため，以下の内容を講義する．

1. 人工知能技術が再注目されてきている背景を説明する．
2. 最新の人工知能技術である深層学習がどのような技術であり，どのような特徴を持つのか，長所と短所は何か，について講義する．
3. 深層学習を含む最新の人工知能技術の応用例について講義し，人工知能技術が社会生活のさまざまな場面で利用が広がってきている現状を理解する．特に，注目される代表例である自動運転を例にとり，人工知能技術の実用化に向けた課題とその解決策について概説する．
4. 人工知能技術が実用化され，社会生活の中で利用されることに従い，新たに発生すると考えられている代表的な問題である著作権や責任問題について講義し，人工知能が社会に与える影響について議論する．

＜宿題＞

配布した課題について，設問に対する調査・検討結果を資料としてまとめる．

学ぶべき用語・ポイント

- 深層学習
- 自動運転
- 著作権問題
- 責任問題
- 社会への影響

第 15 回：先端情報通信技術の戦略的利用／ Discussion on the strategic use of advanced information technologies

講義の内容

講義の目的：

ここまで学んできた IoT，ビッグデータ，オープンデータ，人工知能，データの利用とプライバシや個人情報の取り扱いの知識を実際の利用事例に適用できる能力を身につける．特に，収集したデータをサービスや事業に利用する時の懸念事項や不足するデータの収集方法を踏まえ，データの利活用を考えることができる力と組織活動の中でデータが持つ価値を定量的に評価する力を習得する．それにより，単なる知識だけでなく，その知識を実際の社会実装の中で使いこなす能力を習得する．

講義の概要：

事例で与えられた検討事例にたいし，以下の点から検討を行い，発表する．発表した内容をふまえ，理解度を確認するとともに不足している点や他の観点を補足し，先端の情報通信技術に対する理解を深める．

1. IoT やオープンデータの普及は，データを活用したい企業にとって具体的にどのような利点があるのか, それぞれの技術はどのような時に利用すると良いのかを説明する．
2. 組織が収集したデータの持つ価値をどのように評価することが妥当であるかを検討し，議論する．同時に収集したデータの自組織における利用，他組織への提供に際し，個人情報やプライバシ情報の制度を踏まえて，どのような点に留意する必要があるのかについて議論する．
3. データの利活用に際し，自組織の所有するデータだけでは不足する場合にデータ流通や情報流通の仕組みを利用して不足するデータを集め，利活用する際にどのような点に留意する必要があるのかについて議論する．
4. さまざまな人工知能技術の特徴を踏まえ，どのような時にどのような人工知能技術を利用すると良いのかについて検討し，議論する．
5. 人工知能技術におけるデータの利用方法，利用方法を踏まえたデータの価値について検討し，議論する．

これらを通し，最先端の情報技術の利用における業務上の利点と懸念事項を自分の言葉で説明できる力を習得する．

学ぶべき用語・ポイント

- IoT
- ビッグデータ
- オープンデータ
- データ流通
- 個人情報
- プライバシ
- データ価値
- 知識獲得

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

事例研究（情報システム設計）・樋地正浩／ Case Study (Information System Design)・Masahiro Hiji

講義の目的／ Course Objective

配布した資料の情報システム構築に関わる事例について各自が調査，検討，議論することにより，情報システム設計の講義で学んだ内容が実際の情報システム構築でどのように使用されているかを知り，情報システム設計の知識と現実の情報システム構築の関係を習得する．特に，先進的な取り組みを行なっている事例からは，導入目的や効果，情報システムの構築過程における特徴や工夫点，成功要因を学ぶ．失敗した事例からは情報システムを構築する工程のどこでどのような間違いを犯したことにより失敗したか，そのような失敗を回避するためにどのようにするべきか，を学ぶ．これにより，情報システム設計で得た知識を実際の情報システム構築に応用できる能力を身につけるとともにこれまで得た知識を深める．

In this course, each student investigates, examines, and discusses the information system development cases ot the distributed materials, and learns how the contents learned in the information system design lecture are used in actual information system development. They focus the futures and ideas in the development process of information system, and the success factors from the cases of advanced approaches. From the failure cases, they understand where and what mistakes were made in the development process of information system, and how to avoid such failures. They are expected to acquire the ability to apply the knowledge to actual information system development.

講義の進め方

- 受講者は，事前に配布された事例と事前に示された調査，議論の観点をふまえて自分自身で事例に関する調査，検討を行ない，発表資料にまとめ，その内容を講義の際に発表する（発表者以外の受講者も発表資料を整理すること）．発表者以外の受講者は，発表者の発表内容に対する各自の意見，コメントを行ない，議論を進めていく．
- 発表者は自分が希望する事例を選択して発表する．
- 1 回の講義では，1 ～ 2 件の事例をとりあげる．
- 事例を調査，検討する上で情報技術の知識が必要となる場合には，できるだけ自分自身で調べ，発表の中で説明する．補足するべき事項，説明内容の間違い等があれば，講義の中でその説明をする．

予習・復習について

- 予習の中で，事例の説明の中にある不明な情報技術関連の用語，調査・議論の観点について各自が調査，検討すること．
- 他の人の発表内容と自分自身の調査，検討内容について復習し，自分自身に欠けている知識，課題発見能力を補っていくこと．

この講義を受講するために必要とする知識

授業科目「情報システム設計」を履修済か，同等の知識を持っていることが望ましい．

テキスト・参考文献

- テキスト：情報システムの構築や利用に関する事例に関する資料を最初の講義の際に配布する．
- 参考文献：講義資料以外の参考文献は以下の通り．それ以外の参考文献は必要に応じて講義の中で紹介する．

  細川義洋『なぜ，システム開発は必ずモメるのか？ 49 のトラブルから学ぶプロジェクト管理術』日本実業出版社，ISBN-13: 978-4534051158

  産業能率大学情報マネジメント学部 IT コーディネータ高等教育研究会『ケースで学ぶ IT コーディネータ・プロセス―経営に役立つ IT 投資を推進できるプロフェッショナルを育成する』産能大出版部，ISBN-13: 978-4382055667

  それ以外の参考書は，必要に応じて講義の中で紹介する．

時間割

前期　隔週火曜 3/4 限

科目ナンバー

EAC-ECM603

成績評価法

- 発表内容（70%），及び議論への参加度（30%）で評価する．
- AA(90 点 以 上),
  A(80 点以上 90 点未満),
  B(70 点以上 80 点未満),
  C(60 点以上 70 点未満),
  D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

隔週火曜日
16:20-17:50

連絡先

hiji@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

- 講義，オフィスアワー以外の時間で生じた疑問や質問は電子メールで随時，受け付ける．
- やむを得ず欠席する場合は，事前に他の発表者と調整すること．
- 毎回，事例の説明の中にある不明な情報技術関連の用語，事例に対する調査・議論の観点について各自が調査，検討し，発表資料としてまとめること．

講義の予定／ Class Plan

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の進め方の説明を行なった後, 第 2 回以降で使用する事例と各事例の発表者を決定する．発表者は，履修者同士の話し合いで決定する．各事例については，まず対象となる企業・組織の概要を整理する．

＜宿題＞情報システム開発における失敗事例とその対処法について論点を踏まえた考察を行い，資料として整理する．

＜宿題＞情報システム開発における失敗事例とその対処法，業務課題の抽出に関する事例について，事前に示された調査，議論の観点をふまえて調査，検討を行ない，発表資料にまとめること

第 2 回：情報システム開発における失敗事例とその対処法／ Failure cases in information system development and how to deal with them

実際の情報システム構築の失敗事例から失敗した場合の影響の大きさ, 失敗の原因は何かについて考え，議論する．さらに，失敗に陥らないためにどのようにすればよいかとそれらの方法が失敗を回避するためになぜ必要かについて議論し，情報システム開発を成功に導くポイントを学習する．

第 3 回：業務課題の抽出に関する事例／ Identify business issues

業務上の課題を分析，抽出を行ない，抽出した課題のすべてが情報システムで解決されるのではなく，費用や利用者の情報システムの活用能力をふまえて情報システムで解決する範囲を決定する必要性について議論する．これにより，情報システムは，経営目標の達成に必要な業務上の課題を解決するために構築されることを理解する．

＜宿題＞情報システム発注に関する事例と情報システム構築における納期遅延と品質上の問題に関する事例について論点を踏まえた考察を行い，資料として整理する．

第 4 回：情報システム発注に関する事例／ Information system ordering

問題のある発注形態とその影響についての事例からその失敗を引き起こした原因は何か，なぜその原因が発生したか，対応上の問題は何か，を考察し，議論する．さらにもう一つの対照的な創意工夫のある発注事例から具体的にどのような工夫をしているか，そのような工夫がなぜ実現できているのかを考え，議論する．これを通して，情報システムの発注と構築時のプロジェクト体制の重要性を学習する．

第 5 回：情報システム構築における納期遅延と品質上の問題に関する事例／ Delivery delay and quality problems in information system development

情報システム構築において納期の遅延や品質上の問題が発生した事例から情報システム構築時の体制や進捗管理にどのような問題があったか，本来どのようにするべきであったかを考察し，議論する．さらに，情報システム構築に関わる企業や顧客の行動や問題への対処方法にどのような間違いがあったかを考える．これらを通し，情報システム構築時に発生しやすい納期遅延や品質問題を事前に対処できる能力を身につける．

＜宿題＞情報システムのプロジェクト管理の事例とパッケージソフトウェアの導入事例について論点を踏まえた考察を行い，資料として整理する．

第 6 回：情報システムのプロジェクト管理に関する事例／ Project management of information system development

プロジェクト管理に失敗した事例と成功した事例のそれぞれの要因を議論する．失敗した事例では，失敗の内容とその結果を整理し，設計・開発工程のプロジェクト管理の視点から，その失敗を引き起こした原因は何か，問題発生後の対応上の問題は何か，問題発生後にどのような対応をするべきであったかを考える．成功した事例では，設計・開発工程の中でどのような問題が発生する可能性があり，それにどのように対処することで成功に導いたか，を考える．この議論を通して，プロジェクトを適切に進める方法とプロジェクト管理の重要性，特に課題発見時の対処方法の重要性を学習する．

講義の予定

第 7 回：パッケージソフトウェアの導入事例／ Use of package software

パッケージソフトウェアを利用した情報システムの導入においては，どのような選定基準で情報システムの構築を委託する企業を選択するか，どのような問題が発生する可能性があるか，それらの問題の発生を回避するために何をするべきか，を検討し，議論する．さらにパッケージソフトウェアにカスタマイズを行う場合の注意点について議論する．これらの議論を通し，パッケージソフトウェアを使用する場合の注意点に対する理解を深める．

＜宿題＞プロジェクトにリスクを抱えた情報システム構築の事例と既存システムからクラウド・コンピューティングへの移行の事例について論点を踏まえた考察を行い，資料として整理する．

第 8 回：プロジェクトにリスクを抱えた情報システム構築の事例／ Information system development with project risks

プロジェクトにリスクを抱えた情報システム構築の事例にたいし，プロジェクト開始時とプロジェクト進行中にどのようなリスクがあり，それをどのように解決するべきかを検討し，プロジェクトを推進する際の注意点について議論する．さらに，プロジェクトを推進する上で発注契約はどのようにあるべきか，や方式設計時にどのような点に留意し，総合テストではそれを踏まえてどのようなテストを行っておくべきであったかを議論する．これを通し，これまで学んだ内容を整理し，それを実際の情報システム構築の中で応用する力を身につける．

第 9 回：既存システムからクラウド・コンピューティングへの移行の事例／ Migrating legacy system to cloud computing

既存の電子メールシステムをクラウド・コンピューティングの電子メールサービスに移行した背景と理由について考え，クラウド・コンピューティングが普及している理由を考える．次いで，クラウド・コンピューティングの電子メールサービスに移行する手順を整理し，いつの時点でどのような障害がなぜ発生したのか，それらの障害にどのように対応したのかについて議論する．それらを通して，クラウド・コンピューティングへの移行に際し，どのような移行準備をしておくべきであったか，万が一障害が発生した場合にどのような対応をするとよいかを理解する．

＜宿題＞要件定義に関する事例と要件定義に問題を抱える事例について論点を踏まえた考察を行い，資料として整理する．

第 10 回：要件定義に関する事例／ Good requirement definition and bad requirement definition

要件定義を上手に進めた事例について，予算を含む情報システム化計画，要件定義，情報システム構築の進め方など，さまざまな視点からどのような工夫をしているかを整理し，成功要因と特徴について議論し，要件定義では組織文化が影響を与えることを理解する．要件定義に問題があった事例では，情報システム構築の経緯を整理し，いつどのような問題が発生したかをまとめ，さまざまな視点から問題の発生した原因を分析し，議論する．それらを通し，要件定義の重要性と要件定義の確定と契約の関係が重要であることを理解する．

第 11 回：要件定義に問題を抱える事例／ Requirement definition with problems

実際の情報システム構築では，利用者の要望を聞き取り，情報システムに要求する内容を整理した要件定義を作成することが重要である．ここでは，実際に要件定義を作成する中で問題が発生した事例について，その原因と回避策について発注側（顧客企業）と受託側（情報システム開発会社）のそれぞれの立場から議論する．それをとおし，現実の情報システム構築では，要件定義の作成の難しさがどこに内在しているかを理解し，これまで学んだ内容を総合的に実際の情報システム構築の中で応用できる力を身につける．

＜宿題＞情報システムの非機能要件に関する事例と情報システム開発体制の不備によるデータ統合問題が発生した事例について論点を踏まえた考察を行い，資料として整理する．

講義の予定／ Class Plan

第 12 回：情報システムの非機能要件に関する事例／ Non-functinal requirements for information system

情報システムの構築においては，情報システムに要求する機能以外に情報システムを安心して快適に利用できるかという非機能要件があることを学習し，非機能要件の検討が不十分な場合に発生する問題の大きさを認識する．これを通し，非機能要件の重要性を理解すると同時に，非機能要件も情報システムの構築の一部であることを理解する．

第 13 回：情報システム開発体制の不備によるデータ統合問題が発生した事例／ Insufficient development system of information system

顧客と複数の情報システム開発会社からなる情報システム構築でデータ統合に問題が発生した事例を対象に，問題点の発生原因と事前の回避策について検討する．特に，開発体制に内在する問題点と関係各社の責任，本来のあるべき姿，データ統合の責任と要件定義書の作成責任の関係について議論する．さらにデータ統合の責任が誰にあるか，どのようにするべきであったか，を発注側，受託側のそれぞれの立場から考える．これを通し，現実のデータ統合の中に潜む問題点を発見できる能力を身につける．
＜宿題＞情報システム構築プロセスの事例について論点を踏まえた考察を行い，資料として整理する．

第 14 回～第 15 回：情報システム構築プロセスの事例／ Development process experience of information system

企業の業務を分析し，業務の中に内在する問題点を明らかにし，その問題点を解決するために何が必要かを考え，議論する．次に問題を解決するために構築する情報システムの効果をどのような指標で測定すれば良いかを検討し，それに基づいて効果の試算を行う．そして，投資効果をふまえた情報システム構築の優先順位をどのようにつけるか，情報システムで実現する機能をどのようにして決めるか，を議論する．最後に，情報システムの構築後の新しい業務の流れの中に問題点が内在していないかを検証する．これらを通して情報システムとして実現するべき機能の選定を行なえる能力を身につける．

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

統計学 1 ・伊藤健／ Statistics 1・Takeshi Itoh

講義の目的／ Course Objective

統計学の目標は様々な統計的推論を行うことであるが, そのためには確率変数の概念や, 大数の法則などを正しく理解する必要がある．しかし，専門職大学院の性格上，前提とされる数学知識が備わっていない受講生の存在も予想される．そこで，本講義では確率統計を理解するのに必要な微分積分などの概説を含め，データの整理，確率変数，代表的な分布に限定した統計学の導入的内容と，統計的推論の根拠となる標本の概念を取り扱う．

This course provides an overview of differentiation and integration, data reduction, random variables, probability distribution, etc., and helps students learn about the basic concept of statistical inference.

講義の進め方

・講義ではテキストの内容について説明し，それに応じた宿題を課す.
・原則として講義毎に宿題を課し，期日までの提出を求める．提出遅れや剽窃と判断されるものは未提出として取り扱う.

予習・復習について

＜予習＞
・講義で扱う内容について, 事前にテキストを読んで（勉強して）おくことは当然必要です.
＜復習＞
・課された宿題以外にも，関連文献を調べたり，他の問題を解くなど積極的な取り組み，内容理解に努めなければなりません.

この講義を受講するために必要とする知識

高等学校での数学（関数，数列）に関する知識は必要であり，行列を取り扱えることがなお望ましい.

テキスト・参考文献

・テキスト : 小寺『新統計入門』裳華房.
・参考文献：石井，塩出，新森『確率統計の数理』裳華房.

時間割

前期　月曜 4 限

科目ナンバー

EAC-ECM503

成績評価法

・宿題（10%），理解度確認セッション（90%）で評価する.
・AA(90 点以上), A(80 点以上 90 点未満), B(70 点以上 80 点未満), C(60 点以上 70 点未満), D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

水曜日
12:00-13:00

連絡先

・e-mail アドレス等については講義で連絡する .

その他（連絡事項）

・宿題等における疑問点を質問するのは良いことですが，その前に自分で 1 日考え，悩み，調べることが重要です.
・統計に関する定理等について，その証明が高度で難解なものは解説を割愛し，利用法のみ説明します.

第 1 回：オリエンテーション／ Course Orientation

講義の内容

講義概要，講義の進め方，成績評価などについて説明を行う．
各回の講義概要は以下の通りである．

第 1 回：オリエンテーション／ Course Orientation
第 2 回：微分法（1）／ Differentiation (1)
第 3 回：微分法（2）／ Differentiation (2)
第 4 回：積分法（1）／ Integration (1)
第 5 回：積分法（2）／ Integration (2)
第 6 回：データの整理（1）／ Data Reduction (1)
第 7 回：データの整理（2）／ Data Reduction (2)
第 8 回：データの整理（3）／ Data Reduction (3)
第 9 回：データの整理（4）／ Data Reduction (4)
第 10 回：確率変数（1）／ Random Variable (1)
第 11 回：確率変数（2）／ Random Variable (2)
第 12 回：代表的な分布（1）／ Probability Distribution (1)
第 13 回：代表的な分布（2）／ Probability Distribution (2)
第 14 回：標本分布／ Sample Distribution
第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

（注）進捗状況により，多少前後することがあります．

第 2 回：微分法（1）／ Differentiation (1)

講義の内容

確率統計を理解するのに必要な微分法について解説を行う.

1. 極限値の概念
2. 微分係数，導関数の定義と可微分性
3. 微分法の公式（累乗，和，差，積，商，合成関数）

＜宿題＞

初回講義時に配布する問題集の「第 2 回：微分法（1）」部分

学ぶべき用語

- 極限値
- 微分係数
- 導関数

第 3 回：微分法（2）／ Differentiation (2)

講義の内容

複雑な関数の微分法，および偏微分法について解説を行う．

1. 自然指数関数，自然対数関数の導関数
2. 偏導関数

＜宿題＞

初回講義時に配布する問題集の「第 3 回：微分法（2）」部分

学ぶべき用語

- 偏微分係数
- 偏導関数

第 4 回：積分法（1）／ Integration (1)

講義の内容

確率統計を理解するのに必要な積分法について解説を行う.

1. 定積分と不定積分
2. 導関数との関係

＜宿題＞

初回講義時に配布する問題集の「第 4 回：積分法（1）」部分

学ぶべき用語

- 定積分
- 積分変数
- 積分区間
- 被積分関数
- 原始関数
- 不定積分
- 積分定数

第 5 回：積分法（2）／ Integration (2)

講義の内容

定積分の計算方法について解説を行う.

1. 定積分の計算
2. 置換積分法
3. 部分積分法

＜宿題＞

初回講義時に配布する問題集の「第 5 回：積分法（2）」部分

学ぶべき用語

- 積分の加法性
- 置換積分
- 部分積分

第 6 回：データの整理（1）／ Data Reduction (1)

講義の内容

様々な分析を行う際に，実験やアンケート調査等を行うことがあるが，収集された情報（データ）から傾向や特徴を読み取る方法について解説を行う．

1. 収集されたデータを整理する度数分布表について
2. 収集されたデータを視覚的にとらえる度数分布図について

＜宿題＞

テキストの練習問題 1.1

学ぶべき用語

- 度数
- 階級
- 度数分布表
- 度数分布図（ヒストグラム）

第 7 回：データの整理（2）／ Data Reduction (2)

講義の内容

前回講義内容とは異なり，収集された情報（データ）から傾向や特徴を定量的（客観的）に読み取る基本的なツールについて解説を行う．

1. データ集団の中心的傾向を表す代表値（平均値，中央値，最頻値）について
2. データ集団の集散状況を表す散布度（分散，標準偏差）について

＜宿題＞

テキストの練習問題 2.1 ～ 2.3

学ぶべき用語

- 平均値
- 中央値（メディアン）
- 最頻値（モード）
- 分散
- 標準偏差
- チェビシェフの定理
- 変動係数
- 四分偏差

第 8 回：データの整理（3）／ Data Reduction (3)

講義の内容

代表値，散布度の基本性質と，それらの実務的な計算方法について解説し，演習を行う．

＜宿題＞

テキストの練習問題 3.1

第 9 回：データの整理（4）／ Data Reduction (4)

講義の内容

ここではデータが 2 種類の情報（変量）をもつ場合に対し，それら変量間の関係を把握する方法について解説を行う．

1. 2 変量データを座標平面上にプロットし，変量間の関係を視覚的に捉える相関図について
2. 変量間の関係の強さを客観的に測る相関係数について
3. 既知のデータを利用して，未知の状態を予測する回帰直線について

＜宿題＞

テキストの練習問題 4.1

学ぶべき用語

- 相関係数
- 散布図
- 共分散
- 回帰直線
- 相関表

第 10 回：確率変数（1）／ Random Variable (1)

講義の内容

統計的推論の仕組みを理解するのに必要な確率変数の概念を中心に解説する.

1. 通常の変数とは異なり，そのとり得る値に不確実性がともなう確率変数について
2. 分布関数とその性質について
3. 離散的確率変数と分布関数について
4. 連続的確率変数と分布関数，確率密度関数について
5. 確率変数で構成される関数の期待値（平均），分散について

＜宿題＞

テキストの練習問題 5.1 〜 5.6

学ぶべき用語

- 離散的確率変数
- 連続的確率変数
- 分布関数
- 確率密度関数
- 期待値

第 11 回：確率変数（2）／ Random Variable (2)

講義の内容

確率変数を 2 次元に拡張した場合の諸性質，および統計的推論に関係の深い大数の法則について解説を行う．

1. 同時分布関数と周辺分布関数，および同時確率密度関数と周辺確率密度関数の関係について
2. 確率変数の独立性が分布関数，確率密度関数に与える影響について
3. 2 次元確率変数による関数の期待値について
4. 2 つの確率変数の共分散，相関係数について
5. 大数の法則について

＜宿題＞

テキストの練習問題 6.1 ～ 6.5

学ぶべき用語

- 同時確率分布
- 確率変数の共分散
- 期待値の線形性
- 大数の法則

第 12 回：代表的な分布（1）／ Probability Distribution (1)

講義の内容

確率変数が従う代表的な確率分布について，離散分布である二項分布，連続分布である正規分布を紹介する．

1. ベルヌーイ試行について
2. 二項分布について
3. 正規分布について
4. 正規分布に従う確率変数に関する確率計算と標準化について

＜宿題＞

テキストの練習問題 7.1 ～ 7.7

学ぶべき用語

- 二項分布
- ラプラスの定理
- 正規分布
- 標準正規分布
- 正規分布の再生性
- ポアソン分布

第 13 回：代表的な分布（2）／ Probability Distribution (2)

講義の内容

統計的推論において利用される代表的な統計量の分布とその性質を紹介する.

1. χ^2（カイ二乗）分布における分位点と上側確率の関係について
2. t 分布における分位点と上側確率の関係について
3. F 分布における分位点と上側確率の関係について

＜宿題＞

テキストの練習問題 8.1 ～ 8.5

学ぶべき用語

- χ 2（カイ二乗）分布
- 自由度
- t 分布
- F 分布

第 14 回：標本分布／ Sample Distribution

講義の内容

統計的推論の妥当性を理解するのに必要な標本の概念について紹介する.

1. 母集団と標本について
2. 標本平均・分散について
3. 中心極限定理について

＜宿題＞

テキストの練習問題 9.1 〜 9.4

学ぶべき用語

- 全数調査
- 標本調査
- 母平均
- 母分散
- 標本平均
- 標本分散
- 中心極限定理

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

内容については未定

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

計量経済分析 1 ・千木良弘朗／ Econometric Analysis 1・Hiroaki Chigira

講義の目的／ Course Objective

計量経済学の主な目的は，経済データを使って現実の経済がどのような状況にあるのかを探ることである. そのためには経済データを適切に分析するための手法が必要となるが, ここではその手法（計量手法）を講義する．一口に計量手法と言っても様々なものが存在するが, この講義は最も基礎的なものを扱う. 基礎的な計量手法を実際に使えるようになってもらうと共に，その理論的背景を理解してもらうのがこの講義の目的である．また，実際の経済・金融・会計データを用いた実証分析の例も紹介する．

Lectures on basic econometric methods.

講義の進め方

・テキストの内容を解説し，原則として 1 章ごとに宿題を課す．Excel を使う宿題も課す予定.
・基本的に，2 回の講義でテキストの 1 章を終えるというペースで進む.
・理解度確認セッションを行う.

予習・復習について

この講義は一回ごとに独立した内容を扱うのではなく，基本的に前の講義内容を後の講義で使うことになる．よって，講義内容はよく復習してもらいたい．その復習が，次の講義の予習にもなる．復習にはテキストの章末にある練習問題を解くと良いだろう．

この講義を受講するために必要とする知識

統計学の基礎的な知識（経済学部の数理統計や会計大学院の統計学 1 に相当）を持っていることを前提として講義を進める．会計大学院の統計学 1 の単位を修得済みであることが望ましい．また，Excel の基本的な操作ができること.

テキスト・参考文献

・テキスト : 山本 拓『計量経済学』新世社 , 1995 年 の 1 章から 6 章.
・参考文献：マダラ G.S.（和合肇訳）『計量経済分析の方法［第 2 版］』シーエーピー出版 , 1996 年.
蓑谷 千凰彦『計量経済学［第 3 版］』東洋経済新報社 , 1997 年.
蓑谷 千凰彦『計量経済学［第 2 版］』多賀出版 , 2003 年.
田中 勝人『計量経済学』岩波書店 , 1998 年.
・その他，必要に応じて講義の中で紹介する.

時間割

前期　火曜 5 限

科目ナンバー

EAC-ECM504

成績評価法

・宿題（40%），理解度確認セッション（60%）で評価する.
・AA(90 点以上), A(80 点以上 90 点未満), B(70 点以上 80 点未満), C(60 点以上 70 点未満), D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

月曜日
12:00-13:00

連絡先

hiroaki.chigira.a5@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・講義は日本語で行う．宿題と理解度確認セッションは日本語で出題し，解答は日本語か英語とする.

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

1. 計量経済学とは何かについて概観する.
   ・計量経済学の目的と必要性
   ・計量経済分析の基本的な枠組み（経済モデル，計量経済モデル，経済データ）
   ・代表的な計量経済モデル，回帰モデルとは？

2. 講義の具体的な内容・計画や他の授業科目との関連，講義の進め方，成績評価等について説明を行う.

・講義の具体的な内容
第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：単純回帰モデル（1）
第 3 回：統計学の復習（1）
第 4 回：統計学の復習（2）
第 5 回：単純回帰モデル（2）
第 6 回：単純回帰モデル（3）
第 7 回：多重回帰モデル（1）
第 8 回：多重回帰モデル（2）
第 9 回：回帰モデルの関数型
第 10 回：特殊な説明変数
第 11 回：複数の回帰パラメーターに対する検定
第 12 回：構造変化の検定
第 13 回：実証分析例（1）
第 14 回：実証分析例（2）
第 15 回：理解度確認セッション

進捗状況に応じて，多少の変更をすることもある.

学ぶべき用語・ポイント

・経済モデル
・計量経済モデル
・経済データ

第 2 回：単純回帰モデル（1）／ Simple regression model（1）

講義の内容

1. 第 1 回の講義で導入した回帰モデルの簡単なケース，単純回帰モデルを扱う．今回の講義では，単純回帰モデルの計量経済分析をきちんと行うのではなく，まずは単純回帰モデルにデータを当てはめてみる．そして，当てはめた結果を見ながら，モデルの計量経済分析の必要性を解説する．
   - どのようにデータを単純回帰モデルに当てはめるか（回帰パラメーターと最小 2 乗法）
   - 当てはめの結果は（推定残差と決定係数）？

2. 宿題を課す．
   - テキスト 2 章の練習問題等（講義の中で指示）

学ぶべき用語・ポイント

- 単純回帰モデル
- 最小 2 乗法
- 最小 2 乗推定値
- 決定係数

第 3 回：統計学の復習（1）／ Review of statistics（1）

講義の内容

1. 第 2 回の講義で導入した推定残差に基づいて，計量経済分析で統計学が必要となる理由を説明する．その後で，テキストの付録 A に基づいて統計学の復習を行う．
   ・推定残差とその取り扱い（確率と確率変数）
   ・確率変数の特性（確率分布，期待値，分散）
   ・確率変数としてのデータ（母集団と標本分布）

2. 宿題を課す．
   ・問題は講義の中で指示

3. 統計学の参考文献は以下の通り．
   ・刈屋 武昭・勝浦 正樹『統計学』東洋経済新報社 , 1994 年.
   ・宮川 公男『基本統計学［第 3 版］』有斐閣 , 1999 年.
   ・田中 勝人『統計学』新世社 , 1998 年.

学ぶべき用語・ポイント

・記述統計分析
・推測統計分析
・確率
・確率変数
・期待値
・分散
・正規分布

第 4 回：統計学の復習（2）／ Review of statistics（2）

講義の内容

1. テキストの付録 B に基づいて統計学の復習を行う.
   - データを使ったパラメーターへのアプローチ 1（点推定）
   - データを使ったパラメーターへのアプローチ 2（区間推定）
   - データを使ったパラメーターへのアプローチ 3（検定）

2. 宿題を課す.
   - 問題は講義の中で指示

学ぶべき用語・ポイント

- 点推定
- 区間推定
- 不偏性
- 効率性
- 一致性
- 大数の法則
- 中心極限定理
- 検定
- 小標本検定
- 大標本検定
- 帰無仮説
- 対立仮説
- 有意水準

第 5 回：単純回帰モデル（2）／ Simple regression model（2）

講義の内容

第 3，4 回の講義で行った統計学の復習に基づいて，単純回帰モデルの計量経済分析を行う．ここでの内容は，第 2 回の講義内容を統計学的視点から捉えなおしたものとも言える．

・単純回帰モデルへの確率変数の導入（誤差項）
・回帰パラメーターの統計的推定（最小 2 乗推定）
・最小 2 乗推定量の性質

学ぶべき用語・ポイント

・誤差項
・最小 2 乗推定量
・ガウス・マルコフの定理

第 6 回：単純回帰モデル（3）／ Simple regression model（3）

講義の内容

1. 計量経済学における統計的検定や予測の必要性を解説し，単純回帰モデルのパラメーターに対する検定と被説明変数の予測を行う.
   - 最小 2 乗推定量の分布と検定統計量の分布
   - 回帰パラメーターに対する検定（t 検定）
   - 被説明変数の予測（点予測，区間予測）
   - 単純回帰モデルのまとめ

2. 宿題を課す.
   - テキスト 3 章の練習問題等（講義の中で指示）

学ぶべき用語・ポイント

- t 検定
- t 分布
- 予測

第 7 回：多重回帰モデル（1）／ Multiple regression model（1）

講義の内容

これまでの講義で扱ってきた単純回帰モデルには説明変数が 1 つしかなかった．このままでは実際に経済データを分析するには制約が大きすぎると考えられる．そこで，今回の講義では説明変数の数を増やした多重回帰モデルを紹介する．多重回帰モデルの統計的推定や検定の方法は，単純回帰モデルのそれと本質的に変わらない．しかし，多重回帰モデルの解釈は単純回帰モデルとは異なる部分があるため注意が必要である．

・多重回帰モデルの導入
・多重回帰モデルの推定と検定
・多重回帰モデルの解釈（偏回帰パラメーター）

学ぶべき用語・ポイント

・多重回帰モデル
・見せかけの相関

第 8 回：多重回帰モデル（2）／ Multiple regression model（2）

講義の内容

1. 多重回帰モデルには，単純回帰モデルでは発生しなかった，いくつかの困った問題がある．ここでは，それらの問題を解説し，その解決法を紹介する．
   ・多重共線性
   ・決定係数の落とし穴
   ・説明変数の過不足とその影響
   ・多重回帰モデルのまとめ

2. 宿題を課す．
   ・テキスト 4 章の練習問題等（講義の中で指示）

学ぶべき用語・ポイント

・多重共線性
・自由度修正済み決定係数

第 9 回：回帰モデルの関数型／ Functional form of regression model

講義の内容

1. ここまでの講義では，回帰モデルの関数型がいわゆる線形であるとしてきた．しかし，回帰モデルの関数型は，経済理論や経済データに応じて，線形でなくなることもある．そこで，いくつかの非線形な回帰モデルを紹介し，その分析法を解説する．
   - 説明変数について非線形な回帰モデル
   - 対数線形モデル
   - 回帰パラメーターについて非線形な回帰モデル

2. 今回の講義では，指定したテキストだけではなく，以下の参考文献の 7 章も一部で使う．
   - Greene, W.H., *Econometric Analysis*, 5th ed., Prentice-Hall, 2002.

学ぶべき用語・ポイント

- 非線形回帰モデル
- 対数線形モデル
- 限界性向
- 弾力性

第 10 回：特殊な説明変数／ Special explanatory variables

講義の内容

1. 前回の講義では回帰モデルの関数型を経済理論や経済データに応じて拡張したが，今回の講義では経済理論や経済データに応じて導入される特殊な説明変数について解説する．
   ・ダミー変数
   ・トレンド変数

2. 宿題を課す．
   ・テキスト 5 章の練習問題等（講義の中で指示）

学ぶべき用語・ポイント

・一時的ダミー変数
・定数項ダミー変数
・季節ダミー変数
・係数ダミー変数
・トレンド変数

第 11 回：複数の回帰パラメーターに対する検定／ Test for multiple regression parameters

講義の内容

ここまでの講義では，回帰パラメーターに対する検定を行うときにはパラメーター 1 個ずつに行ってきた．しかし，特に多重回帰モデルにおいては，複数の回帰パラメーターに同時に検定を行ったり，複数の回帰パラメーターにまたがる検定を行ったりする必要性がある．ここでは，そのような検定の方法を説明し，その後でいくつかの具体的な例を紹介する．

・複数の仮説とその検定（F 検定）
・F 検定の便利な表現
・F 検定の例

学ぶべき用語・ポイント

・F 検定
・F 分布
・カイ 2 乗分布

第 12 回：構造変化の検定／ Test for structural change

講義の内容

1. 現実の経済には大きなショックが起こることがあり，そのショックによって経済構造が変化する可能性がある．例えば 1970 年代の石油ショックや 1990 年代のバブル崩壊などである．経済構造に変化があったかどうかを調べるのは計量経済学の重要な役割であるので，今回の講義では，回帰モデルと第 11 回の講義内容に基づき構造変化の検定法を紹介する．
   - 回帰モデルにおける構造変化
   - 構造変化の定式化
   - F 検定を使った構造変化の検定

2. 宿題を課す．
   - テキスト 6 章の練習問題等（講義の中で指示）

学ぶべき用語・ポイント

- 構造変化
- Chow 検定

第 13 回：実証分析例（1）／ Empirical analysis example（1）

講義の内容

これまで講義してきた計量手法を使った実証分析を紹介する．経済・金融データに関する文献を扱う予定.

第 14 回：実証分析例（2）／ Empirical analysis example（2）

講義の内容

前回に引き続き，実証分析例を紹介する．会計データに関する文献を扱う予定.

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

これまでの 14 回の講義の内容についての理解度確認セッションを行う.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

金融行政 1 ・小川恭史／ Financial Administration1・Yasushi Ogawa

時間割

前期　月曜 3 限

講義の目的／ Course Objective

金融行政の究極的な目標は，「企業・経済の持続的成長と安定的な資産形成等による国民の厚生の増大」とされている．証券市場は, 企業が成長するための資金調達の場として，また，国民の資産形成の場として，非常に重要な存在である．このため，金融庁は，証券市場の機能の発揮や魅力の向上等を目的とした様々な施策を進めているところである．

本講義においては，証券行政及び直接金融に関する基礎知識を理解することを目的とする．

The ultimate goal of financial administration is to increase the welfare of the people through sustainable growth of businesses and the economy and stable asset formation. The securities market is very important as a place for companies to raise funds for growth and as a place for people to build assets.　For this reason, the Financial Services Agency is promoting various measures aimed at demonstrating the functions and enhancing attractiveness of the securities market.

The purpose of this lecture is to understand the basic knowledge of securities regulatory system and direct financing.

科目ナンバー

EAC-LAW501

成績評価法

・小テスト（30％），理解度確認セッション（70％）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

第 1 回講義でお知らせする．

講義の進め方

・概ねテキストの内容に沿って進める．
・学習内容の理解を深めるため，適宜小テストを実施する．
・第 15 回において理解度確認セッションを行う．

連絡先

yasushi.ogawa.d6@tohoku.ac.jp

予習・復習について

＜予習＞
・テキストや参考文献等の該当部分を一読しておくこと．
＜復習＞
・小テストや理解度確認セッションに備え，講義内容を確認すること．

その他（連絡事項）

この講義を受講するために必要とする知識

特になし

テキスト・参考文献

・テキスト：日本証券経済研究所『図説日本の証券市場』日本証券経済研究所
※ 2020 年 2 月現在の最新版は「2018 年版」だが, 例年 2 年ごとに改訂されており，「2020 年版」が発行されればそちらを使用する予定．
※「2018 年版」は日本証券経済研究所ホームページでも全文公開されている．
http://www.jsri.or.jp/publish/market/market_29.html
このほか，必要に応じ担当教員が作成・配布した資料を用いる．
・参考文献：近藤光男・志谷匡史・石田眞得・釜田薫子『基礎から学べる金融商品取引法［第 4 版］』弘文堂，2018 年.
黒沼悦郎『金融商品取引法入門［第 7 版］』日本経済新聞出版社，2018 年.
このほか，必要に応じ講義の際に紹介する．

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

・講義の目的・進め方等について説明する.

・次回以降の講義の予定について概要を説明する.

講義の予定：

第 2 回：証券市場と国民経済
第 3 回：株式市場
第 4 回：公社債市場
第 5 回：投資信託，資産運用業
第 6 回：デリバティブ市場，証券化商品市場
第 7 回：金融商品取引所等
第 8 回：金融商品取引業
第 9 回：証券税制
第 10 回：証券取引の行為規制
第 11 回：金融商品取引法による企業内容等の開示
第 12 回：金融商品取引法によるその他の開示
第 13 回：証券行政①
第 14 回：証券行政②
第 15 回：理解度確認セッション

※上記は目安であり，講義の進捗状況などに応じて変更することがありうる.

第 2 回：証券市場と国民経済／The Securities Market and the National Economy

講義の内容

テキストの第 1 章に沿って，証券市場と国民経済の関係について説明する．

1. 金融商品取引法上の「有価証券」の定義
2. 企業の資金調達の状況
3. 家計の金融資産保有の状況
4. 進展するフィンテック

第 3 回：株式市場／ The Stock Market

講義の内容

テキストの第 3 章・第 4 章に沿って，株式発行市場及び株式流通市場について説明する．

1. 株式発行市場
   - 株式会社と株式
   - 株式発行の形態
   - 新株発行の状況

2. 株式流通市場
   - 株式流通市場の構造
   - 株式価格と投資指標
   - 信用取引制度

第 4 回：公社債市場／ The Bond Market

講義の内容

テキストの第 5 章・第 6 章に沿って，公社債発行市場及び公社債流通市場について説明する.

1. 公社債発行市場
   ・公社債の種類
   ・公社債の発行状況
   ・格付会社と公社債の格付け

2. 公社債流通市場
   ・公社債の売買状況
   ・公社債の現先取引・貸借取引

第 5 回：投資信託，資産運用業 ／ Investment Trusts and Asset Management Service

講義の内容

テキストの第 7 章・第 13 章に沿って，投資信託及び資産運用業について説明する．

1. 投資信託
   - ・投資信託の形態
   - ・投資信託の商品
   - ・投資信託の販売・運用

2. 資産運用業
   - ・年金資産の運用
   - ・投資一任業者の運用
   - ・スチュワードシップ・コード

第 6 回：デリバティブ市場，証券化商品市場／ The Derivatives Market and The Securitized Products Market

講義の内容

テキストの第 8 章・第 9 章に沿って，デリバティブ市場及び証券化商品市場について説明する.

1. デリバティブ市場
   - 金融商品取引法上のデリバティブ取引
   - 先物取引
   - オプション取引
   - クレジットデリバティブ取引

2. 証券化商品市場
   - 証券化商品の基本的な仕組み
   - 証券化商品の発行・流通市場

第 7 回：金融商品取引所等／ Financial Instruments Exchange, etc.

講義の内容

テキストの第 10 章・第 11 章に沿って，金融商品取引所やクラウドファンディング等について説明する.

1. 金融商品取引所
   - 新規上場制度
   - 上場管理制度
   - コーポレートガバナンス・コード
   - 株式売買制度
   - 清算・決済制度

2. クラウドファンディング等
   - 株式投資型クラウドファンディング
   - 株主コミュニティ

第 8 回：金融商品取引業／ Financial Instruments Business

講義の内容

テキストの第 12 章に沿って，金融商品取引業者や証券業務等について説明する．

1. 金融商品取引業者の概説
   - 金融商品取引業の類型
   - 証券業務
   - 金融商品取引業者の登録要件
2. 金融商品取引業協会
3. 投資者保護基金

第 9 回：証券税制／ Securities Taxation

講義の内容

テキストの第 14 章に沿って，証券税制について説明する．

1. 利子・配当課税
3. キャピタルゲイン課税
4. NISA（少額投資非課税制度）
5. 年金型商品に対する課税（iDeCo など）

第 10 回：証券取引の行為規制／Prohibited and Regulated Acts of Securities Trading

講義の内容

テキストの第 15 章に沿って，証券取引の行為規制について説明する．

1. 相場操縦規制
2. インサイダー取引規制
3. 金融商品取引業者及びその役職員の行為規制

第 11 回：金融商品取引法による企業内容等の開示／ The System of Disclosing Corporate Information under the Financial Instruments and Exchange Act

講義の内容

テキストの第 16 章 2 ・ 4 に沿って，企業内容の開示規制について説明する.

1. 証券市場における開示制度の体系
2. 発行開示
   - ・発行開示の流れ
   - ・有価証券届出書の記載内容
   - ・簡易な発行開示制度
   - ・発行登録制度
3. 継続開示
   - ・継続開示制度の概要
   - ・金融商品取引所における適時開示制度

第 12 回：金融商品取引法によるその他の開示／ Other Disclosures to Be Made under the Financial Instruments and Exchange Act

講義の内容

テキストの第 16 章 3 に沿って，企業支配に関する開示制度について説明する．

1. 公開買付けに関する開示
   - 公開買付けの強制
   - 公開買付けの開示の概要
   - 公開買付者等関係者によるインサイダー取引規制

2. 株券等の大量保有の状況に関する開示
   - 5%ルール
   - 特例報告制度

第 13 回：証券行政①／ The Securities Regulatory System ①

講義の内容

テキストの第 17 章に沿って，証券行政の概要について説明する．

1. 証券市場の関連法規

2. 証券行政の組織
   ・金融庁による法執行
   ・証券取引等監視委員会

第 14 回：証券行政②／ The Securities Regulatory System ②

講義の内容

金融庁及び証券取引等監視委員会が，今事務年度（2019 年 7 月から 2020 年 6 月）にどのような方針で証券行政を行っているかについて説明する.

1. 多様なニーズに応じた金融サービスの向上
   - ・最終受益者の資産形成に資する資金の好循環の実現
   - ・多様な金融サービス利用者のニーズへの対応と信頼感・安心感の確保

2.「令和元事務年度証券モニタリング基本方針」のポイント
   - ・証券モニタリングの取組方針
   - ・業態横断的なテーマ別モニタリング事項
   - ・規模・業態別の主な検証事項
   - ・関係機関との連携・モニタリング結果の情報発信

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

理解度確認セッションを実施する.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

金融行政２・小川恭史／ Financial Administration2・Yasushi Ogawa

講義の目的／ Course Objective

金融行政の究極的な目標は，「企業・経済の持続的成長と安定的な資産形成等による国民の厚生の増大」とされている．銀行などの預金取扱金融機関は，資金仲介機能により企業が成長するための資金を供給しており，また，預金は家計にとって最も身近な金融資産となっていることから，わが国経済全体にとって非常に重要な存在である．預金取扱金融機関が期待される役割を果たせるよう，金融庁は銀行法等に基づく監督を行っている．

本講義においては，我が国の金融市場，及び銀行法による規制など銀行行政・間接金融に関する基礎知識を理解することを目的とする．

The ultimate goal of financial administration is to increase the welfare of the people through sustainable growth of businesses and the economy and stable asset formation. Deposit-taking financial institutions, such as banks, provide funds for the growth of companies through the intermediary function, and deposits are the most familiar financial assets for households. It is important. The FSA conducts supervision in accordance with the Banking Law to ensure that deposit-taking institutions can fulfill their expected roles.

The purpose of this lecture is to understand the basic knowledge of Japanese financial markets and bank administration and indirect financing, such as regulations under the Banking Law.

講義の進め方

・概ねテキストの内容に沿って進める．
・学習内容の理解を深めるため，適宜小テストを実施する．
・第 15 回において理解度確認セッションを行う．

＜予習・復習＞について

・テキストや参考文献等の該当部分を一読しておくこと．
＜復習＞
・小テストや理解度確認セッションに備え，講義内容を確認すること．

この講義を受講するために必要とする知識

特になし

テキスト・参考文献

・テキスト：全国銀行協会企画部金融調査室『図説わが国の銀行［10 訂版］』財経詳報社，2017 年．
このほか，必要に応じ担当教員が作成・配布した資料を用いる．
・参考文献：小山嘉昭『銀行法精義』金融財政事情研究会，2018 年．
佐藤則夫編著『銀行法』金融財政事情研究会，2017 年．
このほか，必要に応じ講義の際に紹介する．

時間割

後期　月曜 3 限

科目ナンバー

EAC-LAW601

成績評価法

・小テスト（30％），理解度確認セッション（70％）で評価する．
・AA(90 点以上)，A(80 点以上 90 点未満)，B(70 点以上 80 点未満)，C(60 点以上 70 点未満)，D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

第 1 回講義でお知らせする．

連絡先

022-217-6286
yasushi.ogawa.d6@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

・講義の目的・進め方等について説明する.

・次回以降の講義の予定について概要を説明する.

講義の予定

第 2 回：わが国の金融構造と金融機関
第 3 回：銀行の基本的機能及び固有業務①
第 4 回：銀行の基本的機能及び固有業務②
第 5 回：個人向けの銀行取引
第 6 回：金融市場と金融政策
第 7 回：銀行の財務諸表・ディスクロージャー
第 8 回：銀行に対する規制①
第 9 回：銀行に対する規制②
第 10 回：預金保険機構
第 11 回：地域経済活性化支援機構
第 12 回：災害発生時の対応
第 13 回：金融検査・監督の考え方と進め方
第 14 回：金融行政の重点施策
第 15 回：理解度確認セッション

※上記は目安であり，講義の進捗状況などに応じて変更することがありうる.

第 2 回：わが国の金融構造と金融機関／ Japan's Financial Structure and Financial Institutions

講義の内容

テキストの第 1 章・第 3 章に沿って，わが国の金融構造と金融機関について説明する.

1. わが国の金融構造
   - お金の機能
   - 経済活動と資金の流れ
   - 経済部門別の資金過不足・資金調達
   - 家計部門・法人部門の金融資産残高
   - 直接金融と間接金融

2. わが国の金融機関
   - これまでのわが国の金融を巡る動き
   - 金融機関の種類

第 3 回：銀行の基本的機能及び固有業務①／ Basic functions and specific tasks of the bank ①

講義の内容

テキストの第 2 章・第 5 章・第 6 章に沿って，銀行の基本的機能及び固有業務（預金業務・貸出業務）について説明する.

1. 銀行の基本的機能
   - ・資金仲介機能
   - ・信用創造機能
   - ・資金決済機能

2. 預金業務
   - ・預金の種類
   - ・信託

3. 貸出業務
   - ・貸出の種類
   - ・貸出のリスク管理

第 4 回：銀行の基本的機能及び固有業務②／ Basic functions and specific tasks of the bank ②

講義の内容

テキストの第 6 章・第 7 章に沿って，銀行の固有業務（貸出業務・為替業務）について説明する.

1. 貸出業務
   - ・貸出の形態の多様化
   - ・中小企業の資金調達
   - ・経営者保証ガイドライン
   - ・金融仲介機能のベンチマーク
   - ・政府系中小企業金融機関と信用補完制度

2. 為替業務
   - ・決済システム
   - ・手形・小切手と手形交換
   - ・インターネット・バンキング

第 5 回：個人向けの銀行取引／ Banking for individuals

講義の内容

テキストの第 8 章に沿って，個人向けの銀行取引について説明する．

1. 個人の資産運用

2. 個人への信用供与
   - 消費者ローン
   - 銀行カードローン問題
   - 住宅ローン
   - 投資用不動産向け融資問題
   - クレジットカード

3. 預金者保護の法制

第 6 回：金融市場と金融政策／ Financial markets and monetary policy

講義の内容

テキストの第 4 章に沿って金融市場を説明するとともに，日本銀行による金融政策について説明する.

1. 金融市場の種類

2. 日銀による金融政策
   ・日本銀行の役割
   ・金融政策の効果
   ・最近の金融政策

第 7 回：銀行の財務諸表・ディスクロージャー／ Bank financial statements and disclosures

講義の内容

テキストの第 12 章 10・第 13 章などに沿って，銀行の財務諸表・ディスクロージャーについて説明する.

1. 銀行の財務諸表
   ・銀行の損益計算書の主な科目
   ・銀行の貸借対照表の主な科目

2. 銀行のディスクロージャー
   ・銀行のディスクロージャーの意義
   ・ディスクロージャー法制と開示の媒体

3. 銀行の経営指標
   ・収益性・効率性の指標
   ・健全性の指標

第 8 回：銀行に対する規制①／ Regulations on banks ①

講義の内容

テキストの第 12 章などに沿って，銀行に対する規制・監督について説明する.

1. 銀行法の目的

2. 金融庁の組織

3. 自己資本比率規制
   - 自己資本比率規制の意義
   - 国際基準と国内基準
   - 早期是正措置

第 9 回：銀行に対する規制②／ Regulations on banks ②

講義の内容

引き続きテキストの第 12 章などに沿って，銀行に対する規制・監督について説明する．

1. 大口信用供与規制
2. 顧客本位の業務運営に関する原則
3. 独占禁止法と銀行
4. 銀行の株式保有規制
5. 銀行の業務範囲規制
6. マネー・ロンダリング規制

第 10 回：預金保険機構／ Deposit Insurance Corporation of Japan

講義の内容

テキストの第 12 章 11 などに沿って，預金保険制度や預金保険機構の役割について説明する.

1. 預金保険制度
   - 預金保険機構の概要
   - 預金保険制度の仕組み
   - 金融機関の破綻処理

2. 不良債権買取り

3. 金融機関の資本増強・金融機関への資本参加

第 11 回：地域経済活性化支援機構／ Regional Economy Vitalization Corporation of Japan

講義の内容

地域経済活性化支援機構の役割等について説明する.

1. 地域経済活性化支援機構の概要
   ・地域経済活性化支援機構の役割
   ・地域経済活性化支援機構の今後のミッションと取組方針

2. ファンド業務
   ・ファンド運営業務
   ・ファンド出資業務

3. 事業再生支援業務
   ・事業再生支援事例
   ・日本人材機構による経営幹部人材紹介

4. 特定専門家派遣業務

5. 再チャレンジ支援業務

第 12 回：災害発生時の対応／ Response in the event of a disaster

講義の内容

地震や台風などの災害で大きな被害を受けての金融庁等の対応について説明する.

1. 災害時における金融上の措置の要請
   - 要請の内容
   - 制度周知の例

2. 東日本大震災を受けての対応
   - 個人債務者の私的整理に関するガイドライン
   - 東日本大震災事業者再生支援機構
   - 産業復興センターと産業復興機構

第 13 回：金融検査・監督の考え方と進め方／ Supervisory approaches

講義の内容

2018 年 6 月に金融庁が従来の金融検査・監督を見直し公表した「金融検査・監督の考え方と進め方（検査・監督基本方針）」について説明する.

1. 見直しの背景

2. 金融行政の目標

3.「3 つの手法」
- ・最低基準検証
- ・動的な監督
- ・ベスト・プラクティスのための「見える化と探究型対話」

4. 金融検査マニュアルの廃止

第 14 回：金融行政の重点施策／ Priority measures of financial administration

講義の内容

金融庁は例年秋に事務年度（7 月～翌年 6 月）ごとの金融行政方針を公表しており，2020 事務年度の金融行政方針のうち間接金融に係る「金融行政の重点施策」について説明する．

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

理解度確認セッションを実施する.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

財務行政・小川恭史／ Treasury Administration・Yasushi Ogawa

講義の目的／ Course Objective

2020 年度末の我が国の公債残高は約 906 兆円（対ＧＤＰ比 159％）に上るなど、我が国の財政は引き続き深刻な状況にある．これは、現在の世代のみが受益し、その費用を将来世代に先送りしていることを意味しており、少子高齢化に伴いこの問題の深刻さは増している．

本講義においては、このような財政状況及び財政健全化への取組み等について理解することを目的とする．

Japan's public finances continue to be severe, with Japan's public debt outstanding at the end of FY2020 reaching approximately ¥ 906 trillion (159% of GDP). This means that only the current generation will benefit and postpone the costs to future generations, and the problem is increasing as the birthrate and aging population decline.

The purpose of this lecture is to understand such financial situation and efforts for financial consolidation.

講義の進め方

・担当教員作成の資料の内容に沿って進める．
・学習内容の理解を深めるため，適宜小テストを実施する．
・第 15 回において理解度確認セッションを行う．

予習・復習について

＜予習＞
・事前に担当教員から配布された資料を一読しておくこと．
＜復習＞
・小テストや理解度確認セッションに備え，講義内容を確認すること．

この講義を受講するために必要とする知識

特になし

テキスト・参考文献

・テキスト：担当教員が作成・配布する資料を用いる．
・参考文献：必要に応じ講義の際に紹介する．

時間割

後期　水曜 4 限

科目ナンバー

EAC-LAW602

成績評価法

・小テスト（30％），理解度確認セッション（70％）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

第 1 回講義でお知らせする．

連絡先

022-217-6286
yasushi.ogawa.d6@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

・講義の目的・進め方等について説明する.
・次回以降の講義の予定について概要を説明する.

講義の予定：

第 2 回：財政及び税制の役割と機能
第 3 回：予算制度と予算の効率化
第 4 回：我が国の財政の状況
第 5 回：社会保障①
第 6 回：社会保障②（医療・介護）
第 7 回：社会保障③（年金）
第 8 回：社会保障④（子ども・子育て）
第 9 回：文教・科学技術
第 10 回：地方財政
第 11 回：社会資本整備
第 12 回：財政投融資
第 13 回：国有財産
第 14 回：2021 年度予算等
第 15 回：理解度確認セッション

※上記は目安であり，講義の進捗状況や 2021 年度予算編成過程における議論などに応じて変更することがありうる.

第 2 回：財政及び税制の役割と機能／ Roles and functions of fiscal and tax systems

講義の内容

財政・税制の役割や財政の３機能・税の３原則，及び財政・税制に関する基本構造・原則について説明する.

1. 財政の役割と機能
   ・「財政」とは何か
   ・財政の３機能

2. 税制の役割と機能
   ・税の役割
   ・税の３原則
   ・税の種類

第 3 回：予算制度と予算の効率化／Budget system and budget efficiency

講義の内容

わが国の予算制度，予算効率化のための取組み等について説明する．

1. 予算制度
   - 予算に関する原則
   - 予算の内容
   - 予算の種類
   - 予算編成の過程

2. 予算の効率化のための取組み等
   - 決算
   - 行政事業レビュー
   - 政策評価
   - 予算執行調査

第 4 回：我が国の財政の状況／ Japan's financial situation

講義の内容

我が国の財政の状況について説明する.

1. 財政の現状
   - 一般会計における歳出・歳入の状況
   - 公債残高の累増
   - 財政収支・債務残高の国際比較

2. 財政健全化への取組み
   - 基礎的財政収支と財政収支の関係
   - 公債依存の問題点
   - 財政健全化目標

第 5 回：社会保障①／ Social security ①

講義の内容

我が国財政における一般歳出のうち最大の割合を占める社会保障分野全般の現状と課題について説明する.

1. 社会保障関係費
   - ・社会保障財源の全体像
   - ・社会保障給付費の推移
   - ・人口構造の変化と将来の社会保障給付の見通し

2. 社会保障支出と国民負担率の関係

3. 社会保障と税の一体改革

第 6 回：社会保障②（医療・介護）／ Social security ②（Medical and nursing care）

講義の内容

社会保障のうち「医療・介護」分野の現状と課題について説明する.

1. 医療
   ・医療保険制度の概要
   ・医療費の推移

2. 介護
   ・介護保険制度の概要
   ・介護総費用の推移

3. 医療・介護制度の課題

第 7 回：社会保障③（年金）／ Social security ③（pension）

講義の内容

社会保障のうち「年金」分野の現状と課題について説明する.

1. 年金制度の概要

2. 年金積立金管理運用法人

3. 年金給付水準の調整
   ・賃金・物価スライド
   ・マクロ経済スライド

4. 年金制度の改革に向けた視点

第 8 回：社会保障④（子ども・子育て）／ Social security ④（Child care）

講義の内容

社会保障のうち「子ども・子育て」分野の現状と課題について説明する.

1. 保育所等の現状

2. 子ども・子育て支援新制度

3. 待機児童の解消への取組み
   ・子育て安心プラン
   ・新・放課後子ども総合プラン

4. 幼児教育無償化

第 9 回：文教・科学技術／ Education and science

講義の内容

国の歳出分野のうち「文教・科学技術」分野の現状と課題について説明する.

1. 文教関係費の現状と課題
   - 公財政教育支出の規模
   - 義務教育費国庫負担制度の概要
   - 高等教育の経済的負担の軽減
   - 国立大学への公的支援

2. 科学技術振興費の現状と課題
   - 科学技術予算の推移
   - 日本の研究力向上に向けた課題

第 10 回：地方財政／ Local finance

講義の内容

国の歳出である「地方交付税交付金」を含む地方財政の現状等について説明する.

1. 国と地方の役割分担
   ・国と地方の行政事務の分担
   ・国と地方の税財源配分と歳出割合

2. 地方交付税
   ・地方交付税交付金の総額決定の仕組み
   ・地方交付税交付金の配分額決定の仕組み

3. 地方譲与税の概要

4. 地方財政の状況
   ・地方の歳出・歳入の状況
   ・地方の債務残高の推移

5. ふるさと納税制度

第 11 回：社会資本整備／ Public works

講義の内容

国の歳出分野のうち「社会資本整備」分野の現状等について説明する.

1. 社会資本整備の現状
   - 公共事業関係費予算の推移
   - 一般政府の総固定資本形成の推移
   - 社会資本の老朽化等

2. 課題への対応
   - 第 4 次社会資本整備重点計画
   - インフラの維持管理・更新
   - コンパクト・プラス・ネットワークの取組み
   - PPP ／ PFI の活用

第 12 回：財政投融資／ Fiscal Investment and Loan Program

講義の内容

税財源によらない国による投融資活動である財政投融資の現状等について説明する.

1. 財政投融資の仕組み
   - 財政投融資の３類型
   - 財政投融資の特徴

2. 財政投融資改革

3. 財投機関に対するチェック機能
   - 法人等実地監査
   - 地方公共団体実地監査
   - 地方自治体の財務状況把握

第 13 回：国有財産／ Government Assets

講義の内容

国民共有の財産である国有財産がどのように管理され、またどのように活用されているかについて説明する.

1. 国有財産の現状
   ・国有財産の範囲・分類
   ・国有財産の現在額

2. 国有財産の総括
   ・庁舎等取得等調整計画制度の概要
   ・庁舎等使用調整計画制度の概要
   ・地域における国公有財産の最適利用

3. 国有財産の監査

4. 国有財産の管理処分
   ・国有財産の管理処分の基本方針
   ・個々の財産の特性に応じた管理処分の手法

第 14 回：2021 年度予算等／ FY2021 Budget

講義の内容

国の予算は、例年 12 月に政府案が閣議決定されている．予算編成過程において様々な議論が行われた上で取りまとめられることとなる 2021 年度予算政府案の内容等について説明する．

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

理解度確認セッションを実施する.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

企業法 1 ・大谷　潤／ Corporate Law 1・Jun Otani

講義の目的／ Course Objective

企業法分野のうち，会社法体系において基本となる「株式」及び「機関」に関する規律・制度についての理解を深めることを目的とする．

本講義では，これらの理解が一層深まるよう，以下の内容についての解説を行う．

・制度の趣旨や株式会社の社員（株主）の地位たる「株式」の意義，内容等
・有価証券である株券に係る金融商品取引法に基づく企業開示制度等
・株式会社の意思決定・運営を行う「機関」に関して，それぞれの役割分担，相互関係等
・平成 27 年 6 月から実施された「コーポレートガバナンス・コード」
・令和元年 12 月 4 日に成立した「会社法の一部を改正する法律（令和元年法律第 70 号）」（本シラバスにおいて「改正会社法」という．）による改正内容

The purpose of this course is to deepen understanding of the discipline and system on "Shares" and "Organs" that are fundamental in the Companies Act.

In this course, I will lecture the following contents so that students can understand more deeply.

・The purpose of the corporate law system, the significance and detail of "Shares" that indicate the status of members (shareholders) of a stock company.
・Corporate disclosure based on the Financial Instruments and Exchange Act
・The role and interrelationship of each "Organ" that makes decisions and operates the stock company.
・"Corporate Governance Code" implemented from June 2015
・Amendments made under the “Act Partially Amending the Companies Act” enacted on December 4, 2019 (referred to in this syllabus as the “Revised Companies Act”).

講義の進め方

会社における実務等を踏まえながら，配付するレジュメに沿って講義を進める．

解説に当たっては，規律・制度を実務に即して理解することができるよう，会社の定款，事業報告，各種開示書類等を逐次参考にするとともに，できる限り根拠法令等を確認する．

適宜，小テストを実施する．

理解度確認セッションにおいては，論述式テストを実施し，各人の理解度を確認する．

予習・復習について

＜予習＞

・各講義は，既にレジュメを一読していることを前提に進めるため，事前に配付する予定のレジュメに目を通しておくこと．
・「参考文献」に記載する書籍その他の会社法の書籍のうち，自分に合うもので，総論（概要）・株式・機関部分を早期に通読しておくことが望ましい．

＜復習＞

・解説した規律・制度・根拠条文について，レジュメ及び参考文献で再度確認するとともに，知識の定着のために各講義に添付する復習問題などを利用して復習することを望む．
・論述式テストでは，会社法の条文が記載された法令集の持ち込みを可とする．法令集のどの辺りに，どのような規定があるのかを把握しておくことが重要である．

この講義を受講するために必要とする知識

講義は基礎的な内容とするため，この講義を受講するための特別な知識は不要である．

なお，受講に当たっては，株主・債権者の立場からみた実際の場面をイメージしながら規律・制度を考えることや，現在ニュースで取り上げられている事象について，会社法の視点で考えてみることなどが重要である．

テキスト・参考文献

・テキスト：事前に配付するレジュメ及び講義中に配付する資料
・六法：会社法，会社法施行令及び関係省令（会社法施行規則，会社計算規則等）が掲載されている最新版のもの
・参考文献：江頭憲治郎『株式会社法［第 7 版］』有斐閣，2017 年．
神田秀樹『会社法［第 19 版］』弘文堂，2017 年．
伊藤靖史・大杉謙一・田中亘・松井秀征『会社法［第 4 版］』有斐閣，2018 年．
近藤光男・志谷匡史・石田眞得・釜田薫子『基礎から学べる会社法［第 4 版］』弘文堂，2016 年．

時間割

前期　水曜 5 限

科目ナンバー

EAC-LAW502

成績評価法

・理解度確認セッション 60 点），小テスト（20 点）及び出席状況等の平常点（20 点）により評価する（100 点満点）
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

火曜日
10:00-12:00

連絡先

022-217-6281
jun.ootani.d5@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・「企業法 1 」と「企業法 2 」と合わせて受講することは，それぞれの受講要件ではないが，両科目を合わせて受講することで概ね会社法の全体を理解することができる．
・講義の順番及び内容については，講義開始後に変更することがあり得る．

第 1 回：オリエンテーション・会社法の全体像／ Orientation，Overview of Companies Act

講義の内容

講義の目的：

・企業法を学ぶ必要性，会社法の目的，会社の概念等を理解する．

講義の概要：

1. 講義の概要等について説明を行う．第 2 回以降の講義の内容は，以下の通りである．
   第 2 回：株式（1） ＜株式の意義と種類＞
   第 3 回：株式（2） ＜株券・振替株式，株主名簿＞
   第 4 回：株式（3） ＜株式の譲渡，自己株式の取得＞
   第 5 回：株式（4） ＜その他の株式取得，株式の併合・分割等＞
   第 6 回：機関（1） ＜総論，株主総会①＞
   第 7 回：機関（2） ＜株主総会②＞
   第 8 回：機関（3） ＜取締役・取締役会①＞
   第 9 回：機関（4） ＜取締役・取締役会②＞
   第 10 回：機関（5） ＜取締役と株式会社との関係＞
   第 11 回：機関（5） ＜取締役の責任＞
   第 12 回：機関（7） ＜監査役・監査役会＞
   第 13 回：機関（8） ＜監査等委員会設置会社・指名委員会等設置会社＞
   第 14 回：機関（9） ＜会計参与・会計監査人・検査役＞
   第 15 回：理解度確認セッション

2. 会社法の全体構造を俯瞰し，会社法の目的について説明するとともに，総論として「会社の概念」，「会社の類型と種類」，「株式会社の特質」等について解説する．

学ぶべき用語・ポイント

・会社法の目的
・会社の種類と特質

第 2 回：株式（1）＜株式の意義と種類＞／ Shares (1)< Significance and type of shares >

講義の内容

講義の目的：

＜第 2 回～第 5 回共通＞

・株式会社における出資者は「株主」と呼ばれ，「株式」とは株主の地位を細分化して割合的単位の形にしたものである．

・第 2 回～第 5 回では，「株式」の意義，譲渡，権利行使等について理解する．また，平成 26 年改正の内容（全部取得条項付種類株式の取得（第 2 回），株式の併合により端数となる株式の買取請求等，株式等売渡請求制度（第 5 回）等）について理解する．

講義の概要：

・株式会社の社員（株主）の地位である株式の意義，株主の義務・権利等について解説するとともに，株式の種類及びその内容等について解説する．

・また，全部取得条項付種類株式の取得に係る改正会社法の内容について解説する．

学ぶべき用語・ポイント

・株式の均一性，株式の不可分性
・株主平等の原則
・自益権・共益権
・種類株式

第 3 回：株式（2）＜株券・振替株式，株主名簿＞／Shares (2)＜Share certificate・Book-Entry Transfer Share, Shareholder registers ＞

講義の内容

・株式を表章する株券の意義，記載事項，発行義務等について解説するとともに，「社債，株式等の振替に関する法律」に基づく振替制度について解説する．
・また，株主とその持株等に関する事項を記載・記録した株主名簿の意義，記載事項，その効力等について解説する．

学ぶべき用語・ポイント

・株券の意義
・株券発行義務，株券の失効
・株式振替制度
・株主名簿，名義書換え

第 4 回：株式（3）＜株式の譲渡，自己株式の取得＞／ Shares (3)＜ Transfer of shares, Acquisition of treasury shares ＞

講義の内容

・株式の譲渡及び株式の担保化について解説した後，株式の譲渡制限について解説する．
・また，自己株式の取得に関する規制について解説する．

学ぶべき用語・ポイント

・株式の譲渡，善意取得
・略式株式質，登録株式質，譲渡担保
・譲渡制限株式
・自己株式の取得，自己株式の消却

第 5 回：株式（4）＜その他の株式取得，株式の併合・分割＞／ Shares ⑷＜ Acquisition of other shares, Consolidation of shares or Split of shares, etc. ＞

講義の内容

・子会社による親会社株式の取得に関する規制について解説する．
・また，株式の併合・分割，無償割当ての意義・手続等，単元株制度について解説する．
・さらに，株式の併合により端数となる株式の買取請求等，特別支配株主による株式等売渡請求制度の意義など改正会社法の内容について解説する．

学ぶべき用語・ポイント

・子会社による親会社株式の取得
・株式併合，株式分割
・株式の無償割当て
・単元株制度
・株式等売渡請求制度

第 6 回：機関（1）＜総論，株主総会①＞／ Organs (1)< Introduction, Shareholders meeting ①>

講義の内容

講義の目的：

＜第 6 回～第 14 回共通＞

・株式会社の意思決定や運営を行う者を，会社の「機関」という．

・第 6 回～第 14 回では，株式会社の「機関」の意義，法規制の内容，機関設計の違いによる権限・規制内容等の違いのほか，取締役，監査役等の義務と責任について理解する．また，平成 26 年改正に係る社外役員の要件等（第 8 回･第 12 回），多重代表訴訟制度（第 11 回），監査等委員会設置会社制度（第 13 回）等）及び要綱案（株主総会に関する規律の見直し）の内容について理解する．

講義の概要：

・機関の種類及びその概要，機関設計等について解説する．

・また，株主総会の権限，召集等について解説する．

学ぶべき用語・ポイント

・株主総会の決議事項

・株主総会の召集，株主提案権

第 7 回：機関（2）＜株主総会②＞／ Organs (2)< Shareholders meeting ②>

講義の内容

・第 6 回に引き続き，株主総会の議決権，議事，決議等について解説する．
・また，株主総会の決議に瑕疵がある場合の訴えについて解説する．

学ぶべき用語・ポイント

・一株一議決権の原則
・議決権の不統一行使・代理行使
・書面投票制度・電子投票制度
・株主総会の議事
・普通決議・特別決議・特殊の決議
・株主総会決議の取消し・無効・不存在

第 8 回：機関（3）＜取締役・取締役会①＞／ Organs (3)< Directors・Board of Directors ①>

講義の内容

・株式会社は取締役の設置が義務付けられ，公開会社においては取締役会の設置が義務付けられている．
・第 8 回では，取締役の選任・終任等，職務，権限，社外取締役等について解説する．
・また．社外取締役については平成 26 年改正及び改正会社法の内容について解説する．

学ぶべき用語・ポイント

・取締役の資格・選任方法・職務等
・社外取締役

第 9 回：機関（4）＜取締役・取締役会②＞／ Organs (4)< Directors・Board of Directors ②>

講義の内容

・第 2 回～第 5 回までの講義内容について，小テストを実施する．
・第 8 回に引き続き，取締役会設置会社以外の会社の取締役の業務執行，取締役会設置会社における取締役会の権限・召集・議事・決議，代表取締役会等について解説する．

学ぶべき用語・ポイント

・取締役会設置会社以外の会社の取締役の業務執行
・取締役会設置会社の取締役会，代表取締役

第 10 回：機関（5）＜取締役と株式会社との関係＞／ Organs (5)＜ Relationship between directors and stock company ＞

講義の内容

・取締役と株式会社との関係につき，取締役の善管注意義務・忠実義務，競業避止義務，利益相反取引，取締役の報酬等について解説する．
・また，改正会社法における「取締役等に関する規律の見直し」について解説する．

学ぶべき用語・ポイント

・取締役の善管注意義務・忠実義務・競業避止義務
・取締役の利益相反取引規制
・報酬等の決定，ストックオプション

第 11 回：機関（6）＜取締役の責任＞／ Organs (6)< Liability of directors >

講義の内容

・取締役の会社に対する責任及び第三者に対する責任について解説する.
・また，平成 26 年改正で新設された多重代表訴訟制度について解説する.

学ぶべき用語・ポイント

・取締役の任務懈怠，利益相反取引等
・取締役の責任の免除
・株主代表訴訟・多重代表訴訟制
・取締役の違法行為の差止請求権
・取締役の第三者に対する責任

第 12 回：機関（7）＜監査役・監査役会＞／ Organs (7)< Company Auditors・Board of Company Auditors

講義の内容

・株式会社は，定款の定めによって，監査役又は監査役会を設置することができ，一定の株式会社については監査役・監査役会の設置が義務づけられている．
・第 12 回では，監査役･監査役会の任意設置･設置義務，監査役の選任･終任等，職務･権限，社外監査役，監査役会の権限，監査役と会社との関係，監査役の責任等について解説する．
・また，社外監査役ついては平成 26 年改正の内容について解説する．

学ぶべき用語・ポイント

・監査役の資格・選任方法・職務等
・社外監査役
・監査役会
・監査役の善管注意義務
・監査役の報酬等
・監査役の責任

第 13 回：機関（8）＜監査等委員会設置会社・指名委員会等設置会社＞／ Organs (7)< Company with an Audit and Supervisory Committee・Company with a Nominating Committee, etc. ＞

講義の内容

1. 監査等委員会設置会社

・平成 26 年改正において新設された「監査等委員会設置会社」制度について, 創設の経緯, 意義等について解説する.

・また, 監査等委員の選任・終任等, 権限, 及び監査等委員会の権限, 運営について解説する.

2. 指名委員会等社

・指名委員会等設置会社の意義，指名委員会等設置会社における取締役の選任，取締役・取締役会の権限等について解説する.

・また,「指名委員会」,「監査委員会」及び「報酬委員会」の権限, 運営等について解説する.

・さらに，指名委員会等設置会社に置かれる執行役について解説する.

学ぶべき用語・ポイント

- 監査等委員会設置会社
- 監査等委員会
- 指名委員会等設置会社
- 指名委員会・監査委員会・報酬委員会
- 執行役・代表執行役
- 執行役の善管注意義務・忠実義務等

第 14 回：機関（9）＜会計参与・会計監査人・検査役＞／ Organs (7)＜ Accounting advisors・Financial auditors・Inspector ＞

講義の内容

・定款の定めにより設置することができる「会計参与」及び一定の会社に設置が義務づけられる「会計監査人」について解説する.
・また，検査役の意義，選任等について解説する.

学ぶべき用語・ポイント

・会計参与
・会計監査人
・検査役

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

講義の目的：

・本「企業法 1 」で解説した株式会社の「株式」及び「機関」に関する規律・制度についての理解度をみる.

講義の概要：

・講義において解説した基本的な規律・制度に関し，理解度確認セッションを実施する.

・範囲は第 6 回～第 14 回（論述式は，第 2 回～第 14 回）までとする.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

企業法２・大谷　潤／ Corporate Law 2・Jun Otani

講義の目的／ Course Objective

企業法分野のうち，会社法における株式会社の「設立」,「資金調達」,「計算」,「組織再編」,「定款の変更」及び「解散と清算」並びに「持分会社」に関する規律・制度についての理解を深めることを目的とする．

本講義では，会社の形態として多く選択されている株式会社に係る制度を中心に，経済活動に必要な資金の調達，経済活動の結果の確定・分配，組織再編といった，その設立から清算に至るまでにおける会社の一連の経済活動に関連する規律・制度について解説する．また，株式会社のうち上場会社等は，金融商品取引法に基づく情報開示が義務付けられていることから，同法に基づく企業開示制度や当該制度に基づく開示例についても言及することにより，会社法を中心とする企業法の体系について一層理解を深めることを目指します．

なお，平成 29 年の民法改正に伴う「民法の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（平成 29 年法律第 45 号)」による会社法の改正規定について，これらの改正法の施行日が平成 32 年 4 月 1 日とされているため補足として説明するほか，令和元年 12 月 4 日に成立した「会社法の一部を改正する法律」(以下，本シラバスにおいて「改正会社法」という.）について，併せて説明することとする．

The purpose of this course is to deepen understanding of the discipline and system concerning the "Incorporation", "Financing", "Accounting", "Reorganization", "Change of articles of incorporation", "Dissolution and Liquidation" and "Membership companies" of a stock company.

In this course, I will lecture related to disciplines and systems related to a series of economic activities of the company from its incorporation to liquidation. And I will lecture focusing on a stock company, which is often selected as a form of company.

In addition, listed companies among stock companies are required to disclose information based on the Financial Instruments and Exchange Act. So I will show students examples of disclosures based on the Financial Instruments and Exchange Act, to deepen understanding of the corporate law system.

I will explain recent revisions of the Companies Act, including the contents before the enforcement.

講義の進め方

会社における実務等を踏まえながら，配付するレジュメに沿って講義を進める．

解説に当たっては，規律・制度を実務に即して理解することができるよう，会社の定款，事業報告，各種開示書類等を逐次参考にするとともに，できる限り根拠法令等を確認する．

適宜，小テストを実施する．

理解度確認セッションにおいては，論述式テストを実施し，各人の理解度を確認する．

予習・復習について

＜予習＞・各講義は，既にレジュメを一読していることを前提に進めるため，事前に配付する予定のレジュメに目を通しておくこと．

・「参考文献」に記載する書籍その他の会社法の書籍のうち，自分に合うもので，総論（概要）・株式・機関部分を早期に通読しておくことが望ましい．

＜復習＞・解説した規律・制度・根拠条文について，レジュメ及び参考文献で再度確認するとともに，知識の定着のために各講義に添付する復習問題などを利用して復習することを望む．

・論述式テストでは，会社法の条文が記載された法令集の持ち込みを可とする．法令集のどの辺りに，どのような規定があるのかを把握しておくことが重要である．

この講義を受講するために必要とする知識

講義は基礎的な内容とするため，この講義を受講するための特別な知識は不要である．

なお，受講に当たっては，株主・債権者の立場からみた実際の場面をイメージしながら規律・制度を考えることや，現在ニュースで取り上げられている事象について，会社法の視点で考えてみることなどが重要である．

テキスト・参考文献

・テキスト：事前に配付するレジュメ及び講義中に配付する資料

・六法：会社法，会社法施行令及び関係省令（会社法施行規則，会社計算規則等）が掲載されている最新版のもの

・参考文献：江頭憲治郎『株式会社法［第 7 版］』有斐閣，2017 年.

神田秀樹『会社法［第 19 版］』弘文堂，2017 年.

伊藤靖史・大杉謙一・田中亘・松井秀征『会社法［第 4 版］』有斐閣，2018 年.

近藤光男・志谷匡史・石田眞得・釜田薫子『基礎から学べる会社法［第 4 版］』弘文堂，2016 年.

時間割

後期　水曜 5 限

科目ナンバー

EAC-LAW603

成績評価法

・理解度確認セッション（60 点)，小テスト（20 点）及び出席状況等の平常点（20 点）により評価する（100 点満点)．

・AA(90 点以上)，
A(80 点以上 90 点未満)，
B(70 点以上 80 点未満)，
C(60 点以上 70 点未満)，
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

火曜日
10:00-12:00

連絡先

022-217-6281
jun.ootani.d5@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・「企業法 1 」と「企業法２」と合わせて受講することは，それぞれの受講要件ではないが，両科目を合わせて受講することで概ね会社法の全体を理解することができる．

・講義の順番及び内容については，講義開始後に変更することがあり得る．

第 1 回：オリエンテーション , 会社法の全体像，持分会社／ Orientation，Overview of Companies Act, Membership Companies

講義の内容

講義の目的：
・会社法の目的，会社の概念等を理解する.
・持分会社について理解する.

講義の概要：
・講義の概要，進め方等について説明を行う.
・会社法の全体構造を俯瞰した上で, 会社法の目的について説明するとともに, 総論として「会社の概念」,「会社の類型と種類」,「株式会社の特質」等について解説する.
・持分会社について，株式会社との相違を含め解説する.

＜宿題＞
　右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと.

学ぶべき用語・ポイント

・持分会社と株式会社の違い
・合名会社・合資会社・合同会社
・株式会社を選択するメリット・デメリット

第 2 回：株式会社の設立（1）＜手続①＞／ Incorporation of a Stock Company (1) ＜ Procedure ①＞

講義の内容

講義の目的：

・株式会社の設立手続きのうち，定款の作成から出資の履行に至るまでの流れ及び発起人等の責任について理解する．

講義の概要：

・会社の設立は，会社という 1 つの団体を形成し，当該団体に法人格を与えるまでの手続である．
・第 2 回では，これらの一連の手続のうち，定款の作成から出資の履行に至るまでの各手続きの内容及び関係者の責任等を解説する．

＜宿題＞

右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと．

学ぶべき用語・ポイント

・発起設立・募集設立
・定款の作成，絶対的記載事項，変態設立事項
・割当自由の原則

第 3 回：株式会社の設立（2）＜手続②，責任等＞／ Incorporation of a Stock Company (2)< Procedure (2) , Responsibility, etc. >

講義の内容

講義の目的：

・株式会社の設立手続きのうち，会社機関の具備から設立登記に至るまでの手続き及び設立の瑕疵について理解する．

講義の概要：

・第 2 回に引き続き，株式会社の設立について解説する．
・第 3 回では，設立時役員等の選任，設立登記，設立に関する責任，会社不成立の場合の責任，設立無効の訴え等について解説する．

＜宿題＞

右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと．

学ぶべき用語・ポイント

・設立時役員等の役割
・設立の登記事項
・設立無効，会社の不成立
・財産価額填補責任

第４回：株式会社の資金調達（1）＜株式の発行①＞／ Financing of a Stock Company (1) ＜ Issuing Shares ①＞

講義の内容

講義の目的：

＜第４回～第７回共通＞

・第４回～第７回では，株式会社の資金調達手段としての「募集株式の発行等」,「新株予約権の発行」及び「社債（新株予約権付社債を含む）の発行」について理解する.

・また, 公開会社における募集株式の割当て等の特則, 募集株式に係る出資の履行の仮装(第５回)，ライツ・オファリングに関連する改正（第６回）等の内容について理解する.

講義の概要：

・第４回では，株式会社による資金調達の意義及び資金調達手段の類型について概観し，併せて授権株式制度について，発行可能株式総数に関する会社法の内容とともに解説する.

・その上で，資金調達手段の一類型である株式の発行形態（株主割当て・株主以外への割当て（公募・第三者割当て)），発行手続等について解説する.

・また，株式の発行に係る金融商品取引法に基づく開示規制について解説する.

＜宿題＞

右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと.

学ぶべき用語・ポイント

・授権株式制度
・株主割当て・株主以外への割当て
・有利発行

第 5 回：株式会社の資金調達（2）＜株式の発行②＞／ Financing of a Stock Company (2) ＜ Issuing Shares ②＞

講義の内容

・第 4 回に引き続き，株式の発行形態のうち，特定の者のみに割当てる場合について，既存株主の利益保護の考え方を整理しつつ，その手続を解説する．
・また，株式の発行の手続に法令違反があった場合の措置や，公開会社における募集株式の割当て等の特則（支配権の異動を伴う募集株式の割当て等）や募集株式に係る出資の履行の仮装について解説する．

＜宿題＞

右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと．

学ぶべき用語・ポイント

・第三者割当て
・支配権の異動を伴う募集株式の割当て等
・出資の仮装払込み
・違法な株式発行等の差止め
・株式発行の無効の訴え

第６回：株式会社の資金調達（3）＜新株予約権の発行＞／ Financing of a Stock Company ⑶＜ Issuance of Share Options ＞

講義の内容

・資金調達手段の一類型である新株予約権の発行手続等について解説する.
・ライツ・オファリング（新株予約権無償割当てによる増資手法）についての会社法の規定とともに，関連する金融商品取引法の規定についても解説する.
・また，新株予約権を利用した敵対的買収に対する防衛策の概要についても解説する.

＜宿題＞
　右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと.

学ぶべき用語・ポイント

・新株予約権
・新株予約権原簿
・ライツ・オファリング
・会社の支配に関する基本方針

第 7 回：株式会社の資金調達（4）＜社債の発行＞／ Financing of a Stock Company (4) ＜ Issuing Bonds ＞

講義の内容

・資金調達手段の一類型である社債の発行手続等について解説する.
・新株予約権付社債を含む社債の類型を整理した上で，社債の発行・成立・償還等について解説する.
・また，社債権者保護のための社債管理者制度，社債権者の利害に関する事項を決定する社債権者集会制度について解説する.
・要綱案に記載された社債管理補助者制度について，併せて説明を行う.

＜宿題＞
　右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと.

学ぶべき用語・ポイント

・社債，新株予約権付社債
・社債原簿
・社債の利払い，償還方法
・社債管理者制度，社債権者集会

第８回：株式会社の計算（1）＜決算手続・計算書類＞／ Accounting of Stock Company (1)
＜ Account closing procedures and Financial Statements ＞

講義の内容

講義の目的：

＜第８回・第９回共通＞

・所有と経営が分離している株式会社においては，経営者は株主に対して受託者責任を負っていると考えられる．このため，会社経営の結果に関する説明責任を果たすため，会社の財政状態や経営成績についての情報を株主に開示する必要がある．また，こうした情報が会社債権者等にも開示されることで，取引の安全性等を確認することができる．

・会社は会計上の利益を基に株主に利益の分配が行われるが，株主への利益の分配は会社財産だけが引当てとなる会社債権者の利害とも対立するため，それらの利害調整をするためのルール（剰余金の分配規制等）を設けている．

・第８回及び第９回では，こうした株式会社の計算に関するルール（計算書類・事業報告等，会社法上の開示，剰余金の分配等）について理解する．

講義の概要：

・株式会社の計算の規定は，①会社の財産及び損益の状況に関する情報の株主及び会社債権者への提供，②株主に対する剰余金分配規制を目的としたものであり，この目的を踏まえた上で，決算手続としての計算書類等の作成，監査，承認及び公開という一連の手続について解説する．

・また，会社法に基づく計算書類と金融商品取引法に基づく財務諸表等との関係についても言及する．

＜宿題＞

右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと．

学ぶべき用語・ポイント

・計算書類等・事業報告・附属明細書
・計算書類等の監査，承認・報告
・決算公告

第 9 回：株式会社の計算（2）＜資本金・準備金・剰余金，剰余金の分配＞／ Accounting of Stock Company (2)＜ Stated Capital, Reserves, Surplus, Distribution of surplus ＞

講義の内容

・資本金・準備金・剰余金の意義及び額の算定並びにそれぞれの関係について解説する．
・また，資本金及び準備金を減少する場合の手続，資本金及び準備金の減少に関する会社債権者保護のための措置等について説明する．
・株主に対する剰余金の配当は，株式会社にとって重要な決定事項である．剰余金の処分について概観し，剰余金の配当に関する手続及び要件についても解説する．

＜宿題＞

右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと．

学ぶべき用語・ポイント

・資本金・準備金・剰余金の額
・資本金・準備金の額の減少手続
・債権者異議手続
・剰余金の処分，分配可能額規制

第 10 回：定款の変更，解散・清算／ Amendment of articles of incorporation, Dissolution and Liquidation

講義の内容

講義の目的：
・会社の根本規則である定款変更の意義，手続等について理解する．
・会社の法人格の消滅をもたらす原因となる「解散」，及びその後の「清算」手続について理解する．

講義の概要：
・株式会社の定款の変更の意義，手続等について解説する．
・また，株式会社の解散の意義・解散原因等及び株式会社の清算の意義・手続等について解説する．

＜宿題＞
・右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと．
・小テストで誤った項目について，レジュメ及び参考文献で再度確認すること．

学ぶべき用語・ポイント

1. 定款の変更
・定款変更
2. 解散と清算
・解散原因
・清算株式会社
・清算人，清算事務

第 11 回：組織再編（1）＜合併①＞／ Reorganization (1)< Merger ①>

講義の内容

講義の目的：

＜第 11 回～第 14 回共通＞

・会社はその一連の経済活動の中で，事業を拡大したり，事業ポートフォリオの再構築等をしたりすることを目的として，他の会社との合併や会社分割，グループ会社の完全子会社化等の組織再編を行う．

・第 11 回～第 14 回では，こうした組織再編（合併，会社分割，株式交換・株式移転）のほか，会社分割･合併と類似する事業譲渡･譲受け，及び株式会社から持分会社への組織変更･持分会社から株式会社への組織変更について，それぞれの意義，内容，手続（特に，各再編における共通部分と異なる部分）等を理解する．

講義の概要：

・第 1 回～第 7 回までの講義内容について，小テストを実施する．

・会社法の組織再編法制について概説する．

・第 11 回及び第 12 回では合併について取り上げ，第 11 回では，合併の意義・種類を確認した上で，合併の手続について解説する．

＜宿題＞

右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと．

学ぶべき用語・ポイント

・新設合併・吸収合併
・合併契約
・合併承認決議

第 12 回：組織再編 (2) ＜合併②＞／ Reorganization (2)＜ Merger ②＞

講義の内容

・第 11 回に引き続き，合併の手続（反対株主等の株式買取請求権等，債権者の異議手続，合併の登記等），簡易・略式合併及び合併の無効について解説する．
・また，株式買取請求等に係る撤回の制限の実効化のための規定の内容や，近年新設された合併等の組織再編が法令定款に違反する場合の差止請求制度について解説する．
・第 2 回～第 7 回の範囲について，小テストを実施する

＜宿題＞
　右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと．

学ぶべき用語・ポイント

・株式買取請求権・新株予約権買取請求権
・債権者の異議手続
・簡易合併・略式合併
・法令定款違反の場合の合併の差止請求
・合併の無効

第 13 回：組織再編（3）＜会社分割，事業譲渡・譲受け＞／ Reorganization (3)
＜ Company Split, Transfer of Business ＞

講義の内容

・組織再編のうち，会社分割の意義，手続等について解説する．また，詐害的な会社分割に対して，近年新設された残存債権者保護の内容について解説する．
・さらに，吸収合併・会社分割に類似する形態として，事業譲渡・譲受けの意義，手続等についても解説する．

＜宿題＞

右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと．

学ぶべき用語・ポイント

1. 会社分割
・吸収分割・新設分割
・吸収分割契約・新設分割計画
・残存債権者の保護
・労働者の異議申出手続
・簡易分割・略式分割
・会社分割の差止請求
・会社分割の無効
2. 事業譲渡・譲受け
・事業譲渡
・残存債権者の保護
・簡易・略式事業譲渡等
・事業全部の譲受け

第 14 回：組織再編（4）＜株式交換・株式移転，組織変更＞／ Reorganization (3)＜ Share Exchange, Share Transfer, Entity Conversion ＞

講義の内容

・組織再編のうち，株式交換・株式移転の意義，手続等について解説する．
・また，株式会社の持分会社への組織変更及び持分会社の株式会社への組織変更の手続等について解説する．
・要綱案に記載された株式交付制度について，併せて説明を行う．

＜宿題＞
　右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと．

学ぶべき用語・ポイント

1. 株式交換・株式移転
・株式交換・株式移転
・株式交換契約・株式移転計画
・簡易株式交換・略式株式交換
・株式交換・株式移転の差止請求
・株式交換・株式移転の無効
2. 組織変更
・組織変更計画作成

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

講義の目的：

・本「企業法２」で解説した株式会社の「設立」,「資金調達」,「計算」,「組織再編」,「組織変更」,「定款の変更」及び「解散と清算」並びに「持分会社」に関する規律・制度についての理解度をみる.

講義の概要：

・講義において解説した基本的な規律・制度に関し，理解度確認セッションを実施する.

・範囲は第 8 回～第 14 回（論述式は，第 2 回～第 14 回）までとする.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

法人税法 1 ・千葉俊徳／ Corporate Tax Law 1・Toshinori Chiba

講義の目的／ Course Objective

法人税法は，企業会計での利益計算を前提としつつ，適正・公平な課税という目的の下に法人の所得計算ルールとして様々な規制や調整を定めており，会計実務に大きく影響する．

本講義は，法人税法の基礎を理解することを目的として，法人税法の基本構造及び所得計算上の重要項目の趣旨・内容，その計算過程の要点を講義する．

Corporation Tax Law presupposes profit calculation in corporate accounting and sets various rules and adjustments as corporate income calculation rules for the purpose of proper and fair taxation, which greatly affects accounting practice.

This course is designed to learn about the basics of Corporation Tax Law, and I will lecture on the framework of the Law and on the meaning and contents of important items in income calculation and on the key points of the calculation process.

講義の進め方

・法人税法における所得（及び税額）計算上の重要な規制・調整項目，特に所得計算において法令の定めにより企業会計と異なる処理が課されているものを中心に講義する．なお，重要度が高いと考えられる項目を優先して扱う．
・学習内容の理解度を確認するとともに，理解の定着に資するため，講義の進行に合わせて適宜小テストを行う（詳細は講義の中で説明する．）．
・理解度確認セッションを第 15 回にて行う（計算処理問題が中心）．

予習・復習について

＜予習＞

・会計大学院 HP または ISTU に事前掲示する講義資料や参考書を読み，疑問点等を整理しておくこと．

＜復習＞

・講義資料や参考書の再読及び設例等での計算処理の再確認をして，学習内容の理解を確実にすること．

この講義を受講するために必要とする知識

特になし．

テキスト・参考文献

・テキスト：講義資料として，毎回，各テーマについてのパワーポイント資料等を使用する．
・参考文献：（法人税法関係）

成松洋一『法人税法　理論と計算［十五訂版］』税務経理協会，2019 年．
成松洋一『法人税セミナー［五訂版］』税務経理協会，2016 年．
渡辺徹也『スタンダード法人税法［第 2 版］』弘文堂，2019 年．
（租税法全般）
金子宏『租税法［第 23 版］』弘文堂，2019 年．
中里実ほか『租税法概説［第 3 版］』有斐閣，2018 年．
増井良啓『租税法入門［第 2 版］』有斐閣，2018 年．
（その他）

法人税法等の法令は，e-Gov（電子政府総合窓口）上の法令データ検索システムにて，法人税法の解釈通達である法人税基本通達や税制改正の概要等の情報は国税庁 HP にて，また，税制改正の詳細な解説については財務省 HP にて，それぞれ参照できる．

時間割

前期　火曜 2 限

科目ナンバー

EAC-LAW503

成績評価法

・理解度確認セッション（50％），小テスト（30％）及び出席状況等の平常点（20％）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

木曜日
9:30-11:30

連絡先

022-217-6287
toshinori.chiba.a2@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・講義資料を原則各回ごとに会計大学院 HP または ISTU に事前掲示する．講義時に参照できるよう，各自印刷等して講義に臨むこと．

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

・講義の進め方等について説明する.
・法人税法を学ぶに当たっての基礎的な知識（法人税の位置づけ，法人税関係法令の規定の構成，法人税の特色，日本の財政等）について説明する.
・次回以降の講義の予定について以下に沿って概要を説明する.

第 2 回：法人税の基本構造，課税所得の計算原理①
第 3 回：課税所得の計算原理②（税務調整等），益金の額の計算①（収益の認識基準）
第 4 回：益金の額の計算②（収益の認識基準続き，無償譲渡，資産の評価益等）
第 5 回：益金の額の計算③（受取配当等の益金不算入等）
第 6 回：損金の額の計算①（費用の計上時期，棚卸資産の売上原価の計算，同族会社）
第 7 回：損金の額の計算②（役員等の給与，資産の評価損）
第 8 回：損金の額の計算③（寄附金，交際費等）
第 9 回：損金の額の計算④（減価償却資産の償却費の計算）
第 10 回:損金の額の計算⑤（減価償却資産・繰延資産の償却費の計算, 圧縮記帳, 税額控除）
第 11 回：損金の額の計算⑥（租税公課，繰越欠損金等）
第 12 回：損金の額の計算⑦（引当金，貸倒損失）
第 13 回：グループ法人税制，連結納税制度，組織再編税制
第 14 回：法人税の申告・納付，租税手続法概要
第 15 回：理解度確認セッション

（上記の予定は目安であり, 実際の講義の進行状況等によって適宜修正することもありうる.）

第 2 回：法人税の基本構造，課税所得の計算原理①／ Basic structure of corporate tax, Calculation principle of taxable income ①

講義の内容

1. 法人税法の性質
2. 納税義務者及び課税所得の範囲
3. 法人税の税率と税額計算
4. 企業会計上の利益と法人税法上の所得
5. 各事業年度の所得の金額
   - 益金の額に算入すべき金額
   - 損金の額に算入すべき金額

＜ポイント＞

法人税を課税する根拠，納税義務者の種類，企業会計上の利益と法人税法上の所得の関係について理解する．

学ぶべき用語・ポイント

- 法人独立課税主体説，株主集合体説
- 普通法人，人格のない社団，公共法人，公益法人等，協同組合
- 内国法人，外国法人
- 収益事業課税
- 基本税率と軽減税率
- 課税標準，所得，益金，損金
- 法人税法 22 条（各事業年度の所得の金額の計算）
- 別段の定め

第 3 回：課税所得の計算原理②，益金の額の計算①（収益の認識基準）／ Calculation principle of taxable income ②，Calculation of the amount of gross revenue ①（Recognition standard for revenue）

講義の内容

1. 資本等取引
2. 確定決算主義
3. 税務調整と損金経理
4. 法人税の申告
   - ・法人税申告書（別表一），（別表四），（別表五）
   - ・利益積立金
   - ・留保，社外流出
5. 包括所得概念と実現主義
6. 収益の認識基準
   - ・権利確定主義
   - ・管理支配基準

＜ポイント＞

企業会計との関係における税務調整の方法，収益認識基準の考え方について理解する．

学ぶべき用語・ポイント

- ・資本等取引
- ・一般に公正妥当な会計処理基準
- ・税務調整事項（決算調整事項，申告調整事項）
- ・確定決算主義
- ・損金経理
- ・包括所得概念，実現主義
- ・権利確定主義，管理支配基準

第 4 回：益金の額の計算②（収益の認識基準，無償譲渡，資産の評価益等）／Calculation of the amount of gross revenue ②（Recognition standard for revenue, Gratuitous transfer of assets, Valuation gains on assets, etc.）

講義の内容

1. 資産の販売等の収益の額
   - ・商品等の販売による収益の計上時期
   - ・請負による収益の計上時期
   - ・収益の計上時期の特例
2. 資産の無償譲渡等による収益の額
   - ・税務上資産を無償等で譲渡した場合の時価相当額の収益計上
3. 資産の無償譲受け等による収益の額
   - ・税務上資産を無償等で譲り受けた場合の時価相当額の収益計上
4. 資産の評価益
   - ・資産の評価益を益金に算入しない理由
   - ・例外的に資産の評価益の益金算入が認められる場合
5. 還付金等
   - ・還付金が益金算入されない理由

＜ポイント＞

法人税法独特の考え方である無償譲渡の収益認識について理解する.

学ぶべき用語・ポイント

- ・出荷基準，検収基準等
- ・完成基準，部分完成基準
- ・工事進行基準
- ・無償譲渡，低額譲渡，無償譲受
- ・未実現利益
- ・還付加算金

第 5 回：益金の額の計算③（受取配当等の益金不算入等）／ Calculation of the amount of gross revenue ③（Exclusion of dividends received, etc.）

講義の内容

1. 受取配当等
   - ・受取配当等を益金の額に算入しない理論的根拠
   - ・益金不算入の対象となる受取配当等
   - ・受取配当の益金不算入額の計算方法
   - ・外国子会社配当益金不算入制度
   - ・みなし配当

＜ポイント＞

受取配当については計算が複雑であるので正確に理解する.

学ぶべき用語・ポイント

- ・二重課税の調整
- ・負債利子控除
- ・外国子会社から受け取る配当等の益金不算入
- ・完全子法人株式等に係る受取配当等の益金不算入
- ・関連法人株式等に係る受取配当等の益金不算入
- ・その他株式等に係る受取配当等の益金不算入
- ・非支配目的株式の配当等の益金不算入
- ・短期所有株式等の適用除外
- ・みなし配当

第 6 回：損金の額の計算①（費用の計上時期，棚卸資産の売上原価の計算，同族会社））／ Calculation of the amount of gross expense ①（Recognition standard for expense, Calculation of the cost for sales of inventory assets, Family corporation, etc.）

講義の内容

1. 損金の額の計上時期
   - 売上原価等（個別対応）と販売費・一般管理費等（期間対応）の費用
   - 債務確定基準
   - 短期の前払費用
2. 棚卸資産の売上原価の計算
   - 棚卸資産の意義
   - 棚卸資産の取得価額
   - 棚卸資産の評価方法
3. 同族会社
   - 同族会社の意義
   - 同族会社の判定基準
   - 同族会社の行為計算否認
   - 特定同族会社の留保金課税

＜ポイント＞

損金（原価・費用）の額の扱いについての企業会計と法人税法との違いを理解する.

学ぶべき用語・ポイント

- 債務確定基準
- 短期の前払費用
- 棚卸資産の評価方法
- みなし役員
- 使用人兼務役員

第 7 回：損金の額の計算②（役員等の給与，資産の評価損））／ Calculation of the amount of gross expense ②（Salary, etc. of Executive Officers, Appraisal Loss of Assets）

講義の内容

1. 役員等の給与
   - 役員の意義
   - 役員給与の税務上の取扱い
   - 使用人の給与の取扱い
   - 役員等に係る経済的利益とその取扱い
2. 資産の評価損
   - 原則損金不算入
   - 損金算入できる場合

＜ポイント＞

企業会計とは大きく異なる上，近年も頻繁に改正が行われている役員等の給与の取扱いについて正確に理解する．

学ぶべき用語・ポイント

- 定期同額給与，事前確定届出給与，業績連動給与
- 過大な役員給与
- 特殊関係使用人
- 評価損計上事由

第 8 回：損金の額の計算③（寄附金，交際費等）／ Calculation of the amount of gross expense ③（Donation, Social expense）

講義の内容

1. 寄附金
   - 寄附金の損金算入限度額が設けられた趣旨
   - 寄附金の意義
   - 寄附金から除かれるもの
   - 寄附金の損金算入限度額の計算
2. 交際費等
   - 交際費課税制度が設けられた趣旨
   - 交際費等の意義
   - 交際費等となる費用と交際費等から除かれる費用
   - 交際費等の損金不算入額の計算
3. 使途不明金

＜ポイント＞
法人税固有の取扱いである寄附金，交際費等の制度趣旨・内容について理解する．

学ぶべき用語・ポイント

- 低額譲渡や経済的な利益の供与
- 国等に対する寄附金，指定寄附金
- 一般寄附金
- 特定公益増進法人，認定特定非営利活動法人等に対する寄附金
- 交際費等の損金不算入（租税特別措置法 61 条の 4）
- 交際費等の三要件（事業に関係のある者，支出の目的，接待等の行為）
- 使途不明金と使途秘匿金

第 9 回：損金の額の計算④（減価償却資産の償却費の計算）／ Calculation of the amount of gross expense ④（Calculation of depreciation amount of depreciable assets）

講義の内容

1. 減価償却資産の償却費の計算
   - 減価償却の意義
   - 減価償却の対象となる資産
   - 減価償却資産の取得価額
   - 資本的支出と修繕費
   - 償却可能限度額
   - 減価償却の方法
   - 償却限度額及び償却超過額と損金経理
   - 償却方法の選定と届出
   - 償却限度額等の計算例

＜ポイント＞

減価償却資産の償却については，累次の改正で制度が複雑化していることに留意し，正確に理解する.

学ぶべき用語・ポイント

- 償却限度額
- 法定耐用年数
- 定額法，定率法
- 250％定率法と 200％定率法
- 少額の減価償却資産の損金算入
- 一括償却資産の損金算入

第 10 回：損金の額の計算⑤（繰延資産の償却費の計算，圧縮記帳，税額控除）／ Calculation of the amount of gross expense ⑤（Calculation of depreciation amount of deferred assets, Advanced depreciation, Tax credits)

講義の内容

1. 減価償却資産の償却費の計算（続き）
   - 資本的支出と修繕費
   - 特別償却
2. 繰延資産の償却費の計算
   - 繰延資産の意義と種類
   - 償却限度額の計算方法
3. 圧縮記帳
   - 圧縮記帳制度の趣旨
   - 主な圧縮記帳の適用要件と計算例
4. 税額控除
   - 所得税額控除
   - 外国税額控除
   - 粉飾決算による過大申告の税額控除

＜ポイント＞

法人税法独特の概念である圧縮記帳についてよく理解する．また，税額控除の計算過程について理解する．

学ぶべき用語・ポイント

- 資本的支出
- 特別償却
- 法人税固有の繰延資産
- 課税の繰延と圧縮記帳
- 保険差益，交換差益
- 税額控除の対象となる所得税額の期間按分

第 11 回：損金の額の計算⑥（租税公課，繰越欠損金等）／ Calculation of the amount of gross expense ⑥（Taxes and duties, Net loss carried over, etc.）

講義の内容

1. 租税公課等
   - ・損金の額に算入されない租税公課
   - ・納税充当金の処理方法
   - ・不正行為に係る費用の損金不算入
   - ・税効果会計
   - ・控除対象外消費税額の処理
2. 繰越欠損金
   - ・欠損金の繰越控除制度の種類及び趣旨
   - ・繰越欠損金の処理方法
   - ・控除期限切れ欠損金の控除
3. 青色欠損金の繰り戻し還付

＜ポイント＞

法人税法独特の処理が求められる租税公課の取扱いについて理解する．

学ぶべき用語・ポイント

- ・過少申告加算税，無申告加算税，重加算税，延滞税，利子税
- ・損金不算入の租税公課
- ・納税充当金
- ・繰延税金資産，法人税等調整額
- ・青色欠損金

第 12 回：損金の額の計算⑦（引当金，貸倒損失）／ Calculation of the amount of gross expense ⑦（Reserves, Bad debt losses）

講義の内容

1. 引当金
   - 引当金の制度趣旨
   - 引当金と準備金の差異
2. 貸倒引当金
   - 貸倒引当金の制度趣旨
   - 貸倒引当金の適用対象債権
   - 貸倒引当金の繰入限度額の計算方法
   - 貸倒引当金の経理処理
3. 貸倒損失
   - 貸倒損失の計上の可否

＜ポイント＞

引当金及び貸倒損失の計上について，企業会計における取扱いとの違いを意識しながら法人税法上の取扱いについて理解する．特に，金銭債権がどのような状態になれば貸倒れと判断できるのかについての理解が重要となる．

学ぶべき用語・ポイント

- 個別評価金銭債権の場合における貸倒引当金繰入限度額
- 一括評価金銭債権の場合に係る貸倒実績率
- 法定繰入率，簡便法
- 法律上の貸倒，経済上（事実上）の貸倒，形式上の貸倒

第 13 回：グループ法人税制，連結納税制度，組織再編税制／ Group corporation tax system, Consolidated tax system, Reorganization tax system

講義の内容

1. グループ法人税制の概要
   ・制度趣旨，適用対象，グループ法人間の資産の取引の譲渡損益の取扱いなど
2. 連結納税制度の概要
   ・制度趣旨，適用と効果
3. 組織再編税制の概要
   ・制度趣旨等

＜ポイント＞

グループ法人税制及び連結納税制度について，両制度の違いに留意しつつ全体像と基本事項を理解する．組織再編税制の趣旨と概要を理解する．

学ぶべき用語・ポイント

・グループ法人単体課税制度
・完全支配関係
・譲渡損益調整資産
・連結納税制度における欠損金の持ち込み制限

第 14 回：法人税申告・納付，租税手続法／ Filing return, Payment, Tax procedures

講義の内容

1. 法人税申告，納付と還付
2. 青色申告の要件と特典
3. 納付すべき税額の確定手続と是正手続
4. 租税争訟制度

＜ポイント＞

実務で重要となる申告・納付等の手続や争訟制度について基本的な事項を理解する.

学ぶべき用語・ポイント

- 確定申告，申告期限の延長，中間申告，青色申告
- 納税地
- 納税者による修正申告と更正の請求
- 税務署長による更正・決定
- 理由附記
- 不服申立て前置主義
- 再調査の請求，審査請求

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

（試験の内容と注意事項）

・計算処理問題を中心とする（一部，記述問題）.

・計算機能のみの電卓を必ず持参する.

・講義資料，参考書及びノート等の持込みは一切認めない予定.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

法人税法２・千葉俊徳／ Corporate Tax Law 2・Toshinori Chiba

講義の目的／ Course Objective

経済社会のグローバル化の進展に伴い，国際取引に対する課税の在り方が注目を集め，ビジネス界においても関係諸制度や課税当局の対応への関心が一層高まっている．本講義は，国際課税制度の基本的な考え方と構造を理解することを目的とし，法人税法などの関係国内法及び租税条約等の国際租税法の基礎的な事項を主な対象とする．

With the globalization of the economy and society, taxation on international transactions is attracting attention, and the business community is increasingly interested in related systems and tax authorities. The purpose of this course is to understand the basic concept and structure of the international taxation system, and will mainly focus on Corporation Tax Laws and other related domestic laws and international taxation rules such as tax treaties.

講義の進め方

・国際租税法の基本構造の理解を最優先とし，所得課税（法人税及び所得税）の国際的側面について主要な制度の概要及び法令等の適用関係について講義を行う．また，国際課税問題についての理解をより深めるために，近年話題となった具体事例等についても適宜紹介する．

・学習内容の定着を図るため，随時，宿題及びレポートを課す．レポートについては，会計大学院 HP または ISTU に事前提示する判例資料を基に，講義の進捗に応じて主要制度に関わる判例について意見をまとめ，提出する（一人当たり 2 判例．詳細は講義の中で説明する．）．なお，講義の進捗状況に応じて，講義内においてレポートに基づく発表を求めることがある．

予習・復習について

＜予習＞

・会計大学院 HP または ISTU に事前掲示する講義資料，判例資料等を読み，疑問点等を整理しておくこと．

＜復習＞

・講義資料等を読み直すとともに，学習した項目に関連する法令，条約等の条文を確認して理解を確実にすること．また，宿題を確実にこなすこと．

この講義を受講するために必要とする知識

・税法一般，所得税法，法人税法に関する基礎的な知識があることが望ましい（なくとも受講は可．）

テキスト・参考文献

・テキスト：毎回，各テーマについてパワーポイント等による講義資料を使用する．
参考資料として，国際課税関係の判例等を資料集として会計大学院 HP または ISTU に掲載する．

・参考文献：増井良啓・宮崎裕子『国際租税法［第 4 版］』東京大学出版会，2019 年．

（その他）

法人税法等の法令は，e － Gov（電子政府総合窓口）上の法令データ提供システムにて，法人税法の解釈通達である法人税基本通達や税制改正の概要等の情報は国税庁 HP にて，また，租税条約，税制改正の詳細な解説については財務省 HP にて，それぞれ参照できる．

時間割

前期　木曜 6 限

科目ナンバー

EAC-LAW604

成績評価法

・平常点（40 %），宿題（20 %），判例レポート（40%）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

木曜日
9:30-11:30

連絡先

022-217-6287
toshinori.chiba.a2@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・講義資料を原則各回ごとに会計大学院 HP または ISTU に事前掲示する．講義時に参照できるよう，各自印刷等して講義に臨むこと．

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

1. オリエンテーション
　・講義の進め方等について説明する.
　・次回以降の講義の予定について以下に沿って概要を説明する.
　第 2 回：国際租税の基本構造，基礎概念
　第 3 回：インバウンド取引の課税（1）－非居住者・外国法人課税
　第 4 回：インバウンド取引の課税（2）－国内源泉所得
　第 5 回：アウトバウンド取引の課税（1）－外国税額控除
　第 6 回：アウトバウンド取引の課税（2）－外国子会社配当益金不算入制度
　第 7 回：租税条約（1）
　第 8 回：租税条約（2），移転価格税制（1）
　第 9 回：移転価格税制（2）
　第 10 回：移転価格税制（3）
　第 11 回：外国子会社合算税制（1）
　第 12 回：外国子会社合算税制（2）
　第 13 回：過少資本税制，過大支払利子税制等
　第 14 回：OECD における税源侵食と利益移転（BEPS）プロジェクト等（1）
　第 15 回：OECD における税源侵食と利益移転（BEPS）プロジェクト等（2）

（上記の予定は目安であり，実際の講義の進行状況等によって適宜修正することもありうる.）

　・宿題，判例レポートの詳細について説明する.
　・国際租税法のアウトライン，法源等

学ぶべき用語・ポイント

- 二重課税の排除，国際的租税回避の防止，課税権の分配
- 租税条約
- 移転価格税制，外国子会社合算税制

第 2 回：国際租税法の基本構造，国際課税の基礎概念／ Basic concept and structure of the international taxation system

講義の内容

1. 国際課税制度の基本
2. 課税権確保のための制度
3. インバウンド取引と課税
4. アウトバウンド取引と課税
5. 居住者と非居住者，内国法人と外国法人

参考判例：最高裁 H23.2.18 第二小法廷判決
参考文献：別冊ジュリスト租税判例百選第 6 版 30 頁「住所の意義－武富士事件」
浅妻章如

学ぶべき用語・ポイント

- 居住地管轄と源泉地管轄
- 居住者，非居住者
- 内国法人，外国法人
- 国内源泉所得課税
- 国外所得免除方式，全世界所得課税方式＋外国税額控除制度
- 住所の意義
- 本店所在地基準と管理支配基準

第 3 回：インバウンド取引の課税（1）－非居住者・外国法人課税の仕組－／ Taxation on inbound transaction (1)-　Taxation on Non-residents and Foreign corporation

講義の内容

1. 国内源泉事業所得課税の原則
2. 恒久的施設（PE）
3. 非居住者・外国法人に対する課税方法
4. 総合主義と帰属主義
5. 帰属主義への変更

参考判例：東京地裁 H27.5.28 判決

参考文献：ジュリスト 1494p119「インターネット販売業者のアパート及び倉庫が日米租税条約上の恒久的施設に該当するとされた事例」藤谷武史

学ぶべき用語・ポイント

- 「PE なければ課税なし」
- 支店 PE，建設作業 PE，代理人 PE
- 総合主義 vs. 帰属主義
- 独立企業原則
- OECD 承認アプローチ（AOA）
- 内部取引の認識

第４回：インバウンド取引の課税（2）－国内源泉所得－／Taxation on inbound transaction (2)-　Domestic source income

講義の内容

1. 国内法に規定するソース・ルールの概要
2. PE に帰属しない国内源泉所得
3. 非居住者の国内源泉所得
4. 源泉分離課税と総合課税

参考判例：最高裁 H16.6.24 第一小法廷判決
参考文献：別冊ジュリスト租税判例百選第 6 版 132 頁「外国法人に対する使用料と源泉地」
　　宮崎裕子

学ぶべき用語・ポイント

- 源泉所得（ソースルール）と源泉徴収の違い
- 資産運用所得，資産譲渡所得，人的役務提供の対価，不動産賃貸料
- 利子，配当，使用料
- 使用地主義，債務者主義
- 申告納税方式
- 源泉分離方式

第 5 回：アウトバウンド取引の課税（1）－外国税額控除－／Taxation on outbound transaction (1)-Foreign tax credit

講義の内容

1. 国際的二重課税排除
2. 外国税額控除制度の概要
3. 外国税額控除制度の対象となる外国法人税と控除限度額の計算過程
4. 控除限度超過額及び控除余裕枠の取扱い
5. 外国税額控除の適正化・濫用防止策

参考判例：最高裁 H17.2.19 第二小法廷判決
参考文献：別冊ジュリスト租税判例百選第 6 版 38 頁「租税法規の限定解釈」岡村忠生

学ぶべき用語・ポイント

- 外国税額控除方式と国外所得免除方式
- 外国子会社
- 国外所得金額
- みなし外国税額控除制度

第６回：アウトバウンド取引の課税（2）－外国子会社配当益金不算入制度等－／ Taxation on outbound transaction (2)-Exclusion of foreign subsidiaries dividends received, etc.

講義の内容

1. 外国子会社配当益金不算入制度の導入と間接外国税額控除制度の廃止
2. 外国子会社配当益金不算入制度の概要
3. 様々な事業体に対する課税

参考判例：最高裁 H27.7.17 第二小法廷判決
参考文献：税務弘報 63 巻 12 号 100 頁「デラウェア州法に基づくリミテッド・パートナーシップの『法人』該当性」吉村政穂

学ぶべき用語・ポイント

- 損金算入配当の適用除外
- 外国子会社配当益金不算入制度のメリット・デメリット
- ハイブリッド事業体への租税条約の適用
- PS，LPS，LLC
- パス・スルー課税
- チェック・ザ・ボックス規定

第 7 回：租税条約（1）／ Tax treaties (1)

講義の内容

1. 租税条約の目的
2. 我が国の租税条約の現状
3. 租税条約と国内租税法
4. 条約漁りとその対応
5. 日米租税条約の具体的内容（1）

参考判例：東京高裁 S59.3.14 判決

参考文献：・別冊ジュリスト租税判例百選第 6 版 130 頁「課税権及ぶ範囲－オデコ大陸棚事件」一高龍司

・「コンメンタール改訂日米租税条約」浅川雅嗣

学ぶべき用語・ポイント

- OECD モデル租税条約
- TIEA（租税情報交換協定）
- 税務行政執行共助条約
- 徴収共助
- 課税権の分配
- 条約漁り（トリーティ・ショッピング）
- 特典制限条項（LBO）
- プリザベーション条項
- セービング条項

第８回：租税条約（2），移転価格税制（1）／Tax treaties (2)，Transfer pricing taxation (1)

講義の内容

（租税条約（2））
1. 日米租税条約の具体的内容（2）
2. 相互協議
3. 情報交換
（移転価格税制（1））
1. 移転価格税制導入の背景
2. 移転価格税制の制度の仕組
3. 国外関連者の範囲
4. 独立企業間価格の算定方法（基本三法）

参考判例：東京高裁 H19.6.28 判決
参考文献：・別冊ジュリスト租税判例百選第 5 版 130 頁「日蘭租税条約の『その他所得』」宮本十至子
・「コンメンタール改訂日米租税条約」浅川雅嗣
参考判例：高松高裁 H18.10.13 判決
参考文献：・ジュリスト 1289 号 236 頁「移転価格税制の適用範囲と独立企業間価格の算定方法」今村隆

学ぶべき用語・ポイント

- 限度税率
- 相互協議，情報交換，仲裁制度
- 国外関連者
- 比較対象取引
- 基本三法（独立価格比準法，再販売価格基準法，原価基準法）

第 9 回：移転価格税制（2）／ Transfer pricing taxation (2)

講義の内容

1. 基本三法以外の算定方法
2. 差異の調整

参考判例：東京高裁 H20.10.30 判決
参考文献：別冊ジュリスト租税判例百選第 6 版 140 頁「独立企業間価格の意義（1）」
　　藤枝純
参考判例：東京地裁 H24.4.27 判決
参考文献：ジュリスト 1445 号 8 頁「移転価格税制において寄与度利益分割法の適用が認められた事例」神山弘行

学ぶべき用語・ポイント

- 利益分割法（寄与度利益分割法，残余利益分割法，比較利益分割法）
- 取引単位営業利益法
- 基本三法優先の廃止（ベスト・メソッド）

第 10 回：移転価格税制（3）／ Transfer pricing taxation (3)

講義の内容

1. 無形資産の移転に伴う問題
2. 文書化制度
3. 相互協議と国内法の救済
4. 事前確認制度
5. 移転価格執行上の論点

参考判例：東京地裁 H23.12.1 判決
参考文献：ジュリスト 1462 号 124 頁「移転価格税制の適用にあたり推定課税が認められた事例」駒宮史博
参考判例：東京高裁 H27.5.13 判決
参考文献：別冊ジュリスト租税判例百選第 6 版 142 頁「独立企業間価格の意義（2）」佐藤修二

学ぶべき用語・ポイント

- 米国のスーパーロイヤリティ条項
- 費用分担契約
- 推定課税
- マスターファイル，国別報告書，ローカルファイル
- 事前確認（APA）制度
- 独立企業間価格の幅（レンジ）

第 11 回：外国子会社合算税制（1）／ Foreign subsidiary combined taxation (1)

講義の内容

1. タックス・ヘイブンとは
2. タックス・ヘイブンを利用した国際的租税回避行為
3. 外国子会社合算税制の仕組

参考判例：最高裁 H21.12.3 第一小法廷判決
参考文献：最高裁判所判例解説 63 巻 9 号 2095 頁　倉地康弘

学ぶべき用語・ポイント

- 有害な税の競争
- 対象となる内国法人等
- 特定外国子会社等
- トリガー税率

第12回：外国子会社合算税制（2）／Foreign subsidiary combined taxation (2)

講義の内容

1. 平成 29 年度抜本改正の趣旨とポイント
2. 経済活動実体の判定
3. 租税回避リスクと外国子会社の所得種類
4. 適用免除基準

参考判例：最高裁 H21.10.29 第一小法廷判決
参考文献：別冊ジュリスト租税判例百選第 6 版 136 頁「タックス・ヘイブン対策税制の条約適合性」弘中聡浩
参考判例：最高裁 H19.9.28 第二小法廷判決
参考文献：別冊ジュリスト租税判例百選第 6 版 56 頁「外国子会社の欠損金の帰属」錦織康高
参考判例：東京高裁 H25.5.29 判決
参考文献：ジュリスト 1472 号 127 頁「外国子会社合算税制の適用除外要件の充足の有無」本庄資
参考判例：最高裁 H29.10.24 第三小法廷判決

学ぶべき用語・ポイント

- 事業基準
- 実体基準
- 管理支配基準
- 所在地国基準
- ペーパーカンパニー，キャッシュボックス

第 13 回：過少資本税制，過大支払利子税制等／Undercapital tax system, Excessive interest tax system

講義の内容

1. 過少資本税制等の導入の背景及び制度の概要
2. 過少資本税制適用時の損金不算入となる負債利子の計算方法
3. 過大支払利子税制導入の意義と制度の概要

学ぶべき用語・ポイント

- 国外支配株主等
- 資金供与者等
- 関連者への純支払利子
- 調整所得金額

第 14 回：OECD における税源侵食と利益移転（BEPS）プロジェクト等（1）／ Base Erosion and Profit Shifting Project at the OECD, etc. (1)

講義の内容

1. BEPS プロジェクトの経緯
2. 注目を集めた事例・スキーム
3. BEPS プロジェクト最終報告書の概要①

学ぶべき用語・ポイント

- 税源侵食と利益移転（BEPS）プロジェクト
- 問屋スキーム
- パテントボックス税制

第 15 回：OECD における税源侵食と利益移転（BEPS）プロジェクト等（2）／ Base Erosion and Profit Shifting Project at the OECD, etc. (2)

講義の内容

1. BEPS プロジェクト最終報告書の概要②
2. その他の国際的な租税回避に対応した税制改正

○参考資料集に掲載予定の判例資料等（主なもの）

《判例》

・国際課税の基礎概念
　①最高裁平成 23 年 2 月 18 日第二小法廷判決（武富士事件）
　②東京高裁昭和 59 年 3 月 14 日判決（オデコ大陸棚事件）
　③最高裁平成 16 年 6 月 24 日第一小法廷判決（使用料の源泉地）
　④東京地裁裁決平成 27 年 5 月 28 日（インターネット販売業者の PE）
・租税条約
　⑤東京高裁平成 19 年 6 月 28 日判決（ガイダント事件）
・外国税額控除
　⑥最高裁平成 17 年 12 月 19 日第二小法廷判決（りそな銀行事件）
　⑦最高裁平成 21 年 12 月 3 日第一小法廷判決（ガーンジー島事件）
・外国子会社合算税制
　⑧最高裁平成 21 年 10 月 29 日第一小法廷判決（グラクソ事件)
　⑨最高裁平成 19 年 9 月 28 日第二小法廷判決（双輝汽船事件）
　⑩東京高裁平成 25 年 5 月 29 日判決（レンタルオフィス事件）
　⑪最高裁平成 29 年 10 月 24 日第三小法廷判決（デンソー事件）
・移転価格税制
　⑫高松高裁平成 18 年 10 月 13 日判決（今治造船事件）
　⑬東京高裁平成 20 年 10 月 30 日判決（アドビ事件）
　⑭東京地裁平成 24 年 4 月 27 日判決（寄与度利益分割法適用事例）
　⑮東京地裁平成 23 年 12 月 1 日判決（推定課税適用事例）
　⑯東京高裁平成 27 年 5 月 13 日判決（ホンダ・マナウス税恩典事件）
・多様な事業体
　⑰最高裁平成 27 年 7 月 17 日第二小法廷判決（米国 LPS の法人該当性）

《その他》

・税制調査会　第 6 回国際課税ディスカッショングループ（平成 27 年 10 月 23 日）説明資料〔BEPS プロジェクト最終報告について〕

学ぶべき用語・ポイント

・無形資産取引に係るルール
・非居住者に係る金融口座情報の自動的情報交換のための報告制度
・国外財産調書制度
・国外転出時課税制度
・新たな文書化制度

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

消費税法・福田　茂／ Consumption Tax 1・Shigeru Fukuda

講義の目的／ Course Objective

国の活動を行うための財源となる租税には，所得税や法人税などの直接税と消費税や酒税などの間接税があります．これらの税目や税率については，社会や経済情勢の変化，経済のグローバル化，人口構造の変化等に伴って，どのような税制が好ましいかの議論が行われています．

消費税は，日本国内での消費全般に対して広く，薄く負担を求めるものとして平成元年４月１日に導入された比較的新しい税であり，その後，益税の解消等を目的として様々な改正が行われてきました．そして，昨年 10 月 1 日から，税率が８％から 10％に引き上げられると同時に，食料品等についての軽減税率制度が実施され，その実施状況が注目されています．消費税は企業個々の経営戦略とも密接に関係すること，納付税額の計算に当たっては法人税の会計処理に連動して行うことなどから，公認会計士・税理士を目指す皆さんや企業の経理担当者にとっても必要不可欠な知識となっています．

本講義は，消費税法の基本的な理論や体系を理解し，税額計算等の基礎的な処理能力を習得すること，消費税申告書の作成方法を習得すること，そして最終的には，公認会計士試験論文式（租税法）の問題と同程度の税額計算等ができるようになることを目的として行います．

This course deals with the basic theory and system of consumption tax.

It also enhances the development of basic processing skills in calculating tax amount and preparing consumption tax returns.

At the end of the course, students are expected to be able to calculate tax amount, which is comparable to questions of the essay test (tax law) in the Certified Public Accountant Examination.

講義の進め方

消費税テキスト，パワーポイント資料を使用し，用語の意味，基本的な取り扱い及び実務上の重要事項の説明を中心に講義を進めます．

4 回目以降の講義は，講義テーマに即した演習問題を課し，次回の講義で演習問題の解答及び留意点を説明することにより，学習内容の理解が深まるように進めます．

後半には，法人の決算事例を基に，消費税及び地方消費税の納付税額を算出する計算問題に取り組むとともに，過去の公認会計士試験論文式（租税法）における消費税に関する計算問題に係る解答方法を解説します．

予習・復習について

＜予習＞

・事前にテキストの該当部分及びパワーポイント資料を読み，疑問点等を整理する．

＜復習＞

・演習問題を確実に行うとともに解答をチェックし，学習した内容は確実に理解する．

この講義を受講するために必要とする知識

簿記に関する基礎的知識を有していることが望ましい．

テキスト・参考文献

・税務大学校 HP 掲載の税務大学校講本『消費税法』を各自がダウンロードして使用する．
・国税庁リーフレット『消費税のあらまし（令和 2 年 6 月）』を配付する．
・パワーポイント教材をレジュメとして使用する．
・講本で引用する「消費税法」「消費税法施行令」及び「消費税法基本通達」（抜粋）は，随時印刷して配付する．
・その他の資料や参考文献は必要に応じて講義中に紹介する．

時間割

後期　土曜 2 限

科目ナンバー

EAC-LAW605

成績評価法

・演習問題（50％），理解度確認セッション（50％）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

講義時間の前後それぞれ 30 分程度．

連絡先

初回講義時に通知する．

その他（連絡事項）

・予習・復習を確実に行うこと．
・法令，通達の読み方を身に付ける．

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

講義の目的：

講義の概要，講義の進め方，成績評価，学習方法等について説明を行う．

講義の概要：

・消費税の創設理由，あらまし，その後の税制改正の背景などを説明・紹介する．
・2 回目以降の講義の概要（予定）を説明する．
　第 2 回：総説（1）間接税の概要，消費税創設の背景
　第 3 回：総説（2）消費税の使途，消費税のあらまし
　第 4 回：課税の対象
　第 5 回：非課税と免税
　第 6 回：納税義務者，納税義務の成立
　第 7 回：課税標準と税率
　第 8 回：課税標準額等の計算
　第 9 回：税額控除の概要
　第 10 回：仕入控除税額の計算方法
　第 11 回：簡易課税制度等
　第 12 回：課税期間，申告・納付，納税地
　第 13 回：消費税及び地方消費税の申告書作成
　第 14 回：消費税法講義のまとめ，公認会計士試験の論文式問題の解説
　第 15 回：理解度確認セッション
・パワーポイントを用いて説明する（次回以降も同様）．

＜宿題＞

・第 3 回の講義から演習問題を配付し，次の講義時に答案の提出を受けた後解説を行う．以下，計 10 回演習問題を実施する．
・なお，休講の場合は，答案の提出はメールでの提出とし，解答，解説及び次回の演習問題をメールで送信する．

学ぶべき用語・ポイント

・消費税を学ぶことの意義

第 2 回：総説（1）間接税の概要，消費税創設の背景／ Overview of indirect tax，Background of the establishment of the consumption tax

講義の内容

1. 租税の分類（直接税・間接税，所得課税・資産課税・流通課税など）を理解する．
2. 間接税の特徴と種類を理解する．
3. 課税の対象となるもの（課税標準）による区分，従量税（課税物品の数量等を基礎とするもの）と従価税（取引価格を基礎とするもの）を理解する．
4. 消費税が導入された背景と消費税導入の必要性を考える．
5. 消費税と同様な諸外国の税制・税率を理解する．

学ぶべき用語・ポイント

- 担税者，納税義務者
- 直接税と間接税，従量税と従価税
- 課税標準，消費税，付加価値税

第 3 回：総説（2）消費税の使途 , 消費税のあらまし／ Use of consumption tax，Summary of consumption tax

講義の内容

1. 税率，事業者免税点，簡易課税制度，みなし仕入れ率，中間申告基準等の改正の経緯と背景等を理解する.
2. 地方消費税とはどのようなものか.
3. 国・地方間の消費税収の配分はどのようになっているか.
4. 消費税の「社会保障目的税化」とは何かを考える.
5. 消費税にはどのような性格があるかを理解する.
6. 消費税の基本的な流れと仕組みを理解する.
   ・商品の原材料を扱う会社→完成品製造業者→卸売業者→小売業者→消費者までの取引過程で，「消費税」がどのように計算し納付されているか.

＜宿題 1 ＞
間接税の概要，消費税の性格

学ぶべき用語・ポイント

・地方消費税
・課税の対象，非課税取引と免税取引
・課税期間，税率

第 4 回：課税の対象／ Taxable, etc.

講義の内容

1. 消費税の課税の対象は何か.
2.「課税の対象」と「取引」との関係を考える.
3. 課税の対象とならない取引（不課税取引） とは何かを理解する.
4. 不課税取引の「対価性」について考える.
5. 音楽配信等の国境を越えて行われる取引の課税方法を理解する.

＜宿題 2 ＞
課税の対象

学ぶべき用語・ポイント

- 事業者
- 国内取引と輸入取引
- 資産の譲渡等，課税資産の譲渡等，不課税取引
- 外国貨物，課税貨物，保税地域

第 5 回：非課税と免税／ Tax exemption and tax exemption, etc.

講義の内容

1. 特定の取引を非課税としていることの意義を考える.
   ・具体的な取引事例において，どのようなものが非課税であるかを理解する.
2. 免税の意義は何かを理解する.
3. 免税と非課税との違いを考える.

＜宿題 3 ＞
免税と非課税

学ぶべき用語・ポイント

・消費税法別表第一・第二
・土地の譲渡及び貸付（土地の上に存する権利，一時的に使用させる場合等），有価証券，物品切手等，住宅家賃
・消費地課税主義，仕向地課税主義
・輸出免税，輸出物品販売場

第 6 回：納税義務者，納税義務の成立／ Taxpayer，Establishment of tax obligation, etc.

講義の内容

1. 消費税を納める義務を負う者（納税義務者＝課税事業者）はだれかを理解する.
2. 小規模事業者の納税義務の免除とは何か.
   ・原則は 2 年前の課税となる売上が 1 千万円以下なら免税となる.
3. 納税義務免除の特例とは何かを理解する.
4. 通常の場合の納税義務の成立の時期はいつかを理解する.

＜宿題 4 ＞
納税義務者と納税義務の成立

学ぶべき用語・ポイント

- 課税事業者，免税事業者
- 基準期間，特定期間，課税期間の原則
- 課税売上高，課税資産を譲渡等した時

第 7 回：課税標準と税率 ／ Tax bases and rates, etc.

講義の内容

1.「課税標準」とは何か.
2.「国内取引の課税標準」はどのようになっているか.
3.「輸入取引の課税標準」とは何かを理解する.
4. 一般税率と軽減税率について考える.
5. 税率引き上げ後でも一定期間内の取引は８％となる経過措置があることを確認する.

＜宿題 5 ＞
課税標準の計算

学ぶべき用語・ポイント

- 課税標準，課税資産の譲渡等の対価の額
- 金銭又は金銭以外の物もしくは権利その他経済的利益
- みなし譲渡
- 経過措置

第 8 回：課税標準額等の計算／ Calculation of standard tax amount, etc.

講義の内容

1. 課税標準額とは何かを理解する.
2. 会計処理における税込経理方式と税抜経理方式を理解する.
   ・課税標準額及び消費税額の具体的な計算は，所得税及び法人税の会計処理の方式に対応して行う.
3. 消費税額等相当額を区分領収している場合の課税標準額の計算を理解する.
4. 総額表示の義務と消費税額計算との関係について考える.
   ・店頭の表示やレシートの表示を見てみよう.

＜宿題 6 ＞
課税標準額と消費税額の計算

学ぶべき用語・ポイント

・課税標準額
・税込経理方式，税抜経理方式
・総額表示の義務

第 9 回：仕入税額控除の概要／ Overview of purchase tax credit, etc.

講義の内容

1. 税額控除とは何か.
   ・税額控除にはどのようなものがあるか.
   ・製造，卸売，小売の各段階で税額が累積しない仕組みとはどのようなものか.
2. 納付税額の計算の仕組みを理解する.
3. 課税仕入れとその範囲，対象を考える.
4. 課税仕入れに係る消費税額の計算と仕入税額控除の要件を理解する.

＜宿題 7 ＞
税額控除②，課税仕入れに係る消費税額の計算

学ぶべき用語・ポイント

・税額控除
・課税仕入れ
・帳簿及び請求書等の保存

第 10 回：仕入控除税額の計算方法／ Calculation of input tax credit, etc.

講義の内容

1. 仕入控除税額の計算を理解する.
2. 課税売上割合とその計算方法を理解する.
3. 課税仕入れ等の税額の全部を控除できる場合と全額を控除できない場合とはどのような場合かを考える.
4. 全額を控除できない場合の計算方法とその場合の処理を理解する.
5.「95％ルール」適用要件の見直しについて考える.
6. 講義中に，課税売上割合，個別対応方式・一括比例配分方式の計算問題に取り組む.

＜宿題 8 ＞

税額控除等②　課税売上割合，個別対応方式・一括比例配分方式の計算事例

学ぶべき用語・ポイント

- 課税売上割合
- 個別対応方式，一括比例配分方式
- 95％ルール

第 11 回：簡易課税制度等／ Simple tax system, etc.

講義の内容

1. 簡易課税制度とはどのような制度か.
   ・適用を受けるためにはどのような要件が必要か.
2. 簡易課税制度による場合の仕入控除税額とみなし仕入率について理解する.
3. 簡易課税制度の事業区分を考える.
4. 二以上の事業を行っている場合のみなし仕入率の算出方法を理解する.
5. 簡易課税方式による消費税の計算問題に取り組む.
6. 売上げに係る対価の返還等をした場合の税額控除はどのようにするか.
7. 貸倒れが生じた場合の税額控除はどのようにするか.

＜宿題 9 ＞
税額控除等③　簡易課税方式の計算事例

学ぶべき用語・ポイント

・簡易課税制度,・事業区分，みなし仕入率
・返品，値引，割戻し，貸倒れ

第 12 回：課税期間，申告・納付，納税地／ Tax period，Filing and tax payment，Tax payment place

講義の内容

1. 課税期間と（早期に税額還付を受けるための）課税期間の特例について考える．
2. 国内取引に係る申告と納付を理解する．
3. 中間申告と納付が必要とされる事業者がいることを理解する．
4. 輸入取引に係る申告と納付を理解する．
5. 納税地とはどのような場所かを考える．

＜宿題 10 ＞
　総合問題，申告書の作成事例

学ぶべき用語・ポイント

・確定申告，中間申告，仮決算

第 13 回：消費税及び地方消費税の申告書作成／ Creating a consumption tax return

講義の内容

1. 法人の決算書の事例から，消費税及び地方消費税の申告書（一般用）を作成する．
2. 申告書の具体的な作成方法を理解する．
3. 過去の公認会計士試験の論文式問題の解答を考える．
   過去の公認会計士試験問題のうち，平成 31 年論文式租税法の問題３「消費税法」について，解答の仕方等を習得する．

学ぶべき用語・ポイント

- 課税標準額の算出，控除仕入れ税額の算出，納付すべき税額の算出，地方消費税の算出方法
- 消費税申告書（一般用）用紙の仕組み

第 14 回：消費税法講義のまとめ，公認会計士試験の論文式問題の解説／ go over what we covered ， Explanation of CPA Exam

講義の内容

1. 理解度確認セッションを前提として，これまでの講義のポイントである消費税の可否判定（課税売上・免税売上・非課税・不課税），消費税法の取扱いの適否，課税標準の算出の仕方，税額控除の仕組み，課税売上割合の算出，本則課税による仕入税額控除の算出等を復習する．
2. 過去の公認会計士試験問題のうち，平成 30 年論文式租税法の問題 3「消費税法」について，解答の仕方等を解説する．

学ぶべき用語・ポイント

・限られた時間の中で，消費税の計算問題を解く方法を理解する．

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

1. 理解度確認セッションの実施により，消費税法の習熟度を確認する．
   電卓のみ持ち込み可．
2. 理解度確認セッションの解答を確認する．

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

所得税法・工藤繁昭／ Individual Income Tax・Shigeaki Kudou

講義の目的／ Course Objective

所得税法の基本的な事項を理解し，所得計算の方法を習得すること．

The purpose of this lecture is to understand the basics of income tax law and to learn how to calculate income.

講義の進め方

・原則として，所得税法及びテキストに沿って講義を進めていくが，基本的な事項については，十分に時間を使ってメリハリのあるものとしたい．
・四回目講義以降は，講義毎に練習問題等を課し，次回の講義でその練習問題の復習を行う．
・最終的には，公認会計士試験論文式（租税法）の問題と同程度の基礎的な所得計算ができるようになることを目指して進めていく．
・理解度確認セッションを行う．

予習・復習について

＜予習＞
・講義は，テキスト及び所得税法の該当条文を読んでいることを前提としているので，必ず読んでくること．
・「学ぶべき用語・ポイント」を調べること．
＜復習＞
・練習問題（宿題）と回答をチェックし，確実に理解すること．

この講義を受講するために必要とする知識

・簿記，財務諸表論の基本的な知識．
・租税に関する基礎的な知識．

テキスト・参考文献

・基本テキスト：税務大学校ＨＰ掲載の税務大学校講本「所得税法」を各自がダウンロードして使用する．
・所得税法
・参考資料：講義の際に配付する．
・参考文献：必要に応じて講義の中で紹介する．

時間割

前期　土曜 2 限

科目ナンバー

EAC-LAW606

成績評価法

・小テスト（50％），理解度確認セッション（50％）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

講義時間の前後それぞれ 30 分程度

連絡先

初回講義時に通知する．

その他（連絡事項）

・法令・通達を読む習慣を身につけること．

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

講義の目的：

講義の進め方，成績評価方法，学習方法などについて説明を行う．第 2 回以降の講義の概要は以下のとおりである．

第 2 〜 3 回：所得税法総則　所得税の意義・特色，納税義務者と課税所得の範囲
第 4 〜 5 回：所得の種類　所得の種類と意義，各種所得の内容
第 6 回：課税標準の計算（1）　各種所得金額の計算方法（利子・配当・不動産・事業等）
第 7 回：課税標準の計算（2）　総所得金額，所得の課税の特例等
第 8 〜 9 回：課税標準の計算（3）　収入金額
第 10 〜 12 回：課税標準の計算（4）　必要経費，収入及び必要経費に関する特例，損益通算
第 13 回：所得控除
第 14 回：税額の計算，源泉徴収，所得税の申告，納付及び還付・青色申告等
第 15 回：理解度確認セッション

第 2 〜 3 回：所得税法総則　所得税の意義・特色，納税義務者と課税所得の範囲／Income tax low general rules

講義の内容

1. 所得税の特色を理解する．
2. 所得税法の規定の柱を理解する．
3. 所得税法上の所得を理解する．
4. 非課税所得の趣旨，種類及び根拠法令を理解する．
5. 納税義務者の区分と課税所得の範囲を理解する．
   ・居住形態によって，それぞれ課税の範囲が定められている．
6. 実質所得者課税の原則の規定の趣旨と考え方を理解する．
7. 所得税法の納税地を理解する．
8. 非居住者に対する課税を理解する．

学ぶべき用語・ポイント

- 所得税
- 直接税
- 間接税
- 租税法律主義
- 所得の種類
- 非課税所得
- 免税所得
- 納税義務者
- 居住者
- 非居住者
- 非居住者以外の居住者
- 非永住者
- 内国法人
- 外国法人
- 人格のない社団等
- 国内源泉所得者
- 国外源泉所得者
- 実質所得者課税の原則
- 納税地
- 納税地の特例
- 非居住者に対する課税
- 法人に対する課税

第 4 〜 5 回：所得の種類　所得の種類と意義，各種所得の内容／ Type of income

講義の内容

1. 所得をその性質によって区分することを理解する.
2. 所得税の計算と仕組みを理解する.
3. 各種所得の内容とその範囲を理解する.

＜宿題＞

・非課税所得，納税義務者，納税地
・所得区分（1）

学ぶべき用語・ポイント

・利子所得
・配当所得
・不動産所得
・事業所得
・給与所得
・青色事業専従者給与
・事業専従者控除額
・退職所得
・山林所得
・譲渡所得
・短期譲渡所得
・長期譲渡所得
・一時所得
・雑所得
・公的年金等

第 6 回：課税標準の計算（1） 各種所得金額の計算方法（利子・配当・不動産・事業等）／ Calculation of tax base（1）

講義の内容

1. 各種所得の金額の計算方法を理解する.
2. 不動産所得に係る必要経費の取扱いを理解する.
   ・事業規模か，業務的規模か，によって取扱いが異なる.

＜宿題＞
・所得区分（2）

学ぶべき用語・ポイント

- 利子所得の収入金額
- 配当所得の収入金額
- みなし配当
- 不動産所得に係る総収入金額
- 不動産所得に係る必要経費の取扱い
- 資産損失
- 給与所得控除額
- 給与所得者の特定支出の特例
- 退職所得控除額
- 山林所得の特別控除額
- 森林計画特別控除
- 概算経費控除の特例
- 短期譲渡所得
- 長期譲渡所得
- 譲渡所得の特別控除
- 一時所得の特別控除
- 公的年金等
- 公的年金控除額

第 7 回：課税標準の計算（2） 総所得金額，所得の課税の特例等／ Calculation of tax base（2）

講義の内容

1. 所得税法における課税標準の内容と計算方法を理解する.
2. 総所得金額を理解する.
3. 総所得金額の計算方法を理解する.
4. 租税特別措置法に規定する所得税の課税の特例を理解する.
   - 申告分離課税とされる所得
   - 源泉分離課税とされる所得

＜宿題＞

・各種所得の課税標準額（1）

学ぶべき用語・ポイント

- 課税標準
- 総所得金額
- 短期譲渡所得の総合課税
- 申告分離課税
- 源泉分離課税
- 譲渡所得に対する特例
- 株式等の譲渡の特例
- 先物取引に係る特例
- 確定申告を要しない配当所得

第 8 〜 9 回：課税標準の計算（3） 収入金額／ Calculation of tax base（3）

講義の内容

1. 所得税法の収入金額と総収入金額を理解する.
2. 各種所得の収入金額の計上時期を理解する.
3. 別段の定めにより収入金額とされるものと，その計算方法を理解する.
4. 事業所得等の収入金額とされる保険金等を理解する.
5. 物又は権利による総収入金額の計算方法を理解する.

＜宿題＞

・各種所得の課税標準額（2）

・配当所得の金額と不動産所得の金額の計算

学ぶべき用語・ポイント

・収入金額
・総収入金額
・各種所得の収入金額の計上すべき時期
・棚卸資産の自家消費又は贈与
・棚卸資産の低廉譲渡
・経済的利益
・収入金額とされる保険金，損害賠償等

第 10 ～ 12 回：課税標準の計算（4） 必要経費，収入及び必要経費に関する特例・損益通算／ Calculation of tax base（4）

講義の内容

1. 所得税法における必要経費を理解する．
2. 必要経費とされない支出を理解する．
3. 所得税法における売上原価の計算を理解する．
4. 所得税法における棚卸資産と評価方法を理解する．
5. 所得税法における販売費，一般管理費等の必要経費を理解する．
6. 不動産所得に係る必要経費を理解する．
7. 生命保険契約等による一時所得の収入を得るために支出した費用を理解する．
8. 譲渡所得の取得費と譲渡費用を理解する．
9. 山林所得の必要経費を理解する．
10. 減価償却の意義と計算方法を理解する．
11. 繰延資産の範囲とその償却方法を理解する．
12. 資本的支出と修繕費との差異を理解する．
13. 所得税法の資産損失を理解する．
14. 貸倒れの判定基準を理解する．
15. 生計を一にする親族に支払う給与等の取扱いを理解する．
16. 青色申告を理解する．
17. 所得税法の収入金額及び必要経費に関する特例と，その取扱いを理解する．
18. 所得税法における損益通算と，損益通算の方法を理解する．

＜宿題＞

・事業所得の金額の計算
・譲渡所得の金額の計算，収入計上時期，減価償却
・必要経費，家事関連費，棚卸資産の評価

学ぶべき用語・ポイント

・必要経費
・家事関連費等
・租税公課等
・売上原価
・棚卸資産
・棚卸資産の取得価額
・棚卸資産の評価方法
・有形固定資産
・無形固定資産
・牛馬，果樹等
・取得価額
・残存価額
・耐用年数
・償却率
・定額法
・定率法
・繰延資産
・繰延資産の償却方法
・開業費
・試験研究費
・開発費
・資本的支出と修繕費
・資産損失
・貸倒損失
・青色事業専従者給与
・事業専従者控除額
・青色申告特別控除
・損益通算
・損益通算の順序

第 13 回：所得控除／ Income deduction

講義の内容

1. 所得控除を理解する.
2. 所得控除が設けられた目的を理解する.
3. 各所得控除の内容，適用範囲及び控除金額を理解する.
4. 確定申告書への記載及び関係書類の添付等を理解する.
5. 課税標準から控除する各所得控除の順序を理解する.

＜宿題＞

・損益通算

学ぶべき用語・ポイント

- 所得控除
- 雑損控除
- 医療費控除
- 社会保険料控除
- 小規模共済掛金控除
- 生命保険料控除
- 損害保険料控除
- 寄付金控除
- 障害者控除
- 寡婦（寡夫）控除
- 勤労学生控除
- 配偶者控除
- 配偶者特別控除
- 扶養控除
- 基礎控除

第 14 回：税額の計算，源泉徴収，所得税の申告，納付及び還付・青色申告等／Calculation of tax amount

講義の内容

1. 税額の計算方法を理解する．
2. 所得税の税率と，税額の計算方法を理解する．
3. 変動所得と臨時所得を理解する．
4. 変動所得と臨時所得の税額の計算方法を理解する．
5. 税額控除を理解する．
6. 源泉徴収の仕組みを理解する．
7. 源泉徴収の対象となる所得を理解する．
8. 源泉徴収の税率を理解する．
9. 源泉徴収義務者を理解する．
10. 源泉徴収と申告納税額との関連を理解する．
11. 申告納税方式を理解する．
12. 所得税の確定申告書の提出期限と納付期限を理解する．
13. 予定納税を理解する．
14. 青色申告制度を理解する．

＜宿題＞

・総合問題（事業所得の計算～税額の計算），所得税申告書の作成

学ぶべき用語・ポイント

- 超過累進税率
- 所得税速算表の見方
- 山林所得金額に対する税額計算
- 変動所得
- 臨時所得
- 平均課税
- 配当控除
- 住宅借入金等特別控除
- 外国税額控除
- 政党等寄附金特別控除
- 定率減税
- 源泉徴収
- 源泉徴収義務者
- 源泉徴収税額
- 納付の時期
- 申告納税方式
- 所得税の申告提出期限及び納付期限
- 予定納税
- 確定申告を要する者，確定申告を要しない者
- 青色申告

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

・理解度確認セッションを行う.
・テキスト・ノートの持込は一切認めない.
・電卓を忘れないこと.

講義の内容

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

企業開示制度と実務・大谷　潤／ Corporate Disclosure System・Jun Otani

講義の目的／ Course Objective

近年，企業の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資するため，株主との間で建設的な対話を行うことが求められており，企業が提供する開示情報は，株主との間で建設的な対話を行う上での基盤となるものであるため，その必要性･有用性が益々高まってきている．本講義では，株主を含むステークホルダーに提供される開示情報の正確性・公正性・適時性などを確保するための, 金融商品取引法に基づく企業内容等の開示制度を学ぶことによって，資本市場のゲートキーパーである会計専門職の重要性を確認することを目的とする .

In recent years, constructive dialogue with shareholders has been required to contribute to the sustainable growth of the company and the enhancement of corporate value over the medium to long term. Since the disclosure information provided by companies is the basis for constructive dialogue with shareholders, the necessity and usefulness of the information are increasing.

This course covers the disclosure system based on the Financial Instruments and Exchange Act that contributing to the accuracy, fairness, and timeliness of disclosure information provided to stakeholders, including shareholders. The purpose is to confirm the importance of the accounting profession, the gatekeeper of the capital markets.

講義の進め方

金融商品取引法に基づく企業情報等の開示制度を中心に，公開買付け制度，大量保有報告書制度などについて，企業開示に関する実務等を踏まえながら，配付するレジュメに沿って講義を進める.

解説に当たっては，企業開示ルールの内容を実務に即して正確に理解することができるよう，実際の開示書類等を逐次参考にするとともに，できる限り根拠法令等を確認する.

適宜，小テストを実施する.

予習・復習について

＜予習＞

・事前に配付する予定のレジュメに目を通しておくこと.

＜復習＞

・解説した制度について，レジュメ及び参考文献で再度確認するとともに，その根拠条文について確認する.

･特に, 各回レジュメの最後にまとめ(ポイント)を掲載しているので, 復習の参考にすること.

この講義を受講するために必要とする知識

講義は基礎的な内容とするため，この講義を受講するための特別な知識は不要である.

なお, 受講に当たっては, 株式等の取引やその際に必要と考えられる企業等の情報をイメージしながら企業開示制度を考えることが重要である.

テキスト・参考文献

・六法：金融商品取引法，金融商品取引法施行令，企業内容等開示制度・公開買付制度・大量保有報告制度関係内閣府令等が掲載されている最新版のもの

（注）六法によっては，上記法令の一部が省略されているものがあるので注意が必要である.

・参考文献：松尾直彦『金融商品取引法［第 4 版］』商事法務，2016 年.

神田秀樹･黒沼悦郎･松尾直彦編『金融商品取引法コンメンタール 1［第 2 版］』商事法務，2018 年.

近藤光男・吉原和志・黒沼悦郎『金融商品取引法入門［第 4 版］』商事法務, 2015 年.

中村聡・鈴木克昌・峰岸健太郎・根本敏光・齋藤尚雄『金融商品取引法　資本市場と開示編［第 3 版］』商事法務，2015 年.

池田唯一ほか『新しい公開買付制度と大量保有報告制度』商事法務, 2007 年.

時間割

前期　金曜 6 限

科目ナンバー

EAC-LAW607

成績評価法

・理解度確認セッション（40 点），小テスト（20 点）及び出席状況等の平常点（40 点）により評価する（100 点満点）.

・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

火曜日
13:00-16:00

連絡先

022-217-6281
jun.ootani.d5@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・講義の順番及び内容については，講義開始後に変更することがあり得る.

第 1 回：オリエンテーション・企業開示制度の概観（1）／ Orientation，Overview of systems for the disclosure of Corporate Affairs (1)

講義の内容

講義の目的：

・金融商品取引法の目的及び企業内容等の開示制度の位置づけを理解する．

講義の概要：

・講義の概要，進め方等について説明を行う．

・金融商品取引法の目的の一つである「投資者保護」の意義を理解し，その手段としての金融商品取引法に基づく開示制度（企業開示制度・公開買付制度・大量保有報告制度）について，開示制度全体を俯瞰するとともに，有価証券の発行市場・流通市場におけるそれぞれの開示制度の意義，位置付け，関係等について概説する．

＜宿題＞

右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと．

学ぶべき用語・ポイント

・金融商品取引法の目的

第 2 回：企業開示制度の概観（2）／Overview of systems for the disclosure of Corporate Affairs (2)

講義の内容

講義の目的：

・金融商品取引法上の企業内容等の開示制度の位置づけ及び会社法との関係を理解する.
・金融商品取引法における「有価証券」及び「発行者」の概念を理解する.

講義の概要：

・第 1 回に引き続き，金融商品取引法に基づく企業開示制度の総論を説明する .
・第 2 回では，企業開示制度に関する金融商品取引法の体系を確認する.
・また，会社法は，会社に対し，「計算書類」,「事業報告」による株主等への情報提供を義務付けているが，こうした金融商品取引法以外の法令に基づく情報提供と金融商品取引法に基づく情報提供との関係について解説する.
・企業開示制度の趣旨・背景を理解した上で，企業開示制度の対象となる「有価証券」及び開示義務を負うべき「発行者」について解説する.

＜宿題＞

右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと.

学ぶべき用語・ポイント

・法定開示
・金融商品取引法上の有価証券
・開示対象の有価証券
・有価証券の発行者

第 3 回：有価証券の募集／ Public Offering of Securities

講義の内容

講義の目的：

・有価証券の「募集」と「私募」の概念について理解する.

講義の概要：

・新たに発行される有価証券を投資者に対して勧誘する場合，勧誘を行う投資者が多数である等の一定の要件に該当するときは「有価証券の募集」として投資者に対する情報開示が義務付けられ，これに該当しなければ「有価証券の私募」として情報開示義務を負わない.

・このように，「有価証券の募集」は開示規制において重要な意味を持つ概念であるが，どのような勧誘行為が「有価証券の募集」，「有価証券の私募」に該当するかについて解説する.

＜宿題＞

右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと.

学ぶべき用語・ポイント

・取得勧誘
・有価証券の募集
・第一項有価証券・第二項有価証券
・人数基準・属性基準
・有価証券の私募
・適格機関投資家私募・特定投資家私募・少人数私募

第 4 回：有価証券の売出し，組織再編成発行手続等／ Secondary Distribution of Securities・Procedures Related to the Issuance of Securities During a Reorganization, etc.

講義の内容

講義の目的：

1. 既に発行された有価証券の「売出し」と「私売出し」の概念について理解する．
2. 会社の組織再編に関して，金融商品取引法上の開示の仕組みについて理解する．

講義の概要：

1. 有価証券の売出し

既に発行された有価証券を投資者に対して勧誘する場合，勧誘を行う投資者が多数である等の一定の要件に該当するときは「有価証券の売出し」として投資者に対する情報開示が義務付けられ，これに該当しなければ「有価証券の私売出し」として情報開示義務を負わない．このように，「有価証券の売出し」は，「有価証券の募集」と同様，開示規制において重要な意味を持つ概念であるが，どのような勧誘行為が「有価証券の売出し」，「有価証券の私売出し」に該当するかについて解説する．

2. 組織再編成発行手続等

合併，株式分割等の会社の組織再編に際し，その対価として有価証券の発行・交付が行われる場合において，その有価証券について情報開示が行われていないなど一定の要件に該当する場合の手続を「特定組織再編成発行手続」又は「特定組織再編成交付手続」と定義し，情報開示が義務付けられる．第 4 回では，これらの手続について解説する．

＜宿題＞

右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと．

学ぶべき用語・ポイント

1. 有価証券の売出し
- 売付け勧誘等
- 有価証券の売出し
- 有価証券の私売出し
- 適格機関投資家私売出し・特定投資家私売出し・少人数私売出し

2. 組織再編成発行手続等
- 組織再編成発行手続・特定組織再編成発行手続
- 組織再編成交付手続・特定組織再編成交付手続

第 5 回：私募等の告知義務，発行開示制度（1）＜発行開示制度の概要＞／ Duty of notification of Private Placements, etc., Offering Disclosure (1)< Overview of Disclosure at the time of offering >

講義の内容

講義の目的：

1. 有価証券の私募等の要件である転売制限に係る告知義務について理解する．
2. 発行開示制度の意義・仕組みを理解する．

講義の概要：

1. 有価証券の私募等については，その要件として転売制限が課せられているが，転売制限の実効性を確保するため，私募等の勧誘を行う者に，被勧誘者に対してその有価証券に転売制限が付されている旨等を告知する義務が課されている．第 5 回では，私募における告知義務について解説する．
2. 発行開示制度
   一般に，有価証券の募集・売出しを行う場合等，有価証券の発行市場における開示制度を「発行開示制度」と呼ぶ．この発行開示制度の根幹は，有価証券の募集・売出しに係る有価証券届出書の提出等である．第 5 回では，まず，発行開示制度を概観し，その後，有価証券届出書の提出が必要となる有価証券の募集・売出し等の範囲について解説する．

＜宿題＞

右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと．

学ぶべき用語・ポイント

- 発行開示制度
- 適格機関投資家取得有価証券一般勧誘・特定投資家等取得有価証券一般勧誘

第 6 回：発行開示制度（2）＜届出書制度①＞／ Offering Disclosure (2)＜ Notification of Public Offering or Secondary Distribution ①＞

講義の内容

講義の目的：

・企業開示制度（発行開示）の重要な事項の一つである「有価証券届出書」の内容，提出場面，届出の効力発生時期等について理解する．

講義の概要：

・届出書制度（有価証券届出書の提出）

有価証券の募集・売出しについての届出は，「有価証券届出書」を内閣総理大臣に提出することにより行われる．第 6 回及び第 7 回では，「届出書制度」の内容として「有価証券届出書」の各様式を取り上げ，その様式ごとに使用する場面，使用することができる要件，記載内容等について解説する．

また，当初提出した「有価証券届出書」の記載内容を訂正する「訂正届出書」の自発的な提出，「有価証券届出書」の重要な事項に虚偽記載等がある場合の内閣総理大臣による「訂正届出書」の提出命令等について，実務を踏まえながら解説する．

さらに，有価証券の募集又は売出しにおける「届出の効力」の意義，効力発生に関する実務上の取扱い等について解説する．

＜宿題＞

右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと．

学ぶべき用語・ポイント

・有価証券届出書
・組込方式・参照方式
・訂正届出書
・訂正届出書の提出命令
・届出の効力，効力発生期間の短縮

第 7 回：発行開示制度（3）＜届出書制度②，目論見書制度＞／ Offering Disclosure (3)＜ Notification of Public Offering or Secondary Distribution ② , Prospectus ＞

講義の内容

講義の目的：

1. 企業開示制度（発行開示）の重要な事項の一つである「有価証券届出書」の内容，提出場面，届出の効力発生時期等について理解する．
2. 有価証券の募集又は売出しの際，投資者に交付される「目論見書」の意義，交付時期について理解する．

講義の概要：

1. 届出書制度（有価証券届出書の提出）
　第 6 回に引き続き，「有価証券届出書」について解説する．
2. 目論見書制度
　有価証券の募集又は売出しにより有価証券を取得させ，又は売り付ける場合には，その投資者に「目論見書」を交付しなければならない．第 7 回では，この「目論見書」の作成義務及び交付義務について解説する．

＜宿題＞
　右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと．

学ぶべき用語・ポイント

- 目論見書制度
- 交付目論見書・請求目論見書

第 8 回：発行開示制度（4）＜発行登録制度，有価証券通知書＞／ Offering Disclosure (4)＜ Shelf Registration, Notice of the Specified Public Offering ＞

講義の内容

講義の目的：

1. 機動的な有価証券の発行等を可能とする「発行登録制度」について理解する．
2.「届出書制度」に代わる「有価証券通知書」の提出要件について理解する．

講義の概要：

1. 発行登録制度
   有価証券届出書の提出に代えて，機動的な有価証券の発行等を可能とする「発行登録制度」がある．第 8 回では，「発行登録制度」の利用適格要件，当該制度を利用した場合の手続の流れ等について解説する．
2. 有価証券の募集又は売出しであっても，発行価額・売出価額の総額が一定金額の範囲のものなどについては，有価証券届出書等の提出義務が免除される代わりに，「有価証券通知書」の提出が義務付けられている．第 8 回の講義では，この「有価証券通知書」の提出義務について解説する．

＜宿題＞
　右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと．

学ぶべき用語・ポイント

1. 発行登録制度
・発行登録制度
・発行登録書・発行登録追補書類
2. 有価証券通知書
・有価証券通知書
・発行登録通知書

第 9 回：継続開示制度（1）＜有価証券報告書＞／ Ongoing Disclosure (1)＜ Annual Reports ＞

講義の内容

講義の目的：

・継続開示制度の意義・仕組みを理解する.

・企業開示制度（継続開示）の重要な事項の 1 つである「有価証券報告書」の内容，提出要件等について理解する.

講義の概要：

・第 2 回～第 8 回までの講義内容について，小テストを実施する.

・一般に，有価証券の流通市場における開示制度を「継続開示制度」又は「流通開示制度」と呼び，その制度の根幹は，「有価証券報告書」の提出義務である.

・第 9 回では，「継続開示制度」の概要を説明した上で，どのような場合に「有価証券報告書」を提出しなければならないかについて解説するとともに，「有価証券報告書」の種類，記載内容等，提出時期，提出期限の延長，提出義務の免除要件等について説明する.

＜宿題＞

右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと.

学ぶべき用語・ポイント

・継続開示制度
・有価証券報告書
・外形基準
・有価証券報告書」の提出義務免除
・有価証券報告書の提出延長承認

第 10 回：継続開示制度（2）＜四半期報告書・半期報告書・臨時報告書・確認書＞／ Ongoing Disclosure (2)＜ Quarterly Reports・Semiannual Reports・Ad Hoc Reports・Confirmation Letters ＞

講義の内容

講義の目的：

1. 有価証券報告書と並び重要な継続開示書類である「四半期報告書」及び「半期報告書」について，その内容，それぞれの書類の提出義務者の違い等を理解する．
2.「臨時報告書」の意義，内容及び提出事由について理解する．
3.「確認書」の意義，内容について理解する．

講義の概要：

1. 四半期報告書・半期報告書

有価証券報告書を提出しなければならない会社は，期中の継続開示書類として，上場会社は「四半期報告書」を，それ以外の会社は「半期報告書」をそれぞれ提出しなければならない．第 10 回では，「四半期報告書」及び「半期報告書」の提出義務，記載内容について解説する．

2. 臨時報告書

定期的な継続開示書類以外に，臨時に提出する「臨時報告書」について，その制度趣旨，記載内容，提出時期等について解説する．

3. 確認書

「確認書」について，その制度趣旨，記載内容，提出時期等について解説する．

＜宿題＞

右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと．

学ぶべき用語・ポイント

- 四半期報告書
- 特定事業会社
- 半期報告書
- 臨時報告書
- 確認書

第 11 回：継続開示制度（3）＜内部統制報告書・自己株券買付状況報告書・親会社等状況報告書＞・英文開示，情報提供制度，フェア・ディスクロージャー・ルール／ Ongoing Disclosure⑶＜ Internal Control Report・Reports on Repurchase・Parent Company, etc. Status Report ＞, English disclosure, Provision or Disclosure of Specified Information on Securities, etc., Fair disclosure rules

講義の内容

講義の目的：

1.「内部統制報告書」,「自己株券買付状況報告書」及び「親会社等状況報告書」の意義，内容について理解する．
2. 英文開示制度の意義について理解する．
3. 情報提供制度の趣旨・内容について理解する．
4. フェア・ディスクロージャー・ルールについて理解する．

講義の概要：

1. 内部統制報告書・自己株券買付状況報告書・親会社等状況報告書
　継続開示書類のうち，第 11 回の講義では，「内部統制報告書」,「自己株券買付状況報告書」及び「親会社等状況報告書」について，その制度趣旨，記載内容，提出時期等について解説する．
2. 英文開示
　外国会社は，一定の要件を満たす場合，内閣府令で定められた様式で日本語により作成された有価証券報告書等の提出に代えて，外国の法令等により作成された有価証券報告書に類似する書類で，英語で記載され，かつ，当該外国で開示されているものの提出が認められている．このような英文開示制度について解説する．
3. 情報提供制度
　金融商品取引法の開示制度は，開示書類を公衆の縦覧に供することによって投資者に情報を提供する制度であるのに対し，情報提供制度は，一定の情報を投資者に直接提供し，又は公表する制度である．この情報提供制度の対象である「特定証券情報」・「発行者情報」及び「外国証券情報」に関する制度の趣旨・概要について解説する．
4. 企業が，未公表の決算情報などの重要な情報を証券アナリストなどに提供した場合に，速やかに他の投資家にも公平に情報提供することを求めるルールを，一般にフェア・ディスクロージャー・ルールと呼ぶ．当該ルールについて解説する．

＜宿題＞

　右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと．

学ぶべき用語・ポイント

- 内部統制報告書制度
- 自己株券買付状況報告書
- 親会社等状況報告書
- 英文開示
- 情報提供制度
- 特定証券情報・発行者情報
- 外国証券売出し，外国証券情報
- フェア・ディスクロージャー・ルール

第 12 回：公開買付制度／ Tender Offer

講義の内容

講義の目的：

・企業買収等において広く利用されている公開買付制度の概要及び手続（各段階における開示書類）について理解する．

講義の概要：

・「公開買付制度」は，原則，有価証券報告書を提出しなければならない会社の「株券等」を金融商品取引所市場外において大量に買い付ける場合に，その買付者に対して買付け条件等の開示を義務付けるとともに，株主等に公平に売却の機会を付与することを目的としているものであり，企業買収等においてこの制度が利用されている．第 12 回では，こうした「公開買付制度」の規律・手続について解説する．

＜宿題＞

右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと．

学ぶべき用語・ポイント

・公開買付制度
・別途買付け禁止
・全部買付義務
・公開買付開始公告
・公開買付届出書
・意見表明報告書
・対質問回答報告書

第 13 回：大量保有報告制度，監査証明制度／ Disclosure of the Status of Large-Volume Holdings in Share Certificates, etc., Audit Certification by a Certified Public Accountant or Auditing Firm

講義の内容

講義の目的：

1. 経営に対する影響力等の観点から重要な投資情報である大量保有報告制度の概要及び一般報告と特例報告の違いを理解する.
2. 監査証明制度の意義について理解する.

講義の概要：

1. 上場会社が発行する株券等の株券等保有割合が5%を超えた場合には,「大量保有報告書」の提出が義務付けられている．第 13 回では,「大量保有報告制度」の規律，手続について解説する.
2. 金融商品取引法に基づいて提出される財務諸表の作成及びその財務諸表に対する公認会計士・監査法人による監査証明制度に係る法令の根拠等について解説する .

＜宿題＞

右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと.

学ぶべき用語・ポイント

1. 大量保有報告制度
- 共同保有者・みなし共同保有者
- 大量保有報告書・変更報告書
- 特例報告制度
- 重要提案行為等

2. 監査証明制度
- 監査証明

第 14 回：虚偽記載等に対する民事責任と課徴金制度／Compensatory liability and administrative surcharges for false statements, etc.

講義の内容

講義の目的：

1. 開示書類の虚偽記載等に対する民事責任の制度趣旨，内容について理解する．
2. 開示書類の虚偽記載等に対する課徴金の制度趣旨，内容について理解する．

講義の概要：

1. 開示書類の虚偽記載等に対する民事責任
   虚偽記載等のある有価証券届出書の届出者等に対する損害賠償責任，虚偽記載等のある有価証券報告書等の提出者等の損害賠償責任に関し，立証責任の転換，損害賠償額の法定・推定等について解説する．
2. 開示書類の虚偽記載等に対する課徴金制度
   有価証券届出書，有価証券報告書等の開示書類に虚偽記載等がある場合における「課徴金」制度について，実際の事例を踏まえつつ解説する．

＜宿題＞

右記「学ぶべきポイント」について，レジュメ及び参考文献で再度確認し，課題が出された場合は取り組むこと．

学ぶべき用語・ポイント

1. 虚偽記載等に対する民事責任
- 立証責任の転換
- 損害賠償額の法定額・推定額

2. 虚偽記載等に対する課徴金
- 課徴金制度
- 審判手続
- 課徴金の減算・加算制度

第 15 回：理解度確認セッション／ Examination

講義の内容

講義の目的：

・本「企業開示制度と実務」で解説した企業開示制度，公開買付制度，大量保有報告制度，民事責任及び課徴金制度についての理解度をみる．

講義の概要：

・講義において解説した基本的な規律・制度に関し，理解度確認セッションを実施する．

・範囲は第 9 回～第 14 回（論述式は，第 2 回～第 14 回）までとする．

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

事例研究（金融行政）・小川恭史／ Case Study (Financial Administration)・Yasushi Ogawa

講義の目的／ Course Objective

我が国の地域金融機関を取り巻く環境は，低金利環境の継続や人口減少，高齢化の進展等により年々厳しさを増している．こうした中，地域金融機関において持続可能なビジネスモデルの構築に向けた取組みが進まない場合，安定した収益や将来にわたる健全性が確保されず，結果として地域において十分な金融仲介機能が発揮できなくなり，地域経済や利用者に多大な悪影響を与えることになりかねない．

このため，地域金融機関は，持続可能なビジネスモデルを構築し，将来にわたる健全性を確保することが必要である．本講義では，地域金融機関が経営環境をどのように認識し，どのようなビジネスモデルを構築することで将来にわたる健全性を確保し，地域において金融仲介機能を発揮しようとしているかについて，具体的な地域金融機関の取組みを見ていくことにより，地域金融の今後のあり方を考察することを目的とする．

The environment surrounding regional financial institutions in Japan is becoming increasingly severe year by year due to the continuation of the low interest rate environment, population decline, and aging. Under these circumstances, if efforts to build a sustainable business model do not proceed in regional financial institutions, stable profits and soundness in the future will not be secured, and as a result, sufficient financial intermediation function in the region will not be able to be exhibited, this could have a huge negative impact on local economies and users.

For this reason, regional financial institutions need to build sustainable business models and ensure their soundness in the future. In this lecture, we will discuss concretely how regional financial institutions are aware of the business environment, how to build a business model to ensure soundness in the future, and to exert financial intermediation functions in the region. The purpose of this study is to examine the future of regional finance by looking at the efforts of regional financial institutions.

講義の進め方

・第 1 回でオリエンテーションを行う．
・第 2 回から第 14 回では，各回で取り上げる地域金融機関（七十七銀行・東邦銀行などの地方銀行や，フィデア HD・じもと HD などの銀行持株会社等）の取組み等について，受講生から発表する．発表は，①対象金融機関の経営環境，②対象金融機関の最近の決算状況，③対象金融機関の具体的な取組みなどについて資料をまとめ，それに基づき行う（各受講生の発表回数は，受講生の数に応じて変わるが 1 人あたり複数回を予定．不足回については担当教員が担当）．受講生が担当する地域金融機関については，受講生とも相談した上で決定する．発表後，対象金融機関の取組み等について全員で討議する．
・第 15 回では，地域金融の今後のあり方について全員で討議する．

予習・復習について

・発表担当者は発表資料を作成し，事前に担当教員にメールで提出すること．
・発表担当者以外は事前に配布される資料を一読し，自身でも対象金融機関の取組み等について調べておくこと．
・自身が担当する金融機関に関するニュース等について，発表担当回以外も常日頃からチェックしておくこと．

この講義を受講するために必要とする知識

地域金融の今後のあり方について強い関心を持っていること．できれば金融行政２を受講済であることが望ましい．

テキスト・参考文献

・テキスト：なし
・参考文献：必要に応じ講義の際に紹介する．

時間割

前期　金曜 2 限

科目ナンバー

EAC-LAW608

成績評価法

・平常点（出席・発言状況）（60％），発表（40％）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

第 1 回講義でお知らせする．

連絡先

022-217-6286
yasushi.ogawa.d6@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

講義の予定／ Class Plan

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

第 2 回～第 14 回：地域金融機関の取組み／ Initiatives of regional financial institutions

第 15 回：地域金融の今後のあり方／ The future of regional finance

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

事例研究（企業法）・大谷　潤／ Case Study (Corporate Law)・Jun Otani

講義の目的／ Course Objective

本講義では，上場会社による不正会計事件・企業買収等（以下「不正事件等」という.）の事例及び平成 26 年会社法の改正に関連した事例について分析を行い，その分析を通じて，会社法や金融商品取引法の内容，規律，制度趣旨等への理解を深めるとともに，企業開示の重要性に対する認識を深めることを目的とする.

In this course, we analyze cases of unjust accounting cases and corporate acquisitions by listed companies and cases related to the revision of the Companies Act in 2014. Through this analysis, the purpose is to deepen understanding of the Financial Instruments and Exchange Act and to deepen recognition of the importance of corporate disclosure.

講義の進め方

上場会社による企業法に関連する事件等について，近年の具体的な事例を取り上げ，当該事件等の概要を説明し,企業法の観点からの問題点等について私見を交えつつ講義を行う.その上で，該当する規律，制度，その趣旨等について解説を行う．その際，当該不正事件等を背景に制度改正等が行われている場合には，こうした制度改正等の内容も併せて解説し，企業開示の重要性について一層の理解を深められるよう講義を進めることとする.

理解を深めるため，特定の事件について説明を担当する受講者を定め，上場会社における具体的な不正事件等の事例又は設例を基に検討・分析を行い，当該事例又は設例の概要を説明し，企業法の観点からの整理した問題点等について説明を行うこととする.

予習・復習について

・事前に配付する資料等に目を通しておくことが望ましい.
・説明担当受講者は，事前に配布する事例又は設例に関連する資料等を基に検討・分析を行い，講義において説明できるよう準備する．説明担当受講者以外の受講者は，事前に配付する資料等に目を通しておくことが望ましい.

この講義を受講するために必要とする知識

この講義を受講するための特別な知識は不要である.

テキスト・参考文献

・テキスト：事前及び講義時に配付する資料等
・六法：金融商品取引法令（金融商品取引法，金融商品取引法施行令）及び会社法令（会社法，会社法施行令，会社法関係の法務省令）が掲載されている最新版のもの
・参考文献：松尾直彦『金融商品取引法［第 4 版］』商事法務，2016 年.
神田秀樹・黒沼悦郎・松尾直彦編『金融商品取引法コンメンタール 1［第 2 版］』商事法務，2018 年.
黒沼悦郎『金融商品取引法入門［第 7 版］』日経文庫，2018 年.
池田唯一ほか『新しい公開買付制度と大量保有報告制度』商事法務，2007 年.
神田秀樹『会社法［第 19 版］』弘文堂，2017 年.
伊藤靖史・大杉謙一・田中亘・松井秀征『会社法［第 4 版］』有斐閣，2018 年.

時間割

後期　金曜 2 限

科目ナンバー

EAC-LAW609

成績評価法

・講義への出席状況，講義中の発言状況等の平常点（60％）及び事例発表（40％）で評価する.（100 点満点）
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

火曜日
14:00-17:00

連絡先

022-217-6281
jun.ootani.d5@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・講義の順番，内容については．受講生と協議の上決定する．その際，講義を行う事例を変更する可能性がある.

講義の予定／ Class Plan

In this lecture, I will discuss case studies related to accounting fraud and corporate acquisitions.

講義の予定：

第 1 回：オリエンテーション，会社法・金融商品取引法の目的
第 2 回：事例分析「日産自動車事件」
第 3 〜 4 回：事例分析「オリンパス事件」
第 5 回：事例分析「東芝事件①」
第 6 回：事例分析「東芝事件②」
第 7 〜 8 回：事例分析「ライブドア・ニッポン放送事件」
第 9 〜 10 回：事例分析「ブルドックソース事件」
第 11 回：事例分析「ジュピターテレコム事件」
第 12 回：事例分析（第三者割当てによる株式発行（増資）事例）
第 13 〜 15 回：受講者による事例又は設例の分析等に基づく説明
（注 1）講義の順番及び内容については，講義開始後に変更することがあり得る．受講生との相談の結果，上記事例以外の事例を，取り上げることもある .
（注 2）「 受講者による事例又は設例の分析等に基づく説明」に用いる事例等の内容については，講義の進捗状況等を勘案し，事前に受講者と相談して決定する．

講義の概要：

第 1 回：オリエンテーション，会社法・金融商品取引法の目的
・講義の概要，進め方等について説明を行う．
・会社法・金融商品取引法の目的について説明するとともに，金融商品取引法に基づく開示制度（企業開示制度・公開買付制度・大量保有報告制度）の概要等を解説する．

第 2 回：事例分析「日産自動車事件」
・日産自動車事件は，有価証券報告書に記載すべき役員報酬について，本来記載すべき金額よりも過小な金額が記載されていたことを端緒に，経営者の特別背任についても疑いがもたれている事件である．本事例研究では，なぜ当該事例が事件として取り扱われているのかを通じて，コーポレート・ガバナンスの意味を考え，会社における経営者の役割を考える．

第 3 〜 4 回：事例分析「オリンパス事件」
・オリンパス事件は，経営者が関与し，長期に不正行為（虚偽開示）が行われ，その手口も海外の取引を通じるなど，様々な問題を含むものである．本事例研究では，長期に亘って不正行為が行われた背景や虚偽開示の影響等について分析・検討し，会社法・金融商品取引法における企業開示のあり方について考え，また，その後の法令改正等について理解を深める．

第 5 回：事例分析「東芝事件①」
・昨年に起きた東芝事件は，オリンパス事件と同様，経営者が関与して不正行為が行われたものであり，その背景や企業におけるガバナンスのあり方等について分析・検討し，会社法における機関等について理解を深める．また，金融商品取引法に基づく課徴金賦課の内容を検討し，課徴金制度の目的，仕組み，課徴金額の考え方等について理解を深める．

第 6 回：事例分析「東芝事件②」
・本件も有価証券報告書等の虚偽記載事案であり，その後，本件虚偽記載による株価の下落による損害賠償を被った投資家から訴訟が提起されている．本事例研究では，虚偽記載による損害の額の考え方等について分析・検討し，金融商品取引法・会社法上の役員等の責任について理解を深める．

講義の予定

第 7 〜 8 回：事例分析「ライブドア・ニッポン放送事件」

・ライブドア・ニッポン放送事件は，敵対的買収に対する買収防衛策としての第三者割当てによる新株予約権の発行を行ったものである．会社法の観点から，会社支配権を巡る争いがある場合の第三者割当てによる新株予約権の発行のあり方について考える．また，金融商品取引法の観点から，当該事件の内容と当時の公開買付制度を分析･検討し，本事件を受けた公開買付制度の大幅な改正内容について理解を深める．

第 9 〜 10 回：事例分析「ブルドックソース事件」

・ブルドックソース事件は，投資ファンドによる公開買付けに関して，同社の経営者（取締役会）が同社の企業価値を毀損するとしてこれに反対するとともに，新株予約権の無償割当てを行う等の買収防衛策を講じたものである．本事例研究では，公開買付けを実施する場合の手続を理解するとともに，本件買収防衛策の内容を検討し，会社法上の株主平等原則等について考える．

第 11 回：事例分析「ジュピターテレコム事件」

・ジュピターテレコム事件は，公開買付け（金融商品取引法）及び全部取得条項付種類株式（会社法）を用いていわゆる二段階買収により株式を取得する場合の「取得の価格」の決定に関するものである．本事例研究では，この二段階買収に係る問題点等を分析･検討し，手続の公正性や公正な価格について考える．

第 12 回：事例分析（第三者割当てによる株式発行（増資）事例）

・第三者割当て増資に関して，近年，発生した事案等の分析・検討を通じて，現物出資の場合の出資財産の価額の妥当性，株式の大量発行に伴う既存株主の持株比率の希釈化等について考える．

・また，平成 26 年会社法の改正により新設された募集株式に係る出資の仮装払込みについても理解を深める．

第 13 〜 15 回：受講者による事例又は設例の分析等に基づく説明

・近年に発生した金融商品取引法及び会社法に関連する裁判例又は個別の設例について，受講者が分析・検討した上で，その概要・事案の経過，問題点，判決内容，受講者の意見等をまとめ発表する．

講義の予定／ Class Plan

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

事例研究（法人税法）・千葉 俊徳／ Case Study (Corporate Tax Law)・Toshinori Chiba

講義の目的／ Course Objective

法人税法においては，企業会計原則等を前提に課税所得・税額が計算されるが，適正・公平な課税のため独自の計算基準等が規定されており，企業の会計実務にも影響を及ぼしている．このため，公認会計士試験科目「租税法」の内容の大半を法人税法が占めていることに象徴されるとおり，会計専門家にとって法人税法の理解は必須である．税法学習では，条文やその解釈を単なる知識として憶えるのではなく，裁判事例との照合を通じた思索を重ねることが，理解を深めるために重要であり，実務での適用判断力にもつながる．

本講義は，法人税法の解釈・適用に重要な意義をもつ裁判例の研究を通じ，①法人税法の重要規定に係る具体的な解釈・適用関係について理解する，②他の税法や民商法等の法律その他の領域との関わりの中で法人税法を捉え，その解釈や適用のあり方について思索する，③発表や討議を経験し，説明力，思考力を向上させる，ことを目的とする．

Under the Corporation Tax Law, taxable income and tax amount are calculated on the premise of corporate accounting principles, etc., but their own calculation standards are stipulated for proper and fair taxation, which may affect corporate accounting practices. For this reason, it is essential for accounting professionals to understand corporation tax law, as symbolized by the fact that corporation tax law occupies most of the contents of the "tax law" of the Certified Public Accountant exam subject.

In tax law learning, it is important not only to remember articles and their interpretations as mere knowledge, but also to think repeatedly through collation with court cases, in order to deepen their understanding, and also to adjudge their practical application.

This course is based on the study of judicial precedents that have high significance in the interpretation and application of corporation tax law. The purpose is to:

① Understand the specific interpretation and application relationship of the important provisions of the Corporation Tax Law,

② Understand the corporation tax law in relation to other tax laws and other areas such as civil and commercial law, and think about how to interpret and apply it.

③ Experience presentations and discussions, improve explanation and thinking skills.

講義の進め方

・裁判例を題材に，法人税法上の主要項目について，全員で討議を行う．その前提として，各題材に関する会計大学院 HP または ISTU への事前提示資料等を基に，受講者が発表担当者として事件概要，適用法令，争点，判決要旨及び判決への賛否等についてレジュメを作成し，発表する．（一人当たりの担当回数は受講人数に応じて決めるが，一応の目安は 2 回．詳細は講義の中で指示する．）

担当教員から随時，事案発生や判決の背景，関連のある他税目（所得税法等）事案，実務面での問題点・課題等について説明する．

予習・復習について

・各回の発表担当者は，上記「講義の進め方」に記載のとおり，その題材に関する発表用レジュメを作成し，事前に担当教員にメールで提出する．発表担当者以外の者は，予習として，各回，その題材に関する判決，評釈等の事前提示資料及び発表担当者が事前提出した発表用レジュメ（原則講義日の数日前に教員により，事前掲示またはメール配信）を読み，自己の意見や疑問点などを整理しておく．

この講義を受講するために必要とする知識

・税法一般及び法人税法に関する基礎的な知識があれば望ましいが，裁判例になじむことが第一であり，特段こだわらない．

・なお，本講義は，法人税法 1 での学習内容の理解の定着・深化の一助になるため，法人税法 1 受講者には特に推奨する．

テキスト・参考文献

・テキスト：会計大学院 HP または ISTU に掲載する資料集（判例及び評釈等）を使 用し，必要に応じて追加の資料を配付する．

・参考文献：税法全般について法律的視点から解説したものとして，

金子宏『法律学講座双書　租税法［第 23 版］』弘文堂，2019 年.

水野忠恒『大系租税法［第 2 版］』中央経済社，2018 年.

増井良啓『租税法入門［第 2 版］』有斐閣，2018 年.

中里実ほか『租税法概説［第 3 版］』有斐閣，2018 年.

法人税法について詳しいものとして，

成松洋一『法人税セミナー［五訂版］』税務経理協会，2016 年.

渡辺徹也『スタンダード法人税法［第 2 版］』弘文堂，2019 年.

題材とする裁判例に関する主な参考文献については，後記各回の講義概要を参照.

時間割

後期　木曜 5 限

科目ナンバー

EAC-LAW610

成績評価法

・平常点（出席及び発言の状況）（60％）と発表（40％）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

木曜日
9:30-11:30

連絡先

022 -217-6287
toshinori.chiba.a2@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・討議では，基本的に特定の「正解」は存在しない．したがって，臆することなく受講者自らの疑問点や意見を積極的に表明することを期待する．

講義の内容／ Class Plan

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

・税務争訟制度の概要，判決文の効率的な読み方，扱う事案の概要などについて説明する．

・受講者ごとの発表担当事件を決定する（後日，担当教員との相談により，講義実施に支障が生じない範囲で変更することも可）．

第 2 回：（1）確定決算主義／ Firm settlement principle

①福岡高裁平成 19 年 6 月 19 日判決

法人税の申告は「確定した決算に基づき」行うこととされているが，株主総会の承認を経ていない決算に基づいた申告が有効なのかが争われた事案．「確定した決算に基づき」の意義について，実務も踏まえながら検討する．

参考文献：・北村導人「確定決算主義」中里実ほか編『租税判例百選［第 6 版］』112 頁（別冊ジュリスト，有斐閣，2016 年）

・日本公認会計士協会東京会編「株主総会又は社員総会の承認を得ていない決算書類に基づく確定申告の有効性」『税務判例の分析と実務対応』297 頁（日本公認会計士協会出版局，2012 年）

（2）公正処理基準と収益の計上時期／ "The accounting standards generally accepted as fair and appropriate" and When to record revenue

②最高裁平成 5 年 11 月 25 日判決（大竹貿易事件）

外国への輸出販売の収益計上時期について，船積日とせず，荷為替の銀行持込日とした処理が認められるかが争われた事案．法人税法上の「一般に公正妥当と認められる会計処理の基準」とは何か，企業会計とどう異なるのか検討する．

〈参考判例〉東京高裁平成 25 年 7 月 19 日判決（ビックカメラ事件）

参考文献：神山弘行「輸出取引にかかる収益の計上時期－大竹貿易事件」租税判例百選［第 6 版］122 頁

第 3 回：収益の計上時期／ When to record revenue

③最高裁平成 4 年 10 月 29 日判決（東北電力事件）

電力会社の設置した計器の誤りにより，10 年余りにわたり 2 倍もの電気料金を支払っていた法人が，過払額の返還を受けた事案で，過払いした年度の損金の額を減額すべきか，返還を受けた年度の益金の額に算入すべきかが争われた．収益の計上時期について検討する．

参考文献：・川端康之「過大徴収電気料金の返還と収益の計上時期－相栄産業事件」租税判例百選［第 6 版］126 頁

・判例タイムズ 842 号 110 頁（1994 年）

第 4 回：無償取引／ Gratis transaction

④最高裁平成 7 年 12 月 19 日判決（南西通商事件）

法人税法においては，無償による譲渡も時価により譲渡したものとして課税される．法人からその代表者へ株式を低額譲渡した事案を通して，無償譲渡に課税される理由，適用された場合の効果，低額譲渡にも適用されるべきなのか，適用の場面は限定されるべきなのかについて検討する．

〈参考判例〉大阪高裁昭和 53 年 3 月 30 日判決（清水惣事件）

講義の内容

参考文献：・川神裕「資産の低額譲渡と法人税法 22 条 2 項にいう収益の額」最高裁判例解説 49 巻 11 号 3153 頁（1974 年）
・増井良啓「低額譲渡と法人税法 22 条 2 項」租税判例百選［第 6 版］96 頁
・増井良啓「無利息融資と法人税法 22 条 2 項－清水惣事件」租税判例百選［第 6 版］98 頁

第 5 回：損害賠償請求権の計上時期／ When to record revenue for claims for damages

⑤東京高裁平成 21 年 2 月 18 日判決（従業員による横領）

従業員が会社の金を横領した場合，会社には損失が生ずるとともに，従業員に対する損害賠償請求権も発生するが，その益金計上の時期は損害が生じた時と同時なのか，法人が損害を知り得たときなのかなどについて，加害者からの回収が不能となった場合の貸倒損失計上も含めて検討する．

〈参考判例 1〉最高裁昭和 43 年 10 月 17 日判決

〈参考判例 2〉東京高裁昭和 54 年 10 月 30 日判決

参考文献：宮本十至子「損害賠償請求権の益金計上時期－日本美装事件」租税判例百選［第 6 版］128 頁

第 6 回：原価の見積／ Cost estimation

⑥最高裁平成 16 年 10 月 29 日判決（牛久市売上原価見積事件）

宅地造成許可の条件とされた排水路工事が終わらず，その原価を期末に見積で計上した事案．原価の計上に際して債務確定が必要なのかが争われた．売上原価と一般管理費などの経費との損金計上に係る差異について検討する．

参考文献：・岡村忠生「法人税法 22 条 3 項 1 号の売上原価と費用見積金額」租税判例百選［第 6 版］104 頁
・「法人税法上の売上原価と費用見積金額～牛久市売上原価見積事件～」『税務判例の分析と実務対応』205 頁

第 7 回：減価償却／ Depreciation amount of deferred assets

⑦最高裁平成 20 年 9 月 16 日判決（NTT ドコモ事件）

携帯電話事業を営む法人が取得した総数 15 万余の回線利用権について，一回線それぞれが少額減価償却資産に該当するとして全回線の取得総額を一時に損金算入した事案で，少額減価償却資産該当性が争われた．減価償却に当たっての前提となる減価償却資産の判定単位について検討する．

参考文献：・安井栄二「減価償却資産の判定単位－ NTT ドコモ事件」租税判例百選［第 6 版］106 頁
・「回線使用権の判定と少額減価償却資産該当性－ NTT ドコモ事件－」『税務判例の分析と実務対応』232 頁

第 8 回：脱税経費の損金性／ Deductibility of tax evasion expenses

⑧最高裁平成 6 年 9 月 16 日決定（エス・ブイ・シー事件）

脱税工作のために支出した金銭が損金となるのかが争われた事案．損金算入が認められないとすれば，どのような根拠によるべきか，違法な行為に伴って支出された金銭は損金算入を認めてよいのかどうか，検討する..

参考文献：・濵田洋「脱税工作のための支出金の損金性」租税判例百選［第 6 版］102 頁
・渋谷雅弘「不法な所得－制限超過利息」租税判例百選［第 6 版］62 頁

講義の内容／ Class Plan

第 9 回：役員給与／ Salary, etc. of Executive Officers

⑨東京高裁平成 25 年 3 月 14 日判決（事前確定届出給与）

役員給与については，平成 18 年改正で定期同額給与，事前確定届出給与，利益連動給与が損金算入できることとなった．このうち，事前確定届出給与について, 年 2 回の賞与支払いのうちの一回について届出より少ない額を支払った場合，年間の賞与全体が損金不算入になるのかが争点となった事案．役員給与の損金算入のあり方について検討する．

参考文献：・渡辺充「事前確定届出給与」租税判例百選［第 6 版］114 頁

・伊藤義一「役員賞与が事前確定届出給与に該当しないとされた事例」TKC 税情 2014 年 6 月号 1 頁

第 10 回：交際費／ Social expense

⑩東京高裁平成 15 年 9 月 9 日判決（萬有製薬事件）

製薬会社が医薬品納入先病院の医師の英語論文添削料として支出した経費が，交際費に当たるかが争われた事案．交際費の要件について検討する．

参考文献：・辻美枝「交際費の意義－萬有製薬事件」租税判例百選［第 6 版］116 頁

・「英文添削料の差額負担が交際費等に該当しないとされた事例」『税務判例の分析と実務対応 Vol.2』31 頁（2013 年）

・辻富久「英文添削料の差額負担は交際費に該当しないとされた事例」ジュリスト 1270 号 210 頁（2004 年）

第 11 回：貸倒損失／ Bad debt losses

⑪最高裁平成 16 年 12 月 24 日判決（日本興業銀行事件）

バブル崩壊により住宅金融専門会社への貸付金が不良債権となり，債権放棄をした銀行の貸倒損失をいつの事業年度に損金算入すべきかが争われた事案．貸倒損失を損金算入するには債権全額が回収できないことを要するとされているところ，どのような状況であれば全額回収できないといえるのか，その要件について検討する．

参考文献：・吉村政穂「貸倒れの意義－興銀事件」租税判例百選［第 6 版］108 頁

・「法人税における貸倒損失の損金算入時期～興銀事件～」『税務判例の分析と実務対応 Vol.2』46 頁

第 12 回：租税回避／ Tax avoidance

⑫最高裁平成 18 年 1 月 24 日判決（フィルム・リース事件）

組合には法人格がなく，法人税は課税されず，組合での損益は直接組合員の益金・損金となる．法人が締結した本件組合契約は，法人が組合事業のリスクを負わない一方で，映画フィルムの減価償却費を法人自らの損金として計上できるというものであった．課税庁は，法人の税負担軽減が目的の租税回避スキームであるとして更正処分を行い，その是非が争われた．租税回避の否認はどのような場合に認められるのか，その手法はどうあるべきか検討する．

〈参考判例〉名古屋高裁平成 17 年 10 月 27 日判決（航空機リース事件）

講義の内容

参考文献：・渕圭吾「タックス・シェルター―パラツィーナ事件」租税判例百選［第 6 版］40 頁
・今村隆「投資名目で購入した映画フィルムの減価償却資産該当性」ジュリスト 1333 号 146 頁（2007 年）
・「私法上の法律構成を租税回避目的として否認できるか」『税務判例の分析と実務対応』152 頁
・品川芳宣「任意組合を利用した航空機リースに係る損失の損益通算が認められた事例－航空機リース事件」山田二郎＝大塚一郎編『租税法判例実務解説』54 頁（信山社，2011 年）

第 13 回：同族会社の行為計算否認／ Denial of conduct and calculations of family company

⑬東京高裁平成 27 年 3 月 25 日判決（日本 IBM 事件）

外国親会社から日本子会社が自社株を購入する取引において，間に有限会社を挟むことによって多額の損失を発生させた事案．同族会社の行為計算否認規定により，損失の計上を否認する課税処分の要件について検討する．

参考文献：・秋元秀仁「同族会社等の行為又は計算の否認規定（法 132）の適用の可否に関する判例の概要」週刊税務通信 No. 3375, 11 頁（2015 年）
・岡村忠生「株式発行法人への株式譲渡に伴う譲渡損失の連結納税持込みと行為・計算否認規定－ IBM 事件」ジュリスト 1479 号 211 頁（2014 年）
・竹内陽一「日本 IBM 事件判決の検証～連結納税に関する事案と包括的否認規定」税理 2014 年 8 月号 56 頁

第 14 回：組織再編税制と行為計算否認／ Denial of conduct and calculations in Reorganization tax system

⑭最高裁平成 28 年 2 月 29 日判決（ヤフー事件）

子会社が有する多額の未処理欠損金を利用するため，関連会社と合併等の組織再編成を行ったところ，法人税の負担を不当に減少させるものとして，組織再編成に係る行為計算否認規定により課税処分がなされた事案．組織再編成に係る行為計算否認規定の適用の要件について検討する．

参考文献：・判例タイムズ 1424 号 68 頁（2016 年）
・岡村忠生「法人税法 132 条の 2 の『法人税の負担を不当に減少させる結果となると認められるもの』の意義と該当性」ジュリスト 1495 号 10 頁（2016 年）

第 15 回：公益法人の収益事業課税／ Taxation on profit business of public corporations

⑮東京高裁平成 16 年 11 月 17 日判決（流山事件）

NPO 法人はみなし公益法人とされており，収益事業にのみ課税される．NPO 法人の有償でのボランティアについて，請負業として収益事業に該当するのかどうかが争われた事案．公益法人に対する課税のあり方について検討する．

参考文献：・渡辺充「有償ボランティア活動と NPO 法人の収益事業課税－いわゆる流山訴訟」税務事例 37 巻 1 号 1 頁（2005 年）
・「NPO 法人における有償ボランティア活動と収益事業課税」『税務判例の分析と実務対応』262 頁

講義の内容／ Class Plan

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

会計職業倫理・加藤暢一／ Accounting Profession Ethics・Nobukazu Katou

時間割

前期　木曜 2 限

講義の目的／ Course Objective

なぜ企業の不正がなくならないのか実態と原因をさぐり，不正防止の仕組みと監査における会計職業倫理の必要性を考える．

不正防止のため，経営者の暴走を監視するためには，内部統制の整備，ルールを守る意識を醸成，社外取締役，社外監査役，会計監査人によるコーポレートガバナンスが必要である．

会計実務を行うにあたり，なぜ会計職業倫理が必要なのか，どのような内容なのか，不正事例も理解しながら，深く実感できる職業倫理を学ぶ．

そして，これから会計職業専門家になって，確固たる強い職業倫理をもって，監査，コンサルティング，組織の経理など実務で活躍することを目指す．

We study the actual condition and cause why the Injustices never cease. We study the Structure of Injustice Prevention and the necessity of Accounting Professional Ethics. We need the Internal Control, Compliance, Corporate Governance by Outside Directors, Outside Company Auditors, Accounting Auditors. In the Accounting, we realize the Accounting Professional Ethics with the understanding of case study, why we need it, and what is the content. We will be the Accounting Professional, we maintain the strong Ethics, and we make the excellent auditors, consultants, accountants.

講義の進め方

・講義では，できる限り分かりやすく解説をするとともに，重要論点では受講者といっしょに双方向でも講義を進めていく．
・2 回の具体的事例によるディスカッションと中間のレポートを作成，解説するとともに，期末の理解度確認セッションを行う．
・これを通じて，もし自分が会計監査人だったらどうすべきかを，実感しながらより深く理解する．

予習・復習について

できるだけ予習を行うことが望ましい．

この講義を受講するために必要とする知識

会計の基本知識があることが望ましい．

テキスト・参考文献

・テキスト：講義は，レジュメ等にもとづき行う．
・参考文献：必要に応じて講義の中で本，資料を紹介する．

科目ナンバー

EAC-ACC512

成績評価法

・講義への出席，ディスカッション 2 回，中間レポート作成，（50％），期末の理解度確認セッション（50％）で評価する．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

木曜日
13:00-14:00

連絡先

初回講義時に連絡する．

その他（連絡事項）

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

なぜ，不正がなくならないのか，不正を防止する仕組みである内部統制，コンプライアンス，コーポレートガバナンスはどのようなものか.

なぜ会計職業倫理が必要なのか，会計職業倫理の主なテーマとは，法律･倫理規則とは，実務の取組とはなど全体を学ぶ.

講義の進め方，成績評価，学習方法について説明する.

第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：なぜ不正がなくならないのか
第 3 回：不正を防止する仕組み
第 4 回：なぜ会計職業倫理が必要か
第 5 回：過去の事例にもとづくディスカッション
第 6 回：倫理学の基本，倫理とは，倫理学とは
第 7 回：会計職業倫理における主なテーマ
第 8 回：中間レポート作成，解説
第 9 回：法令，規則における会計職業倫理（1）
第 10 回：法令，規則における会計職業倫理（2）
第 11 回：監査法人における会計職業倫理の取組（1）
第 12 回：監査法人における会計職業倫理の取組（2）
第 13 回：企業内会計士（PAIB）と会計職業倫理
第 14 回：過去の事例にもとづくディスカッション
第 15 回：期末における理解度確認セッション

学ぶべき用語・ポイント

- 不正
- リスクマネジメント
- 内部統制
- コンプライアンス
- コーポレートガバナンス
- プロフェッション
- 公共の利益
- 独立性
- 正当な注意義務
- 懐疑心
- 品質管理
- 責任

第 2 回：なぜ不正がなくならないのか／ Why the Injustices will never cease ?

講義の内容

不正の実態と不正がなくならないのか原因について,(1)経営環境の変化(2)不正の原因(3)不正の影響（4）不正への制裁（5）不正事例などと学ぶ.

学ぶべき用語・ポイント

- 自由競争社会
- ルール社会
- 成果主義
- 利益至上主義
- 経営者の暴走

第 3 回：不正を防止する仕組み／ The Structure of Injustice Prevention

講義の内容

ルールを守る必要性や不正を防止するについて理解する.

(1) リスク管理：リスクを洗い出し，優先順位をつけて，最重要リスクに対応する

(2) 内部統制：エンロン事件以降にＳＯＸ法など内部統制が厳格化 , 会社法，金商法をみる

(3) コンプライアンス：社会のルールを守り，公正な経営をおこなう

(4) コーポレートガバナンス：経営者の暴走を監視する守りと攻めのガバナンス

学ぶべき用語・ポイント

- リスク管理
- 内部統制
- コンプライアンス
- コーポレートガバナンス

第 4 回：なぜ会計職業倫理が必要か／ Why the Accounting Professional Ethics is necessary ?

講義の内容

倫理学の基礎と，会計職業倫理の内容を理解する.

(1) 倫理学の基礎

カント，ベンサム，ローズ等

(2) 会計職業倫理の内容

①主なテーマは，プロフェッション，公共の利益，独立性，正当な注意，懐疑心

②法令，規則は，会計職業倫理を明文化し，一定水準に

③監査実務で，会計職業倫理を維持強化するには

学ぶべき用語・ポイント

- 倫理
- 倫理学
- プロフェッション
- 公共の利益
- 独立性
- 正当な注意
- 懐疑心
- 品質管理体制

第 5 回：過去の事例にもとづくディスカッション／ The past case study discussion

講義の内容

いままでの講義にもとづき，具体的な事例にもとづくディスカッションを行い一緒に考え，理解を深める．

具体的事例に対して，不正の発生原因はなにか，不正を防止するにはどうするべきか，会計職業倫理はどうあるべきかなどをディスカッションする．

学ぶべき用語・ポイント

- 自由競争社会
- 経営者の暴走
- プロフェッション
- 公共の利益
- 正当な注意義務
- 懐疑心
- 独立性
- 品質管理
- 責任

第 6 回：倫理学の基本，倫理とは，倫理学とは／ The Base of Ethics

講義の内容

倫理や倫理学の基本と，各分野の倫理や会計職業倫理を理解する．

倫理や倫理学とは何か，メタ倫理学，規範倫理学（行為論，徳論，正義論）カント，ベンサム，ローズの内容はどのような内容か．

応用倫理学による各分野（医療倫理，法曹倫理，スポーツ倫理，会計職業倫理）の倫理はどのような内容か．

学ぶべき用語・ポイント

- 倫理
- 倫理学
- メタ倫理学
- 規範倫理学
- 行為
- 正義
- 応用倫理学
- 医療倫理
- 法曹倫理
- スポーツ倫理
- 会計倫理

第 7 回：会計職業倫理における主なテーマ／The main theme about the Accounting Professional Ethics

講義の内容

会計職業倫理の主なテーマとはどのような内容か，各々について理解する.

(1) プロフェッション
(2) パブリックインタレスト
(3) 独立性
(4) 専門的能力
(5) 正当な注意
(6) 守秘義務
(7) 品位の保持
(8) 利益相反
(9) 研修
(10) 品質の保持
(11) 監査人の責任

学ぶべき用語・ポイント

- プロフェッション
- 公共の利益
- 独立性
- 正当な注意
- 懐疑心
- 専門的能力
- 守秘義務
- 品位の保持
- 利益相反
- 研修
- 品質管理
- 研修
- 責任

第 8 回：中間レポート作成，解説／ The Interim Report

講義の内容

ここまでの講義に基づき，中間レポートの作成をしていただき，解説を行う．

学ぶべき用語・ポイント

- 自由競争社会
- ルール社会
- 経営者の暴走
- リスク管理
- 内部統制
- コンプライアンス
- コーポレートガバナンス
- 会計プロフェッション
- パブリックインタレスト
- 独立性
- 正当な注意義務
- 懐疑心
- 専門的能力
- 品質管理
- 責任

第 9 回：法令，規則における会計職業倫理（1）／ The Accounting Professional Ethics on the laws and Regulations（1）

講義の内容

法令，倫理規則等の必要性や体系，倫理規則の 1 章総則の内容を理解する．

基本原則には，誠実性，公正性，職業専門家としての能力・正当な注意，守秘義務，専門家としての行動があり，また，概念的枠組みアプローチ（フレームワーク･アプローチ）の仕組みを理解する．

学ぶべき用語・ポイント

- IESBA 倫理規定
- 倫理規則
- 独立性の指針
- 基本原則（誠実性，公正性，職業専門家としての能力・正当な注意，守秘義務，専門家としての行動）
- 概念的枠組みアプローチ
- 阻害要因
- セーフガード

第 10 回：法令，規則における会計職業倫理（2）／ The Accounting Professional Ethics on the laws and Regulations（2）

講義の内容

倫理規則の 2 章　会計事務所等所属の会員を対象とする規則と　第 3 章　企業等所属の会員を対象とする規則について，概念的枠組みアプローチ，阻害要因，セーフガードなどをみる．また，独立性に関する指針，利益相反に関する指針などもあわせてみていく．

学ぶべき用語・ポイント

- 法的規制と自主規制
- 基本原則の遵守（誠実性，公正性，職業専門家としての能力・正当な注意，守秘義務，専門家としての行動）
- 概念的枠組みアプローチ（フレームワーク・アプローチ）
- 阻害要因
- セーフガード

第 11 回：監査法人における会計職業倫理の取組（1）／ The Accounting Professional Ethics in the accounting firm（1）

講義の内容

監査実務について，実際の監査法人がどのような取組をしているのかみていく．

（1）会計職業倫理を維持強化するために，どのようにしているのか．

（2）監査法人の組織，監査の 1 年間，監査チーム，品質管理は

（3）会計職業倫理を維持強化する取組みの具体例は

①組織風土②品質管理体制③研修

学ぶべき用語・ポイント

- 組織風土
- 品質管理の仕組
- マニュアル
- 意見審査
- AQR
- OJT
- ロールプレイング

第 12 回：監査法人における会計職業倫理の取組（2）／ The Accounting Professional Ethics in the accounting firm（2）

講義の内容

監査実務が実務で会計職業倫理の維持強化をどのようにしているのか，具体例をみる．

（1）組織風土を醸成し，外部者有識者の監視，ガバナンス・コードを適用する．

（2）品質管理体制であるマニュアル，意見審査，ＡＱＲ等をたゆまぬ強化をする．

（3）実効性のある研修を繰返し，現場の職業倫理を高揚し続ける．

学ぶべき用語・ポイント

- 組織風土
- 外部有識者
- 品質管理体制
- マニュアル
- 意見審査
- AQR
- OJT
- ロールプレイング

第 13 回：企業内会計士（PAIB）と会計職業倫理／ The Accounting Professional Ethics about Professional Accountants in Business

講義の内容

現在，増えつつある企業内会計士（PAIB）に，どのような会計職業倫理が必要か，主なテーマ（プロフェッション，独立性，正当な注意，研修，品質の保持，責任など）倫理規則（基本原則，概念的枠組みアプローチ等），実務などから現状と課題をみる．

学ぶべき用語・ポイント

- 企業内会計士
- PAIB
- 独立性
- 正当な注意
- プレッシャー

第 14 回：過去の不正事例にもとづくディスカッション，ロールプレイング／ The past case study discussion and roleplaying

講義の内容

いままでの講義をふまえて，過去の不正事例に対して，ディスカッションを行う．

監査上どのような問題があり，会計職業倫理上どうすべきだったかを，いっしょにより深く実感しながら考え，会計職業倫理のあるべき姿を総合的に理解する．

学ぶべき用語・ポイント

- 経営者の暴走
- 内部統制
- コンプライアンス
- コーポレートガバナンス
- 会計プロフェッション
- パブリックインタレスト
- 独立性
- 正当な注意義務
- 懐疑心
- 品質管理
- 責任

第 15 回：理解度確認セッション

講義の内容

1 回から 14 回までの講義をふまえて，理解度確認セッションを行い，総合的な解説を行う．

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

事例研究（会計職業倫理）・加藤暢一／ Case Study (Accounting Profession Ethics)・Nobukazu Katou

講義の目的／ Course Objective

なぜ企業の不正がなくならないのか原因をさぐり，不正防止の仕組みと監査における会計職業倫理の必要性を考える．

不正防止のため，経営者の暴走を監視するためには，内部統制の整備，ルールを守る意識を醸成，社外取締役，社外監査役，会計監査人によるコーポレートガバナンスが必要である．

会計実務を行うにあたり，なぜ会計職業倫理が必要なのか，どのような内容なのか，できるだけ多くの具体例，不正事例もみながら，より深く実感できる職業倫理を理解し，確実に身につける．

そして，これから会計職業専門家になって，確固たる強い職業倫理をもって，監査，コンサルティング，組織の経理など実務で活躍することを目指す．

We study the actual condition and cause why the Injustices will never cease. We study the Structure of Injustice Prevention and the necessity of Accounting Professional Ethics. We need the Internal Control, Compliance, Corporate Governance by Outside Directors, Outside Company Auditors, Accounting Auditors

In the Accounting, we realize the Accounting Professional Ethics with the understanding of case study, why we need it, and what is the content. We will be the Accounting Professional, we maintain the strong Ethics, we make the excellent auditors, consultants, accountants.

講義の進め方

講義では，毎回最初 60 分は内容の解説を行い，残り 30 分で具体例や不正事例によるディスカッションを行い一緒に考えていく．

中間レポートを作成，解説するとともに，期末レポートの作成，総合解説を行う．

これを通じて，もし自分が会計監査人だったらどうすべきなのかを，監査実務における会計職業倫理を実感しながらより深く理解し，確実に身につける．

予習・復習について

できるだけ予習を行うことが望ましい．

この講義を受講するために必要とする知識

会計に関する基本知識があることが望ましい．

テキスト・参考文献

・テキスト：講義は，レジュメ等にもとづき行う．

・参考文献：必要に応じて講義の中で本，資料を紹介する．

時間割

後期　木曜 6 限

科目ナンバー

EAC-ACC621

成績評価法

・出席とディスカッションへの参加（50％），中間・期末レポートの作成提出（50％）で評価する．

・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

木曜日
13:00-14:00

連絡先

初回講義時に連絡する．

その他（連絡事項）

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

なぜ，不正がなくならないのか，不正を防止する仕組みである内部統制，コンプライアンス，コーポレートガバナンスはどのようなものか.

なぜ会計職業倫理が必要なのか，会計職業倫理の主なテーマとは，法律･倫理規則とは，実務の取組とはなど全体を学ぶ.

講義の進め方，成績評価，学習方法について説明する.

第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：なぜ不正がなくならないのか，事例等
第 3 回：不正を防止する仕組み，事例等
第 4 回：なぜ会計職業倫理が必要か，事例等
第 5 回：過去の不正事例によるディスカッション
第 6 回：中間におけるレポートの作成，解説
第 7 回：倫理学の基本，倫理とは，倫理学とは，事例等
第 8 回：会計職業倫理における主なテーマ，事例等
第 9 回：法令，規則における会計職業倫理（1），事例等
第 10 回：法令，規則における会計職業倫理（2），事例等
第 11 回：監査法人の実務における会計職業倫理の取組（1），事例等
第 12 回：監査法人の実務における会計職業倫理の取組（2），事例等
第 13 回：企業内会計士の会計職業倫理，事例等
第 14 回：過去の不正事例等によるディスカッション，ロールプレイング
第 15 回：期末におけるレポートの作成，総合解説

学ぶべき用語・ポイント

- 不正
- リスクマネジメント
- 内部統制
- コンプライアンス
- コーポレートガバナンス
- プロフェッション
- 公共の利益
- 独立性
- 正当な注意義務
- 懐疑心
- 品質管理
- 責任

第 2 回：なぜ不正がなくならないのか，事例等／ Why the Injustices will never cease , by the lecture and case study discussion.

講義の内容

不正の実態と不正がなくならないのか原因について,(1)経営環境の変化(2)不正の原因(3)不正の影響（4）不正への制裁（5）不正事例などと学ぶ.

これらの解説をするとともに，具体例，事例によるディスカッションを行う.

学ぶべき用語・ポイント

- 自由競争社会
- ルール社会
- 成果主義
- 利益至上主義
- 経営者の暴走

第 3 回：不正を防止する仕組み，事例等／ The Structure of Injustice Prevention , by the lecture and case study discussion

講義の内容

ルールを守る必要性や不正を防止するについて理解する．

（1）リスク管理：リスクを洗い出し，優先順位をつけて，最重要リスクに対応する

（2）内部統制：エンロン事件以降にＳＯＸ法など内部統制が厳格化 , 会社法，金商法をみる

（3）コンプライアンス：社会のルールを守り，公正な経営をおこなう

（4）コーポレートガバナンス：経営者の暴走を監視する守りと攻めのガバナンス

これらの解説をするとともに，具体例，事例によるディスカッションを行う．

学ぶべき用語・ポイント

- リスク管理
- 内部統制
- コンプライアンス
- コーポレートガバナンス

第 4 回：なぜ会計職業倫理が必要か，事例等／ Why the Accounting Professional Ethics is necessary , by the lecture and case study discussion

講義の内容

倫理学の基礎と，会計職業倫理の内容を理解する．

（1）倫理学の基礎

カント，ベンサム，ローズ

（2）会計職業倫理の内容

①主なテーマは，プロフェッション，公共の利益，独立性，正当な注意，懐疑心

②法令，規則は，会計職業倫理を明文化し，一定水準に

③監査実務で，会計職業倫理を維持強化するには

これらの解説をするとともに，具体例，事例によるディスカッションを行う．

学ぶべき用語・ポイント

- 倫理
- 倫理学
- 会計プロフェッション
- 公共の利益
- 独立性
- 専門的能力
- 正当な注意
- 懐疑心
- 品質管理体制

第 5 回：過去の不正事例によるディスカッション／ The past case study discussion

講義の内容

いままでの講義にもとづき，具体的な事例にもとづくさらにディスカッションを行い，一緒に考える．

具体的事例に対して，不正の発生原因はなにか，不正を防止するにはどうするべきか，会計職業倫理はどうあるべきかなどをディスカッションする．

学ぶべき用語・ポイント

- 自由競争社会
- 経営者の暴走
- プロフェッション
- 公共の利益
- 正当な注意義務
- 懐疑心
- 独立性
- 品質管理
- 責任

第 6 回：中間におけるレポート／ The Interim Report

講義の内容

ここまでの講義とディスカッションに基づき，中間レポートの作成をしていただき，解説を行う．

学ぶべき用語・ポイント

- 自由競争社会
- ルール社会
- 経営者の暴走
- リスク管理
- 内部統制
- コンプライアンス
- コーポレートガバナンス
- 会計プロフェッション
- パブリックインタレスト
- 独立性
- 正当な注意義務
- 懐疑心
- 専門的能力
- 品質管理
- 責任

第 7 回：倫理学の基本，事例等／ The Base of Ethics , by the lecture and case study discussion

講義の内容

倫理や倫理学とは何か，メタ倫理学，規範倫理学（行為論，徳論，正義論）カント，ベンサム，ローズの内容はどのような内容か.

応用倫理学による各分野（医療倫理，法曹倫理，スポーツ倫理，会計職業倫理）の倫理はどのような内容か.

これらの解説をするとともに，具体例，事例によるディスカッションを行う.

学ぶべき用語・ポイント

- 倫理
- 倫理学
- メタ倫理学
- 規範倫理学
- 行為
- 正義
- 応用倫理学
- 医療倫理
- 法曹倫理
- スポーツ倫理
- 会計倫理

第 8 回：会計職業倫理における主なテーマ，事例等／ The main theme about the Accounting Professional Ethics , by the lecture and case study discussion

講義の内容

会計職業倫理の主なテーマとはどのような内容か，各々について理解する．
（1）プロフェッション
（2）パブリックインタレスト
（3）独立性
（4）専門的能力
（5）正当な注意
（6）守秘義務
（7）品位の保持
（8）利益相反
（9）研修
（10）品質の保持
（11）監査人の責任
これらの解説をするとともに，具体例，事例によるディスカッションを行う．

学ぶべき用語・ポイント

- プロフェッション
- 公共の利益
- 独立性
- 正当な注意
- 懐疑心
- 専門的能力
- 守秘義務
- 品位の保持
- 利益相反
- 研修
- 品質管理
- 研修
- 品質管理
- 責任

第 9 回：法令，規則における会計職業倫理（1），事例等／ The Accounting Professional Ethics on the laws and Regulations , by the lecture and case study discussion（1）

講義の内容

法令，倫理規則等の必要性や体系，倫理規則の 1 章総則の内容を理解する．

基本原則には，誠実性，公正性，職業専門家としての能力・正当な注意，守秘義務，専門家としての行動があり，また，概念的枠組みアプローチ（フレームワーク･アプローチ）の仕組みを理解する．

これらの解説をするとともに，具体例，事例によるディスカッションを行う．

学ぶべき用語・ポイント

- IESBA 倫理規定
- 倫理規則
- 独立性の指針
- 基本原則（誠実性，公正性，職業専門家としての能力・正当な注意，守秘義務，専門家としての行動）
- 概念的枠組みアプローチ
- 阻害要因
- セーフガード

第 10 回：法令，規則における会計職業倫理（2），事例等／ The Accounting Professional Ethics on the laws and Regulations , by the lecture and case study discussion（2）

講義の内容

倫理規則の 2 章　会計事務所等所属の会員を対象とする規則と　第 3 章　企業等所属の会員を対象とする規則について，概念的枠組みアプローチ，阻害要因，セーフガードなどをみる．また，独立性に関する指針，利益相反に関する指針などもあわせてみていく．

これらの解説をするとともに，具体例，事例によるディスカッションを行う．

学ぶべき用語・ポイント

- 法的規制と自主規制
- 基本原則の遵守（誠実性，公正性，職業専門家としての能力・正当な注意，守秘義務，専門家としての行動）
- 概念的枠組みアプローチ（フレームワーク・アプローチ）
- 阻害要因
- セーフガード

第 11 回：監査法人の実務における会計職業倫理の取組（1），事例等／ The Accounting Professional Ethics in the accounting firm , by the lecture and case study discussion（1）

講義の内容

監査実務について，実際の監査法人がどのような取組をしているのかみていく．

（1）会計職業倫理を維持強化するために，どのようにしているのか．

（2）監査法人の組織，監査の 1 年間，監査チーム，品質管理は

（3）会計職業倫理を維持強化する取組みの具体例は

①組織風土

②品質管理体制

③研修

これらの解説をするとともに，具体例，事例によるディスカッションを行う．

学ぶべき用語・ポイント

- 組織風土
- 品質管理の仕組
- マニュアル
- 意見審査
- AQR
- OJT
- ロールプレイング

第 12 回：監査法人の実務における会計職業倫理の取組（2），事例等／The Accounting Professional Ethics in the accounting firm , by the lecture and case study discussion（2）

講義の内容

監査法人が実務で会計職業倫理の維持強化をどのようにしているのか，具体例をみる．
（1）組織風土を醸成し，外部者有識者の監視，ガバナンス・コードを適用する．
（2）品質管理体制であるマニュアル，意見審査，AQR 等をたゆまぬ強化をする．
（3）実効性のある研修を繰返し，現場の職業倫理を高揚し続ける．
これらの解説をするとともに，具体例，事例によるディスカッションを行う．

学ぶべき用語・ポイント

- 組織風土
- 外部有識者
- 品質管理体制
- マニュアル
- 意見審査
- AQR
- OJT
- ロールプレイング

第 13 回：企業内会計士の会計職業倫理，事例等／ The Accounting Professional Ethics about Professional Accountants in Business , by the lecture and case study discussion

講義の内容

現在，増えつつある企業内会計士（PAIB）に，どのような会計職業倫理が必要か，主なテーマ（プロフェッション，独立性，正当な注意，研修，品質の保持，責任など）倫理規則（基本原則，概念的枠組みアプローチ等），実務などから現状と課題をみる．

これらの解説をするとともに，具体例，事例によるディスカッションを行う．

学ぶべき用語・ポイント

- 企業内会計士
- PAIB
- 独立性
- 正当な注意
- プレッシャー

第 14 回：過去の不正事例によるディスカッション，ロールプレイング／ The past case study discussion and roleplaying

講義の内容

いままでの講義をふまえて，過去の不正事例に対して，ディスカッションを行う．
また，ロールプレイングを，監査人と会社の役割にわかれ議論する．
監査上どのような問題があり，会計職業倫理上どうすべきだったかを，いっしょにより深く実感しながら考え，会計職業倫理のあるべき姿を総合的に理解し，確実に身につける．

学ぶべき用語・ポイント

- 経営者の暴走
- 内部統制
- コンプライアンス
- コーポレートガバナンス
- 会計プロフェッション
- パブリックインタレスト
- 独立性
- 正当な注意義務
- 懐疑心
- 品質管理
- 責任

第 15 回：期末レポート／ The final report

講義の内容

1 回から 14 回までの講義をふまえて，期末におけるレポートを作成していただき，総合的な解説を行う．

より体系的に，より深く考えをまとめ，会計職業倫理のあるべき姿を総合的に理解し，確実に身につける．

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

ビジネス・コミュニケーション 1 ・Ray Roman ／ Business Communication 1・Ray Roman

講義の目的／ Course Objective

The purpose of this course is to increase your business communication knowledge and abilities. We will discuss a variety of business communication topics, with a focus on improving practical communication skills.

講義の進め方

•To prepare for each class you may have a reading assignment and homework.
•Often you will work with other students in small groups, discussing the homework assignment or doing other activities.
•We will have many opportunities to practice presentation skills during class time.
•Evaluations: Homework, one test and one presentation.

予習・復習について

Students should

•Be prepared for each class
•Complete all assignments completely and on time
•Participate effectively and with energy in class exercises
•Give best effort in all activities

この講義を受講するために必要とする知識

テキスト・参考文献

・テキスト：There is no textbook.
・参考文献：Materials will be distributed by email.

時間割

前期　水曜 2 限

科目ナンバー

EAC-ECM630

成績評価法

・Homework: 35%
Test: 25%
Presentation: 30%
Participation: 10%
・AA(90-100 points),
A(80-89 points),
B(70-79 points),
C(60-69 points),
D(less than 60 points)

オフィスアワー

Thursday
13:30-14:30
（Please send email beforehand.）

連絡先

022-217-6288
professor@rayroman.net

その他（連絡事項）

・You will learn by receiving feedback both from the professor and from your classmates.

第 1 回：Introduction

講義の内容

We will:

- •Introduce ourselves.
- •Discuss the goals of the course.
- •Discuss the course schedule.
- •Q&A.

Class 1：Introduction
Class 2：Business Writing (homework = 5 points)
Class 3：Leadership Communication (homework = 5 points)
Class 4：Team Communication (homework = 5 points)
Class 5：Rhetoric and Public Speaking (homework = 5 points)
Class 6：Mid-term Confirmation of Understanding
Class 7：Presentation Preparation (homework = 5 points)
Class 8：Presentation Performance (homework = 10 points)
Class 9：Student Presentations-a (practice)
Class 10：Student Presentations-b (practice)
Class 11：Student Presentations-a (evaluated)
Class 12：Student Presentations-b (evaluated)
Class 13：Student Presentations (continued) and/or video on presentation skills
Class 14：Review of student presentations
Class 15：Summary of course and Q&A

第 2 回：Business Writing

講義の内容

Learning Goals

- •Be able to describe and discuss three rules for effective business writing.
- •Be able to recognize the differences between passive and active voice writing.
- •Be able to apply concepts from this chapter to writing assignments.

We will focus on three rules of business writing:

1. Serve your readers.
2. Be simple and clear.
3 .Shorter is better.

You will submit Business Writing homework at the end of class 2.

第 3 回：Leadership Communication

講義の内容

Learning Goals

- •Be able to discuss three features of leadership communication.
- •Be able to identify features of leadership communication in an assigned speech text.
- •Be able to apply concepts from this chapter to your own leadership development.

We will focus on two key areas of organizational communication:

- •Leaders have clear goals.
- •Leaders inspire confidence in others.
- •Leaders encourage others to use skills and talents.

You will submit Leadership Communication homework at the end of class 3.

第 4 回：Team Communication

講義の内容

Learning Goals

- •Understand the importance of good team communication and the main types of such communication.
- •Be able to explain in writing several strategies for improving team communication
- •Be able to apply concepts and vocabulary from this class to classroom discussion of a specific case.

We will focus on three central qualities of leadership communication:

- •Members listen effectively.
- •The team establishes ground rules.
- •Members resolves conflicts skillfully.

You will submit Team Communication homework at the end of class 4.

第 5 回：Rhetoric and Public Speaking

講義の内容

Learning Goals

- •Be able to discuss basic features of rhetoric.
- •Be able to select the appropriate type of speech for a specific speech situation.
- •Be able to apply concepts from this chapter to speech preparation and speech performance activities.

We will focus on three central aspects of rhetoric:

1. The three major elements of rhetoric.
2. The three kinds of persuasive appeal.

You will submit Rhetoric and Public Speaking homework at the end of class 5.

第 6 回：Mid-term Confirmation of Understanding

講義の内容

We will check your comprehension during Class 6.

第 7 回：Presentation Preparation

講義の内容

Learning Goals

- •Be able to discuss basic features of the rhetorical situation, audience and means of persuasion.
- •Be able to make effective decisions during presentation preparation exercises.
- •Be able to apply concepts from this chapter to your own public speaking preparation.

We will focus on three central features of rhetoric:

1. The rhetorical situation.
2. Audience.
3. Means of persuasion.

You will submit Presentation Preparation homework at the end of class 7.

第 8 回：Presentation Performance

講義の内容

Learning Goals

- •Be able to discuss presentation performance strategies and techniques.
- •Be able to write effective notes for a practice speech performance.
- •Be able to apply concepts from this chapter to your own public speaking performance practice.

We will discuss three public speaking performance skills:

1. Be confident.
2. Connect with your audience.
3. Lead your audience to your goal.

You will submit Presentation Performance homework at the end of class 8.

第 9 回：Student Presentations (first half of group one, practice).

講義の内容

Learning Goals

- •Be able to think and speak critically about the presentation performance strategies and techniques of other students.
- •Be able to give a presentation that demonstrates communication skills that are improved since you began the course.
- •Be able to apply your presentation experience to future improvement.

We will use the entire class time for presentations and discussion of presentations.

There is no homework.

第 10 回：Student Presentations (second half of group one, practice).

講義の内容

Learning Goals

- Be able to think and speak critically about the presentation performance strategies and techniques of other students.
- Be able to give a presentation that demonstrates communication skills that are improved since you began the course.
- Be able to apply your presentation experience to future improvement.

We will use the entire class time for presentations and discussion of presentations.

There is no homework.

第 11 回：Student presentations (first half of group two, evaluated).

講義の内容

Learning Goals

- Be able to think and speak critically about the presentation performance strategies and techniques of other students.
- Be able to give a presentation that demonstrates communication skills that are improved since you began the course.
- Be able to apply your presentation experience to future improvement.

We will use the entire class time for presentations and discussion of presentations.

There is no homework.

第 12 回：Student presentations (second half of group two, evaluated).

講義の内容

Learning Goals

- Be able to think and speak critically about the presentation performance strategies and techniques of other students.
- Be able to give a presentation that demonstrates communication skills that are improved since you began the course.
- Be able to apply your presentation experience to future improvement.

We will use the entire class time for presentations and discussion of presentations.

There is no homework.

第 13 回：Student Presentations (continued) and/or video on presentation skills

講義の内容

We will finish up student presentations and/or view a video on presentation skills.

第 14 回：Review of student presentations

講義の内容

Learning Goals

- •Be able to think and speak critically about the presentation performance strategies and techniques of other students.
- •Be able to give a presentation that demonstrates communication skills that are improved since you began the course.
- •Be able to apply your presentation experience to future improvement.

We will use the entire class time for reviewing skills acquired in student presentations and future development opportunities.

There is no homework.

第 15 回：Summary of course; Q&A

講義の内容

We will use the entire class time for discussion and Q&A.

There is no homework.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

ビジネス・プレゼンテーション 1・Ray Roman ／ Business Presentation 1・Ray Roman

講義の目的／ Course Objective

The purpose of this course is to increase your business presentation knowledge and abilities.

We will discuss a variety of business presentation topics, with a focus on improving practical presentation skills. We will study and practice the two most basic kinds of business presentations: the informative presentation and the persuasive presentation.

講義の進め方

- To prepare for each class you sometimes will have a reading assignment and homework.
- Often you will work with other students in small groups, discussing the reading assignment, homework or student performances.
- We will have many opportunities to practice presentation skills during class time.
- There will be no written tests. Only homework and two presentations will be evaluated.

予習・復習について

Students should

- •Be prepared for each class
- •Complete all assignments completely and on time
- •Participate effectively and with energy in class exercises
- •Give best effort in all activities

この講義を受講するために必要とする知識

テキスト・参考文献

・テキスト：There is no textbook.

・参考文献：I will provide all reading materials or give you instructions on finding materials on the Internet..

時間割

後期　水曜 2 限

科目ナンバー

EAC-ECM631

成績評価法

・Homework (2): 20%
Presentation 1: 30%
Presentation 2: 40%
Participation: 10%

・AA(90-100 points),
A(80-89 points),
B(70-79 points),
C(60-69 points),
D(less than 60 points)

オフィスアワー

Thursday
13:30-14:30
(Please send email beforehand.)

連絡先

022-217-6288
professor@rayroman.net

その他（連絡事項）

・Materials will be distributed by email.

第 1 回：Introduction

講義の内容

We will:

- •Introduce ourselves.
- •Discuss the goals of the course.
- •Discuss the course schedule.
- •Q&A.

Class 1：Introduction
Class 2：Presentation Preparation
Class 3：Presentation Performance
Class 4：Presentation 1 planning meetings
Class 5：Student Presentations 1-a Practice
Class 6：Student Presentations 1-b Practice
Class 7：Student Presentations 1-a Evaluated
Class 8：Student Presentations 1-b Evaluated
Class 9：Presentation 2 planning meetings
Class 10：Student Presentations 2-a Practice
Class 11：Student Presentations 2-b Practice
Class 12：Student Presentations 2-a Evaluated
Class 13：Student Presentations 2-b Evaluated
Class 14：Review
Class 15：Q&A

第 2 回：Presentation Preparation

講義の内容

Learning Goals

- •Be able to discuss presentation preparation strategies and techniques.
- •Be able to write effective notes for a practice speech preparation.
- •Be able to apply concepts from this chapter to your own public speaking preparation.

We will discuss four key points for speech preparation:

1. Rhetorical situation
2. Audience
3. Persuasive strategies
4. Organizational design

You will submit homework for Presentation Preparation at the end of class 2.

第 3 回：Presentation Performance

講義の内容

Learning Goals

- •Be able to discuss presentation performance strategies and techniques.
- •Be able to write effective notes for a practice speech performance.
- •Be able to apply concepts from this chapter to your own public speaking performance practice.

We will discuss three public speaking performance skills:

1. Be confident.
2. Connect with your audience.
3. Lead your audience to your goal.

You will submit homework for Presentation Performance at the end of class 3.

第 4 回：Presentations 1 Planning Meetings

講義の内容

・We will spend the entire class time on student-instructor meetings about student presentation plans.

You will submit homework for Presentations 1 Meetings at the end of class 4.

第 5 回：Student Presentations 1-a Practice

講義の内容

• We will spend the entire class time practicing student presentations.

There is no homework for class 5.

第 6 回：Student Presentations 1-b Practice

講義の内容

•We will spend the entire class time practicing student presentations.

There is no homework for class 6.

第 7 回：Student Presentations 1-a Evaluated

講義の内容

Learning Goals

- Be able to evaluate and discuss the presentations of other students.
- Be able to evaluate and discuss your own presentation.
- Be able to apply what you learn from speech evaluations to future presentations.

There is no homework for class 7.

第 8 回：Student Presentations 1-b Evaluated

講義の内容

Learning Goals

- •Be able to evaluate and discuss the presentations of other students.
- •Be able to evaluate and discuss your own presentations.
- •Be able to apply what you learn from speech evaluations to future presentations.

There is no homework for class 8.

第 9 回：Presentations 2 Planning Meetings

講義の内容

・We will spend the entire class time on student-instructor meetings about student presentation plans.

You will submit homework for class 9.

第 10 回：Student Presentations 2-a Practice

講義の内容

・We will spend the entire class time practicing student presentations.

There is no homework for class 10.

第 11 回：Student Presentations 2-b Practice

講義の内容

• We will spend the entire class time practicing student presentations.

There is no homework for class 11.

第 12 回：Student Presentations 2-a Evaluated

講義の内容

Learning Goals

- •Be able to evaluate and discuss the presentations of other students.
- •Be able to evaluate and discuss your own presentation.
- •Be able to apply what you learn from speech evaluations to future presentations.

There is no homework for class 12.

第 13 回：Student Presentations 2-b Evaluated

講義の内容

Learning Goals

- Be able to evaluate and discuss the presentations of other students.
- Be able to evaluate and discuss your own presentations.
- Be able to apply what you learn from speech evaluations to future presentations.

There is no homework for class 13.

第 14 回：Review

講義の内容

There is no homework for class 14.

第 15 回：Q&A

講義の内容

There is no homework for class 15.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

ビジネス・コミュニケーション 2・Ray Roman ／ Business Communication 2・Ray Roman

講義の目的／ Course Objective

The purpose of this course is to increase your business communication and English knowledge and abilities relating to business. We will discuss and practice assertiveness, negotiation and discussion skills, with a focus on improving practical English communication vocabulary and skills.

講義の進め方

- To prepare for each class you may have a reading assignment.
- Often you will work with other students in small groups, discussing the reading or doing other activities, including role playing.
- We will have many opportunities to practice negotiation and discussion skills during class time.
- Evaluations: Midterm confirmation of understanding, one written report, a presentation and participation.

予習・復習について

Students should

- Be prepared for each class
- Complete all assignments completely and on time
- Participate effectively and energetically in class exercises
- Give best effort in all activities

この講義を受講するために必要とする知識

テキスト・参考文献

・テキスト：Fisher, Ury & Patton, *Getting To Yes:Negotiating An Agreement Without Giving In*, 2012 Ed.; ISBN 9781847940933.
Heinrichs, J, *Thank You for Arguing*, 2012 Ed.; ISBN 9781847940933.

・参考文献：If any readings other than the above, I will provide additional reading materials or give you instructions on how to find them online.

時間割

前期　水曜 6 限

科目ナンバー

EAC-ECM632

成績評価法

・Paper：　35%
Confirmation of understanding：　35%
Presentation：　20%
Participation：　10%
・AA(90-100 points),
A(80-89 points),
B(70-79 points),
C(60-69 points),
D(less than 60 points)

オフィスアワー

Thursday
13:30-14:30
(Please send email beforehand.)

連絡先

022-217-6288
professor[at]rayroman.net

その他（連絡事項）

・This class will be cancelled if the minimum number of students do not enroll.

第 1 回：Introduction

講義の内容

We will:

- •Introduce ourselves.
- •Discuss the goals of the course.
- •Discuss the course schedule.
- •Q&A.

Class 1：Introduction: Course explanation and Q/A
Class 2：Introduction to Assertiveness
Class 3：Practice Scenario 1
Class 4：What is Effective Negotiation? Two Key Ideas
Class 5：Practice Scenario 2 & Two More Key Negotiation Ideas
Class 6：Practice Scenario 3 & Review and Q/A
Class 7：Confirmation of Understanding
Class 8：Discussion Skills 1
Class 9：Discussion Skills 2
Class 10：Discussion Skills 3 & Introduction to Group Presentation
Class 11：Paper Check-In 1: Your Main Idea and Outline
Class 12：Presentation Check-in: Role allocations and draft slideshows
Class 13：Paper Check-In 2: Your Draft; Presentation Q/A
Class 14：Presentations by Groups: Key Points of Paper
Class 15：Group presentations, continued; Paper due; What did we learn? Comments; Q&A

第 2 回：Introduction to Assertiveness

講義の内容

Learning Goals

- Be able to discuss the problems with various unsatisfactory responses to conflict.
- Be able to identify and explain the key steps to asserting yourself effectively.
- Be able to apply key vocabulary and concepts to case studies in later classes.

第 3 回：Practice Scenario 1

講義の内容

• We will take part in various group exercises using assertiveness skills.

• Students should have finished readings on assertiveness before class.

第 4 回：What is Effective Negotiation? Two Key Ideas

講義の内容

We will discuss the first two main principles of Getting to Yes ("Separate People from the Problem" and "Focus on Interests, Not Positions.")

You will have a reading assignment to help you understand Class 4. We will discuss the reading during Class 4.

第 5 回：Practice Scenario 2 & Two More Key Negotiation Ideas

講義の内容

We will have a practice exercise based on ideas discussed in previous classes and then discuss two more main principles of Getting to Yes ("Invent Options for Mutual Gain" and "Insist on Objective Criteria.")

You will have a reading assignment to help you understand Class 5. We will discuss the reading during Class 5.

第 6 回：Practice Scenario 3 & Review and Q/A

講義の内容

We will have a practice exercise based on ideas discussed in previous classes and then review the readings discussed so far and talk about the confirmation of understanding.

第 7 回：Confirmation of Understanding

講義の内容

You will have an in-class writing exercise to check your grasp of the ideas discussed so far.

第 8 回：Discussion Skills 1

講義の内容

We will discuss the first two main sections of Thank You for Arguing ("Introduction" and "Offense.")

You will have a reading assignment to help you understand Class 8. We will discuss the reading during Class 8.

第 9 回：Discussion Skills 2

講義の内容

We will discuss the next two main sections of Thank You for Arguing ("Defense" and "Advanced Offense.")

You will have a reading assignment to help you understand Class 9. We will discuss the reading during Class 9.

第 10 回：Discussion Skills 3 & Introduction to Group Presentation

講義の内容

We will practice discussion skills during Class 10.

We will also discuss the format and methods of the group presentation.

第 11 回：Paper Check-In 1: Your Main Idea and Outline

講義の内容

You will work with your other team member(s) to tell the instructor your main idea and outline for the paper and discuss any questions/problems as well as the further development of your paper.

第 12 回：Presentation Check-in: Role allocations and draft slideshows

講義の内容

You will work with your other team member(s) to discuss your group presentation with the instructor and consult on your draft slideshow.

第 13 回：Paper Check-In 2: Your Draft; Presentation Q/A

講義の内容

We will discuss your draft paper and questions about making your group presentation.

第 14 回：Presentations by Groups: Key Points of Paper

講義の内容

You will present the key points you found in writing your paper to the class.

第 15 回：Group presentations, continued; Paper due; What did we learn? Comments; Q&A

講義の内容

We will finish presentations and discuss what was learned through this class.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

ビジネス・プレゼンテーション 2・Ray Roman ／ Business Presentation 2・Ray Roman

講義の目的／ Course Objective

The purpose of this course is to increase your business presentation knowledge and abilities.

We will discuss a variety of business presentation topics, with a focus on improving practical presentation skills. We will study and practice advanced presentations useful in business and academia. These may include persuasive speeches, factual reports with Q&A, business proposals and reports on technical developments or research papers.

講義の進め方

- To prepare for each class you may have a homework assignment or a speech-preparation task.
- Often you will work with other students in small groups, discussing the homework assignment or doing other activities.
- We will have many opportunities to practice presentation skills during class time.
- There will be no written tests. Only homework and presentations will be evaluated.

予習・復習について

Students should

- •Be prepared for each class
- •Complete all assignments completely and on time
- •Participate effectively and with energy in class exercises
- •Give best effort in all activities

この講義を受講するために必要とする知識

テキスト・参考文献

・テキスト：There is no textbook.

・参考文献：I will provide all reading materials, or I will give you instructions on how to find materials on the Internet.

時間割

後期　水曜 6 限

科目ナンバー

EAC-ECM633

成績評価法

・Homework: 10%
Presentations: 80%
Participation: 10%

・AA(90-100 points),
A(80-89 points),
B(70-79 points),
C(60-69 points),
D(less than 60 points)

オフィスアワー

Thursday
13:30-14:30
(Please send email beforehand.)

連絡先

022-217-6288
professor@rayroman.net

その他（連絡事項）

・Materials will be distributed by email.

・NOTES:

1.Students should (a) take Business Presentation 1 or Business Communication 1 before taking this class or (b) seek the instructor's permission before registering for this class.

2.Number and types of speech projects may change depending on the number of students enrolled and their study interests.

3. This class may be cancelled if the minimum number of students do not enroll.

第 1 回：Introduction

講義の内容

We will:

- •Introduce ourselves.
- •Discuss the goals of the course.
- •Discuss the course schedule.
- •Q&A.

Class 1：Introduction & Review of Speaking Preparation and Performance
Class 2：Persuasive Presentation Preparation
Class 3：Presentation Meetings 1
Class 4：Presentation 1: Practice and Review
Class 5：Presentation 1: Evaluated
Class 6：Factual Report with Q&A Preparation
Class 7：Presentation Meetings 2
Class 8：Presentation 2: Practice and Review
Class 9：Presentation 2: Evaluated
Class 10：Proposal Presentation Preparation
Class 11：Presentation 3: Practice and Review
Class 12：Presentation 3: Evaluated
Class 13：Technical Update or Technical Paper Preparation
Class 14：Presentation 4: Practice and Review
Class 15：Presentation 4: Evaluated; Summary; Q&A

第 2 回：Presentation 1: Persuasive Presentation Preparation

講義の内容

Learning Goals

- •Be able to discuss basic features of rhetoric.
- •Be able to select the appropriate type of speech for a specific speech situation.
- •Be able to discuss basic features of performance techniques.
- •Be able to apply concepts from this chapter to speech preparation and speech performance activities.

We will focus on three central aspects of public speaking and performance:

1. The three major elements of rhetoric.
2. The three kinds of persuasive appeal.
3. Various performance techniques and considerations.

第 3 回：Presentation Meetings 1

講義の内容

The entire class time will be given to student-instructor meetings. Students should be prepared to show the instructor an organized outline of their next presentation. During these one-on-one meetings, other students may work on their presentation outlines.

Homework for class 3 will be a detailed outline of Presentation 1 (10% of grade).

第 4 回：Presentation 1: Practice and Review

講義の内容

•We will spend the entire class time practicing and discussing student persuasive presentations.

•Presentations will be video recorded and made available to speakers for download and further review offline.

第 5 回：Presentation 1: Evaluated

講義の内容

Learning Goals

•Be able to evaluate the persuasive presentations of other students.

•Be able to apply what you learn to future presentations.

(20% of grade)

第 6 回：Presentation 2: Factual Report with Q&A Preparation

講義の内容

Learning Goals

- Be able to report on a situation, problem, etc. related to the audience.
- Be able to present useful and sufficient information in a report so the listeners can conclude or decide a matter.
- Be able to respond to questions from the audience with competence and confidence.

第 7 回：Presentation Meetings 2

講義の内容

The entire class time will be given to student-instructor meetings. Students should be prepared to show the instructor an organized outline of their next presentation. During these one-on-one meetings, other students may work on their presentation outlines.

Homework for class 7 will be a detailed outline of Presentation 2 (10% of grade).

第 8 回：Presentation 2: Practice and Review

講義の内容

We will spend the entire class time practicing and discussing student reports with Q&A. Presentations will be video recorded and made available to speakers for download and further review offline.

第 9 回：Presentation 2: Evaluated

講義の内容

Learning Goals

- Be able to evaluate the reports with Q&A of other students.
- Be able to apply what you learn to future presentations.

(20% of grade)

第 10 回：Presentation 3: Proposal Presentation Preparation

講義の内容

Learning Goals

- Be able to draft a proposal recommending an idea or plan.
- Be able to organize a proposal based on a step-by-step method.

第 11 回：Presentation 3: Practice and Review

講義の内容

We will spend the entire class time practicing and discussing student proposal presentations. Presentations will be video recorded and made available to speakers for download and further review offline.

第 12 回：Presentation 3: Evaluated

講義の内容

Learning goals:

- Be able to evaluate the proposal presentations of other students.
- Be able to apply what you learn to future presentations.

(20% of grade)

第 13 回：Technical Update or Technical Paper Preparation

講義の内容

Learning goals:

•Update: (1) logically organize technical material into a short presentation; (2) adjust your talk to the listeners' backgrounds and needs.

第 14 回：Presentation 4: Practice and Review

講義の内容

We will spend the entire class time practicing and discussing student technical updates. Presentations will be video recorded and made available to speakers for download and further review offline.

第 15 回：Presentation 4: Evaluated; Summary; Q&A

講義の内容

Learning goals:

- •Be able to evaluate the technical updates of other students.
- •Be able to apply what you learn to future presentations.
- •Review the course and discuss additional presentation questions and issues raised by work done in this course.

(20% of grade)

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

英文外書講読 b・榊正壽／ Academic Reading b・Masatoshi Sakaki

講義の目的／ Course Objective

本講義では，会計・監査の最新のトピックを英語文献の講読を通じて理解することを目指す．そのプロセスの中で英語論文の読解に必要な知識，最低限の会計英語の知識などについても学習する．なお，本講義は「英語」自体を学習するものではないので，その点についてはご了承いただきたい．

In this lecture, we aim to understand the latest topics of accounting and audit through reading English material. In the process, we will also learn the knowledge required to read English document and the minimum knowledge of accounting and audit English. Please note that this lecture does not teach "English" itself.

講義の進め方

・文献の背景および重要な概念について事前に解説します
・受講者は事前に割り当てられた文献について和訳します
・講義では，論文を解題しつつ，議論をしていきます

予習・復習について

＜予習＞
・自身での和訳（逐語訳）作業（予め分担する）
＜復習＞
・課題文献を熟読し，理解を深める

この講義を受講するために必要とする知識

・会計大学院入学レベルの会計・監査知識

テキスト・参考文献

・テキスト：なし（資料を適宜配布する）
・参考文献：Teruyuki KAWASAKI, Takashi SAKAMOTO Oliver Chubb (Editor), GENERAL ACCOUNTING STANDARD for SMALL-and MEDIUM- SIZED ENTITIES in JAPAN, Wiley Publishing Japan K.K.

時間割

後期　木曜 6 限

科目ナンバー

EAC-ECM637

成績評価法

・報告（70％），レポート（30％）により評価する．
・レポートを提出しない場合，また出席が 3 分の 2 に満たない場合は，成績評価の対象としない．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

木曜日
16:30-17:30

連絡先

第 1 回講義においてお知らせします．

その他（連絡事項）

・事前に受講者に逐語訳（精読）を実施していただきますので，予習に相当程度の時間が必要となる科目です．事前に語学力にもとづく受講制約をかけることはいたしませんが，英語論文を普段読んでいない方はかなりの時間を費やすところとなります．また，英語→日本語での対応を目指す科目ですので，留学生の方は，本科目を履修することの必要性について慎重にご判断ください．
・なお，本科目は 2019 年度以降設置された新規科目（リテラシー科目群に配置）です．しかし，2018 年度以前の入学者が履修し，リテラシー科目群の科目としてカウントすることが可能です．

講義の予定／ Class Plan

講義内容および進め方は受講生の理解度や人数に応じて変更する場合もある.

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の概要と，課題文献の背景と概要について説明いたします.

第 2 回以降の講義内容（取り扱う文献）および各回の関連文献については，第 1 講において配布いたします.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

ワークショップ a・青木雅明／ Workshop a・Masaaki Aoki

講義の目的／ Course Objective

・管理会計で扱われる様々な問題をエクセルで解く.

・エクセルを実践的に活用するための知識・ノウハウを学習する.

The purpose of this lecture is to learn the application of Excel to various management accounting problems. We learn the basic knowledge and skills to use Excel in practice.

講義の進め方

・パソコン実習室で実際にパソコンを操作しながら学習する.

・毎回，課題を出す．課題は，エクセルファイルを提出させる.

・パソコン実習室のキャパシティがあるので，受講者は 10 名程度に限定する.

・自分で課題を作り，それを解決するモデルをエクセルで作成する．これを最終作品として提出してもらう.

・場合によっては，グループごとにエクセルファイルを作成してもらうこともある.

予習・復習について

＜予習＞

・関連するトピックについて事前に学習してくること.

＜復習＞

・毎回の課題を解き，提出すること.

この講義を受講するために必要とする知識

・管理会計 1・2 を受講していることが望ましい．受講希望者が多数の場合，管理会計 1・2 の受講経験により選択を行う場合もある.

・エクセルについて基礎的な操作ができること.

テキスト・参考文献

・必要に応じて講義中に指定する.

時間割

前期　火曜 7 限

科目ナンバー

EAC-ECM640

成績評価法

・宿題（40%), 平常点（40%), 最終作品（20％）で評価する.

・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

月曜日
10:00-12:00

連絡先

022-217-6279
maoki@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・管理会計 1・2 を受講後，受講するのが望ましい.

・予習・復習を必ず行うこと.

・講義に関する連絡は全てメールで行う.

・講義資料等はすべてホームページに掲示する.

講義の予定／ Class Plan

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation
第 2 回：エクセルによる個別原価計算／ Job Costing by Excel
第 3 回：エクセルによる総合原価計算／ Process Costing by Excel
第 4 回：エクセルによる CVP 分析／ CVP Analysis by Excel
第 5 回：エクセルによる総合予算（1）／ Master Budget by Excel(1)
第 6 回：エクセルによる総合予算（2）／ Master Budget by Excel(2)
第 7 回：エクセルによる関連原価分析／ Analysis of Relevant Information by Excel
第 8 回：エクセルによる統計（1）／ Statistical Analysis by Excel(1)
第 9 回：エクセルによる統計（2）／ Statistical Analysis by Excel(2)
第 10 回：エクセルによる DCF 法（1）／ Discounted Cash Flow Method by Excel(1)
第 11 回：エクセルによる DCF 法（2）／ Discounted Cash Flow Method by Excel(2)
第 12 回：オリジナル問題の作成（1）／ Making Case Problems by Excel(1)
第 13 回：オリジナル問題の作成（2）／ Making Case Problems by Excel(2)
第 14 回：オリジナル問題の作成（3）／ Making Case Problems by Excel(3)
第 15 回：オリジナル問題の発表会／ Making Case Problems by Excel(4)

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

ワークショップ b・木村 史彦／ Workshop b・Fumihiko Kimura

講義の目的／ Course Objective

本講義では，財務会計・監査等に関連する実際のデータを分析することを通じて，主に財務データ処理能力および（統計的な）分析能力を高めることを目的とします．また，こうした分析に必要な統計，計量経済学に係る最低限の知識の習得も目指します．

The purpose of this course is to improve the ability to process and analyze financial data mainly by analyzing actual data related to financial accounting and auditing. We also aim to acquire the minimum knowledge of statistics and econometrics necessary for such analysis.

講義の進め方

・課題（分析テーマ）について検討する．
・データ分析のための基礎知識を獲得する．
・グループ（あるいは個人）での分析に取り組む．
・個人でショートペーパーの作成を行う．

予習・復習について

＜予習＞
・関連する資料に目を通すこと
＜復習＞
・レポートを作成すること

この講義を受講するために必要とする知識

・「財務会計」「財務諸表分析」に係る基礎知識
（特に 1 年次学生は学部上級レベルの財務諸表分析・経営分析に関する講義を受講済みであること を前提とします）
・Microsoft Excel が初歩レベルで使えること（基本的な関数，集計，グラフ化）

テキスト・参考文献

・テキスト：受講者と相談して決定します．
・参考文献：伊藤邦雄『新・現代会計入門［第 3 版］』日本経済新聞出版社，2018 年．
伊藤邦雄『新・企業価値評価』日本経済新聞出版社，2014 年．
田村威文等『会計学の手法』中央経済社，2015 年．

時間割

後期　金曜 6 限

科目ナンバー

EAC-ECM641

成績評価法

・報告（30 %），レポート（70%）により評価する．
・レポートを提出しない場合，また出席が 3 分の 2 に満たない場合は，成績評価の対象としない．
・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

水曜日 10:30-12:00
および講義終了後

連絡先

022-217-6282
fkimura@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・本科目はビジネスアカウンティングコースの方を対象として開講されますが，受講者上限の範囲内である場合には，他コースの方の受講も認めます．
・実習を伴うため，受講者数に制限をかける可能性があります．
・他の科目と共催する発表会での報告を実施する場合もあります．

講義の予定／ Class Plan

講義内容および進め方は受講生の理解度や人数に応じて変更する場合もある．また，具体的に取り扱うテーマは，第 1 回講義時に学生と協議して決定する．

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation
第 2 回：本講義で分析を進めるテーマの概観（利益マネジメントと粉飾）／ Overview of the theme (1) Earnings management and accounting fraud
第 3 回：本講義で分析を進めるテーマの概観（会計情報の時系列特性）／ Overview of the theme (2) Time-series characteristics of accounting information
第 4 回：本講義で分析を進めるテーマの概観（会計情報の価値関連性）／ Overview of the theme (3) Value relevance of accounting information
第 5 回：実証分析の基礎 ① 財務データの収集／ Collecting financial data
第 6 回：実証分析の基礎 ② 財務データの分析／ Analyzing financial data
第 7 回：実証分析の基礎 ③ 平均値の差の検定・分散分析／ t-test and analysis of variance
第 8 回：実証分析の基礎 ④ 単回帰分析／ Simple regression
第 9 回：実証分析の基礎 ⑤ 重回帰分析／ Multiple regression
第 10 回：実証分析の実践 ① ／ Practice (1)
第 11 回：実証分析の実践 ② ／ Practice (2)
第 12 回：実証分析の実践 ③ ／ Practice (3)
第 13 回：成果報告とディスカッション ①／ Discussion (1)
第 14 回：成果報告とディスカッション ②／ Discussion (2)
第 15 回：成果報告とディスカッション ③／ Discussion (3)

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

プロジェクト調査（財務諸表）a・b・尾関規正／ Project Research (Financial Statements)a・b・Norimasa Ozeki

講義の目的／ Course Objective

本講義では，財務会計または監査の実証研究を主な対象領域として，受講者が自身の研究テーマとなる問題意識を見つけ，これまでの研究からわかることと課題となる事項を明らかにしたうえで，そのテーマを研究するために必要な手法を学習します．

This course helps students to explore their own research questions, and to understand the findings from prior literature and the issues to be addressed, learning the research methods. This course covers the empirical studies in the fields of financial accounting and audits.

講義の進め方

以下の事項に沿って受講者が報告し，その内容に対する担当教員や他の受講者からのコメントや補足などを通じて議論を行うことで調査を進めます．

・問題意識の探索：受講者の関心に基づいて研究分野をある程度絞り，その領域に関する研究を体系的に概観するための文献調査を行います．
・先行研究のレビュー：特に関心のあるトピックを選び，そのトピックに関する先行研究のレビューを通じて，トピックの直近の研究動向や研究手法を理解し，既に知られている事項と残された課題を整理し，自身の問題意識や仮説を明確にします．
・研究手法の学習：自身の問題意識の解決や仮説の立証に必要な研究の手法を把握し，それを正しく適用して結果を理解するための基礎知識を学習します．

予習・復習について

＜予習＞

・講義前には各回の講義で報告を行うための準備を行う必要があります．

＜復習＞

・講義後は講義中の議論を踏まえて自身が報告した内容を修正し，改善する必要があります．

この講義を受講するために必要とする知識

最新の先行研究をフォローするために，英語文献の読解がある程度できることが望ましいです．

テキスト・参考文献

受講者の関心に応じて，講義の中で指示します．

時間割

a：前期　b：後期
・履修希望者は登録前に必ず担当教員に連絡すること．
・具体的な開講時間については，担当教員の指示に従うこと．

科目ナンバー

a：EAC-ACC640
b：EAC-ACC641

成績評価法

・報告や議論に基づく平常点（70%），レポート（30%）で評価する．
・AA(90 点以上)，
A(80 点以上 90 点未満)，
B(70 点以上 80 点未満)，
C(60 点以上 70 点未満)，
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

水曜日
13:00-14:30

連絡先

nozeki@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

講義の予定／ Class Plan

講義の内容については，履修者と相談し，履修者のレベル・理解度に応じて進めます.

This course is designed according to the student's level and understanding, in consultation with the student.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

プロジェクト調査（財務会計）a・b・吉永裕登／

Project Research (Financial Accounting)a・b ／ Yuto Yoshinaga

講義の目的／ Course Objective

・本講義の目的は，自身の研究テーマを見つけ，次年度にリサーチ・ペーパーを作成するための知識を身に付けることです，

The purpose of this lecture is to find your own research theme and acquire the knowledge to write your research paper in the next year.

講義の進め方

・研究の進捗状況を報告してもらい，議論や相談，アドバイス，コメントを行うことにします.

予習・復習について

・発表者は，当日発表できるように報告資料をまとめてください.

・発表者以外は予習の必要はありませんが，時間中は互いの研究を良くするために，積極的にアドバイスやコメントを行ってください.

この講義を受講するために必要とする知識

・きちんとリサーチ・ペーパーを書き上げようとする熱意.

・リサーチ・ペーパーを書くための時間管理能力と自律心.

・手厳しいコメントに耐える精神力.

・発表資料を作成するための最低限の PC スキル.

テキスト・参考文献

・講義の中で随時指示します.

時間割

a：前期　b：後期

・履修希望者は登録前に必ず担当教員に連絡すること.

・具体的な開講時間については，担当教員の指示に従うこと.

科目ナンバー

a：EAC-ACC644

b：EAC-ACC645

成績評価法

・平常点（出席と議論への参加，報告，報告資料）で評価する.

・自身の研究に関する進捗報告，あるいは完成したリサーチ・ペーパーの出来栄えを，強く成績評価に反映させる予定です.

・ AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

水曜日

14:40-16:10

・メールでアポイントをとると確実です.

連絡先

022-217-6284

y.yoshinaga@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・基本的に教員の専門分野である財務会計分野ないしファイナンス分野の実証研究を指導対象とします．履修者の希望するリサーチ・ペーパーのテーマが教員の専門外であった場合，教員と相談した上で（できれば，指導教員とも相談した上で），教員から許可を受けた場合，履修できます．ただし，その場合，専門外の立場からの指導になることを了承してください.

・講義時間 は履修者と相談の上，臨機応変に変更します.

講義の予定／ Class Plan

履修者と相談しながら臨機応変に対応していきます.

We will respond flexibly in consultation with the students.

＜宿題＞

発表者は必ず報告資料を作成すること.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

プロジェクト研究（財務会計）a・b・吉永裕登／

Project Study (Financial Accounting)a・b・Yuto Yoshinaga

講義の目的／ Course Objective

・本講義の目的は，自身の関心に基づく研究テーマでリサーチ・ペーパーをまとめ上げることです.

The purpose of this lecture is to complete your research paper on your interested research topics.

講義の進め方

・研究の進捗状況を報告してもらい，議論や相談，アドバイス，コメントを行うことにします.

予習・復習について

・発表者は，当日発表できるように報告資料をまとめてください.

・発表者以外は予習の必要はありませんが，時間中は互いの研究を良くするために，積極的にアドバイスやコメントを行ってください.

この講義を受講するために必要とする知識

・きちんとリサーチ・ペーパーを書き上げようとする熱意.

・リサーチ・ペーパーを書くための時間管理能力と自律心.

・手厳しいコメントに耐える精神力.

・発表資料を作成するための最低限の PC スキル.

テキスト・参考文献

・講義の中で随時指示します.

時間割

a：前期　b：後期

・履修希望者は登録前に必ず担当教員に連絡すること.

・具体的な開講時間については，担当教員の指示に従うこと.

科目ナンバー

a：EAC-ACC646
b：EAC-ACC647

成績評価法

・平常点（出席と議論への参加，報告，報告資料）で評価する.

・自身の研究に関する進捗報告，あるいは完成したリサーチ・ペーパーの出来栄えを，強く成績評価に反映させる予定です.

・ AA(90 点以上), A(80 点以上 90 点未満), B(70 点以上 80 点未満), C(60 点以上 70 点未満), D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

水曜日
14:40-16:10

・メールでアポイントをとると確実です.

連絡先

022-217-6284
y.yoshinaga@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・基本的に教員の専門分野である財務会計分野ないしファイナンス分野の実証研究を指導対象とします．履修者の希望するリサーチ・ペーパーのテーマが教員の専門外であった場合，教員と相談した上で（できれば，指導教員とも相談した上で），教員から許可を受けた場合，履修できます．ただし，その場合，専門外の立場からの指導になることを了承してください.

・講義時間は履修者と相談の上，臨機応変に変更します.

講義の予定／ Class Plan

履修者と相談しながら臨機応変に対応していきます.

We will respond flexibly in consultation with the students.

＜宿題＞

発表者は報告資料を作成すること.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

プロジェクト調査（財務諸表分析）a・b・木村史彦／

Project Research (Financial Statements Analysis)a・b・Fumihiko Kimura

講義の目的／ Course Objective

本講義は，近年の財務諸表分析・財務会計研究に関する研究（主に実証研究）をレビューして，研究テーマの設定，財務・市場データの収集方法，基礎的な分析手法について検討する．

ただし，受講者の状況に応じた対応をするので，受講前に相談していただきたい．

In this course, we review recent research on financial statement analysis and financial accounting research (mainly empirical research), and discuss the setting of research themes, methods for collecting financial and market data, and basic analytical methods.

講義の進め方

1. 主要な実証研究のレビュー

近年の主に日本企業を対象とした実証研究を取り上げ，いかなるテーマが問題となっており，そして，どのようなデータが用いられているのかについて把握する．

2. 財務・市場データの収集方法

実証研究で用いられる財務データベースを概観し，特に日経 NEEDS の財務データおよび株価データの利用方法について検討する．

3. 財務・市場データの分析

2 のデータを用いて，リサーチ・ペーパー執筆の前段階となる基礎的な分析を行い，タームペーパーを作成する．

予習・復習について

各回の講義において受講生の報告を求めるので，相当程度の準備が必要となる．

この講義を受講するために必要とする知識

・英語文献のレビューを含むため，ある程度の英文読解能力が求められる．

テキスト・参考文献

・講義の中で随時指示する．

時間割

a：前期　b：後期

・履修希望者は登録前に必ず担当教員に連絡すること．

・具体的な開講時間については，担当教員の指示に従うこと．

科目ナンバー

a：EAC-ACC648

b：EAC-ACC649

成績評価法

・タームペーパー（30%），平常点（70%）で評価する．

・AA(90 点 以 上)，
A(80 点 以 上 90 点 未 満)，
B(70 点 以 上 80 点 未 満)，
C(60 点 以 上 70 点 未 満)，
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

水曜日 10:30-12:00
ならびに講義終了後

連絡先

022-217-6282
fkimura@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・この科目は，主として「会計リサーチコース」の学生を対象とする．ただし，公認会計士コースおよびビジネスアカウンティングコースの学生で最先端の財務会計研究に関心を寄せる者の受講は歓迎し，講義内容・課題について配慮する．公認会計士コースの学生が受講を希望する場合は，事前に申し出ること．

・なお，講義内容の性格上，受講者との調整の下，授業日程を決定する．．

講義の予定／ Course Plan

講義の内容については，履修者と相談し，履修者のレベル・理解度に応じて進めていく．
ただし，概ね以下のような予定を立てている．

第 1 講～第 6 講　主要な実証研究のレビュー／ Review of Key Studies
第 7 講～第 9 講　財務データの収集方法の理解／ Understanding how to collect financial data
第 10 講～第 11 講　市場データ，その他のデータの収集方法の理解
／ Understanding how to collect market data and other data
第 12 講～第 15 講　データの集計，分析方法の理解
／ Understanding data aggregation and analysis methods

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

プロジェクト研究（財務諸表分析）a・b・木村史彦／

Project Study (Financial Statements Analysis)a・b・Fumihiko Kimura

講義の目的／ Course Objective

本講義では，財務諸表分析ないし財務会計に関連するリサーチ・ペーパーの作成を指導する．テーマについては履修者と相談して決定し，先行研究のレビューやデータの分析方法，執筆方法を詳細に指導する．

In this lecture, I will teach the preparation of research papers related to financial statement analysis or financial accounting. The theme will be decided in consultation with the students. I will provide detailed guidance on how to review previous studies, analyze data, and write.

講義の進め方

受講生の報告に対して，教員がコメント・助言する形で進めていく．

予習・復習について

段階的にリサーチ・ペーパーを作成していくため，各回の講義において報告を求める．したがって，予習は必須となる．

この講義を受講するために必要とする知識

・文献調査は英語文献が中心となるので，ある程度の英文読解能力が求められる．
・本科目では統計学ならびに計量経済学に関する基礎的な知識を前提とするが，それらの議論はカバーしないため，関連する科目を履修済みあるいは履修中であることを前提とする．

テキスト・参考文献

・講義の中で随時指示する．

時間割

a：前期　b：後期
・履修希望者は登録前に必ず担当教員に連絡すること．
・具体的な開講時間については，担当教員の指示に従うこと．

科目ナンバー

a：EAC-ACC650
b：EAC-ACC651

成績評価法

・リサーチ・ペーパーによって評価する．リサーチ･ペーパーが一定水準に達していると口述試験ならびに運営委員会の審査によって認められた場合に単位が認められる．
・各回の講義への出席は前提とする．
・AA(90 点 以 上),
A(80 点 以 上 90 点 未 満),
B(70 点 以 上 80 点 未 満),
C(60 点 以 上 70 点 未 満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

水曜日 10:30-12:00
ならびに講義終了後

連絡先

022-217-6282
fkimura@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・本科目は，「会計リサーチコース」に所属する者が原則として 2 年次に履修する科目である．また，履修にあたっては「プロジェクト調査（財務諸表分析）a, b」のいずれか（なるべく両者）が履修済みであることを求める．

講義の予定／ Class Plan

講義の内容については，履修者と相談し，履修者のレベル・理解度に応じて進めていく．
ただし，概ね以下のような予定を立てている．

第 1 講～第 4 講　テーマの設定および関連研究のサーベイ／ Theme setting and Survey of related research

第 5 講～第 8 講　分析モデルの設定／ Test model settings

第 9 講～第 11 講　実証分析の実施／ Empirical analysis

第 12 講～第 15 講　リサーチ・ペーパーの報告／ Reporting of the research paper

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

プロジェクト調査（管理会計）a・b・青木雅明／

Project Research (Management Accounting)a・b・Masaaki Aoki

講義の目的／ Course Objective

会計大学院の講義「プロジェクト研究（管理会計）a・b」で用いる実証的なデータを収集し・整理するための方法を学習する．

We learn the basic knowledge and skills for Research Paper. For example, we learn how to collect and analyze the empirical data.

講義の進め方

・講義の前半

a. 文献を調査することにより，実証的な研究を行うためにはどのような資料が必要とされるかを理解する．

b. 文献調査を通じて,「プロジェクト研究（管理会計）」でどのようなトピックをリサーチの対象とするかを明確にする．

・講義の後半

a. 関連するトピックについて実際にデータを収集し，それを分類・加工する．

b.「プロジェクト研究（管理会計）」の調査内容の枠組みを考える．

・基本的に教員と学生がトピックについて議論をしながら講義を進めていく．

予習・復習について

＜予習＞

・参考文献は講義前に指定するので，事前に読んでおくこと．

＜復習＞

・この講義で学ぶことは「プロジェクト研究（管理会計）」で利用するので，講義毎に学習内容を整理すること．

この講義を受講するために必要とする知識

・文献調査は英語文献が中心となるので，英語を読み理解する能力，

・初歩的な統計学の知識を持っていることが望ましい．

テキスト・参考文献

受講者の目的に応じて，講義の中で随時指示する．

時間割

a：前期　b：後期

・履修希望者は登録前に必ず担当教員に連絡すること．

・具体的な開講時間については，担当教員の指示に従うこと．

科目ナンバー

a：EAC-ACC652

b：EAC-ACC653

成績評価法

・レポート（50%），平常点（50%）で評価する．

・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

火曜日

10:00-12:00

連絡先

022-217-6279

maoki@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・この科目は, 主として「会計リサーチコース」の履修者を対象として,「プロジェクト研究」に連続する科目として開講されている．このため, プロジェクト調査だけを単独で履修することは勧められない．履修希望者はこの点を理解すること．

・ただし,「公認会計士コース」の学生でも，データの収集・分析に関心のある学生は受け入れたいと考えている．このような学生は事前に相談に来ること．

・「公認会計士コース」の学生で，博士後期課程に進学希望する学生は,「プロジェクト調査」と「プロジェクト研究」を受講してリサーチ・ペーパーを書くこと．進学希望の学生は事前に相談に来ること．

講義の予定／ Class Plan

講義の内容については，履修者と相談し，履修者のレベル・理解度に応じて講義を進めていくので，具体的な予定は受講者と相談の上決める．

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

プロジェクト研究（管理会計）a・b・青木雅明／

Project Study (Management Accounting)a・b・Masaaki Aoki

講義の目的／ Course Objective

・「プロジェクト調査」で収集した資料に基づき，リサーチ・ペーパーを作成する．

・この科目の単位が認められるのは，リサーチ・ペーパーが一定水準以上に達していると口述試験並びに運営委員会の審査によって認められた場合である．このため，一定水準以上のリサーチ・ペーパーを書くということが目的となる．

The purpose of this lecture is to make Research Paper. We learn the expertise for making report or paper.

講義の進め方

・講義は，学生が行っているリサーチの内容に対して教員がコメントをするという形で進めていく．このため，講義の進め方は受講者と相談の上決めていく．

予習・復習について

＜予習＞

・自分の研究課題について，報告を行うための資料を準備すること．

＜復習＞

・講義毎に課題を出すので，これを確実にこなすこと．

この講義を受講するために必要とする知識

実証的なリサーチ・ペーパーを作成しようとする場合，基礎的な統計学の知識が必要になる．

テキスト・参考文献

受講者の目的に応じて，講義の中で随時指示する．

時間割

a：前期　b：後期

・履修希望者は登録前に必ず担当教員に連絡すること．

・具体的な開講時間については，担当教員の指示に従うこと．

科目ナンバー

a：EAC-ACC654

b：EAC-ACC655

成績評価法

・レポート（50%），平常点（50%）で評価する．

・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

火曜日

10:00-12:00

連絡先

022-217-6279

maoki@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・原則的に，「プロジェクト調査（管理会計）」，「プロジェクト調査（財務諸表分析）」，「プロジェクト調査（監査）」，「プロジェクト調査（法人税法）」のいずれかを履修していることが必要．

・この科目は，主として「会計リサーチコース」の履修者を対象として，「プロジェクト調査」と連続する科目として開講されている．このため，「プロジェクト研究」だけを単独で履修することは勧められない．履修希望者はこの点を理解すること．

・「公認会計士コース」の学生で，博士後期課程に進学希望する学生は，この科目を受講してリサーチ・ペーパーを書くこと．進学希望の学生は事前に相談に来ること．

講義の予定／ Class Plan

講義の内容については，履修者と相談し，履修者のレベル・理解度に応じて講義を進めていくので，具体的な予定は受講者と相談の上決める．

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

プロジェクト調査（コストマネジメント）a・b・松田康弘／ Project Research (Cost Management)a・b・

講義の目的／ Course Objective

本講義では，リサーチペーパー執筆の準備として，近年のコストマネジメントに関する研究をレビューするとともに，基礎的な分析方法を修得する．

In this course, students review recent research on cost management and learn basic analysis methods for the purpose of preparing for research paper.

講義の進め方

基本的に，講義の内容については履修者と相談し，履修者のレベルや理解度に応じて講義を進めていくので，具体的な予定は受講者と相談の上で決める．

・前半：

先行研究を読み，コストマネジメントに関連する諸問題がどのように分析されているかを学習する．

・後半：

プロジェクト研究（コストマネジメント）a・b で作成するリサーチペーパーのテーマを設定する．

予習・復習について

・毎回の予習には相当な量の文献を指定するが，読み込んでくることが必要とされる．

・プロジェクト研究（コストマネジメント）a・b の基礎を形成することが目的なので，丁寧に復習されたい．

この講義を受講するために必要とする知識

・管理会計やコストマネジメントに関する知識

・経済学についての基礎的な知識

・統計学についての基礎的な知識

テキスト・参考文献

目的に応じて，講義の中で適宜指示する．

時間割

a：前期　b：後期

・履修希望者は登録前に必ず担当教員に連絡すること．

・具体的な開講時間については，担当教員の指示に従うこと．

科目ナンバー

a：EAC-ACC656

b：EAC-ACC657

成績評価法

・平常点（50%），レポート（50%）で評価する．

・ AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

水曜日
14:40-16:10

連絡先

022-217-6280
ymazda@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・原則として，リサーチペーパーを書くことを目的に，その基礎を学習することを目的としている．

・主たる受講者は，会計リサーチコースの学生を想定している．

・扱う内容等については事前に相談します．

講義の予定／ Class Plan

講義の内容や進捗は受講者と相談した上で決める．分析的会計研究を志す受講者については，おおむね以下のようなスケジュールで進める．

第 1 講～第 3 講　近年の分析的会計研究の概要／ Review of Recent Research
第 4 講～第 7 講　業績評価のための管理会計情報の利用とモラル・ハザードのモデル／ Performance Measurement and Models of Moral Hazard
第 8 講～第 12 講　資本予算プロセスとアドバース・セレクションのモデル／ Capital Budgeting and Models of Adverse Selection
第 13 講～第 15 講　応用分析モデル／ Applications

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

プロジェクト研究（コストマネジメント）a・b・松田康弘／ Project Study (Cost Management)a・b・Yasuhiro Matsuda

講義の目的／ Course Objective

この講義では，プロジェクト調査（コストマネジメント）で修得した知識と分析方法に基づき，リサーチペーパーを作成する．

Students will complete research paper based on research methods they have learned before this course. Students are required to set research agenda and proceed research in this course.

講義の進め方

受講者の研究報告に対して教員がアドバイスを行う形式を取る．

予習・復習について

受講者は研究進捗報告を毎回行う．

この講義を受講するために必要とする知識

・プロジェクト調査（コストマネジメント）a・b を履修済みであること
・管理会計やコストマネジメントに関する知識
・経済学についての基礎的な知識
・統計学についての基礎的な知識

テキスト・参考文献

目的に応じて，講義の中で適宜指示する．

時間割

a：前期　b：後期
・履修希望者は登録前に必ず担当教員に連絡すること．
・具体的な開講時間については，担当教員の指示に従うこと．

科目ナンバー

a：EAC-ACC658
b：EAC-ACC659

成績評価法

・リサーチペーパーによって評価する．
・ AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

水曜日
14:40-16:10

連絡先

022-217-6280
ymazda@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・原則として，プロジェクト調査（コストマネジメント）a・b を履修していることが必要である．
・主たる受講者は，会計リサーチコースの学生を想定している．

講義の予定／ Class Plan

講義の内容とスケジュールは受講者と相談した上で決める．おおむね以下のようなスケジュールで進める．

第 1 講〜第 6 講　研究テーマの設定／ Review of Key Studies
第 7 講〜第 10 講　先行研究のレビュー／ Review of Recent Research
第 11 講〜第 15 講　分析／ Analyses

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

プロジェクト調査（コーポレートファイナンス）a・b・嘉本慎介／ Project Research (Corporate Finance)a・b・Shinsuke Kamoto

講義の目的／ Course Objective

本講義では，受講生にコーポレートファイナンスの研究に関する文献を読んでもらいながら，コーポレートファイナンスの研究を行うために必要な基礎知識と研究手法を学習してもらう．また,「プロジェクト研究（コーポレートファイナンス）」で作成するリサーチ・ペーパーに関連する先行研究を収集・調査・整理し，リサーチ・ペーパーの研究分野，目的，方法を提示してもらう．

In this course, students learn about basic knowledge and research methods to conduct their own researches on corporate finance by reading the literature on corporate finance studies. They are also required to survey previous studies and outline their research areas, purposes, and methods in order to write their research papers in the proceeding course.

講義の進め方

・前半：

コーポレートファイナンスの研究分野に関する文献の内容を報告してもらいながら，研究を行うために必要な基礎知識と研究手法を学習してもらう．どのような文献を読んでもらうかは相談して決める．

・後半：

「プロジェクト研究（コーポレートファイナンス）」で作成するリサーチ・ペーパーに関連する先行研究を収集・調査・整理の作業を行いながら，研究分野に関する理解を深めてもらう．定期的に作業の進捗状況と収集した先行研究の内容をまとめて報告してもらう．「プロジェクト研究（コーポレートファイナンス）」で作成するリサーチ・ペーパーの研究分野，目的，方法について考える．先行研究をまとめるとともに，リサーチ・ペーパーの研究分野，目的，方法を具体的に説明したレポートを提出してもらう．

予習・復習について

受講生が主体的に取り組むことが求められる講義のため，文献を読むことと報告の準備に相当量の予習・復習が必要となる．

この講義を受講するために必要とする知識

・ファイナンスとコーポレートファイナンスに関する基礎知識
・ファイナンスとコーポレートファイナンスで用いる数学に関するある程度の知識
・ある程度の英語読解力

テキスト・参考文献

以下に記載した参考書に目を通して，学習内容やこの講義を受講するために必要となる知識を把握することを勧める．

・Amaro de Matos, J., "Theoretical Foundations of Corporate Finance", Princeton University Press, 2001 年 .
・Tirole, J., "The Theory of Corporate Finance", Princeton University Press, 2006 年 .
・Eckbo, E. B., "Handbook of Corporate Finance", North Holland, 2008 年 .

時間割

a：前期　b：後期
・履修希望者は登録前に必ず担当教員に連絡すること．
・具体的な開講時間については，担当教員の指示に従うこと．

科目ナンバー

a：EAC-MAN604
b・EAC-MAN605

成績評価法

・レポート（50%）と平常点（50%）で評価する．
・AA(90 点 以 上), A(80 点 以 上 90 点 未 満), B(70 点 以 上 80 点 未 満), C(60 点 以 上 70 点 未 満), D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

未定

連絡先

第 1 回講義においてお知らせします．

その他（連絡事項）

・この科目は, 主として「会計リサーチコース」の学生を対象とする．

講義の予定／ Class Plan

進捗状況に応じて，受講生と相談しながら進めていくことにする.

TBD

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

プロジェクト研究（コーポレートファイナンス）a･b･嘉本慎介／ Project Study (Corporate Finance)a・b・Shinsuke Kamoto

講義の目的／ Course Objective

本講義では，プロジェクト調査 a･b（コーポレートファイナンス）において作成した研究概要をもとに，リサーチ・ペーパーを作成してもらう．

In this course, students write a research paper on the basis of their research outline presented in the previous course.

講義の進め方

リサーチ・ペーパーの内容について報告してもらい，それについて議論，検討する形式で進める．

予習・復習について

受講生が主体的に取り組むことが求められる講義のため，リサーチ・ペーパーの作成や報告の準備等に相当量の予習・復習が必要となる

この講義を受講するために必要とする知識

・プロジェクト調査 a･b（コーポレートファイナンス）を履修して，リサーチ・ペーパーの研究分野，目的，方法を具体的に説明したレポート作成していること．
・ファイナンスとコーポレートファイナンスに関する基礎知識
・ファイナンスとコーポレートファイナンスで用いる数学に関するある程度の知識
・ある程度の英語読解力

テキスト・参考文献

以下の参考書に目を通して，リサーチ・ペーパーの基本的な形式や作成技術を学習することを勧める．（日本語でリサーチ・ペーパーを作成する場合でも非常に役立つ．）

・Swarles, J. M., and Feak, C. B., "Academic Writing for Graduate Students: Essential Tasks and Skills", The University of Michigan Press, 1993 年 .

・Glasman-Deal, H., "Science Research Writing for Non-Native Speakers of English", Imperial College Press, 2010 年 .

時間割

a：前期　b：後期
・履修希望者は登録前に必ず担当教員に連絡すること．
・具体的な開講時間については，担当教員の指示に従うこと．

科目ナンバー

a：EAC-MAN606
b・EAC-MAN607

成績評価法

・レポート（50%）と平常点（50%）で評価する．リサーチ・ペーパーによって評価する．リサーチ・ペーパーが一定水準に達していると口述試験ならびに運営委員会の審査によって認められた場合に単位が認められる．
・AA(90 点 以 上), A(80 点 以 上 90 点 未 満), B(70 点 以 上 80 点 未 満), C(60 点 以 上 70 点 未 満), D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

未定

連絡先

第 1 回講義においてお知らせします．

その他（連絡事項）

・この科目は，主として「会計リサーチコース」の学生を対象とする．
・プロジェクト調査 a･b（コーポレートファイナンス）を履修していること．

講義の予定／ Class Plan

進捗状況に応じて，受講生と相談しながら進めていくことにする.

TBD

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

プロジェクト調査（監査）a・b・亀岡恵理子／ Project Research (Audit)a・b・Eriko Kameoka

講義の目的／ Course Objective

本講義は，既存の監査研究をレビューすることを通じて，監査研究における研究手法，研究トピック，研究結果を理解することを目的とする．その過程で問題意識を育て，自身の関心に合う学術論文を収集し，それらを精読する能力を身につける．

The purpose of the course is to understand the research methods, research topics, and research results in the area of auditing by reviewing existing literature. In the process, students find their own research topic, collect academic papers that suit their interests, and acquire the ability to read them.

講義の進め方

以下に関する監査研究のレビュー論文または書籍を輪読する．

・既存の監査研究に関する統合論文（synthesis paper）
・監査研究（会計学研究）における研究手法に関する論文
・特定の研究トピックを扱った研究論文

予習・復習について

・相談のうえ決定した論文または書籍について毎回，内容をまとめるレジュメを作成すること．

この講義を受講するために必要とする知識

・監査の講義を受講済であること．
・主に英語文献を扱うため，ある程度の英語読解力があること．

テキスト・参考文献

・受講者の目的に応じて，講義のなかで随時指示する．

時間割

a：前期　b：後期
・履修希望者は登録前に必ず担当教員に連絡すること．
・具体的な開講時間については，担当教員の指示に従うこと．

科目ナンバー

a：EAC-ACC660
b・EAC-ACC661

成績評価法

・レジュメの準備や講義内での発言等，講義への取り組み姿勢で評価する（100%）．
・AA(90 点 以 上),
A(80 点 以 上 90 点 未 満),
B(70 点 以 上 80 点 未 満),
C(60 点 以 上 70 点 未 満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

月曜日
16:20-17:50

連絡先

ekameoka@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

講義の予定／ Class Plan

　講義の内容については受講者と相談し，履修者のレベル・理解度に応じて進めていく．

第 1 回にて受講者と相談し，具体的な予定を決める．

TBD

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

プロジェクト調査（法人税法）a･b･千葉 俊徳／ Project Research (Corporate Tax Law)a･b・Toshinori Chiba

講義の目的／ Course Objective

本講義では，法人税法に関するリサーチ・ペーパー作成に向け，各種の研究文献等の資料の収集・整理・検討及びそれに基づくレポート・討議を通じて，研究テーマを設定し，リサーチ・ペーパーの枠組みを立案する．

In this course, in order to prepare a research paper on corporation tax law, each student will set research themes and draft a framework for the research paper through collection, arrangement, and examination of various research documents and other materials, and reports and discussions based on the collection.

講義の進め方

準備として，受講生は，自らの研究テーマ案に関する文献等を収集・整理・検討し，レポートを作成する．講義では，受講者が自らのレポートについて説明を行い，それを基に受講生全員及び教員で討議する．この一連の過程を通じて，研究テーマを設定し，リサーチ・ペーパーの枠組みを立案する．

予習・復習について

＜予習＞

・参考文献等を自ら探し，それを基に検討を行い，成果をレポートとしてまとめる．

＜復習＞

・指導事項等を再確認し，その後の取組みに適切に反映させる．

この講義を受講するために必要とする知識

租税法一般及び法人税法の基礎的理論に関する知識を有していること．

テキスト・参考文献

受講者の研究テーマ案に応じて講義の中で適宜示す．

時間割

a：前期　b：後期

・履修希望者は登録前に必ず担当教員に連絡すること．

・具体的な開講時間については，担当教員の指示に従うこと．

科目ナンバー

a：EAC-LAW641

b：EAC-LAW642

成績評価法

・平常点（70％）及びレポート（30％）で評価する．

・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

木曜日
9:30-11:30

連絡先

022-217-6287
toshinori.chiba.a2@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・この科目は，主として「会計リサーチコース」の履修者を対象として，「プロジェクト研究（法人税法）a・b」へと連続する科目として開講されている．他のコースの学生が受講を希望する場合は，事前に申し出ること．

講義の予定／ Class Plan

受講者の知識，理解度及び研究テーマ案などに応じて，受講者と相談しながら進めていく．

The course will be conducted in consultation with the students according to their knowledge, understanding, and research theme plan.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

プロジェクト研究（法人税法）a・b・千葉 俊徳／ Project Study (Corporate Tax Law) a・b・Toshinori Chiba

講義の目的／ Course Objective

本講義では，各自が前期までに行ってきた準備を基にして，法人税法に関するリサーチ・ペーパーを作成し，完成させる．

In this course, each student will create and complete a research paper on corporation tax law based on the preparations they have made up to the previous term.

講義の進め方

講義は，受講生がその時点でのリサーチ・ペーパーの進捗状況・内容を報告し，教員がコメント，アドバイスを行うという形で進める．

※各受講者の具体的な報告日程については，随時相談の上で決定する．

予習・復習について

＜予習＞

・リサーチ・ペーパーの進捗状況・内容について報告できるよう準備すること．

＜復習＞

・講義での指導事項等については確実にこなすこと．

この講義を受講するために必要とする知識

原則として「プロジェクト調査（法人税法）a・b」を履修していることが必要．

テキスト・参考文献

受講者のリサーチ内容に応じて講義の中で適宜示す．

時間割

a：前期　b：後期

・履修希望者は登録前に必ず担当教員に連絡すること．

・具体的な開講時間については，担当教員の指示に従うこと．

科目ナンバー

a：EAC-LAW643

b：EAC-LAW644

成績評価法

・前半期は作成途上のリサーチ・ペーパーの進捗状況・内容により，後半期は提出されたリサーチ・ペーパー（口述試験も含む）により評価する．

・AA(90 点以上),
A(80 点以上 90 点未満),
B(70 点以上 80 点未満),
C(60 点以上 70 点未満),
D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

木曜日
9:30-11:30

連絡先

022-217-6287
toshinori.chiba.a2@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・この科目は，原則として「会計リサーチコース」の履修者を対象として，「プロジェクト調査（法人税法）a・b」から連続履修する科目として開講されている．

講義の予定／ Class Plan

講義は，リサーチ・ペーパーの進捗状況に応じて，受講者と相談しながら進めていく．

Lectures will be held in consultation with the student, depending on the progress of the research paper.

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

プロジェクト調査（監査制度）a・榊正壽／ Project Research (Auditing System)a・Masatoshi Sakaki

講義の目的／ Course Objective

本講義は，近年の監査制度研究をレビューして，研究テーマの設定，監査制度や手法の調査方法について検討する．

In this course, we review recent research on audit system, and discuss the setting of research themes, research issues on audit systems and methodology.

講義の進め方

監査制度に関する課題を与え，視座を広げるためのディスカッションを行う．

予習・復習について

各回の講義においてディスカッションを行うため，そのための準備が必要となる．

この講義を受講するために必要とする知識

監査制度に関する基本的な知識.

テキスト・参考文献

講義の中で随時指示する

時間割

a：前期　b：後期
- 履修希望者は登録前に必ず担当教員に連絡すること．
- 具体的な開講時間については，担当教員の指示に従うこと．

科目ナンバー

a：EAC-ACC664
b・EAC-ACC665

成績評価法

- タームペーパー（30%），平常点（70%）で評価する．
- AA(90 点 以 上),
  A(80 点 以 上 90 点 未 満),
  B(70 点 以 上 80 点 未 満),
  C(60 点 以 上 70 点 未 満),
  D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

受講者と協議して決定する

連絡先

第 1 回講義においてお知らせします．

その他（連絡事項）

- この科目は, 主として「会計リサーチコース」の学生を対象とする．
- なお，講義内容の性格上，受講者との調整の下，変則的な開講形態（一部講義日程の変更）となる可能性があるので，留意していただきたい．

講義の予定／ Class Plan

講義の内容については，履修者と相談し，履修者のレベル・理解度に応じて進めていく．

TBD

講義名・担当教員／ Course Name・Instructor

特別講義（Financial Reporting and Analysis）・Wong Yiuwai ／ Special lecture (Financial Reporting and Analysis)・Yiuwai Wong

講義の目的／ Course Objective

本講義の目的は，財務報告の分析手法と会計理論の理解である．基本的な分析手法を中心に講義・議論する．講義を通して財務情報を用いた企業評価の方法を習得していただきたい．

The objectives of this course are to gain a more thorough understanding of financial accounting techniques and to explore the accounting theory underlying such techniques. Class meeting involve lectures, discussions and exercise. Class attendance is required in this course. The techniques that can be acquired from this lecture are widely applicable to corporate evaluation by using financial information.

講義の進め方

・Class meeting involve lectures, discussions and exercise.

・Class attendance is required in this course.

・No final exam but final report

予習・復習について

Read the financial report of before the lecture and understand the business model of the company.

Short report in each class. Please try to use the techniques that I introduced in the lectures to analysis corporation.

この講義を受講するために必要とする知識

特になし．

テキスト・参考文献

・参考書：Stephen Penman, "Financial Statement Analysis and Security Valuation", McGraw-Hill/Irwin, 5th revised edition, June 1, 2012.

K. R. Subramanyam and John Wild, "Financial Statement Analysis", McGraw-Hill Education, 11th edition, May 2013.

William R. Scott, "Financial Accounting Theory," 7th edition, March 2014.

Krishna G. Palepu and Paul M. Healy, "Business Analysis and Valuation: Using Financial Statements, Text and Cases, "5th Edition, Cengage Learning, November 2012.

時間割

後期　木曜 3 限

科目ナンバー

EAC-ACC666

成績評価法

・Report（40%）および Final report（60%）で評価する．

・AA(90 点以上), A(80 点以上 90 点未満), B(70 点以上 80 点未満), C(60 点以上 70 点未満), D(60 点未満：不合格)

オフィスアワー

講義終了後

連絡先

wong.yiu.wai.e6@tohoku.ac.jp

その他（連絡事項）

・本講義では財務諸表分析についての基礎的な考え方と理論的背景を中心に議論します．学部上級レベルから大学院中級レベルまでの内容を取り扱います．簿記をはじめ，会計の知識を持たない学生は授業の理解にかなりの努力が必要．

・In this class, we will discuss the basic concept and theoretical background of financial statement analysis including the business model of the company. The content is from undergraduate advanced level to graduate school intermediate level. Students without any knowledge about accounting or bookkeeping, this course requiring considerable effort.

第 1 回：オリエンテーション／ Orientation

講義の内容

Provides guidance on course objectives, grading scheme, and introduce some financial reporting analysis techniques.

第 2 回：Overview of financial statement analysis
第 3 回：Strategy Analysis
第 4 回：Financial Reporting and Analysis
第 5 回：Financial Analysis
第 6 回：Investing Analysis
第 7 回：Intercorporate Investment
第 8 回：Analyzing Operating Activities
第 9 回：Cash Flow Analysis
第 10 回：Return on invested Capital and Profitability Analysis
第 11 回：Credit Analysis
第 12 回：Equity Analysis and Valuation
第 13 回：Prospective Analysis: Forecasting
第 14 回：Prospective Analysis: Valuation
第 15 回：Corporate Governance

第 2 回：財務諸表分析の概要／ Overview of financial statement analysis

講義の内容

Financial statement analysis is an integral and important part of the broader field of business analysis. The issues are as follows.

The role of financial reporting in capital markets

From business activities to financial statement

Influences of the accounting system on information quality

From financial statements to business analysis

＜予習＞

Sony Corporate Report 2019 and Form 20-F(FY2018)

第 3 回：戦略分析／ Strategy Analysis

講義の内容

Strategy analysis allows the analyst to probe the economics of a firm at a qualitative level so that the subsequent accounting and financial analysis is grounded in business reality. The issues are as follows.

Industry Analysis

Applying industry analysis

Competitive strategy analysis

Corporate strategy analysis

＜予習＞

Toshiba Integrated report and Hitachi Integrated report

第 4 回：財務報告とその分析／ Financial Reporting and Analysis

講義の内容

Financial statements are the products of financial reporting process governed by accounting rules and standards, managerial incentives, and enforcement and monitoring mechanisms. It is important for us to understand the financial reporting environment along with the objectives and concepts underlying the accounting information presented in financial statement. The issues are as follows.

Reporting Environment

Nature and Purpose of Financial Accounting

Accruals

Concept of Income

＜予習＞

Shiseido annual report

第 5 回：財務活動分析／ Financial Analysis

講義の内容

Business activities are financed with either liabilities or equity, or both. Liabilities are outsiders' claims against a company's present and future assets and resources. Equity refers to claims of owners on the net assets of a company. The issues are as follows.

Liabilities

Leases

Postretirement Benefits

Off-Balance-Sheet Financing

＜予習＞

Orix annual report and segment information

第 6 回：投資活動分析／ Investing Analysis

講義の内容

Assets are resources controlled by a company for the purpose of generating profit. The issues are as follows.

Current Asset

Inventories

Long-Term Asset

Plant Assets and Natural Resources

Intangible Asset

＜予習＞

Softbank annual report

第 7 回：企業買収／ Intercorporate Investment

講義の内容

Intercompany investments play one of the main roles in business activities. Companies purchase intercompany investments for many reasons, such as diversification, expansion, and competitive opportunities and returns. The issues are as follows.

Investment securities

Equity method accounting

Business combinations

Derivative securities

＜予習＞

Takeda Business report

第 8 回：営業活動の分析／ Analyzing Operating Activities

講義の内容

Income is the net revenues and gains less expenses and losses. Income is one measure of operating activities and it is determined using accrual basis of accounting. The issues are as follows.

Income measurement

Nonrecurring items

Revenue recognition

Deferred charges

Interest costs

Income taxes

＜予習＞

Mitsubishi corporation financial statement and corporate strategy 2021

第 9 回：キャッシュ・フロー分析／ Cash Flow Analysis

講義の内容

Cash is the residual balance from cash inflows less cash outflows for all prior periods of a company.
Cash flows are different from accrual income measures of performance. The issues are as follows.
Cash Flow statement
Analysis implications of cash flow
Analysis of cash flows

＜予習＞

MITSUI & CO. LTD. Integrated report and financial results

第 10 回：投下資本の収益率分析／ Return on invested Capital and Profitability Analysis

講義の内容

Financial statement analysis involves assessing both risk and return. Return on invested capital refers to a company's earnings relative to both the level and source of financing. It is a measure of company's success in using financing to generate profits. The issues are as follows.

Importance of return on invested capital

Components of return on invested capital

Analyzing return on net operating asset

Analyzing return on common equity

＜予習＞

ITOCHU message from the CEO, message from the COO, ITOSHU Mission, annual report

第 11 回：負債の分析／ Credit Analysis

講義の内容

Liquidity refers to the availability of company resources to meet short-term cash requirements. A company's short-term liquidity risk is affected by the timing of cash inflows and outflows along with its prospects for future performance. The issues are as follows.

Liquidity and working capital

Operating activity analysis of liquidity

Additional liquidity measures

Capital structure composition and solvency

Earnings coverage

＜予習＞

Sharp Financial data

第 12 回：資本の分析とバリューエーション／ Equity Analysis and Valuation

講義の内容

Earnings persistence is broadly defined to include the stability, predictability, variability, and trend in earnings. Equity valuation analysis emphasizes earnings and other accounting measures for computing company value. The issues are as follows.

Earnings persistence

Earnings-based equity valuation

＜予習＞

Nintendo annual report

第 13 回：拡張分析：予測／ Prospective Analysis: Forecasting

講義の内容

Most financial statement analysis tasks are undertaken with a forward-looking decision in mind and much of the time it is useful to summarize the view developed in the analysis with an explicit forecast. The issues are as follows.

Overall structure of the forecast

Performance behavior

Relationship of forecasting to the other analyses

Making forecasts

Sensitivity analysis

＜予習＞

ASAHI holdings and KIRIN holdings financial results, business report and corporate report

第 14 回：拡張分析：バリューエーション／ Prospective Analysis: Valuation

講義の内容

Valuation is the process of converting forecast into an estimate of the value of the firm's assets or equity. At some level, nearly every business decision involves valuation, at least implicitly. The issues are as follows.

The discounted dividends valuation method

Valuation using price multiples

Shortcut forms of earnings-based valuation

The discounted cash flow method

Comparing valuation methods

＜予習＞

Nissan motor corporation "For investors"

第 15 回：コーポレート・ガバナンス／ Corporate Governance

講義の内容

Corporate governance has become an increasingly important issue in capital markets throughout the world. The financial market collapses exposed problems of accounting misstatements and lack of corporate transparency, as well as governance problems and conflicts of interest among the intermediaries charged with monitoring management and corporate disclosures. The issues are as follows.

Governance Overview

Management communication with investors

Communication through financial reporting and policies

Alternate forms of investor communication

The role of auditor

＜予習＞

Toshiba annual report